７．自己点検・評価報告書
（第１クォーター～第４クォーター）

（１）人文学部

（２）外国語学部

（３）経済学部

（４）経営学部

（５）法学部

（６）総合政策学部

（７）理工学部

（８）国際教養学部

（９）法務研究科　法務専攻（専門職学位課程）

（１０）教職センター

（１１）国際センター

（１２）外国語教育センター

（１３）体育教育センター

（１４）研究所

（１５）人間文化研究科

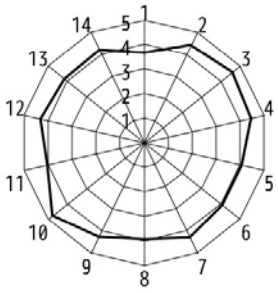
（１６）共通教育

（１７）留学生別科

人文学部 キリスト教学科
KUCICKI, Janusz　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教概論[E・J]2
授業コード 10A51-009
教員名　KUCICKI, Janusz
教員コード 101877
登録人数　150
回答数　50
回答率　33.3%
休講回数　1 回
補講回数　1 回

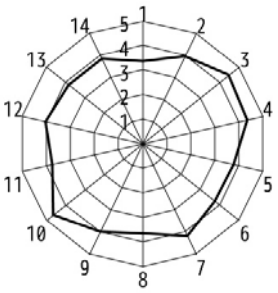


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　42人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　50人



授業評価結果を踏まえた点検・評価

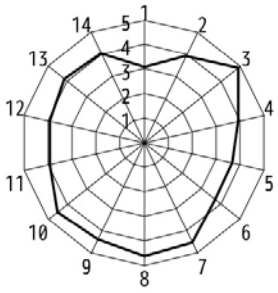
2024, Q1, 101877, Nagoya
KUCICKI Janusz
Course Code:10A51-009
Course Code: Introduction to Christianity
The course "Introduction to Christianity" conducted in Q1 was conducted according to the syllabus. Students were informed about the course schedule and requirements. In general, students followed the rules, which made both parties (teacher and students) understand. Most students probably read the Bible for the first time and were informed about the meaning of each chapter of the Gospel of Mark.

Students' evaluation of the course: The average of items 3 to 14 is 4.03.

人文学部 キリスト教学科
三好　千春　先生

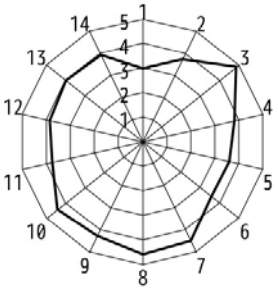
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教概論[T]1
授業コード 10A51-017
教員名　三好　千春
教員コード 101173
登録人数　140
回答数　104
回答率　74.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　94人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　104人

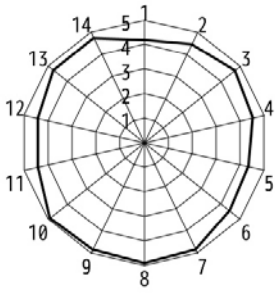
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　到達目標のうちの１については、ある程度実現できたと思うが、２　キリスト教的価値観に基づき現代世界の諸問題を考察する基礎知識を身に着けることができる。については、もう少し工夫が必要であろう。そもそもキリスト教についての知識ゼロ状態から、キリスト教価値観に基づいて現代世界の諸問題を考察できるように、という到達目標自体がいささか高すぎるともいえるので、この点は来年度、再考察の必要があると思う。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　音楽やパワーポイントを使用しての講義手段について肯定的な意見が多くみられたことに関しては、この手法を今後も継続しつつも、より出席率を挙げる方向で改善していきたいと考えている。特に、パワーポイントの切り替えが早すぎるといった意見に対しては、今後真剣に対処したいと思う。話し方については肯定的意見と否定的意見が混在しているので、もう少しこの点も見直しが必要と思う。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　上記に記したような、話し方はパワーポイントの使用法などについて、学生の満足度が高まるように努力したい。また、内容も再度見直し、より理解しやすい講義を目指したい。

人文学部 キリスト教学科
井上　淳　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

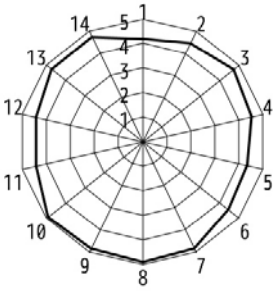
科目名　ラテン語I[HC]
授業コード 11J09-001
教員名　井上　淳
教員コード 100301
登録人数　12
回答数　11
回答率　91.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　11人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　11人

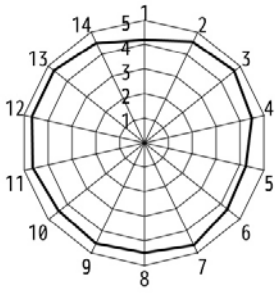
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標には、ほぼ到達できたと思う。これまで使っていた教科書が突然絶版になってしまったためにちょっと焦ったが、なんとかプリント資料を作成することで授業を進めることができた。これまでのキリスト教学科生専用のクラスに加えて全学生用のクラスを増やしたところ、１限の授業であるにもかかわらず、なんと40名（この科目の上限数）もの受講者があり驚いた。ラテン語はもしかして最近ブームなのだろうか。授業では毎回練習問題の課題を出してWebClassで回答してもらっているが、人数が多いため採点とコメントを書くのにけっこう時間がかかった。学生からの評価はかなり良く、たとえば「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」には4.82、「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」には4.82、「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたか」には4.91、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」と「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」には4.73の評価を得た。もっともっと練習問題に取り組みたいという受講者もいることが分かったので、対処方法を考えたい。

人文学部 キリスト教学科
松根　伸治　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

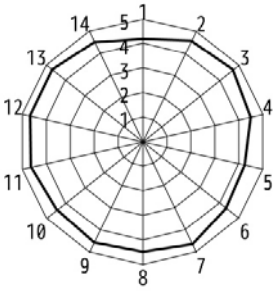
科目名　ラテン語I＜全＞1
授業コード 11J09-002
教員名　松根　伸治
教員コード 101833
登録人数　38
回答数　20
回答率　52.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　20人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　20人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

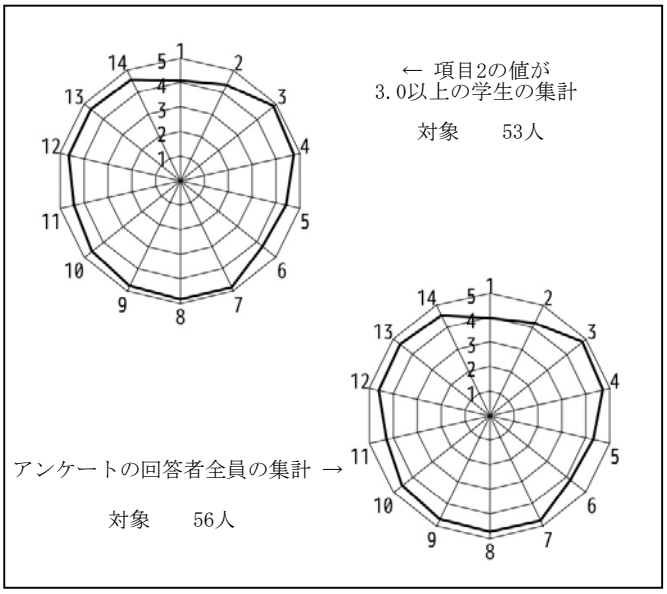
設問13（新しい知識、理解の深まり）が4.70、設問14（満足度）が4.50であることから、全般的に目標は達成したと判断できる。授業の様子、提出課題、期末試験の結果を見ても、多くの受講者が一定の成果を得たことがわかる。評価の数値が最も低かったのは、設問1（履修前の興味）の4.20である。興味のない語学を結果的に選択する人がいるのはシステム上やむをえない面もあり、古典語や古い時代に関心のうすい受講生にもなじみやすい工夫はしているつもりだが、やはり限界がある。

関心のミスマッチに加えて大きな課題は、予習を前提にした語学学習の経験がない人、文法理解にもとづく外国語の分析と訳出に不慣れな人が年々増えていることである。自由記述には内容と進度について肯定的な感想が多いが、「一緒に受講した友人は諦めてしまったり、自分も正直ついていくのが精一杯だった」とある点は反省しなくてはならない。履修者が例年よりも多く、理解が不十分な受講生へのケアが行き届かなかった。クラス全体としては、科目等履修生と学外の受講者（愛知学長懇話会単位互換事業の活用）もあり、多くの人が熱心に取り組んでラテン語学習の最初の一歩を踏み出せた。このことを前向きにとらえてQ2以降の授業にのぞみたい。

人文学部 キリスト教学科
HERA, Marianus Pale　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　聖書入門B(新約聖書入門)
授業コード 21A02-001
教員名　HERA, Marianus Pale
教員コード 102689
登録人数　61
回答数　56
回答率　91.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はキリスト教学科の必修科目であり、人文学部の選択必修（B群）の一つである。従って、履修者はキリスト教学科の1年生以外に人文学部の他学科の学生も多くいました。学生の評価の数字にも表れているように、学生がこの必修科目に対して興味を持つように工夫することが一つの課題となっています。授業全体に対する学生の満足度や授業を通して新しい知識を得たという評価が平均点以上になっている一方、授業に対する学生の興味を引き出すための工夫という点では平均点以下の数字が出ています。これを意識しながら、次年度の授業運営を考えていきたいと思っています。

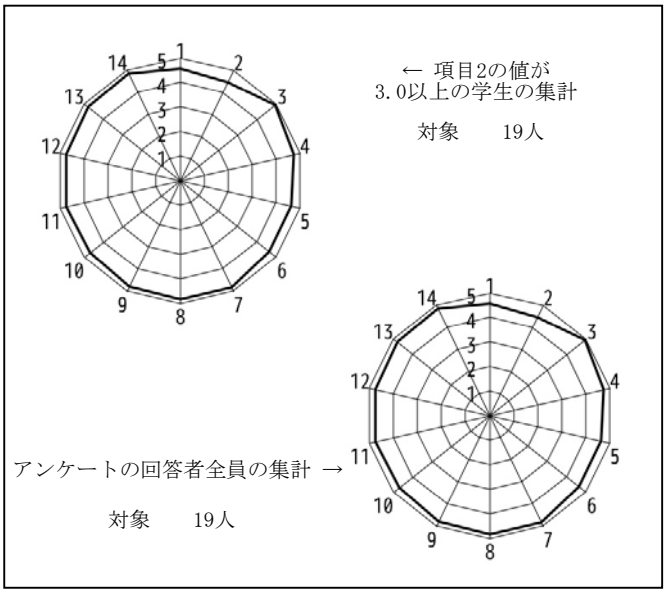
自由記述の評価では、授業の良かった点（授業が面白い、わかりやすい、聖書の知識が無くても解説が分かった、資料が聖書とリンクしていてとてもわかりやすかった、わかりやすくスライドにまとめられていた、など）が挙げられているので、これらの点を今後も活かしていきたいと思っています。一方、改善してほしいことに関しては、特にパワーポイントのスライドの進みが早くて見逃してしまうので表示時間を長くしてほしいという点は、今後の授業で改善していきたいと思っています。

全体として、授業目標に達成できたと思っています。

人文学部 キリスト教学科
加藤　久美子　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　旧約聖書学(歴史書)
授業コード 21C22-001
教員名　加藤　久美子
教員コード 103475
登録人数　25
回答数　19
回答率　76.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



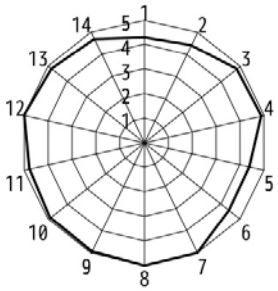
授業評価結果を踏まえた点検・評価

旧約の「歴史書」と呼ばれる書物群を考察対象とし、（1）方法と目的の点での、聖書の「歴史書」と現代の学術的歴史記述の違いを知ること、（2）旧約の「歴史書」の物語で示される人間像を理解することを目標とした。（2）の目標到達のためには、考察対象が史実ではなく、物語であるという認識が不可欠であるため、この点を授業内で繰り返し提示した。数値データ（設問5、設問6）と期末テストから、大部分の履修者が目標をかなりよく達成したと考えられる。
古代の物語を扱う本科目では、原著の言語や背景にある社会制度など、必要な基礎知識が多く、授業での提示方法や時間配分が課題となるが、比較的詳細な配付資料と概略を示すパワーポイント資料を併用し、この点について、数値データ・自由記述欄でおおむねよい評価を受けることができた。
今期は新たな試みとして、評価方法を「リアクション・ペーパーと期末レポート」から「リアクション・ペーパーと持ち込みなしの期末試験（記述式）」へ変更した。試験の結果は、リアクション・ペーパーから見てとれる履修者の授業の取り組みを反映したものとなった。来年度は、この評価方法を継続すると共に、単位取得のために毎回の授業への取り組みが重要であることを周知していきたい。

人文学部 キリスト教学科
寒野　康太　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

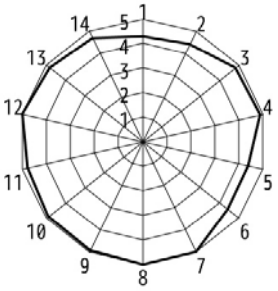
科目名　組織神学(終末論)
授業コード　21C41-001
教員名　寒野　康太
教員コード　104315
登録人数　12
回答数　10
回答率　83.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　10人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　10人

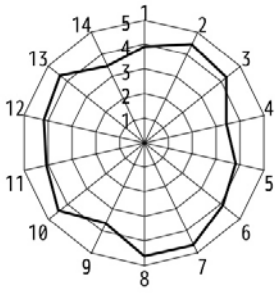
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目では、キリスト教の中の終末に関する見方を、聖書から現代まで、俯瞰しつつ、断片的になるとしても、全般的に見ていくことを主眼とした。聖書の終末論においては、旧約聖書からどのように終末論が生じたか、また、新約聖書では、史的イエスと終末論との関わり、又、予型論が歴史の見方に関わっていることを見た。古代に関しては、特に、エイレナイオスとアウグスティヌスの歴史観に触れた。中世に関しては、千年王国論や、修道生活への終末論の影響、同時に、トマスなどから、創造に関しても知見を深めた。宗教改革期に関しては、ルターとカルバンを中心に触れながら、終末論の「個人主義化」についても論じた。また.近現代の終末論にも触れ、歴史に関する近代知識人の思索や、二十世紀の神学における終末論に関して論じた。このような授業なので、逐一理解しているかということより、西洋の歴史に関する見方と終末論は深く関わっているということを理解してもらうという大まかな把握をめどにして、できるだけ学生の疑問に答えるよう努めた。今後も、区々とした小さい知識の理解より、大きな流れをこの科目では掴んでもらうという趣旨を踏まえつつ、俯瞰してキリスト教の事象を捉えられるように、自由回答などを参考にしながら、授業を進めていくこととしたい。特に、振り返りを紙に筆記してもらうことで、自分なりの整理ができるようなので、これを続けていくこととしたい。

人文学部 キリスト教学科
DANCAR, Aleksander　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　基礎神学(啓示論)
授業コード 21C42-001
教員名　DANCAR, Aleksander
教員コード 104655
登録人数　34
回答数　11
回答率　32.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

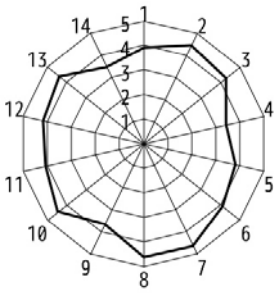


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　11人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　11人



授業評価結果を踏まえた点検・評価

このコースを受講する学生の数は、昨年に比べて増加し、さまざまな学部から来ている。このコースを受講する理由はさまざまであるが、一般的にキリスト教における「啓示」を理解したいと思っているという理由が多い。彼らの啓示についての質問もまた、彼らの様々な霊的状況や宗教的経験を考えると、非常に多様です。神学的な好奇心から生じる問題もあるが、その問題のほとんどは倫理的な好奇心を中心に展開している。例えば、クリスチャンの「啓示」の道徳的な意味合いは何だろう?このような状況から始めると、私がこのコースで考えている神学的な目標は達成されないかもしれないが、このコースを通じて学生は概ね「目標」を達成していると確信している。私が適用する「対話」の方法で、啓示に関連する彼らのさまざまな倫理的好奇心に応えたと思う。非常に多くの研究が、キリスト教の啓示が倫理と関連しており、世界文明全般の歴史に多大な倫理的意味を持つことを証明している。この経験は、神学的な視点だけでなく、他の宗教や文化の視点、さらには異なる科学の視点からも、キリスト教の啓示について研究を続けるための新たな挑戦だと思う。

人文学部 キリスト教学科
RAJCANI, Jakub　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教倫理学(基礎論A)
授業コード　21C50-001
教員名　RAJCANI, Jakub
教員コード　103281
登録人数　6
回答数　3
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

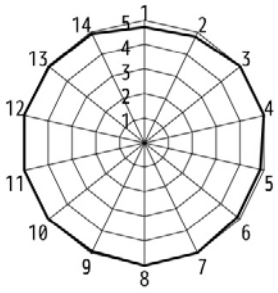
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、いつもより少人数の受講者がいました。理由は不明です。しかも、学生らしく毎回誰かが欠席して、本当にゼミみたいな、大学院みたいな授業でした。予定通り、計画していた全てのテーマを扱い、スムーズに授業ができたと思います。目的はだいたい達成しました。
6人中3人しか実施していないので、データの分析はできません。レーダーチャートもないし、個別のデータを見ると、だいたい4か5の評価をもらいました。自由記述には何もありませんので、反応すべき点はありません。授業中の状況や態度は普通でした。定期試験には欠席が多い人でも、全員参加しました。
隔年開講ですから、再来年に向けて、大幅に内容変えることは考えていません。開講するたびに、新しい資料を追加したり、英語だった資料を日本語訳を探したり、スライドに見つかった誤字など修正したりします。今度もそれを続ける予定です。

人文学部 キリスト教学科
KISALA, Robert　先生

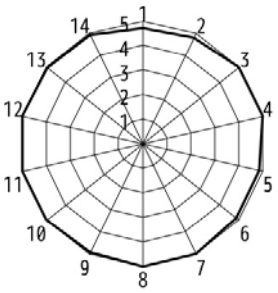
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教学
授業コード 21C55-001
教員名　KISALA, Robert
教員コード 018275
登録人数　17
回答数　14
回答率　82.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　14人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　14人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

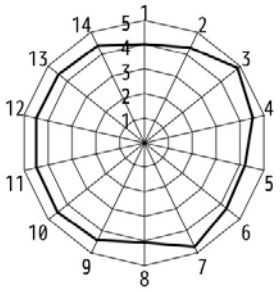
本講義の到達目標として「学問としての宗教学を理解する」と「現代宗教について考察する」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号５：平均値４．８６；設問番号６：平均値４．８６）から、学生らは到達目標を十分理解して授業に取り組んでいたことがうかがえる。講義の内容の丁寧な説明と毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認することが有効だったと思います。また、自由記述式設問の回答結果からは特に講義内容についての説明が分かりやすかったことが評価されました。毎回のディスカッションを通して講義の内容に関する自分の考えをより明確にして他の学生の理解・考えを確かめることができた、という点も積極的に評価されている。

本講義の改善点として、常に講義内容を見直し、学問の最近の発展・展開を紹介したいと思います。また、学生が到達目標を授業の内容と繋げられるように毎回に講義の到達目標を確認することを続けたいと思います。

人文学部 キリスト教学科
SOUSA, Domingos　先生

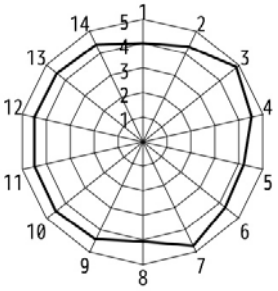
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教思想A
授業コード　21C59-001
教員名　SOUSA, Domingos
教員コード　100753
登録人数　44
回答数　33
回答率　75.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　33人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　33人

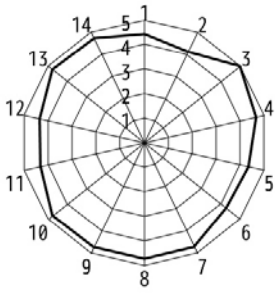
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、多面的宗教現象を広く検討するとともに、宗教の起源や本質を解明しようとする。代表的宗教学者や思想家の文献を解読することによって、様々な宗教領域に必要な基礎的知識を習得するとともに、文献の分析力を高めることを目指している。
講義に対する学生の評価結果は、全体として良好な評価であると思われる。自由記述には肯定的評価として「宗教に関する様々な思想や思想家を紹介されて、非常に面白い授業だと感じています」、「講義内容に対しての教師の熱意が感じられた。毎回授業初めに前回の授業の質問事項についての解答を充分な時間を使って行なっていた点が良かった」、「自分の知らない思想を知ることができ良かった」等があげられる。否定的な評価としては、「声が小さい時があり聞こえない」、「資料がもう少し見やすくなると良いと思いました」等があげられる。予習や復習などについての得点は多少低いので、自主的な学習を促すような働きかけを行っていく必要があると思います。今後はこの点に留意して授業に取り組んでいきたい。

人文学部 キリスト教学科
清水　美佐　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

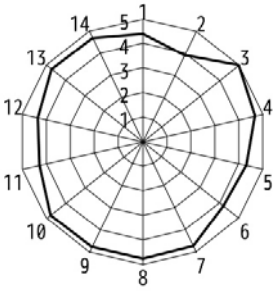
科目名　キリスト教美術I
授業コード 21C78-001
教員名　清水　美佐
教員コード 152757
登録人数　53
回答数　42
回答率　79.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　39人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　42人

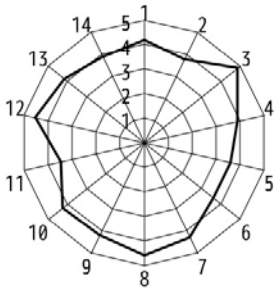
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①設定目標は「キリスト教主題の主要な図像について、内容を読み取り説明することができる。図像の典拠となる資料（聖書や外典など）にふれ、描かれた主題内容の理解を深めることができる」である。試験結果からは大半の学生が目標に到達していた。
②全体平均値より数値が低かったのは項目2、11、12である。2については、本科目で予習に課す内容(事前に聖書の該当箇所を読む)が簡単で、授業中に読める程度であることも一因かもしれない。学生の主体的な授業参加には授業内容そのものへの興味関心を高める必要があり、これは11とも関連する。12については、質問がある際は授業後訊きに来るよう毎回声掛けをしたが、実際に質問する学生は各回多くて1-2名だった。以前紙のリアクションペーパーを実施していた時は多く質問があり、回答にも時間をかけたので評価が高かったが、現在は授業準備時間が足りないことから止めており、学生が気軽に質問できる代替手段が必要と思われる。自由記述はアンケート回答者のうち半数以上から記入があり、授業スライド資料についての肯定的な意見が多かった。改善要望のうち「暗くて眠くなる」はプロジェクター投影のため変えられないが、そのほか作品を描き写す時間を多くとること等については要望に応えたい。
③学生の主体的参加を促すために関連文献や美術展等を紹介する時間を増やし、質問受付にはWebClassを利用するなどして改善したい。

人文学部 人類文化学科
谷口　佳津宏　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

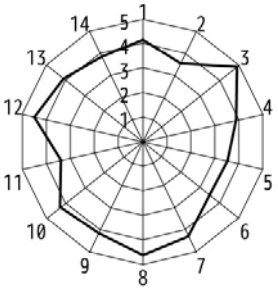
科目名　倫理学1
授業コード　12A09-001
教員名　谷口　佳津宏
教員コード　016550
登録人数　150
回答数　118
回答率　78.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　104人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　118人

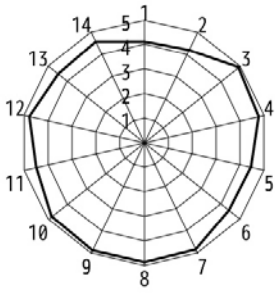
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は1. 倫理と道徳の異同を理解できるようになる。2.倫理と倫理学の違いを理解できるようになる。3.伝統的な倫理学の基本内容をある程度理解できるようになる。4.普段の生活のなかで倫理的な行動を行なうことができるようになる。の四つであった。このうち，1～3に関しては，期末試験の結果をみるかぎり（全受験者数129名中，合格者84名），全体の約65%が目標に到達できたと考えられる。（4に関しては，授業内でその到達度を測定する手立てが見当たらないので，今後は到達目標から外すことも検討している）。授業評価はほとんどの項目で全学平均，開講主体別平均いずれからも下回った数値となった。とくに，項目4,5,6,11の評価の低さが目立っているが，これは，項目2の評価の低さと相関していると思われる。今回は，自由記述も例年以上に多かったが，「授業の進む進度が少し遅い」という意見がある一方で，「進むスピードが早い」という意見もあり，また，「レジュメが分かりやすかった」という意見がある一方で，「レジュメとスライドが少し分かりにくい」という意見もあり，といった具合で，どこにあわせればいいのか分からなくて，途方にくれている。

人文学部 人類文化学科
藤川　美代子　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

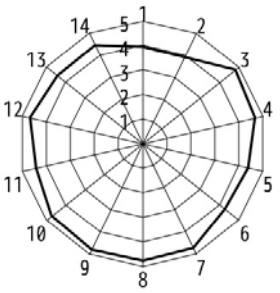
科目名　日本との出会い1
授業コード　13B01-001
教員名　藤川　美代子
教員コード　103115
登録人数　179
回答数　50
回答率　27.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　45人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　50人

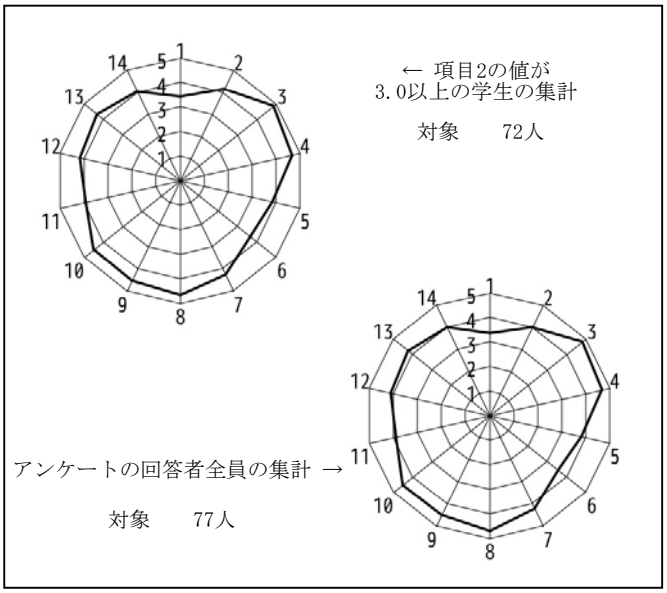
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初、「自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作ること。日本の中にある異文化を理解することで、自らの文化や考え方を相対化する姿勢を身につけること。」という目標を設定していたが、多くの受講生がこれを達成できたものと考える。②取り上げるテーマが比較的多岐にわたること、リアクションペーパーの結果を一部受講生に共有することで同じテーマに対しても自身とは異なる感想や考え方があると理解できること、一つ一つのテーマを理解するために映像を駆使することなどに高評価が集まった。これらは担当教員自身も授業の狙いとして考えていることであるため、来年度以降も同じ工夫を続けたいと考える。また、担当教員による説明が詳しくわかりやすいとの評価もあったため、現在の方法を維持したい。③一方、毎回出席している学生とそうでない学生との間に評価の差がつかない仕組みについて不満が出た。よい対応策を熟慮したい。

人文学部 人類文化学科
中尾　央　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　科学の諸相1
授業コード 13E08-001
教員名　中尾　央
教員コード 102505
登録人数　126
回答数　77
回答率　61.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



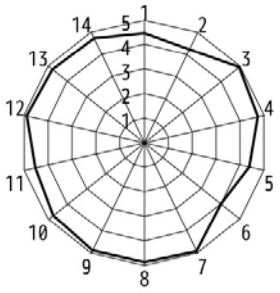
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①6の項目の点数が低めであったため，あまり達成できなかったのだろう．以下②でも記述するように，今後はレベルを落として講義したい．
②色々な指摘を頂けたので参考になった．
「人類文化学部以外の生徒が受けるには難しいと感じた。教授はほかの人類文化の授業を参考にとおしゃっていたが、参考にならなかった。」
「スライドに対する説明で、要点が何かわからず、話の意図がわからないときが多くあった」
「早く進行するので追いつけない点」
「話す内容やスライドの情報が、すっきりしていること」
「授業の最後にその回の講義の要約をすることで講義の内容を整理できること」
授業に参加せず，サーバーに上がっているスライドだけを見ている学生も多々おり，そうした学生が前半の意見を書いているのかもしれないが，少なくとも一部学生には授業内容が難しかったのだろうと判断している．例年と全く同じ内容かつスピードであったが，今後はもっとゆっくり，かつ内容のレベルを落として講義を行いたい．
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記記述のように，例年通りの内容で行なっていたが，今年は比較的低めの評価をいただいた．参考にし，今後はレベルを落として内容を削り，ゆっくりと講義を進めたい．

人文学部 人類文化学科
黒澤　浩　先生

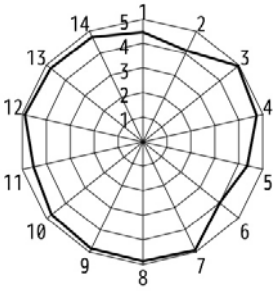
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　博物館概論
授業コード　15M07-001
教員名　黒澤　浩
教員コード　100758
登録人数　61
回答数　59
回答率　96.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　57人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　59人

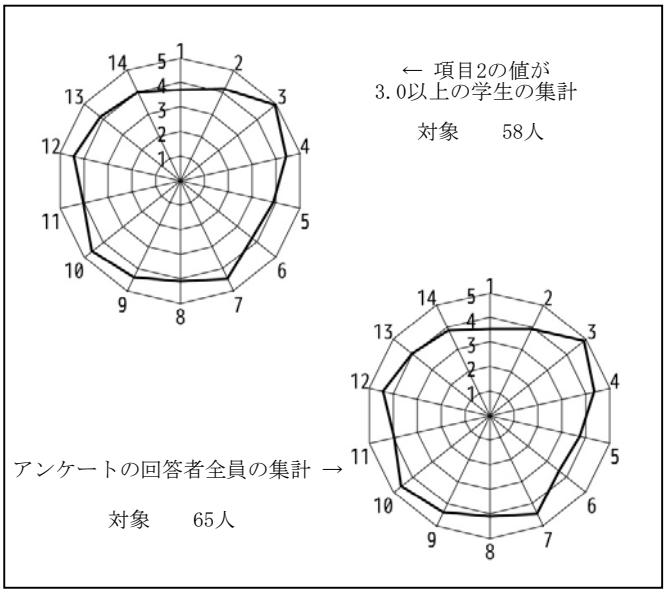
授業評価結果を踏まえた点検・評価

担当教員自身の博物館における実務経験を踏まえた講義に対して、概ね高評価を得ていると感じている。自由記述の中で、質問を書く時間を設けてほしいという要望があったが、それについては次年度より実施したい。

人文学部 人類文化学科
浅石　卓真　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報組織化論
授業コード 15P02-001
教員名　浅石　卓真
教員コード 103263
登録人数　109
回答数　65
回答率　59.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度
当初の目標としては「1. 情報資源組織化の方法である目録法（記述目録法、主題目録法）について理解できる」「2. 書誌情報の作成から提供までのプロセスを理解できる」「3. 多様な情報資源や、博物館・文書館資料における情報組織化について理解できる」を挙げた。
中間レポートと期末レポートの答案を見る限り、概ね達成できたと考えている。

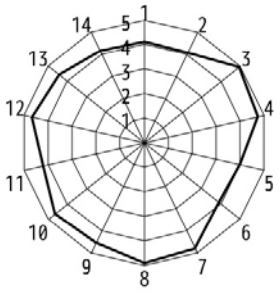
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
項目1から14の平均は4.13、項目3から14の平均は4.20であり、全体平均は下回っているもののほぼ誤差の範囲と考える。「設問１：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」が3.51と低いが、これは学部共通科目であると同時に資格科目でもあるため、ある程度止むを得ないと思われる。
自由記述は例年通り、テキストを冊子とPDFで配布したこと、演習を多くしたこと、動画を視聴したことが評価されており、これは今後も続けたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
レポートの詳しい説明をもう少し早くすることや、解答例を見せることなどが求められており、これらについては次年度以降に検討したいと考えている。また、一部の専門用語については、より詳細な説明を資料に掲載するなどの改善をしたい。

人文学部 人類文化学科
吉田　竹也　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人類文化学基礎論A
授業コード 22A05-001
教員名　吉田　竹也
教員コード 019158
登録人数　108
回答数　96
回答率　88.9%
休講回数　1 回
補講回数　1 回

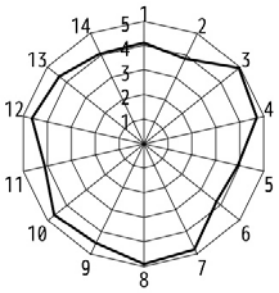


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　87人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　96人



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、人類文化学科1年次必修の講義であり、具体例をできるだけおおく挙げながら、学科の学びの基礎を、とくに相対的で批判的な思考態度を涵養することに留意しながら、取り上げることを目的とする。授業評価のデータと自由記述を見る限り、こうした目標はある程度達成されていると考える。

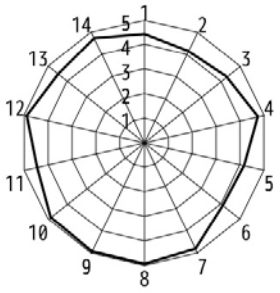
毎年おなじように授業評価の説明と協力へのお願いをしているのだが、今年度の授業評価では、例年になくおおくの自由記述が入力されていた。これが今回特筆すべき点である。大半は項目15であり、「今まで考えてこなかったことや知らなかったことについて新たな気づきを得られる」「生徒が発表、質問をしたとき丁寧に回答してくれていると感じる」「人類文化学を学ぶにあたっての導入がしっかりと成された」「教科書がありそれに則り授業が進んでいくので、膨大な量のメモを取ったりする必要はない」「いろんな社会問題や環境問題を…自分の知らなかった視点で考えることができる」といった意見が寄せられた。一方、改善点の大半は教室が狭く空調がよくないという点に関するものであった。

講義中心の授業であるが、学生との質疑応答の機会や時間をすこし多めにとることを昨年度から心がけており、今後もそうした方向ですこしずつ授業をアップデートしていく所存である。

人文学部 人類文化学科
宮沢　千尋　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

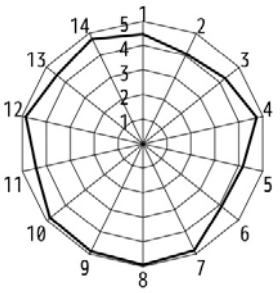
科目名　歴史人類学
授業コード 22C37-001
教員名　宮沢　千尋
教員コード 019562
登録人数　36
回答数　22
回答率　61.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　21人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　22人

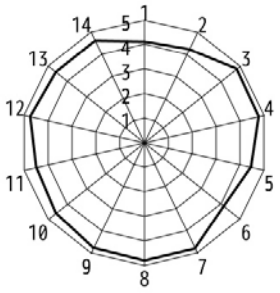
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目１から１４の平均が４．５６、項目３から１４の平均が４．６１であった。各項目の数値も４．０５から４．９５までとけして悪くない。開講当初に設定していた目標と到達の程度については授業評価の数値を見る限りは達成されたように思えるが、持込み不可の論述式で実施した定期試験の結果はけして良いとは言えないものであった。コロナ禍の間はレポートを課していたが、昨年度より試験形式に戻したという経緯がある。3題の設問から1題選んで解答する方式は昨年度と同じであり、授業内容も昨年度と比べてむずかしくなったということはないはずであるが、50分の試験時間があるのに、わずか10行前後しか書けない学生が昨年度より多かった。どうしてこうなったかは考えて、履修者が授業内容が身につくように教え方を改善する必要がある。授業中に気づいたのだが、スクリーンに投影したレジメをメモも取らずに見つめているだけの学生が数人いた。このような学生に対しては注意を促す必要があるのではないかと思う。また、自由記述に「（試験に備えて）練習問題をやってほしい」という要望があったので、それも検討したい。

人文学部 人類文化学科
石川　岳彦　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　東アジア考古学B
授業コード 22C39-001
教員名　石川　岳彦
教員コード 104800
登録人数　112
回答数　54
回答率　48.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

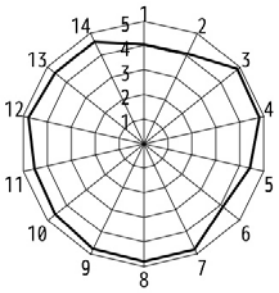


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　51人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　54人



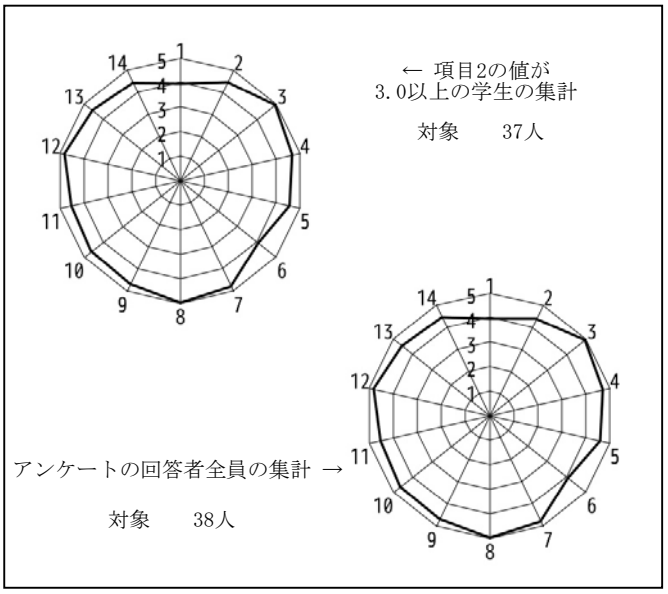
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①期末レポート（提出率95.5%）の採点結果やアンケート結果をもとに履修学生の授業内容理解度をみると、開講当初に設定していた目標はおおむね達成できたと考える。
②全14項目の設問中、大学全体および開講主体の平均値をそれぞれ12項目で上回った。授業の満足度に関する項目14の平均値も4.61と4.5を超える数値であり、授業が学生に好評であったといえる。
また、自由回答に記載された良かった点や評価できる点としては、各回の授業の冒頭に前回のリアクションペーパーに記載してもらった質問に詳細な回答をしていたこと、授業で使用した説明用スライドと配布資料のわかりやすさへの評価が目立った。これらについては授業実施にあたってとくに重視していた部分であり、今後の授業でも継続して力を入れていきたい。
③改善点に関連しては、授業最後のリアクションペーパーへの記入時間をもう少し長くしてほしいとの指摘があった。この点については、授業の回が進むにつれて寄せられる質問が多くなったため、授業時間冒頭の質問回答時間が長くなった分、授業本編の時間が圧迫されてしまったことによるものであり、授業の時間構成を再検討する必要を感じている。また、予習復習に関する項目2と、授業の到達目標に向けて力がついているかの実感を問う項目6の平均値が全体のなかで若干低めであるので、改善のために授業内で小テストを行うなどの方法を考えている。

人文学部 心理人間学科
藤田　知加子　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IA
授業コード 23A04-001
教員名　藤田　知加子
教員コード 100382
登録人数　41
回答数　38
回答率　92.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



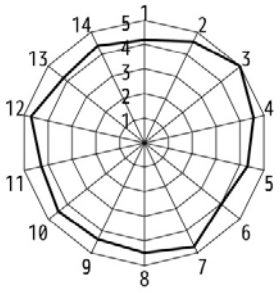
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
シラバスでは,
1. 文献の要点を論理的にまとめることができる。
2. 発表レジュメやレポートを作成するための基本的なスキルを習得している。
3. 人間科学に関連する文献の講読を通じて，さまざまな問題について多角的に考える態度を養うこと（心理人間学科のディプロマポリシー「人間関係や社会における課題を発見、分析し、創造的な対応を考案できる力」の一環として）。
といった，３点を目標としていた。
学生の回答では，項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」が4.61，項目13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」が4.55といった評定であったことからも，おおむね目標は達成されたと考える。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自由記述においても「文章を書くことが苦手で、今まで正しい要約のしかたを丁寧に教えてもらったことがなかったので、1から教えてもらえた点が良かったです。また、アクティブラーニングの手法を用いて授業を行っていたので、生徒同士で意見を交換し合って主体的に学ぶことができた点も良かったです。」など，他にもおおむね課題量や進度について高評価であった。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
心理学に関する本を扱ってほしいという要望が自由記述で見られた。本学科は心理学だけを学ぶ学科ではないため，様々難しい点があるが，学科の特性と学習内容の対応について，初回時にもう少し説明が必要かもしれない。

人文学部 心理人間学科
高橋　亜希子　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

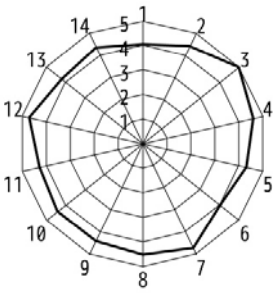
科目名　心理人間学基礎演習IA
授業コード 23A04-002
教員名　高橋　亜希子
教員コード 103582
登録人数　40
回答数　30
回答率　75.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　28人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　30人

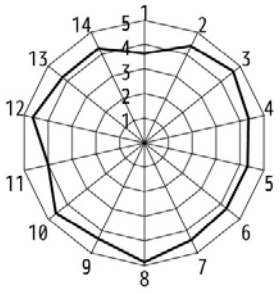
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について:1年生の学生が最初に受講する授業であり、丁寧な説明とグループワークの関係性作りを念頭において行った。「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」の回答が4.60であり、この点については達成できたと捉えている。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：授業の進度、雰囲気、教員の指導について肯定的な評価を得られた。（例「授業の雰囲気がすごく良かった」「質問する時間を十分に設けていた」「一人一人置いてかれないように見回りをしたりして、全体の授業への参加意欲が向上していた」「グループワークだったので相談しながら課題を進めることができた。」）学生にとってはグループを巡回しての指導が印象に残ったことがわかり、今後も続けていきたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点：ＩAはアンケートに見られるように課題が少なかったがＩBの進行には課題が残った（課題の量、進度など）こちらについては次年度対応していきたい

人文学部 心理人間学科
林　雅代　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

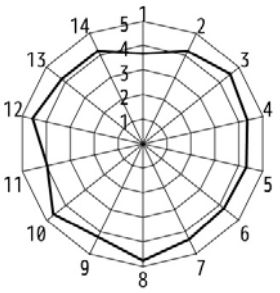
科目名　心理人間学基礎演習IIA
授業コード 23A08-001
教員名　林　雅代
教員コード 018796
登録人数　29
回答数　26
回答率　89.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　24人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　26人

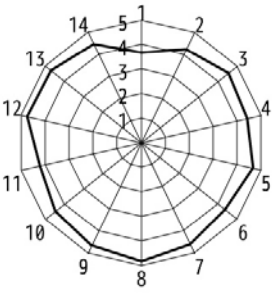
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学科必修科目の基礎演習のうち、アカデミック・ライティングに関する授業であり、論文・レポートの書き方について、グループワークや実習を交えながら学んでいくものである。この科目は、2004年の開講当初から2016年まで担当しており、クォーター制に変わってから今回初めて担当した。セメスター制の時とは異なり、２コマ連続で１学期7回というスケジュールとなったことで、授業時間内にグループワークや課題に取り組む時間をかなり取ることができ、受講生の宿題の負担が軽減された。そのようなこともあってか、この授業に対する学生の取り組み方が大きく変わったという印象を受けた。実際に、授業評価の各項目の得点は４以上となっており、４以下は質問項目１の受講前の興味関心と、項目11の積極的な授業参加・自主的学習の促進のみであり、授業への満足度（項目14）も4.19であった。特に評価が高かったのは、項目12の質問・相談機会であり、自由記述でも質問への対応を評価する声が多かった。今後の課題としては、さらに積極的な取り組みの促進に向けた働きかけや、学生の作業（グループワークおよび個人の実習）と教員による説明、テキスト・配布資料に関する説明とそれ以外についての説明などとの間のバランスをどうしていくか、ということである。

人文学部 心理人間学科
楠本　和彦　先生

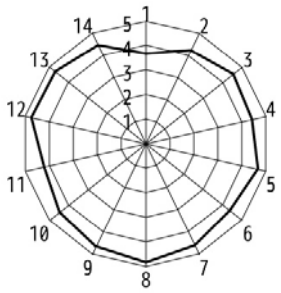
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIA
授業コード 23A08-002
教員名　楠本　和彦
教員コード 055780
登録人数　31
回答数　31
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　31人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　31人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目は、４クラス同じプログラムで実施しているacademic writingに関する心理人間学科の必修科目である。

到達目標は以下のものである。

・論述的文章とはどのようなものかを知っている。

・論述的文章を自分の文章として書くことができる。

・文献を引用のルールにしたがい、自分のレポートに活用することができる。

・テキストのテーマに即して、自分の視点から自分の言葉で文章を作成することができる。

・明快な文章の構成とはどのようなものであるかを理解し、自分と他者の文章を推敲することができる。

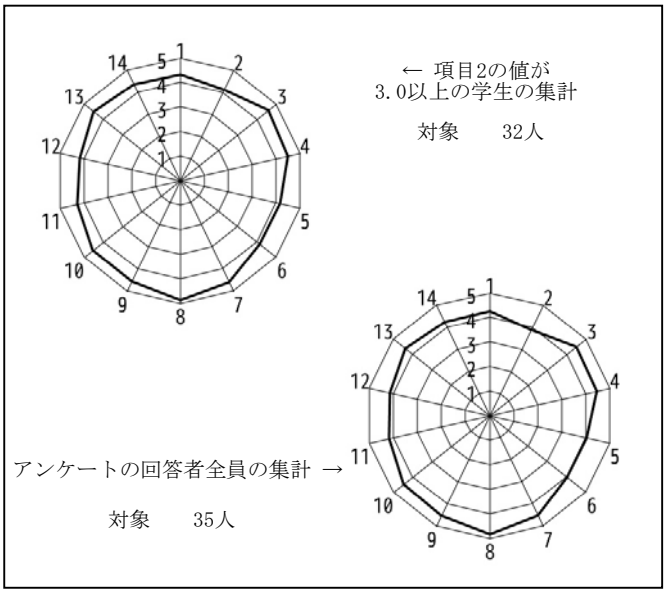
当クラスの平均が、全学平均を0.１ポイント以上、低かった設問は、１、３であり、学生が履修前には授業内容にあまり興味をもっていなかったことがわかる。授業終了時刻に関しては、個人によって授業最終盤に資料収集などを図書館など教室外で実施することを可としたことが影響していると考えられる。

当クラスの平均が、全学平均を0.1ポイント以上高かった設問は、5、6、８、９、12、13であった。各回のおける到達目標が明示され、到達目標 に向けて授業が順をおって展開される点に関して、学生から一定の評価されていることが設問5、6の評価からわかる。授業運営 （設問８、９、12）に関しても全般的に学生から高い評価を得ている。設問13に関して、学生が授業課題を行い、提出課題に教員がコメントをつけることなどを通して、academic writingに関する知識や能力を向上させることができたと考えられる。

人文学部 心理人間学科
加藤　隆雄　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　コミュニケーション論
授業コード 23C18-001
教員名　加藤　隆雄
教員コード 019349
登録人数　113
回答数　35
回答率　31.0%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



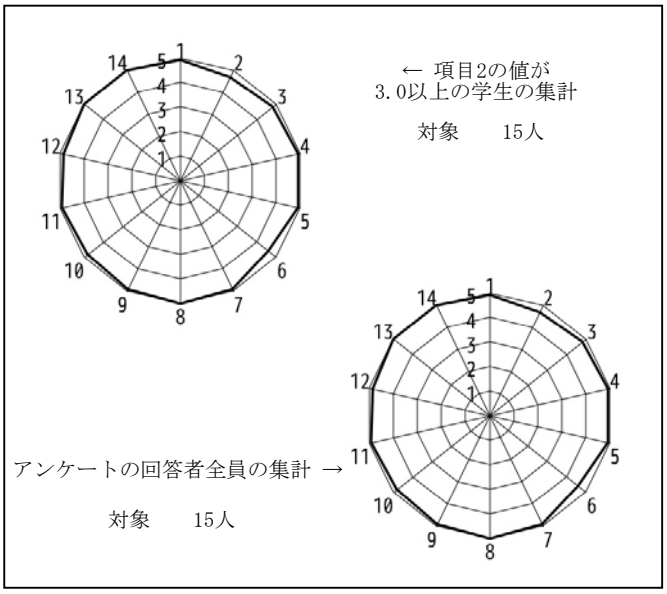
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「項目2の値が3.0以上の学生の集計」においてはすべての項目で4.0を上回っており設定していた目標は達成されたと考えている。特に2が4.0を上回ったのは、授業前日に資料をWebClassに掲載したことによるものと考えられる（自由記述の良かった点としても「講義資料が事前にアップされている点。」という意見があった）。通院のため２回の休講と２回の補講を行わざるを得なかったが、項目４「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」が高い評価だった。次回以降は、無理のない構成でより高い評価を目指したいと思う。2023年度の授業評価では、項目11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」の平均点が低かったが、今回は比較的高い評価になっている。今年度は講読推薦文献を示そうと考えていたが、十分にできなかったため、次回以降この点を充実させてより高い評価が得られるようにしたい。ただし、以上はより熱心に出席した1/3の学生の評価であり、そうでない学生が多くいたということは学生側の問題とはいえ心にとめておきたい。自由記述では「内容は興味があって面白いのですが、100分×2限分先生の話を聞くのは集中力が切れてしまいます。内容が抽象的な話で他人事のように捉えてしまうので、席が近くの人とグループワークができたら良いなと思いました。」という意見があったが、今年度は不慮の事態もあっての時間割設定だったので来年度は横置きの時間割を検討してみたい。良かった点としては「スライドがたくさんあって授業内容がわかりやすかった。」「多面的にコミュニケーションの仕組みに関して学習できたため、幅広い知識を得ることができた」「語句や考え方の例が分かり易かった。」などがあった。「学生主体」という意見もあったが、これは学ぶ意識についての見解だと考えられ、講義の方針をよく理解していると思った。

人文学部 心理人間学科
中村　和彦　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ファシリテーター・トレーニング
授業コード 23C44-001
教員名　中村　和彦
教員コード 055731
登録人数　21
回答数　15
回答率　71.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



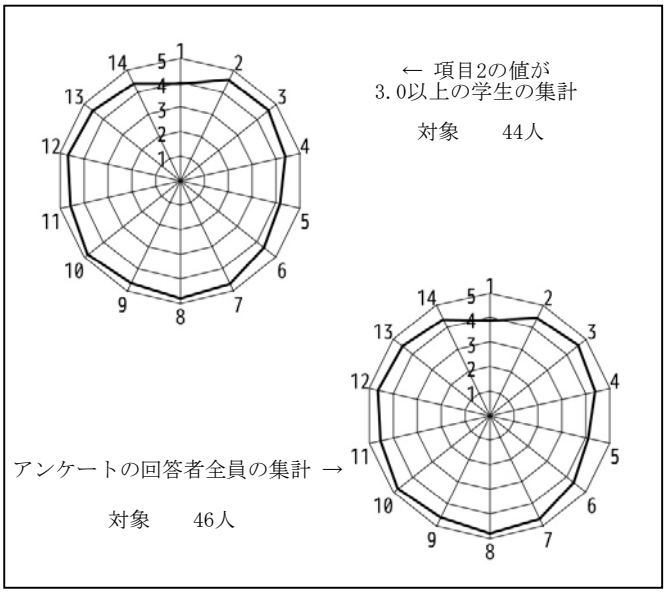
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目は、グループの発達をめざして、グループやメンバーに働きかける視点やスキルを身につけ、働きかけることができる力（ファシリテーション力）を養うことを目標として行った。毎回の授業は、ファシリテーションに関する講義と実習の両方から学ぶ形式をとった。
②総合的な自己点検・評価として、まず授業への満足度（項目14）が平均5.00と高く、新しい知識や技術が得られた程度（項目13）も平均5.00と高いことから、受講生がファシリテーションについて理論と体験から学ぶことができる授業であったことが示唆される。ただし、到達目標に向けて力がついてきているかを尋ねる項目（項目6）は平均4.60と、他の項目に比べて若干低い結果となっている。これは、ファシリテーションのスキルが奥深く、受講者は自らの今後の課題を認識している結果と捉えることもできる。
③この科目は従来、Q2集中の形態で実施されてきたが、2024年度は２コマ連続（タテ置き）の形態で実施した。どちらの形態にもメリットとデメリットがあり、来年度以降、どちらの形態で実施するかについて検討していくことが必要である。

人文学部 心理人間学科
浦上　昌則　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理調査法I
授業コード　23C47-001
教員名　浦上　昌則
教員コード　018788
登録人数　47
回答数　46
回答率　97.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

心理調査法IIとあわせ，心理測定およびデータ分析についての理解を実践的に深めるとともに，質問紙調査について演習を通して理解することを目的としている。心理調査法Iでは，グループで研究テーマを設定し，研究計画をたて，質問紙の完成といったデータ収集の準備までを行う。「質問紙調査法についての理解を深め，それを使った研究計画を立案できるようになる」，「適切な質問紙を作成できるようになる」という点を到達目標としている。

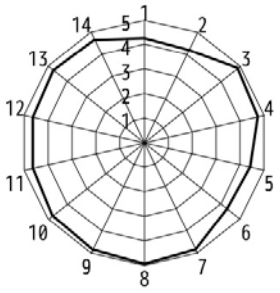
授業評価の回答は，概ね平均値が4以上であり，まずまずの評価を得られたと考える。良かった点として「研究の進め方について理解を深めることができた」「研究に必要な知識を実践的に得ることができた」などのコメントがあり，授業目標との対応から評価できる成果といえよう。

改善点として，数名から課題が多すぎるという指摘があった。授業開始時点から，この授業の課題は多いということを繰り返し伝えているが，やはりやってみて改めて実感するケースもあるのだろう。課題を減らすことは簡単であるが，それは目標への到達を遠ざけてしまうことになる。個々の事情である，部活やバイトに配慮するのも本末転倒であろう。学習にどれくらいの時間がかかるのかをしっかりと伝えた上で，主体的で現実的な受講の判断を促すことを続けるしかないと考える。

人文学部 心理人間学科
池田　満　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　コミュニティ心理学(福祉心理学)
授業コード 23C68-001
教員名　池田　満
教員コード 103141
登録人数　73
回答数　58
回答率　79.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

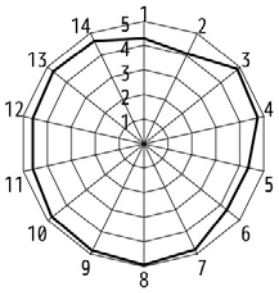


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　55人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　58人



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
授業期間中に課した毎回の授業へのコメント，レポート課題，及び期末試験の自由記述問題の記載，それぞれの内容を見ると，目標への到達が見られたと考えられる。

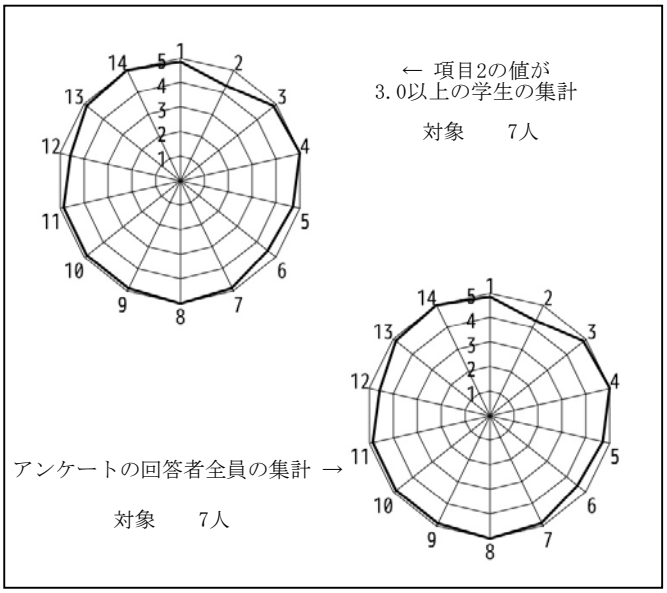
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
すべての項目で平均値がおおむね満点であったため，十分に高い評価であったと考えている。
今年度行った新たな試みとして，提示資料，配布資料ともに可能な限りユニバーサルフォントを使用した。資料の視認性が高まったことは学生の声からも確認できたため，今後も継続する。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
昨年度からゲスト講師を招聘しお話を伺っていて，非常に高評価を得ている。しかし予算が乏しいことや，本学の学外講師の謝礼算定基準により，講師に妥当な謝礼を支払うことができない。教育の質を向上するためにも，大学としての改善を求めたい。

人文学部 心理人間学科
青木　剛　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理臨床実践概論(公認心理師の職責)
授業コード 23C79-001
教員名　青木　剛
教員コード 103923
登録人数　7
回答数　7
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



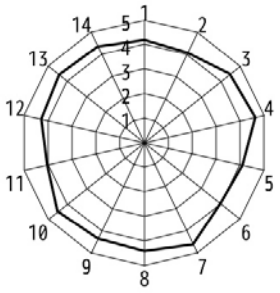
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①公認心理師の職責を果たすためには、専門知識の獲得と活用、活用の際の留意点を理解する必要があるが、学部生で完結せず、資格取得後も学び続ける必要がある。そのため、現時点で既に獲得できている知識、獲得したが知識の活用に至れていない点、未獲得の知識を把握し、不十分なところを補う姿勢の涵養が重要となる。授業内では既修の概念の説明を求めたり、ディスカッションをを通して他の受講生と知識や知識活用のための発想を補完し合いながら、知識活用に向けた発想力を育む授業運営を通して、現時点での自身の理解度の確認、知識の現場での活用、その際の留意点について理解を深めており、本科目の到達目標は概ね達成できた。
②数値データは、全て4以上の回答と学生からの評価は高かった。自由記述からも、知識や現場のことを具体的に考える力が身についた点が評価されており、本授業が到達目標に適ったものであることが分かった。前もって内容理解に努めたかという項目2で平均得点が4.29と最も低かったが、①で記載の通り、自身が理解できていなかったことを自覚することも本科目で必要なことであり、発表での質疑を通して発表のために知った知識をより現場で起こる具体的な事象に落とし込めていないことなどを自覚したことなどによるものともいえ、上述の到達目標にある点の把握がなされた結果と考えられた。
③ 今後も、上述のような学生による授業評価や授業の満足度を維持・増進できるように工夫したい。

人文学部 日本文化学科
辻本　裕成　先生

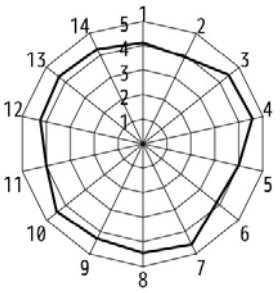
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文学概論
授業コード 24C03-001
教員名　辻本　裕成
教員コード 019042
登録人数　302
回答数　179
回答率　59.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　167人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　179人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）　この授業の到達目標は「日本文学研究の諸問題について理解している。」というもので、やや具体性を欠いた。

それは反省すべきで、もう少し具体的な目標を設定すべきであったと反省している。

自由記述を見ると、いろいろな文学作品に触れられてよかった、というようなものが散見されるので、学生が読んでいないような作品を多く紹介するという意図はある程度達成できたようである。

（２）　多くの項目で４．０を超える数値を出しているので、一定の評価を受講生から受けたものと見られる。

また、先述したように、自由記述の中に評価してくれているものが散見されたことは、担当者としては嬉しいことである。

しかしながら、この授業は３００人を超える大人数の授業で、この困難さを十分克服できなかったようである。

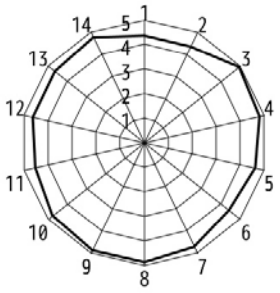
私語が少なからずあったという指摘や、一方的な講義に対しても物足りなさを指摘する声もあった。私語については、叱責していたことを評価する声もあったが、十分にやめさせることができていなかったようである。

（３）　声が聞きとりにくいという声が少なからずあった。今後はゆっくりしゃべるよう努力するなど、改善をめざしたい。

人文学部 日本文化学科
松田　京子　先生

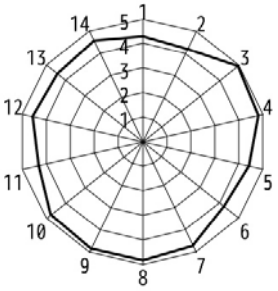
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文化史B
授業コード 24C12-001
教員名　松田　京子
教員コード 100789
登録人数　52
回答数　18
回答率　34.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　17人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　18人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業では、教員作成の配布プリントとそれに基づく説明を中心に、適宜、関連する映像資料の視聴を行いながら、歴史学的な手法でテーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後をリアクションペーパー記述の時間にあて、各回の授業の中心的なトピックに関する感想や考察、映像を視聴した回ではそれに関する感想や考察、その他自由な観点からの授業に関する感想や質問等を受講生全員に書いてもらい、次回の授業の冒頭でその一部を紹介しながら復習を行うとともに質問に答えるなど双方向の授業展開を試みた。このような方法で授業を進め、開講当初に示した授業計画はほぼ予定通りに進行することができた。

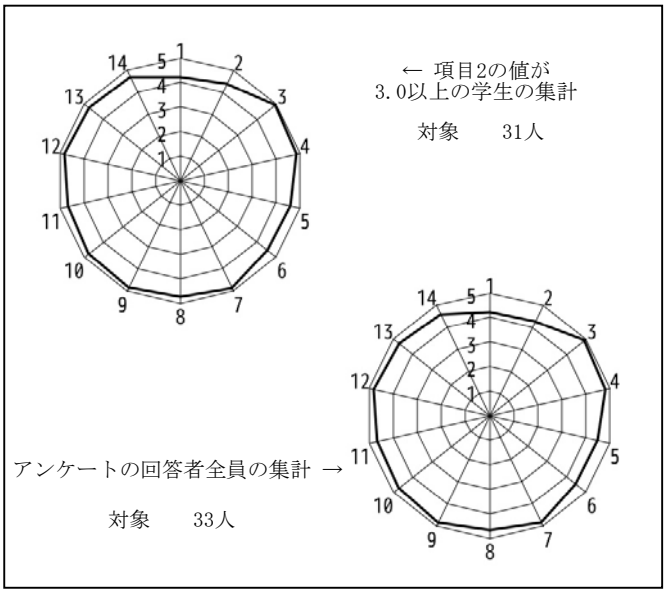
②上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」集計の設問4の平均値4.83、設問7の4.72、設問8の4.83、設問9の4.83という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。この点については、「学生による授業評価」の「自由記述欄」に、映像資料や地図をはじめとした豊富な資料、順序立てた説明などに関する好意的な意見を、複数の学生が寄せてくれていたことからもうかがえる。まだ設問3-14の平均値も4.63と大学全体の平均値4.48を上回っていた。ただし、履修者数52名に対してアンケート回答者数は18名と、回答率は低めであった。

③以上から、今後も受講生の理解が深まるよう教材の工夫やより効果的な説明方法の追究などをさらに進めたい。また授業評価アンケートを実施する際、回答率が高まるよう、アンケートへの協力を繰り返し呼びかけたい。

人文学部 日本文化学科
坂井　博美　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文化史C
授業コード　24C13-001
教員名　坂井　博美
教員コード　102981
登録人数　136
回答数　33
回答率　24.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



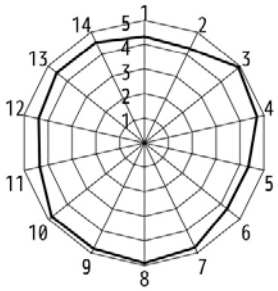
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達は、おおむね達成できたと考える。受講生の皆さんも授業運営に協力的であった。質問項目「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」の回答が４・７０となっており、この点はよかったと思われる。また今回、プロジェクターで掲示・紹介する資料を前年度よりも増やしたが、自由記述からは、画像等の資料が多かったことやリアクションペーパーから発展させていたこと、多角的な視点から授業が行われたこと等がよかった点としてあげられおり、一定程度成功したと考える。次年度も引き続き、こうした工夫をさらに進めたい。一方で、声が聞き取れないことがあった、教室が静かななかで授業中に会話している受講者がいたという点が改善してほしい点として挙げられた。この点、マイク使用について改善を心掛けたい。また、今回、私語等はほとんど気づかなかったので、この点細かな配慮を行いたい。

人文学部 日本文化学科
籾山　洋介　先生

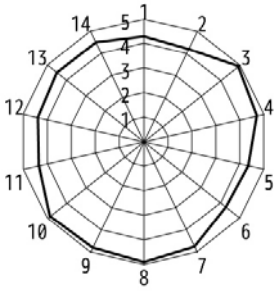
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語分析A
授業コード　24C50-001
教員名　籾山　洋介
教員コード　041806
登録人数　57
回答数　46
回答率　80.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　45人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　46人

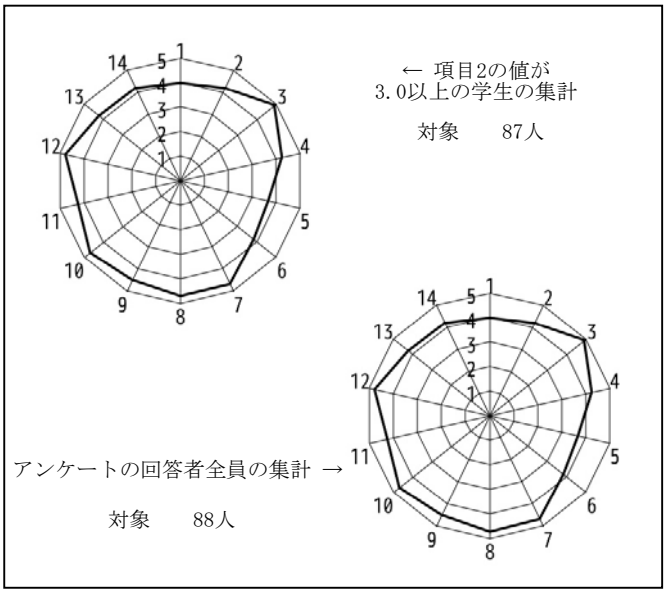
授業評価結果を踏まえた点検・評価

レポート（１回）および毎回提出を求めた「質問・コメントシート」の内容から判断して、授業の内容を十分に身に付けた学生が約60%、相当程度身に付けた学生が約30%、内容の一部を身に付けた学生が約10%であった。以下、主に自由記述の内容に基づき、今後の授業のあり方について検討する。まず、「小説や新聞にある言い回しを持ってきて解説するという方式が非常におもしろく、興味をもって授業にのぞめた」という記述があった。実例に基づく分析・解説を今後も続けていきたい。また、「テキストの内容がとてもわかりやすかった」「補足資料が充実しており、理解を深めやすかった」という記述があった。今後もテキストの選定を慎重に行い、補足資料の作成に力を注ぎたい。さらに、「前回の授業で学生が考えたことを、印刷して紙で配布し、次回の授業で共有してくれたので、他の学生の意見も知ることが出来ておもしろかった」というコメントもあった。これについても続けていきたい。一方で、「話を一方的に聞く場面が多いので、周りの人と事例について共に考えるなどの時間があったらよりいいと思った」という意見があった。今後、学生相互のディスカッションの時間を取り入れることを検討したい。

人文学部 人類文化学科
久米　啓介　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語学入門
授業コード 22C01-001
教員名　久米　啓介
教員コード 104805
登録人数　121
回答数　88
回答率　72.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、言語学の中でも特に統語論と言語習得研究に焦点を当てて、基礎的な概念・用語や研究法を理解することを目標としたが、最終課題の出来から判断すると、概ね目標は達成できていると思われる。

良かった点は、昨年度と同様に毎回のリアクションペーパーで出た学生の質問や要望には可能な限りすべて答えるようにしたことや、授業資料を講義用のウェブサイトでいつでも見られるようにするなどしたことで、効果的に学習に取り組めたという声も多く、効果的であったと考える。
改善の余地がある点は、授業の冒頭にかなりの時間を前回の内容に関する質問に答えるようにしたため、授業構成としてややメリハリに欠けてしまったように思えることだ。また、授業内容に関して、昨年度よりも丁寧な説明を心がけたものの、一部の学生にとっては理解が追い付かず、詰め込み過ぎているといった印象を与えたようだ。

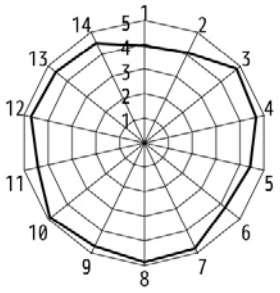
授業内容や質に関して、昨年度と概ね同水準であったにも関わらず、アンケートの平均値が昨年度よりも下がっている主な原因は、設問１、５、６の点数の低さにあると思われる。履修前に内容に興味を十分持てなかったこと（設問１）が、高度な内容の理解を妨げ（設問５）、その結果、力がついたという実感が持てなかったのだろう（設問６）。

授業内容の難易度を下げることは容易ではないが、学習内容の定着を図るために、説明をもう少し洗練したい。また、授業の冒頭での質疑応答にかなりの時間を要してしまった一番の原因は受講生の多さであったと考えるので、来年度からは定員を50～60人に設定し、もう少しメリハリのある授業構成にしていきたい。

人文学部 人類文化学科
松浦　直毅　先生

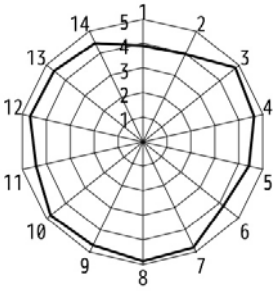
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域の文化と歴史(アフリカ)
授業コード 22C47-001
教員名　松浦　直毅
教員コード 104933
登録人数　35
回答数　19
回答率　54.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　18人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　19人

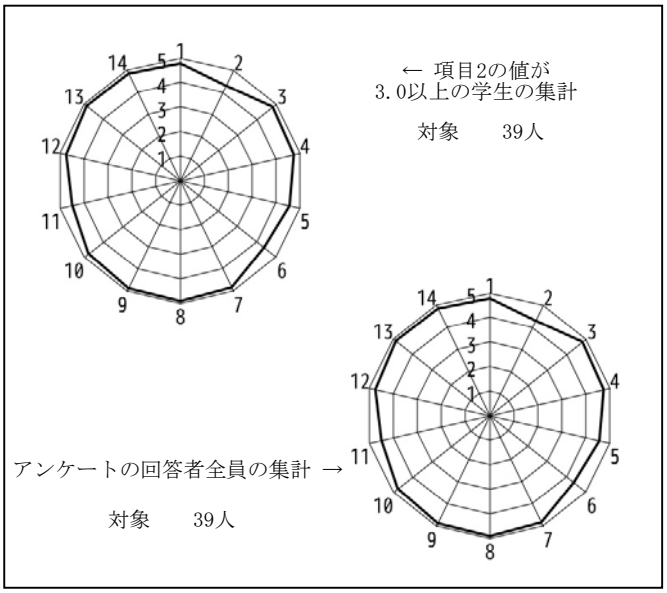
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アフリカについての関心を高め、アフリカの文化と歴史に関する知識を得ること、アフリカを学ぶことを通じてものの見方を転換することを目標としていたが、5、6、13などで高い値が得られたことから、おおむね達成できたと考えられる。授業に対する熱意や、写真や動画を取り入れるなどの集中して受講できるような工夫についても高い評価が得られており、全体としての満足度も高かったことから、十分に良い内容の授業をおこなうことができたと考えている。自由記述のなかで、実際のフィールドワークのようすや現地での体験にもとづく話などは担当教員でなければ聞くことができない内容であり、印象に残りやすかった・受講してよかった、というものがあり、そうした内容を取り入れたのも効果的だったといえる。ただし、すべての受講生が積極的・主体的に参加できていたわけではなく、十分に理解できた／満足したというわけではないので、さらに工夫を重ね、高い評価が得られた点をさらに磨いていきたい。

人文学部 心理人間学科
井村　安之　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理的アセスメント1
授業コード 23C62-001
教員名　井村　安之
教員コード 048439
登録人数　47
回答数　39
回答率　83.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



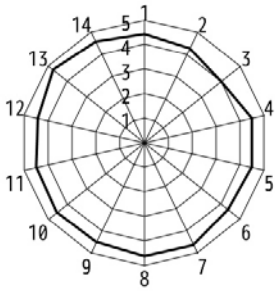
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、心理的アセスメントについての基本的な考え方の理解と、代表的な心理検査の実施を通しての検査法についての初歩の習得、さらには、こころの問題への理解を深めることを目標としたが、学生からの評価を見てみると概ねその目標は達成できたのではないかと思う。特に、自由記述のところでは、実際の現場での臨床の話が聞けてよかったという意見が多く、私自身、あまり現場の話に偏りすぎているのではないかと不安に思うところがあったが、このようなスタイルの方が学生にとっては学ぶことが多いようであることが今回わかった。今後の講義でも、実践に根付いた解説を行っていきたい。反省点としては、主体的に学ぶことに関する項目がやや低くなっていることがあげられる。毎回、授業の感想や質問を書いてもらい次の授業でそれに対してコメントする時間を設けるなどして、一方通行にならないようにはしているが、さらなる工夫が必要である。逆に質問等を紙に書いてもらっていることで、授業中の口頭での質問、発言等が減ってしまっていることもあるかもしれない。もう少し授業中に学生の発言を促していきたい。

人文学部 日本文化学科
伊藤　伸江　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

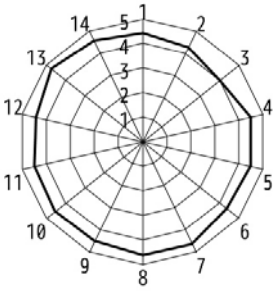
科目名　和歌文学研究
授業コード　24C28-001
教員名　伊藤　伸江
教員コード　103266
登録人数　28
回答数　16
回答率　57.1%
休講回数　4 回
補講回数　4 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　16人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　16人

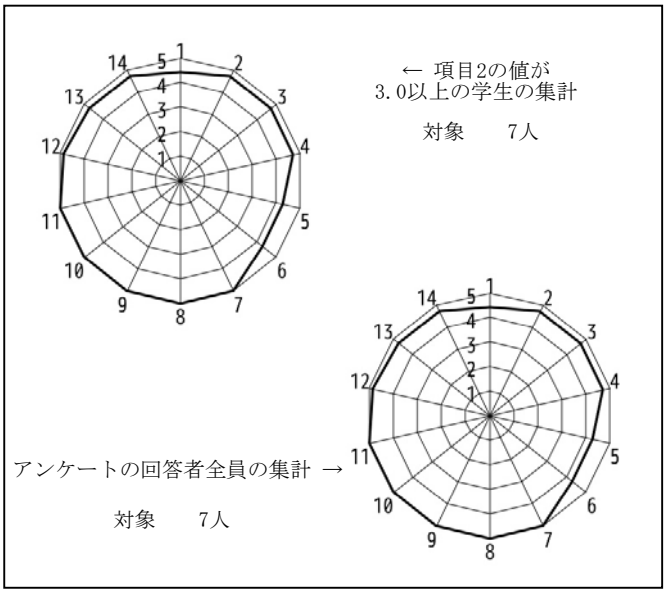
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度の「和歌文学研究」の授業は、中世和歌の到達点である新古今和歌集の和歌を、著名歌人の歌と当時の歌壇のあり方から説明し、その後の中世和歌文学の発展を京極派和歌の特質と連歌の様から概観した。できるだけ例歌を多く取り上げ、その読解を学生たちと共になすことで、理解を深めることを重視して授業を行なったものである。講義の際には、学生たちに歌の情景を把握してもらうために、歌の内容に関する小さな問いかけを一人一人になすようにした。さらに、毎回のリアクションペーパーで、理解度の確認をしている。指名し答えを求めることで、学生たちは「理解も深まったし、集中して取り組むことができた」と回答しており、「わかりやすかった」と効果的と考えている。わからなかった学生に対するその場でのより詳しい説明を通して、授業にメリハリが生まれ、リアクションペーパーから見る授業理解度も上がっている。個人の理解度、教室全体の理解度を教員がより詳しく知ることができ、フィードバックもしやすく、有益であり、この形式は、今後もより積極的に取り入れていきたい。なお、本年度、家族の病気により補講の対応をなしたが、教員都合の休講によりなされた時間割と違う時間での補講に際しては、学生の不利にならないように配慮した。

人文学部 日本文化学科
金村　久美　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語の音声教育
授業コード 24C69-001
教員名　金村　久美
教員コード 104428
登録人数　17
回答数　7
回答率　41.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



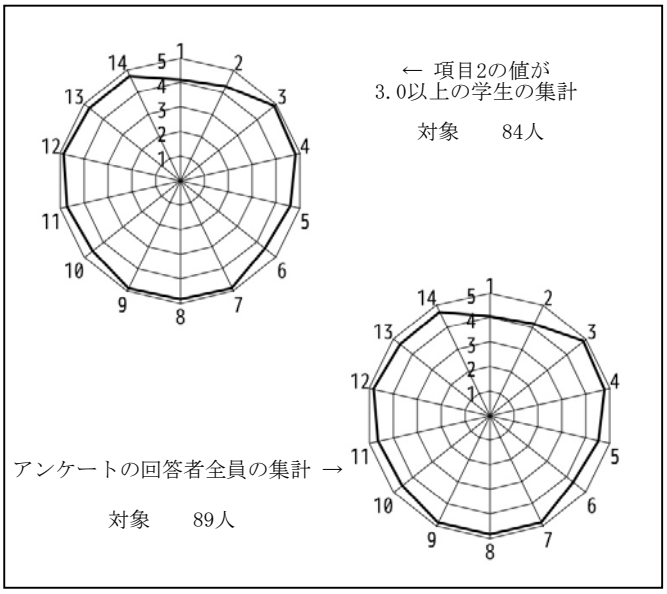
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
この科目では「多様な言語を母語とする日本語学習者にとって、日本語の音声はどう聞こえどう学ばれるのか、という視点を涵養する」ことを目標としており、この目標はある程度達成できたと考える。履修生は学習者の母語を選び、その日本語音声の特徴を分析・記述するレポートを提出したが、達成度の差こそあるものの、母語と日本語の音声体系を踏まえて音声を観察し特徴を記述することができた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
21人中7名からアンケート回答を得た。今学期はシラバスを修正し、学習のためのリソースを用意した上で実際の音声に触れワークを交えながら実践的に音声学を学ぶことを目指した。設問11で5点満点の回答を得られたことなどから、一定の効果があったと考える。またコメントへのフィードバックに対して自由回答で良い評価を得ており、今後も継続していきたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
現在は時間配分に改善の余地があル。学習内容を適切に取捨選択し、ハンドアウトのレイアウト等を改善して、より満足度の高い内容としたい。

人文学部 キリスト教学科
袴田　渉　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教史(古代・中世教会史)
授業コード 21C03-001
教員名　袴田　渉
教員コード 104814
登録人数　130
回答数　89
回答率　68.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



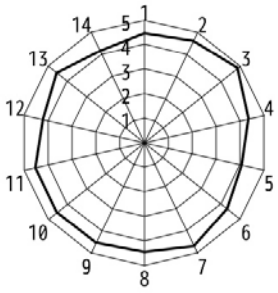
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初は、「キリスト教史」の初学者にも理解しやすい授業づくりを目標とし、授業の双方向性の確保等、学生の学習意欲を高める工夫を行った結果、当該の項目11から14について全て4.6以上の評価を得ることができ、一応の目標に到達できたといえる。
②数値データに関しては、項目1から14の平均値が4.61と全体として高い評価を得られ、特に項目8（教員の声の聞き取り易さ）および9（板書や授業資料、視聴覚資料の効果的活用）、12（質問や相談の機会）について高評価を得られたことが分かった。項目9についての自己評価としては、PowerPointのスライド資料の映写と、必要に応じて板書を併用したこと、また学生のノート取りの負担を軽減するために配布資料に授業内容の要点をまとめる取り組みを行ったこと、良質な映像資料を使用して学習内容の理解を補ったことが功を奏したと考えられる。また、自由記述に関しては、授業への好意的な意見として、リアクションペーパーに寄せられた質問に対する回答を丁寧に行う取り組みの評価されたことが分かった。また、改善を求められた点として、マイクの音量の問題で授業を聴き取りづらいことがあったり、学生の私語への注意ができていなかったりと、教員の配慮の足りなさが指摘された。
③次クォーター以降に向けて、改善の必要なマイクの音量の調整や私語への注意など、学生たちがより集中して授業に参加できるよう配慮を心掛けていきたい。また、評価された点については、更なる改善を重ねながら継続していきたい。

人文学部 キリスト教学科
岡嵜　隆哲　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　初期キリスト教思想A
授業コード 21C30-001
教員名　岡嵜　隆哲
教員コード 103614
登録人数　17
回答数　14
回答率　82.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

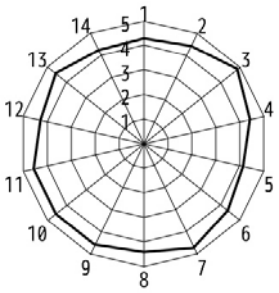


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　13人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　14人



授業評価結果を踏まえた点検・評価

キリスト教およびその前身となる古代イスラエルの宗教について、世界宗教としてのその画期的な内容を理解することを全体の中心目標として講義を実施した。大筋予定どおりの内容を取り上げられたと考える。もっとも、前半部の内容として、預言者の宗教の独自性を他の古代宗教との比較をとおして説明するという点や、後半部の内容として、キリスト教の救済論について現代の思想家（R. ジラール）の考えを紹介して説明するという点について、やや専門的な議論にもふれることとなり、受講生にとっては難しく感じるところもあったかと思われる。

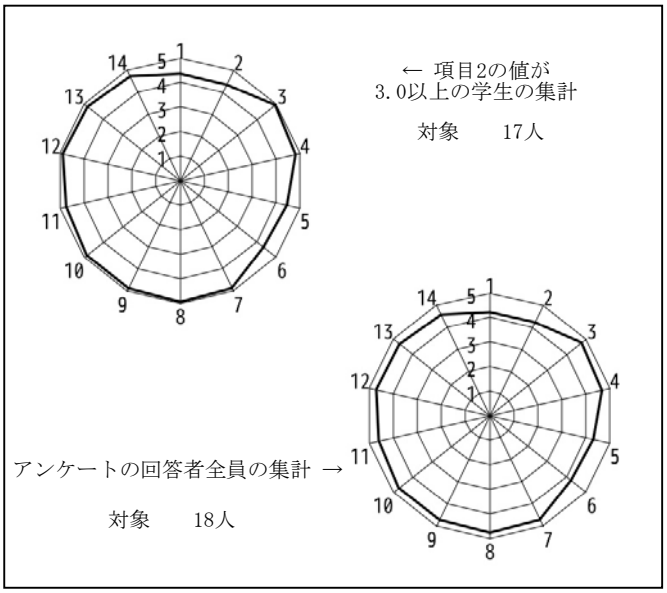
アンケートの数値として突出して低い項目はないようであるが、5の「この授業の到達目標を理解することができましたか」や、6の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が相対的に低くなっており、上記の懸念に対応するものとも考えられる。

次クォーター・学期以降に向けて、上記の件についてより明快な説明ができるように心がけたい。また、キリスト教の中心教義である三位一体について、とりわけ理解が難しいとされる聖霊論について、宗教や信仰の内外にかかわらず、できるだけ納得ができる説明をするためにさらにつとめたい。

人文学部 キリスト教学科
南　翔一朗　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教哲学B
授業コード 21C35-001
教員名　南　翔一朗
教員コード 104627
登録人数　22
回答数　18
回答率　81.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　近世の西洋哲学という非常に抽象的で難解な内容を扱う授業であるにもかからず、多くの履修生が毎回一生懸命講義を受け、講義内容を理解しようと努めてくれたおかげで、非常に高い達成度に到達できたと考えている。履修生が多くなかったこともあり、リアクションペーパーを通じて寄せられる質問や感想にも丁寧に応答することができ、履修生全体が内容をある程度理解しているかどうかを、講義者である私自身が一定程度把握しながら毎回の講義を進めることができたということも大きかったように思われる。

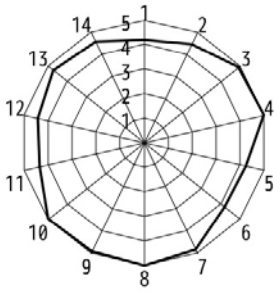
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　数値データや自由記述を見る限り、履修生から一定の評価を得ているものと考えているが、レジュメ内でより多くの図表を用いるなどして、より理解しやすい講義となるよう今後も心がけたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　上記②にも書いた通り、今後もわかりやすい講義や読みやすいレジュメの準備に邁進するとともに、来年度以降は、専門的な文献の紹介などにも挑戦しつつ、より高度な内容を望む履修生、大学院以上のカテゴリーを目指している学生のニーズにも十分に応えられるよう努力したい。

人文学部 キリスト教学科
VARGHESE, Rejimon　先生

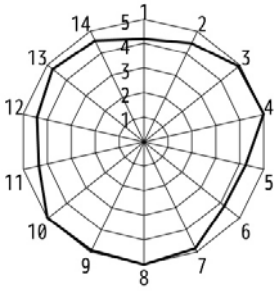
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　組織神学(秘跡論B)
授業コード 21C45-001
教員名　VARGHESE, Rejimon
教員コード 100555
登録人数　14
回答数　11
回答率　78.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　11人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　11人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

（1）受講生の授業評価から、シラバスにあげていた目標に彼らは到達したと言えます。その目標到達とは、赦しと和解の秘跡、病者の塗油の秘跡、叙階の秘跡、結婚の秘跡歴史的・体系的発展、異なる構成要素および恩恵を理解することでした。この到達目標のために、受講生に徹底した詳しい講義録を配布し、主なポイントに絞ってそれをパワーポイントを利用して適切なペースで講義することでした。これは学生に講義内容のどこに注目すべきかの手助けになったのでしょう。手元に講義録があったため、学生は講義内容を自宅で読み直し確認することもできたでしょう。

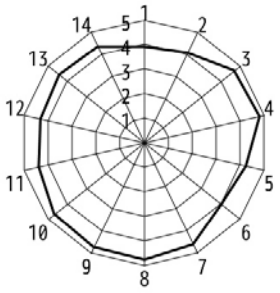
（２）私に関する授業評価設問（3～14）に対する学生による評価の平均値は5点のうち4・68点なので、総合的に悪くない評価だと思います。それに、学生による自由記述等も全くなかったので、授業の持ち方も良かったと思います。

（３）上記に示したように、学生からこの授業の評価として全く自由記述等がなかったため、次回にどのような改善策に謀るべきかは正直に言って解らないが、総合的評価から言えば、授業中随時に学生と講義ごとの内容および持ち方を確認しながら今回のように真面目に取り込むことに専任したいと思っています。

人文学部 キリスト教学科
守屋　友江　先生

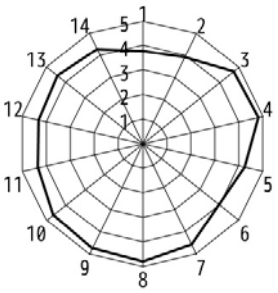
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教史I
授業コード　21C57-001
教員名　守屋　友江
教員コード　104474
登録人数　71
回答数　55
回答率　77.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　51人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　55人

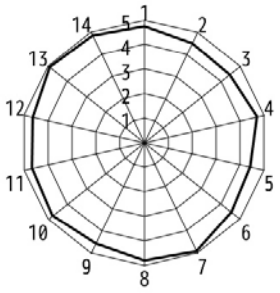
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体として、毎回のリアクションペーパーで書いている内容から授業理解度が高く、また深い考察を行っている受講生が多いことが分かる。その点では、教える側として非常に参考になる見解もあって良い学びとなった。よく頑張って書いてくれた受講生たちに感謝したいと思う。
①開講当初に設定していた目標以上に到達できたといえる。これは学生の学習意欲・受講態度と比例していると思われる。
②学生の受講態度は良好で、学習意欲も高かったので、教員側としてはとても授業をしやすかった。それは数値データと自由記述にも表れている通りである。配付資料は予習・復習をしやすいよう見やすく、外部リンクを充実させるなど工夫していたので、それが自習にも役立ったとの回答があり、それは今後も引き続き行っていこうと思う。
③学生の欠席について愚痴を言っていたという自由記述があったが、そのつもりはなかったもののそう受け取れる不快な発言は控えるようにしたい。

人文学部 人類文化学科
坂下　浩司　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

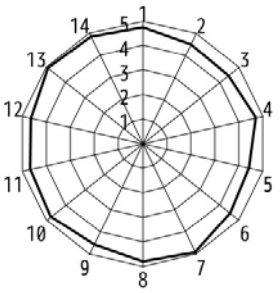
科目名　ギリシャ語II＜全＞
授業コード 11K06-001
教員名　坂下　浩司
教員コード 100471
登録人数　29
回答数　22
回答率　75.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　22人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　22人

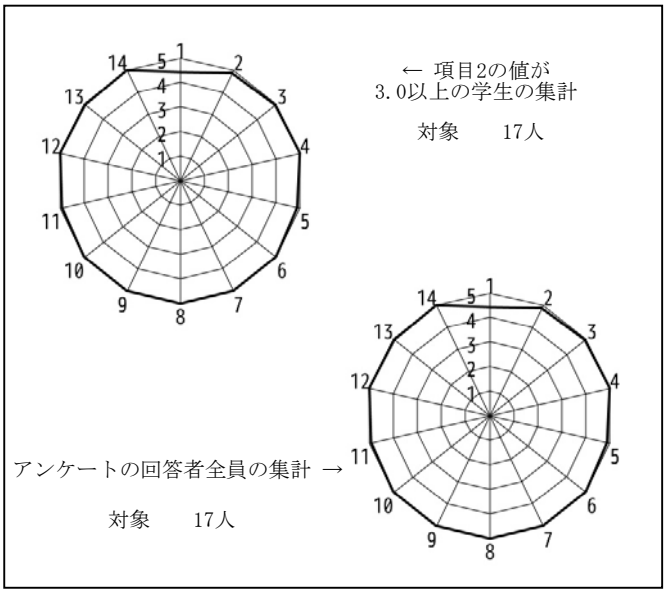
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）開講当初に設定していた目標と到達の程度：到達目標は、「古典ギリシア語の文法のさらに進んだ知識が身についている。教科書第28章までの文法を理解している」であった。28章までを終える目標は、今年度春学期は、やはりQ2の文法は難しさを増し、25章までであったので少し届かず、3章分秋学期へ託すことになった。（２）数値データと自由記述を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：項目１から１４のポイントの平均値が「4.68」で過去最高であり、これまでで一番うまく授業ができた。自由記述は、「解説が細かくされるのがよかった」、「どんな質問にも丁寧に説明してくれました」、「しっかりと教科書に沿った文法解説と質問対応を行っていた」、「宿題の解説に多くの時間を使っている点〔が評価できる〕」、「分からないところがあっても一つ一つ丁寧に教えてくださり、さらに授業時間も適切にしてくださり、とてもわかりやすい講義でした」、「語学だけでなく、ビデオや詩などで古代ギリシアを知ることができることがよかった」、「古代ギリシャ文化に関する補足的な説明やビデオの視聴が面白く、学習意欲が高まった」、「当時の風習や文化などもあわせて解説されていたのでやる気が出た」等。（３）改善点、今後の抱負：このままの方針でいきたいが、文法説明の長さで授業への集中が途切れることもあったとあったので、この点を改善したい。

人文学部 人類文化学科
奥田　太郎　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生命と倫理問題1
授業コード 13A03-001
教員名　奥田　太郎
教員コード 100642
登録人数　56
回答数　17
回答率　30.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



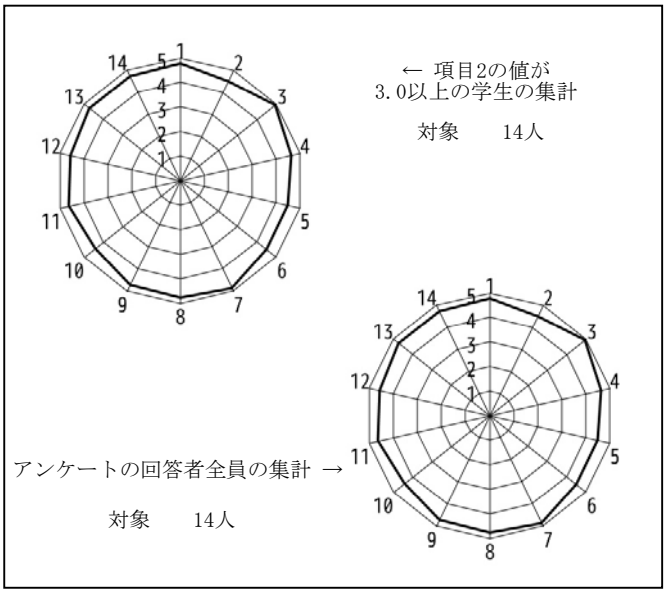
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）開講当初に設定していた目標と到達の程度：受講生が作成した提出課題の内容、および、自由記述欄でのいくつかの感想から、かなり高いレベルだったことが伺われ、現在の授業スタイルに移行してから最も高い学修効果をもたらすことができたと判断している。
（２）数値データと自由記述を踏まえた総合的な自己点検・評価：今回は、60名弱の受講者に対してアンケート回答者が17名と少なかったこともあり、極めて高い評価であった。自由記述からも、受講者にとって極めて満足度の高いものであったことが窺われる。今回、高評価となった要因として心当たりがあるのは、授業内で受講者に求めるワークの意味を毎回丁寧に説明していたことである。やはり、学修者自身が何のためにそのワークをしているのかを毎回自覚するプロセスは、学修効果に直結しているのだと思われる。
（３）次学期以降に向けて：自由記述にあったコメントのなかで、グループワークの際に同じ組になった受講者がやる気のない者であったときが残念だ、というものがあった。これは積年の課題であり、また、うまくいかない経験もまた学びの一環であると考えてはきたが、やる気の出にくい者へのエンカレッジの工夫をもう少し検討してみようと思う。

人文学部 人類文化学科
MCMULLEN, Matthew　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想・文化をめぐって5＜国際科目群＞
授業コード	13A06-902
教員名	MCMULLEN, Matthew
教員コード	103838
登録人数	41
回答数	14
回答率	34.1%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

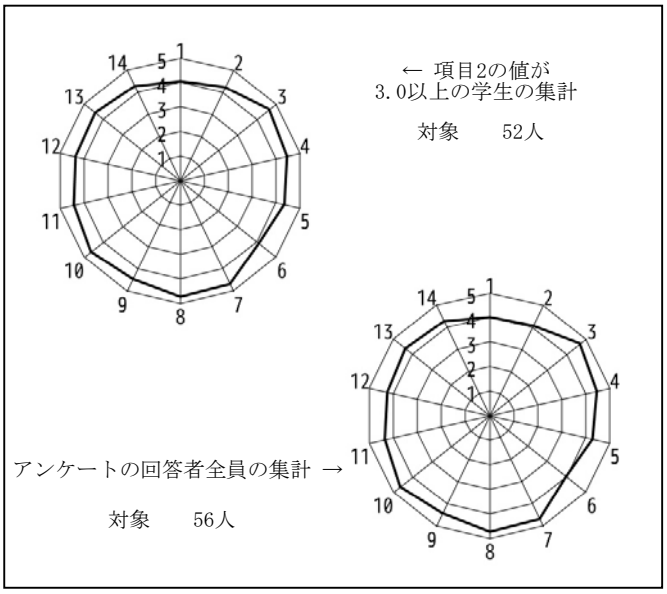
On the final day of class, I asked students to offer some feedback about the class. Many of them said they would like to be able to prepare for discussion classes in advance. In my opinion, this defeats the purpose of discussion, which is to be able to think at the moment based on available information, articulate a response, and then share that response. However, I will consider assigning more homework so students have the opportunity to think about the issues for discussion in advance.

In one of the written responses, a student noted that they would prefer more lecture. The course is already half lecture and half discussion. As I explain to students on the first day of class, if they would like a strictly lecture course they have many options to take other courses. Lectures in my courses will be as minimal as possible.

人文学部 人類文化学科
石原　美奈子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　イスラムとの出会い1
授業コード 13B03-001
教員名　石原　美奈子
教員コード 100080
登録人数　166
回答数　56
回答率　33.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



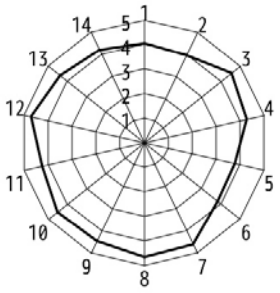
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業は、イスラームの歴史的発展過程と、イスラームに関する基礎知識を講義形式で伝えることを主な目的としていた。講義のために準備していたパワーポイントのスライドを計画通りにすべて終えることができた。
②ほぼすべての項目において評価４以上であったので、おおむね授業に満足してもらえたのではないかと思う。ただ、自由記述欄には「スライドに含まれる情報量が多い」、「進め方が早い」、との指摘があったが、絶対的な情報量は決して多くないと思うので、ひとつのスライドに含まれる情報量を減らす（スライド数を増やす）工夫をしてみようと思う。
③スライドをもっとわかりやすく、単調にならないようにアニメーションをもっと取り入れるなど工夫して作り変えたいと思う。そしてもう少し映像を取り入れることができるか検討してみるつもりである。本講義は、筆記試験（７０%）と小テスト（３０%）で成績評価を行っているが、スライドを見ながら解ける小テストの点数が低い者がおり、F評価の多くが小テストを解いていないか、もしくは点数が低い者である。今後は、F評価の人数をいかに減少させるかが課題となろう。

人文学部 人類文化学科
青柳　宏　先生

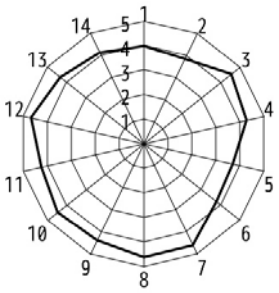
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語学概論
授業コード 22B01-001
教員名　青柳　宏
教員コード 017004
登録人数　150
回答数　87
回答率　58.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　82人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　87人

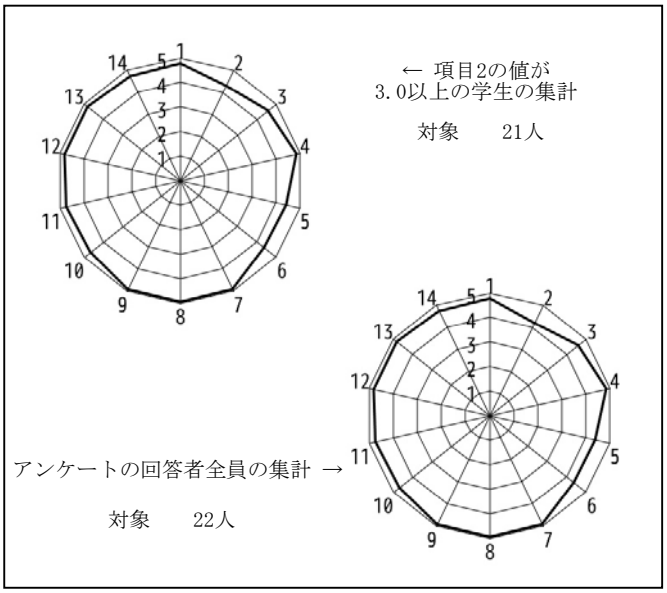
授業評価結果を踏まえた点検・評価

【到達目標】
今年度の到達目標は以下のとおり。
１．日本語や英語といった身近な言語だけでなく、他のさまざまな特徴を持った言語があることが理解できる。
２．世界の言語には多様性があるばかりか、普遍性があることを理解できる。
【目標達成度】
小テストの結果の平均：32.5/40.0、期末テストの結果の平均：43.9/60.0（最大60、最小20)をみるかぎり、最小限の目標には到達しているとみられるが、学生間の個人差が激しいのはいうまでもない。
【自己点検・評価】
項目1～14の平均4.26、同3～14の平均4.31も例年どおりであり、項目1，2，5，6あたりが4.0を下回るのもいつもどおりである。
自由記述欄をみると、毎回復習を兼ねた小テストを実施していること、同時に質問の機会を与え、次回の講義の冒頭で前回の小テストの答え合わせをしつつ、質問に答えていることは評価されている。
ただ、講義の効果を上げるためには授業外の学修が求められることを特に初回講義で注意しているが、「（音声の）調音法など（基礎的なことを）覚えてくるように助言してほしかった。覚えていなかったため授業について行けないことがあった」などと甘えたことを平気で書いてくる学生がいるのはたいへん遺憾である。
【今後の抱負】
今後も双方向性の高い授業を目指したい。

人文学部 人類文化学科
上峯　篤史　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　考古学入門
授業コード　22C02-001
教員名　上峯　篤史
教員コード　104108
登録人数　87
回答数　22
回答率　25.3%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業では、①考古学的視点の習得、②研究のおもしろさを知るの二つを到達目標に掲げていた。授業は考古学の研究法を主な話題に進行したが、受講生の反応はよく、授業後にも質問やコメントを寄せる学生が目立った。定期試験の出来もよく、授業目標は概ね達成されたと考える。

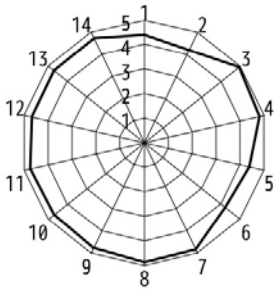
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
授業評価の数値データにおいては、全項目で開講主体の平均値を上回った。自由記述については、実物の持参や実演、教員の体験談が好評であった。配付資料や授業スライドについても、好意的な意見があった。今後の授業運営の参考にしたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次年度も現時点での授業の良さを壊さないように留意しつつ、新たな内容に差し替える部分を考え、新鮮な授業であり続けたい。

人文学部 人類文化学科
原田　昌浩　先生

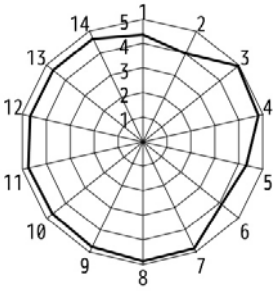
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本史概論
授業コード 22C03-001
教員名　原田　昌浩
教員コード 104974
登録人数　366
回答数　214
回答率　58.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　198人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　214人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　本講義では「日本史に関する基礎的な知識を獲得できる」、「歴史学・人類学の手法としての考古学の有効性と限界を理解できる」という２点を到達目標に掲げ、授業を実施した。期末試験の結果、９割以上の学生が試験に合格し、そのうち、A+、Aとなった学生数が全体の約半数を占めるに至ってており、目標が達成できたといえるであろう。
②　アンケートの結果、設問１・２・５・６で平均値4.5を下回っている。特に設問２の講義への主体的参加にかかる項目が3.99と最低の数値となっている。これは、授業が講義形式でかつ大人数であったため、ピア・ラーニング等の手法を取り入れなかったことに起因していると考えられ、設問16の自由記述においても同様の指摘を受けている。設問５・６についても、主体的な学びを促す仕組みが不足していたために低い数値となったものと考えられる。
③　以上をふまえ、次クォーター以降は、大人数の講義であってもピア・ラーニングの手法を取り入れるなど、学生が主体的に授業に参加できるような工夫を行っていきたい。また、出席管理に関して、私の知識不足のために学外からも出席とカウントできるようになっていたため、公平性を高めるために学内LANのみ限定でカウントされるように設定することとしたい。

人文学部 人類文化学科
ANTONY SUSAIRAJ　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化コミュニケーション＜国際科目群＞
授業コード	22C53-901
教員名	ANTONY SUSAIRAJ
教員コード	103820
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course Evaluation:
(1) The goals set at the start of the course and the extent to which they were achieved.
The goal of this course to learn the skills of inter-cultural communication with the people of other cultures.
By the interaction with the people of other countries particularly Indians in Japan, the students were able to communicate through interviews and questionnaire.

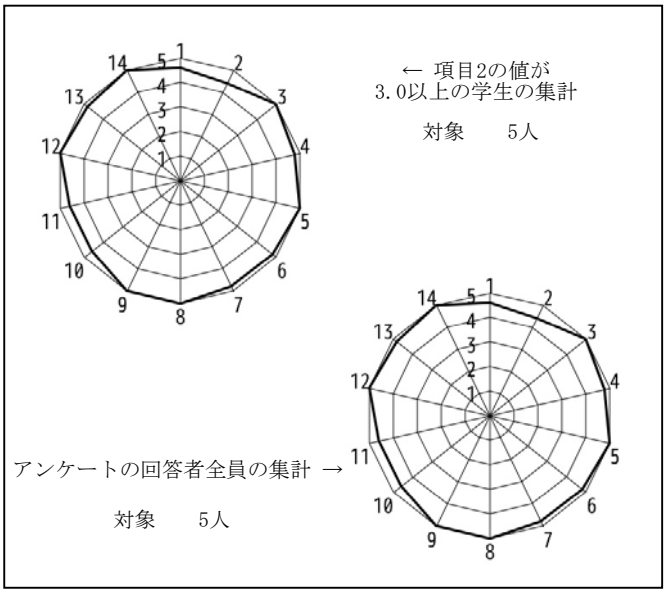
(2) An overall self-assessment and self-evaluation of the subject you are in charge of based upon the numerical data and the comments etc.
The course could realise the goal of this course through theoretical knowledge and practical experience on Intercultural communication.

(3) Thinking ahead towards the next quarter or semester, improvements, aspirations or specific measures etc. you will take.
Making more opportunities to interact with Indians in Japan from different cities of Japan.

人文学部 人類文化学科
和泉　悠　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文献資料講読(西洋)A
授業コード 22C59-001
教員名　和泉　悠
教員コード 103645
登録人数　21
回答数　5
回答率　23.8%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本演習の到達目標は「英語で書かれた人文学の文献資料を利用できるようになる」というものである。演習での読解担当、質問・ディスカッションへの答え、そして小テストでの得点率を踏まえると、合格者は十分に到達できた。英語の発音、文法や語彙、そしてテキスト理解に必要な北米文化と歴史についての背景的知識を十分に学習できたと考える。

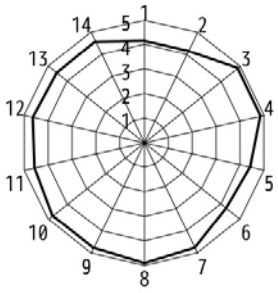
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値および自由記述も肯定的な回答が多いと考える。また、できるだけ資料や進捗を電子的に共有する点、質問に答えて解説をするチュートリアル的時間を設けている構成なども肯定的にとらえられていると思われるため、今後もその要素は変えないようにする。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
他のクラスでもそうだが、就職活動での欠席者などもかなり多いと感じる。また、できる学生とそうでない学生が二極化する傾向がある。結局、修学意欲の差が成績に直結してしまう。生活習慣やそもそもの学習意欲の向上を高めることが必要であるが、ひとりの教員ができることの範囲をはるかに超えているとも思われる。しかしながら、何らかの方策がないか模索する意図はある。

人文学部 人類文化学科
宮脇　千絵　先生

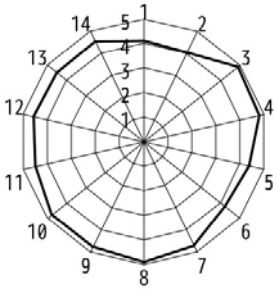
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人類文化学特殊講義(物質文化論)
授業コード 22C74-001
教員名　宮脇　千絵
教員コード 152580
登録人数　147
回答数　72
回答率　49.0%
休講回数　1 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　68人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　72人

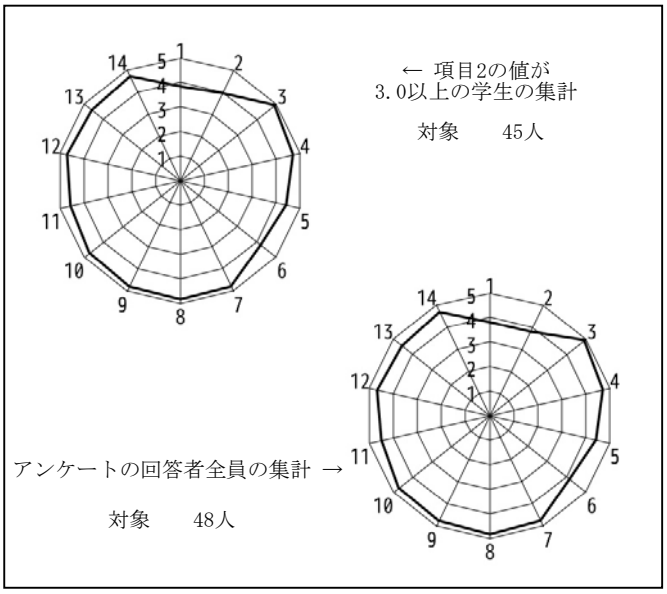
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、①文化人類学における物質文化研究の視座を得ている、②人とモノとの関係について、自分の言葉で説明できるようになっている、③研究論文を作成するための基礎的知識を得ている、ことを到達目標にしていた。そのため毎回の授業では、最初に問いを設定することで内容のポイントを明示し、また最後にリアクションペーパーでその問いに対する考えを書いてもらうことで、知識の定着や思考のプロセスを把握してもらう工夫をした。また各自が理解度を相対化できるように、リアクションペーパーの回答は抜粋してまとめ、電子配布および解説や補足説明を行った。毎回のリアクションペーパーの内容が徐々に充実していったこと、最終レポートの多くが自分の言葉で考えをまとめた痕跡が見られたことを鑑みても、到達目的は概ね達成できたと考える。
自由記述欄では、具体的な事例の話が多かったこと、映像資料の使用、紙媒体でのレジュメを配布したこと、リアクションペーパーの振り返りなどが良かった点として評価されたが、一方でリアクションペーパーの内容に対して補足説明する際に自分のコメントが（匿名ではあるものの）「晒された」と感じた学生もいたようで、今後は取り扱いにもより注意をしたい。

人文学部 心理人間学科
西脇　良　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[P]1
授業コード　10A01-013
教員名　西脇　良
教員コード　100623
登録人数　90
回答数　48
回答率　53.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では，①宗教が個人・社会・歴史・文化に果たしてきた役割と意義について，自分なりの見解を持つことができるようになること，②イスラーム，ヒンドゥー教，神道，仏教，スピリチュアリティに関する基礎的知識を有するようになること，を学修目標としました。

学生の皆さんからの評価ですが，全体としては「まあ良し」との判断であったように思います（全設問の平均値＝4.67）。この値は今季評価対象科目全体の平均値（4.49）を若干上回っていました。

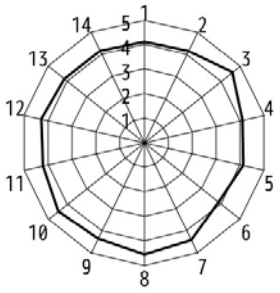
自由記述についてですが，まず肯定的な意見として，「イスラム教の回の授業で、イスラム人たちが使っている道具を持ってきてくださり、実際に見るだけでなく、触ることもできたので、イスラム教について肌で感じることができて良かった。」「私語等の授業の妨害となるものに対して処理がなされていた。」「内容がわかりやすく、かつ聞き取りやすい声であった。」「先生がとても面白く、授業を楽しく学ぶことができた。」等の評価を19件頂戴いたしました。今後も，教材をアップデートしつつ，皆さんを知的に刺激できるような授業を追求して参りたいと思います。

改善すべき点のご指摘はとくにありませんでした。他方，講義担当者としては，受講生が「宗教」を身近な問題として捉えていただくため，より一層の工夫が求められているのではないか，と考えております。そのため，シラバスを修正し，「（進化における）宗教の起源」「（日本における）無宗教とは何か」という2トピックスを取り上げることを予定しております。

人文学部 心理人間学科
伊東　留美　先生

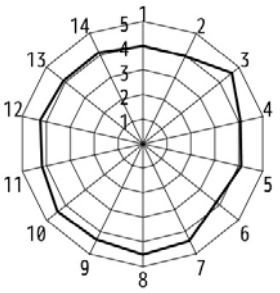
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　美術B2
授業コード　12A06-002
教員名　伊東　留美
教員コード　063834
登録人数　190
回答数　82
回答率　43.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　74人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　82人

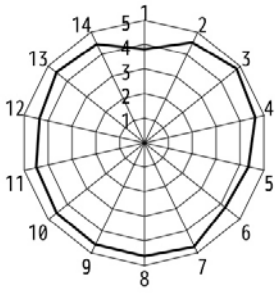
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、共通教育科目（学際・基盤科目）で対象学生は全学部生である。授業では主に中世美術史を扱い、到達目標として3つの事柄を掲げている：1. 日本中世の水墨画作品を通して絵画作品理解の方法を修得すること 2. 日本中世美術における中国水墨画の受容と変容の展開を理解すること 3. 鑑賞した作品について、中国思想や仏教思想の観点から意見を述べることができること。
アンケートに本講義の到達目標を理解しているとの回答平均値（設問項目5：4.10）に対いて、到達目標に向けて力がついてきていると思う学生の回答平均（設問項目6：3.83）が減っている。この点の理由として、何があるのかを検討していく必要がある。設問項目2の主体的な授業参加について、平均値は3.99である。この点は、授業中の巡回でも学生の主体性に欠ける授業態度が見受けられた。評価の結果においても設問項目2で3以上に回答した学生数は74名であり、アンケート全体（82名）の1割程度の減少がみられた。
今年度の「美術B2」の変更点として、これまでパワーポイントのスライドをオンライン上で配布していたが、学生に書き込みができるようにしたプリントを作成した。そのため、学生からもスライドの提示時間が短いので書き込みができないという自由記述欄でのコメントが多々あった。授業進行をこれまでと同じ程度で進めていたが、もう少し内容と進行速度の検討が必要となる。そのためには、到達目標に向かって必要となる内容を精査し、それをどのように学生に提示できるかを再度検討し直す必要がある。

人文学部 心理人間学科
解良　優基　先生

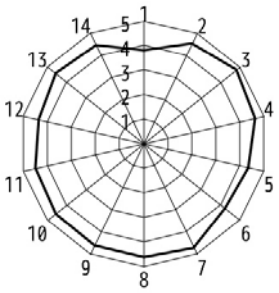
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-003
教員名　解良　優基
教員コード 103910
登録人数　43
回答数　35
回答率　81.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　35人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　35人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は，「心理学，教育学，人間関係論など，人間科学の諸領域を学ぶための基礎的能力を習得すること」であった。

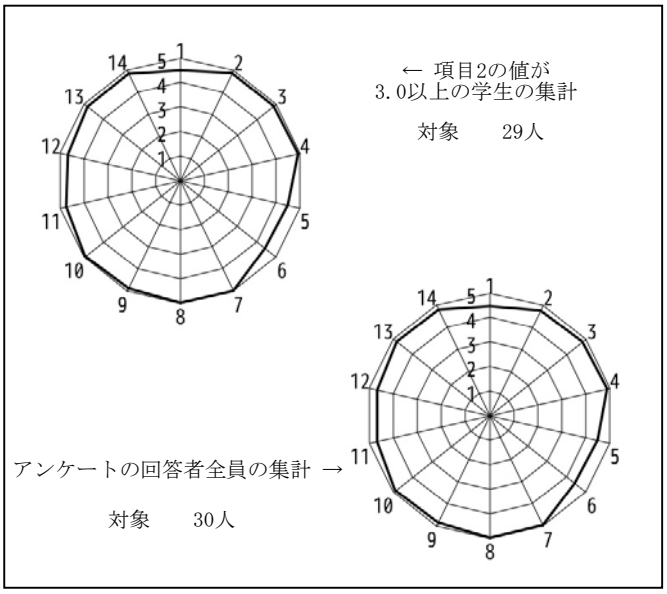
最終課題を含め，学生から毎回提出された課題の成果からは，上記の目標は概ね達成したと考えられる。
学生の主観評定においても，「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目への評定平均は4.23という結果であった。
また，「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」という項目への評定平均は4.57という結果であり，学生の側でも一定程度学習内容に対する理解の深まりや，スキルの向上について手ごたえを感じている様子が窺える。
その他の授業評価アンケートの結果も，概ねポジティブであった。

ただし，自由記述において，課題の量について「多すぎる」というコメントが複数みられた。
課題をこなすことに精一杯になっている様子は授業中も見受けられた。
1つ1つの課題に対して丁寧な取り組みを促せるように，次年度以降は課題の量や出し方，そしてFBの仕方などを再検討する必要があると考えられる。

人文学部 心理人間学科
川浦　佐知子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　質的研究法I
授業コード 23C49-001
教員名　川浦　佐知子
教員コード 055855
登録人数　35
回答数　30
回答率　85.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業到達目標は、１）質的研究の特徴及び理念の理解、２）質的研究の手法の理解、３）質的研究論文の特徴の理解、４）研究実施に関わる倫理的側面の理解であった。データ分析の実際を理解するため、サンプルデータを用いてGTAの実習を行い、データ収集の手法であるインタビューについては、ロールプレイ実習を行ない、データからボトムアップで仮説を立てる質的研究の特徴を理解する機会とした。質的研究の基盤となる「社会構成主義」が台頭してきた背景を理解できない学生が多く、心理学史を概説する時間を設け、理解度を測るため小テストを行なうことで何を理解できていないのか、その把握に努めた。

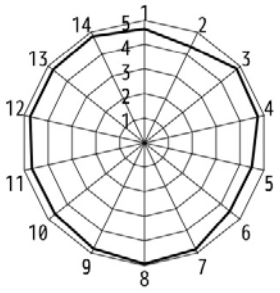
学生は毎週課題に取り組み、提出週の授業において他の学生とペアになって互いにフィードバックを交わした後、教員に課題を提出。教員は課題にコメントを付して翌週返却し、授業内でいくつかの提出課題をケースとして取り上げ、優れた点、改善点などを示した。

設問1の平均は4.47で数値として低いとは言えないものの、あまり興味を持たない／全く興味を持たないまま受講している学生が全体の１割程度いることに留意したい。ゼミ教員から卒論作成のためにこの授業を受講することを求められ、不本意ながら履修している学生もいると考えられる。設問5の平均4.50、設問6の平均4.40は、履修学生が到達目標を自分の中に落とし込めていないことを示しており、今後は学期冒頭だけでなく学期を通して到達目標に言及したい。学生からは、「一つ一つの課題に的確な評価がされ、各学生の進捗に目を向けて講義をしてくれた」、「小テストで自分の理解が甘いことがわかった。以降は、授業内で触れられた用語や概念を自分で調べるようになった」、「質的研究の基礎について適切に理解することができた。授業ではペアワークやグループワークが多く、やり取りする中で新しい気づきを得られることが多かった」などといったコメントが寄せられた。

人文学部 心理人間学科
中西　美和　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

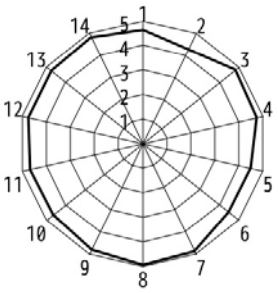
科目名　臨床心理学(臨床心理学概論)
授業コード 23C67-001
教員名　中西　美和
教員コード 104813
登録人数　120
回答数　64
回答率　53.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　62人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　64人

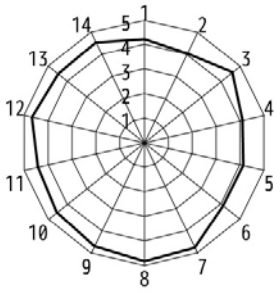
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
アンケート質問項目6（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）の評定平均値は4.48であり、概ね達成できたと考えます。しかし、シラバスに記載している「3. 臨床心理学的援助を行う上での基礎的な姿勢を身につけることができるようになる」については、授業中に十分に扱えていないため、授業内容の工夫、あるいはシラバスの記載を再考する余地があると考えます。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価について。
ほとんど全ての項目において、評定平均値が4.5以上であり、学生の状況とニーズに応じた授業が展開できたと考えています。しかし、アンケート回答者が受講者の半数であり、より多くの受講生に回答してもらえるような工夫が必要と考えます。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについて。
もう少し、時間に余裕を持った授業進行を目指したいと考えます。特に、小グループでの分かち合いの時間と全体での分かち合いの時間をもう少し丁寧に取りたいと思います。

人文学部 日本文化学科
平子　達也　先生

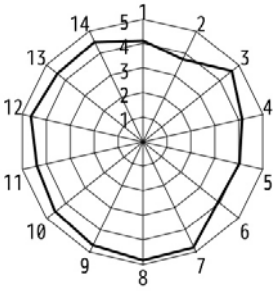
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語学概論
授業コード 24C04-001
教員名　平子　達也
教員コード 104112
登録人数　154
回答数　131
回答率　85.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　112人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　131人

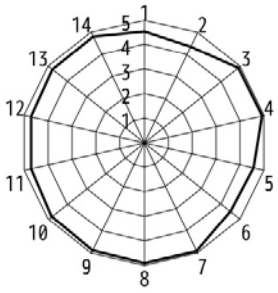
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開校当初の目標として「日本語に関する言語学的研究のための基本的な知識と基礎的な力を身に付けている」というものを掲げた。試験の出来具合から，概ねその目標は達成できたと考える。数値データからは概ね高い評価が得られたことがわかるが，「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」が3.70とかなり低かったのが気になる。予習用の問題や復習用の問題も作成し，WebClassに掲載したにもかかわらず，それらを事前に済ませて臨む学生の数は必ずしも多くはなく（むしろ少数で），また，復習問題に授業後すぐに取り組む学生も少なかったようである。１つの要因は，授業進度に遅れが出てしまい，予習・復習のタイミングが掴みにくかったことがあると思われる。それとともに，予習・復習に十分にモチベーションを与えることができなかったことも要因としてある。予習をさせておきながら，やや授業で詳しく説明をしてしまうところがあった。以上の点は，今後の改善点としたい。また，私が掲出した言語学の例文や私自身の態度に対しての不満もいくつか見られた。不快にさせないように配慮をしていたつもりであるが，まだ配慮が足りないのかもしれない。今後気をつけたい。

人文学部 日本文化学科
福本　拓　先生

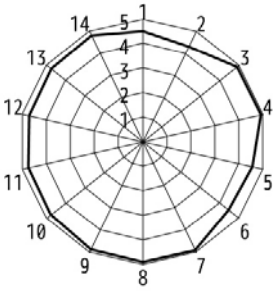
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本民俗文化論
授業コード 24C15-001
教員名　福本　拓
教員コード 104126
登録人数　86
回答数　50
回答率　58.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　49人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　50人

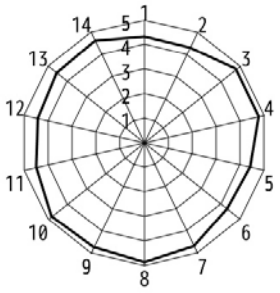
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は，
・民俗文化を捉えるための基礎概念について理解し，説明できる。
・民俗文化を動態的に把握し，その背景にある様々なコンテクストとの関係から論じることができる。
・民俗文化をめぐるマイノリティの問題について，表面的ではない意見を表明することができる。
・民俗文化を通じた「日本」の形成・創造を，身近な事例について見出すことができる。
の4点である。Q5での到達目標についての理解（4.58），および，Q6での到達目標に対しての自己評価（4.46）のいずれも平均を上回っており，到達目標に関連して水準以上の成果を挙げられたと判断しうる。ただし，試験結果を見る限り②については課題があり，より分かりやすい・ゆっくりとした説明が必要かもしれない。
その他の設問項目についても，いずれも平均を0.2～0.3ポイント上回っており，ほとんどの回答者からは満足したという結果が得られたことは好ましい。
とはいえ，今期は事前の準備が十分でなく，また内容を盛り込みすぎたことで受講生の理解が及ばなかった部分もあるように感じている。内容の精選と伝達の際の工夫（話す速度や資料の呈示方法など）について，より一層の改善に努めたい。
なお，自由回答にもあった，人類文化学科の専門科目への変更希望については，現時点では慎重に判断したい。

人文学部 日本文化学科
森田　貴之　先生

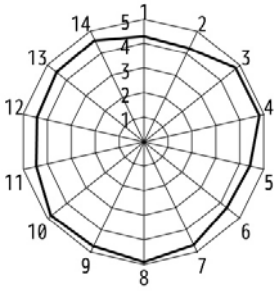
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文学史A
授業コード　24C29-001
教員名　森田　貴之
教員コード　102286
登録人数　76
回答数　58
回答率　76.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　56人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　58人

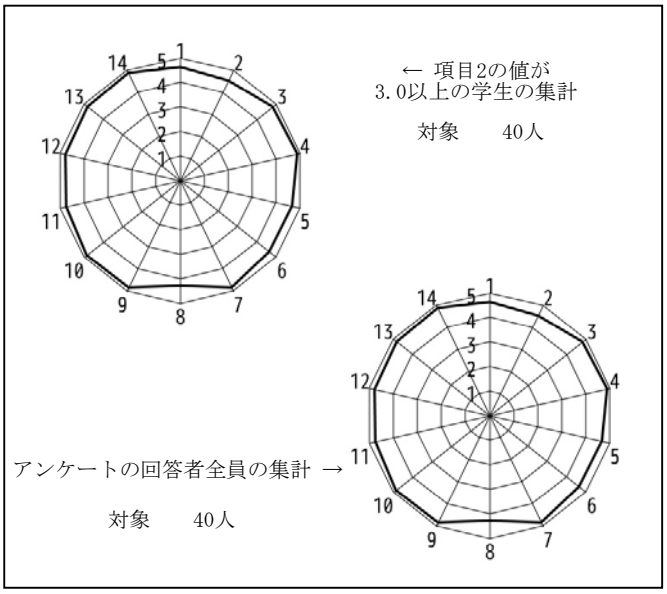
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が4.29であるのに対して、設問13の新しい知識や理解の深まりが4.52、設問14の満足度が4.57であり、当初の講義目標はおおむね達成されたものと考えている。比較的高い関心を持っている学生が受講していたと思われるが、その関心に応えられるよう、またより強い関心を持って講義を選択してもらえるようシラバス等を工夫するようにしたい。調査対象科目は、日本文化学科の学科科目のうちの一つであり、日本文学のうち古典文学の多くのジャンルにまたがる作品を扱い、多少専門性の高い知識も求められる内容であった。履修者に他学科生が少数だが含まれたため、日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり普遍的な文学史の方法につながるように、また、具体的な関心を高められるように努め、本文の解釈においても負担をかけないようにつとめたつもりである。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思い、その意図はある程度は伝わっていたと感じる。　具体的な希望としてリアクションペーパーの締切時間への希望やスライド資料の事後の扱いについて希望があったが、授業内での課題の在り方など検討したい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。なお、授業内で回答を呼びかけ、十分な時間をとったが、回答数が十分でなかった改善を期したい。

人文学部 日本文化学科
岸川　俊太郎　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　近現代文学研究
授業コード 24C35-001
教員名　岸川　俊太郎
教員コード 103907
登録人数　83
回答数　40
回答率　48.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2024年度Q2の開講科目「近現代文学研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5で4.68という評価を得たことからも確かめられる。

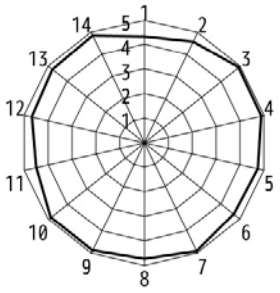
次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問1-14の平均値（全体）を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.80、4.88という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、他の項目より評価がやや低かったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。具体的には、予習に関しては適切な事前課題を課し、復習に関してはリアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックすることで、学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、授業で配布するレジュメについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。

人文学部 日本文化学科
西岡　淳　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　漢文学
授業コード 24C44-001
教員名　西岡　淳
教員コード 019315
登録人数　78
回答数　51
回答率　65.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

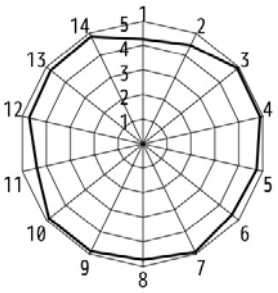


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　49人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　51人



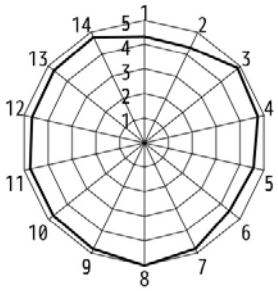
授業評価結果を踏まえた点検・評価

漢和辞典を引いて、返り点を施した漢詩を読めるようになることがこの授業の目標である。受講者は辞書を準備し、漢詩を印刷した教材の日本語訳（余裕があれば書き下し文も）を授業時間内に作成する。授業の後半に担当者が読解・解説し、各受講者が自分で添削した答案を毎回提出、これを担当者が閲覧し必要な部分に修正を加え、次回までに返却する形式である。全評価項目の平均値は4.72で、提出物の出来具合からも、受講生は授業を経て漢詩が着実に読めるようになっており、授業目標はほぼ達成されたと考えられる。項目の中では、1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」が最低で4.25であったが、自由記述の中に「声が聞き取りにくいので、何らかの形で改善した方がいいと思う」との意見が見られたことから、今後は注意したい。評価できる点としては、「解説が丁寧で分かりやすい」「漢文に自信の無い人でも、きちんと授業に向かう姿勢さえあれば評価してもらえること」「スライドをめくるのがゆっくりで、メモをしやすかった」「添削をして頂けることがとてもありがたい」等の記述があった。授業環境についての意見は特になかった。

人文学部 日本文化学科
上田　崇仁　先生

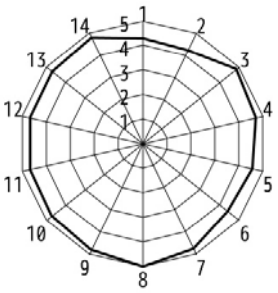
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語教授法
授業コード 24C58-001
教員名　上田　崇仁
教員コード 103619
登録人数　44
回答数　32
回答率　72.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　31人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　32人

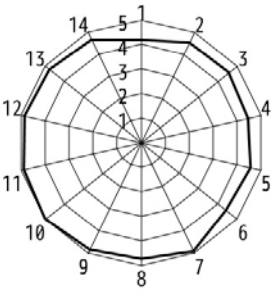
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　日本語教員資格が国家資格化することに伴い、文科省や文化庁から様々な資料がこのクォーターの期間に提示された。それらを授業内容に反映することができなかったのが悔やまれる。事前に示したシラバスに沿って最低限の変更は行ったが、そもそもシラバスと大きく変更することは想定外だと認識しており、また、担当教員である私自身の勉強不足や理解不足の中で扱うことを避けるべきと判断したため、開講当初に設定していた目標と到達の程度には特に問題はないと思いつつも、その点が若干不本意であった。
②　日本語教授法は、日本語教員養成プログラムの中では必修科目であることから、設問1と設問2の回答は意外であった。ただ、設問2については、成績に反映させない（シラバスに書いていないこともあり）課題を課したが、回答率は非常に低かったので、来年度以降、成績に反映させる課題として対応したいと考えている。
③　自由記述では、スライドで示した資料の共有を希望するものがあった。過去に資料の共有をしたこともあったが、資料があることに安心して授業に集中できない学生がいたという認識があったため、他にコメントされていた、書き写す時間を十分にとること、スライドの量を減らすことで対応したいと考える。上述したが、国家資格化に伴い、扱うべき内容が増えた印象がある。14回の授業で対応するのは難しいという認識もあり、来年度、シラバスをさらに検討していきたいと考えている。

人文学部 日本文化学科
岩崎　典子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

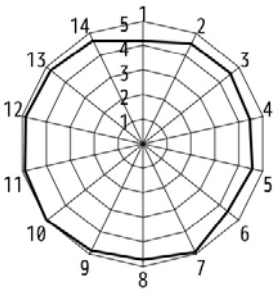
科目名　日本語の口頭能力研究
授業コード 24C68-001
教員名　岩崎　典子
教員コード 103983
登録人数　27
回答数　23
回答率　85.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　23人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　23人

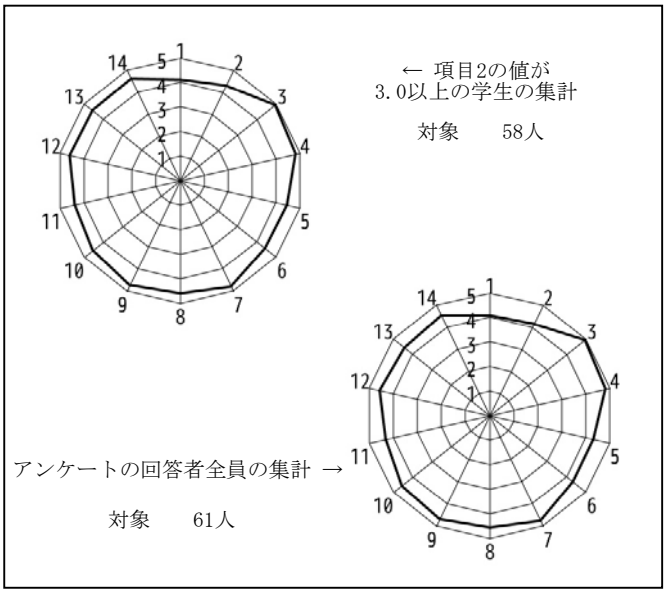
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、授業内容、教科書など大幅に変更したためこともあり、授業1週間目にレポート課題などについて明確に提示できていなかったことが、自由記述に1名が述べていたレポートのテーマ設定の難しさや、項目別平均点で最も低い到達度（4.43）に関係していると思われます。今回、国立国語研究所のI-JASコーパスを各学生が使用してデータ分析をするという新たな試みを含み、学生の反応などが事前に予想できませんでした。予想以上に大部分の学生の反応はよかったです。このコーパスを利用して博士論文を執筆中の大学院生も傍聴参加してくれて情報提供をしてくれたことが役立ったためかもしれません。次回この科目を開講する際は、1週間目に7週間の予定、到達目標と予定を今回以上に明確に伝える必要があるかと思います。また、もし今回の履修生で次回の開講時に自分のレポートを例として示すことを許諾してくれる学生がいれば、例として複数示すことが有効ではないかと考えています。

人文学部 人類文化学科
加藤　英明　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代の文化人類学
授業コード 22C10-002
教員名　加藤　英明
教員コード 151456
登録人数　155
回答数　61
回答率　39.4%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業では文化人類学の観点から現代の技術やモノについて理解することを目標に講義をおこなった。文化人類学の理論と具体的な民族誌的事例および映像資料を用いて授業を構成したが、数値データや自由記述欄をみるかぎり、おおむね到達目標については達成できたと判断する。

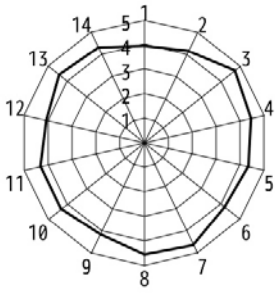
②自由回答のコメントとして、資料のわかりやすさや課題に対する丁寧なフィードバックなど、前年度同様に内容や構成面において好意的な評価が主だった。一方、改善点として、出席確認の工夫をしてほしいとの要望があった。授業開始時に出席コードを学生に提示し確認をとっていたが、lineで欠席者にコードを送る学生やコード提示後すぐに帰宅する学生がいたようで、手間がかかるが物理的なペーパーでひとつひとつ確認する必要があると感じた。また数値データで、予習・復習や主体的参加（問２）が若干低くなっている点も気になった。リアペによる課題を授業外に課していたが、課題のバリエーションを増やす工夫も考えねばならない、とも感じた。

③ともあれ、当授業科目は今年度が最後となる。若干の課題を残したままとなったが、担当者としてはとても充実し楽しく終えることができ安堵している。

人文学部 人類文化学科
木村　有作　先生

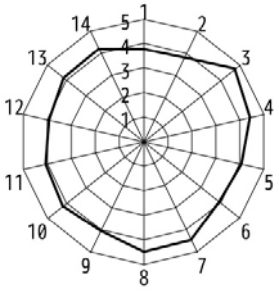
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代の考古学
授業コード 22C12-001
教員名　木村　有作
教員コード 104607
登録人数　84
回答数　42
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　36人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　42人

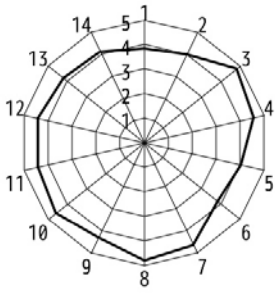
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①考古学という方法を通じて、名古屋という一つの地方の歴史や風土について考えるという目標については、8割から9割くらいまで達成できたのではないかと思う。ただ、どこまで理解してもらえたかという反応については、こちら側から機会をしっかり作りえなかったことを反省している。
②自分が学んだ知識や経験から作成し用意した資料が、学生から一定の理解を得ているように感じる。しかし、自由記述にあったように、自分が最も学生に伝えたいことをまとめるスライド等を用意する必要があったことを反省する。また、最も多くの意見があったように、講義直前の準備不足等により、せっかくの資料を提示できなかったり、後追いになったことが多く、貴重な学生の時間を多少なりとも奪ってしまったことを反省する。
自己採点的には、及第点にはかろうじて達するものの、まだ改善すべき課題があり、改善は可能と考えている。
③自由記述に、映像を活用してはどうかという提案があった。今回取り入れようという試みはしたものの、準備不足のため実現できなかったことが残念に思っている。自分のデジタル方面での力不足が原因であり、できれば少しでも改善していきたいと感じている。　以上

人文学部 人類文化学科
伊藤　正人　先生

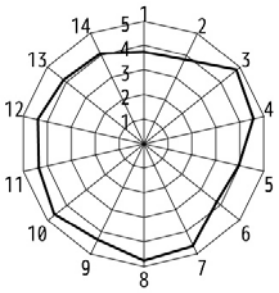
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　東アジア考古学C
授業コード 22C40-001
教員名　伊藤　正人
教員コード 104262
登録人数　79
回答数　39
回答率　49.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　36人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　39人

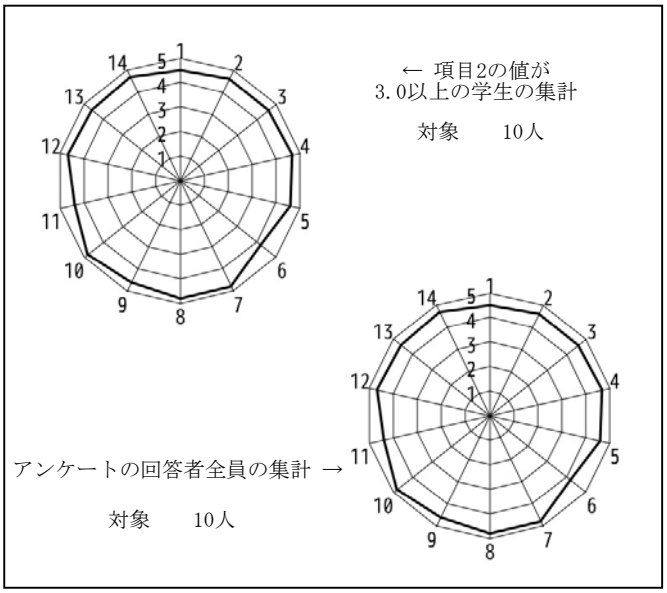
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①縄文時代・縄文文化に関する基礎的な知識を確認し、関連する諸科学の情報も合わせて、その内容を現在の社会・生活と対比することで各自が興味を深めて欲しいと考えている。人類文化学科の学生が多いが、考古学の専攻生は限られると思われ、他学部・学科生も15%程度いることから、考古学の基礎的・一般的情報も混えるよう努めた。表題（縄文土器・土偶論）が掲げる専門的情報とのバランスの取り方に難しい面はあるが、一律な達成度・具体的目標を設定してはいないので、各自の問題意識のあり方を最終課題の記述意識・内容によって評価した。
②アンケートの回答者が受講者の半数程度であるが、未入力者は批判的意見を抱く傾向が強いと推定する。設問1・2の直接的向上は難しいが、設問5・6・13・14の向上は期待したいので、考古学の基礎知識を持たない受講生に配慮しつつ、専攻生の意欲に応える方向を考えたい。機器の不調は、配備パソコンの性能に由来すると思われるが、不調を前提の進行を準備する必要がある。
③講義資料の閲覧はデジタル機器が主流となった状況を踏まえて、各回の内容において成果を実感し理解できるようしたい。考古学の基礎知識を踏まえての理解が必要となる部分については、受講者総体の知識や理解力の把握に努めて補足説明などを行い、学問的成果への接近と実生活との関わりをわかりやすく盛り込むことで、各自に受講の意義を伝えたい。

人文学部 人類文化学科
青山　幹哉　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文献資料講読(日本)A
授業コード 22C56-001
教員名　青山　幹哉
教員コード 019323
登録人数　11
回答数　10
回答率　90.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



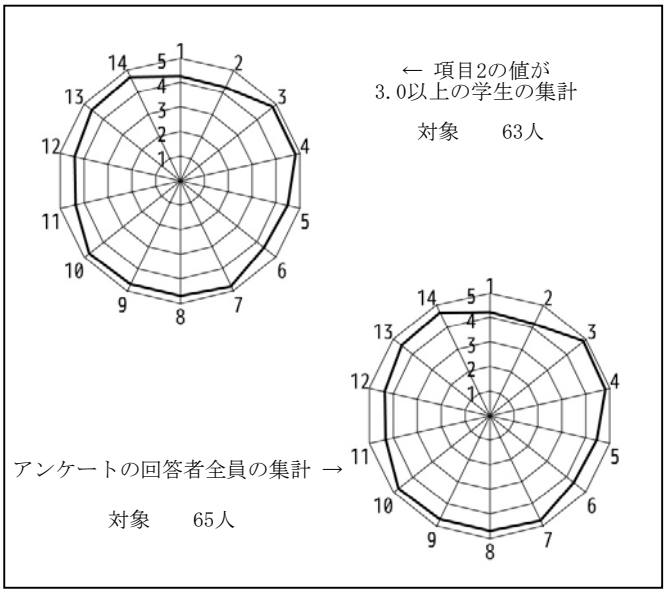
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①設定した到達目標は、(1) 古記録（日記）の史料解読に関する基本的知識が習得できる　(2)平安貴族社会の歴史的特性について理解を深めることができる、の2点であった。期末試験受験者の平均得点は76.7 点（100点満点）であったので、目標はおおむね達成できたものと思う。また、設問14の平均値が4.70であったので、受講生としてもほぼ満足したものと判断する。
②この科目は人類文化学科科目であるので、同学科科目の項目平均値と比較すると、設問3が0.23、設問4が0.01、設問9が0.02、本科目の平均値が低かった（他の11項目は学科平均値を上回った）。設問3は授業の開始・終了時間についてである。1～2回、PC・ディスプレイの設定がうまくいかず授業開始が遅れたからであろうか。自由記述欄では「高校までの古典の授業では学べないような、平安時代の時代背景に関する知識が身についたこと」「予習の範囲も無理はなく、分からなかったところは授業中に補っていただけるため、不安なく学習できた」等、好評価の感想が多かった。また、今年の大河ドラマ「光る君へ」と授業内容の時代が重複するため、ドラマのあのシーンはこの史料が元になっている等、関連付けて解説したところ、やはり「ひかる君の原文を題材にして」云々との記述も見え、受講生がより興味をもつ契機にできたように思う。
③WebClassに「質問コーナー」を設けて、受講生からの質問を受け付けたが、今期は何の質問もなかった。受講生からの自発的な関心を十分に喚起できなかったようである。授業中での説明が丁寧すぎたのかもしれない。さじ加減が難しいところである。

人文学部 人類文化学科
菅沼　文乃　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義（アジア・日本の人類学）
授業コード	22C76-002
教員名	菅沼　文乃
教員コード	150333
登録人数	120
回答数	65
回答率	54.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた到達目標は、(1)沖縄の文化・歴史的様相とその特徴、(2)現在の沖縄社会が直面する諸問題に人類学が果たす役割、について受講生の関心を深めさせることであった。このために、講義内容を要点をふまえ振り返る時間を都度設けること、講義で使用したスライド資料の配布、（2）についてとくに人類文化学科以外の学生にむけて文化人類学に関する知識の解説を多く盛り込むこと、により学生の理解を促しある程度達成することができた。

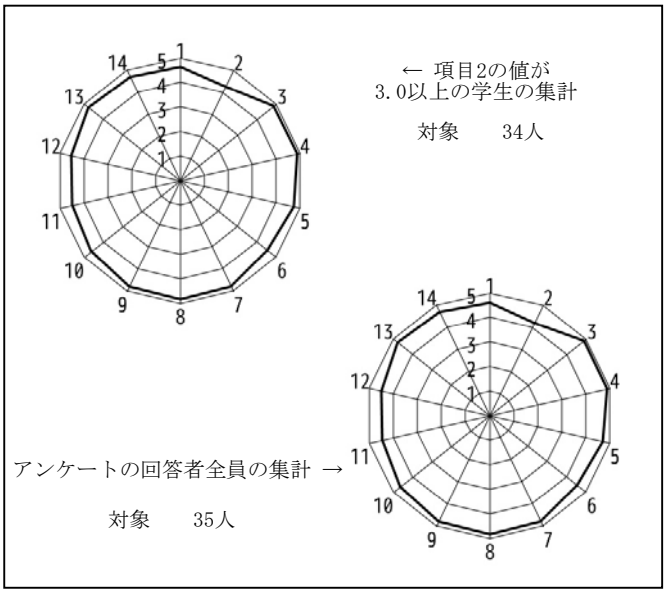
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
学生の関心を高めるテーマ・資料提示、情報提供、課題設定について、引き続き改善の余地がある（アンケート設問項目(5)(6)）。また、講義への自主的な取り組み及ぼそれを支える環境について不十分であったことが感じられる(アンケート設問項目（11）（12）など)。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
講義での質問内容、リアクションペーパーの反応等をふまえて、学生が関心を持つテーマ・話題を積極的に取り入れ、講義への興味心を高める。また講義時間やWebclass等を有効に用いて、学生が教員に気軽に質問することができる環境づくりを心がける。以上を通して、それぞれの関心・目的に応じて積極的に参加できるような講義の組み立てをめざす。

人文学部 心理人間学科
谷口　まち子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　障害者・障害児心理学
授業コード 23C70-001
教員名　谷口　まち子
教員コード 104476
登録人数　62
回答数　35
回答率　56.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



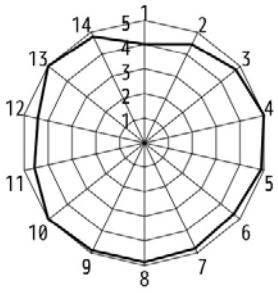
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①昨年度の授業評価の結果から、到達目標の明確化が課題であると考えていたため、本年度は授業の内容と到達目標とのつながりについて授業内で繰り返し伝えるようにした。そのため、5，6共に昨年度よりポイントが上昇し、学部の平均以上となっている。14も高く、概ね満足できる結果であったと考える。②1から14、3～14が、全体、学部の平均よりやや上であることから、本授業は2年目であることを考えると、比較的満足いく結果であったように思う。ただし、学部、全体と比べて12が低く、実際に昨年度より質問や相談の件数がかなり少なかった。非常勤講師であり、大学にいる時間が少ないため、相談・質問の機会がとり辛いこと、質問や相談が少なかったため、理解しているのだろうと捉え、あまり声かけをしなかったことも影響していたのではないかと考えた。来年度は、質問や相談の仕方について、最初の授業で伝えるだけでなく、複数回アナウンスしたいと思う。また、休み時間に相談・質問がしやすい雰囲気づくりも行いたいと考える。③本年度は回答者が63名中35名でこれまでの授業で一番少なかった点は問題であると感じた。本年度は該当のクラスがQ2の授業の最終日にあたり、最終レポートについては第12回で発表してしまったためか、最終日の出席率が低かったことが原因として考えられる。来年度も同じスケジュールで実施したいと考えているため、最終レポートの内容について発表した後も、出席をうながす工夫をしたいと思う。教室のマイクがピンマイクのみで、使い慣れていないせいか、雑音が入ってしまい、自由記述でも指摘があった。来年度以降は手でもつタイプのマイクがある部屋を希望したいと思う。

人文学部 心理人間学科
相馬　信子　先生

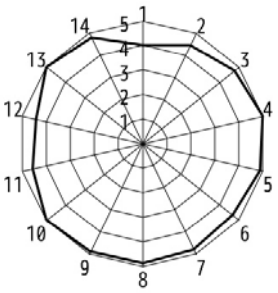
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　公認心理師関係行政論(関係行政論)
授業コード 23C80-001
教員名　相馬　信子
教員コード 104432
登録人数　9
回答数　9
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　9人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　9人

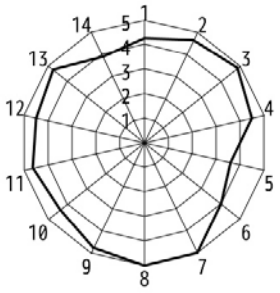
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　資格試験における関係行政論分野についての幅広い知識が要求されるところ、基本的な考え方はある程度身についたと考えている。法律上定められた具体的な年数や行為主体、対象など、細かな点についての知識の定着は目標に至らなかった。自分の持つ知識をアウトプットにつなげる方法についても習熟に不足があったと考えている。
②　行政論という抽象的な分野を具体的に理解できるよう、なるべく具体例を用いて説明をするようにしたが、その点について学生からも理解を得られており、手応えを感じている。学生の意欲が高く、理解度も高かったため、内容の精度を上げていくことを目指したい。
③　カリキュラムの内容上、講義形式とならざるを得ないが、２時限連続での授業に飽きがこないよう、アウトプットという課題も踏まえ、講義内容に更なる改善が必要と考える。他分野での類似の制度との比較など、学生自身の復習、検討の時間を講義内に取り入れたい。

人文学部 日本文化学科
土谷　薫　先生

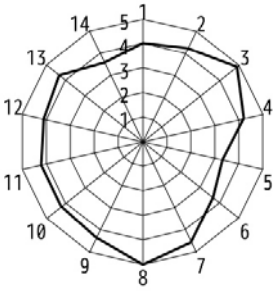
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　からだとことばII
授業コード 24C07-001
教員名　土谷　薫
教員コード 064352
登録人数　25
回答数　9
回答率　36.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　8人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　9人

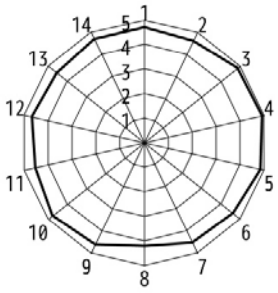
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①コロナの影響もあってか、ここ最近の学生の行動では特に受け身であることが気になっていた。自ら行動を起こし他者と関わることが授業の主眼となっているため、そこに目標を置き取り組んだ。前半では、お互いに様子を伺いなかなか行動に移せなかったが、徐々に信頼関係もでき、思い切って行動を起こすことができるようになったと思われる。最後の舞台では、それぞれが自分の枠を超えすばらしい表現の場となった。
②学生自身が具体的な目標を持って授業に取り組むというところは、弱いと思われる。実際に演劇の手法を使い『ことば』について考えてみる。というものであるため目標に関しては具体性に乏しい。しかし、学生の最終レポートを見る限りでは、各々が得たものは大きかったと感じることができた。
③授業の中での学生一人一人の「からだ」と「ことば」と丁寧に関わっていく。真摯に向き合っていく。
　具体的には授業中の発言（ことば）を丁寧に聞き取ること、毎時間後のふりかえりの記入を読み込み、授業に反映させていくことに今後も取り組んでいきたい。

人文学部 日本文化学科
北田　雄一　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

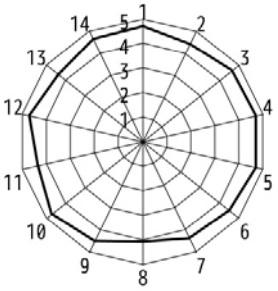
科目名　文章表現法2
授業コード 24C08-002
教員名　北田　雄一
教員コード 104314
登録人数　43
回答数　14
回答率　32.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　13人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　14人

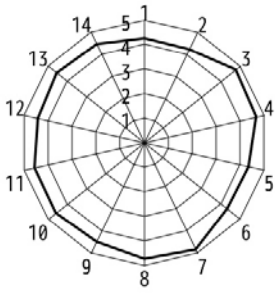
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、提出された課題を踏まえると十分達成されたと考える。本講義は様々なトピックに関して文章を書く時に必要な様式を踏まえた上で自分の意見を1000字程度で執筆するという課題を中心に構成されているが、数値データ、自由記述の等を考慮に入れても大きく変更する必要はないだろうと考えた。ただ、本講義を担当する側からすれば、受講生の興味・関心がどこにあるかは把握しておきたい。なぜならそれが適切な課題の設定につながるからである。その一方で、受講生があまり関心を持っていないが社会的に重要な事柄もあるので、そのような事柄についても様式を踏まえた上で自分の意見を述べることが出来るようになることが望ましい。この点に関しては講義担当者が重要だと考えた事柄について書くことを課題として課すことになるので、担当者も常に広い視野を持ち、適切な課題を作成することを心がけなければならない。改善点としては「例文の提示」を積極的に行い、口頭や講義資料からは伝わりにくい情報を伝達するという方法を用いることを検討している。講義や講義資料だけでは文章を執筆する時に戸惑ってしまう受講生も少なからずいるので、「例文の提示」によって課題を鮮明にするという方法によって改善につなげたい。

人文学部 日本文化学科
四辻　秀紀　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

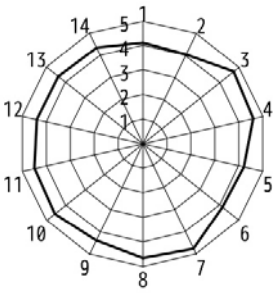
科目名　日本美術史
授業コード 24C27-001
教員名　四辻　秀紀
教員コード 100351
登録人数　97
回答数　44
回答率　45.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　40人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　44人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

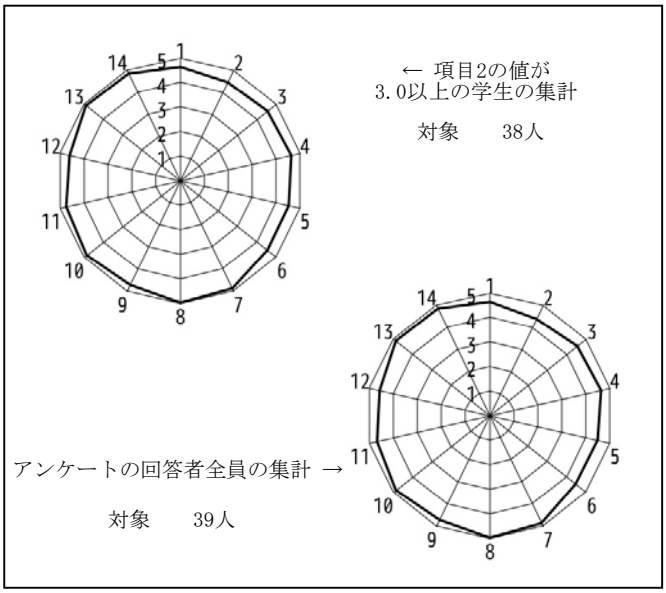
開講当初に設定していた目標と到達の程度いついては、概ね達成できたと考える。徳川美術館への学外授業については、本年度は上南線の期間に重ならないようにしたため、ほとんどの学生が参加できた。また実際に様々な作品に接することにより、より関心を深め興味を持った受講生が多くいた。南山大学は徳川美術館のメンバーズシップに入っているため、今後とも最大限に利用してほしい。

項目16については、各回配信している資料が「その回が終わると資料がすべて消えてしまう」とする受講生がいたが、おおよそ「風流と過差」「婆娑羅」「傾く」の区切りごとに入れ替えていたので、毎回除去してはいない。また「前に投影する資料はすべてオンライン講義資料として載せてほしい」との要望であるが、授業初回に伝えておいたが、使用している画像は他に流出・転用されると法律的に問題があるため、受講生に配布できない状況である。興味がある作品については図書館などで図版や図録で確認する努力をしてほしい。また出席カードの配布については、今後の検討課題としたい。ただし時間通りに出席している学生と遅刻者については、出席カードに区別できるようにしている。

人文学部 日本文化学科
酒井　敏　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　女性と近現代文学
授業コード 24C38-001
教員名　酒井　敏
教員コード 101869
登録人数　58
回答数　39
回答率　67.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



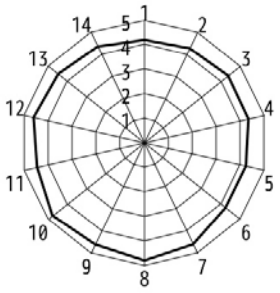
授業評価結果を踏まえた点検・評価

進度には多少ずれがあったが、シラバスに予告した内容は全て扱うことができた。定期試験の答案を見る限り、多くの学生が到達目標を達成したと考えられる。ほとんどの受講生が積極的に授業に取り組んでくれているのが伝わってきて、講義していて張り合いがあった（熱がこもり過ぎて、数分延長してしまうことがあり、授業評価設問３の低い評価や自由記述欄での指摘に繋がったようだ）。お互いがよい刺激を与え合うような授業運営ができ、その結果、良好な評価結果が得られたと思う。特に設問７、13、14で高い評価を得られたのは嬉しい。自由記述でも「面白かった」「知的好奇心が満たされた」などの好意的な記述や、「授業で紹介されたいろいろな作品を読んでみたくなった」「過去の事実をどのように受け止めこれからの人生に活かしていけば良いのか深く理解できた」など受講生の更なる成長を期待させる記述があり、今後もこのような評価を得られるよう努力したいと改めて感じた。一方、改善点として「レジュメやスライドを用意して欲しい」との指摘が複数あった。「理解がより深まり事前事後学習にも役立つ」のは指摘の通りと思う反面、受講生の反応を見ながら臨機応変に内容を調整しているので、事前に内容を固めてしまうのをためらう思いもある。いずれにせよ、評価された点はより向上させ、改善を求められた点は工夫して、よりよい授業を目指す努力を続けたいと思う。

人文学部 日本文化学科
宮内　佐夜香　先生

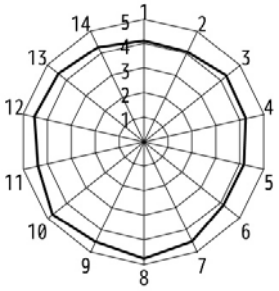
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語史I
授業コード　24C47-001
教員名　宮内　佐夜香
教員コード　104443
登録人数　93
回答数　53
回答率　57.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　49人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　53人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業到達目標としていた文法史、語彙史の重要事項の理解や日本語史資料の特徴についての習得については、小テストやレポートの結果から、おおむね理解してもらえたものと考えるが、授業目標の理解度の数値は低い。より分かりやすく授業目標を把握してもらえるよう説明を工夫したい。

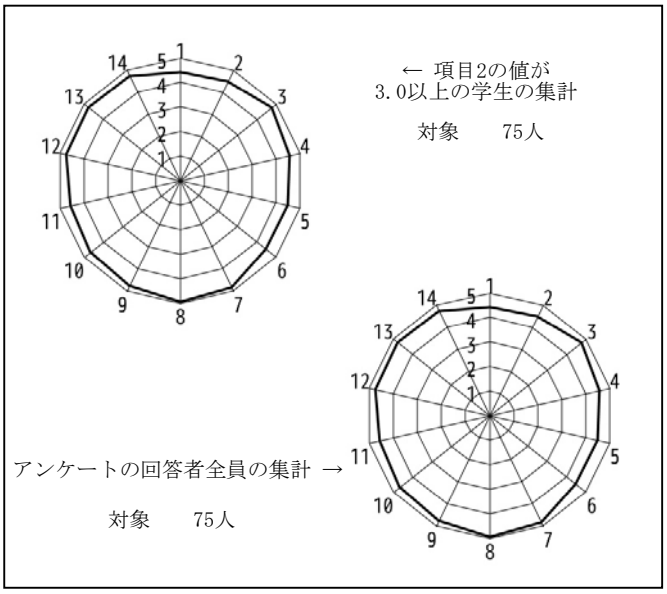
質問の機会を設けてフォローの時間を割いた点は好意的に受け止める意見もあったが、それにより授業計画に揺れが出る点については改善点であるという意見もある。授業計画の揺れについては2時限連続開講から、週2回開講にしたことで、本年度計画を一新したことも影響している。本年度の運営の中で気が付いた改善点を整理して活かしたい。レジュメへの書き込み量とスライドスピードの適切さについても賛否の意見がある。学習効果を損なわないことを前提に、バランスをより良くしたい。

昨年の開講時、出席登録時の不正などに問題行為が多数見られたため、本年度は出欠確認のための一問一答課題を出すという方策を施したが、初めて使用するシステムの把握が至らず、出題に不備が生じた点は反省点である。また、この方策は多くのごく真面目に受講している学生にとっては余分であることは重々承知しているため、継続するかどうか自体が要検討である。また、今回初めて時間割を週2回の開講にしたが、本務校との移動時間の兼ね合いなど、想定の甘い点があり、そのことで開始前準備に支障が出た点も今後改善したい。

人文学部 日本文化学科
有薗　智美　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語分析B
授業コード　24C51-001
教員名　有薗　智美
教員コード　104603
登録人数　96
回答数　75
回答率　78.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



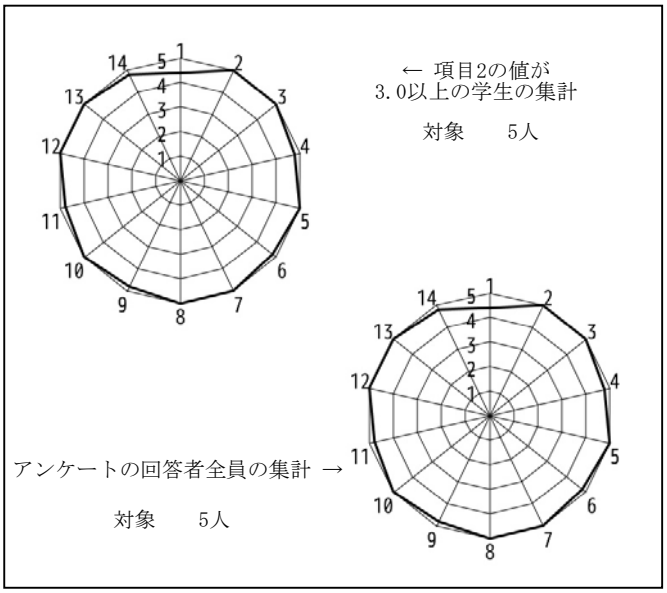
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、「異なる言語間の普遍性と相対性に関心を持っている」、「授業を通して得た知識に基づき日本語と英語の言語現象を考察できる」、「日本語を客観的に観察し、英語と比較してそれらの背後にある話者の捉え方の特徴を説明できる」の三点である。本講義ではこれらの目標到達のために、毎時、テーマに関する講義の後に、学習内容に基づき分析を行うタスクを受講生に課し、その翌週に良い回答と不備がある回答を取り上げフィードバックを行い、受講生が分析のプロセスを振り返り次に生かせるよう授業を進めた。またこれとは別に、コメントにて出された質問も全体にシェアして回答することで、受講生の理解を深め知識の定着を図った。これらが効果的であったことは、「9.学生の理解度への配慮・資料の効果的提示」の4.75（昨年度4.69）、「12. 質問や相談の機会・事前事後指導」の4.75（昨年度4.71）に現れている。また、アンケートの自由記述ではこの授業構成やフィードバックに関するプラス評価が多くみられた。また、項目全体の平均は4.66（昨年度4.58）、項目3－14の平均は4.70（昨年度4.64）であり、おおむね良好であった。
一方上述の到達目標に関しては、「5. 到達目標の理解」が4.51（昨年度4.38）、「6. 到達目標に対する自己評価」が4.48（昨年度4.34）と、他の項目に比べて相対的にポイントが低かったものの、「13. 新しい知識の獲得・理解の深化」は4.77（昨年度4.69）であったため、実際には(6)の目標に対する自己評価よりも、到達の程度は高いと思われる。この点に関しては、到達目標への意識が薄かったと思われるため、引き続き、授業初回に目標を明示的に説明するなどして、意識を高めたい。また、12項目中最もポイントが低かったのは上述の「6. 到達目標に対する自己評価」に並び、「2. 予習・復習」に関する項目が4.48（昨年度4.18）であった。これについては今後も、授業で得た知識を発展的に応用する例などを示すことによって、自学自習を促してく。

人文学部 日本文化学科
宮本　真有　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語能力評価法
授業コード 24C70-001
教員名　宮本　真有
教員コード 104991
登録人数　18
回答数　5
回答率　27.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当時に設定していた目標と到達度について
　４つの到達目標を設定していたが、授業評価の結果から（平均5.0）学生たちはそれら全てにおいて達成できたと感じていることがわかる。

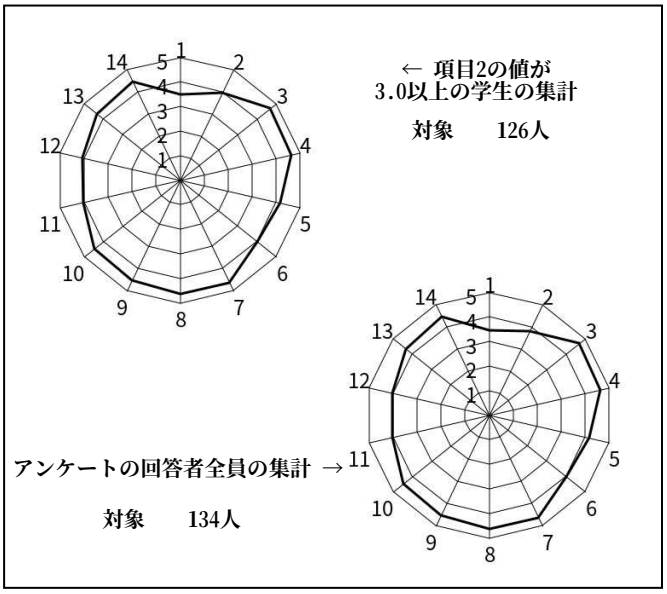
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　全体的に5.0の評価が多く、学生たちに満足してもらえる授業展開をできたと感じている。また、授業内容や難易度に関してもほぼ予定通り進めることができた。特に、前半は理論的歴史的な背景の紹介、後半は実践練習を多く取り入れたことにより、学生たちにテスト作りの難しさを体験してもらえたこと、そして作成時の留意点なども自身で考えることができたため、効果的な授業になったと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　目標の４つ目「テスト結果の統計的処理方法を理解し、そこから得られた情報を解釈することができるようになる。」に関しては、授業時間を十分に確保することができず、さらっと概要を紹介する程度に留まってしまった。次回からは授業ペースを見直し、しっかり実践練習をする時間を確保したい。

人文学部 キリスト教学科
VARGHESE, Rejimon　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[B]2
授業コード	10A01-010
教員名	VARGHESE, Rejimon
教員コード	100555
登録人数	160
回答数	134
回答率	83.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

宗教論［B］２は南山大学経営学部を履修対象学科として行った授業でした。受講生数は１６０名でした。授業の内容は「ユダヤ教、キリスト教、イスラームから世界史をみる」でした。１４回の講義授業で、毎回それぞれのテーマにしたがって講義を行いました。毎回出欠をとっていたので、受講生の参加率は高かったです。

① この授業の目標は宗教学は何であるかを知り、何故宗教が必要かを理解し、啓示宗教の社会的意味や人間界や世界観などを知り、宗教に対して開かれた心を持つことでした。受講生の授業評価によると、この目標に到達しています。

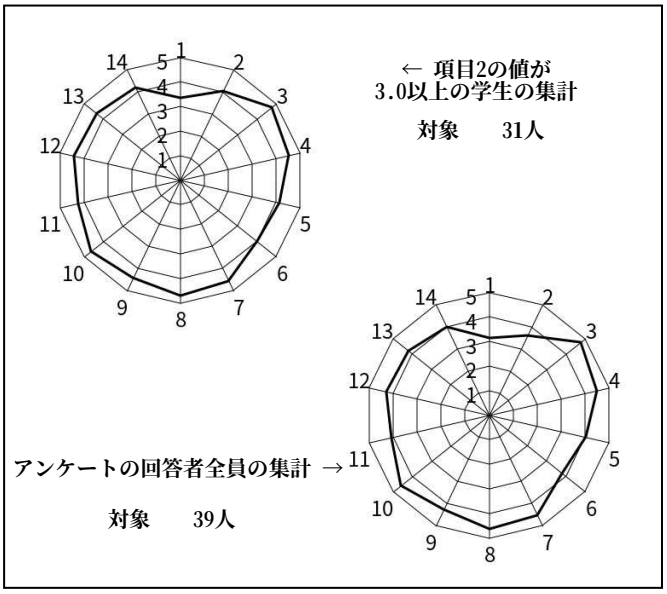
② 私に関係する授業評価項目３から１４までの平均は４・３９です。授業内容について受講生が満足していると表す数字です。彼らの自由記述によると、講義録を配布したこと、パワーポイントを使ったこと、大きな教室だったので皆に聞こえるように講義したことは良かったと評価されています。

③ 次回も同じ仕方でこの授業を行っていきたいと思います。それに、今回受講生があげた改善すべき点（主に授業環境である教室内温度調整）を取り入れたいとも思います。

人文学部 キリスト教学科
RAJCANI, Jakub　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[T]1
授業コード　10A01-015
教員名　RAJCANI, Jakub
教員コード　103281
登録人数　113
回答数　39
回答率　34.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業も、目標が達成できたと思います。と言うのも、学生はシラバスを読まなかったり、最初の授業で説明しても目標を知らないと言ったりしますが、目標は設定されています。入門の授業ですから、軽く宗教に触れて、宗教について豆知識を持つという簡単な目標に他なりません。目標と聞くと、何かもっと複雑なのを想像している学生がいるかもしれません。

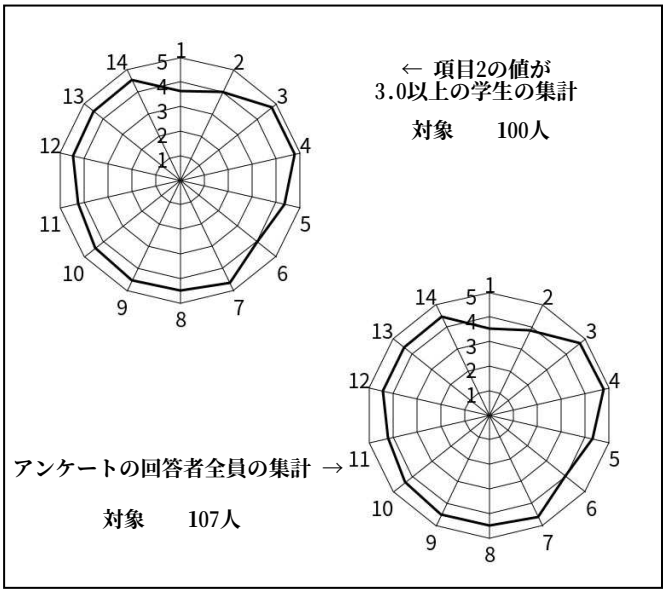
数値データがどこまで参考になるか、特に必修科目の場合には、疑問です。学習意欲が引き出されたとか、言わないに決まっています。復習や予習の時間が組み込まれているのに、それをしないにもかかわらず、学習目標に向けて力付けられなかったとか、どうして言えるでしょうか。私は特に時間厳守、声の大きさとメリハリなどに留意しています。しかし、出席をしているふりをして、ウェブクラスの出席確認を偽っている学生が毎回複数いて、どうすれば良いかわかりません。一生懸命参加している学生には公平でありたいのですが、警察官のようにずっと出欠だけ確認していれば、他に何もしないで授業時間が終わってしまいます。

次年度に向けて、引き続き画面に映す資料のアップデートとブラッシュアップに力を注ぐほか、全くと言って良いほど学生にない話を聞いてノートを取る能力にこだわりたいと思います。穴埋めの配布資料まで作る先生もいるけれども、小中高ではあるまいし、やはり自分で聞き取って書き留める訓練は社会人になるためにも必要であると思います。そして、業務の多量のためあまり読む時間がないけれども、せっかく書いてもらっている振り返りにもっと目を通したいとも願っています。

人文学部 キリスト教学科
KISALA, Robert　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[T]2
授業コード　10A01-016
教員名　KISALA, Robert
教員コード　018275
登録人数　146
回答数　107
回答率　73.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

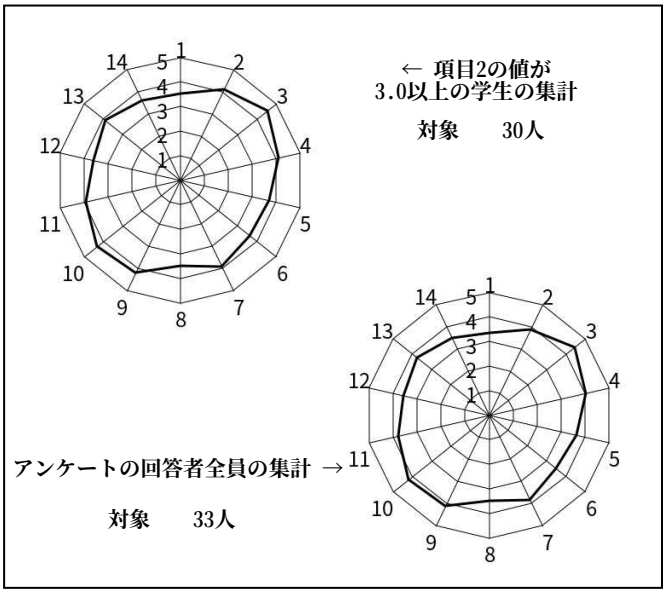
本講義の到達目標として「宗教についての理解を深めている」と「現代社会における宗教の位置・役割を考察することができるようになっている」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号５：平均値４．３２；設問番号６：平均値３．９７）から、学生らは到達目標をある程度理解して授業に取り組んでいたとは言えるであろうが、更なる改善に努め続く。一方、自由記述式設問の回答結果からは特にパーワーポイントと映像資料の使用、参考文献の紹介、または小人数グループディスカッションが積極的に評価されていると言える。また、説明及び資料が分かりやすかったことが指摘されている。

本講義の改善点として、学生が講義の到達目標を意識させるためにさらなる工夫を考えっている。学生が到達目標を授業の内容と繋げられるような説明も取り入れながら毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認し、今回の講義の到達目標を明確にすることを続ける。

人文学部 キリスト教学科
KUCICKI, Janusz　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教概論[H・F]2
授業コード 10A51-003
教員名　KUCICKI, Janusz
教員コード 101877
登録人数 133
回答数　33
回答率　24.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義のプログラム目標は達成されました。学生はマルコによる福音書に親しむとともに、外国人と日本人の両方の有名なキリスト教徒のプロフィールを知ることができました。学生は映画「ナザレのイエス」を鑑賞し、マルコによる福音書のメッセージを理解するのに役立ちました。

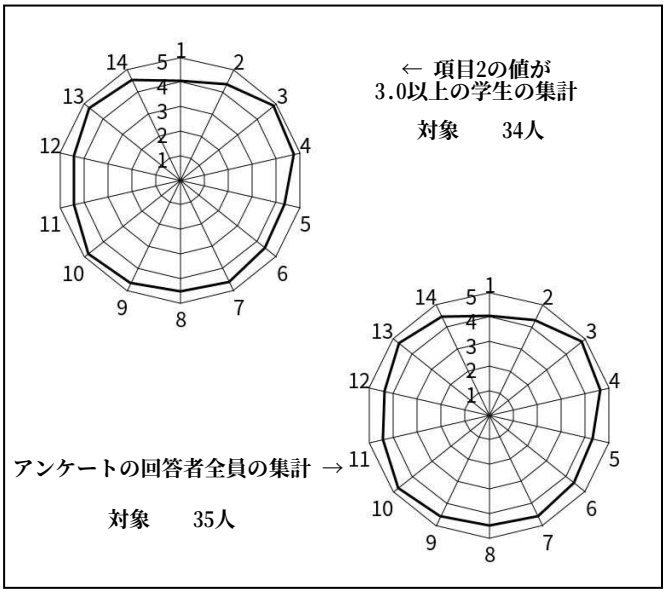
一部の学生は、非難されるべき行動をとりました（遅刻、許可なく教室を出入りする、講義が終わる前に退席する、ヘッドフォンで音楽を聴く、講義への無関心を露骨に示す、自分のプライベートなことをする、その他の問題）。
私に対する敬意の欠如。

教授が講義に集中できるように、講義中に秩序を保つアシスタントが必要です。

人文学部 キリスト教学科
岡嵜　隆哲　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想史に学ぶ人間の尊厳4
授業コード	10D03-004
教員名	岡嵜　隆哲
教員コード	103614
登録人数	98
回答数	35
回答率	35.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



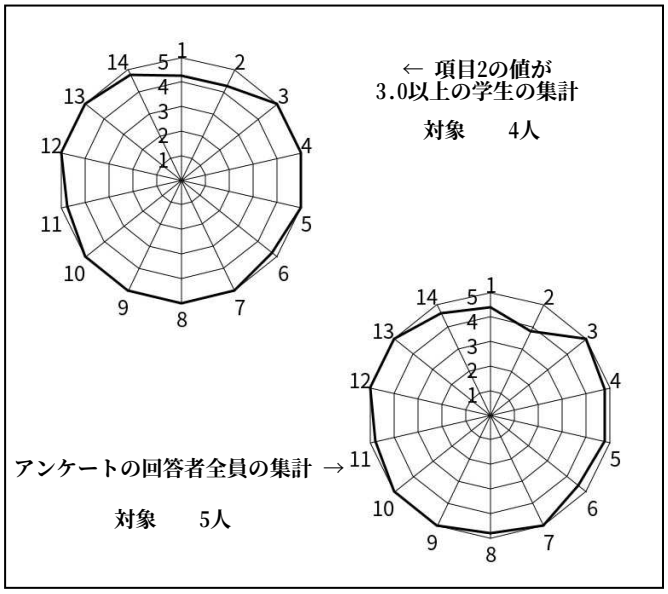
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初の目標としていた、現代社会、とりわけ若い世代に特有の「生きづらさ」の問題を認識し、その原因をできるだけ客観的、歴史的に理解するという課題について、前半から中盤にかけてテキストとした國分功一郎著『暇と退屈の倫理学』をとおし、哲学や人類学、経済学、生物学といった種々の観点からの考察を紹介するとともに、後半ではキルケゴール、V．E．フランクルのような実存思想家の考え方をとおし、人間の絶望の問題や生きる意味の問題、死の問題といった現実問題にたいし、どのような受けとめ方、およびどのような対処法が考えられるかについて一定の理解を得てもらえたと考える。今学期はスマホ、SNS時代の問題性という現代社会特有の生きづらさの問題についても考察する機会を提示することになった。
② 数値データは特別低い項目はなかったようだが、話し方の下手さの指摘が一点あり、これはできるだけうまくなりたいところだがつねに限界を感じさせられるところでもある。
③ レポートの課題について、3Qは学祭のまえには発表するほうが準備しやすいと思われるので以降注意したい。

人文学部 キリスト教学科
FONGARO, Enrico 先生

2024年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学B3
授業コード 12A02-003
教員名 FONGARO, Enrico
教員コード 104671
登録人数 9
回答数 5
回答率 55.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



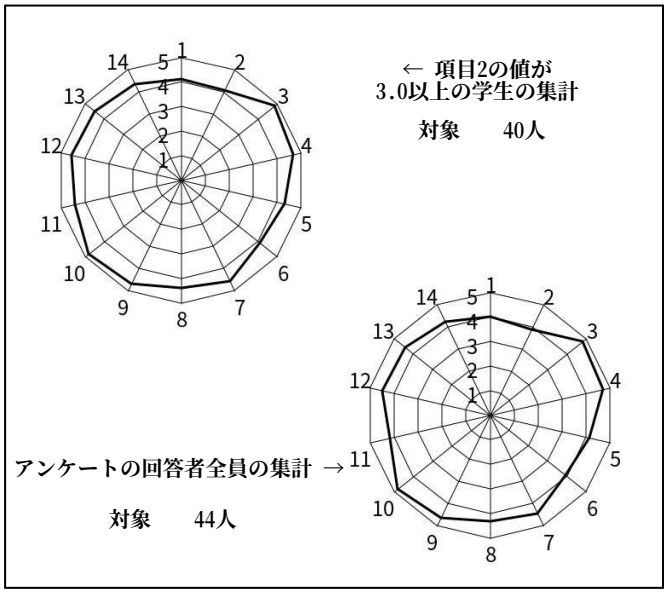
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aim of the course is to introduce the philosophy trying to show historically what has been called “philosophy” in Europe, how the discourse on philosophy has developed in its various eras, up to the global and intercultural horizon that philosophy has reached today. In this sense, I put a lot of emphasis on the role and meaning of Japanese philosophy from the Meiji era onwards. In this sense, in the first part of the course I dedicated a lot of time to the question of translation as a fundamental moment for the development and diffusion of philosophy from its origins to the present day. To do this, I compared the prevailing Western idea of "trans-lation" with the Sino-Japanese equivalent 翻訳. In the second part of the course I tried to introduce the origin of European philosophy in its pre-Socratic phase. In response to some requests from students, I explored Pythagorean thought in greater depth, extending it to the central theme of Western aesthetics represented by “harmony” as a synonym for beauty, comparing it with some categories of traditional Japanese aesthetics. The dialog with the students was very productive, so I hope that next year I will be able to organize the second part of the course according to the students' interests and problems.

人文学部 キリスト教学科
清水　美佐　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教文化
授業コード	20A08-001
教員名	清水　美佐
教員コード	152757
登録人数	108
回答数	44
回答率	40.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①設定目標は「文化を通して、キリスト教信仰の多様なあり方について理解を深めている」「キリスト教の芸術文化について、一定の知識を得ている」ことである。期末レポートの出来具合を見るに、大方の学生が目標に到達していた。

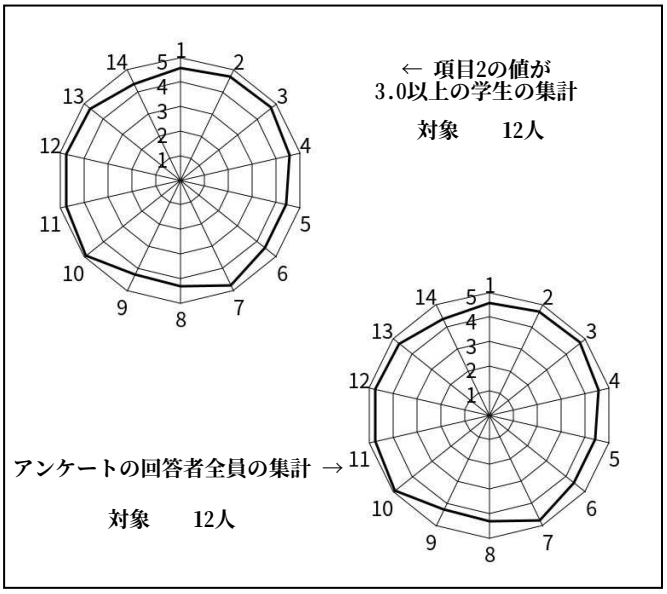
②履修者数の多い科目であるからか、他科目での授業評価のときよりも回答率や全体の数値が下がりがちである。設問5と6、授業の到達目標の理解に関して数値が低くなっているが、本科目はキリスト教の文化について知ることが主旨であり、語学科目等のように明確な到達目安になるものがないので、履修生が目標への到達度を実感しにくいのかもしれない。自由記述では、授業資料についての肯定的な意見が多くあった。色々な種類の視覚資料、あるいは音源資料を充実させ、それを各履修生が見返しやすいような工夫をして資料を作ったことに効果があったものとみられる。また、私語が適切に注意された点を良かったこととして挙げる回答が3件あり、集中できる授業環境を学生側も求めていることが分かった。改善要望の自由記述には、声の聞き取りにくさの指摘が複数あり、なるべく体調管理に気をつけて聞き取りやすい明るい声を心がけたい。

③学生の主体的参加を促すために、関連文献等を紹介する時間を増やし、学生からの質問受付にはWebClassを利用するなどしたい。

人文学部 キリスト教学科
加藤　久美子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	旧約聖書学(詩編・知恵文学)
授業コード	21C23-001
教員名	加藤　久美子
教員コード	103475
登録人数	12
回答数	12
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

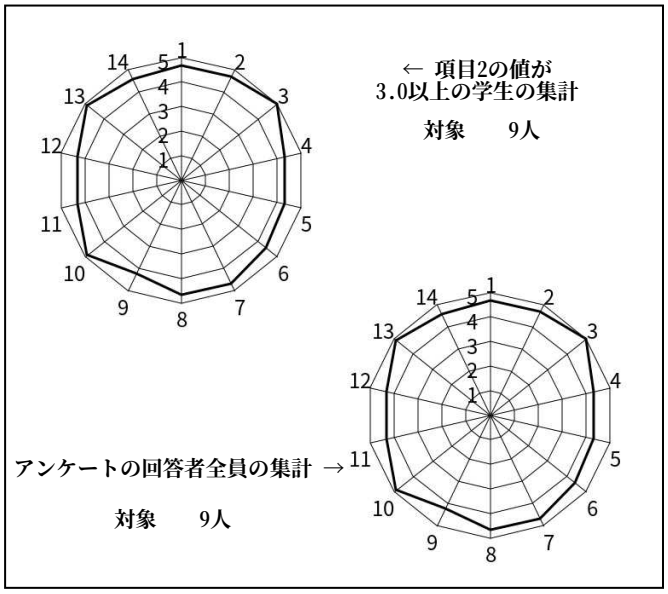
本科目は、旧約の「詩編と知恵」と呼ばれる書物群をとりあげ、それらの文学的形態や詩的技法の特徴を知ること、及び、そのような形態と技法による神への語りかけ、教訓、アフォリズムなどを理解することを目標とした。履修者の多くは、宗教的な要素を含む古代の詩を読むのは初めてであるため、詩の表現形式を学び、その効果を味わいながら、内容を捉えられるよう授業を計画した。数値データ（設問5、設問6）と期末テストからは、到達目標をよく達した履修者とそうではない履修者に分かれたことが窺えた。そのような中で、自由記述欄にもあるように、履修者自身がヘブライ語の教訓詩の1つのパターンに合わせて、自ら格言を日本語で創作する課題を行ったが、これは全般的に好評であった。来期以降、詩を扱う科目では、詩の技法に親しむために創作的な実践をもっと取り入れたい。

次に教室環境と講師の声の聞きやすさに関する指摘に一言ふれておきたい。今回のL棟1階の教室は、自由記述に複数の指摘があったように、講義科目にあまり適した教室ではなかった。今回は教務課の負担を考え、教室変更の問い合わせは行わなかったが、今後は問い合わせるようにしたい。

人文学部 キリスト教学科
SOUSA, Domingos　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織神学(神学的人間論A)
授業コード	21C39-001
教員名	SOUSA, Domingos
教員コード	100753
登録人数	12
回答数	9
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



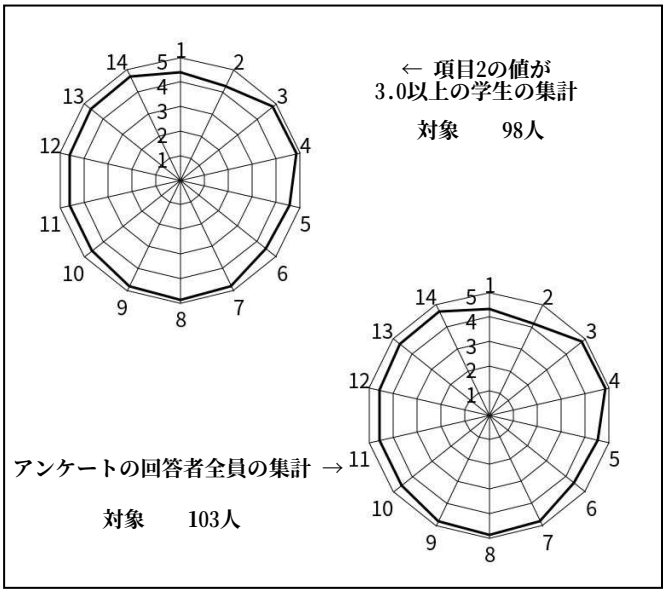
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、旧約聖書と新約聖書に描かれている人間観を明らかにした後、その人間観がギリシア哲学と出会うことにより、どのような変貌を遂げ、展開していったかを検討する。代表的思想家の著作から収集した箇所を精読し、そこに展開しているキリスト教の人間論を把握する。これを通して諸思想家の思想に実際に触れてもらうとともに、受講者の研究に必要な文献の基礎的解読力・分析力を高めることを目指している。パワーポイント利用で講義したが、学習の補助のため各項目の内容をまとめたプリント教材も配布した。
本講義に対する学生の評価結果は、全体として比較的高いと思われる。自由記述には肯定的評価として「パワーポイントで資料の内容を要約していたところがわかりやすくて良いと思った」、「単元毎に端的にまとめられてよかった」、「毎講義で疑問に思ったことを授業の初めに説明してくださりました」等が挙げられる。否定的な評価としては、「講義資料等にパワーポイントのスライドがアップロードされれば、より勉強しやすい」、「パワーポイントを講義資料にアップしてほしかった」等が挙げられる。学生の学習意欲などについての得点は多少低いので、彼らの自主的な学習を促すような働きかけを行っていく必要があると考えられる。今後はこの点に留意して授業に取り組んでいきたい。

人文学部 人類文化学科
宮脇　千絵　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳2
授業コード	10D08-002
教員名	宮脇　千絵
教員コード	152580
登録人数	185
回答数	103
回答率	55.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



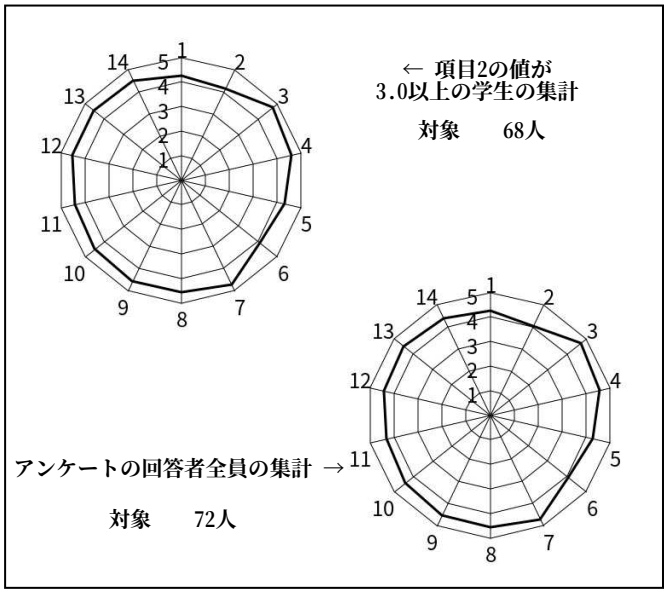
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業は、世界各地の装いをテーマに文化人類学的な視点から「当たり前」を問う姿勢や世界で起こっている様々な事象について理解し、それを自分の言葉で述べられるようになることを目標としており、シラバス通りに授業を行った。毎回のリアクションペーパーや最終レポートの結果から概ね目標を達成できていると考える。
②前回より回答率が上がった。「人間の尊厳」科目であるためか、毎回質問１と２の数値が低い傾向にある。特に予習などを必要としない授業ではあるが、もう少し主体性を持って授業に臨んでもらうにはどうすればよいかと毎回悩む。質問３、４、8、９の数値が高く、授業の運営には問題がないと考える。自由記述回答では、写真や映像の豊富さ、資料の分かりやすさなどの他、リアクションペーパーへのフィードバックを評価してくれる声もある。また、内容についても「知らなかったことを理解できた」等、ポジティブな評価であった。
③大教室での講義であるため、評価はリアクションペーパーとレポートという提出物に頼らざるを得ない。これまでリアクションペーパーは感想の自由記述としていたが、今回は問いを設定することで、より集中して授業を聞いてくれる人が増えたように感じる。リアクションペーパーへのフィードバックは正直言って手間がかかるが、フィードバックをきちんと読み、理解を深めてくれる学生もいることが分かったので、続けていきたい。

人文学部 人類文化学科
渡部　森哉　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	考古学B
授業コード	12B02-001
教員名	渡部　森哉
教員コード	101237
登録人数	126
回答数	72
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録者126名中、アンケートに回答したのは72名であった。授業時間内で時間をとったが回答率がやや低い。

シラバス通りに授業を行った。アンケート結果を見ると目標はおおむね達成できたと思われる。設問2の数値が低いが、期末レポートの提出前にアンケートに回答したことも関係していると思われる。

設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」について、30名が記述している。リトルワールドでの学外授業が楽しかったという意見（10名）、レジュメが分かりやすかったという意見（6名）などがあった。

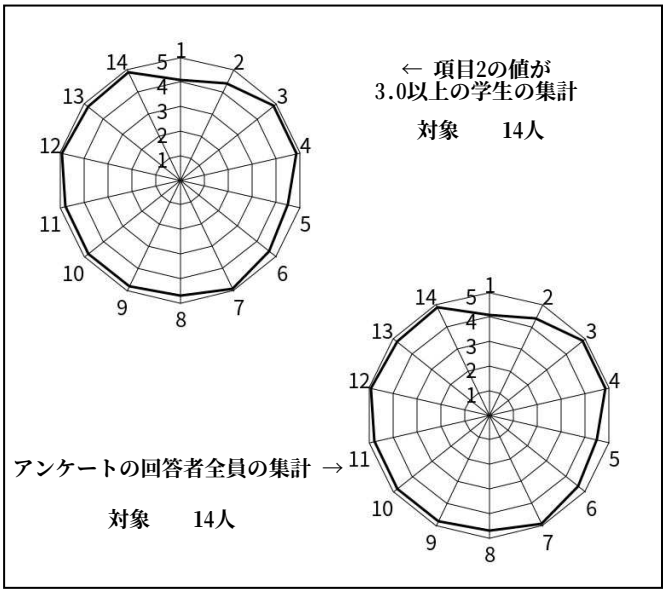
設問16（授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったことがあればできるだけ具体的に書いてください。）には8名が記述している。「授業の進行がやや遅い」（3名）という意見があった。考古学をしっかり学びたい学生にはやや物足りなかったようである。「一回の授業でプリント一枚分終わらない時がある」という意見があった。毎回の授業進度を調整したい。「レジュメとスライドの情報量が違いすぎ」という意見もあったため、今後スライドの数を晴らすなどの調整をしていきたい。「何を話しているか聞き取れないところがあった」という意見もあったため、マイクの調整などをしっかりしたい。

今年度までは15回授業であったが、2025年度から14回授業になるので、全体の構成を少し見直していきたい。

人文学部 人類文化学科
MCMULLEN, Matthew 先生

2024年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想・文化をめぐって4＜国際科目群＞
授業コード	13A06-901
教員名	MCMULLEN, Matthew
教員コード	103838
登録人数	43
回答数	14
回答率	32.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

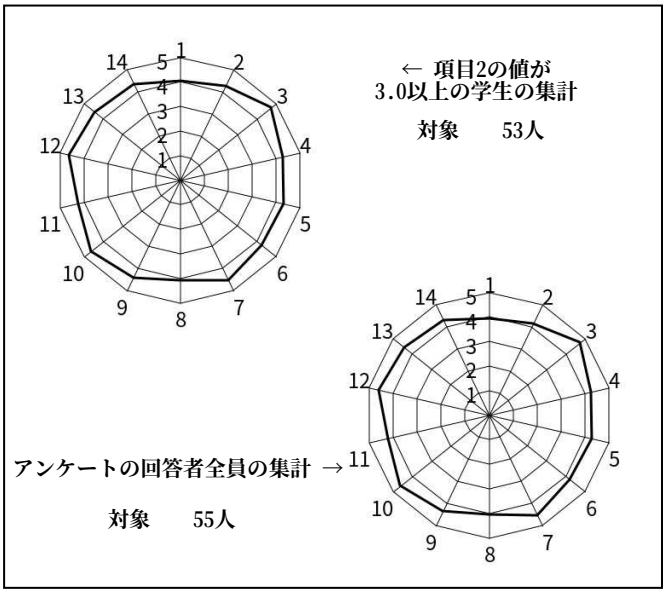
More students attended this course than in the past, but I was able to adjust the schedule to accommodate them. This is the most difficult course I teach for non-native speakers of English, and it is challenging to explain the content. However, the students did an excellent job.

I wish there were a better online classroom system for assigning homework and contacting students outside of the classroom. WebClass is an ancient system and unsuitable for the modern classroom.

人文学部 人類文化学科
宮沢　千尋　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジアとの出会い2
授業コード	13B02-002
教員名	宮沢　千尋
教員コード	019562
登録人数	131
回答数	55
回答率	42.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

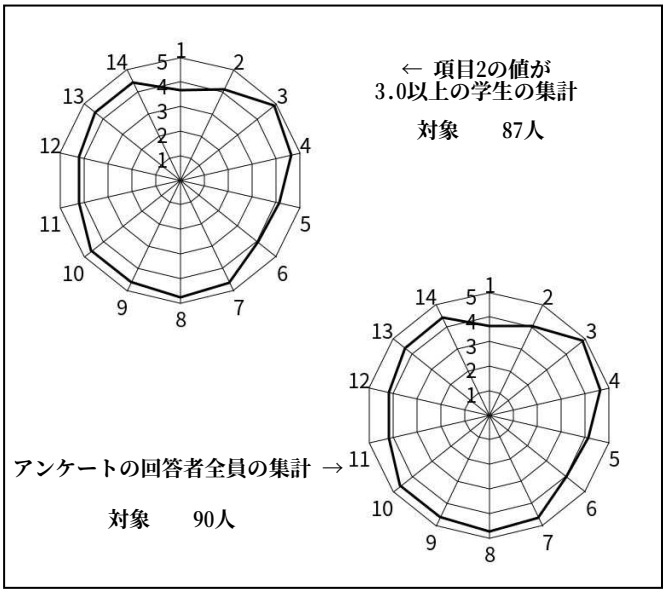
項目１以外、学際科目の平均より若干低い項目もあるが、すべて4.0を超えているのでほぼ目標は達成できたのではないかと思う。学際科目平均を上回り自由記述でも評価されている点は、まず項目10である。出席を取らず学生の自主性に任せた点は、出席点のために教室に来て私語など他の学生の迷惑になる者を抑止するのに役立ったと考える。次に項目12であるが、授業時間中に必ず10分間を休憩と質問の時間に充てたことが評価された。webclassで質問を受け付けることにより、質問しやすい雰囲気を作ることができた。回答は口頭で授業全体にフィードバックし、重要なものであればwebclassで履修者全員に配信したことも評価された。

反省点としてはMB12教室が技術的な問題でピンマイク1本しか備えられておらず、私がピンマイクの使い方が下手だったこともありノイズが入ってしまい、履修者には聞きづらかったことである。ハウリングも当初はあったが、視聴覚センターが真摯に対応してくださったため、これは改善した。ピンマイクの扱い方について私自身が改善の必要がある。また、例年の如く「世界史を履修していなくても理解しやすかった」という学生と、「人名や事項名が突然出てきて理解できなかった」という学生（１名）がいた。「もう一度説明してほしいところはどこか」と逆質問することも考えたい。「もう一度授業を受けたい」という感想はうれしかった。

人文学部 人類文化学科
石原　美奈子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	イスラムとの出会い2
授業コード	13B03-002
教員名	石原　美奈子
教員コード	100080
登録人数	206
回答数	90
回答率	43.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業は、イスラームの成り立ちと基本的な内容、現代の政治問題との関わりについて講義形式で概説するという内容であり、準備していたスライドを完了したという点で目標に到達したといえる。
②内容については、毎回スライドをDLサーバに事前にアップロードしていたので、授業に取り組みやすかったという感想が多かった。またwebclassで９回小テストを実施したことにより、知識の確認と定着を図った点も評価するとの感想があった。
③ただ、出席確認をしていないので正確にはわからないが、履修登録者数のわりに出席率は高くはなかったと思われる。200人近い履修生がいるので、出席確認はしにくい。加えて資料もアップロードしているので、容量のいい学生だと出席しなくても定期試験でそれなりの点数をとれる。つまり、資料には載せていない情報をどのように（やむを得ない事情で欠席する）学生が不満をもたない程度に授業に盛り込むのかが来年の課題になるだろう。

人文学部 人類文化学科
青柳　宏　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ことばとは7＜国際科目群＞
授業コード 13E02-901
教員名　青柳　宏
教員コード 017004
登録人数 8
回答数 4
回答率 50.0%
休講回数　1 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

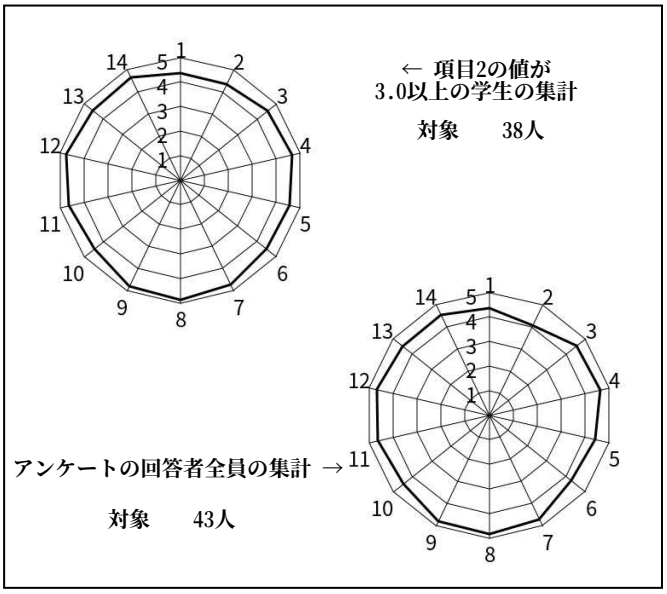
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①学修目標と到達度
今年度の目標は以下のとおり.
(1)　われわれが言語について周りの大人たちや学校の先生に教わる以上のことを知っていることを理解できる.
(2)　言語間、あるいは方言間にみられる差異は表面的なものであって、すべて人間言語の一般原則の支配下にあることを理解できる.
(3)　IPA(国際音声字母)や音素と異音、音節構造、アクセント等の概念に習熟し、第2言語修得に活かせる.
各回の授業の最後に行う小テストや期末テストの結果をみるかぎり、到達度には相当のばらつきがみられた.
②数値データおよび自由記述を受けて
本授業はもともと少人数であり、回答数も少なかったが、各項目の評価はすべて4以上であった.
「言語に対する見方が広がった」「説明の仕方がよかった」という肯定的なコメントの他に「日本語で言われれば分かるが、英語だとわからない. plosivesなど」というコメントがあった. 本授業は＜国際科目群＞として開講される共通教育科目であり、かつ、CJSとのオープンコースでもあったため、日本人学生には簡単ではないことはシラバスをみれば明らか. しかも、専門用語や概念については、日本語で説明したglossaryも提供している.
③今後の抱負
＜国際科目群＞とCJSオープンコースの合同クラスの開講は初めての試み. 日本人学生、学部留学生、CJS留学生が互いに教え合い、学び合える場にしてゆきたい.

人文学部 人類文化学科
奥田　太郎　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代の倫理学
授業コード 22C11-001
教員名　奥田　太郎
教員コード 100642
登録人数 166
回答数 43
回答率 25.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



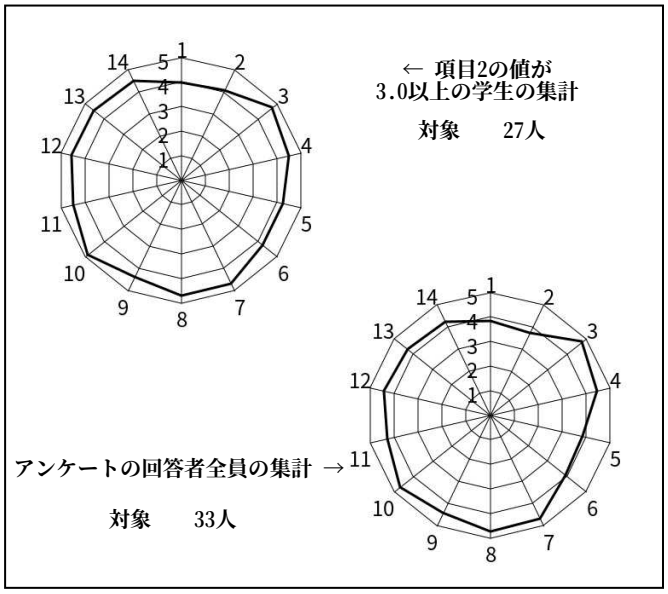
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）設定した3つの到達目標について、論述課題の出来具合からは、十分に達成できたと考えられる。
（２）同系統科目の平均値に対して概ね良好な数値であったが、強いて言えば、設問10「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がなされていましたか」は、本授業の数値は若干下回っており、自由記述にも私語に関して気になったというコメントがあったため、この点について改善の余地がある。今回の授業では、受講者の疑問に毎回時間を費やして丁寧に応答することにしたが、自由記述にはそれに対して肯定的な評価が多く寄せられていた。概ね、当初の狙いは達成されたと言ってよいだろう。
（３）今回の授業では、比較的身近なテーマを扱う入門的な内容と、少し掘り下げた思考を織り交ぜた内容としたため、受講者からの評価は高かったが、哲学的な掘り下げがもう少しあってもよかったように思う。次年度は、哲学的に掘り下げつつ身近な問題に迫れるバランスでの授業内容を試みたい。

人文学部 人類文化学科
坂下　浩司　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　古代哲学史I
授業コード 22C25-001
教員名　坂下　浩司
教員コード 100471
登録人数 75
回答数　33
回答率　44.0%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



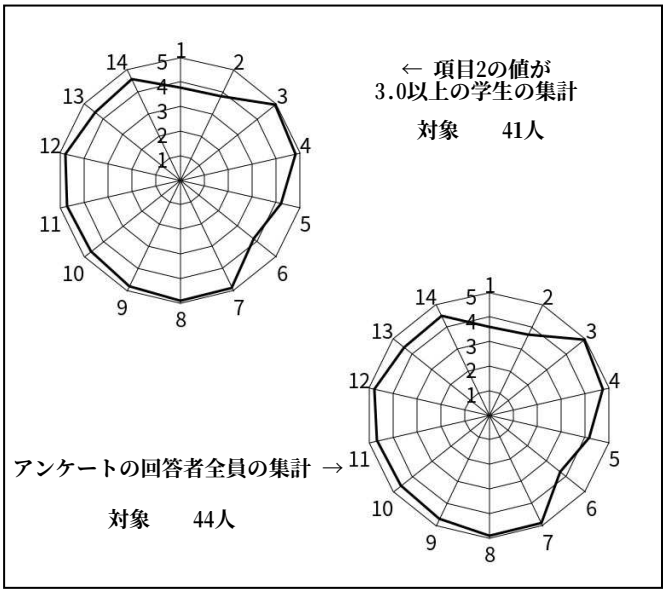
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）開講当初に設定していた目標は、「「Ｉ」は、「philosophia」のギリシア的な意味を、ソクラテス以前の哲学者を中心に理解している」であった。到達の程度は、設問項目５「到達目標を理解できたか」が「3.88」であることから、比較的高いと考えられる。ただ、設問項目６「到達目標に向けて力がついてきていると思うか」が「3.99」で、理解できている度合いより力がついてきていると思う度合いの方が高いというのは、本当に設問を理解しているのか少し不安になった。（２）数値データについては、（１）で述べたこと以外は、おおむね「４」以上でよかったと思う。自由記述については、「ギリシア語が多くて理解がむずかしかった」とか、「板書が見にくかった」とあるのは、今年度は教科書が中級以上向けであったため、ギリシア語の単語をたくさん説明する必要があり、その説明のためにまたギリシア語の説明をするパターンが多くなって、必然的に、ホワイトボードにたくさん、しかも語源の関係で矢印も書いたため、結果として、ごちゃっとしてしまったことが原因だと思われる。（３）来年度は、もう少しレベルを低めにする予定である。「DVDなどの映像教材で文化的な面での勉強ができた」というような感想は例年のとおりであったので、このまま続けたい。「古代哲学史」とは「ギリシア哲学史」のことなので、どうしてもギリシア語は多くなると、シラバスに断っておくべきかもしれない。

人文学部 人類文化学科
原田　昌浩　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化史B
授業コード　22C42-001
教員名　原田　昌浩
教員コード　104974
登録人数　103
回答数　44
回答率　42.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



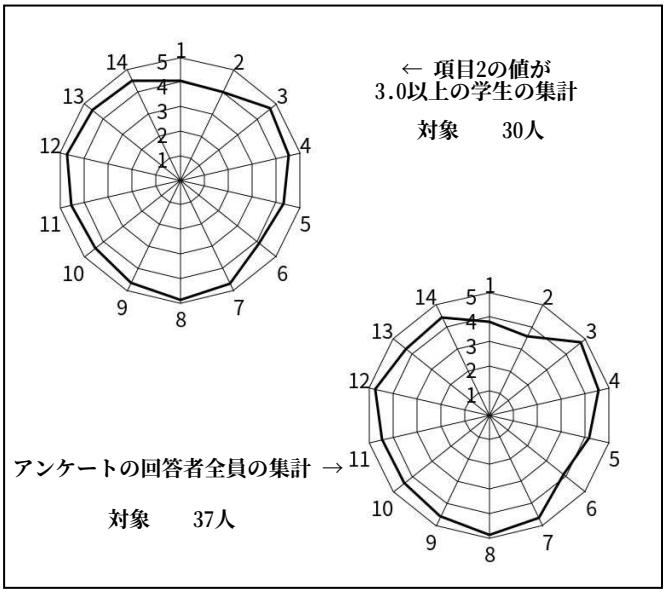
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義では「１．人間の活動の痕跡等から、人類の歴史（主に日本古墳時代史）を文化史的に考えることができる。２．古墳文化についての基礎的な知識を獲得できる。」という２つの到達目標を立て、授業を展開した。学習到達度をはかる期末試験の結果、69%の受講生が８割以上の点数を獲得しており、この目標は概ね達成できたものといえる。
②履修前に興味を持っていなかった学生もいたようだが、自由記述欄をみると内容に興味を持てるようになったというものもあり、また①の結果も踏まえると、授業内容について学生は最終的に興味を持ってもらえたものと考える。
③本授業では、参考文献や授業に関係する図書等を回覧し、より興味を持つ学生の知的好奇心に応えるように工夫した。この点は学生から好評だったようなので、今後も続けていければと思うが、一部にもう少し回覧する図書の内容を解説してほしいというものもあったので、もう少し図書回覧については工夫をしていきたい。

人文学部 人類文化学科
黒澤　浩　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義（弥生・古墳時代論）
授業コード	22C78-001
教員名	黒澤　浩
教員コード	100758
登録人数	52
回答数	37
回答率	71.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



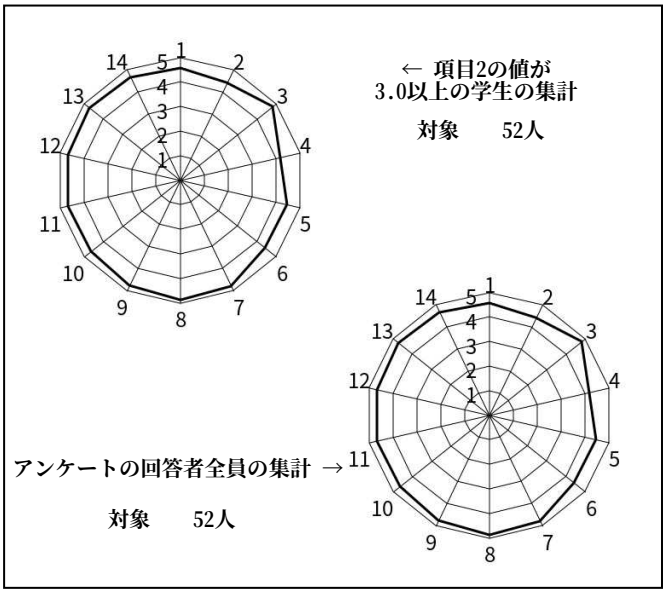
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、単に弥生時代・古墳時代の概説をするのではなく、自分の研究や経験を通して、どのように考古学的な事象や情報を理解するか、という点に重点を置いて話をしているので、必ずしも弥生時代・古墳時代の全体像を示せているわけではない。しかし、履修している学生は3・4年生であることから、そうしたことは自分の関心にしたがって本や論文で学べばよいのであって、むしろ担当教員である私の関心に基づいて話した方が、学生にはリアリティが感じられると思う。今回の授業評価においても、その点が評価されているものと思う。
弥生時代・古墳時代は、狩猟採集の時代だった縄文時代までと、社会や文化が大きく変わった時代であり、その後の歴史的発展の起点ともなっているので、この時代に対する関心は現代社会への関心につながるものであることを意識してほしいと思っている。

人文学部 心理人間学科
伊東　留美　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理学B3
授業コード　12E04-003
教員名　伊東　留美
教員コード　063834
登録人数　126
回答数　52
回答率　41.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、共通教育科目（学際・基盤科目）で対象学生は全学部生である。社会心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学分野に関して、「各分野の概要を理解している」こと、「基礎的な事項について説明できる」こと、「生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」ことの3つである。回答者人数は52名（126名中）で回答率は41%であった。到達目標（設問項目5：4.48）については、概ね回答者の間では理解されていると言える。また、到達目標に向けて力がついてきていると思う（設問項目6：4.40）と答えた概ねの学生が答えており、多少なりとも理解が深まったと学生も感じてくれていると推測できる。担当者も到達目標を意識し、できるだけ学生に理解しやすく、また日常の具体例を積極的に取り入れながら、説明をしていった。自由記述欄には、「講義内容がわかりやすいようにスライドにまとめてくれた」「授業中の動画を視聴して、理解を深めることができた」とあるのは、そうしたことへの反応と捉えている。

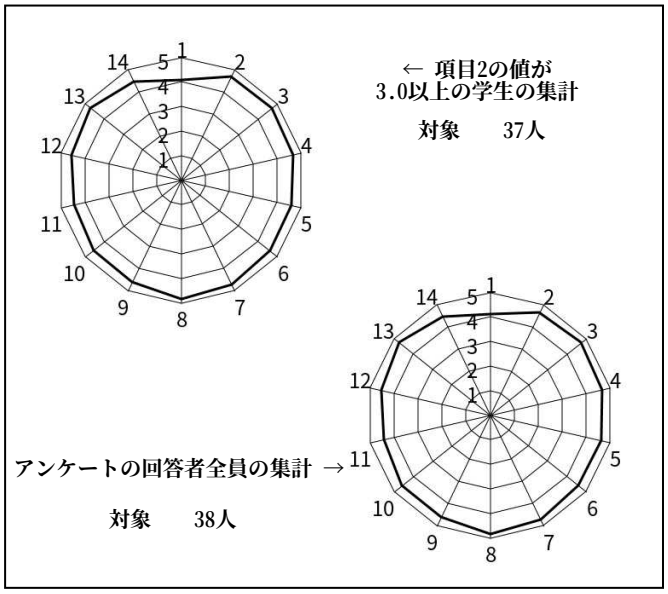
受講生の心理学への関心度の高さ（設問項目1：4.56）もうかがえる。新しい知識が得られた（設問項目13：4.73）と捉えてもらえたようである。全体的な満足度（設問項目14：4.65）も共通教育（基盤科目）の平均値以上であった。こうしたことは、単に授業内容だけでなく、担当者の態度も何か影響があったのではないかと推測する。教員の授業の取り組む態度（設問項目7）が4.79であり、自由記述欄に「言葉の使い方にとても配慮されていると感じ、安心して授業を受けることができた」と答えた学生がいた。

一方で、毎回の授業構成や進行速度について（設問項目4：4.17）は、全体的には低い。
授業1回で終わるべき内容が終えられず、次の授業で続きを話すということが度々あった。
内容と時間配分の調整を検討して行きたいと考えている。

人文学部 心理人間学科
藤田　知加子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IC
授業コード	23A06-002
教員名	藤田　知加子
教員コード	100382
登録人数	42
回答数	38
回答率	90.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



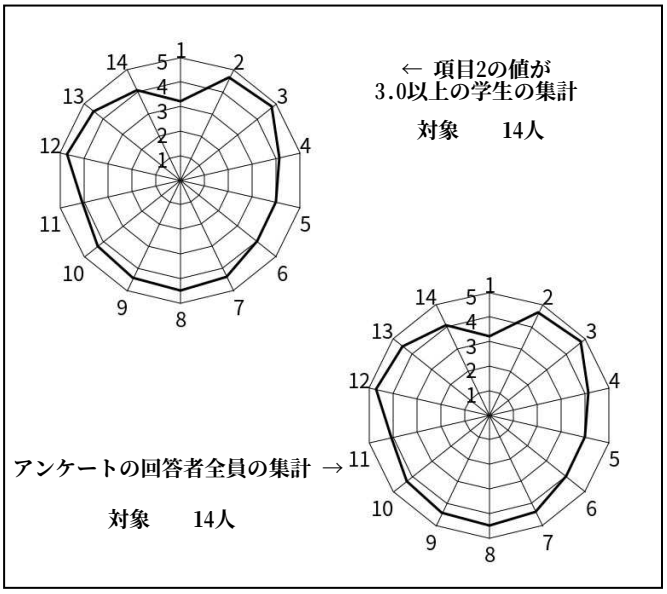
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
目標は，設問13に対する平均評定値が4.74であったことからも，おおむね到達できたと考える。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自由記述からは「グループで話し合う機会が多く設定されていたため，受け身の授業にならず，集中して受けることができた」「授業の中でちゃんと個人とグループ両方で考える時間をとっていて、考えをまとめやすかった。」など，個人作業とグループでの理解確認作業と，２つの要素を取り入れた反転授業であることに対して学生からの評価が高いことが読み取れた。また，「授業の内容についてのわかりやすい説明があった。また、発展した内容についても解説をしていたため、学習意欲の高い学生にとって、学習意欲を引き出されるような内容だったと思う。」「解説がわかりやすかった」など，教員からの情報提供に対しても評価されていることがうかがえた。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
予習課題に関するグループワークにおいて，印刷物を成員分持参してくることに対する疑問を呈した自由記述が散見された。これは，他者の予習内容を入手し参考にすることで，自分の学習内容の精度をあげる材料にするようにと初回に意図を伝えているが，今一つ理解されていないことによる記述かと思う。さらに丁寧に説明することが必要であろう。

人文学部 心理人間学科
高橋　亜希子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIB
授業コード 23A09-002
教員名　高橋　亜希子
教員コード 103582
登録人数　33
回答数　14
回答率　42.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



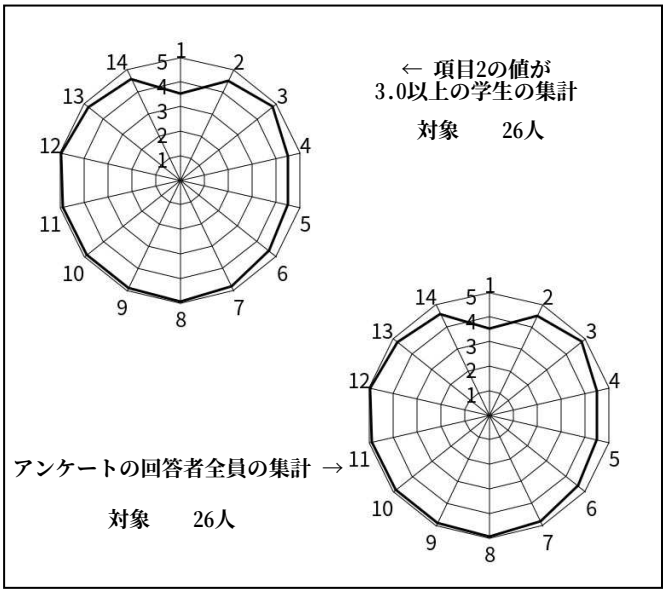
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本年度は、学生がグループ研究を行うにあたって、相談をしやすい環境を作り、アドバイスを行うことを目標とした。授業中でもグループを巡回し、グループの相談にできるだけ乗るように試みた。アンケートの自由記述では「質問がしやすかった」「先生にすぐに相談できる環境が整っていた点」との回答があり、学生にとっては相談をしやすい環境であったことが読み取れる。②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：一方で、「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」については4.71である一方で、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」は4.07であった。そのため、学生が求めていた指導に十分に対応できていなかったことも推察され、改善を図っていきたい。③次年度に向けて：研究期間の短さに関するコメントが出ており（例「研究の方法や実際には1、2ヶ月ではやりたいことを完全に研究することはできないということが身をもって知ることが出来た点。」学習期間をもう少し長くできる工夫が必要である。次年度はここは大きくカリキュラムが変わる予定である。

人文学部 心理人間学科
青木　剛　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IIB
授業コード	23A09-003
教員名	青木　剛
教員コード	103923
登録人数	30
回答数	26
回答率	86.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



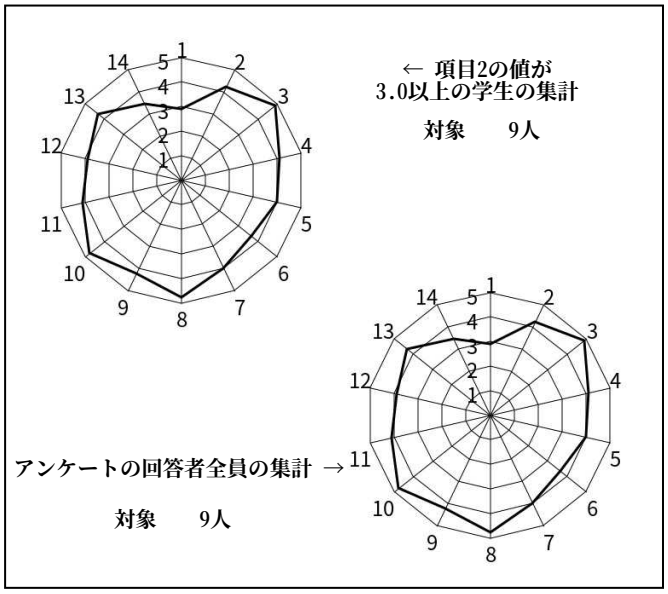
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目は、全学科生に求める学科として必要な研究プロジェクト論文を執筆するために必要なスキルや批判的・創造的思考を涵養することを目的としている。これらのスキルや思考は、この授業で完成されるものではないが、一度体験的に問題と目的を執筆し発表することを通して、どのような力が必要なのかを知ることが本授業で到達目標であった。そのために、授業内で関心を同じくする学生グループでディスカッションをして、他の受講生と研究に必要な発想を補完し合いながら、論文執筆を試みられるような授業運営を行った。受講生は時間が短いながらも、ひとまずの問題と目的を仕上げ、研究法に則って得られた結果を考察するまでに至っており、その結果と考察について発表を行うことができた。本科目の到達目標は概ね達成できていたと思われる。
②　数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　数値データは、設問1以外平均4.5以上であり学生からの評価は高かった。設問1に関しては、3.5と目立って低いわけではないが、他の設問よりも低くなっていたのは、必修科目で選択の余地がないことが影響していると考えられた。自由記述からも、教員―学生間でやりとりをしつつ進められた点が評価されており、到達目標の達成のために計画された授業運営が効果的であったと考えられる。
③　次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後も、上述のような学生による授業評価や授業の満足度を維持・増進できるように工夫したい。

人文学部 心理人間学科
池田　満　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIB
授業コード 23A09-004
教員名　池田　満
教員コード 103141
登録人数　31
回答数　9
回答率　29.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
どの学生も手を抜くことなく熱心にグループ演習に取り組み，一つの研究を成し遂げ，発表とレポートについても十分に満足できるレベルに達しており，目標には到達したと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」という問いに対する回答の平均値が2.89と低いことが気になる。学科必修科目という性質上，興味の有無関係なく履修していることも影響しているだろうが，教員からもこの授業が必修として置かれていることの意味を伝える努力はしていきたい。一方で，本授業で扱っている研究方法は心理人間学科での学修の中核となるものであり，所謂，専門性が高く見える科目ではないかもしれないが，学生に対しても学ぶことの意義について考えてほしい。

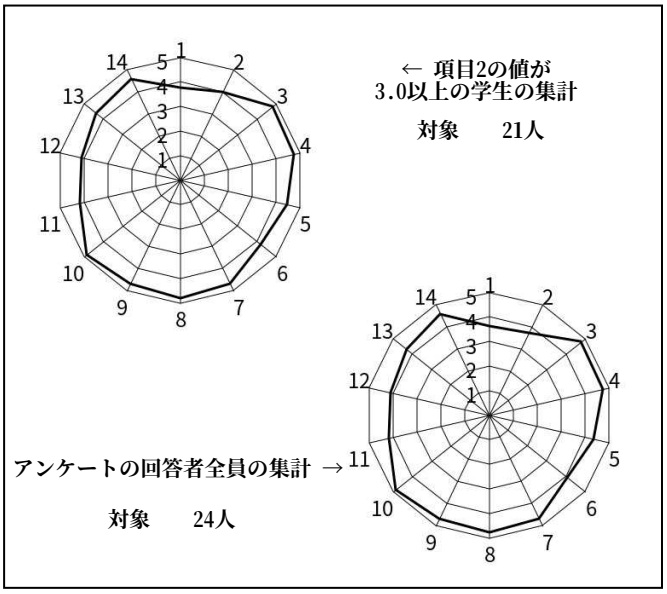
③次年度は担当しないので，授業全体の運営に関わる次項について，しっかりと引き継いでいきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

人文学部 心理人間学科
加藤　隆雄　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育社会学
授業コード 23C13-001
教員名　加藤　隆雄
教員コード 019349
登録人数 86
回答数 24
回答率 27.9%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



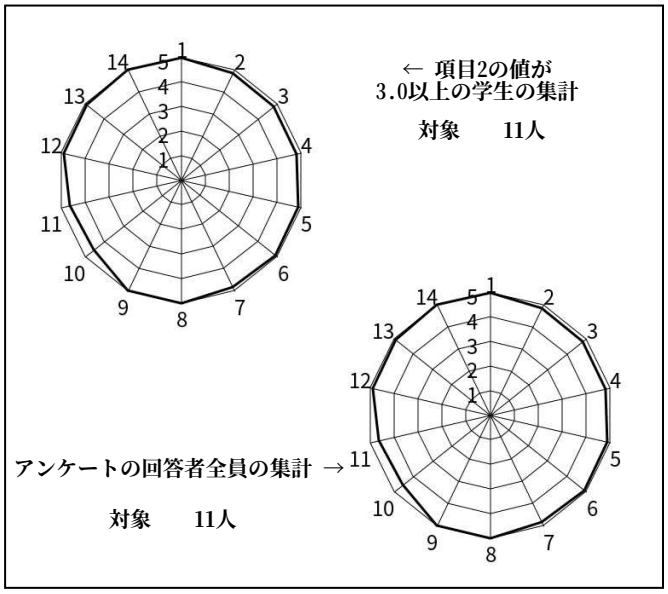
授業評価結果を踏まえた点検・評価

大部分の項目で4以上であり開講当初に設定していた目標は達成したと言える。2022年度にこの授業で授業評価アンケートを実施したときよりも、授業進行はスムーズになっていると考えられる（項目４「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」）。また、事前にWebClassに資料をあげていたことが、項目9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」での評価につながったと思われる。ただ、選択科目であり1限の授業であるのに、項目1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」が項目中最も低い点数であるのが理解に苦しむ。「単位のために期待しないで取ったら意外に面白かった」という声だと解釈することにしたい。一名から内容が多いという意見もあったが、内容が豊富という意見も複数あり、前述の項目４・９もふまえると、アンケートの回答者の大多数は授業内容を理解していると思われるので、これを継続していきたい。内容としては、少年犯罪の分析に関して興味が集まった。欠席者も多かったが、定期試験により適切に判定が下されるだろう。

人文学部 心理人間学科
楠本　和彦　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　体験学習実践トレーニング
授業コード 23C74-001
教員名　楠本　和彦
教員コード 055780
登録人数　14
回答数　11
回答率　78.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

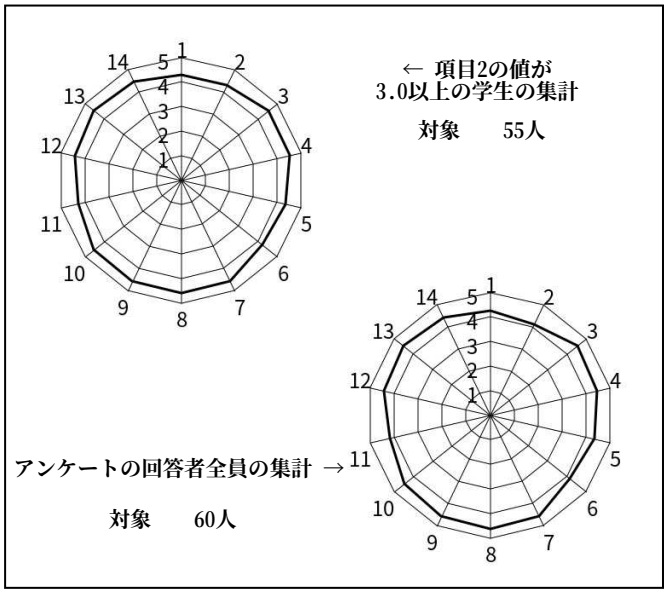
本授業の到達目標は、以下のものであった。
・ラボラトリー方式による体験学習の原理や特徴を理解している。
・体験学習を用いた教育プログラムの立案から実施までの留意点を習得している。
・体験学習のファシリテーターとしての関わり方の基礎を理解している。

本授業の評価結果と大学全体の評価平均を比較した場合、本授業が大学全体の評価平均を0.1以上下回った項目はない。
項目10以外の項目は全学の平均を上回っており、設問１－２、4－6、8－9、11－14の項目は0.2ポイント以上、上回っている。これらの項目は、授業への関心や主体的参加、授業運営や到達目標への理解と能力修得、全体的な評価や満足に関することであり、現在のそれらが、学生から一定の評価を得ていることを示している。
今後とも、授業内容や運営に関して改善・工夫し、学生が関心を高め、到達目標を達成し、学生の今後の研究、学習に繋がっていく授業展開を模索したい。

人文学部 日本文化学科
坂井　博美　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化と情報2
授業コード　13E09-002
教員名　坂井　博美
教員コード　102981
登録人数　197
回答数　60
回答率　30.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



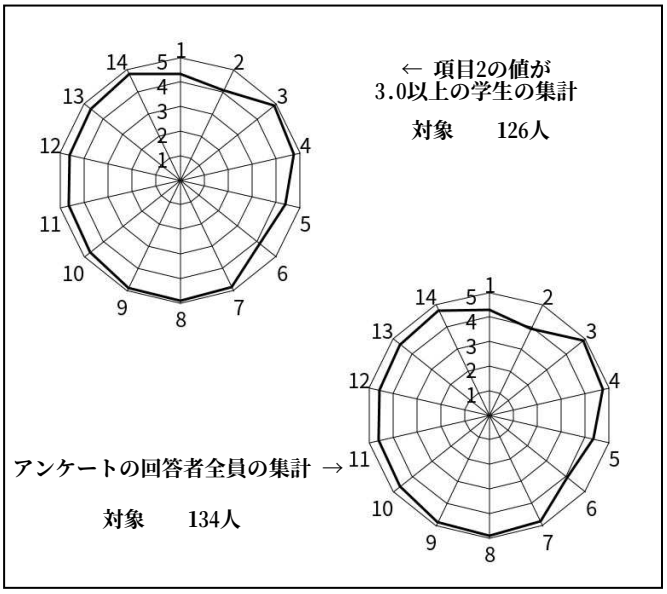
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと考える。アンケート結果をみると、構成や進行速度、配布資料のあり方など、概ね適切であったと思われる。自由記述からは、毎回の授業後の小課題で授業の復習が自然とできたのでよかった、他の受講生の考えを知ることができたといった小課題などについて肯定的に捉える記述が多かった。一方で、アンケート項目３から１４のなかで平均値が最も低かったのは「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」という項目であった。到達目標である、現代社会のジェンダーをめぐる状況についての知識や、現代社会の事象をジェンダーの視点から検討する方法に関する力を、受講生がより獲得できる方策を次年度は考えていきたい。また、小課題に対するフィードバックの説明がわかりにくかったとの意見もあったため、この点についても説明をコンパクトに体系だてて行うなどの工夫したい。また、授業での私語は注意していたつもりでいたが、おしゃべりをしていた学生がいて気になったという意見もあったため、より気を配っていくつもりである。

人文学部 日本文化学科
福本　拓　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本文化学入門
授業コード	24C01-001
教員名	福本　拓
教員コード	104126
登録人数	167
回答数	134
回答率	80.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



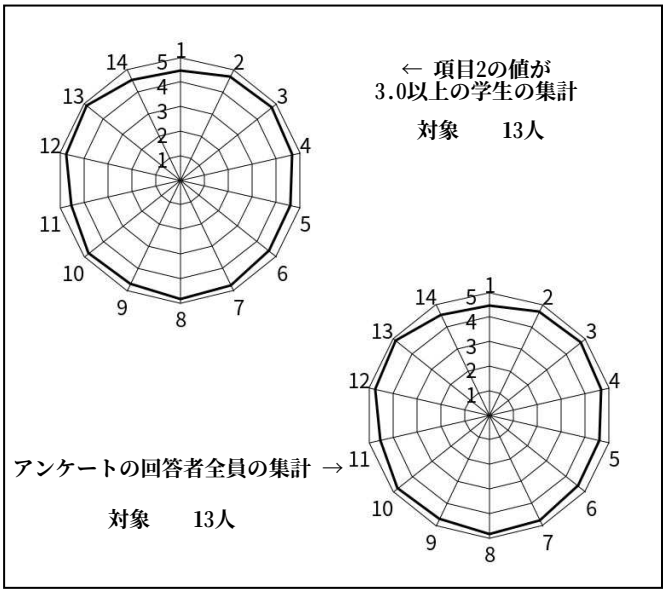
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について
Q5「この授業の到達目標を理解することができましたか」の平均値は4.35と全体平均を上回っており，これまでと比べ上昇した。反面，Q6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」については，4.07（全体平均4.22）と下回っている。毎回の授業のリアクションペーパーや，最後のまとめについてのリプライを見る限り，担当者の感覚としては一定程度の前進が見受けられるのだが，何を持って”力がついている”と解釈するかによるのだろうか。理解力を問う取り組みなどが必要かもしれない。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
全体の満足度としては4.73と，全体平均4.44および学科平均4.65を上回っており，例年通り良好な結果が得られたと考えている。特に，この数年継続して実施しているMentimeterを活用したリアルタイムアンケートは，自由回答でも多くの学生が言及し，新しい気付きを得る上で大いに役立っているようである。なお，出席確認を学内Wi-Fi接続でフィルターをかけて実施しているが，システムの理解に手間取ったのか，その方法について自由回答で改善を求める声もあった。不正のない出席確認のために色々工夫しているところではあるが，受講生の負担も勘案した対応が求められるだろう。ただし，これは科目担当者単独でのみ行うべきものではないとも思われる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
100分授業は完全に定着したが，やはり聞き続ける側としては負担が大きいようである。動画・音楽といった具体的コンテンツの活用についてポジティブな評価も多かった。今後もメリハリのある授業構成の実現に向けて努力したい。

人文学部 日本文化学科
松田　京子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文化史A
授業コード　24C11-001
教員名　松田　京子
教員コード　100789
登録人数　39
回答数　13
回答率　33.3%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業では、博覧会という具体的な出来事を切り口として、近代日本の社会・文化および思想状況を考察するという全体テーマのもと、講義形式で授業を行った。主な教材としては、教員作成の配布プリントを中心に、適宜、写真や地図、映像資料等を提示しながら、テーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業で扱った内容について考えた点や、質問・感想などをリアクションペーパーとして受講生全員に書いてもらい、webclassからの提出を求めた。そして次の授業の冒頭で、前回の復習も兼ねて、そこに書かれた感想等をいくつか紹介し、質問に答えることで双方向の授業展開を目指した。このような方法で授業を進め、開講当初に示した授業計画は、ほぼ予定通り進行することができた。

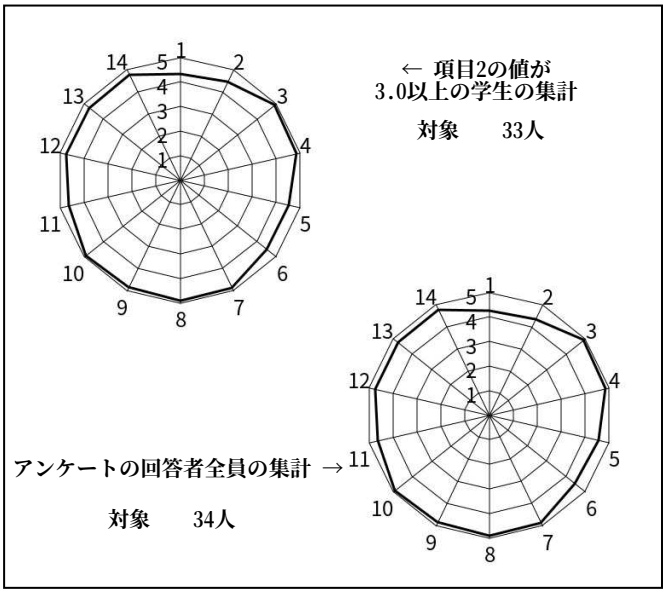
②上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」の授業評価集計の、設問4の平均値4.69、設問7の4.77、設問9の4.69、設問12の4.77という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。また新しい知識の獲得や理解の深まりに関する設問13の4.85と比較的高い数値であったことは、大変励みとなった。また「自由記述欄」では、前回の授業のリアクションペーパーの紹介について復習として知識の定着につながったという意見や視覚的資料の活用が理解のしやすさにつながったといった具体的で好意的な意見を寄せてくれていた。

③今後は授業中に扱う配布プリントや資料について、受講生の理解のさらなる向上につながるよう、見直しと補強を行っていきたい。

人文学部 日本文化学科
岸川　俊太郎　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文学史C
授業コード　24C31-001
教員名　岸川　俊太郎
教員コード　103907
登録人数　89
回答数　34
回答率　38.2%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2024年度Q3の開講科目「日本文学史C」について自己点検・評価報告を以下に行う。

まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5で4.56という評価を得たことからも確かめられる。

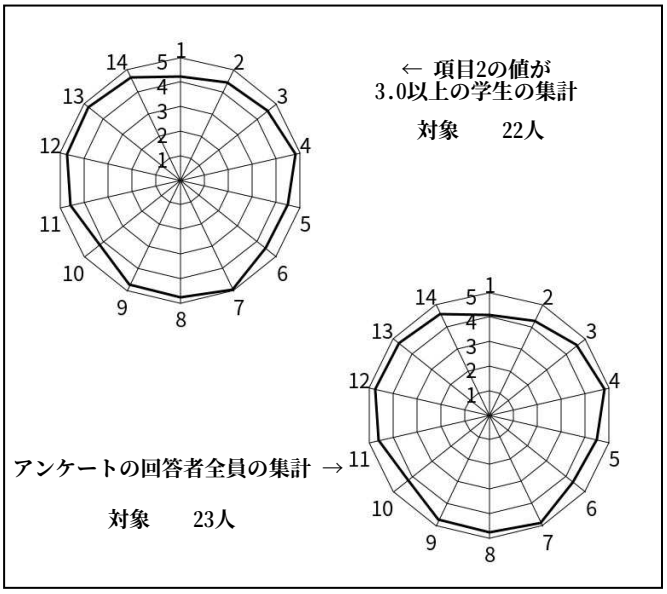
次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問1-14の平均値（全体）を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.74、4.76という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、他の項目より評価がやや低かったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。具体的には、予習と復習に関する適切な課題を課したい。また、その際は学生にとって適切な準備期間を設けたい。リアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックし、学生の主体的な学びの充実を図るとともに、授業で配布するレジュメについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。

人文学部 日本文化学科
辻本　裕成　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　女性と古典文学
授業コード 24C39-001
教員名　辻本　裕成
教員コード 019042
登録人数 43
回答数 23
回答率 53.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業のシラバスにあげた到達目標は以下の通りであった。

１　一つの古典作品をさまざまな方向から読み込むことにより、古典文学を読むことの深さと面白さに気付いている。
２　当時の女性が置かれていた地位、受け入れざるをえなかった運命を理解することによって、性差と社会の関わりなどについて考えることができる。
３　国文学研究のすぐれた成果について知り、文学研究のあり方を理解している。

自由記述の中に、以上の各項目に沿った肯定的な記述がそれぞれあったことは、担当者の目論見が成功したものとして喜ばしい。

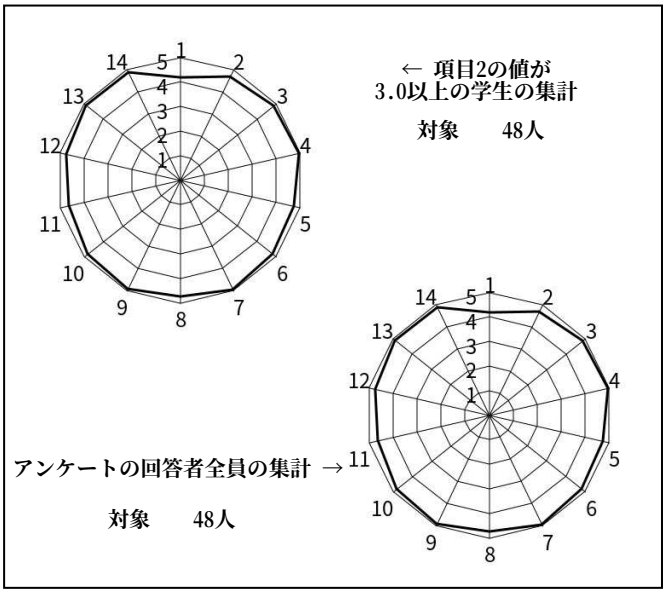
この授業は、やや専門的な内容になること、単位取得に必要となる労力が比較的大きいことを授業の最初で告知したこともあってか、受講者を絞ることができたように思う。各アンケート項目の数値が比較的高かったのはそのせいもあろう。

この授業は水曜の１・２限、いわゆる縦組みで行っているが、縦組みには利点と欠点の両方があるように思う。今後縦組みの利点を生かすにはどのようにすればいいか、工夫を重ねていきたい。

人文学部 日本文化学科
西岡　淳　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　漢文学研究I
授業コード　24C45-001
教員名　西岡　淳
教員コード　019315
登録人数　75
回答数　48
回答率　64.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



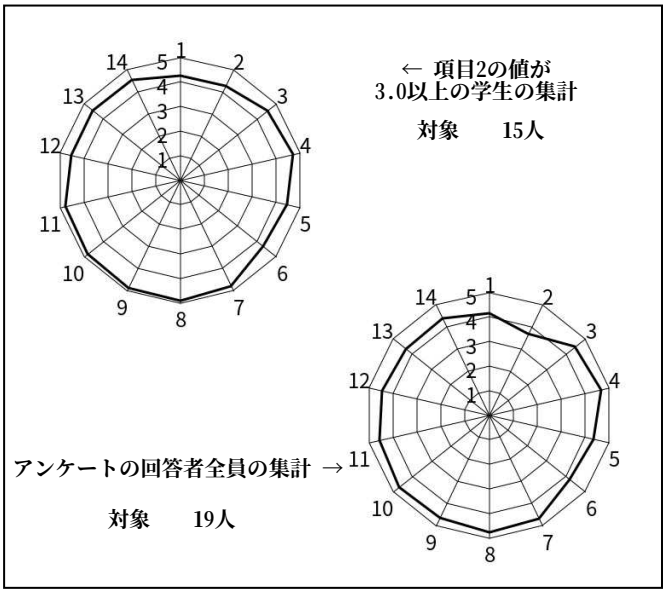
授業評価結果を踏まえた点検・評価

主な授業目標は、漢文の語法や語彙および基本的な工具書の使用法を身につけ、原文に即して適切な読解ができる能力を体得すること等である。本学期は正史『三国志』（魏書）曹仁伝などの和刻本をテキストとして用い、これを訓読によって読み進めた。授業形式は、次回読む部分を前もって指定しておき、受講生はその部分の書き下し文を準備した上で授業に臨み、授業における担当者とのやりとりを通じて各自添削し、毎回提出するというものである。今回は、受講者に毎時間課した提出物の出来具合に着実な進歩が見られ、それが定期試験にも反映していたこと、授業評価のほぼ全ての質問項目において高めの評価を得ていること（全項目の平均が4.78）などから、目標は一定程度達成されたと思われる。自由記述では肯定的な評価として、「課題を毎回提出し、先生に確認してもらえるため、間違いや疑問点がそのままにならない」「書き下し文、現代語訳の解説に加え、補足の情報が充実している」「丁寧に解説してくださったり、当てられても言いやすい環境だったのでよかった」などの意見があり、授業の内容や運営については、一定の評価が得られたように思う。一方で、「（話が）一本調子で聞き取りづらい」との意見もあり、改善したく思う。

人文学部 人類文化学科
岡本　耕平　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地誌概説
授業コード 22C07-001
教員名　岡本　耕平
教員コード 049502
登録人数 76
回答数 19
回答率 25.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



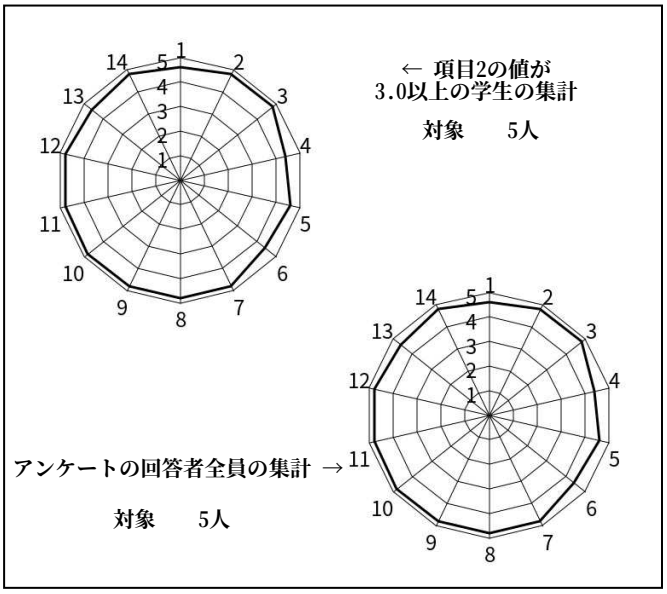
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は履修者数76、レポート提出者数67、期末テスト受験者数66、授業評価回答者数19人であった。
①設問５「この授業の到達目標を理解することができましたか。」に対しては、この授業の平均評価値は4.37で全授業の4.30を少し上回り、設問６「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」に対しては、この授業の平均評価値は4.21で全授業の4.22を若干下回った。評価平均値はさほど高くなかったが、いずれの質問に対しても１，２の評価点をつけた学生はおらず、「開講当初に設定していた目標と到達の程度について」は、まあまあの達成度合いだったと言える。
②項目14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」は、この授業の平均評価値は4.37で全授業の4.44を下回った。一方、項目15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対しては、「他学部履修生でも講義がわかりやすく,内容を理解しやすかった点」「教授の知識が深く、かつ初学者にも分かりやすく説明していただいた点。」など5人から肯定的な意見があった。項目16，17への回答はなかった。
③設問２「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」のこの授業の平均評価値3.68であり極めて低い。これを改善するのが次クォーターの課題である。また、高校での必履修科目「地理総合」を履修した学生が入学してくる初めての年である。愛知県は「地理総合」の登場以前は、高校での地理の履修率が全国で最低であり、本授業でも高校での地理履修経験者はごくわずかであった。それがどのように変化するのかに注意しつつ、授業を進めたい。

人文学部 人類文化学科
青山　幹哉　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文献資料講読(日本)B
授業コード 22C57-001
教員名　青山　幹哉
教員コード 019323
登録人数 8
回答数　5
回答率　62.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①設定した到達目標は、(1)日本中世史料解読に関する基本的知識を習得できる　(2)『吾妻鏡』の史料性格が理解できる　(3)鎌倉幕府の歴史的特性が理解できる、の3点であった。期末試験受験者の平均得点は70.8 点（100点満点）であったので、目標はある程度達成できたものと思う。また、設問14の平均値が4.80であったので、受講生はほぼ満足したものと判断する。

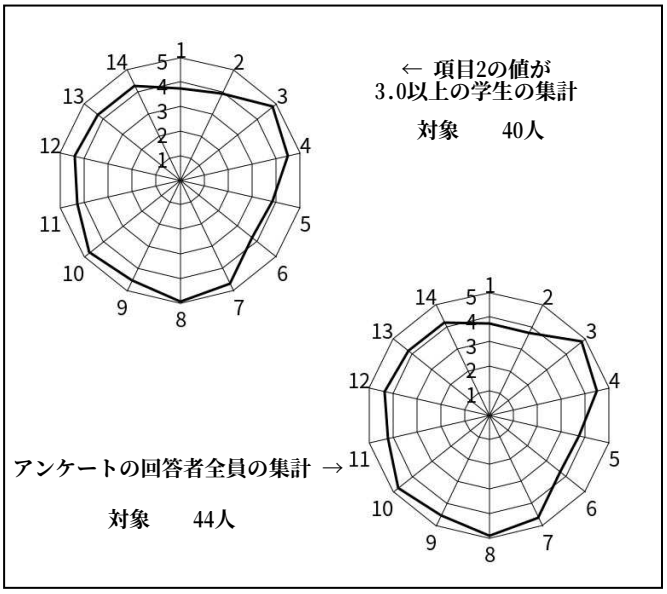
②この科目は人類文化学科科目であるので、同学科科目の1～14の項目平均値と比較すると、設問4で0.21、本科目の平均値が下回った（設問8は同値、他の12項目では学科平均値を上回った）。設問4は授業の構成や進行速度についてである。少し進行速度が早すぎたかも知れない。自由記述欄では「本文以外にも専門的な知識や裏話なども授業内で紹介されたので、興味が湧いた」「吾妻鏡の原本をただ講読するだけで無く、先生自身が持つ経験や知識を踏まえた自論が聞けて面白かった」「自分達の手で解読していく作業が非常に面白く感じた」等、好評価の感想が多かった。

③設問12の平均値は4.80であったが、授業後に質問に来る学生が13回目の授業まで現れなかった。この点にいささか不安が残る。また、②で触れたように、次回からは授業の内容量を減らして進行速度を調整することを考慮したい。

人文学部 心理人間学科
米山　薫　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　神経・生理心理学
授業コード 23C69-001
教員名　米山　薫
教員コード 104086
登録人数　59
回答数　44
回答率　74.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

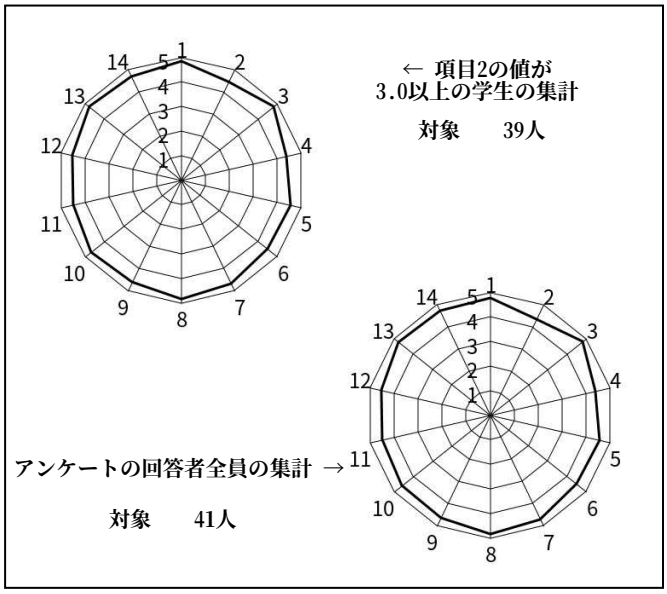
各設問項目に対するレーダーチャートを見てみると，相対的に点数が低い項目は①，②，⑤，⑥であり，学生の意欲や主体的な学び等に関わる項目であった。教員としては毎回授業に関するチェック課題を課すことで，復習のしやすさなどを工夫したが，来年度以降の授業方法に関しては更なる検討が必要なのかもしれない。また，⑥「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」などの点数は低いものの，定期試験の点数が特段低いわけではなかった。これは，学生の自己評価と教員が求める理解の程度には若干の乖離があるのかもしれない（最近の学生は大変真面目で100%理解しようとする傾向が強いように感じられる。しかし，教員としては100%理解できるとは思っていない）。

自由記述に関しては，「内容が難しかった」との意見もあるものの，良い点として「生理指標を使うことのメリットや、心理学実験をやる際のアドバイスも教えてくださったところ。実験結果のグラフから考察をするといった能動的に考える事後課題を与えてくださったところ。」「認知心理学と脳科学との結び付きを意識させるような授業構成だったため、内容を横断的に理解する一助になった。授業内容を踏まえて先生の研究も併せて解説してくれたので、ワクワクした。」との肯定的意見も多かった。理解が困難な学生に対するサポートは必要であるものの，安易に「学生全員が理解できる内容の授業」にするべきか，は判断が難しいところである。

人文学部 心理人間学科
山脇　望美　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　司法・犯罪心理学
授業コード 23C72-001
教員名　山脇　望美
教員コード 104477
登録人数 141
回答数　41
回答率　29.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



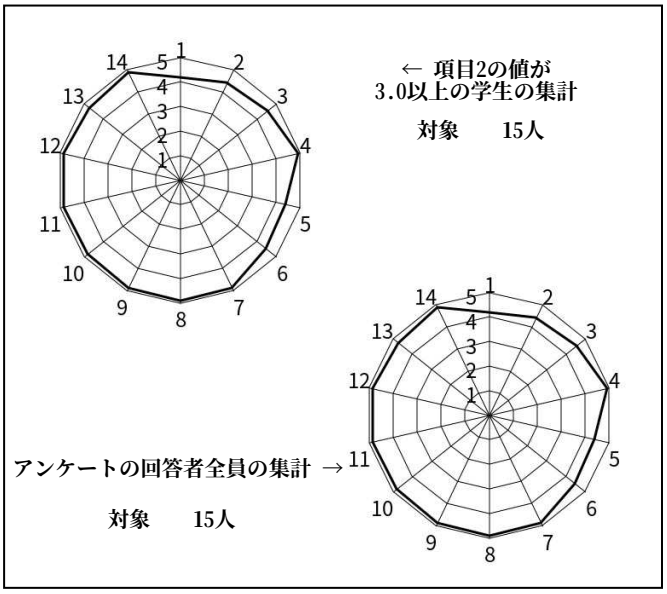
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスでは，「非行・犯罪の理論や法律など基本的知識の習得について理解できるようになる。また，非行や犯罪の加害者や被害者の心理アセスメントの理解と取り組みについて，一般的な理論や知識を認識できるようになる。さらに，非行や犯罪の動機や背景を理解し，加害者臨床の理解と取り組みについても知ることができる。更に関連機関である児童相談所，少年鑑別所，少年院，児童自立支援施設などについてもその概要を説明することができるようになる。加えて，各種の犯罪類型について理解し，各類型における犯罪動向を把握できるようになる。最後に，犯罪被害者についても理解できるようになる。」と記載しておりました。数値データおよび自由記述から，当初，予定していた目標と到達を概ね達成することができました。また，自由記述により，多くの学生に授業に興味関心を持っていただけたことが分かったので，引き続き，学生の利益になるような授業を展開していきたいと思います。ただし，授業のスピードを早く感じた学生の方もいらっしゃったので，今後は，可能な限り学生のペースに合わせた授業展開を心がけていきます。

人文学部 心理人間学科
脇田　貴文　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理学統計法
授業コード 23C75-001
教員名　脇田　貴文
教員コード 101105
登録人数 32
回答数 15
回答率 46.9%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



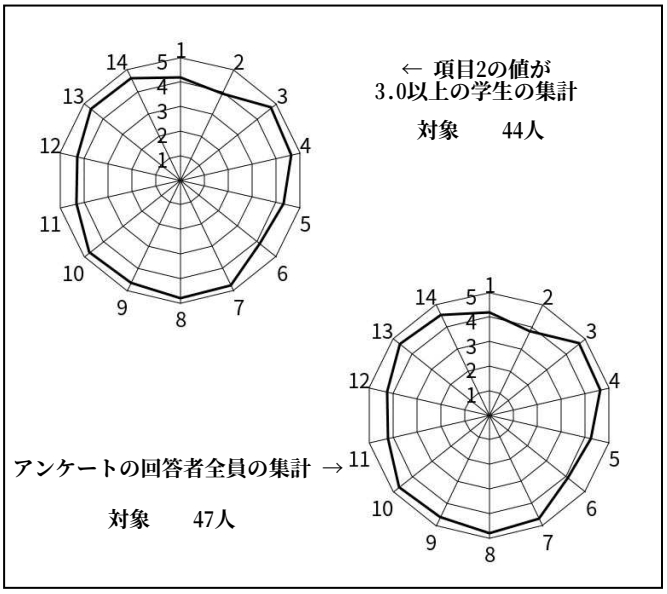
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本講義は、心理統計学の講義であり学生にとってはハードルが高いものである。
そのため、まずは嫌わないことを伝えて基本的にはほとんどの学生が最後まで講義に出席できていた。数式では無くイメージで理解するということもできていたように思う。
結果として、ほぼ全ての学生が最後まで講義に出席し、心理統計学への過度な苦手意識は軽減できたと思われる。
提出されたレポートの内容からも、学生が概念的な理解を深めていることが確認できた。
開講当初に設定した目標は概ね達成できたと考えられる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
項目3以降はほぼ4.5以上、項目7以降は4.7以上であった。
特に、項目7：担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。で4.87、
項目13:この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。も4.87であったため
全体的に良い評価が得られたと思われる。

人文学部 心理人間学科
丹羽　統子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	医学概説(人体の構造と機能及び疾病)
授業コード	23C77-001
教員名	丹羽　統子
教員コード	104280
登録人数	81
回答数	47
回答率	58.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 設定目標と到達の程度:
講義内容が難解なため毎年最初の数回を受けた後に欠席が続く受講者がいるため学生の出席率を85%以上維持する事を目標にする→今年度は受講必須学科となっている心理学科のみが対象となっていたため例年より学生の出席率が高く、初回の出席率は83%で最低であったが、その後は平均89%の出席率で目標は達成できていた。

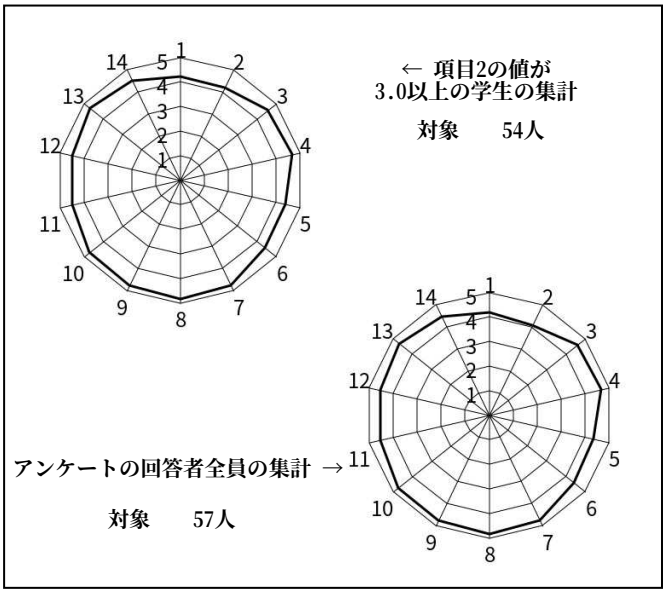
②
総合的な自己点検・評価：70点。講義の脱落者が減ったことで一定の目標は達成されたと考える。事前の予習を促すために本年度は教科書を選定して講義を行ったが、教科書でカバーできない内容が多く結局当日の講義スライドで全てをカバーする形となった。年々講義内容を一般的な内容にシフトし興味を持てるように変更しているが、逆に学生からの反応は年を追う毎に薄くなってきている。

③
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針：講義科目の性質上、授業における情報量が過剰で学生の理解が追いつかない、興味を持ちにくい講義であると考える。専門的な内容を減らしてなるべく平易なものにしていく努力を行うが、簡易にすることで情報が減りすぎて学びが失われる可能性もある。バランスを考えながら内容を考え直していく。講義時間外の予習/復習の機会を設けるために何らかの工夫ができると良いと考えている。

人文学部 日本文化学科
早川　由美　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本芸能史
授業コード　24C16-001
教員名　早川　由美
教員コード　101167
登録人数　81
回答数　57
回答率　70.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



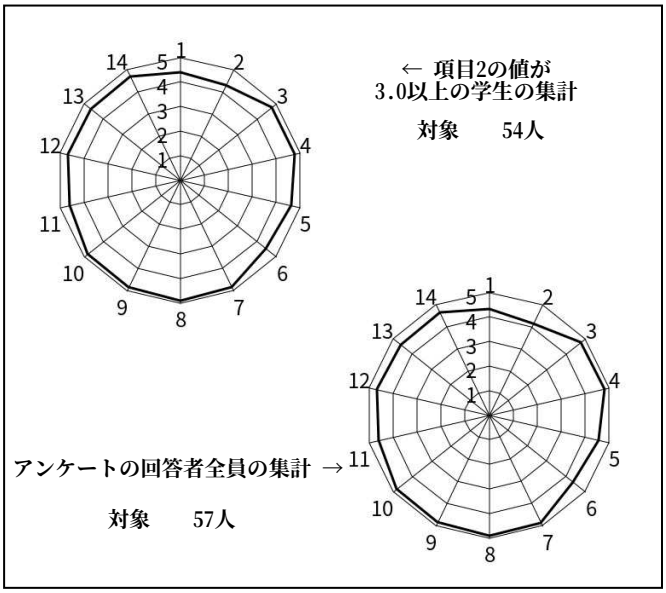
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では日本の芸能の歴史について興味関心を持ってもらうことと、その歴史を理解してもらうことを大きな目標にしているが。それについては、ほぼ達成できたのではないかと思う。
授業の進め方や機器の使用について、昨年までは音量調節の不適当や画面の見にくさ、操作に手間取るなど自由記述で指摘されたが、８の評価が昨年より改善しており、同一校舎であったため機器操作に戸惑うことが少なく、またスライドなども工夫した成果があったと思われる。
授業の内容に対する事前の興味関心があったかという１や、主体的に予復習したかという２の数値よりも、５の到達目標を理解できたか、６の到達目標について力が付いてきたかという数値の方が高くなっていること。さらに、１３の新しい知識を得たと感じた学生が多いことから授業の目標到達が概ね出来たと考える。
次クォーターに向けては、より内容に興味関心を持ってもらう方法を考えてシラバスを作成したい。

人文学部 日本文化学科
末松　美咲　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文学史B
授業コード　24C30-001
教員名　末松　美咲
教員コード　104989
登録人数　86
回答数　57
回答率　66.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



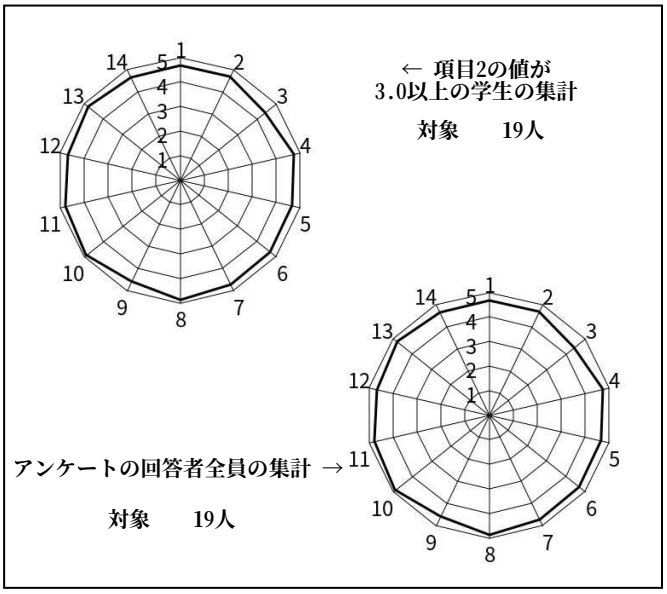
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 本講義は、近世文学の特徴である出版文化に焦点をあて、絵草紙屋や書肆の活動なども視野に入れて作品を読み解くことで、近世文学の特徴を理解しようとするものである。本の大きさや挿絵など、メディアとしての形態面にも着目しつつ、文学史の流れのなかで作品を捉える力を養うことがねらいである。
② 数値データから、おおむね満足した学生が多かったようで何よりである。ただし、項目2の学生の主体的な学習については他の項目と比べ低い数値となったため、さらに学生の学習意欲を引き出すような工夫が必要であることを感じた。また記述式の回答から、スライドや配布資料が学生の授業理解に役立ったことがうかがえる。今後も適切な教材の提示を心がけたい。一方、授業の方法やスライドの切り替えについて改善を求める声も挙がったため、より学生の様子に気を配りながら授業を進める必要性も感じた。
③ 学生の興味・関心を引き出す説明を心がけるとともに、適切な授業スピードを保ちながら進めていきたい。

人文学部 日本文化学科
伊藤　恵美子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語教育教材研究
授業コード 24C62-001
教員名　伊藤　恵美子
教員コード 102909
登録人数　25
回答数　19
回答率　76.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

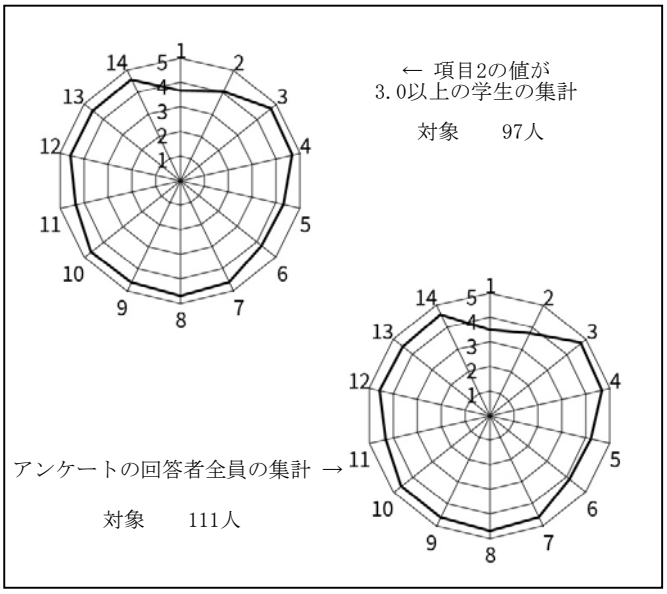
開講当初に設定していた目標は、日本語教育教材のレベル別特徴を知っている、日本語教育教材のスキル別特徴を知っている、日本語学習者のニーズに合う教材が作成できるようになる、の3点である。授業期間後半のグループ発表で時間割設定の時刻をフレキシブルに運用したため設問３「授業の開始と終了の時間」についてのみやや低いが、他の項目はすべて全体平均より高い。設問５「授業の到達目標の理解」設問６「力がついた」設問８「教員の声」設問10「授業妨害行為への対処」設問11「学習を促す適切な指導」設問12「質問・事前事後指導」は、人文学部・日本文化学科の平均値をも上回っている。設問13「授業を通して知識を得て理解が深まった」の平均値4,79より、到達目標は達成できたと考える。

自由記述は「教材作成に興味があり、取りました。面白い授業でした」「教材作成が全員で取り組むので力になった」「何度も発表があって慣れることができた」「グループワークで模擬授業という形式での発表であったこと」「別のグループの発表を見て勉強することができた」「生徒の自主性が重視され、どのような意見を言ったり、教材を作成したりしても良いところ。改善すべきところを生徒同士が指摘し合える講義だった点」「内容が充実していた。特に、前半の講義パートで、外国人のビザや日本語教育の実態について知れたのが良かった」と高評価だったので、今後もこのような評価が得られるようにしたい。

人文学部 キリスト教学科
寒野　康太　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[E]1
授業コード　10A01-007
教員名　寒野　康太
教員コード　104315
登録人数　134
回答数　111
回答率　82.8%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



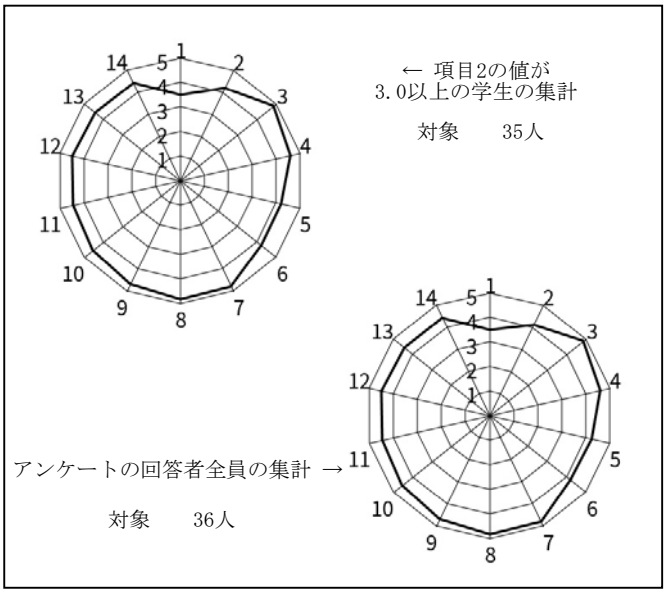
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、到達目標として、１宗教のもつ意義、そして歴史上見られた弊害について、諸宗教の具体的な例の理解をふまえて各自の宗教観を表明できるようになっている。２宗教学の基礎的な概念を理解し、それらの人文学上の意義に関して意見を表明できるようになっている。
３いくつかの宗教の基本理念を説明できるようになっている。という三点を挙げた。これらの点に関して、よく理解して、授業に参加してくれたということがよく理解できた。特に、授業の速度に関しては、すこしゆっくり丁寧に理解促進に努めたことが評価されているようで、これは、継続していきたい。また、宗教学が、宗教評価に関して中立的であるということを強調した点を評価していることに留意したい。この点も学生たちには新しい知見であるようで、宗教に理解を深めることは必ずしも信仰に参与するということと違う姿勢でありうることを今後も強調していきたい。
数値データを見ると、できる限りの努力で授業を実施したことに関して、よく理解し参加してくれていたことはわかるが、自主的に予復習や、参考文献などを読み込むなど授業時間外の学修活動にやや難がみられることに、今後の課題を見出した。これらについては、課題を出すなどして対応することとしたい。

人文学部 キリスト教学科
南　翔一朗　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[E]2
授業コード　10A01-008
教員名　南　翔一朗
教員コード　104627
登録人数　46
回答数　36
回答率　78.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
アンケートの回答内容や全体的な評価を考慮すると、シラバスに記載した到達目標についてはかなりの程度の到達度であったと考えられる。特に宗教に対して興味関心を持つこと、またその上で誠実に調査・思考する態度を持つこと（およびその必要性を強く認識すること）については、満足できる結果だったと思われる。

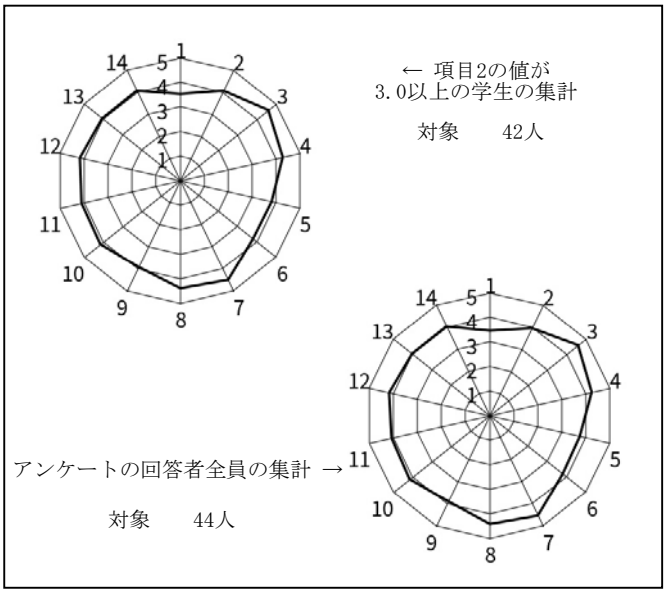
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
教室の空調管理についていくつか意見があったが、階段教室の場合、教室前方と教室後方の温度に大きな違いが出るようで、前方で授業を行っている教員はその温度差に気づくことができず、教員一人で管理することは不可能である（特にG棟の大きな階段教室は傾斜がきつく、教室後方の暖房が過剰に効いてしまうようである）。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
出席やワークシート提出の不正を未然に防ぎ、授業参加度を比較的正確に測る方法を確立できたので、授業の形式については現状を維持したい。ただし、内容についてはもう少し情報量を多くするなど、改善の余地もあるように思われる。

人文学部 キリスト教学科
DANCAR, Aleksander　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[E]3
授業コード　10A01-020
教員名　DANCAR, Aleksander
教員コード　104655
登録人数　150
回答数　44
回答率　29.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



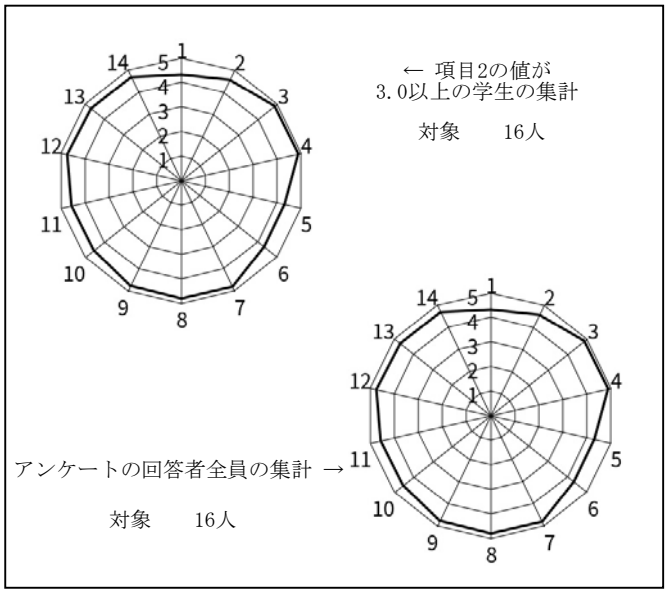
授業評価結果を踏まえた点検・評価

宗教論対する学生評価を読んだ後、平均点が最も低いのは学生の興味であることがわかりました。これは、私が南山大学で宗教論を教える中で直面した最も困難な課題だと思います。宗教への関心がないため、卒業要件を満たすためだけにこの授業を受講する学生もいます。授業を欠席している学生がいるのに、出席リストに出席の確認が載っているという経験をも何度かしました。最後の10-15分で到着する学生もいて、出席リストを埋めるためだけのようでもあると思います。また、早めに到着する学生もいますが、出席リストを記入するとすぐに退出してしまうこともあります。他には出席していますが、友達とチャットしたり、化粧をしたり、携帯電話やラップトップでゲームをしたりしてしまいます。しかし、この講義に注意を払い、真剣に聞いてくれる学生も半分以上いると思います。彼らの誠実さは、リアクション・ペーパー、期末レポートから見ることができます。私は、この宗教論の講義を準備する際に、上記のような状況について考えてきました。宗教論を教え始めて3年目ですが、迷惑の行為をしてしまう学生の中には、時々注意を言ってしまいました。個人的には、そういう学生とコミュニケーションを取れることに責任を感じていますが、時間の制約以外にも、考慮すべきことがたくさんあります。私は常に学生の自由を尊重します。 これは私が生きている基礎的な価値観であり、学生たちにも伝えたい価値観でもあります。 私がしていることは、この宗教論の講義を通じて、私の人生だけでなく、彼ら全員の人生にも役立つと考えるいくつかの人間の価値観を共有することだと思っております。

人文学部 キリスト教学科
松根　伸治　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテン語IV＜全＞1
授業コード 11J12-002
教員名　松根　伸治
教員コード 101833
登録人数　25
回答数　16
回答率　64.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

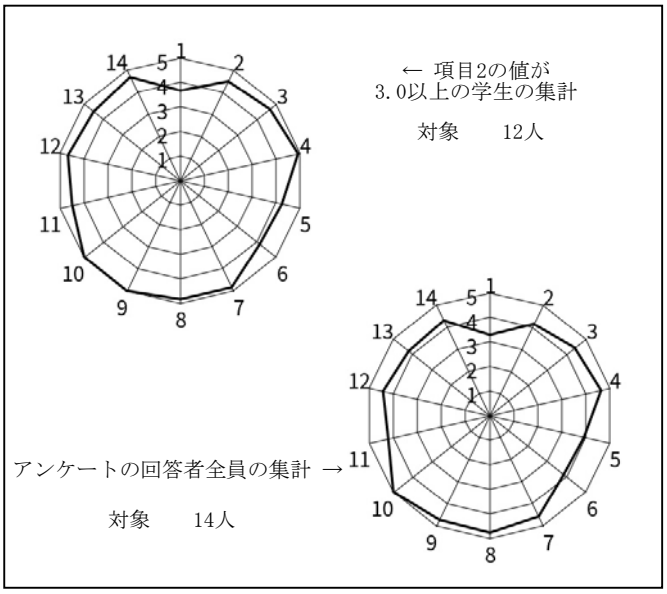
相対的に数値が低いのは到達目標に関する設問5と6で、どちらも4.31だった。シラバスに掲げてあった今期の到達目標は、「ラテン語の文章読解の基本的手順を理解している」、「辞書を引きながら平易なラテン語文を訳すことができる」の二項目である。Q4にはラテン語文の読解が中心だったために、内容が難しいと感じて自己評価を低めに回答した人もあったと思われる。次年度は各授業ごとに細分化した具体的目標を明示するなどの工夫をしたい。

全体的に見ると、設問13（新しい知識、理解の深まり）が4.69、設問14（満足）が4.69であることから、授業の目標自体はほぼ達成できたと判断してよいだろう。日常の提出課題と期末の復習問題からも一年間の着実な成果をうかがうことができた。自由記述では自分の理解の深まりについて肯定的な下記の感想も見られた。「実際にラテン語で書かれた文を読んで文法の復習をしたり、歴史的な事柄を知ったりすることで見識を深めることができた。」「名前だけ知っていた言語だったラテン語を、初めて学んだ時に比べて、訳を作ったり、文法的に理解することができたと感じられたところが良かった。」

人文学部 キリスト教学科
井上　淳　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテン語IV＜全＞2
授業コード 11J12-003
教員名　井上　淳
教員コード 100301
登録人数　29
回答数　14
回答率　48.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初に設定していた目標にはほぼ到達できたと思われる。設問4（毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか）は4.64、設問14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は4.29であった。また、設問9（教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか）は4.71、設問10（私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたか）は5.00であった。今回の最終レポートではビンゲンのヒルデガルトの『自然学』から「サファイア」を解読してもらった。内容は次のとおり。

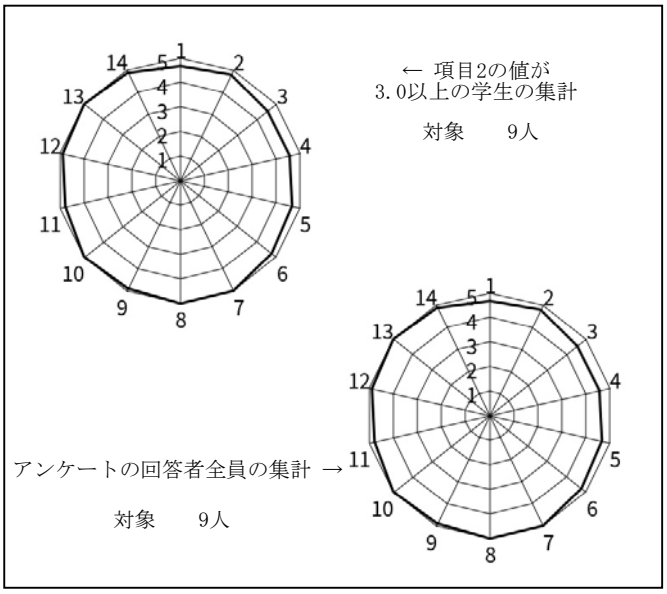
(1)もしある人が悪霊に支配されているのなら、別の人がサファイアを土の中に置き、その土を自分の革ぶくろの中に入れなさい、そしてこのようにして、それをその人の首にかけ、こう言いなさい。(2)「おお汝(なんじ)、最も邪悪なる霊よ、急いでこの人から消え去りなさい。ちょうど汝の最初の転落において、汝の輝きの栄光がたちまち汝から消え失せたのと同じように。」(3)するとその悪霊は大いに苦しめられ、当(とう)のその人から消え去るでしょう。(4)また、もし悪魔がある男性をある女性への愛へと駆り立てていて、そのようにしてその男性が自らの愛において正気を失い始めたなら、(5) そして、もしそのことがその女性にとって煩わしいことなのであれば、この女性は、少量のワインをサファイアの上に3回注ぎ、注ぐ度に（同じ回数）こう言いなさい。(6)「私はこのワインを、熱烈な力のうちに、あなた（＝サファイア）に注ぐ。ちょうど背いている天使から神があなたの輝きを引き離したように、そのように、願わくはあなたがこの男性の熱烈な情欲の愛を私から引き離してくださいますように。」(7)そして〔そのワインを〕その男性に3日間またはそれ以上、飲むために与えなさい。そうすれば、その情熱的な愛は止むでしょう。

より興味深いラテン語の文献を見つけて行きたい。

人文学部 キリスト教学科
袴田　渉　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ギリシャ語IV＜全＞
授業コード 11K08-001
教員名　袴田　渉
教員コード 104814
登録人数　22
回答数　9
回答率　40.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



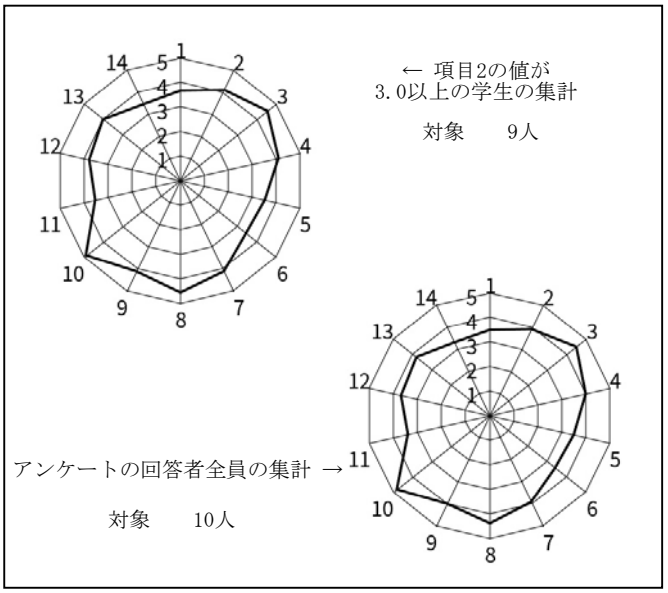
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初は、単なる文法習得にとどまらない、映像資料等の副教材を用いた古代ギリシア文化の紹介も含んだ授業を目指していたが、実際には毎回の宿題の答え合わせに多くの時間を取られてしまったために、資料紹介をする時間的余裕を作ることができなかった。ただし、答え合わせの合間に、口頭や板書で教科書の文章題の思想的、文化的背景の説明を交えることで、一定程度目標を達成することができたと考える。
②数値データに関しては、項目1から14までの平均値が4.82と高い評価を得られ、特に項目7、8、10、13について高評を得たことが分かった。項目13の自己評価としては、前述の通り、教科書に用いられる文章題の文法的解説にとどまらず、その思想的、文化的背景を丁寧に説明することで、ギリシア語理解の定着と深化を促したことが功を奏したのでないかと推測する。また、相対的に数値の低かった項目3に関しては、宿題の答え合わせに多くの時間がかかってしまい、毎回の授業課題を時間内に終わらせることが難しく、度々終了時刻を超えて授業を行ってしまったことが主たる原因であったと考えられる。
③次クォーター以降に向けての改善点・方針としては、授業時間の確保のため、学生一人ひとりが宿題を効率的にこなして授業に臨めるように、学習の手引きなど自学自習を支援する教材や授業資料を作成し、教科書と併用して使用することを試みたい。また、授業時間外に、対面・メール・WebClass等を利用して、学生が授業内容について教員に気軽に相談できる態勢をより一層整えるようにしていきたい。

人文学部 キリスト教学科
SUSAI, Raj　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　神学入門
授業コード 21C01-001
教員名　SUSAI, Raj
教員コード 101347
登録人数　32
回答数　10
回答率　31.3%
休講回数　2 回
補講回数　0 回



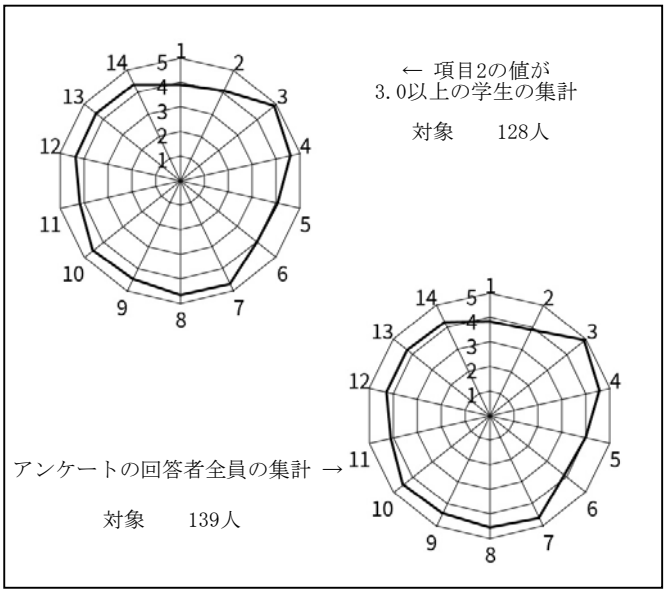
授業評価結果を踏まえた点検・評価

第４Qにおいて実地された神学入門においてはできるだけシラバスに沿って授業を進めた。しかし学生の評価にもあったようにシラバス通りにはすすめることができなかったのは半分以上の学生がキリスト教についての知識はほとんどなく、全員の理解のためにシラバスを変更することがひつようであった。学生の半分は勉強に意欲を見せたがそのたは単位取得のために来ていたような印象だった。学生には課題等を提出する場所をWebclassのメールを通してと指示しても操作等は理解できていないため混乱があったと思われる。その解決とおして時期年度は明確に指示し授業中に一緒に確認すこと進めていく。教える側からみると到達目標達成したと思われる。学生の中でも理解力の差が大きな違いと思われる。つまり授業の進行が困難であったこともある。今後、授業に対する学生の意欲を積極的に促す工夫していくのがいいと思われる。また言葉の使い方を学生が理解できる範囲して誤解をまねくような言葉遣いをさけるのもひつようである。全体的にやりがいのあった授業であった。

人文学部 キリスト教学科
三好　千春　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教史(近世教会史)
授業コード 21C04-001
教員名　三好　千春
教員コード 101173
登録人数　213
回答数　139
回答率　65.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



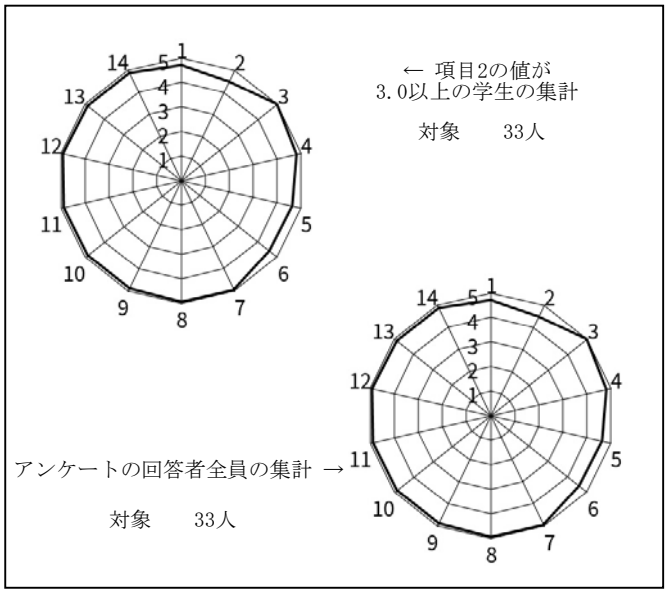
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　設問６の数値を見る限り、学生にとっては到達目標の「宗教改革およびカトリック改革を理解し、その歴史的意義を考察できる。」が達成できていると実感しているとは、やや言いにくいかなと思われた。学生の中には世界史やキリスト教の知識があまりない人々もいたため、初歩的、基本的な説明をする時間もそれなりにとったことで、歴史的意義を説明する時間が十分に取れなかった部分はあったことも影響しているかもしれない。
②　自由記述欄の感想を読む限り、学生の多くは講義に満足してくれてているようで、ありがたく感じた。特に、写真や映像など、少しでもなじみのない内容を分かりやすくしようと工夫した点や、学生の疑問に答えるように努めた点、できるだけ分かりやすく話すよう努めた点などについて、多くの学生が評価してくれており、講義準備に時間をかけた甲斐があったと思った。やはり、こちらが努力した部分は学生にも伝わるのだと思い、来年度以降も、この姿勢を継続していきたい。
③話し方が早いという指摘が出ていたので、この点を改善したい。

人文学部 キリスト教学科
HERA, Marianus Pale　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　新約聖書学（ヨハネ文書）
授業コード 21C82-001
教員名　HERA, Marianus Pale
教員コード 102689
登録人数　37
回答数　33
回答率　89.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業『ヨハネ文書』はキリスト教学科のカリキュラム改正の関係で次年度から廃止されることになります。今後、この授業の内容は別の授業で扱うことになります。ヨハネの手紙（一、二）及びヨハネの黙示録は『書簡B』という授業で次年度扱い、ヨハネ福音書は『福音書A』という授業で扱うことになります。

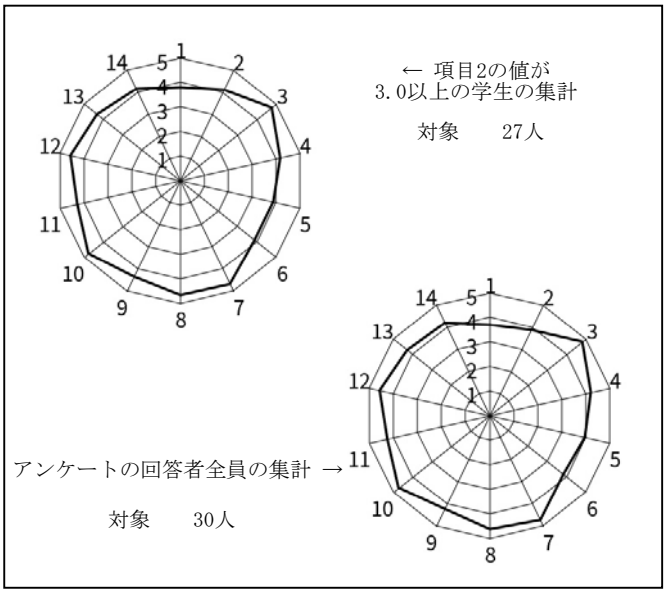
14回の授業を振り返り、また学生の授業評価の結果をみると、この授業は全体として目標に達成できたと思います。学生からは、「聖書が初めての人にも分かりやすく、客観的な視点から聖書を学ぶことが出来た」、「ヨハネによる福音書の歴史的背景のみならず、神学的要点を良く理解でき、これまで自分が理解していた事を更に深める内容だった」などのコメントがあります。また授業の達成度は評価の各項目の数字にも表れています。

今後はこの授業の内容は別の授業で扱うため、この内容のための時間配分が少なくなります。効率の良い授業展開が今後の課題にしたいと思っています。もう一つ、学生からは「教室の構造上、後ろの席だとパワーポイントのスライドが見えにくい」という声もありますので、授業のはじめに教室の確認が必要だと思っています。

人文学部 人類文化学科
谷口　佳津宏　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　哲学B1
授業コード 12A02-001
教員名　谷口　佳津宏
教員コード 016550
登録人数　60
回答数　30
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



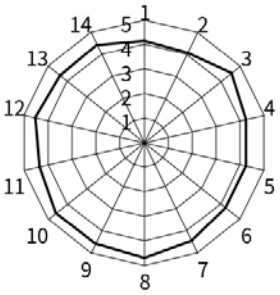
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業目標は「1.カント哲学の基本内容を理解できるようになる。2.哲学書をある程度読みこなすことができるようになる。3.哲学的思考の基本を理解できるようになる。4.論理的に物事を考えることができるようになる。」の4点であった。定期試験の結果から判断するに，受験者総数45名中，合格者（成績C以上の者）は30名であったので，全体のおよそ66%が到達目標に達しえたのではないかと考えている。なお，設問中，開講主体別平均値以上であった項目はわずかに3,7,10,12だけであり，その意味ではまだまだ改善の余地があるが，しかしこれでも，これまでの同科目に対する評価と較べてみると，多少はましなものとなっている。このことは，自由記述欄の改善すべき点に，今回は「早口だった」という意見がひとつあっただけで，従来のような心に突き刺さる厳しい批判はみられなかったということにも伺える。なお，よかった点としては，「一つのことを丁寧に説明していた」，「資料が詳しいところ」，「授業に関する質問用紙が毎回配られ、次回の授業中に答えてくれる形式なので、気軽に質問でき、理解を深めやすい」という指摘などがあった。次年度は，当報告者にとっても最後の年度となるが，早口という批判を払拭できるよう，これまで以上に話す速度に留意しながら授業していきたいと考えている。

人文学部 人類文化学科
藤川　美代子　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

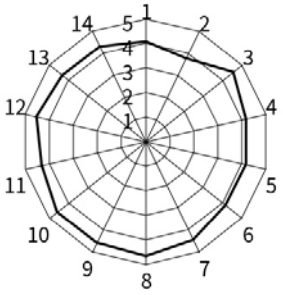
科目名　異文化との接触3
授業コード　13A02-003
教員名　藤川　美代子
教員コード　103115
登録人数　199
回答数　43
回答率　21.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　38人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　43人

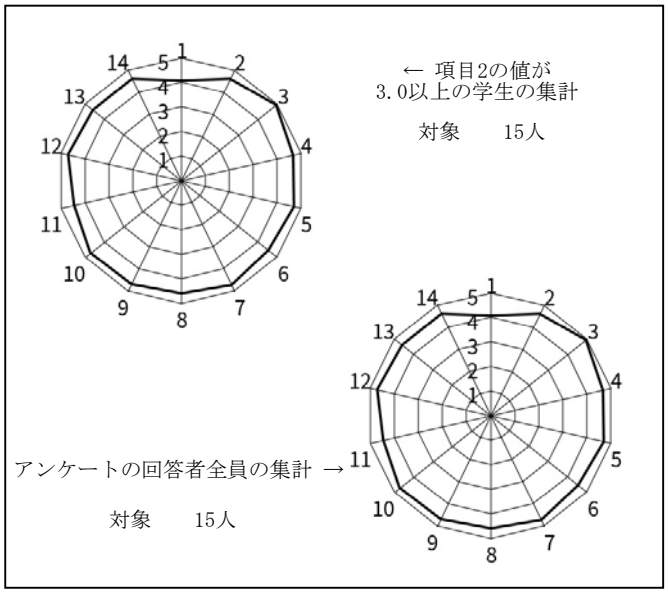
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初、「自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作ること。マイノリティの人々の生活世界を捉えるために必要な視座を獲得すること。台湾に存在する社会的・文化的問題について、自分なりの意見を持てるようになること。異文化の理解を通して、自らの文化を相対化する姿勢を身につけること。」という目標を掲げたが、おおむねその目標は果たせたと考えている。②授業中は可能な限り、写真や映像を織り交ぜながら、台湾社会の複雑な歴史と海洋を通して見える日本との矛盾をはらんだ関係性、さらに多元性を打ち出す台湾社会の課題といったものを受講生に伝えることに努め、アンケート結果からも一定の理解と興味関心を引き出すことに成功したものと思われる。③ただし、「レポート100%で評価する」としたために、ほとんど授業に参加しない学生も多く、まじめに参加している学生には不公平感が残ったものと思われ、その点については次年度以降、改善に努めるつもりである。参加したふりをして課題を提出する学生も散見され、この点についても改善に努めたい。また、次年度以降は授業の内容をより充実させるつもりである。

人文学部 人類文化学科
浅石　卓真　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報サービス演習II1
授業コード 15P13-001
教員名　浅石　卓真
教員コード 103263
登録人数　21
回答数　15
回答率　71.4%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
シラバスでは「1. パスファインダーを作成できる」「2. 図書館紹介動画を作成できる」「3. SNS(YouTube)による情報発信ができる」の三点を設定した。それぞれ受講生から提出された課題を確認する限り、一定の水準の成果物が提出されており、目標は達成できたと考えている。

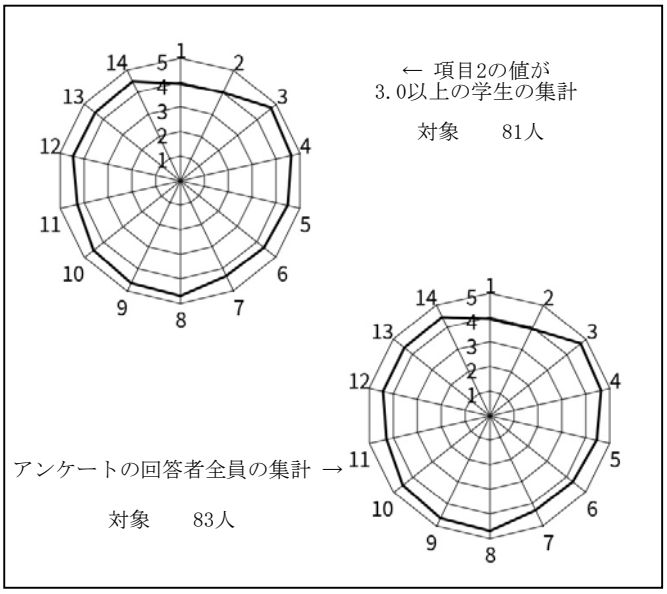
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
項目1から14の平均は4.62、項目3から14の平均は4.67であり、開講主体別（資格科目）および登録者数別（30名以下）の平均を上回っており、特段の問題はないと思われる。
個別の設問についても「この授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったと感じますか」には73%が「そう思う」と回答しており、自由記述でも演習を通じて「理解が深まった」「力がついた」という肯定的な評価もみられた。一方で、図書館の現場で使えるような、より実践的な（難易度の高い）課題を求める声も見られた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
基本的な方針は本年度の授業内容と同様としたい。ただし、全員向けの提出課題が早く終わった学生には、追加の（少し難易度が高い）課題を任意で提出してもらうといった工夫をしたい。

人文学部 人類文化学科
中尾　央　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人類文化学基礎論B
授業コード 22A06-001
教員名　中尾　央
教員コード 102505
登録人数　110
回答数　83
回答率　75.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初は以下を挙げた.
・人類文化に対する多様なアプローチを理解している.
・人類文化に対する様々なアプローチを比較し，それぞれの長短所を考察できる.
数値的には概ね達成できたように見える.

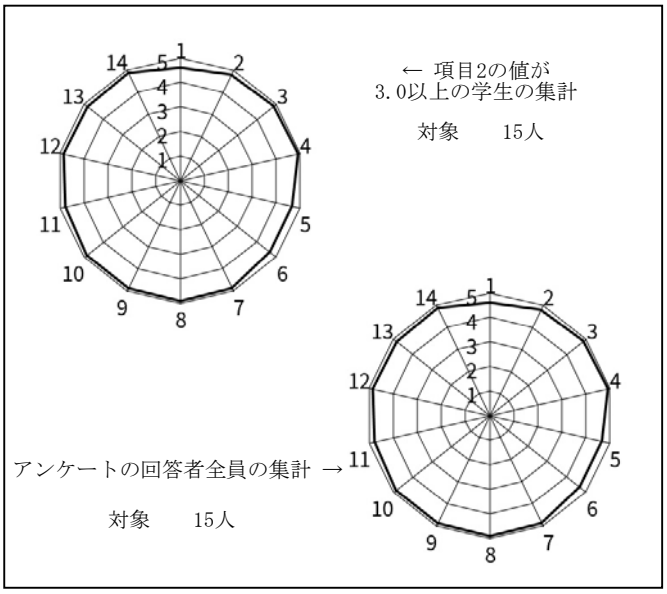
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自由記述は概ね高評価に見える．授業が静かでよかったという評価と，うるさかったという評価があり，何がどうなっているのかわからない．私語はなかったように記憶しているが，休憩時間まで静かにすべきなのだろうか.
「課題が自分の興味の持った分野二つの論文を選んで要約するというもの。一つの分野にしか興味がなく、万一にも他のゼミを選択する可能性がない場合、自分の興味のない課題を無理矢理させられる」という記述があった．必修科目なのでこうした苦情が入るようなら，もう幅広い視点からの授業はやめた方がいいのかもしれない.

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
1年次はできるだけ広く選択肢を提示するのが重要だと考えて授業を行なってきたが，少数ではあるが，それが望ましいと考えない学生もいるようだ．何が正解なのか現時点では私にはわからないが，こうした授業評価を受けて再考せよと言われれば，方向を変えるべきだということになるのかもしれない.

人文学部 人類文化学科
和泉　悠　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　意味論
授業コード 22C15-001
教員名　和泉　悠
教員コード 103645
登録人数　65
回答数　15
回答率　23.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は以下の通りである。
1.形式意味論と語用論における基礎的な概念と道具立てを理解する。
2.自然言語の意味にまつわる現象を、理論的に説明していく方針を自分で考えることができる。
到達目標１、２、４それぞれについて、授業内課題の解答、小テストの解答、期末テストの結果を踏まえるに、合格者は十分に到達できたと考える。
たとえば、期末テストの問題の一部は、授業内で行なった課題の問題そのままではなく、授業で学んだことを応用しなければ解答できない問いが含まれていた。その問いは選択問題であったが、かなりの数の学生がそれを答え、十分に合格点となる解答を提示していた。

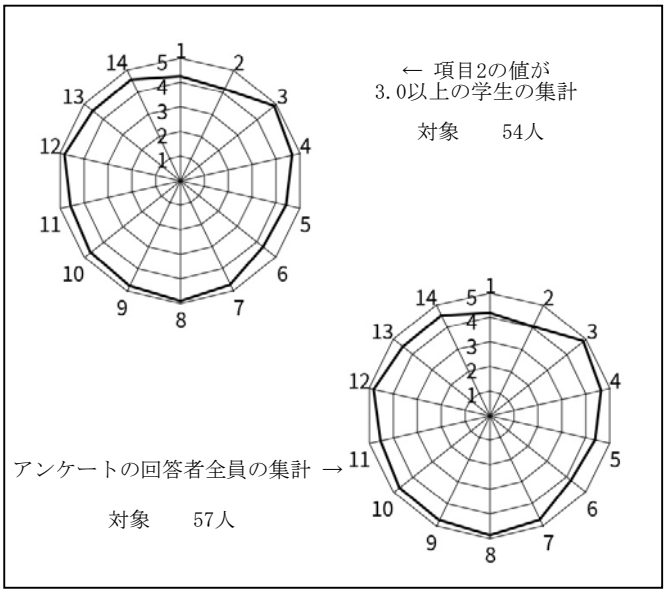
②数値および自由記述も肯定的な回答が多いと考える。また、できるだけ資料や進捗を電子的に共有する点、質問に答えて解説をするチュートリアル的時間を設けている構成なども肯定的にとらえられていると思われるため、今後もその要素は変えないようにする。

③「最終課題が授業の学習内容の理解度を試すためのテストではなく、自身の関心のあるテーマを深めるレポートに設定してほしかった。」というコメントは興味深く、レポート課題も今後検討したい。しかしながら、生成AIの登場・アクセスの容易さにより、簡単にレポート課題を提示できないため、かなりの工夫が必要となることが見込まれる。

人文学部 人類文化学科
吉田　竹也　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域の文化と歴史(環太平洋)
授業コード 22C44-001
教員名　吉田　竹也
教員コード 019158
登録人数　100
回答数　57
回答率　57.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



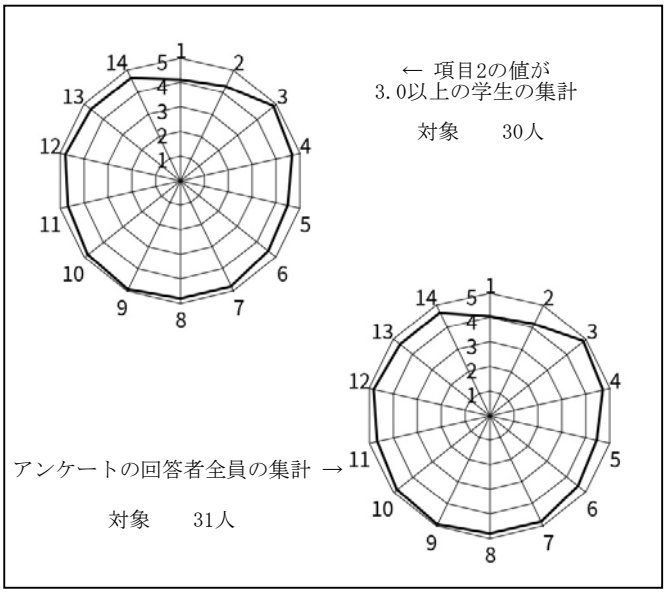
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、複数の学問的視点を横断しつつ、「琉球弧」という地域の多様性と共通性を学びつつ、この地域を日本中心主義的・那覇中心主義的にみる視点を脱構築することを目標に掲げている。また、今年度は学習を補う補足資料をおおくDLサーバにアップした。
数値データと自由記述を見るかぎり、こうした授業の目標やねらいは履修者に好意的に受け止められたと判断する。「講義担当者がこれまでフィールドワークで収集してきた豊富な資料とりわけ写真が理解に役立っている。新聞記事や過去の論文など、補足資料も多く予習・復習の際の学べる情報が多いため学習が楽しかった。分野を横断した学際的な内容だったのも、様々な学問への興味を拓くものとして非常に素晴らしいアプローチだと思った」「生徒に「伝えよう」と意識して授業されていたので、こちらも「知りたい」という気持ちがくすぐられ、モチベが向上した」「この授業では、考古学や歴史、経済など様々な視点から沖縄を見ることができる。また、日本本土からみた沖縄戦ではなく、沖縄周辺地域からみた戦争を知ることができた」「教員自身が経験したことに基づいて話がされていた点がリアリティがあってよいと感じた」などのコメントがあった。
改善点としては、スライドの背景の色の影響で一部のメモが見にくくなることがあった、背景色をシンプルなものにした方がよい、という意見があったので、これを検討したいと思う。

人文学部 人類文化学科
石川　岳彦　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(中国的世界の形成)
授業コード	22C72-001
教員名	石川　岳彦
教員コード	104800
登録人数	90
回答数	31
回答率	34.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



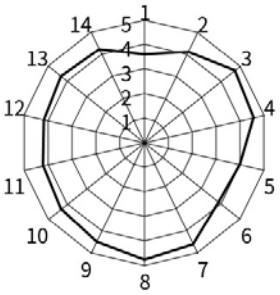
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①中間レポート（提出率88.9%）と期末レポート（提出率87.8%）の採点結果やアンケート結果をもとに、履修学生の授業内容理解度をみると、開講当初に設定していた目標は達成できたものと考えられる。
②1～14の全項目平均値が4.64、3～14の項目の平均値は4.73で、大学全体、開講主体それぞれの平均値を上回った。各項目の平均値をみると、3～14の項目はいずれの値も大学全体の平均値より高かった。また、開講主体の平均値と比較しても2～14の項目の値がすべて上回っていた。授業前時点での興味関心度に関する質問である項目1の値がそのほかの項目に比べて低かったが、これは授業内容が当初の期待以上だったことを一面では示唆しているだろう。
自由記述回答をみると、具体的な良かった点や評価できる点として、WebClassのメッセージや毎回の授業の冒頭で前回のリアクションペーパーに記載された質問に対して丁寧に回答していたことへの評価が目立った。これらは授業の質向上のために意識的に実践したもので、取り組みとして成功だった。
③アンケートの結果を総合すると、授業の内容、方法ともにおおむね適切だったと言える。
改善点をあげるとすれば、主体的学習に関する項目2の値が大学全体の平均値より低かった点である。来年度は毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する小テストを実施して、履修している学生が主体的に学ぶための方策としたい。また、今年度は授業への遅刻者が散見されたため、小テストの実施は遅刻者をなくすための対策としても考えている。

人文学部 心理人間学科
林　雅代　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人間と環境1
授業コード 13D02-001
教員名　林　雅代
教員コード 018796
登録人数　67
回答数　43
回答率　64.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

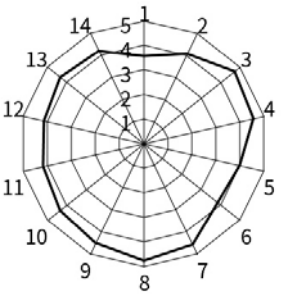


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　42人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　43人



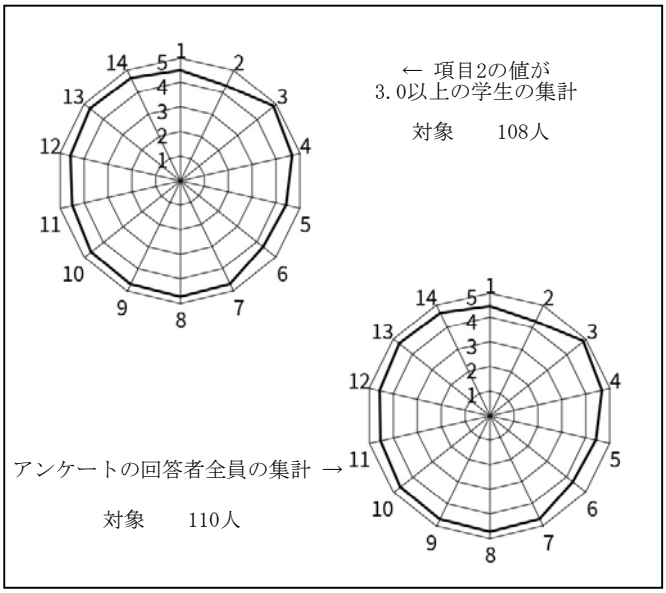
授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者数は当初は80名であったが、履修中止等で67名となった。実際に毎回出席している受講者は45名前後であったため、授業評価の回答者は毎回出席している受講者がほとんどと思われる。毎回出席している受講者の受講態度は非常に真面目という印象を受けていたが、実際に予習復習を行なって授業に臨んでいたことが、授業評価の結果からわかった。授業の事前学習課題が見にくい、量が多い、という自由記述もあったので、来年度は見直しを行いたいと思う。授業内容の全体的な枠組みを繰り返し伝えることや、受講者が使いやすい教材の提供、授業内で授業内容に関する簡単なアンケートを行って授業内容へとつなげることなど、受講者の授業理解に向けた工夫を行なったことについては、評価項目９の評価や自由記述にも成果が表れたように思われる。この授業を通じて、「子どもの社会史」を通じた歴史や社会の理解を促すことを到達目標としてきたが、そうしたことを自由記述の中で複数名記述してくれたことには、非常に手応えを感じた。定期試験の解答をみても、非常によく理解できているという答案もここ数年の間では多かったように感じた。

人文学部 心理人間学科
解良　優基　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　こころとは2
授業コード 13E01-002
教員名　解良　優基
教員コード 103910
登録人数　194
回答数　110
回答率　56.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は，以下の2点だった。
・習得した心理学の基礎知識について説明することができる。
・学習した知識や心理学的視点から、日常的な問題について考えることができる。

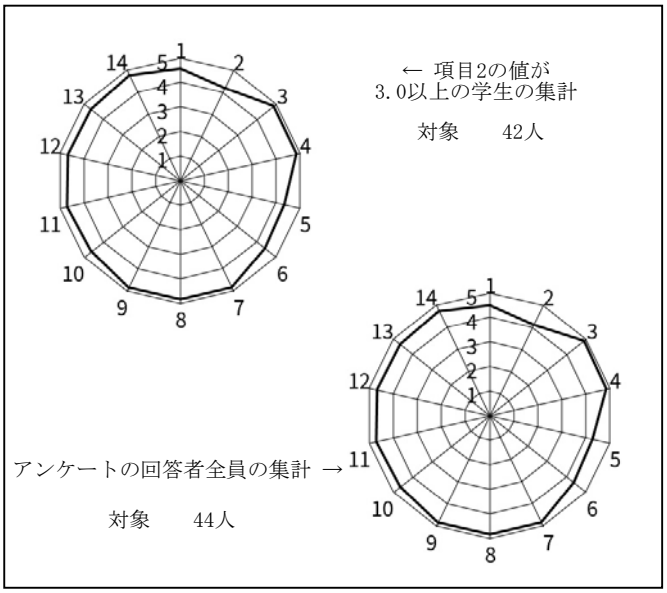
小レポートや最終レポートといった成果物の評価より，上記の目標は概ね達成できたと考えられる。
学生の主観評定においても，「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」という項目への評定平均は4.69，「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目への評定平均は4.32という結果であった。
また，「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という項目への評定平均も4.63であり，その他の授業評価アンケートの結果も，概ねポジティブであった。

毎回の授業内容に関して，さらに関心を深めたい人に向けて情報をまとめた資料ページをwebclassで公開していたが，今年は例年に比べて学生のアクセス数がやや多く，自由記述でもこの点に触れた内容が散見された。
大人数の講義形式の授業であることから，扱う内容のレベルやペース配分は難しいものの，熱心で意欲のある学生さんがさらに自身の関心を深められるような情報提供は今後も継続する必要があると感じた。

人文学部 心理人間学科
川浦　佐知子　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　知識の探求4
授業コード　13E03-004
教員名　川浦　佐知子
教員コード　055855
登録人数　83
回答数　44
回答率　53.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

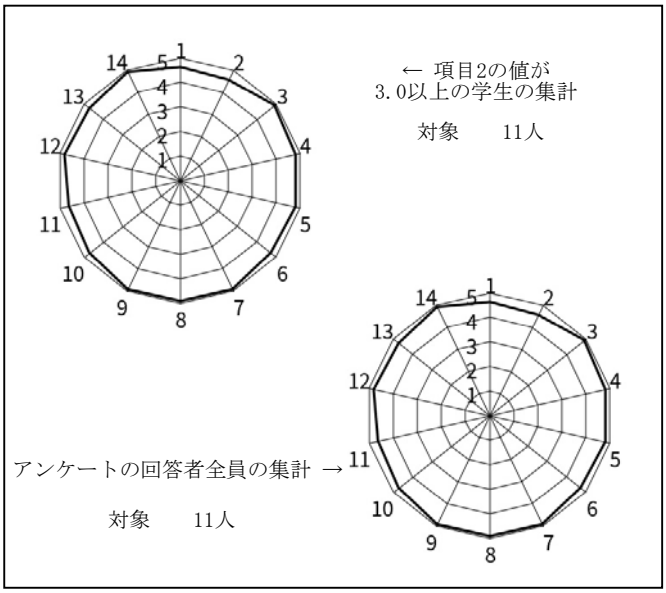
①　：宇宙・惑星系・生命の歴史を基礎的かつ重要な科学的知見に基づいて理解することを目標として、「進化」をテーマとした物語として講義した。学生の「科学」に対する心理的ハードルを下げるため、映像資料や科学番組のクリップ、ウェブページを用いてわかりやすい説明に努めた。授業では冒頭、前回授業で収集した学生からのコメントや疑問に応え、その後新しい事柄を紹介するようにした。設問13「授業を通して新しい知識を得られたか」という問いについて、「はい」（72.06%）、「どちらかと言えばはい」（25.00%）という回答結果であり、授業目標についてはほぼ達成できたと考えられる。②&③：設問3～14の平均は4.70であった。設問9の平均は4.84で、教材提供、理解度に応じた授業進行という点では、学生のニーズに沿っていたと考えられる。予習・復習に関する設問2は平均値が4.09となっている。廉価で初学者に適した書籍をなかなか見つけられず、プリント配布が常となっているが、次年度以降は予習・復習の助けとなるテキストを提示したい。学期の冒頭、到達目標をシラバスを用いて示しているが、その理解については平均値4.30となっている。折々に講義の中で到達目標について、言及していきたい。

　自由記述欄には；「毎回、前回の復習から始まったのが良かった」、「教員が学生に寄り添いながら、理解しやすい授業を行なっていた」、「宇宙についての事前知識は全くなかったが、授業はとてもわかりやすかった」、「映像資料が多くあったことで、想像がつきやすく、複雑な内容でも容易に理解することができた」といったコメントが寄せられた。

人文学部 心理人間学科
西脇　良　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　カウンセリング指導法
授業コード 21C62-001
教員名　西脇　良
教員コード 100623
登録人数　15
回答数　11
回答率　73.3%
休講回数　1 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では，①カウンセリング理論，とくに来談者中心療法に関する基礎的知識を有していること，②日常生活場面における「こころの援助」のあり方について理解し，実践できること，を学修目標としました。当初計画した内容をすべてこなすことができました。

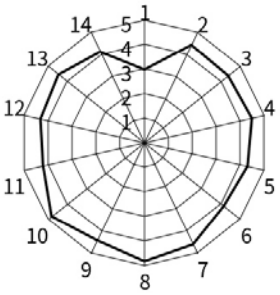
学生の皆さんからの評価ですが，全体としては「良し」との判断であったように思います（全設問の平均値＝4.75）。この値は，開講主体別の平均値（4.39），および評価対象科目全体の平均値（4.46）を上回っていました。

自由記述についてですが，肯定的な評価として，「実践する時間もあって，様々な体験ができてよかった。」「授業計画が入念にされており，スムーズであった。」「グループワークの際には十分な時間がもうけられ，ペアの人とたくさん話し合いをしながら台本を作成していくことができた。授業スピードがとてもよかった。」「学生に対して，親身であった。学生の事情に柔軟に対応していた。」等の評価を頂戴いたしました。授業改善のご指摘はありませんでしたが，今後も，グループワークの質を一層高める授業を目指してまいります。

人文学部 心理人間学科
浦上　昌則　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

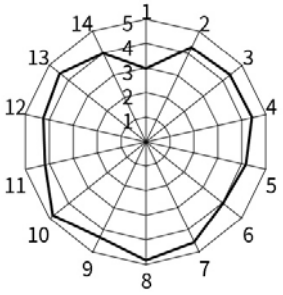
科目名　心理人間学基礎演習ID
授業コード 23A07-001
教員名　浦上　昌則
教員コード 018788
登録人数　43
回答数　31
回答率　72.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　29人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　31人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

データの扱い方，統計的な考え方の基礎について理解することを目的とし，「心理人間学基礎演習IC」の内容を基礎として，推測統計の基礎を身につけることを狙う科目である。「推定」および「検定」についての基礎知識を習得することが到達目標に掲げられている。またいわゆる反転授業の方法を採用している点に特徴がある。

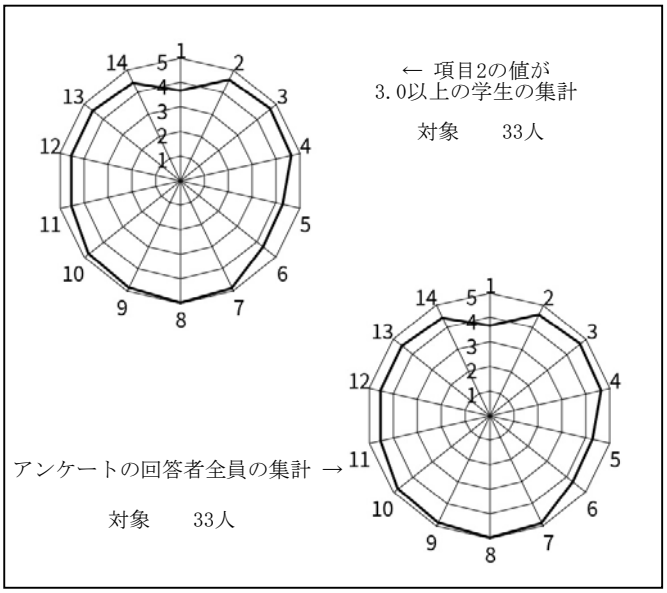
授業評価の回答は，概ね平均値が4以上であり，まずまずの評価を得られたと考える。反転授業の形式を採用しているため，予習を強く求めたが項目２の平均値は4.26とそれほど高い値ではなかった。自由記述には「話し合いの機会が十分に設けられていて，質問がしやすかった」「予習→グループで教え合うことでわからないところを聞いたり，逆に教えることで内容の理解を深めることができたので良い授業形式だと思いました」という肯定的な声がある一方，「グループによっては話し合いが進まず無意味な時間になりがちであったこと」「教員による解説を増やしてほしいなと思いました」という声もあった。

1年生の必修科目でもあり，反転授業を通して内容の定着のみならず，学科での学習に必要な能動的な関わりも身に付けて欲しいと考える。安易なサポートは，これを阻害してしまうだろう。ある程度の不満が示されるのは，仕方のないことであり，そういう学生の背中を押すのが仕事となるのかもしれない。

人文学部 心理人間学科
中西　美和　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習ID
授業コード 23A07-004
教員名　中西　美和
教員コード 104813
登録人数　41
回答数　33
回答率　80.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



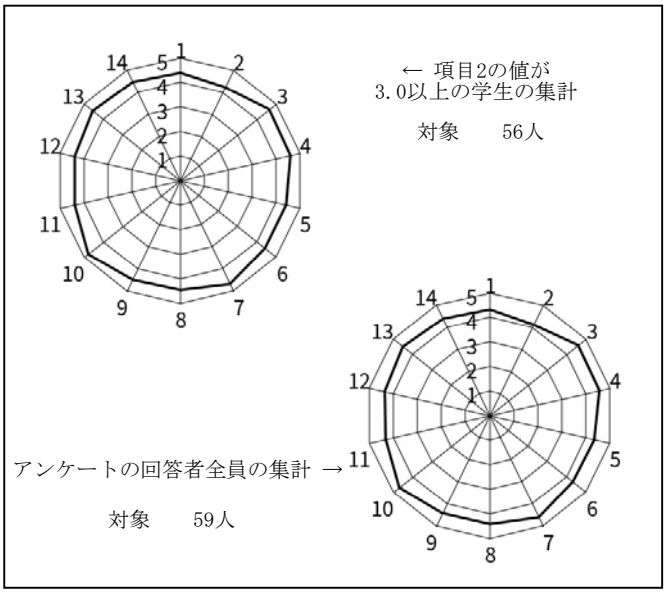
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問項目1の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」以外の、すべての設問項目において、学生の評価平均が4以上であった。これより、到達目標である「推測統計の考え方を理解する。」、「表計算ソフト（エクセル）を用いて簡単な統計処理ができる。」、「推定および検定についての基礎知識を習得する。」については、概ね達成でき、設定していた目標と到達の程度も適切であったと思われる。本科目は、アクティブラーニングを取り入れており、予習、復習、グループでの学び合いが重要である。受講学生たちの意識や取り組みが、アクティブラーニングを機能するの寄与したと思われる。次年度に向けての改善点、抱負と方針は以下の通りである。①引き続き、受講学生たちの学ぶ意欲を高められるようなファシリテーションを考え実行していくこと、②グループワークで疑問が解消されない学生のフォローの仕方を考え必要な解説を行うこと、③空調の管理をすること

人文学部 心理人間学科
中野　有美　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	精神医学概説(精神疾患とその治療)
授業コード	23C78-001
教員名	中野　有美
教員コード	103995
登録人数	120
回答数	59
回答率	49.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



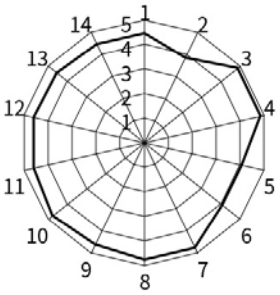
授業評価結果を踏まえた点検・評価

主な精神疾患について網羅的に扱い、それぞれ、歴史、危険因子、診断基準、症状、治療、予後について、臨床医学の立場から最新かつ重要な情報を盛り込むよう努力した。一方で公認心理士科目であることを意識し、各疾患に関する心理社会的支援については意識的に時間を割いて説明した。また、受講者やその身近な人々のメンタルヘルス推進を意識してメンタルヘルスをセルフマネジメントする技術についても触れた。履修者の評価からこの３点については概ね成功していると判断出来ると考えた。講義を中心に据えてはいたが、疾患に関する映像資料、外来講師にを呼び医療現場の様子を伝えてもらうなど、授業進行に変化を持たせるよう心掛けたが、この点は履修者に高評価であった。昨年度までは紙媒体で資料を配布し、授業の振り返りも紙媒体で提出してもらっていたが、今年度からはすべてwebclassを利用することにしたところ、それに関しても好評であった。しかし、緊張感を持たせるという理由から資料のwebclassアップ期間を限定したところ、アップ期間延長を望む声が数件あった。学生にはダウンロードしない傾向や習慣があるのかも知れないと考え、少々寂しく感じた。2025年度のwebclassアップ期間については再考の余地があると考えている。

人文学部 日本文化学科
籾山　洋介　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

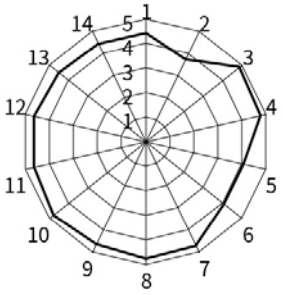
科目名　ことばとは4
授業コード 13E02-004
教員名　籾山　洋介
教員コード 041806
登録人数　26
回答数　14
回答率　53.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　13人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　14人

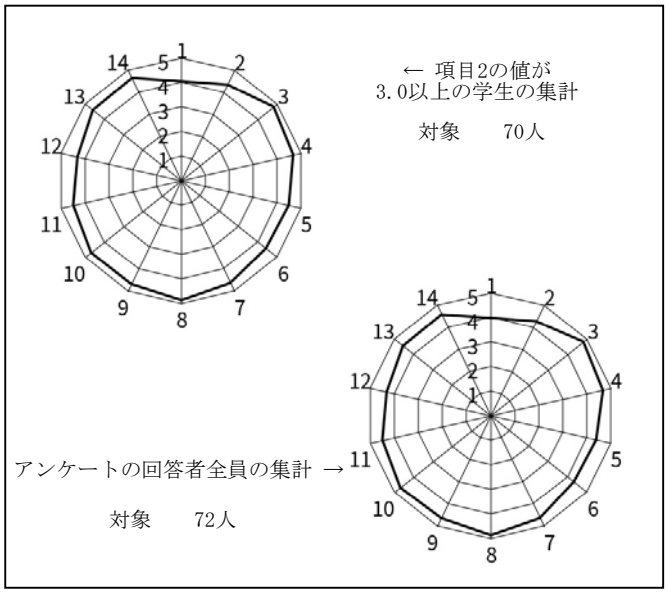
授業評価結果を踏まえた点検・評価

定期試験および小課題の結果から判断して、この授業の内容が十分にあるいは相当程度身に付いた学生が約50%、ある程度あるいは部分的に身に付いた学生が約45%、まったく身に付かなかった学生が約5%であった。自由記述として、「身近な日本語について触れることで、何気なく使っている言語の中から新しい気づきが多くあった」「ひとつの事柄に対し、複数の例を挙げながら丁寧に説明していただけるため、日本語への理解が受講前より深まった」等のコメントがあった。今後も、身近な現代日本語の例を通して、言語学の考え方が身に付くように進めていきたい。また、「グループワークの時間がたまに設定されていたことで、より理解を深めることができた」という意見があった。この授業は受講者の数が少なかったので、グループワーク・発表という時間を無理なく組み込むことができた。今後もできるかぎりグループワークの時間を設けたい。なお、「例を多く挙げていたが、どこからが多少脱線してしまった内容か分からず、自分の中で整理がしずらい」というコメントもあった。今後は、ポイントをより明確にした授業を心掛けたい。

人文学部 日本文化学科
森田　貴之　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本思想史
授業コード 24C24-001
教員名　森田　貴之
教員コード 102286
登録人数　124
回答数　72
回答率　58.1%
休講回数　1 回
補講回数　0 回



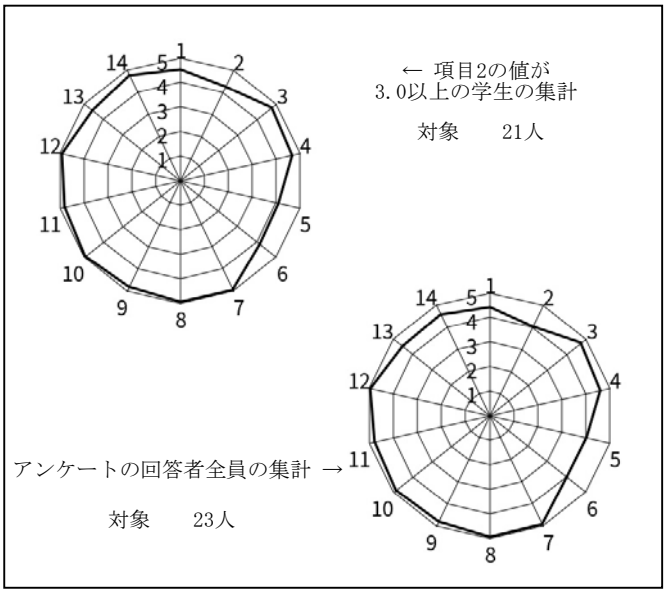
授業評価結果を踏まえた点検・評価

問1の授業開始前の興味が3.96とあまり高くなかったのに対して、設問13の新しい知識や理解の深まりが4.53、設問14の満足度が4.58であり、当初の講義目標はおおむね達成されたものと考えている。必ずしも当初から高い関心を持っている学生だけが受講していたわけではないと思われるが、様々な関心の程度の学生に応えられるよう、またより強い関心を持って講義を選択してもらえるようシラバス等を工夫するようにしたい。
調査対象科目は、日本文化学科の学科科目のうちの一つであるとともに人文学部他学科生にとっては学部共通科目でもあるという、二つの性格を持つ科目であった。そのため、日本古典文学のうち、専門性の高い知識も求められる内容もあったが、日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現在の思想・社会を考えるきっかけになるように、また、具体的な関心を高められるように努めたつもりである。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思い、その意図はある程度は伝わっていたと感じるが、一部、難しすぎるという意見もあった。授業の難易度を下げることなく、理解度をが高まる工夫を続けたい。シラバス記載事項や初回説明とは異なる成績の扱いはしていないが、説明不足があったのか、不満もあった。授業内で丁寧に伝達することを心がけたい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。なお、授業内で回答を呼びかけ、十分な時間をとったが、回答数が十分でなかった改善を期したい。

人文学部 日本文化学科
平子　達也　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語音韻論
授業コード 24C55-001
教員名　平子　達也
教員コード 104112
登録人数　42
回答数　23
回答率　54.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



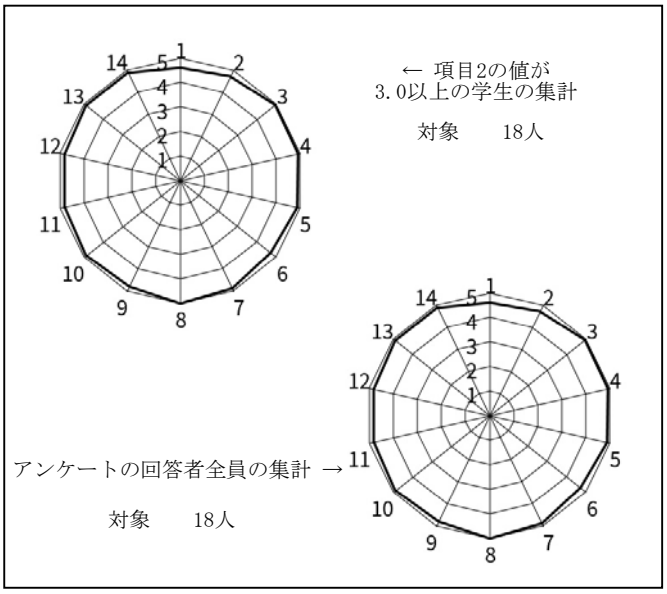
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初の目標は，〈1〉日本語諸方言のアクセントの研究のために必要な概念などを理解することと，〈2〉方言アクセントの音声を聞き取り，聞き取り結果に基づいて，アクセントの分析ができるようになることにあった。十分に目標を達成することができたのは，全受講生の１割程度にとどまる。
②多くの質問項目で4.5以上の数値であった中，質問項目6の数値が4.00にとどまったことから，受講生の多くが授業内容を未消化であったとわかる。この要因の一つは，質問項目2の数値が4.04にとどまったことからも，学生が予習・復習などに時間をかけていなかったことにあると考える。予習教材も復習教材も十分に用意し，授業内での質問の時間も確保した。そうした教員の準備に対する満足度が高かったことは自由記述からもうかがえる。にもかかわらず，大多数の学生が合格水準に達し得なかったのは，学生の努力不足の他，学生の時間的な余裕のなさが要因と考える。
③ほぼ満点のレポートを提出したものが複数いたことから，時間さえかければ，多くの学生にとって合格できるレベルの授業であった。ただ，学生個々に様々な事情もあろうが，全体としてクォーター制や就活の前倒し化などの制度的な問題があり，学生にはそのような時間がないと考えられる。今後，そうした学生の時間的余裕のなさを考慮した授業設計をするか，それとも，大学全体として制度を見直すか，検討していきたい。

人文学部 日本文化学科
上田　崇仁　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語教育文法(中級)
授業コード 24C66-001
教員名　上田　崇仁
教員コード 103619
登録人数　27
回答数　18
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　シラバス記載の目標は、「日本語学習者の現状を把握し、文法項目を分析し、その中の何をどこまで教えるのか、何をゴールに置くのかを考えるという、全体像を把握した指導ができるようになる。」としていた。発表準備の過程で、教員が準備しておく（あらかじめ知っておくべきこと）と教えること（学習者に伝えること）との情報量の違いについて意識することができたと考える。一方で、その教えることをどうやって教えるか、という点については、より考える時間をとるべきだったかと考えている。

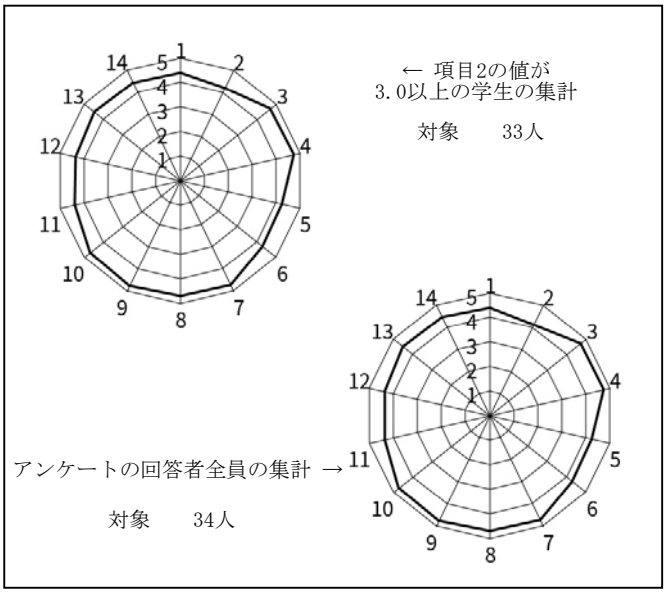
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　もっとも数値が悪かったのは、事前の関心の持ち方で、シラバス記述を工夫するしかないと考えているが、これは、例年同様で、難しい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　おおむね良い評価、自由記述のコメントだった。
　学生の発表を求める授業であることから、受講人数により担当時間や回数が変化する。そのため、受講学生の少ない年と多い年とで、学生一人に対する教員からのフィードバックの状況も変化してしまう。日本語教員養成プログラムにある科目であるため、プログラム内の必修科目ではないとはいえ、定員を設けることには躊躇があり、しばらく様子を見ていきたいと考えているが、今年度よりも人数が増えた場合は、対応が非常に困難になることが考えられる。

人文学部 人類文化学科
竹下　至　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　応用哲学A
授業コード　22C19-001
教員名　竹下　至
教員コード　103135
登録人数　50
回答数　34
回答率　68.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



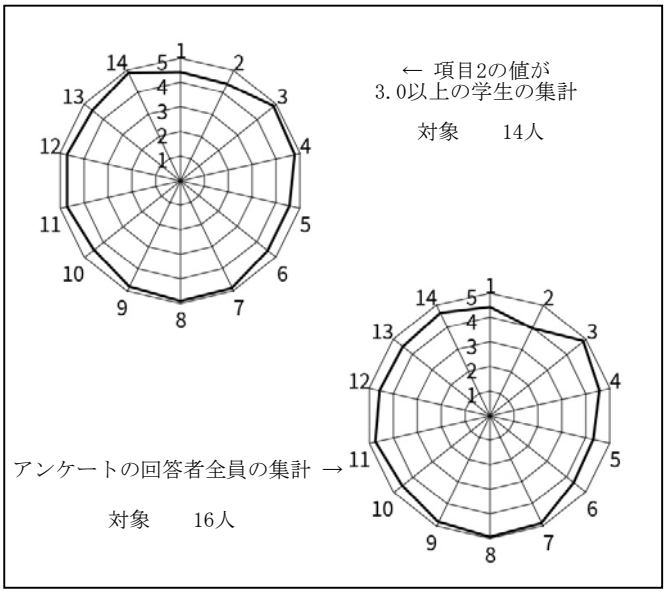
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① について
　開講当初に設定していた到達目標は、（１）生と死にまつわる哲学的議論を知る、（２）生と死についての理解を深める、というものだった。アンケートの記述や、小テストおよび試験の結果から判断すると、目標は概ね達成できたように思われる。
②について
　数値データや自由記述等から判断すると、授業は概ね良い形で進行できたと思われる。ただ、学生の事前学習および事後学習を促すこと、主体的な参加を促すことについてはやや不十分だったようである。
③について
　改善点として、事前・事後学習や学生の主体的な参加をより促すようにしていきたい。具体的には、推奨文献などについて興味関心をもてるようにより詳細に紹介する、授業時間外に取り組む課題を設定する、といったことを検討している。
　また、授業中の小テストで使用するため、パソコンを利用している学生も多いが、２コマ連続の授業のためにバッテリーがもたないという声があった。可能であれば、各個にコンセントのある教室を選ぶようにしたい。

人文学部 人類文化学科
門脇　誠二　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域の文化と歴史(西アジア)
授業コード 22C48-001
教員名　門脇　誠二
教員コード 102240
登録人数　32
回答数　16
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 2つの目標を掲げていた。１つは「 多様な自然や文化が交錯する西アジアの地理的特徴とそれに起因した西アジア特有の文化と歴史について知識を有している。」2つ目は、「2. 西アジアの歴史と文化に関する研究は、人類全体に共通する課題でもあることを理解している。」これらの目標を達成するために、ほぼ予定通りに講義内容を行うことができた。パワーポイントのスライドを印刷し、学生のノート作成の補助を行った。目標達成ができたかどうかについては、学生のレポートと期末試験を見る限り、良好な結果と思われる。
② アンケートの数値を見る限り、授業に対する評価はおおむね平均以上だった。対面で講義を行ったため、できるだけ毎回、講義に関する実物資料（考古遺物やそのレプリカ、関連文献）を回覧してみてもらうようにした。その点に関して良かったとの感想がアンケートにあった。また、動画の利用を増やし、興味と理解を上げる工夫を行った。
③ 100分授業で2時限続けての授業であったため、単調だと学生にとっても集中力が欠けると思う。そのため、配布資料のキーワードを穴埋めにして、注意力が少しでも持続するようにした。来学期も実物資料を見せるなどアクセントをつけたり、途中でミニクイズなど学生が主体的に行う活動を組み入れて、受講者の集中力が続くような工夫をしたい。穴埋めのスライドよりもレジュメの方がよいという意見もあったが、穴埋めのレジュメがよいという意見もあった。授業のスピードが速いという意見もあったが、例年通りのスピードでこれまで大きな問題は無かった。それを補うための教科書を用いている。

人文学部 心理人間学科
稲葉　久之　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域開発と人間関係II
授業コード 23C33-001
教員名　稲葉　久之
教員コード 150839
登録人数　9
回答数　3
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について：到達目標は①地域共生社会の実現に向けた連携のあり方について理解する。②地域課題の複雑性について、多様な視点から考察できるようになる。の2点を設定していたが達成できた。①については講義中に、日本障害者リハビリテーション協会が開発した「地域共生社会について考えるカードゲーム」を実施し、さまざまなニーズを抱えた人に対してどのように複合的な支援体制を構築できるかを体験した。この演習を経たうえで、グループで設定した社会課題に対して課題の原因の追求、解決策に向けた取り組みをグループワークを通じて考えた。
続く②の評価にも通じるが、受講者自身で深めていく取り組みを行うことで①の理解から、②の考察まで体験を通じて学ぶことができた。

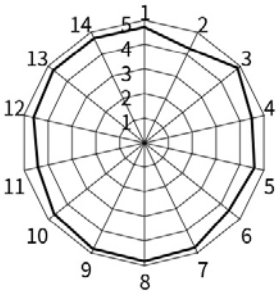
②について：受講者の記述に「原因の原因を探っていく作業を通して、真に社会問題を解決するためには、原因を深掘りしていった先にある、根本できない原因を対処しなければならないことを実感できた点が良かった」とあり、担当教員が設定した目標、またその実現に向けた授業構成が受講者にも効果的であったと考える。

③について：履修申請者に対して実質的な受講者が7名と少数であったことはグループワークをより丁寧に観察・支援することができる利点はあるものの、多様な意見を交えていくにはやや多様性に欠けると感じる。他の講義と重複していることが履修生が少ない一因とも考えられるが（本講義受講者からの意見）10人以上の履修を期待したい。また少数である場合の講義運営やグループワークの進め方については更に改善をして、少数の良さを活かせる講義運営を行っていく。

人文学部 心理人間学科
井村　安之　先生

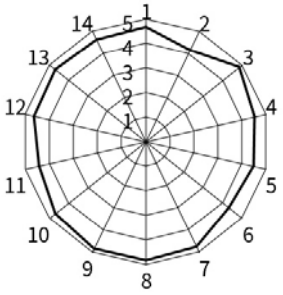
2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理的アセスメント2
授業コード 23C62-002
教員名　井村　安之
教員コード 048439
登録人数　33
回答数　22
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　21人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　22人

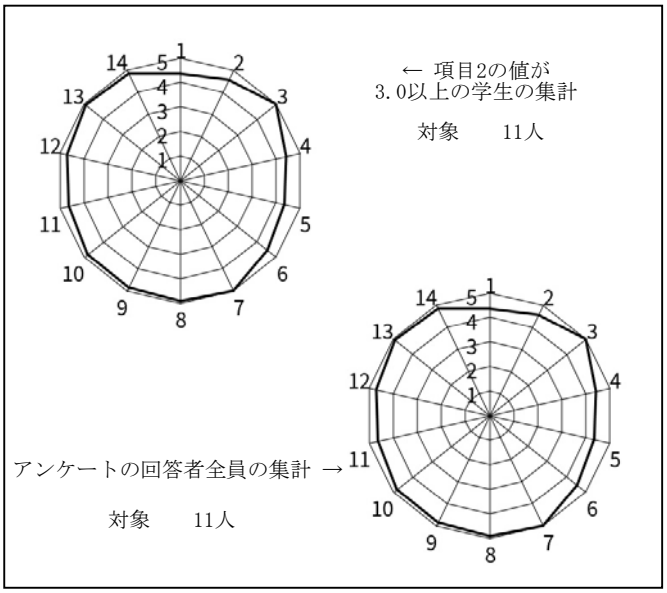
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度に関しては、今回の授業評価の結果の数字だけみれば、必ずしも十分ではなく、そもそも目標がやや理解されていない傾向が窺われた。これは本授業だけではなく他の授業も同様の傾向があるようである。しかし、本授業の評価結果で特徴的なのは、授業の内容に履修前に興味をもっていたとする割合が非常に高いことがあげられる。つまり、関心はあるが授業の到達目標がはっきりしないということである。学生が何をこの授業に期待しているのか、学生のニーズと授業の目標をより明確に結びつけ、学生に理解してもらうことが必要であると感じた。今後はより学生のニーズをくみ取ることに気を配り、一方向的な授業にならないようにしていきたい。また、学生の興味関心により焦点を当てていくことによって、自ずと主体的な授業参加の度合も高まるのではないかと思われる。そして、そのためにはまずは初回授業のオリエンテーション時に、何を学びたいか、この授業に何を期待するかなどについて、十分に話し合って、目標を共に決めていきたい。

人文学部 日本文化学科
古泉　隆　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　コンピュータと言語学
授業コード 24C56-001
教員名　古泉　隆
教員コード 101035
登録人数　16
回答数　11
回答率　68.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として、①テキストエディタの検索・置換・Grep等を利用してテキスト処理ができる、②テキスト処理に必要な正規表現を理解している、③単語頻度表およびn-gram頻度表の作成過程を理解する、④正規表現およびエクセルの機能・関数等を用いて単語頻度表およびn-gram頻度表を作成できる、⑤プログラミング言語を用いて単語頻度表・n-gram頻度表を作成するための基礎事項を理解する、⑥最長単語、単語の平均文字数、TTRなどを処理・算出することができることを設定した。

普段の授業では演習・課題・小テストを行い、学期末レポートでは、学んだデータ処理の知識・技術を活かして、各自で興味のある言語分析課題に取り組んでもらった。演習・課題小テストの解答状況およびレポートの内容を踏まえると、受講者の多くは本授業を通じておおむね到達目標に達したと考えられる。

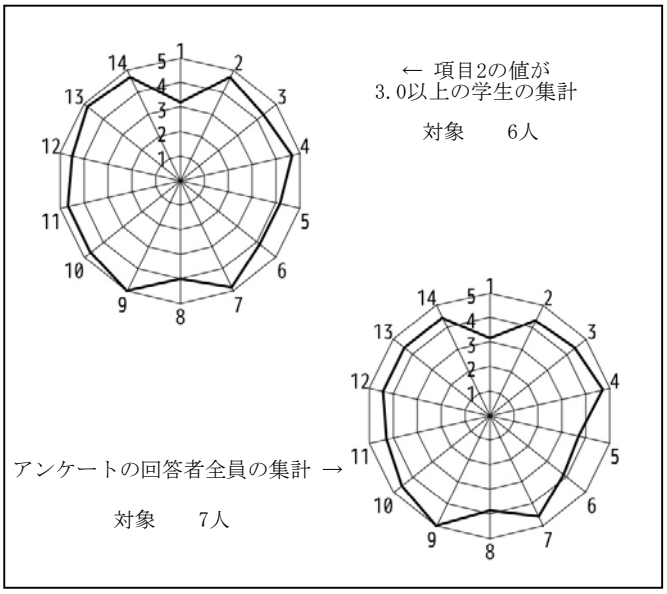
次に、アンケート結果を踏まえた考察であるが、各項目で４以上であったことから、概ね学生の学習を支援・促進し期待に応える授業であったと言える。

授業では、実際の研究でどのようにテキスト処理を利用するかミニ調査を通じて学んでもらったり、プログラミング言語でどのようなことができるかをコードを実行して体験してもらうなど、興味・関心を引くように工夫した。今後も、基礎的なスキルを身に着けるとともに、この分野の研究にさらに関心をもってもらえるような授業を心がけたい。

外国語学部 英米学科
戸田　由紀子　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture D2
授業コード	31C09-002
教員名	戸田　由紀子
教員コード	105000
登録人数	24
回答数	7
回答率	29.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



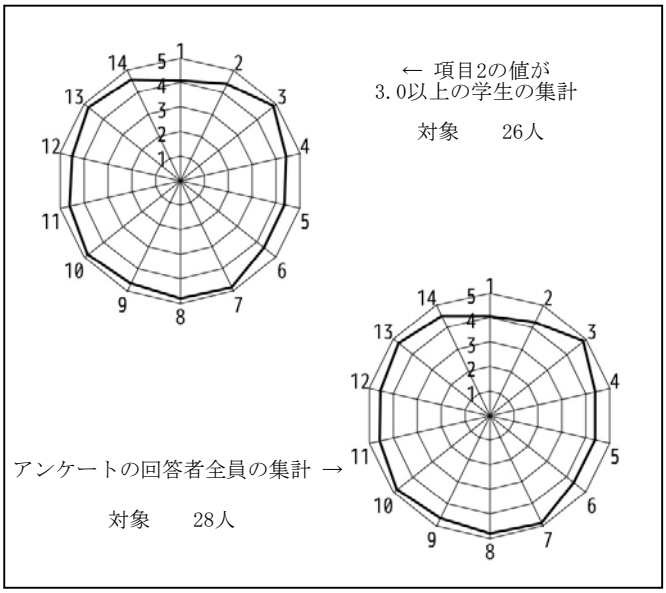
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本授業では、学生が指定された文学作品やテーマについて深い理解を持ち、批判的に考察する能力を身につけることを目標として掲げました。具体的には、文学作品の分析スキルの向上、多様な視点からの批判的思考の養成、授業内でのディスカッションや発表を通じたコミュニケーション能力の向上です。授業アンケートの結果から判断する限り、学生の主体的な参加と授業内容の理解度は比較的高く、目標に対する一定の到達が確認できました。しかし、授業の到達目標に対する理解や自身の進捗に関しては、いくつかの課題が残っていることが明らかとなりました。これにより、目標の達成には更なる工夫が必要であると感じています。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
授業アンケートの結果から、全体的に高い評価をいただいていることが確認できました。特に、授業の構成や進行速度（4.71）、教材や資料の活用（5.00）、教員の授業に対する姿勢（4.57）などの項目において高い評価を得ることができました。これらの結果から、授業運営における多くの面で成功を収めたと自己評価しています。一方で、授業の到達目標に対する理解（3.71）や、授業中の音声の聞き取りやすさ（3.86）については改善が必要であることが明らかになりました。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
授業の到達目標をより明確に設定し、学生に対してその進捗を可視化する方法を導入。これにより、学生が自らの学びの進捗を確認しやすくし、目標達成に向けた動機付けを高めたいと思います。授業中の音声環境について、教室の音響設備や発声方法を見直し、全ての学生が聞き取りやすい環境を工夫します。

外国語学部 英米学科
大井　由紀　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アメリカの社会1
授業コード 31E02-001
教員名　大井　由紀
教員コード 101888
登録人数　49
回答数　28
回答率　57.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定ていた目標は下記の3点です。
1.）移民研究の基礎知識を学習する
2.）移民が国民国家や社会にもたらしている変化を理解する
3.）移民を分析する視角・方法を学習する
トピックごとに理解すべき目標を明示し、ディスカッションを行い、発表してもらったこともあり、多くの学生さんが達成できたのではないかと思います。

②毎回ディスカッションが好評なので、今後も継続していきたいと思います。ディスカッションのトピックについては、学生さんの関心をより引き出したり、講義や既存の知識と結びつけられるような問いを設定していきたいと思います。

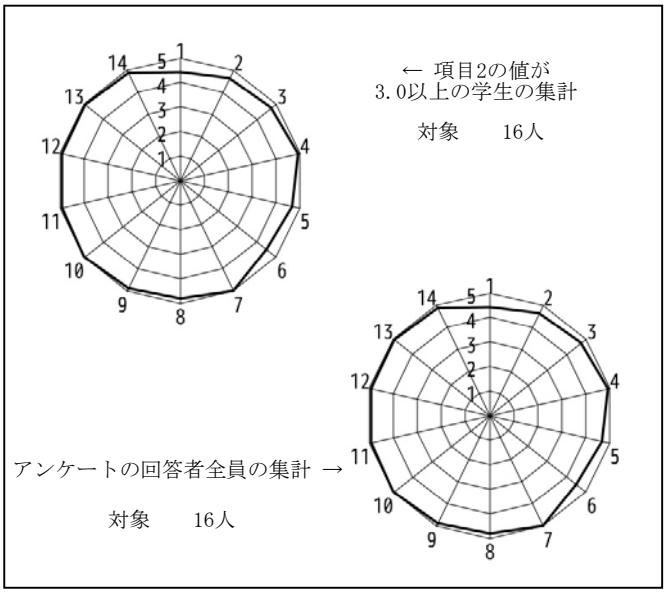
③「よいディスカッションとはなにか」を、ディスカッション前に共有していますが、そこに留まらず、自分たちで実践できたかどうか、自己評価できるシステムに変えていこうかと思います。
その方が、より刺激になるのではないかと思います。

正直、教室の形状がよくなく（縦長で教員と学生さんの距離が遠い、モニターが小さすぎて見えにくい)、学ぶ環境はあまりよかったと思えませんが、2か月楽しんで受講していただけたようでよかったです。

外国語学部 英米学科
TEE, Ve-Yin　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　イギリスの文学＜国際科目群＞
授業コード 31E08-901
教員名　TEE, Ve-Yin
教員コード 101626
登録人数　17
回答数　16
回答率　94.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



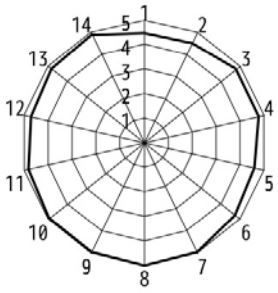
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aim of this course was to help students gain a deeper appreciation of British culture and history through poems written by women and men from different backgrounds. Based on the high level of student participation, student comments and the standard of the work I've received, I think this was achieved. I have taught this course for some years now and have made many adjustments already, so there really isn't anymore that needs to be done except ensure a small class. I am however unwilling to limit the number of students on this course, as I feel the content is important and that this course should be taken by as many students as possible.

外国語学部 英米学科
手塚　沙織　先生

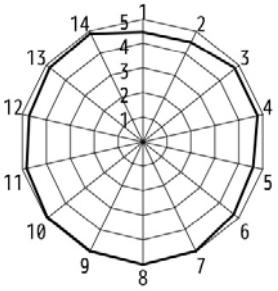
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際関係特殊研究B
授業コード　31E33-001
教員名　手塚　沙織
教員コード　103911
登録人数　50
回答数　38
回答率　76.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　38人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　38人

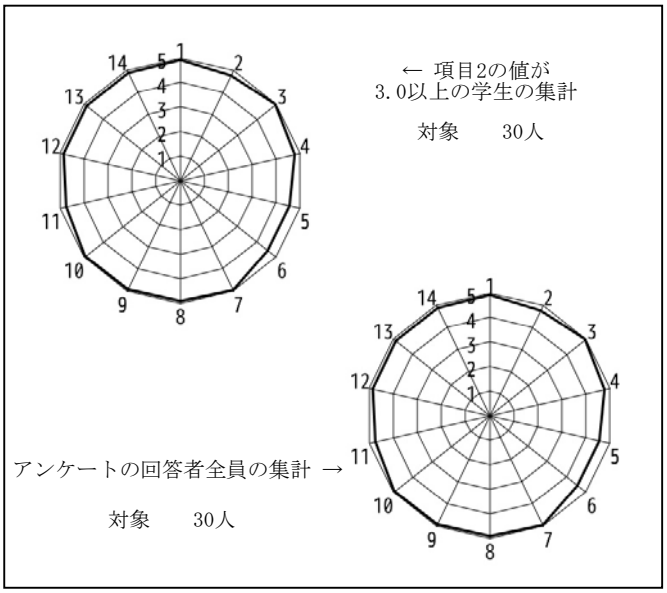
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、１）国際関係の基礎が身につく、２）社会と経済と政治の関係を把握できる、３）ある事象に対する多角的な見方を養える、である。これらの３つを達成できるよう、教員からの講義だけでなく、他者の見解への理解を促すドキュメンタリーの視聴、説明/分析能力と論理的に意見を説明する能力を養うためのリアペの提出といったアクティブラーニングを取り入れ、授業を構成している。最新の国際情勢を反映した授業内容のため、学生には日々新聞を読むようにも促し、授業外でも自然と国際関係に興味を持てるよう、工夫を凝らした。学生からの評価として「授業の導入が毎回大変興味を持てるものであり、先生のお話に授業の最初から最後までのめり込んで聞くことができた。生徒達のリアクションペーパーの内容を授業内に取り込んでおり、自身の意見と他学生の意見を自分の内で比べながら授業を受けることができた。」や、「国際問題を見ていくことに関して一つの視点で見るのではなく、どの記事に対してもそれが絶対正しいというわけではなく、色々な資料を見て判断していくことが大事だということを学べたのが良かったなと感じました。」といった形で、到達目標を達成できているようなコメントを頂戴した。リアペの時間の延長を改善点として挙げる学生がいたが、これはあえて決められた時間で提出できるようにしているため、リアペの時間を規定する意図を来年度ははっきりと伝えることとする。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
額田　有美　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語II[FS]2
授業コード 11D02-006
教員名　額田　有美
教員コード 104774
登録人数　37
回答数　30
回答率　81.1%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目は2クラスで構成されるため、授業進度を合わせる必要があり、制限される部分もない訳ではないが、ある程度は当初の目標を達成できた。

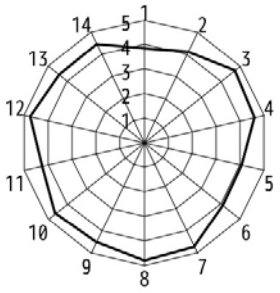
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
全体として悪くない数値であり、自由記述においても積極的に学生一人一人の学習を促す授業環境を一定程度提供できたことを確認できるようなコメントが多かった。初年度であった昨年の経験を今年に活かすことができたと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
個人ではなくペアやグループワークの割合をもう少し増やし、人前で話すことに苦手意識を感じてる学生であっても過度に緊張することなく質疑応答ができるように努めたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
永田　智成　先生

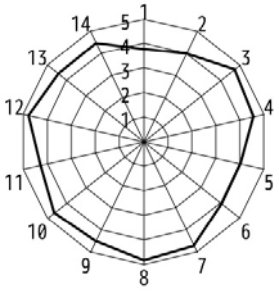
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン史A
授業コード　32C03-001
教員名　永田　智成
教員コード　103900
登録人数　120
回答数　36
回答率　30.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　34人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　36人

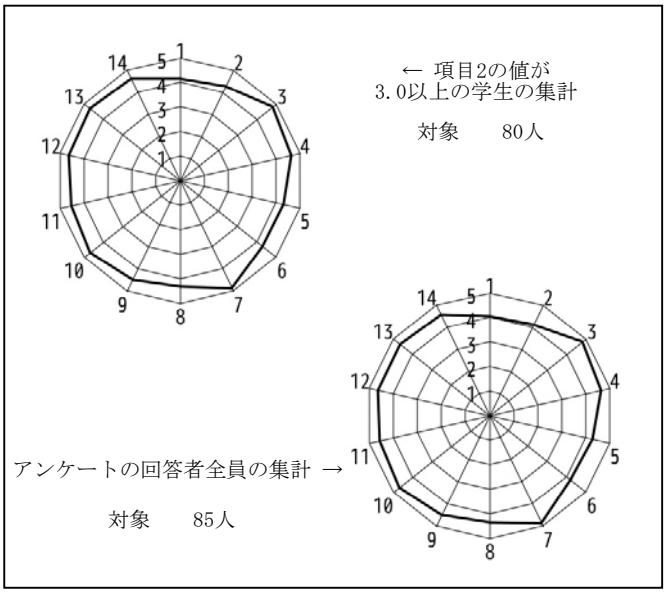
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標には十分到達したと考えている。約2000年のスペイン史を俯瞰するという掲げた内容について、滞りなく実施できた。自由回答記述欄も含め、概ね高評価を頂いた。図や写真が見づらいというご意見があったので、印刷物に頼るのではなく、オンラインサーバなどを活用して別途図版については配布するようにして改善に努めたい。また地図があった方がどの地方の話をしているのかわかりやすいという意見があったので、早速別の科目ではあるが、スペイン・ラテンアメリカの文化入門Aで担当した回において導入してみた。
講義では論点や焦点などを説明し、歴史を学ぶ意義を説いているが、どうしても最終試験がマークシートになってしまうので、講義内容が十分に活かされた成績評価ということができていない。しかしながら、約2000年の歴史を俯瞰するという営み自体は重要なことであると考えている。大学が本来担うべき考える講義については他の科目に譲るとして、本科目については継続して、このままのやり方で進めたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
牛田　千鶴　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテンアメリカの文化と社会A
授業コード 32C23-001
教員名　牛田　千鶴
教員コード 100657
登録人数　126
回答数　85
回答率　67.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

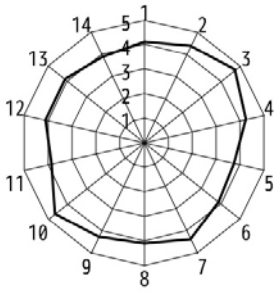
「担当教員の授業に取り組む姿勢の誠実さや真剣さ」に関する設問７の評価が、4.86で最も高かったのは何よりであった。このほか、「授業の構成や進行速度の適切性」（設問4）、「学生の学習意欲を引き出し積極的な授業参加や自主的な学習を促すための適切な指導や情報提供」（設問11）、「質問や相談の十分な機会や課題に対する事前・事後指導」（設問12）、「新たな知識の獲得や理解の深まり」（設問13）、「全体満足度」（設問14）等の評価が、いずれも4.50を上回ったことにも安堵した。

自由記載欄に「改善すべき点」として複数の学生から指摘があったのは、①マイクの機能がよくなかった、②椅子が硬く腰が痛くなった、③講義資料としてパワーポイントの資料をそのままアップロードしてほしかった、の3点であった。③については、著作権等にも配慮しつつ、今回は敢えて文字情報のみ取り出し、別途レジュメを準備した。手元資料としては文字のみでも、授業にしっかり出席してパワーポイントを見ながら説明を聴けば理解できると考えているため、来年度以降もこの方法で対応することを、学生たちには了解してもらえればと願っている。実際に、この授業の「評価できる点」として、映像資料や担当教員のわかりやすい説明で知識や理解を深めることができたと記してくれた学生が大勢いた。中でも、「初めは内容について興味がなかったが、自然と学習意欲が湧くような授業だった」というコメントには、こちらも励まされる思いがした。今後もこの授業で学んだことを糧に、学生たちにはさらに知見を拡げていってもらいたいと期待している。

外国語学部 フランス学科
REBOLLAR, Patrick　先生

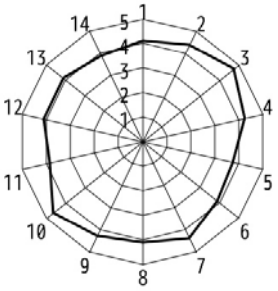
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級フランス語IA1
授業コード 33A11-001
教員名　REBOLLAR, Patrick
教員コード 100084
登録人数　21
回答数　16
回答率　76.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　16人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　16人

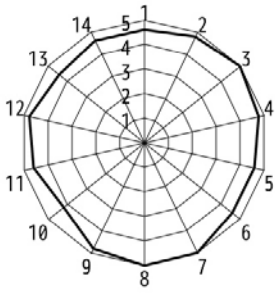
授業評価結果を踏まえた点検・評価

In this course, we follow the lessons from the book and the exercises from the exercise book, as homework and corrected in class. The pace of the syllabus is respected and regularly reminded to students. Regular emails indicate the work to prepare at home. In each class, all students are questioned or invited to participate. Motivated students therefore have all the information to participate in the course actively and intelligently.
For some students who do not understand how to organize their work or cannot do so for unknown reasons, we give appropriate advice.
Faced with the change in the means of information and knowledge production, teachers and students must find a better way to generate motivation to learn French: through oral participation and improving pronunciation, through a better knowledge of the cultural differences between France and Japan and through a true understanding by students of the need to learn the basics of grammar (and not just to reproduce the answers to the questions that are provided in the book).
The challenges of the digital turn are still difficult to understand and achieve. In future courses, we will try to make students more aware of this.

外国語学部 フランス学科
小林　純子　先生

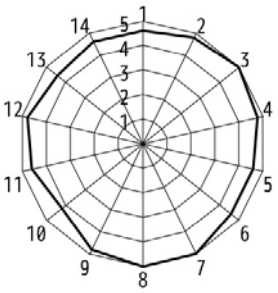
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アカデミックフランス語I1
授業コード 33A27-001
教員名　小林　純子
教員コード 102488
登録人数　14
回答数　5
回答率　35.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　5人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　5人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

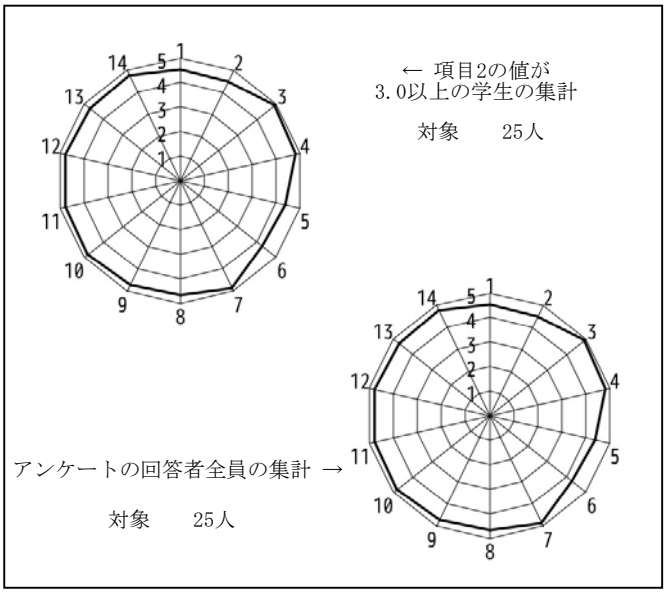
この授業は、フランス語の表やグラフの読解を行い、具体的な数字からフランス社会を理解しつつヨーロッパ諸国の現状や日本の現状との比較を念頭において、さまざまなテーマについてディスカッションを行うことを目標にしている。このため、資料のフランス語が示す内容を正確に読み取り、その内容を解説したうえで資料の内容に対する自らの見解をフランス語で簡潔に述べることができるという状態を到達の程度として設定した。

数値データを踏まえると、私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対する適切な対処の項目で、開講主体別平均値よりも評価が低いことがわかる。説明時の授業の妨げになる行為については注意喚起を行うものの、ディスカッションや各自調査の時間において授業に関連したものかどうかを十分に識別できていないため、次クォーターの課題として授業中の見回りにつとめたい。自由記述欄を踏まえると、学生の主体的な参加が学びにつながっていることがわかる。このため次クォーターも主体的な学びのための工夫を行いたい。

外国語学部 フランス学科
吉澤　英樹　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アカデミックフランス語I2
授業コード 33A27-002
教員名　吉澤　英樹
教員コード 103584
登録人数　43
回答数　25
回答率　58.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



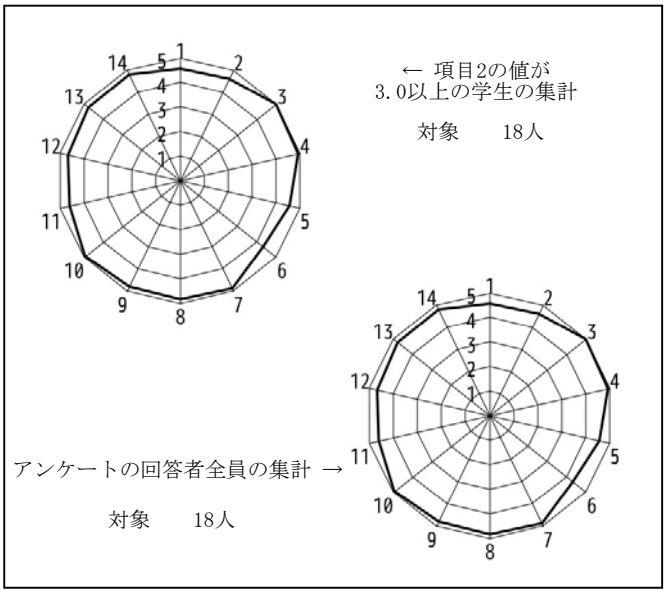
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１）シラバスで提示した到達目標は以下の通りである。「研究論文などで使用されるアカデミックな文章の形式に慣れ、論理を正しく追うことができる。論文で使用される専門用語や固有名詞の調べ方を身に付け、筆者が何を言わんとしているか正しく理解出来る。」このクラスは文化専攻の学生の必修のため美術系のテクストを選択し、作者のディシプリンである芸術社会学がどのような学問なのか理解してもらうこともアカデミックな目標として設定した。２）登録者が47名と多く社会専攻と同一科目と大幅にバランスの欠く開講形態となった。語学の授業なので人数が多すぎ、事業運営に困難を感じる場面もあった。アンケートが示すようにグループワーク中心で進めたため、一人一人に対するフォローが十分にできず、学生によっては到達目標へのアクセスを困難に覚えるものも一部いたのは事実である。また語学力の差も目立ったため、グループワークに係る時間も差があり、早く課題が終わった学生に一部不満がでた。３）社会と文化の履修者の大幅な人数の偏りが今後も続くようであれば、大人数クラスの方が学生の不利益になるため、専攻別の開講を再考する必要がある。教員としてできることは、早く課題を終えて時間を持て余した学生には個別に更なるワークを与えることで対応したい。しかし、それも40名を超えるクラス編成では行き届いた指導ができるか不安である。

外国語学部 ドイツ学科
中屋　宏隆　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツの政治と社会
授業コード 34A16-001
教員名　中屋　宏隆
教員コード 102885
登録人数　20
回答数　18
回答率　90.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



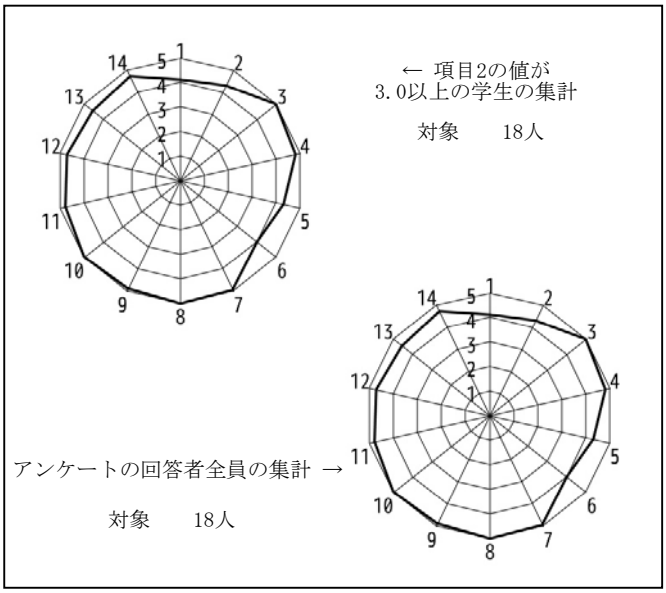
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　目標は「ドイツ社会の政治と経済についての基本事項の整理と理解」としていたが、概ね達成できた。ただし、学生アンケートの「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」については、4.33に留まっている。教員目線では学生の理解は進んだように思えるが、学生は比較的自己評価が低いと言える。そのギャップを埋める方策を今後考えたい。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　設問13と14の数値がともに4.78で、比較的高めの数値となっている。自由記述なども概ね肯定的な意見が多かったように思う。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　「この授業の到達目標を理解することができましたか」という設問のアンケート結果が4.56で他と比べると比較的低めである。今後は到達目標度を授業中にも提示するなどして周知に努めたい。

外国語学部 アジア学科
鈴木　史己　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語学研究
授業コード　35C12-001
教員名　鈴木　史己
教員コード　103651
登録人数　58
回答数　18
回答率　31.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



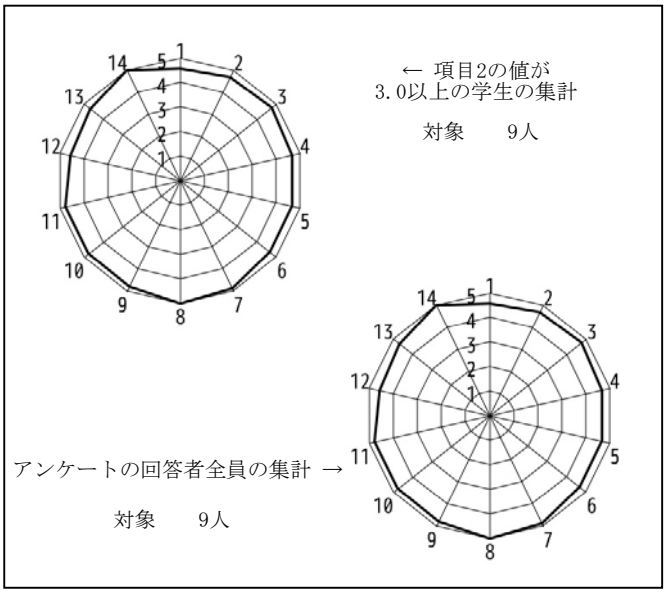
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目の目標は、現代中国語の文字・音韻・語彙・文法・方言に関する基礎知識を身につけ、あわせて中国語の古代から現代に至る歴史的な変化や日本人・日本語との関わりについて初歩的な知識を身につけることである。毎回の授業中に練習問題を設けるとともに、講義で扱った中国語の分析方法を使用したグループワーク・発表会を行ったことで、ある程度実践的な知識を紹介できたと考えている。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
中国語を深く学ぶうえで必要な視点を提供しているつもりだが、設問1の評価から少なくとも受講前は関心が高くない分野であること、設問5・6の評価から受講生の自己評価が高くないことがうかがえる。受講生の興味を引き付けられるよう工夫するとともに、他の科目との連続性を考慮しながら専門的な内容を導入することが必要となると考える。自由記述では、授業テーマのつながりや多様性、ワークの取り入れ方を評価する意見が見られるので、引き続き努力したい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
練習問題やグループワークは、授業の内容をより理解してもらえるように整理していきたい。また、上述のとおり、受講生の興味を引き付けられるよう、来年度に向けて授業内容と資料を見直していきたい。

外国語学部 英米学科
ROBINS, Anthony　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society C1
授業コード	31C03-001
教員名	ROBINS, Anthony
教員コード	104759
登録人数	25
回答数	9
回答率	36.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



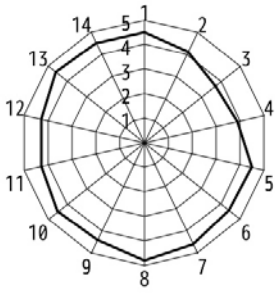
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the goals I set at the beginning of the course, which focussed on the history and development of the English Language and which I have taught before, were achieved. I was glad to see that there was positive feedback from students with numerical scores of 4 or 5 for most of the categories. The average score for those interested in the course before joining (Question 1) was one of the two slightly lower average scores, so it was good to feel that students became more interested as the course proceeded. I was also glad to see that the comments showed that students could gain more from the course than just that content itself, as in the comment on the benefit which a student had gained for their TOEIC performance. It was quite intensive with the need to make up two classes during the first quarter, but I covered all the material which I aimed to cover. I understand (Question 12) that students could benefit from more time to ask questions, so I will keep that in mind for the future. I would like to ensure that the positive points raised in the comments, as concerning the value of short tests and discussion are further reinforced. The number of students who replied was fairly small, so I would like to encourage more students to respond in the future, so as to get further useful feedback.

外国語学部 英米学科
上村　直樹　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

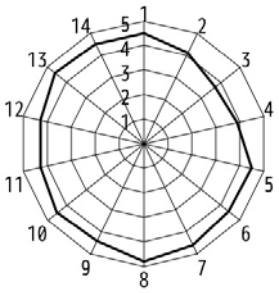
科目名　アメリカの外交
授業コード 31E05-001
教員名　上村　直樹
教員コード 102463
登録人数　32
回答数　10
回答率　31.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　10人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　10人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

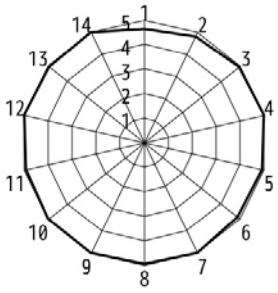
今回の評価結果は、全体としては比較的高めの数字となったが、従来から課題であった到達目標に関する質問項目5・6に関して大きな改善が見られたので、まずこの点について検討したい。到達目標に関しては、これまで4.0前後と他の項目と比べて低い数値となることが多かった。そこで到達目標のねらい等についての説明を授業で丁寧に行うとともに、授業自体も到達目標を意識したものとするよう努めてきた。今回、評価数値面で項目5が4.50、項目6が4.40と改善が見られたのは、こうした努力の成果なのか、それとも偶然の要素が大きいのか、1回の結果だけでは確かなことは言えないので、従来の努力を続けるとともに、今後の推移を見ていく必要があろう。

その他の項目に関しては、項目2～4を除いて概ね4.50前後となっており、一定の評価がなされていると言えようが、特に教員側に関わるものとして項目3・4について触れておくと、まず項目3の「授業の開始と終了の時間」についての数値が3.70であったのは、水曜日午前の二コマ連続授業を今回初めて試してみて、1限目の終了時間と2限目の開始時間をかなりフレキシブルに行っていた点に不満を持った学生がいたためかもしれない。一方項目4の授業の構成や進行速度に関しては数値が3.90とやはり低くなっているが、今回、大統領選挙の年でもあり、当初の予定以上に選挙に関する説明や関連ビデオ等を見せる結果となり、最後の方の授業が少し駆け足になった点も影響していると考えられる。こうした点は今後の授業の反省点としたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
エルビーニア　ユリア　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

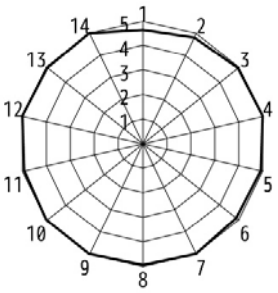
科目名　スペイン語通訳法I
授業コード 32D08-001
教員名　エルビーニア　ユリア
教員コード 102926
登録人数　18
回答数　16
回答率　88.9%
休講回数　2 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　16人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　16人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義終盤には受講学生のスペイン語聴解力、理解力、およびスペイン語と日本語での表現力や通訳実技に関する知識およびスキルの上達が見受けられ、授業目標は達成したと思われる。また、多様なテーマ（時事、社会、医療、観光、スポーツなど）についての知識も深まったことが伺われる。

時事・社会・環境問題等のハードな教材からスポーツ・観光・文化のソフトなテーマまで、幅広い分野を取り上げることで、学生が関心を寄せる話題を含め幅広いニーズに対応できたと思われる。このような取り組みが、学生の学習モチベーション向上にもつながったと信じている。また、スペイン語の語学力のみならず、場面に応じた適切な日本語の表現力や業界の知識の必要性も実感してもらうことができた。

ペアワークやグループワークも積極的に導入した点は好評だったが、いつも同じメンバーになりがちであった点が指摘された。この点については今後配慮をしたいと考える。通訳法の講義を通して、通訳は高度な語学力に加えて、あらゆるスキルが求めらえることを知ってもらうきっかけとなることを願っている。

外国語学部 フランス学科
HERGOTT, Florian 先生

2024年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IA2
授業コード 33A11-002
教員名 HERGOTT, Florian
教員コード 101725
登録人数 21
回答数 3
回答率 14.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

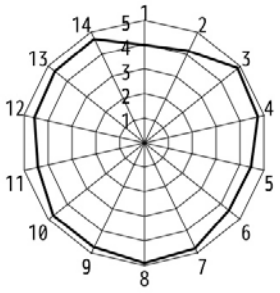
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Student feedback on the manual has been very positive. The students seem happy to be able to study in a group. The different oral and written comprehension activities create a positive synergy. The students help each other, taking it in turns to take on the role of ‘expert’ within the study group. This method of learning allows students to highlight their strengths, but also to benefit from clarifications provided directly by their fellow students.

外国語学部 フランス学科
長谷川　一年　先生

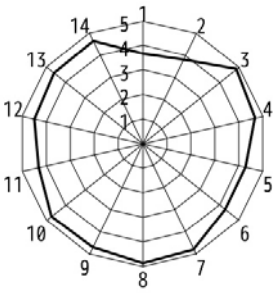
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランスの思想
授業コード 33A22-001
教員名　長谷川　一年
教員コード 103576
登録人数　99
回答数　27
回答率　27.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　23人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　27人

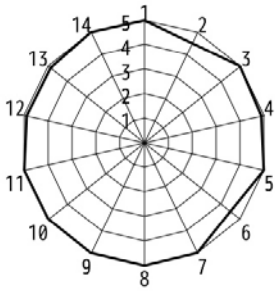
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、近代から現代に至るフランス思想の流れを追い、フランス思想の営みをその時代の政治・社会状況との関連で理解するというものであった。授業では、フランス思想はもとより西洋思想の起源である古代ギリシア・ローマの哲学から始めて、ポスト・モダンと称される今日の新しい思想状況まで概説することができた。また、それぞれの思想家が活動した時代の社会・政治的背景を合わせて説明したので、授業内容としては開講当初の目標をおおむね達成できたものと考えている。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価としては、学生の回答のレーダーチャートおよび自由記述回答が概して良好であることからして、授業の内容、進め方、評価方法等について、問題なかったものと理解している。
③上記の評価を踏まえて、次年度の授業内容については適宜アップデートを施しつつ、形式的には同様の方法で行いたい。

外国語学部 アジア学科
趙　晴　先生

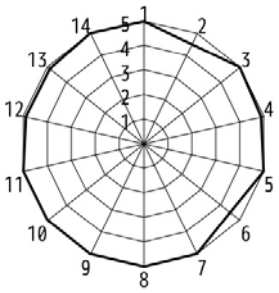
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I会話3
授業コード 35A11-003
教員名　趙　晴
教員コード 100960
登録人数　24
回答数　8
回答率　33.3%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　8人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　8人

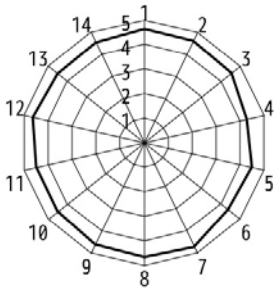
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果を見る限りでは本講義開講当初に設定していた目標にほぼ達成したと思います。
中国語専攻の学生たちなので、特に熱心に講義を受けました。学習態度も真面目で、たまに注意した時もとても素直でした。指導しやすく、勉強する雰囲気もあって、たいへんよかったです。なるべく基礎を固めて、応用もできるように講義を進めていきました。その結果効果があったようです。「分かりやすかった」や「中国語の長い文章の読み方を丁寧に抑えて把握することができた」、「中国文化の具体的な部分を把握し、より理解を深めることができた」などのコメントがあって、嬉しく思います。今後も学生たちの特徴に合わせて、最も効果がある方法を考えて指導していきたいと思います。
外国語を話せることはすごく楽しいことです。
その楽しさをこれからも学生たちと一緒に味わっていきたいと思います。
それから私も学生たちにありがとうと言いたいです。真面目で明るく勉強してくれて、楽しかったです。
また一緒に頑張りましょうね。

外国語学部 英米学科
今井　隆夫　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

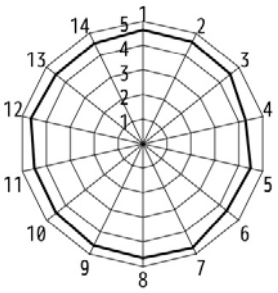
科目名　英語科指導法C
授業コード　15B59-001
教員名　今井　隆夫
教員コード　104239
登録人数　53
回答数　47
回答率　88.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　47人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　47人

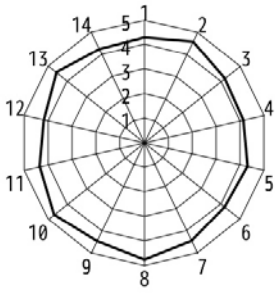
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、今回初めて担当したが、CJSのオープン科目としても開放し、アメリカ人学生5名の参加もあり、受講生５３名とアメリカ人学生５名がともに学ぶという新しい試みであった。日本人学生は、英語の教え方について学ぶ科目であるが、アメリカ人学生は、自分の母語がどのように教えられているかへの興味と、将来、日本で英語を教えたいという希望の学生の参加もあり、CJS学生の参加によって、母語話者のコメントをその場で聞くことや、母語話者も交えてのディスカッションの機会も持て、おもしろい授業となったようである。①当初設定していた目標は、ほぼ達成できたと思う。②授業への総合的な満足度は、4.51、各項目は、4.28～4.72の間に分布していた。私が担当する他の科目と比較するとこの数値は、やや低い。その履修は、教職科目であるため、義務的に取っていた受講生がいたことが要因であると考えられるので、そのような状況では、この数値は、満足のいくものであると考える。③今回は、CJSの学生の参加が大変有意義であったので、次年度は、この点をさらに充実した喪になるように計画をしたい。

外国語学部 英米学科
RYAN, Anthony　先生

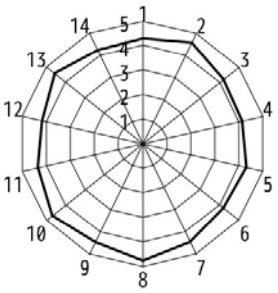
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Academic English A II2
授業コード　31A02-002
教員名　RYAN, Anthony
教員コード　104650
登録人数　31
回答数　28
回答率　90.3%
休講回数　1 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　28人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　28人

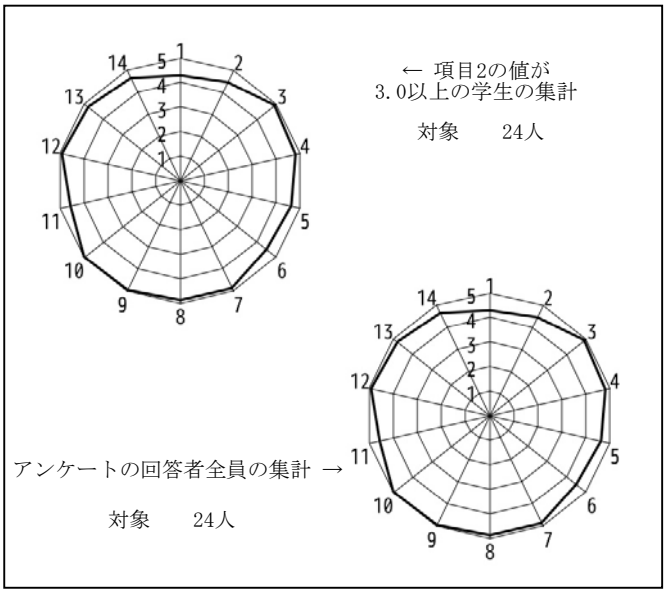
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The course goals in Q2 included the ability to comprehend the main points of a formal lecture, identify key information in text, think critically about their own culture and current educational issues in Japan, engage actively in discussion and cooperate with peers in the production of a video and formal essay. While most of these goals were achieved by the students, there is still room for improvement regarding the proactive engagement of all students in discussion, as well as evidence-based critical thinking skills. While students did express opinions, logical argument demands opinions backed by supportive evidence. In this area in particular, some students found difficulty in supporting their opinions.
(2) A clearer distinction between the activities in this course and the skills each promote and which students need to master should be made in future versions.
(3) The student numbers and submissions meant students were busy and the teacher could have reduced the load and returned comments to the students earlier. This will be addressed in future courses where the number of submissions will be reduced, so as to allow the more timely return of student work. Additionally, individual assessment items will be re-considered as the major assignments in this quarter were submitted in groups and pairs.

外国語学部 英米学科
SAKAMOTO, Fern　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Academic English A II4
授業コード 31A02-004
教員名　SAKAMOTO, Fern
教員コード 103615
登録人数　30
回答数　24
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



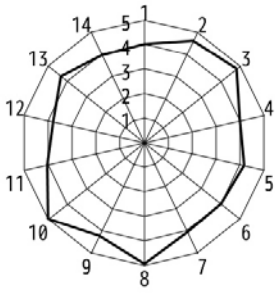
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) AEA2 aims to helps students develop their communicative competencies in English listening, speaking, reading and writing. All students were able to complete course requirements and pass the course. Students largely appeared to feel that they had gained useful skills and knowledge through the course (Q13; 4.79).
(2) In addition to student achievement, classroom management appears satisfactory (Q10; 5.00) and the pace of the course appears to have been appropriate for most students (Q4; 4.83). One student commented on a heavy workload (Q16) but another cited the difficulty as a positive (Q15). Students appear to have enjoyed the opportunities to work together on assignments (Q15).
(3) The lowest score (Q11; 4.29) pertained to interest in the course prior to taking it. Revising the syllabus wording may address this. Course materials were highly regarded (Q9; 4.96). I would like to consider revising and republishing the current in-house textbook for use next year. Classroom atmosphere was an important factor for students, so I would like to make sure I take the time to establish a comfortable learning environment for my new students in Q3.

外国語学部 英米学科
COCHRANE, Robert　先生

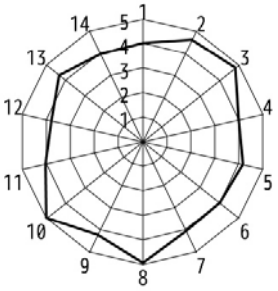
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Academic English A II6
授業コード　31A02-006
教員名　COCHRANE, Robert
教員コード　104483
登録人数　32
回答数　18
回答率　56.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　18人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　18人

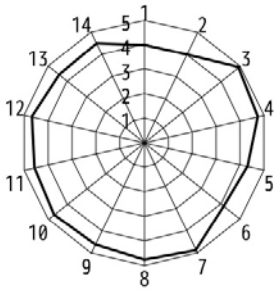
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall the scores are over 4.0 so I seem to be reaching and succeeding with most of the students. The goals of the course were achieved however the level of students seems to be declining year over year. The negative comments are very subjective and appear to be problems that the student can remedy themselves. Students appear concerned that they do get enough opportunities for asking questions and practice but they are given ample opportunities in class, they just do not make use of it and no student has come to office time. There are some points to consider such as writing bigger on the board but I do not write on the board often. Students are allowed to select their seat so if they cannot see from the back it is their choice to sit there. I will continue with what I am doing now as this approach is successful with the majority of students. I will not make any significant changes for the next quarter.

外国語学部 英米学科
鈴木　達也　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

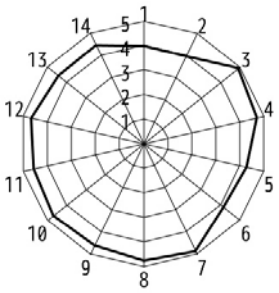
科目名	Special Topics in English: International Studies A1
授業コード	31B04-001
教員名	鈴木　達也
教員コード	017871
登録人数	65
回答数	45
回答率	69.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　　44人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　　45人

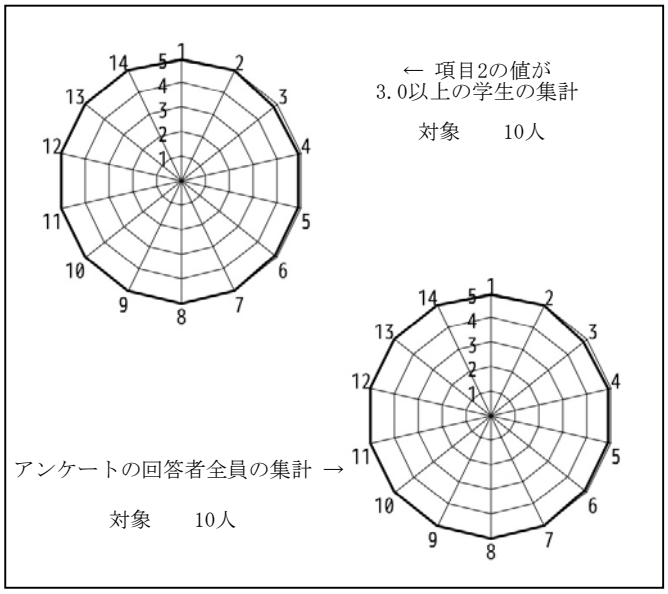
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、国際研究に関する基本的な概念と最近の問題について理解することである。受講生によるこの到達目標の理解度はまずまずであったが(4.29)、予習、復習や主体的な授業への参加は、やや物足りなかった(3.96)。多くの受講生が到達目標に向かって力がついてきていると実感しており(4.16)、全体としての授業の満足度も4.44の評価を得ていることから、すべて英語で行う授業としては、まずまずの成功を収めていると考えている。授業の構成・進行速度ならびに教員の授業への取り組む姿勢については、それぞれ4.73、4.87の高評価を得ているほか、理解度への配慮や効果的な資料の活用についても4.62、学習意欲の引き出しのための指導や、質問の機会や課題に対する事前・事後指導についてもそれぞれ4.58、4.67の評価を受けている。これらの評価は、自由記述欄の意見によっても裏付けられており、受講生が授業内のディスカッションの機会を通して、到達目標である国際研究に関する基本的な概念と最近の問題について理解を深めてくれたことを嬉しく思う。一方、受講生がディスカッションを必ずしもすべて英語で行えていないことを指摘する意見もある。人権問題や差別といった内容的にかなり深いテーマを扱っているため、2年生にとってはやや難しい点もあるが、工夫を凝らして改善していきたいと考えている。

外国語学部 英米学科
CRIPPS, Anthony　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A3
授業コード	31B04-003
教員名	CRIPPS, Anthony
教員コード	102357
登録人数	25
回答数	10
回答率	40.0%
休講回数	2 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was very pleased with the attitude and effort of the students. All the goals of this course were met and the students were very active. The students' comments seem to reflect the success of this course (see below). It is important to give students constructive feedback after their presentations:

(1) 説明が分かりやすく無駄が無い。(2) 先生が生徒と親身になって対応してくれたこと、説明がわかりやすく楽しく授業を受けることができた。(3) プレゼンテーションの後に、それぞれのチームに対してフィードバックがあったこと。(4) 今までプレゼンテーションについて深く学ぶ機会がなかったので、今回の授業で観客にとって理解しやすいスライドの作成の仕方や発表のコツを知ることができてよかったです。(5) プレゼンテーションについてより、詳しく学べ、練習できること。(6) 授業の雰囲気が良かったところ、先生の説明がわかりやすかったところ、改善点を自分で考えさせてくれたところプレゼンテーションのスキルを楽しく学べる。教授からのフィードバックが具体的でわかりやすく、学びが多い。

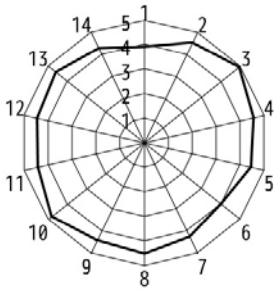
I agree with the comments from one student re. the classroom layout of LL3 - fixed desks create a barrier between students. I will try and find a more suitable room when I next hold this course.

Considering how to improve the course I will continue to add more interesting content. In terms of the delivery of the content and the activities that I ask the students to participate in I think everything is working well.

外国語学部 英米学科
金　慧昇　先生

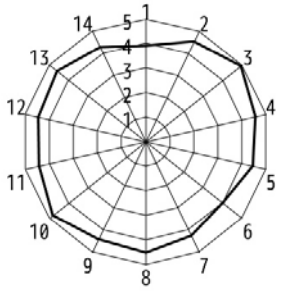
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society A1
授業コード	31C01-001
教員名	金　慧昇
教員コード	104504
登録人数	22
回答数	19
回答率	86.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　　19人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　　19人

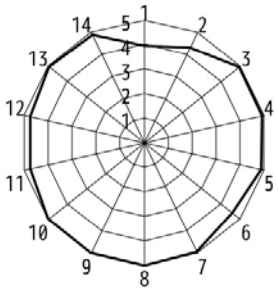
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、日常生活史の観点から19世紀のイギリス社会について理解し、現代社会との比較を通じて過去からの連続性と変化について考えることでした。そのために、毎回の授業の前半ではイギリス社会についてテーマごとに講義を行い、後半では講義の内容に基づいて過去と現在を関連付けて議論する時間を設けました。本授業を通じて、多くの学生が19世紀イギリスの歴史を学び、自ら様々なテーマについて考える機会が得られたことができたと思われます。学生の課題内容に応じて毎回のグループを異なるメンバーで構成したことは、学生同士の意見交換と交流にも役に立ったようです。グループ・ディスカッションの後には、グループごとに議論の内容について発表していただくことで、より積極的に討論に参加するように促し、他のグループの意見も確認することができました。最初本授業の内容について興味を持っていなかった学生もいたようですが、毎回討論を準備するための事前学習を通じて全体的にある程度は内容について理解が深まったように思われます。今後は、討論のための議論点をより具体的に提示することで、様々な問題ついて議論できるようにする工夫が必要であると感じられました。

外国語学部 英米学科
DORMAN, Benjamin　先生

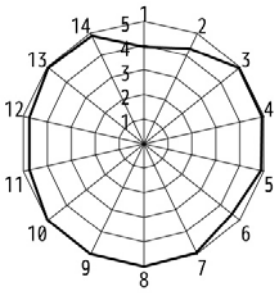
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies B1＜国際科目群＞（英米学科生用）
授業コード	31C17-901
教員名	DORMAN, Benjamin
教員コード	100695
登録人数	24
回答数	17
回答率	70.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　17人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　17人

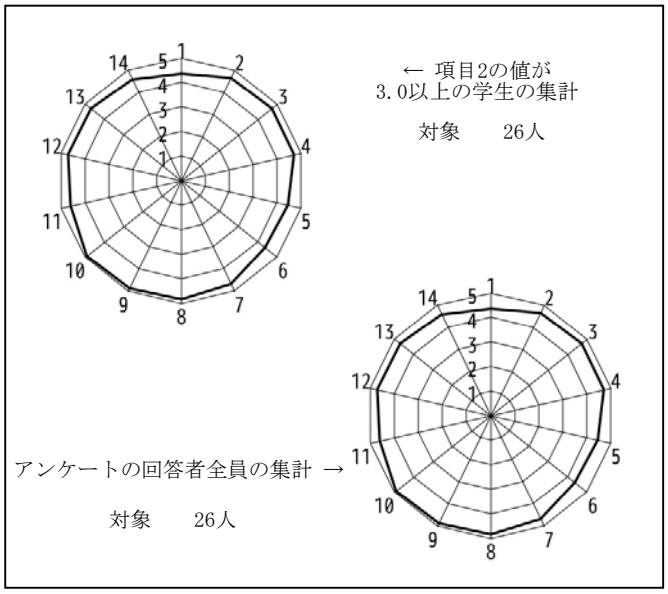
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course is to introducing students to aspects of Australian identity from the perspective of indigenous history, convict history, and military history. Content included language, literature, Australians' experiences in wartime, relations between Australia and Great Britain, and indigenous Australians.
The course included two films - "Gallipoli" and "Rabbit-Proof Fence." In addition, students learned from a linguistics video, "The Sounds of Aus," a film about Australia's indigenous people "The First Australians," and a television program called "The Making of Modern Australia." These were well received by the students. Nevertheless, they highlight important aspects of Australian culture so I will continue to use these materials.
This course used a combination of individual presentations and group discussions. Individual presentations, the students covered various aspects of modern Australian history, including the role of sports in Australian identity, LGBTQ issues, the situation affecting migrants to Australia, and racism. The individual presentations were very effective for the most part, and students commented about how much they learned by doing them. All students gave feedback to the presenters, and students were asked to write reports for each class commenting on the material of that day's lesson.
In general the course ran smoothly and I believe incorporating individual presentations with group discussions is the way to move forward. In future, I will upload all the presentation material onto Web Class as requested by one student.

外国語学部 英米学科
森山　貴仁　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies C2＜国際科目群＞（英米学科生用）
授業コード	31C18-903
教員名	森山　貴仁
教員コード	104589
登録人数	29
回答数	26
回答率	89.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講ではアメリカ社会の理解と英語コミュニケーションの向上を目的とし，人種やジェンダーなどのテーマを扱う映像作品を鑑賞した後、英語で議論をしている。ただ，英語での発言が得意な学生ばかりではないため，本授業が始まる際には2つの目標――①多くの学生から積極的な参加を引き出すこと，②学生同士の議論を促すこと――を設定していた。

①の目標に関しては，以前より満足のいく水準に達していた。今回もディスカッションの時間は充実し，むしろ時間が短いというコメントもあるほどだった。

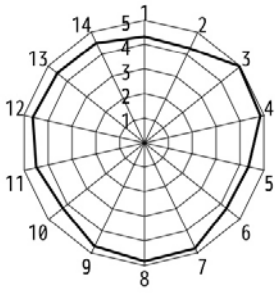
②についても，この一年で飛躍的に向上したと言える。同じ形で授業をした2年前は，こちらが用意した議題に対してそれぞれの学生が答えるばかりで，学生の発言は活発だったが教員と学生の応答の連続であり，学生の間のやり取りが希薄であった。そのため学生同士の議論を促すため，他の意見との関係を示して発言を始めさせたり（たとえば「彼が言ったように，私も～と思う」「他の人と違い，私は～と感じました」というように），そして自分自身で問いを立てて他の学生に質問を投げかけることを勧めてきた。

今後も上記2つの目標を維持した上で，話すだけでなく他の意見によく耳を傾けることや，創造的な質問を増やすことなどを目指し，より濃密な議論ができたらと思う。いずれにせよ，学生も教員も愉しい授業である。

外国語学部 英米学科
原田　健二朗　先生

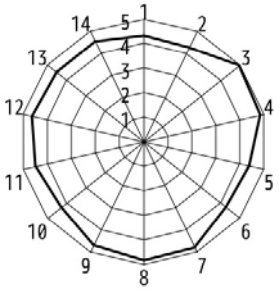
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史研究の基礎（イギリス）
授業コード 31D10-001
教員名　原田　健二朗
教員コード 104468
登録人数　157
回答数　67
回答率　42.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　66人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　67人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、アクティブラーニングを取り入れた講義形式によってイギリスの通史を概観するものだった。設問に対する数値は項目1から14までの平均が4.56、項目3から14までの平均が4.61となり、学生の受け止めはおおむね良好だったのではないかと考える。学生自身の努力や達成度を問う項目（1、2、5、6など）についてはやや数値が低めとなったが、これは自己謙遜の表れではないかと考える。学生の受講態度や提出課題、レポート等の内容を見ても、ほとんどの学生は到達目標を達成したと言える。

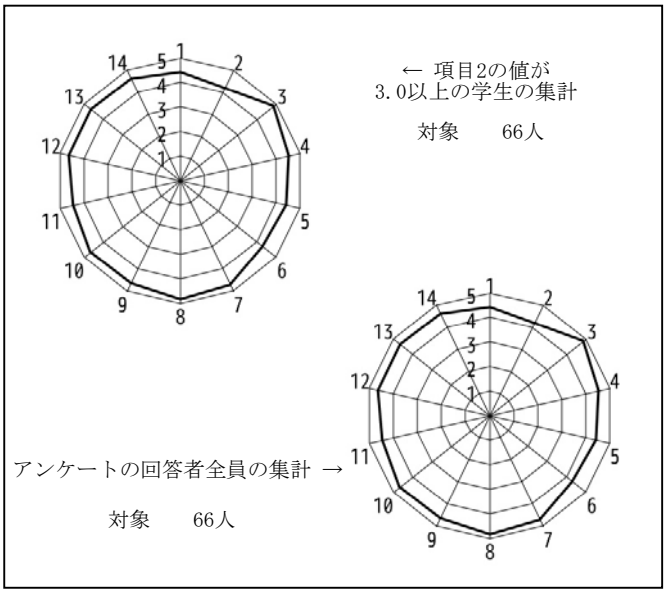
この授業は主に1・2年生向けの基礎科目であるため、高校世界史の内容と有機的に連関した説明をするよう意識しているが、世界史を選択していなかった学生にも分かりやすいものとなるよう心がけた。受講生によって前提知識に差があるため、水準の設定には常に苦慮している。しかし今回、「分かりやすかったと同時に詳しく学べた」という趣旨の回答をいくつか得られたことに安堵している。イギリス史に関連する時事ニュースをほぼ毎回取り上げ、過去と現在のつながりを実感させるようにしたことも効果的だったと考える。アクティブラーニングの取り入れ方は履修者数や教室形態に応じて千差万別であり、大教室では制約が多いが、今回この授業で実施した方法についてはおおむねポジティブな反応を得られたと感じる。

自由記述欄では、私語や遅刻への対処、出欠確認方法に関していくつか要望を受けた。不正防止が徹底され、真面目に取り組む学生が過ごしやすい授業となるよう今後とも努めていきたい。

外国語学部 英米学科
花木　亨　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　メディアとコミュニケーション
授業コード 31E12-001
教員名　花木　亨
教員コード 101269
登録人数　150
回答数　66
回答率　44.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、各種メディアの特徴を理解すること、アメリカ合衆国や日本のような民主主義社会におけるメディアの役割を理解すること、メディアリテラシーを高めることを目標とした。

項目3から14の平均値は4.61だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.47を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

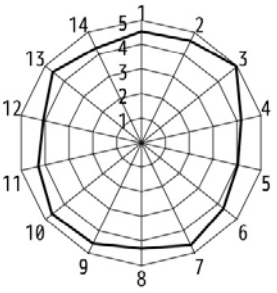
自由記述欄を読むと、説明がわかりやすかったこと、スライドがわかりやすかったこと、視聴覚資料を多く使ったこと、リアクションペーパーをとおして学生たちの意見に耳を傾けたこと、リアクションペーパーに書かれた意見を匿名で紹介したこと、それらの意見に丁寧に応答したことなどが好意的に評価されたようだ。その一方で、学生たちの意見を紹介する時間が長すぎるなどの意見もあった。これらの意見を踏まえつつ、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が比較的多い授業だったが、リアクションペーパーに書かれた意見を紹介したり、それらの意見に応答したりすることによって、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生たちの主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
松井　さなえ　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

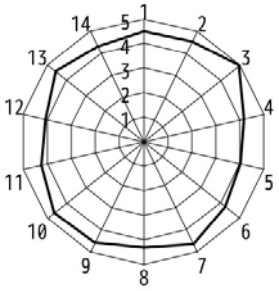
科目名　スペイン語IV[FS]1
授業コード　11D04-005
教員名　松井　さなえ
教員コード　104963
登録人数　44
回答数　35
回答率　79.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　34人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　35人

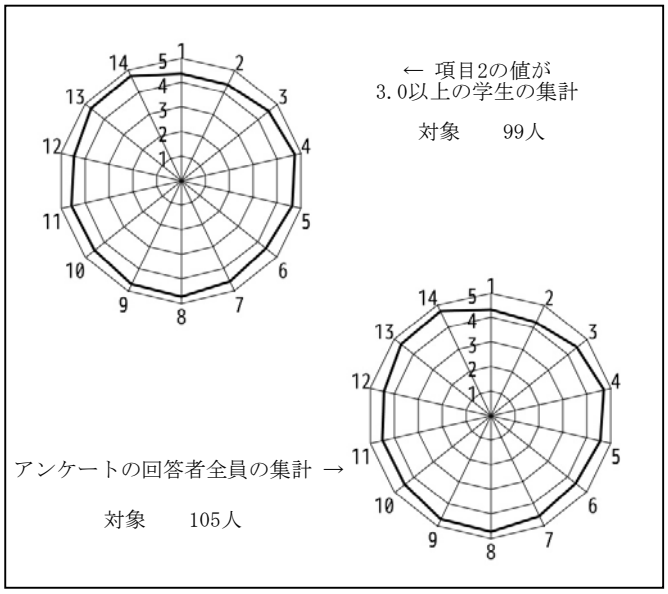
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、受講者がスペイン語の文法の基礎を身につけられるように授業を行うことであり、特に直接法現在の動詞の活用を適切に行えるようにすることであった。約8割の受講者はこの目標が達成された。一部の受講者については達成されなかった。
② 顕著に評価が低い項目はなかったため、およそ満足度が高かったと考える.
③の通り、細やかな点について修正は行う。 Webclassで教材を提示すること、授業進度や課題の量、授業内で行うこと(1問ずつ解説を行うこと)については、評価されていたため、引き続き行う。
③ 改善点は以下の通りです。 (a) 日光が強いとディスプレイが見にくくなるため、カーテンを閉めること。 (b) 宿題を出す前に、事前に内容(問題文)を確認しておくこと。(c)小テストの日程は早めに学生に伝えること。(d)エアコンの温度が適切かどうかに注意すること。(e) 日本語で書かれた文法の教科書を使用するかどうか、適切な教科書があるかどうかを検討する。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
小阪　知弘　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペインの文化と社会A
授業コード 32C06-001
教員名　小阪　知弘
教員コード 103689
登録人数　146
回答数　105
回答率　71.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、予定していたスペインの都市、13都市全てを扱うことができたので設定していた目標に到達できたと判断している。また、到達の程度に関してだが、試験結果も多くの学生が70点以上あるいは80点以上を獲得しているという結果からも、学生たちが、ある程度スペインの都市を俯瞰的に理解するという当初の目的に到達できたと捉えている。②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価に関してだが、全ての数字が4.0以上だったので、総合的にみてこの講義が高く評価されていると授業担当者は判断している。具体的には、最高評価は4.71であり、最低点も4.21という数字内容から見ても、学生達が全体的に見て同講義を高評価していることを窺い知ることができる。また、平均数字も4.53、4.58という4.5以上の数字が示されていることから、同講義が一定以上の評価を受けていると見なすことができる。③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてだが、次クオーター及び来学期も、さらに研鑽を積んで、講義内容と講義形態を高次の次元に導いていけるよう努力、工夫していく予定である。とくに、学生の点呼の方法と、板垣の展開に留意して、学生の思考に訴えかける講義を進展させるよう精進していく所存である。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ESCANDON, Arturo 先生

2024年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語文章表現特殊研究I
授業コード 32D03-001
教員名 ESCANDON, Arturo
教員コード 102090
登録人数 19
回答数 3
回答率 15.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

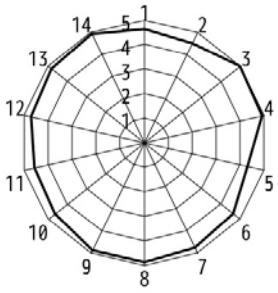
授業評価結果を踏まえた点検・評価

As an introduction to the essay tradition in the Spanish language, the course significantly exceeded its objectives. Students were exposed to the essay form from Greek, Roman, Medieval European, and Modern traditions, and wrote commentaries on these forms. Subsequently, they began producing their own essays. A key aspect of the course was the comparison of the themes and subjects of the essay form to the local Japanese reality in cultural and sociological terms. Another important aspect was the analysis of real textual sources taken from anthologies and compilations provided by the instructor. The feedback from students in the course evaluation was positive. Most students attended and actively participated in the course. This was the first time I delivered this course with a high number of enrolled students. The most challenging part, the compilation of the anthology or selection of textual sources, has been completed. In the future, only minor adjustments will be necessary.

外国語学部 フランス学科
茂木　良治　先生

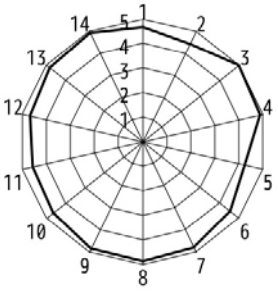
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語III[FF]1
授業コード　11B03-004
教員名　茂木　良治
教員コード　102698
登録人数　32
回答数　27
回答率　84.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　26人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　27人

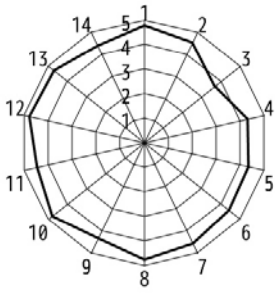
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Pilote1という教科書を使用して、予定していた13課～24課を終わらせ、当初設定していた授業目標は達成できたと考える。学生たちはフランス語初級文法の約半分を学習し、この授業を通して基礎的な力の定着を特に図った。授業進度については、設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」で4.89点と高い数値を得られていた。また、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」で4.93点だったことからも適切な授業運営だったことがうかがえる。設問3~14の平均点が4.74点と高得点であることからも、授業全体でも満足度が高いといえる。自由記述欄の良かった点として、「講義に合わせたプリントを配布してくれた点」、「丁寧な解説やプリントでの復習などの充実」とあるのように、解説の内容および手法について肯定的な記述が多数見られた。否定的な意見は見られなかったが、今回はグループワークの実施などあまり行わなかったので、今後は積極的に取り入れて、引き続き授業改善に努めたい。

外国語学部 フランス学科
COURRON, David　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語IV[FF]3
授業コード 11B04-006
教員名　COURRON, David
教員コード 019026
登録人数　21
回答数　19
回答率　90.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

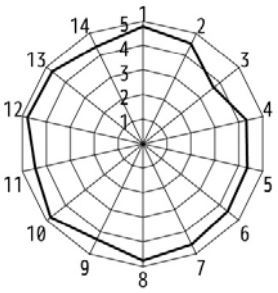


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　19人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　19人



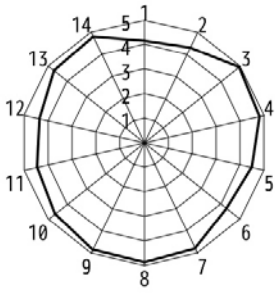
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives
The aim of this course was to have students practice French through both oral and written exercises, with a particular attention given to acquisition of grammatical patterns in various contexts.
2. Degree of achievement of initial course objectives
This quarter, even though the amount of homework may have seemed too heavy for a few of them, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above, so that most of them began to use French to communicate with one another inside the class. Many valued each class (both oral and written) verb tests and dictations, the fair balance between explanations and practical activities which led to learn also what was not in the textbook and the frequent chances they were granted to study over and over through their homework.
3. Areas requiring improvement and general remarks
Despite heavy research linked commitments throughout the period, many students' comments have praised my creating of a stimulating atmosphere for studying, more precisely my grammatical explanations along with my checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials on my home page.

外国語学部 フランス学科
真野　倫平　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ヨーロッパとの出会い1
授業コード　13B04-001
教員名　真野　倫平
教員コード　100083
登録人数　181
回答数　88
回答率　48.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

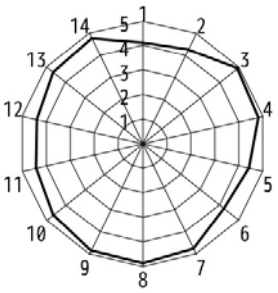


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　86人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　88人



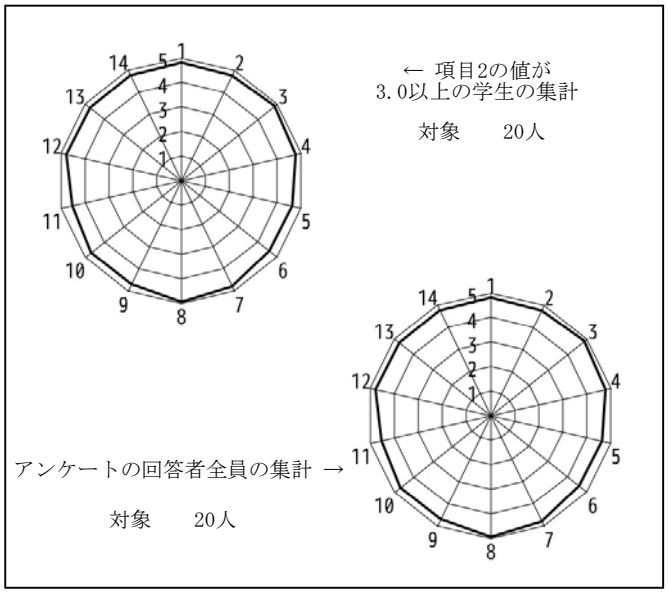
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は全学の1年次生以上を対象とする学際科目であり、フランスの文化や社会を予備知識のない履修者に幅広く紹介することを目的とする。授業では毎回、歴史・社会・文学・思想・芸術・演劇・映画・音楽など一つのテーマを設定し、多面的な角度からフランスの文化や社会を紹介した。毎回、授業プランならびに関連資料をpdfで配付し、さらにパワーポイント資料も利用しつつ講義を行った。授業中にwebclass上にいくつかの設問を課題として設定し、それに対する回答を行わせた。今回の受講生数は約180名であった。①目標と到達の程度については、毎回の課題の結果から判断するに、1）フランスの歴史・社会・文化・芸術に関する基礎知識を獲得する、2）異文化理解のためのさまざまなアプローチを修得する、という目標は十分に達成できたように思われる。②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均は4.64で、学際科目の全体平均4.57を上回った。項目別にみると、設問6（到達目標に向けての力）、設問11（学生の学習意欲）、設問12（質問・相談の機会）において平均をやや下回った。自由記述欄においては、課題提出の方法や、視聴覚資料の利用について好意的な意見が多かった。③改善点・今後の抱負については、基本的には授業を順調に運営できているものの、上記の設問11・設問12については大人数講義ゆえの難しさが表れていると思うので、さらなる工夫を心がけるように努めたい。

外国語学部 ドイツ学科
BAYERLEIN, Oliver 先生

2024年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語圏を知る
授業コード 34B02-001
教員名 BAYERLEIN, Oliver
教員コード 100842
登録人数 35
回答数 20
回答率 57.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was designed as a virtual alternative to a traditional study trip to Germany, aptly titled "A Virtual Study Trip to German-Speaking Countries." Students collaborated in pairs to develop a website, incorporating a video on a topic of their choice from a provided selection.

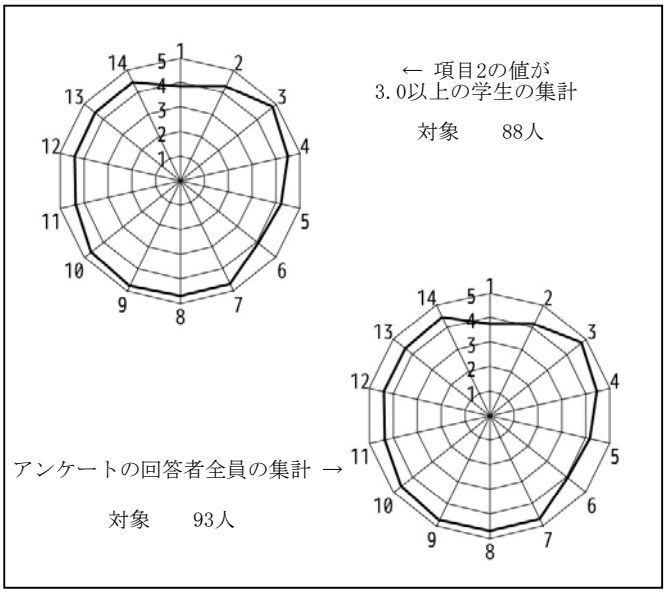
The feedback gathered through the radar chart and student comments highlights the incredible value of this course, with an average rating of 4.75 points reinforcing its success. A consistently appreciated aspect of the course, year after year, is the opportunity for students to enhance their German language skills while also gaining practical competencies in filmmaking, on-camera presentation, website development, and design thinking.

I strongly believe this course should be sustained in a similar format, even if I am not teaching at Nanzan next year.

外国語学部 ドイツ学科
麻生　陽子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ文学史
授業コード 34D05-001
教員名　麻生　陽子
教員コード 104628
登録人数　120
回答数　93
回答率　77.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



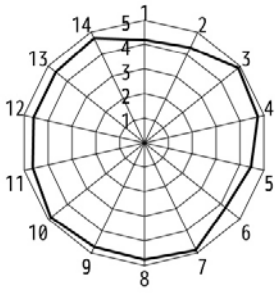
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①ドイツ語圏について予備知識のない学生も受講することを想定して、歴史的な背景も含めて講義を行った。とくにそうしたドイツ学科以外の学生の反応を、毎授業に書いてもらったコメントペーパーを読む限り、ドイツ語文学およびドイツひろくヨーロッパの文化に親しむことができたようである。おおむねシラバスに記載した目標に到達できたと思われる。
②授業前の関心（設問１）については3.7ポイントだったが、授業後の満足度など他の設問を見るといずれも4ポイントを超えている。それを裏付けるように、自由記述欄では、概してドイツ文学への関心が大きくなったという声が多数見られた。この点からも、こちらの授業の趣旨が学生に通じたものと判断される。
③この講義は受講数の制限をしており、履修希望者全員が受講することができない状況にある。来年度の開講は未定だが、もし開講されることになれば、ドイツ語文学およびヨーロッパの文化を現代の日常生活に結びつけながら、よりわかりやすい講義を行うことをめざしたい。

外国語学部 ドイツ学科
齋藤　敬之　先生

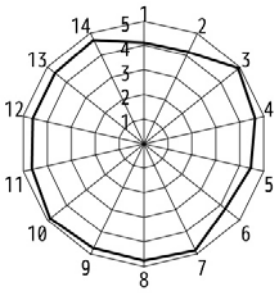
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ歴史研究
授業コード 34D10-001
教員名　齋藤　敬之
教員コード 104487
登録人数　43
回答数　33
回答率　76.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　31人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　33人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

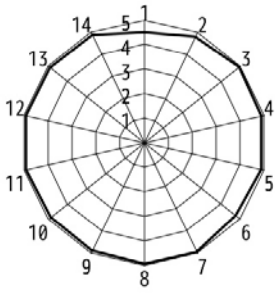
本科目は「ドイツ史の知識の再整理」や「歴史研究の動向やテーマに関する知見を深めること」を目標に掲げたが、これは教員が別に担当している「ドイツ史」（2年次以上対象）の内容も踏まえつつ、その発展を意図したものでもあった。しかし、ドイツ史に関する知識が豊富でない履修者も見受けられたこともあり、教員の目標設定や授業内容との間に隔たりがあったようで、この点が授業内容や到達目標に関する設問項目の評価が伸びなかった一因と考えられる（設問1・設問2・設問5・設問6）。加えて、授業内容のレベルに鑑みて内容の繰り返しや再確認を行ったが、一部の履修者には授業が冗長であるとの印象も与えてしまったようであるので（設問16）、内容と時間配分のバランスを改善していきたい。

本科目では、履修者の理解度の向上や履修者同士の意見の比較に役立たせることを意図し、過年度では各授業後にWebClass上で課題を出し、その回答内容を次の授業回で共有する形式を採用してきた。今年度は、授業内にチャットを用いて履修者の意見を集めたりその場で資料を考察してもらったりする形式をメインとした。これは、講義の中にもアクティヴな要素を盛り込むことを目的としたものだったが、設問9・設問12・設問15での評価に鑑みて、よい取り組みになったと判断している。このような実践は今後も継続し、また他の担当科目にも採用したいと考えている。

外国語学部 ドイツ学科
畑野　小百合　先生

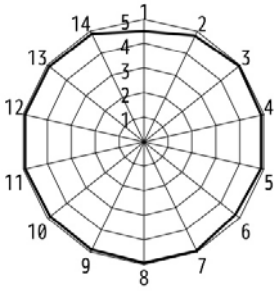
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語圏文化研究
授業コード 34D14-001
教員名　畑野　小百合
教員コード 104422
登録人数　52
回答数　36
回答率　69.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　36人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　36人

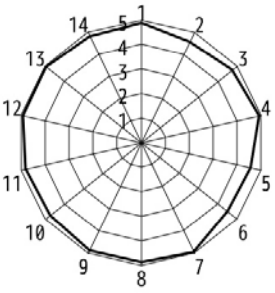
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、
・ドイツ語で歌うことができる
・歌唱ドイツ語の特性と、表現のさまざまな可能性を理解している
・授業で扱う基本的なレパートリーについて、歴史的・文化的背景を踏まえて説明することができる
・歌詞と音楽の関係について論理的に考え、表現に活かすことができる
の4点を目標としていました。実際に授業で複数の楽曲を歌い、学内関係者向けの小さな演奏会を開くことができたほか、授業内では毎回ドイツ語圏の作曲家とその作品について発表する機会を設けたことで、これらの目的は達成されたものと理解しています。
今年度の授業履修者には、ドイツ語の学習経験がない学生も多く含まれていました。そのような履修者も、歌を通してドイツ語に親しむことができただけでなく、回を重ねるにつれ自分でドイツ語の発音を正しく推測できるようになっていたことは、設定した目標以上の成果であったと感じています。
アンケートでは、どの項目も平均4.75以上の良い評価が得られました。また自由記述欄では、大学生活であまり機会のない合唱にドイツ語で取り組むことのできる授業を楽しんだという声や、合唱を通してドイツ文化を広く学ぶことができてよかったという声などがありました。授業の意義を理解し、学びの活動を楽しんでいただけたようであることを、嬉しく感じています。
来年度もまた、履修生の実態に合わせて扱う作品を吟味し、個人練習のための教材やグループワークの適切な取り入れを通して、それぞれが主体的に学びを深めることのできる授業を展開したいと思います。

外国語学部 ドイツ学科
太田　達也　先生

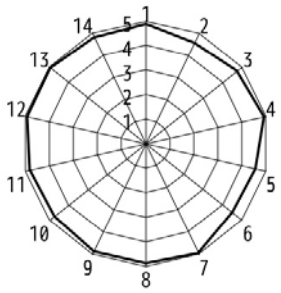
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語実践演習F＜国際科目群＞
授業コード 34D18-901
教員名　太田　達也
教員コード 101967
登録人数　17
回答数　16
回答率　94.1%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　16人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　16人

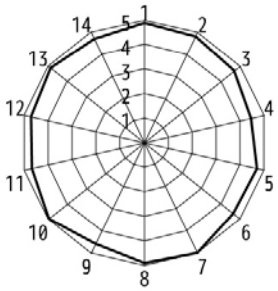
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は基本ドイツ語しか使わず、文法説明や決まった状況の会話練習などではなく純粋に行動・タスク中心の内容とした。受講者の言語レベルにはかなりの幅があったが、どの受講者もモチベーションを持って取り組めるよう配慮しつつ授業を行った。設問４において4.94という評価が得られたことから、授業構成と進行速度は概ね肯定的に受け止められたようだ。設問12と設問13でも同じく4.94という評価が得られ、受講者自身この授業を通して能力の向上を感じることができたようで、その点は喜ばしく思う。一方、最も評価が低かった（4.50）のは設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」であった。到達目標には、「他者とドイツ語で意見交換できること」「複雑なテーマについてドイツ語で議論できること」「プロジェクトにおいて他者と協働できること」「ディスカッションの結果をドイツ語でわかりやすくプレゼンできること」を掲げていたが、こうした能力の発展を学習者が自ら高く評価する方向に導くことはなかなか難しいと感じる。しかし全体としては、項目3から14の平均が4.81と高めの評価であり、目標はある程度到達できたと見てよいだろう。自由記述回答には、良かった点として「とにかく自主的な協働活動が促される点。ドイツで話すよう努力できる環境であるため嫌でもドイツ語の運用能力がつく点」といった声が聞かれ、励まされた。今後はさらに学習者の自己評価が高まるような授業を行っていきたい。

外国語学部 アジア学科
中　裕史　先生

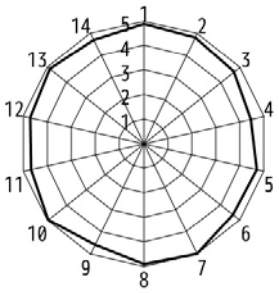
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I語法1
授業コード　35A07-001
教員名　中　裕史
教員コード　017830
登録人数　28
回答数　26
回答率　92.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　26人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　26人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は以下の3点である。(1)動詞を中心とした構文やテンス、アスペクトを使いこなすことができるようになる。(2)中国語検定3級程度に相当する文法の知識を備えることができるようになる。(3)アジア学科ディプロマポリシーにある、中国語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度な運用能力を語法に関して身につけることができるようになる。学生による授業評価ならびに期末試験の結果から、本授業は到達目標を概ね達成したと判断している。

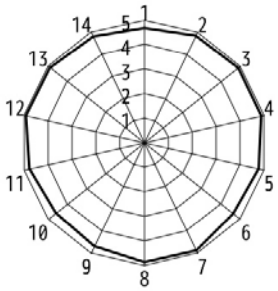
設問2（学生側の努力）、設問5（到達目標の理解）、設問6（能力の向上）および設問13（達成感）の各項目で高い評価を得ていること、また、授業において進度を速く設定しているにもかかわらず学生がそれなりに準備をしてきたことなどによって、教科書1冊を最後の課まで学ぶとした進度目標が学生にとって大きな負担にならず、むしろ中国語の運用能力の向上につながったと感じていることが確認できた。授業の合間にクイズを取り入れるなどして、なるべく学生との対話を図った点も自由記述において評価されている。

ただ、練習問題の正答を音読する形で共有したことについて、一部の学生からは理解が追いつかないという回答があったので、来年度以降は音声だけでなく板書を増やすなどして視覚でも正答を確認できるような方法を講じたいと思う。

外国語学部 アジア学科
張　玉玲　先生

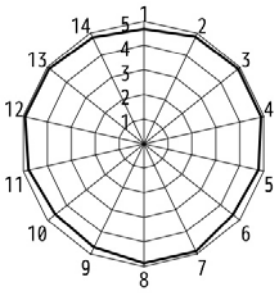
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語と日本1
授業コード 35B08-001
教員名　張　玉玲
教員コード 101049
登録人数　26
回答数　19
回答率　73.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　19人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　19人

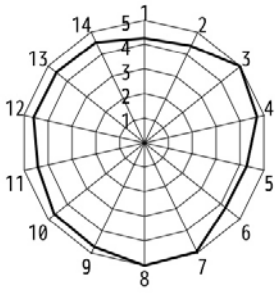
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目のねらいは、異文化間コミュニケーションの一環として、自文化としての「日本」を、これまでに学習してきた中国語表現を使って的確に表現する能力を養うことであり、a.自文化としての「日本」を、中国語で表現することができること、b.中国語によるプレゼンテーションの基本を身につけていること、c.中国語検定2級～3級程度の運用力を身につけていることを到達目標としている。そのため、授業では、日本の文化や大学生の日常を外国人に紹介するという観点でメインテーマを設定し、4名前後のグループごとに独自のテーマを決めて中国語でプレゼンテーションをさせている。学生の答え（評価および自由記述）を見る限り、授業の到達目標はほぼ達成していると思われる。
②特に中国語で大勢の前で発表することを通じて、受講生が語彙力や作文の力を身につけたほか、情報がうまく相手に伝わるように伝え方を工夫するコツを覚えたことが確認された。また、学生の何気ない日常を「日本文化」として外国の人々に紹介することで自文化を相対的に捉える視点を身につけたことも成果の一つではないかと思われる。
③開講されて二年目の科目であり、今後、受講生のモチベーションの高低さを調整しつつ、よりアクティブな学習ができるよう授業デザインを工夫していきたいと考える。

外国語学部 アジア学科
江口　伸吾　先生

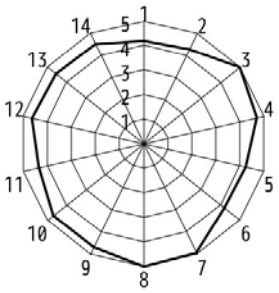
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語時事A
授業コード　35C08-001
教員名　江口　伸吾
教員コード　104423
登録人数　28
回答数　22
回答率　78.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　21人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　22人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）中国語の新聞記事(『人民日报(人民网)』『环球时报(环球网)』など)をテキストとして、さまざまな形式の文章を精読することにより、①中国をめぐる国際関係、中国政治、政治社会などの各領域に関する語彙を増やし、時事中国語の読解力を高める、②現代中国の動向に関する理解を深めることを目標に掲げた。本授業を通して、開講当初の目標は、おおむね達成できたのではないかと判断している。

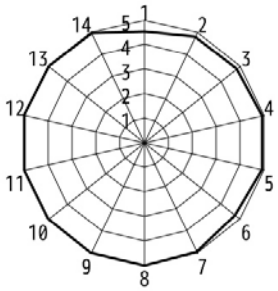
（２）数値データ、および自由記述をみる限り、本授業での受講生の理解度はおおむね良好であった。とくに授業では、現在の中国に関する中国国内外の中国語の新聞記事を取り上げることにより、中国の時事問題に関する語彙力、読解力を高めるとともに、現代中国に関する知識の修得に尽力した。この結果、授業の良い点として、「現地の新聞を通して新しい知識が得られ、自分の研究に役立った」などの意見、また、本講義に台湾の輔仁大学招聘学生が参加し、「より実践的な学びが得られた」といった感想が寄せられた。

（３）改善した方が良いと感じた点として「翻訳に必死で内容まで入ってこない時があり、内容をまとめて説明してもらえる時間が欲しかった」といった意見も寄せられた。これに関して、項目番号5、6の平均値が4.27、4.18と若干基準を下回っていたことと関係しており、中国語の問題だけでなく、複雑に変化し続ける時事問題の内容に関する話も充実させたい。

外国語学部 アジア学科
宮原　佳昭　先生

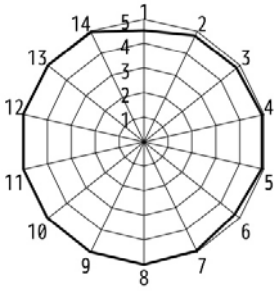
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アジア文献講読A
授業コード 35C19-001
教員名　宮原　佳昭
教員コード 102232
登録人数　33
回答数　24
回答率　72.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　24人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　24人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の3点である。①卒業論文で分析対象とするレベルの中国語資料を読解できるようになる。②中国語資料の文章を、一字一句の意味をおろそかにせずに全て日本語訳できるようになる。③中国語資料にあらわれるキーワードとその意味を、辞書やインターネットを駆使して把握できるようになる。

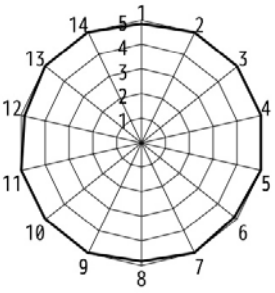
上記の目標を達成するために授業中の指導で工夫したことは、次の4点である。①オンライン中国語辞書や百度百科など、中国語読解に有益なツールを学生に示した。②授業中は学生全員を1回ずつ指名して日本語訳させ、一字一句の意味を辞書で調べたかを細かく確認した。③中国語はあくまで外国語であるため、安易に分かったつもりになってはならず、教員にも分からない語句があるということを身をもって示した。④学生の日本語訳に誤りがあった場合も、それを頭ごなしに否定することなく、それがどのような点で誤っているのか、どのようにすれば適切な訳を導き出せるのかを具体的に示した。これらは学生の自由記述欄を見る限りは好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

今年度の進度は、前年度の反省を生かし、前年度よりもやや少なめの分量で設定した。授業1回あたりの分量を減らした分、学生の予習の質が確実に向上したことから、学習効果は十分に確保できたものと考えている。来年度もこれを継続したい。

外国語学部 アジア学科
MANGGA, Stephanus　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

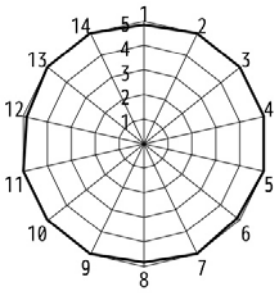
科目名　上級インドネシア語会話A
授業コード 35D05-001
教員名　MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数　7
回答数　7
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　7人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　7人

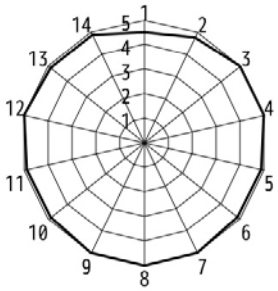
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The goals of the targets of the course are able to communicate appropriately according to the context and able to listen and retell speech related to the context. From the student evaluation, especially related to the answers to questions 2, 5, 7, 13, and 14, it is not an exaggeration to say that the targets or goals of this course were achieved well. This is proven by the average score for the questions above is 5.
(2) Based on the answers regarding class management, I think I have done my best for the students. This can be seen from students giving an average score of 5 for considering the level of student understanding. They also gave an average rating of 5 regarding taking appropriate action against behavior that may be disruptive to class. Students also felt satisfied that there was proper guidance and provision of information to encourage them to learn and to proactively participate in class. I am pleased that students feel they gained new knowledge (or skills/abilities) and deepened their understanding through this course (based on the answers to question 13).
(3) Based on point (2) above and the answers to question 17, I think, I will do the same pattern and method for the next class.

外国語学部 アジア学科
間瀬　朋子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

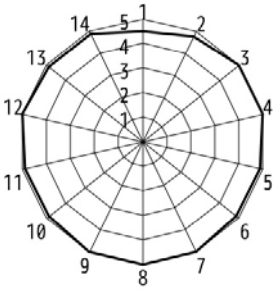
科目名　インドネシア社会研究
授業コード 35D11-001
教員名　間瀬　朋子
教員コード 103607
登録人数　14
回答数　8
回答率　57.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　8人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　8人

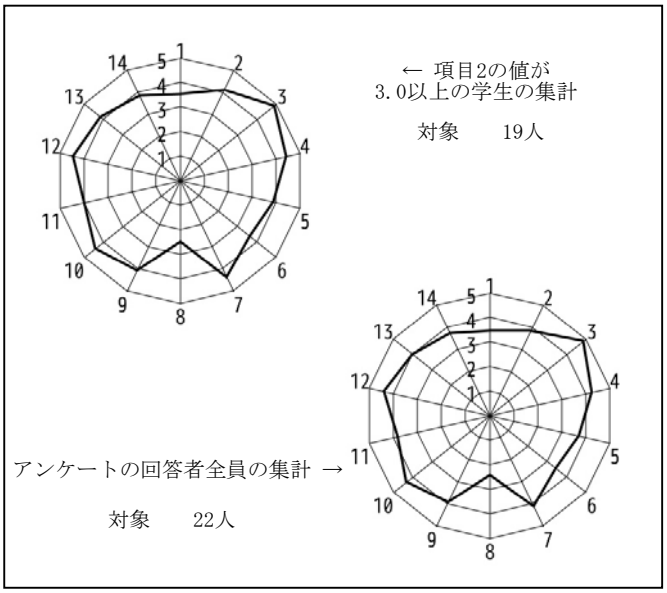
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①講義と輪読の併用で実施した本科目の目標は、ジャワ社会における農業、家族関係の在り方、宗教等に関する基礎知識の獲得だった。また、多数派のジャワ社会の立場からインドネシア全体（特に開発の諸相）を考察することもめざした。これらの目標は、受講生たちが主体的に授業に参加し、真摯に講読論文と向き合ったために、十分に達成された。受講生たちは各自で論文を予習し、担当回にはパワーポイントやレジュメを準備して解説し、他の受講生や教員からの質問やコメントに応じた。
②受講生たちによる主体的な授業参加は、アンケートの数値データや自由記述にみてとれる。ここ数年、輪読の授業形式を採用してきた。教員が熟考して選択した数本の論文にクラス全体で向き合い、読み砕き、理解するというオーソドックスな形式は、予想以上に受講生たちに受け入れられたように感じている。自分の読み方でよいのかどうかを、他の受講生や教員に確認しながら解説を担当するなかで、受講生たちがジャワ社会やインドネシアへの理解を進め、大学生としてのアカデミックスキルに自信を持つようになるようすを観察した。
③受講生の関心をひき、かつ有意義な講読論文の選択に、いっそう尽力したい。本科目の授業形式は、主に東南アジア専攻生対象の少人数制を前提とするものである。したがって、受講生の増加に対応しにくい点には、改善の余地があろう。

外国語学部 英米学科
竹野　貴子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society E4
授業コード	31C05-004
教員名	竹野　貴子
教員コード	153741
登録人数	25
回答数	22
回答率	88.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



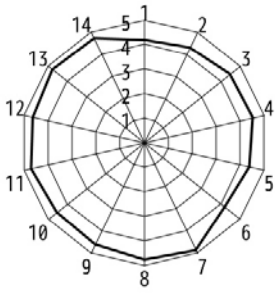
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
学生が順番に教科書を用いてプレゼンテーションをしたり、教員が関連した重要事項について授業をしたりすることを通じ、学生が冷戦史を理解できるよう取り組みました。項目13について平均値が4.0であったことから、概ね目標に到達できたと考えました。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
項目3、４、７、１２、１３などの項目で平均値が4以上であったことから、授業スタイルについては概ね問題がないと思われるため、継続していこうと思いました。
学生によるプレゼンテーションの完成度が高く、また自由記述では、内容の理解が深まった・授業に参加していると感じられたという記述があったため、次回以降もプレゼンテーションとディスカッションを実施する方法を継続していきたいと思いました。毎回の授業の後半では教員が授業をしましたが、自由記述でキーポイントが明確であった・教員からの適切な説明があったというコメントがあったため、この授業スタイルについても続けていこうと考えました。
質問や相談の機会については、毎回コメントシートを実施し、質問が出た内容についてはその次の授業で説明するという方法を取っていたことが、3以上の回答が100%という結果につながったのではないかと思いました。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
改善点は、項目８が全ての項目の中で最も低かったことです。特に学生の話し声がある中で出席を取り始めてしまい、聞き取りづらい状態を作ってしまったことなど思い当たる反省点があるため、学生がより授業に集中できる環境づくりを心がけようと思いました。

外国語学部 英米学科
PURCELL, William 先生

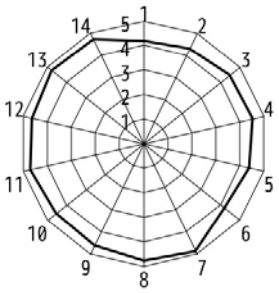
2024年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture B1
授業コード	31C07-001
教員名	PURCELL, William
教員コード	016501
登録人数	35
回答数	17
回答率	48.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象 17人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象 17人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The evaluation numbers are consistently high, suggesting that for the students who took time to do the evaluation there seems to be a rather high level of satisfaction with the course. The disappointing side is that only about half of the students took the time to do the evaluation.

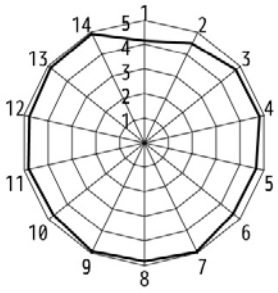
My continuing frustration over the years has been getting the students to respond to questions when asked. They have always seemed willing to carry on small group discussion but become silent when asked to share with the entire class. In 41 years have have never found a solution to that problem.

Student journal assignments seem to indicate that most of the students did take the stories seriously and they did make the students think about issues relevant to their own lives. If that is true, then the course achieved its major goal, which was to get the students to see fiction as a way to look at the world through someone else's eyes and then reflect on their own experience.

外国語学部 英米学科
加藤　紗織　先生

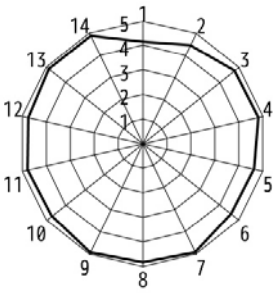
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アメリカの歴史
授業コード 31E01-001
教員名　加藤　紗織
教員コード 104964
登録人数　101
回答数　59
回答率　58.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　58人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　59人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では到達目標として、①アメリカ合衆国において「人種」の問題が今なお社会情勢に反映されている背景を説明できるようになる、②アメリカ社会の分断が深刻化した背景とその対応について説明できるようになる、③グローバルな視野に基づく柔軟な異文化理解能力と、物事を多面的かつ緻密に分析できる洞察力、ないし、現代の諸問題をグローバルな視点とローカルな視点から理解できる能力をつけることができるようになる、以上3点を掲げた。すべての点において、リアクションシートと試験結果を見る限り、受講生は十分に目標を達成したと考える。③については、元々の講義内容ではグローバルな観点からの掘り下げがやや不十分であると案じていたが、学生が質問で他国の例を挙げてくれたことで授業内でグローバルな視点を加えたフィードバックをすることができた。

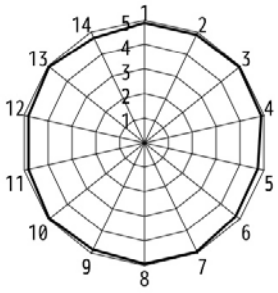
総合的な評価としては、アンケート結果を踏まえると受講前の科目への関心がやや平均値を下回っていた。他の項目は平均値をほぼ上回っていたことから、授業を通して少なからず科目への関心を深めてくれたのではないかと思う。映像資料を使ったこと、個別の質問への毎回のフィードバックに肯定的な評価が多かったので、継続していきたい。

改善点としては、まず、私語への対応を初回から学生に伝えておくことでより快適な授業環境を目指したい。また、スライドのスピードがやや速いと感じる学生もいたため、情報量も含めて教材の見直しをして臨みたい。

外国語学部 英米学科
中郷　慶　先生

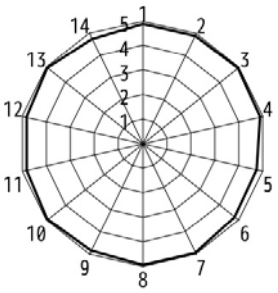
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語音声学
授業コード 31E17-001
教員名　中郷　慶
教員コード 104472
登録人数　23
回答数　19
回答率　82.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　19人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　19人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業当初に設定していた目標と到達の程度」については、当初の予定通りに到達できたと考えています。

設問1から設問14への回答の平均値は4.87で、特に大きな問題なく授業を運営できたと認識しています。

平均値が最小の4.74となった設問5（この授業の到達目標を理解することができましたか）は、授業の到達目標に関する設問です。この授業では、シラバスに示した到達目標の内容について、説明と実習を繰り返し行い、理解と定着を図りましたが、「4」と答えた学生が5名（26.3%）いたということは、あれでも十分ではなかっただと感じています。

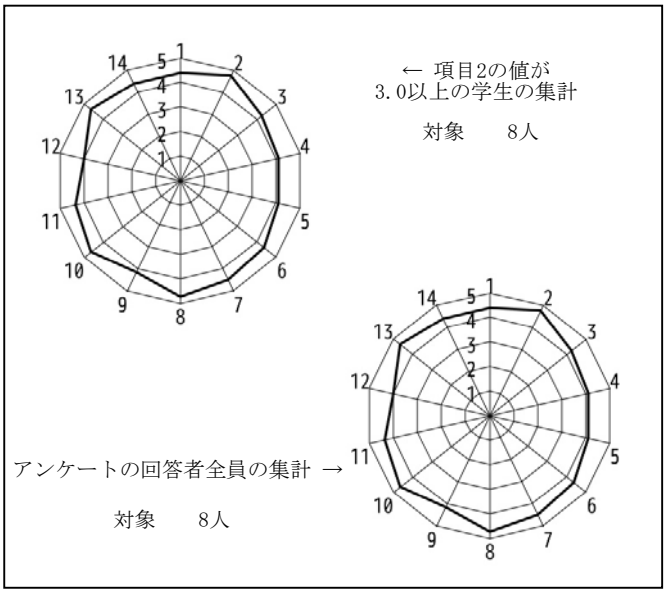
自由記述では、改善した方がよいと感じた点として、間違った学生に対する教員の指摘が怖く感じたというご意見がありました。この点については、いつも注意を払っているのですが、今後、いっそう気を付けたいと思います。（ただ、直前に説明したことや、すでに説明したことを学生が理解していないようなケースでは、ついつい、「それ、やりましたよね」と言ってしまうことがあります。）良かった点としては、英語の発音への理解が深まった、実践的な練習の機会が多かった、説明がわかりやすかったなどのコメントがありました。この授業の意図や目標を学生のみなさんにご理解いただき、授業を進める上で、わたくし自身が行っているさまざまな工夫がみなさんに肯定的に受け入れられたのは、良かったと思います。多くの貴重なご意見、ありがとうございました。

わたくしが南山大学でこの授業を担当するようになって4年目となりますが、今年度は最終週まで授業を受けていた学生が約20名とこれまでに比べて非常に少なく、その分、受講生の指導をじっくりと行えたと思います。わたくし自身、とても楽しんで授業をさせていただきました。ありがとうございました。

外国語学部 英米学科
栗原　裕　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際経済学
授業コード　31E21-001
教員名　栗原　裕
教員コード　104294
登録人数　32
回答数　8
回答率　25.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講、そしてアンケートへの回答、ありがとうございました。

類似した科目の履修をほとんどしていないことは承知の上、難易度の高い内容を扱いました。それにも関わらず、多くの皆さんには、熱心に、意欲的に取り組んでもらえたと思います。

項目番号４，５，９、12がやや低かったようです。一方的に「教え（しすぎ）る」授業ではなく、主体的な学び、自律的・自立的な学びを促進したかったのですが、意図するところがうまく伝わらなかったのかもしれません。両者のバランスを適切にとっていくことが課題のように感じます。そして、新型コロナウィルス蔓延の可能性が解消されていなかったことも、グループワークの実施などに制約を課すものになりました。学びあいの機会を提供できなかったのは残念でした。

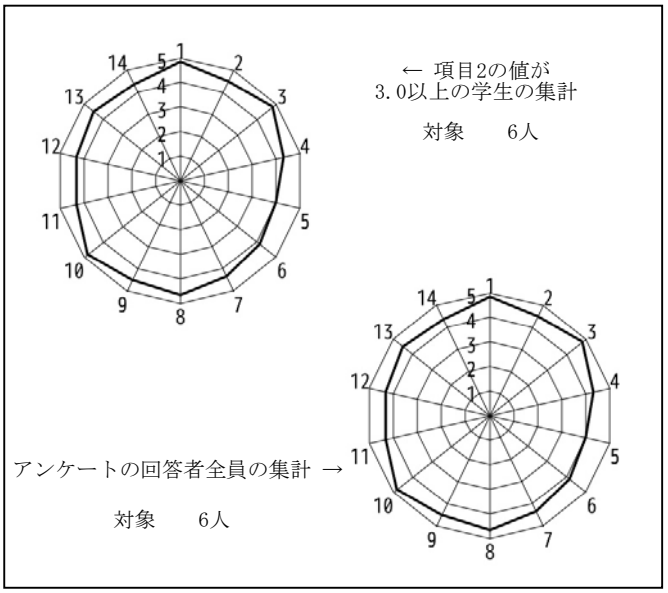
皆さんが専門的に学んでいる分野でもなく、一部の皆さんにとっては関心が高い分野ではなかったように思いますが、より興味や関心が高まるような工夫は必要だったように感じています。受講生の皆さんの負担との兼ね合い、知識などの相違も課題のように思われます。

答案にもいえることですが、今回はレポートが気になりました（試験終了後にコメント済み）。時事的な問題への関心の度合いもです。上記の問題を可能な限り克服しながら、受講生の皆さんの満足度を高めていくような工夫をよりしていこうと思っています。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
HOPKINS Mariella　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語III[FS]1
授業コード 11D03-005
教員名　HOPKINS Mariella
教員コード 103653
登録人数　18
回答数　6
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Regarding the objectives set and the degree of achievement according to what was formulated in the syllabus, it is important to mention that everything scheduled for the quarter being evaluated has been fulfilled. The schedule is designed class by class and students have access to it on the WEBCLASS platform where the topics to be covered in class and the tasks they have to do at home are indicated, as well as the work they have to do in groups and that they must present orally in class.

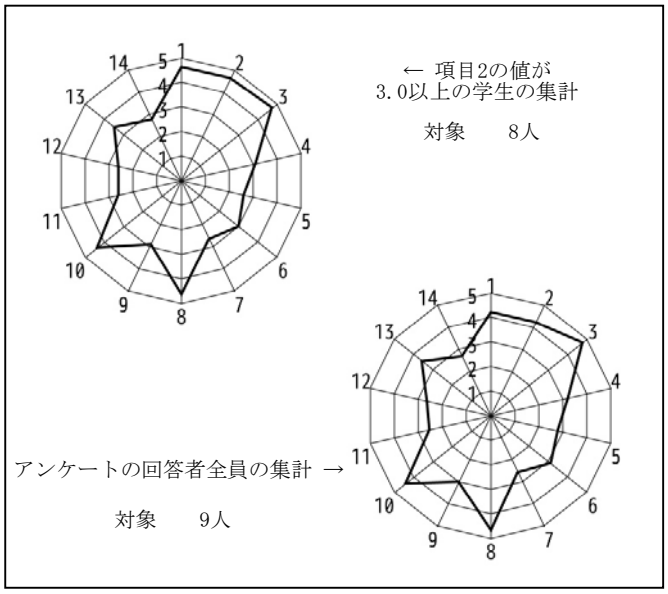
2. Regarding point 2 on self-assessment and according to the results of the survey, we see that it is very important that students can understand the lesson plan and the objectives of the same that are described on the Webclass platform. We see it as very necessary to make a guide so that students fully understand the objectives of the classes. It is important to continue encouraging their independence when studying Spanish as a second language.

3. In relation to point 3 on the objectives for the following quarters, it is very important that students learn that the objectives of the book units and the objectives of the classes are described in the syllabus and the Webclass platform. We see it as very necessary to provide better support so that they can connect with the platform in question.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
GUTIERREZ CERVANTES, Lenin Emmanuel 先生

2024年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIB1
授業コード 32A12-001
教員名 GUTIERREZ CERVANTES, Lenin Emman
教員コード 104703
登録人数 20
回答数 9
回答率 45.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Having thoroughly reviewed and reflected on the feedback from the survey, I understand the importance of addressing the students' concerns to improve the overall learning experience. To address these concerns, I will make the contents of the syllabus and the due dates for projects and presentations clearer and more accessible. Additionally, I will introduce a range of new activities designed to offer immediate feedback, which will better support the student's learning progress. I am also committed to being more attentive to my speech patterns in Japanese and Spanish to avoid any potential misunderstandings. I am committed to making the necessary adjustments to enhance the learning environment for my students.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
YANEZ　ROSADO, Juan　Antonio　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　上級スペイン語IIB3
授業コード　32A21-003
教員名　YANEZ　ROSADO, Juan　Antonio
教員コード　104624
登録人数　18
回答数　2
回答率　11.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

スペイン語非常勤講師のジャネスと申します。これから「スペイン語上級IIBの自己評価を報告したいと思います。今年度は、スペイン語上級IIBを担当して初めてです。総合的に振り返ると、満足感が残ったと言えます。学生はほとんどみんな授業の内容に興味を示して、クラス活動に活発に参加しました。教育目的に振り返ると、（意見を言う、気持ちを伝える、言葉で変化を伝える、人間関係を伝える）その目的は８５％くらいに達成したと思います。13回のクラスの口座で、この１３回で教科書の内容に基づいて、ペアーワーク、発表、ロールプレイなどの教授法を生かして、学生がその活動に活発に取り組んだと思います。今度はこの１３回の内容を見直して、教案を改善したいと思います。学生のコメントが少なかったがすべて良いコメントでした。それは自分が考えた教授法が効果的になり、基本的にグループの中にモティベーションが高かったの印だと思います。改善点のことを考えて、３つのポイントがあると思います。①インプット。先生の話し方や学生の反応に対してのフィードバックはもっとわかりやすくして、いつも理解確認をしたら良いと思います。学生の活動の結果の評価です。学生に発話したことに対して、いつもフィードバックするもので、そのフィードバックはより上手にすればよいと思います。②参加の管理です。学生の中にはいつも「はずかしがりや」で話したくない子がいます。その学生の個性的な性格を認めて、少しづつ発話の技能を育てて、会話技能の習得を確認する方法を考えればよいよ思います。③クラス活動の内容。教科書の内容はいいと思いますが、モティベーションのために現在の若者たちの興味あるテーマを探して、追加の教材を準備する必要がありました。今年度はその教材を作って、来年度もより上手に作りたいと思います。
上に書いた通り今年度はこの「スペイン語上級Bを担当して初めてでした、挑戦する点を磨いて、これからより効果的なクラスデザインを計画したいと思います。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
西脇　靖洋　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ポルトガル語圏文化・社会特殊研究B
授業コード　32C34-001
教員名　西脇　靖洋
教員コード　104557
登録人数　6
回答数　2
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

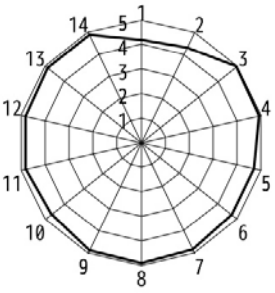
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初、設定していた「ポルトガルの歴史や政治について基礎知識を身につける」、「ポルトガルの事例を通し、現在の欧州諸国が抱える政治課題の一端について理解できるようになる」等の目標について、多くの学生が到達することができたようである。また、ポルトガルの事例に関する理解を通して、比較の視点から、「スペインならびにラテンアメリカの文化や国際関係に関する知識を基に資料を的確に分析し、幅広い視野と総合的判断力によって、地域研究の課題に積極的に取り組むことのできる力」を一定程度身につけることもできたのではないかと考えられる。
②２コマ連続の授業であったが、多くの学生が授業内容に関心を持ち、高い集中力で授業に臨んでいたようである。学生の集中力を持続させるべく施した工夫が幾許か功を奏したものと考えられる。
③次回この授業を担当する際には、大きな変化はもたらす必要はないように思われるが、細部において今年度の経験を活用したい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
安藤　真次郎　先生

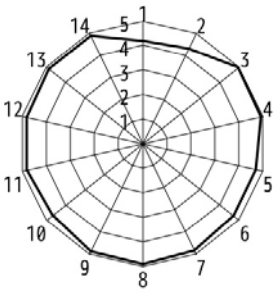
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語圏思想特殊研究A
授業コード 32C39-001
教員名　安藤　真次郎
教員コード 104611
登録人数　45
回答数　24
回答率　53.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　24人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　24人

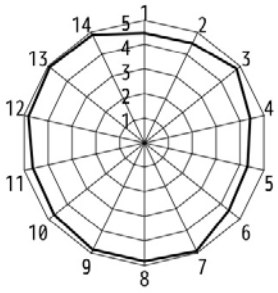
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①概ねシラバス通りに講義を進めることができた。到達目標として４つのテーマを掲げたが、毎回の授業で実施した理解度確認シート、および最終レポートを確認したところ、出席していたすべての学生が到達目標に到達していることが確認できた。
②アンケートの設定項目とレーダーチャートを確認したところ、項目1～14の平均が4.75、項目3～14の平均が4.83であったことから、学生からの評価は概ねよかったと考えている。自由記述の項目15では、「学生に興味をもたせるような工夫があった」「映像資料や画像などを実際に見ることで学んでいることへの具体的なイメージができた」「配られる資料が見やすく、毎回のプリントによる前回の授業確認も程よく、バランスよくできてとても助かった」などの声が複数あり、用意した資料（レジュメ、写真・映像・音声資料）が授業の理解に役立ったと考えている。項目16、17は特にコメントはなかった。
③「スペイン語圏思想研究」というやや難しい印象を与える科目名であるので、できるだけ学生たちが興味を持つようなシラバスを作成したい。また講義においては、パワーポイントや映像・画像資料を利用しながら、各時代の思潮や重要な出来事をわかりやすく説明し、代表的な知識人や思想家について理解してもらえるようにしていきたい。

外国語学部 フランス学科
NISHINO, Aurelie　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

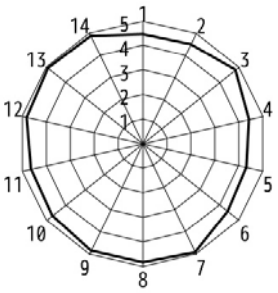
科目名　フランス語IV[FF]1
授業コード 11B04-004
教員名　NISHINO, Aurelie
教員コード 103640
登録人数　23
回答数　22
回答率　95.7%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　22人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　22人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals at the beginning of the quarter were to bring the students to be able to have strong bases for French. The method is new and not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons. They asked a lot of questions, and participate in the lesson.

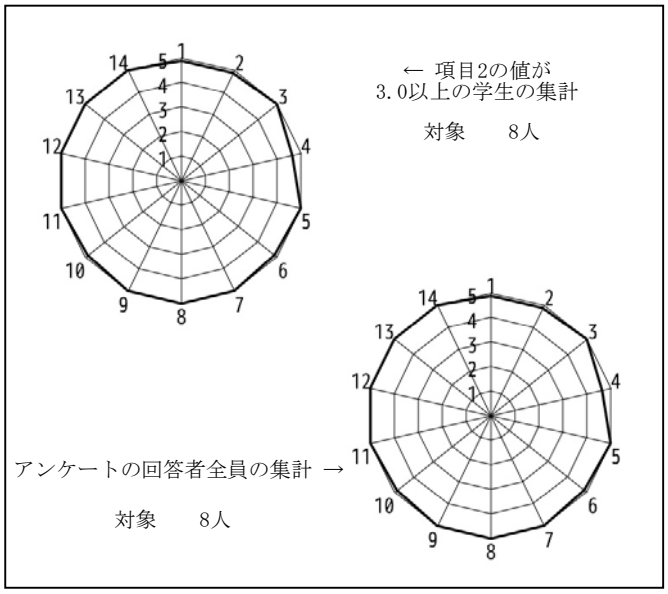
2. Following the results of the enquê te, I will try next quarter to explain the lesson goals more and give them more time to write down the answers of the exercice (they have the answers via webclass also). This is the first time with this new textbook, so I am still adjusting how to give the answers of the exercices. I will try to do that more efficiently.

3. For the next quarter, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past quarter experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

外国語学部 フランス学科
MORGAN, Simon　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語実践演習A
授業コード 33C05-001
教員名　MORGAN, Simon
教員コード 104854
登録人数　13
回答数　8
回答率　61.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



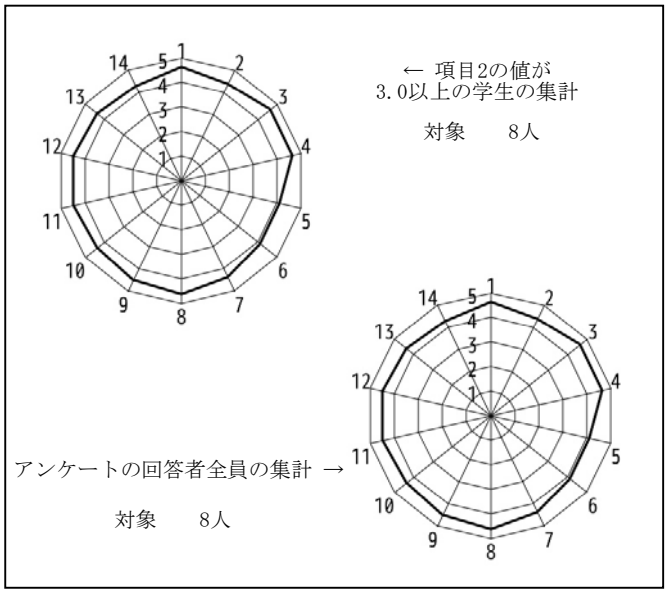
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Thinking back about the goals I set about this class last year and looking now at the comments and the evaluation given by the students, I do really think that the class went in the direction I intended.
The problems I had last year were a lack in maintaining a good policy about lateness in the class, some difficulty for some students to understand the content of the class due to my choice of speaking only French in it (these two got reported in last year's evaluation) and an examination I think inappropriate focused on only one big exam.
This year, globally (including about the problems evocated above), I got really good returns from the students. Notably I have been said that the effective use of French language for explanations in class was an uncommon opportunity in Nanzan University and made (for some students) the class better by giving them the opportunity to strengthen their listening comprehension ability. Indeed I was using French every time for explanations, usually repeating them in Japanese to make sure every students understood properly. I do also think that choosing an examination based on graded activities dispatched all over the semester, such as presentations or directed questions and free writing, instead of only one big exam was a good idea considering that it took out some pression for the students, making I believe the class more enjoyable, and that it really made their final grades more accurate toward what I felt about them during the different classes.
If I have the chance to propose this class again next year, I think I will change and/or actualize some of the material I'm using but without changing it too deeply.

外国語学部 フランス学科
VURPILLOT, Xavier　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語実践演習B
授業コード 33C06-001
教員名　VURPILLOT, Xavier
教員コード 104503
登録人数　30
回答数　8
回答率　26.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course's aim was to help the students to get ready to take on the french exams DELF level B1 and B2. To reach this goals, the course focused on studying the different parts of the exams : listening, reading, speaking and writing tests.

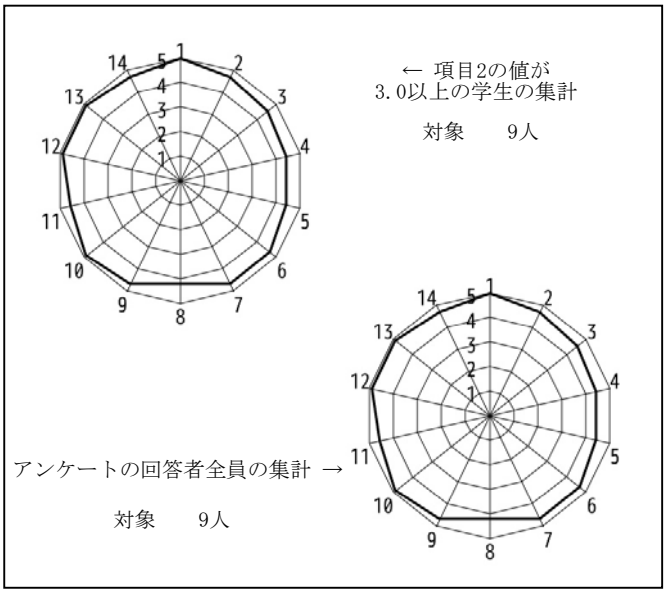
The survey results indicate a generally high level of satisfaction among students regarding the course. The average ratings for the different aspects of the course suggest that the overall experience was positive.
Nevertheless, Understanding and progress towards the course goals were rated slightly lower at 4.13. This suggests that while the goals were clear, some students might have felt they needed more support to achieve them.
Also, overall satisfaction with the course was slightly lower at 4.25, suggesting room for improvement in ensuring that all students are fully satisfied.

In conclusion, the survey results reflect a relatively effectively delivered course, with minor areas for improvement in goal achievement and overall satisfaction. Better defining the goal and maybe limiting the number of participants to allow more one-to-one advices next time might help improve those numbers.

外国語学部 アジア学科
張　静萱　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語III会話
授業コード 35C05-001
教員名　張　静萱
教員コード 048047
登録人数　12
回答数　9
回答率　75.0%
休講回数　3 回
補講回数　3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、「中級中国語Ⅲ会話」ということで、会話を中心に受講生の皆さんの話す力を伸ばそうと工夫すると同時に、中国語や語学の背後にある中国の文化などのいろいろな知識も上達するようと授業を進めてきました。

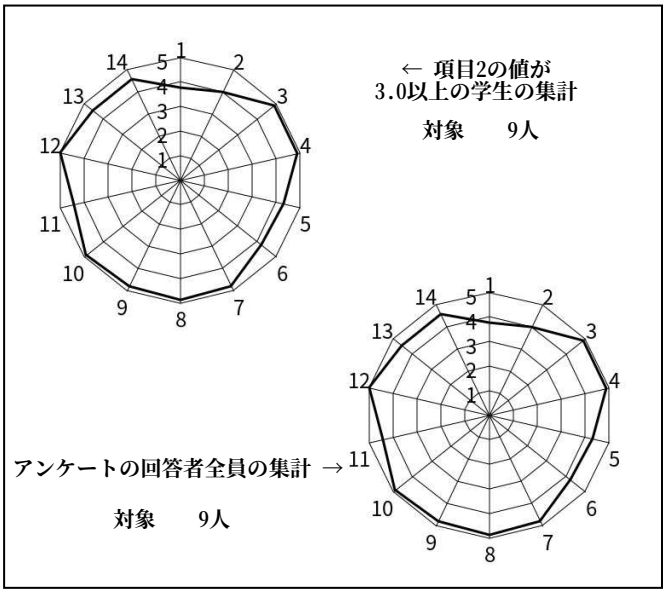
その結果、授業評価の集計通り、皆さんから満点に近い高い評価をいただいており、開講当初に設定された授業の目標には達したと思われます。とりわけ「教科書の内容が終わった後にクラスの人と中国語で会話をする機会を多く設けてくれたので、アウトプットのいい機会になった。文法や単語をちゅうごくの文化や歴史に基づいて教えてくれるのでより分かりやすく中国語を学ぶことが出来た。」「毎回の授業で多くの収穫があった。いろいろな表現や、中国の事情をしれてよかった。」などの評価をいただき、良かったと思います。

今後、これらの評価されたところを引き続き努力し、よりよい、学生の満足度の高い授業運営を続けて努力したいと思います。

外国語学部 英米学科
原田　健二朗　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治学A3
授業コード　12C04-003
教員名　原田　健二朗
教員コード　104468
登録人数　34
回答数　9
回答率　26.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、政治と宗教の関係という観点から現代世界を理解することを目指し、世界の様々な地域の宗教紛争を取り上げた。この内容で「政治学A」の授業をするのは初めてであったため、学生の反応が気がかりであったが、項目1から14の平均は4.57、項目3から14の平均は4.69となり、大変安堵している。

学生自身の努力や達成度を問う項目（1，2，5，6など）については数値が低めであるが、これは学生の自己評価の低さによるのではないかと考える。受講態度や試験結果を見ても、ほぼ毎回授業に参加してくれた学生のほとんどは到達目標を達成したと考える。ただし、理解度や到達度を実感し、学習に活かしてもらうための仕掛けを今後はもう少し多めに導入していきたい。

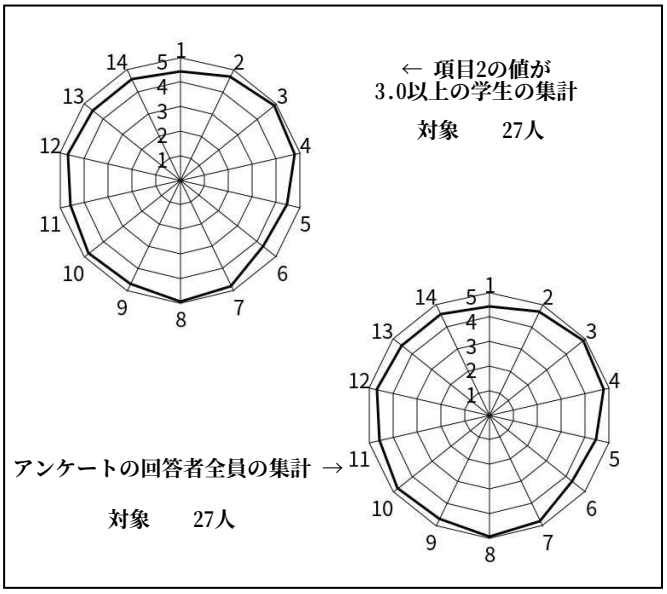
毎回異なった地域の宗教を取り上げたため、学生の理解が追いつくかどうか、興味を持ってもらえるかどうか心配であったが、アンケート結果を見る限り、授業の構成・進行や説明方法についてはほぼ問題なかったのではないかと考える。他方で出欠確認の方法、ディスカッションの方法・時間などについてはなお課題が残ったと考える。

共通教育科目であるためなのか、履修前には積極的興味が薄かった（項目1）が、最終的には興味を持ち、充実感を持ってもらえた（項目13，14）のだとすれば、教員としては大変ありがたい。熱心に参加してくれた学生全員に感謝したい。

外国語学部 英米学科
SAKAMOTO, Fern　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Academic English A III2
授業コード　31A03-002
教員名　SAKAMOTO, Fern
教員コード　103615
登録人数　31
回答数　27
回答率　87.1%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



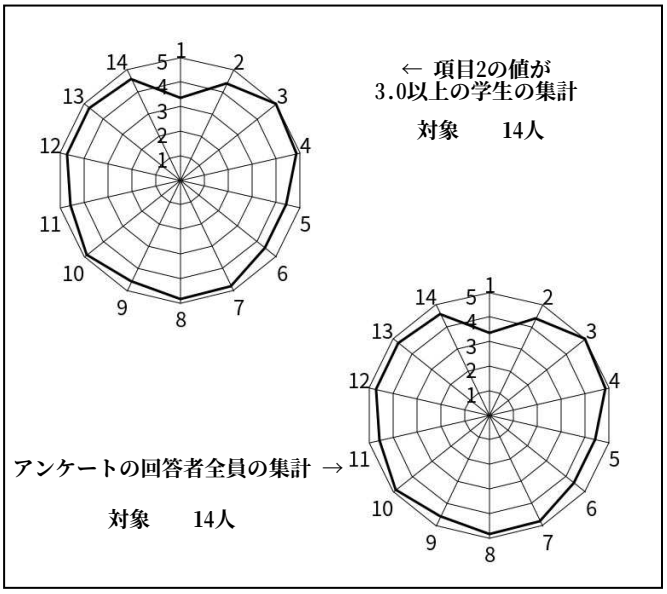
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The course was implemented in line with the syllabus and student output indicated a good grasp of the main learning goals.
(2) Student responses suggest a high degree of satisfaction with the course delivery and content. The difficulty and pace of the class were also evaluated highly, but some students are either not sure of the objectives of the course, or not sure whether they have achieved those, which I would like to address next year.
(3) Next year I would like to simplify the way objectives are expressed on the syllabus, and bring in a can-do list to help students notice their own growth. The course materials will be reworked next year but given the high degree of satisfaction with those I would like to update them without altering the overall style and types of content.

外国語学部 英米学科
金　慧昇　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society A2
授業コード	31C01-002
教員名	金　慧昇
教員コード	104504
登録人数	19
回答数	14
回答率	73.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



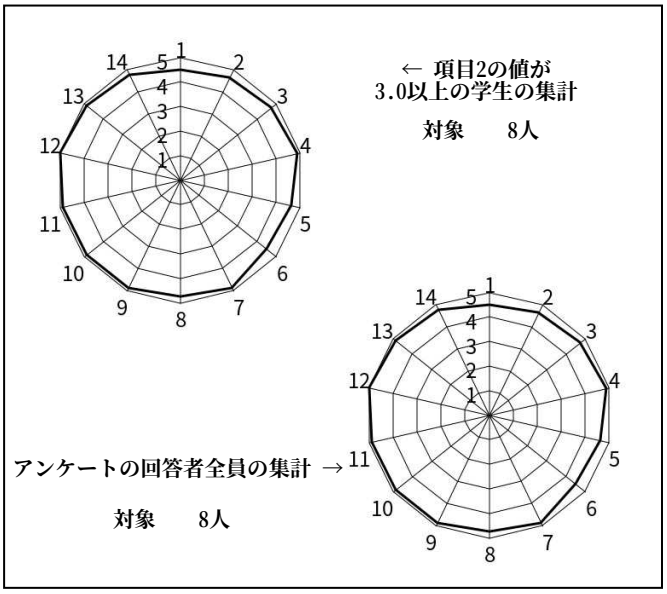
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、日常生活史の観点から19世紀のイギリス社会について理解し、現代社会との比較を通じて過去からの連続性と変化について考えることでした。そのために、毎回の授業の前半ではイギリス社会についてテーマごとに講義を行い、後半では講義の内容に基づいて過去と現在を関連付けて議論する時間を設けました。本授業を通じて、多くの学生が19世紀イギリスの歴史を学び、自ら様々なテーマについて考える機会が得られたことができたと思われます。学生の課題内容に応じて毎回のグループを異なるメンバーで構成したことは、学生同士の意見交換と交流にも役に立ったようです。グループ・ディスカッションの後には、グループごとに議論の内容について発表していただくことで、より積極的に討論に参加するように促し、他のグループの意見も確認することができました。最初本授業の内容について興味を持っていなかった学生もいたようですが、毎回討論を準備するための事前学習を通じて全体的にある程度は内容について理解が深まったように思われます。今後は、討論のための議論点をより具体的に提示することで、様々な問題ついて議論できるようにする工夫が必要になると感じられました。

外国語学部 英米学科
戸田　由紀子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture B＜国際科目群＞1（英米学科生用）
授業コード	31C07-901
教員名	戸田　由紀子
教員コード	105000
登録人数	19
回答数	8
回答率	42.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
この授業では、「リテリング（物語の再解釈）」の概念を理解し、文学作品を比較分析する基礎スキルを習得することを目標としました。学生は授業を通じて、歴史的・文化的背景の違いや、ジェンダー、社会、政治の影響を分析し、物語の再解釈におけるテーマと技法を深く考察しました。評価結果から、学生は到達目標を十分に理解し、それに向けて主体的に取り組んだことが伺えます（質問項目5：4.63、質問項目6：4.50）。

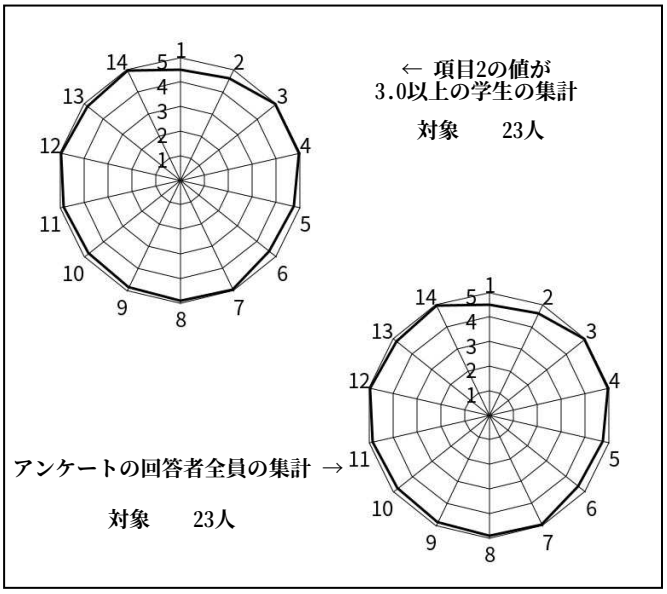
② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
授業構成や進行速度が適切であった（質問項目4：4.88）と評価され、学生の理解度に配慮した指導方法（質問項目9：4.88）や、積極的な参加を促す指導（質問項目11：4.88）も高く評価されました。特に、質問や相談の機会が十分であったことが満点（質問項目12：5.00）であることから、学生一人ひとりの学習を支援する体制が効果的であったと考えられます。一方で、授業目標に対する自己評価において「力がついてきている」との実感（質問項目6：4.50）に若干の余地が残るため、さらに強化すべき点と認識しています。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次回は、学生が授業目標に対する自己評価をより高められるよう、演習やディスカッションの時間を増やし、自己評価を促進する仕組みを取り入れたいと考えています。また、より幅広いリテリング作品を取り上げ、多様な視点から分析できる環境を提供します。引き続き、学生の積極的な学習意欲を引き出す指導を心がけ、到達目標の達成をより確実なものにしていきたいです。

外国語学部 英米学科
今井　隆夫　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language A1
授業コード	31C11-001
教員名	今井　隆夫
教員コード	104239
登録人数	27
回答数	23
回答率	85.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



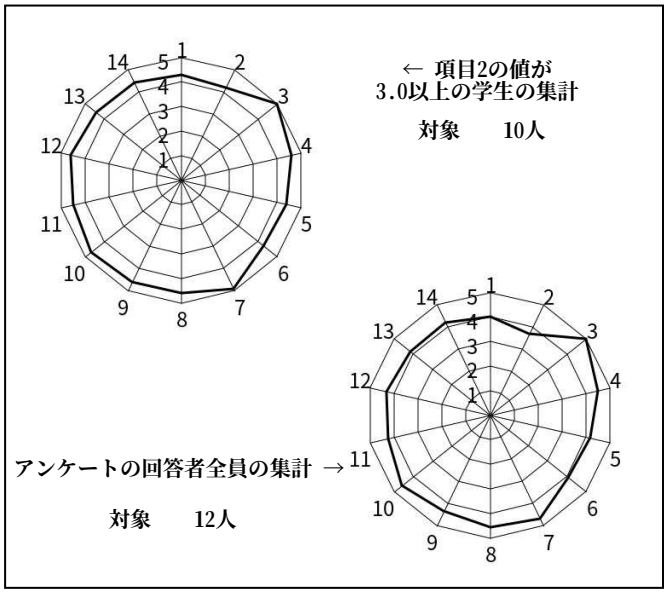
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、2019年度Q3より毎年2回以上、開講しているが、かなり完成度の高い内容で、学生のアンケート結果の満足度4.96が示すとおりである。①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、９０％以上達成できたと考える。②数値データおよび自由記述等は、数値データは、いずれも高く、また、自由記述も、教員の意図が伝わり、学生が考え、学ぶ機会になったことが観察できる。③次クォーター・学期以降に向けても、今期同様の高い評価が得られるように、学生の状況を把握し、内容の入れ替えも適宜行いながら、時代に会った内容としていきたい。自由記述の内容を紹介すると次のとおりである。「内容が面白く、授業！みたいな感じではなく、楽しい」「先生の人柄の良さを感じることができ、その熱意と同時に授業内容を吸収しようと自分自身にもいい影響を与えてくれるような授業だった。」「毎回のexpressions on a whimが楽しみ」「積極的に発言する機会が設けられていたこと。」「グループワークで少人数なので、意見が言いやすかった。」「毎回違うメンバーとグループを組んでディスカッションしたので、英語を話す機会が沢山あってよかった。」「さまざまな英語表現について学ぶことができた点です。」「毎授業の最初にidiomを紹介する時間があることに加えて、毎時間グループ間でディスカッションがあるところ。」

外国語学部 英米学科
大井　由紀　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies D3＜国際科目群＞（英米学科生用）
授業コード	31C19-905
教員名	大井　由紀
教員コード	101888
登録人数	20
回答数	12
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



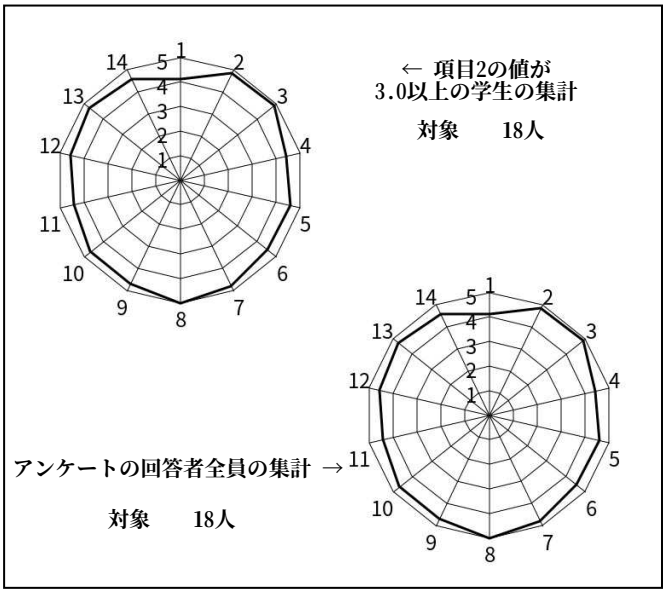
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、開講当初以下の目標を設定していました。
1.) to understand important migration issues in the United States.
2.) to be able to compare migration issues and policies of the United States with other countries.
14回の講義を通して、アメリカの移民についてさまざまな視点から学びつ、主に日本と比較しながら、理解を深めることができたのではないかと思います。
気になった点は、予習をあまり促すことができなかった点です。
デスカッションのトピックをあらかじめお知らせし、考えてくるよう伝えていましたが、十分ではなかったかもしれません。
講義前に考えを簡単にまとめて文章化し、準備してもらうなどして、講義やディスカッションへの積極的な参加を促したいと思います。

外国語学部 英米学科
手塚　沙織　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Contemporary Japan B
授業コード	31C22-001
教員名	手塚　沙織
教員コード	103911
登録人数	21
回答数	18
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



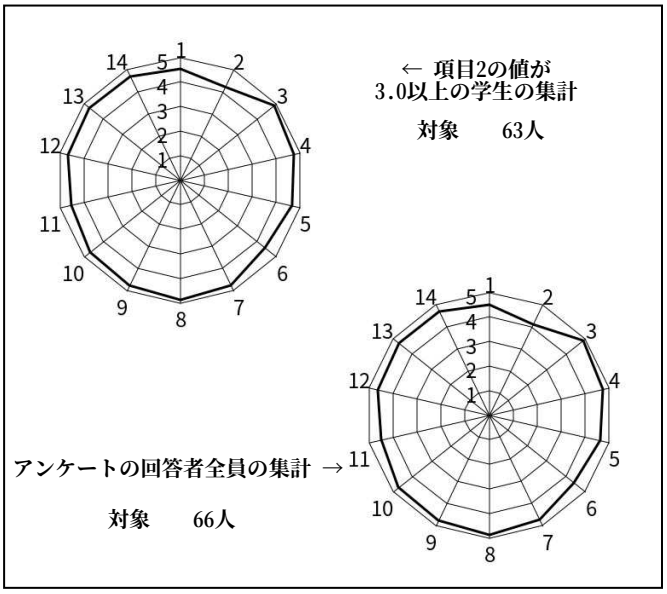
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、1. Understanding the contemporary Japanese society and culture through the controversial topics、2. Acquiring how to analyze and critique an issue and how to discuss and debate、２つの到達目標を立てた。履修者の評価では「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目において、4.56を得た。また、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」という項目において、4.72を得た。全ての項目において高い評価を得たが、とりわけ上述した項目から、履修者が到達目標に達したと理解できる。さらに、自由記述では、「英語を話そうとする雰囲気作りがされている。」「スキル向上の意思があれば自分のディスカッション、ディベートのレベルが上がる」や「グループディスカッションが多かったところです。毎回の課題で、授業内容の理解度を深めることができました」といった、授業での英語を話せる雰囲気作りや、ディスカッションを増やし、学生のモチベーションを上げる取り組みが学生の授業姿勢に反映されているようで良かった。ただ、学生のレベルや姿勢によって、学生の満足度や成長具合が異なっていることも評価にあったため、これらの意見を活かし、来年度は授業ごとに教員からのフィードバックをある程度増やしたい。

外国語学部 英米学科
花木　亨　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化コミュニケーション
授業コード 31E11-001
教員名　花木　亨
教員コード 101269
登録人数 148
回答数　66
回答率　44.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、日常生活の中で自分が経験している異文化コミュニケーション現象を自覚できるようになること、自分が経験した異文化コミュニケーション現象を分析できるようになること、異文化コミュニケーションについての知的関心と思考を深めることを目標とした。

項目3から14の平均値は4.69だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.47を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

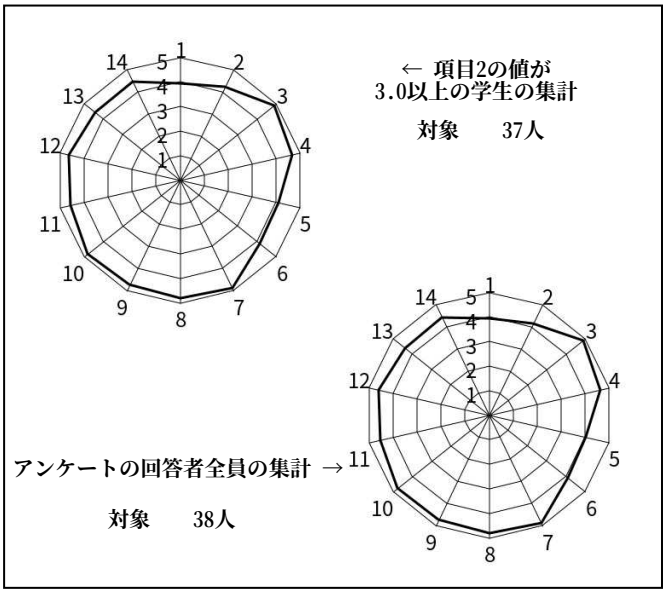
自由記述欄を読むと、説明がわかりやすかったこと、スライドがわかりやすかったこと、リアクションペーパーをとおして学生たちの意見に耳を傾けたこと、リアクションペーパーに書かれた意見を匿名で紹介したこと、それらの意見に丁寧に応答したことなどが好意的に評価されたようだ。その一方で、スライドが簡潔すぎる、学生たちの意見を紹介する時間が長すぎる、などの意見もあった。これらの意見を踏まえつつ、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が比較的多い授業だったが、リアクションペーパーに書かれた意見を紹介したり、それらの意見に応答したりすることによって、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生たちの主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

外国語学部 英米学科
鈴木　達也　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英文法論＜国際科目群＞
授業コード 31E16-901
教員名　鈴木　達也
教員コード 017871
登録人数 61
回答数 38
回答率 62.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

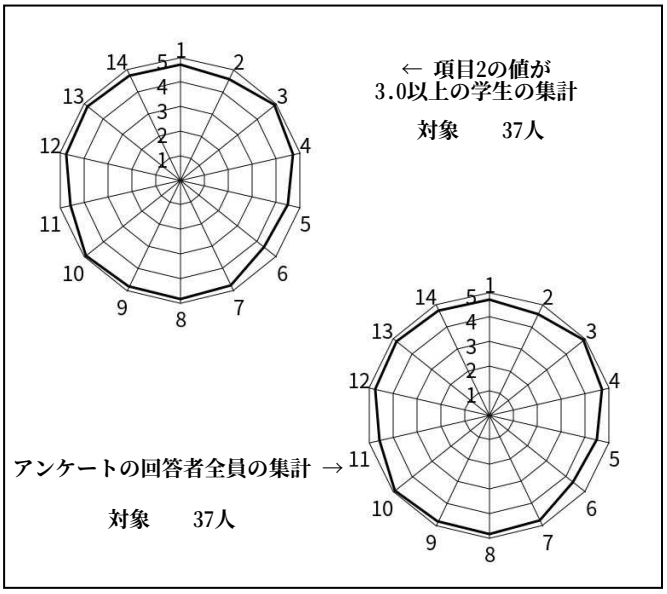
本講義の5つの到達目標のうち、昨年度3.90であった到達目標の理解の評価が今回は4.05に上昇した。第1回、第2回の授業での丁寧な説明が功を奏したのかも知れない。評価が4.0を下回った項目は昨年度は3項目あったが、今回は受講前に興味を持っていたかを問う項目1のみ（3.95）となっており、加えて、項目1～14の平均と3～14の平均も前回の4.42、4.48からそれぞれ4.50、4.57に上昇したことから、全体としてはまずまずの授業ができていたのではないかと判断する。全体としての満足度についても、昨年度の4.30から4.42に上昇しているが、できれば4.50を超える満足度が望ましいと考えているので、来年度は更に工夫を重ねて満足度を高めたい。一方、到達目標の達成度という点については、期末試験の結果を見る限り、やや物足りない結果となっている。次年度に向けての課題としたい。

本科目は毎年授業評価の対象となっており、これまでに様々な貴重な意見が寄せられている。改善点については一つずつ対応し、内容理解の助けとなるように毎回WebClassで小テストを用意したり、小テストの解答に簡単な解説を付けることで授業時間外の学習に役立ててもらえるように工夫した。講義DLサーバへのスライドのアップロードについても、なるべく受講生の希望に添えるような形で対応しているが、各自のデジタル環境が同じではないため、未だ最適解を見つけられないでいる。来年度も、受講生の意見に耳を傾けつつ改良を重ねていきたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
額田　有美　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語VI[FS]2
授業コード　11D06-002
教員名　額田　有美
教員コード　104774
登録人数　43
回答数　37
回答率　86.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について、昨年以上にスペイン・ラテンアメリカ学科の数あるスペイン語科目（講読や作文、会話）のなかの１つとしての本科目の位置付けを意識しながら、他の科目との連携を保って授業運営を行うことができた。

本科目は、2つのクラスに分かれ教員2名が概ね同じ内容で開講している。とりわけこの2つのクラス間での授業内容の共有や進度の調整が上手くできたと考える。

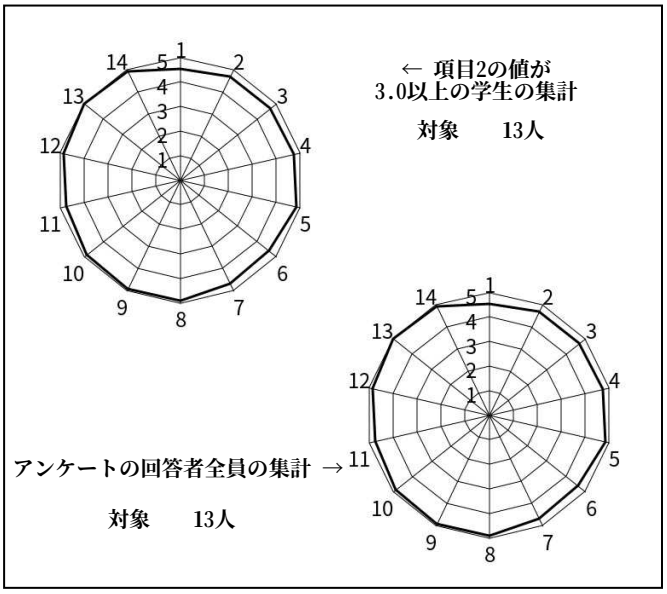
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価としては、学生たちがわからない点や疑問に感じた点をその都度すぐに質問できるような雰囲気を授業時間内でつくり出すように努めた（具体的には、学生たちが練習問題を解く時間を利用し、教室を適宜巡回し、一人一人の学生に声をかけてみる等）。自由記述の学生のコメントにもこの点が触れられており、一定程度の成果が出ていることを確認することができた。

次クォーター・学期以降に向けての改善点および今後の抱負、方針としては、今年度の姿勢を維持しつつ、学生一人一人の学びが最大化されるよう学科の教員たちと協同しながら授業を運営に努めたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
小阪　知弘　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語翻訳法I
授業コード 32D10-001
教員名　小阪　知弘
教員コード 103689
登録人数 15
回答数 13
回答率 86.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



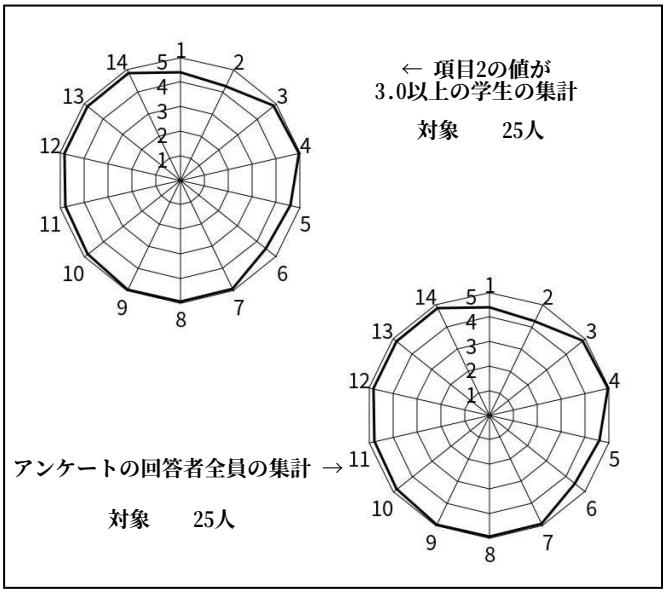
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度についてであるが、目標としていたスペイン語文学の短編を5作品以上完読できたので、実践的側面に関してある程度目標としていた学術的到達点を達成できたと判断している。また、スペイン語版と訳出された日本語版を対照して読み進めていくなかで、講義タイトルにもなっている「翻訳法」の具体的な内容となる翻訳理論の基本的枠組みを扱うことができたので、理論的側面に関してもある程度目標としていた項目を達成できたと講義担当者は見做している。②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、最低点が4.54で最高点は5.00となっているため、総合的に見て、受講者たちがこの講義を通して多くのことを学び、満足してくれていると捉えることができる。とくに、5.00を獲得した設問内容が、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」であったことは特筆に値する。本講義を通して、受講者たちが翻訳理論とその実践を学べたことに充足感を感じたことに講義担当者としても手ごたえを感じている。③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについてであるが、2024年度はラテンアメリカ文学に属する短編小説を多く扱うことができた反面、スペイン文学の一角を成す短編小説をあまり通読することができなかったので、来年度はスペインの文学作品ももう少し多く扱い、スペイン語文学の備える多様性を翻訳理論の観点から洞察し、さらに研鑽を積んでいきたい。

外国語学部 アジア学科
鈴木　史己　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II発音・聴力2
授業コード	35A02-002
教員名	鈴木　史己
教員コード	103651
登録人数	29
回答数	25
回答率	86.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



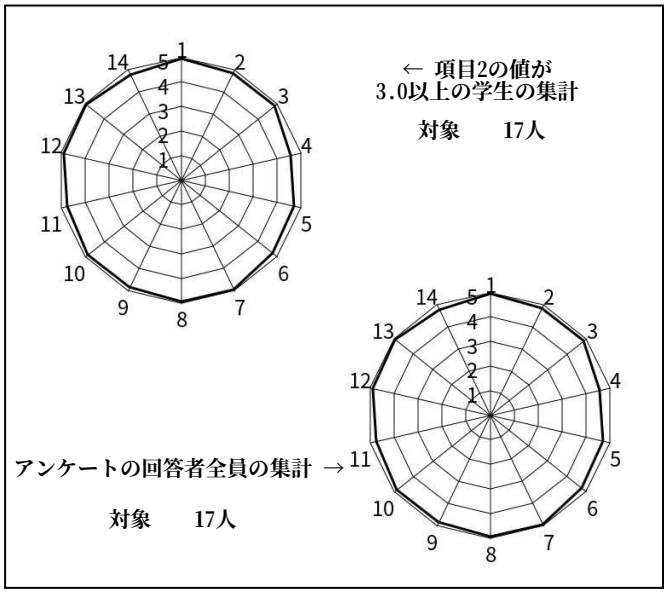
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目の目標は、日常生活で常用される中国語表現について聴いて話す練習を繰り返すことで、各シーンに即したコミュニケーションができる能力を養成することである。教員による説明は最小限にとどめ、受講生同士で中国語表現を確認しあったり、その表現を実際に使って情報交換をしたりするなど、受講生中心の授業構成になるよう心がけた。基本表現を何度も繰り返したことで定着度が高まり、中国語のみでのコミュニケーションを体験してもらうことができたと考えている。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データはおおむね高い評価が得られ、自由記述でも肯定的なコメントが多い一方で、設問2・5・6が低めの評価になっている。このことから、受講生は自分のやるべきことを意識しつつも、それに時間をかけることができず、想定していたほどの実力がつかなかったと自己評価していることがうかがえる。授業中の活動と予習・復習のサイクルを、よりスムーズに連携させる補助が必要だと考えられる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
引き続き、受講生主体の授業のあり方を模索したい。また、予習・授業・復習のサイクルをしっかりこなすことができるよう、課題のあり方や授業の進め方を再検討したい。

外国語学部 アジア学科
張　玉玲　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語II会話1
授業コード　35A12-001
教員名　張　玉玲
教員コード　101049
登録人数　18
回答数　17
回答率　94.4%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



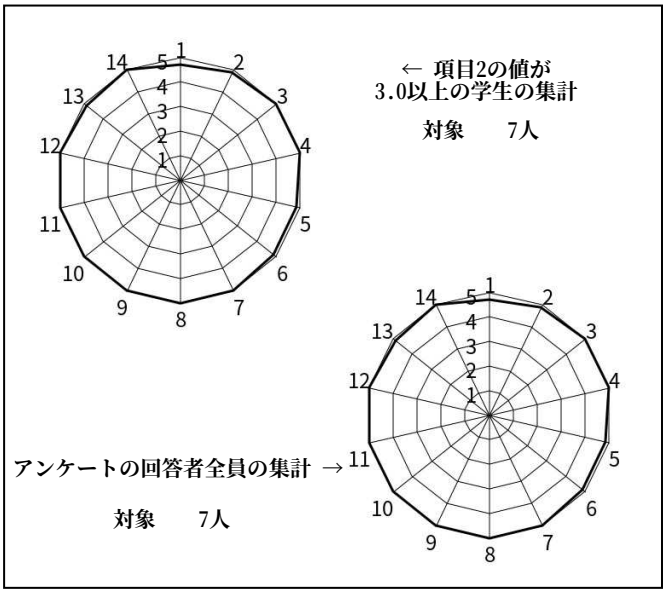
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当該授業は講義および演習形式で行われ、口語表現の練習を反復して、会話の正確さと速度のいっそうの向上をはかるものである。中国語検定の3級から2級、HSK中級レベルの語彙量を身につけること、同レベルのさまざまな言い換え表現ができるようになることを目標として設定している。今回の授業評価の数値データおよび自由記述を見る限り、受講生の満足度が高く感じられており、普段の語学運用能力や期末テストとあわせてみても、当初の授業目標が達成しているといえる。
②科目名は「会話」となっているが、基本的な文法や文型をより正確に活用するよう、シチュエーションを設定しつつ多く作文、会話の練習を繰り返すことは、「聞く」、「話す」、「書く」能力を向上させる効果が大きいと、実証されたように思われる。
③今後、授業の進度についていけない個別の受講生がいた場合は、柔軟に対応をしていく。モチベーションや能力に応じて課題などを調整することを考えている。

外国語学部 アジア学科
宮原　佳昭　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語IV読解
授業コード　35C04-001
教員名　宮原　佳昭
教員コード　102232
登録人数　12
回答数　7
回答率　58.3%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の2点である。①語彙量を更に増やし、文の構成を深く理解できるようになる。②中国語の長文の読解力を、中級中国語III読解に比べてより一層向上させている。

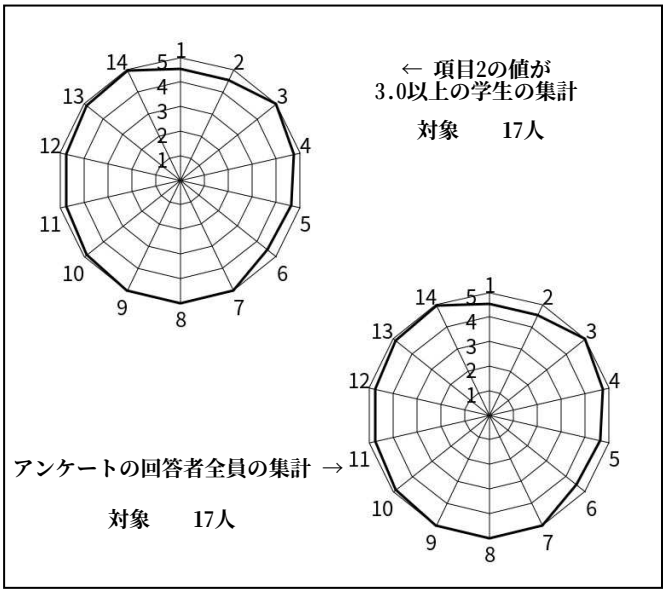
上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の3点である。①オンライン中国語辞書や百度百科など、中国語読解に有益なツールを学生に示した。②中国語テキストは各自が興味のある分野のニュース（原文400字以上）を学生自身に選定させた。③毎回の授業では、発表担当者（1回につき4～5人）の口頭発表の後、全員による質疑応答の時間を設け、テキストに対する理解を深めた。これら3点について、学生の自由記述では「自分の興味関心がある内容について自由に文献を探し、調べることができたのでとてもやりやすかった」「他の人の興味関心から、自分の知らなかったことを知ることができて面白かった」と好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

今後の課題は、中国語テキストの文字数である。今年度は発表1回につき原文400字以上としたが、学生には余裕があったように思われるため、来年度はより多くの文字数とする案も検討したい。

外国語学部 アジア学科
江口　伸吾　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語時事B
授業コード　35C09-001
教員名　江口　伸吾
教員コード　104423
登録人数　20
回答数　17
回答率　85.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



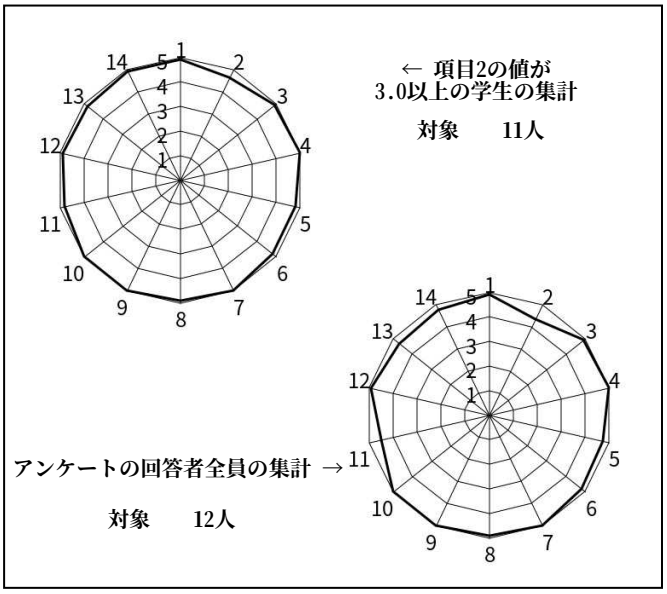
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 中国語の新聞記事(『人民日报(人民网)』『新华网』など)をテキストとして、さまざまな形式の文章を精読することにより、①中国経済、中国社会、文化・生活などの各領域に関する語彙を増やし、時事中国語の読解力を高める、②現代中国の動向に関する理解を深めることを目標に掲げた。本授業を通して、開講当初の目標は、おおむね達成できたのではないかと判断している。
② 数値データ、および自由記述をみる限り、項目1～14の平均値4.80、3～14の平均値4.85となり、本授業での受講生の理解度はおおむね良好であった。とくに授業では、現在の中国に関する中国国内外の中国語の新聞記事を取り上げ、中国の時事問題に関する語彙を増やしながら読解力を高めるとともに、その内容から中国経済、社会、文化・生活に関する知識の修得に尽力した。この結果、授業の良い点として、「自分で探すのが難しい中国語新聞を使って現代中国の事情を知ることができ、中国語能力が向上したと共に、中国に関する知識も増えて良かった」などの感想が寄せられた。
③ 改善した方が良いと感じた点として「一度に進む量が多く、理解が浅いところがあり、先生の解説の時間が増えると良いと思った」「中国のニュース番組なども見てみたい」といった意見が寄せられた。これに関して、多読の機会を担保する一方、映像資料などを含めた解説の時間を増やすなどの工夫をしたい。

外国語学部 アジア学科
MANGGA, Stephanus 先生

2024年度Q３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級インドネシア語会話B
授業コード 35D06-001
教員名 MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数 12
回答数 12
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



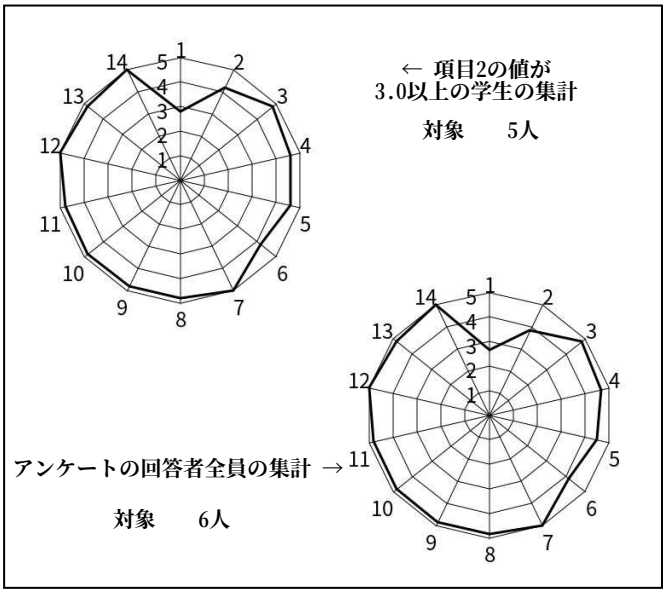
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.There are two objectives set at the beginning of the course. First, to be able to communicate appropriately according to the context. Second, to be able to listen and retell a speech related to the context. Students are able to communicate according to the context given. They are also able to listen and retell speech related to the context given. This can be seen from the students' answers to question number 15 of the questionnaire that this class was very interactive and everyone participated actively.
2. I think the materials and learning that I provide can be well received by students. Students have improved in communicating using Indonesian. In addition, students are happy because they can study with international students from Indonesia, hear real Indonesian, and study together. I am pleased that students gave a high score (5) on the questionnaire question: Can you feel the sincerity and seriousness of the instructor's approach to teaching? They also gave a high score (5) for the questionnaire question number nine.
3. The assessment from the students regarding this class is an additional energy and enthusiasm to continue to provide and teach the best for them in the future.

外国語学部 アジア学科
稲垣　和也　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　インドネシア言語研究
授業コード 35D13-001
教員名　稲垣　和也
教員コード 103887
登録人数 10
回答数　6
回答率　60.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初設定の目標と到達程度
（１）マレー／インドネシア語を分析することができる、（２）そのための方法論を身につけている、（３）言語現象を問題化することができる、のいずれの設定目標についても部分的に到達した。

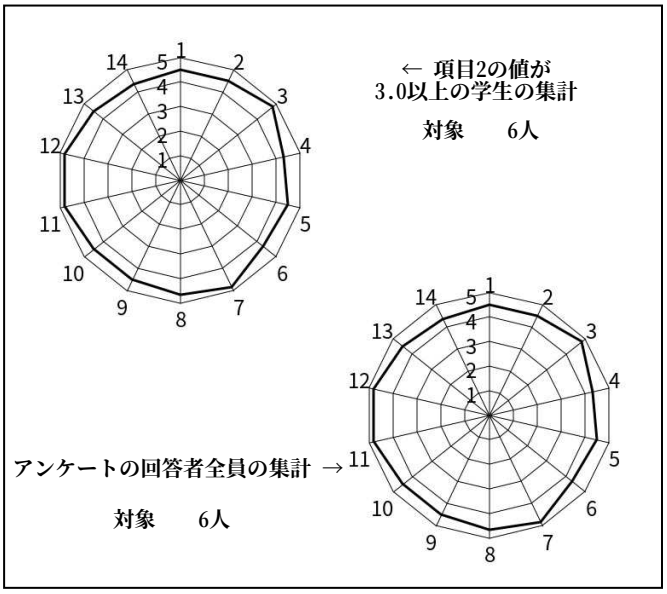
②数値データおよび自由記述等を踏まえた担当科目の総合的自己点検・評価
回答数／実質受講者数は６／８（←２０２３年度１９／２６）。前節①の評価は、おおむね第５・６項の到達目標・習熟のスコア（各々４．５０と４．１７）に基づく。「毎回の授業で到達目標を意識」させたが、授業内容の専門性の高さからか、第１・２項を除くと第６項（「力がついてきている」）が最低スコアとなった。２０２２・２０２３度と比べると、項目１（「興味をもっていた」）が２．６７（←３．３７←３．９６）と著しく下がってきている。ただし、そもそも回答数が少なかったこともあり、今回の数値結果は妥当性に欠けると思われる。また、自由記述は、項目１２の質問・相談機会に関連したもの（生徒一人ひとりと向き合っている）が一件あり、２０２３年度と同じく教員－学生間のやり取りに着目していることがうかがえる。改善を要求する自由記述は無かった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
昨年度と同様、到達目標（３）の、より主体的に現象を問題化できるよう、さらなる明解な解説を目指す。

外国語学部 英米学科
TOMKINSON, Fiona Gail 先生

2024年度Q３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture A2
授業コード	31C06-002
教員名	TOMKINSON, Fiona Gail
教員コード	104760
登録人数	26
回答数	6
回答率	23.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



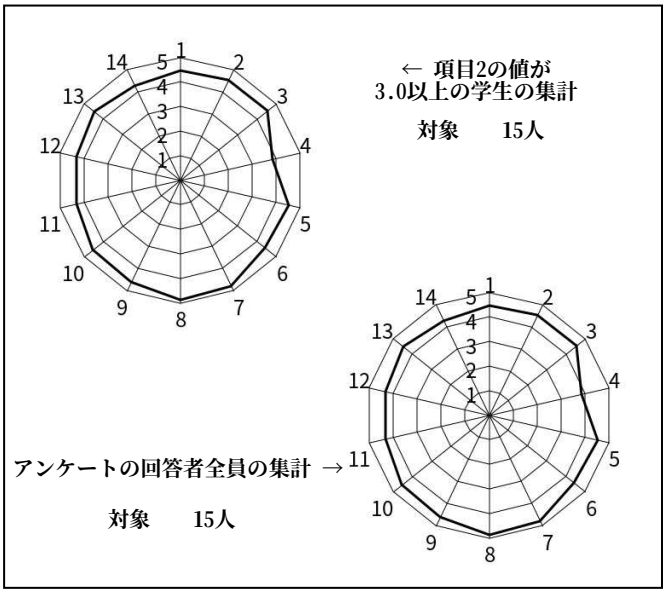
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I completed the course as originally planned, using a mixture of lecturing, close reading of the text, student written tasks and discussion and film showings followed by discussion. Most of the students did not complete the student evaluation, so this is not particularly useful. I think that most of the students who completed the course were happy with it and they produced some very good written work and final presentations. However, they had been rather reticent in speaking in class before the presentations, even after groupwork discussions. I think this was largely from a lack of confidence (they were really relieved when I praised their presentations) and I will consider what I can do to remedy this problem in the future.

外国語学部 英米学科
松波　京子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　イギリスの社会
授業コード 31E07-001
教員名　松波　京子
教員コード 103864
登録人数 44
回答数 15
回答率 34.1%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



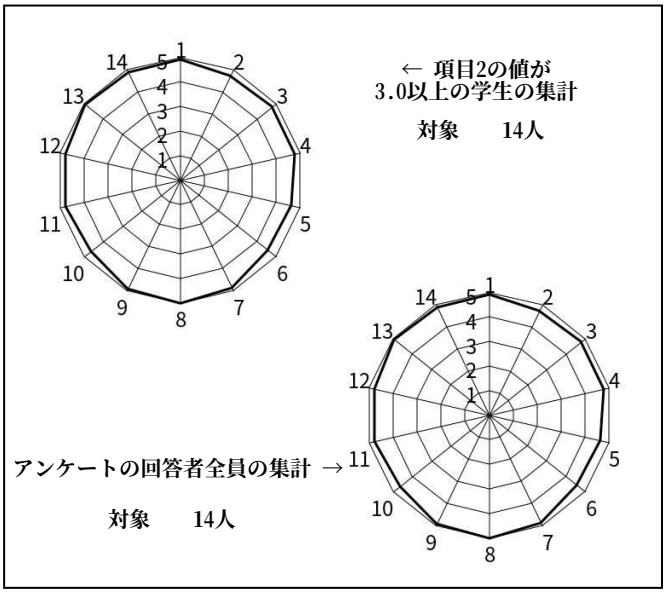
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について
項目7について、比較的高い評価が得られたことがよかったと考えます。
項目4については、他の項目と比較して低い評価となっていますので、今後の改善点として受け止めます。
②および③について
本アンケート以外にも、講義内でみなさんからコメントをいただきました。
良かった点として、穴埋め式のレジュメやパワーポイントを使用しての講義、授業の冒頭で課題が提示されて、これに対して毎回コメントを書いたことで書く力がついたこと、毎回提出したコメントに対する講評、また映像資料も用いながらイギリスの社会問題を扱ったことが挙げられていました。本講義では授業中の通信媒体の使用を原則として認めていませんでしたが、これにより「授業にとても集中できた」と良かった点として複数人が挙げていたことも印象的でした。
改善点としては、特になしという方が多かったものの、もう少し質疑応答形式の時間が欲しかった、授業のペース配分をもう少し検討して欲しいとの意見がありました。質疑応答に関しては授業時間との兼ね合いでなかなか難しい点ではありますが、今後の検討課題とします。また授業配分に関しても同様に注意したいと考えます。出席の確認の仕方については、全体としては緊張感をもって受講できた等の好意的評価もあったことを添えておきたいと思います。
今後も、学生にとって有意義な講義が少しでも行えるようにしていきたいと考えております。

外国語学部 英米学科
豊福　恵　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語翻訳法
授業コード 31E23-001
教員名　豊福　恵
教員コード 105059
登録人数 22
回答数 14
回答率 63.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



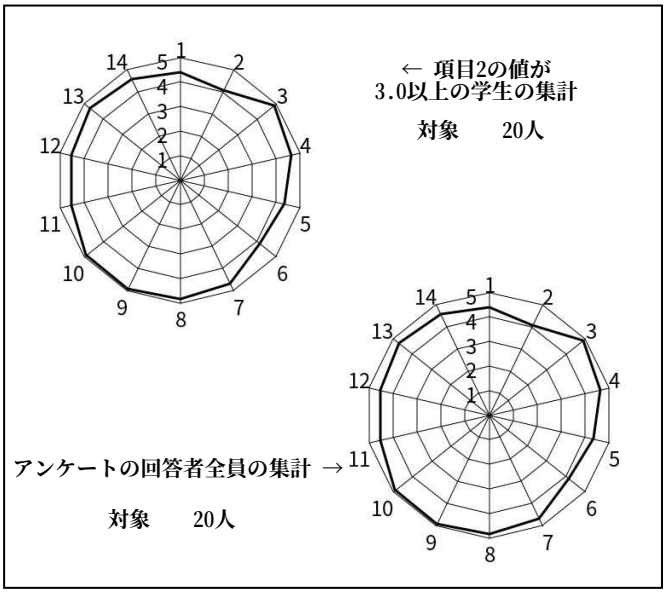
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では「①翻訳例から様々な語彙・表現方法を学び、翻訳する際にそれを使用することができる」、「②翻訳の基礎を学び、技法や用語について説明することができる」という2つの目標を設定した。この目標を達成するにあたり、授業で毎回様々な資料を実際に翻訳しそれに対する解答解説を通して翻訳の基礎や技能を学び身につけるようにした。
①については毎回のコメントシートの記述から学生が新たな知識を学んだことが見て取れ、また次回以降の宿題に学んだ点を活かす学生もいたという点、②については主に定期試験で達成度を見たが、大半の学生が合格点を得られたという点から、両者ともに概ね達成できたものであると考える。
数値データについてはすべての項目で4.5点以上を得ることができたという点、また自由解答において新たな知識、翻訳方法を学ぶことができたという意見があったという点から、学生の学習意欲を促し、授業内容が満足できるものであり、指導が適切に行われたものであると評価したい。授業内での宿題の量が多いという意見があったが、授業外学習を促すという点からも適切な量であると考えるため大きな変更はしない。
今後の方針としては、今期の授業内容・方法が概ね好評なものであったため今期の授業方法や内容の水準を維持しつつ、記述量が多いという意見があったため、学生が自分自身で重要な点を判断し記述できる部分が多い授業資料を作成することを改善点としたい。

外国語学部 英米学科
加藤　紗織　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英米歴史特殊研究A
授業コード　31E24-001
教員名　加藤　紗織
教員コード　104964
登録人数　40
回答数　20
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



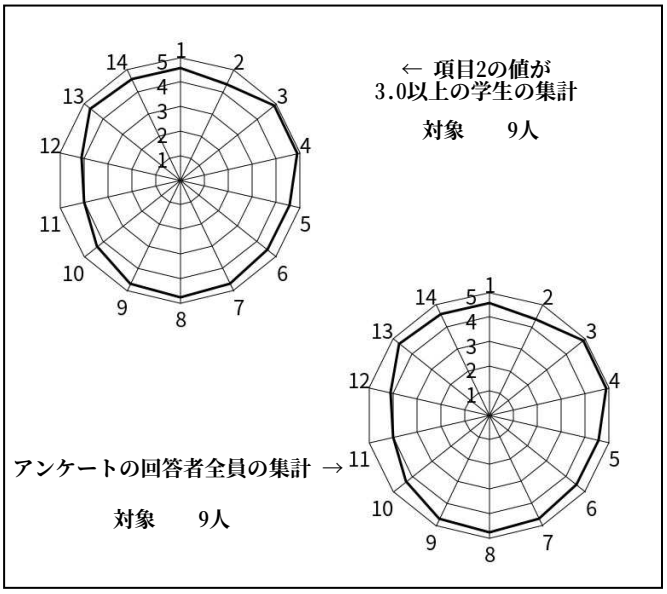
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①前学期の授業では私語に対する対応が行き届いていなかったり、Web上の出席チェックが甘かったり、授業環境を整える上で不十分な部分があったた。今期はそうした基本的なところがおろそかにならないよう気を配った結果、数値上では改善が見られた。また、授業の到達目標のうち①～④はおおむね到達できたのではないかと考える。
②数値を見た時に、項目2と6について全体平均よりもやや下回っていることが気になった。2については予習のリーディング課題と復習のクイズ解答を設けていたが、予習のリーディングの実施が甘く、取り組む人にばらつきがあったように思う。6については、基本事項をすでにわかっている学生にとっては内容レベルが浅いものに感じられたことが一因ではないかと思われる。また、自由記述では理解が深まったという肯定的なコメントもあったが、一方で当講義が英語で実施されていることへの疑問（特殊研究科目は通常日本語で行われるという指摘）と内容の浅薄さを指摘する手厳しいものもあった。講義内での使用言語については前任者のシラバスに合わせて英語で組んだが、担当者の当該英米学科科目への理解不足（英語での実施が必須と誤解）と、前任者の時と違い国際科目群の授業として設定していなかったことで、学生とのすれ違いが生まれてしまった。
③アフリカ系アメリカ人の歴史のみならずアメリカの歴史の理解度もばらつきがあったため、基本知識をベースにすることは踏襲しつつ、学びに積極的な学生のために、授業内で扱いきれなくとも発展的学習につながるリソースの提供を盛り込みたいと思う。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
GUTIERREZ　CERVANTES, Lenin　Emmanuel　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級スペイン語IIIB1
授業コード　32A13-001
教員名　GUTIERREZ　CERVANTES, Lenin　Emman
教員コード　104703
登録人数　20
回答数　9
回答率　45.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Gracias por sus comentarios. Tomo en cuenta sus observaciones y las consideraré para seguir mejorando el curso. La retroalimentación es fundamental para optimizar la experiencia de aprendizaje, y continuaré realizando los ajustes necesarios.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
HOPKINS Mariella 先生

2024年度Q３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IIIB3
授業コード	32A13-003
教員名	HOPKINS Mariella
教員コード	103653
登録人数	19
回答数	4
回答率	21.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

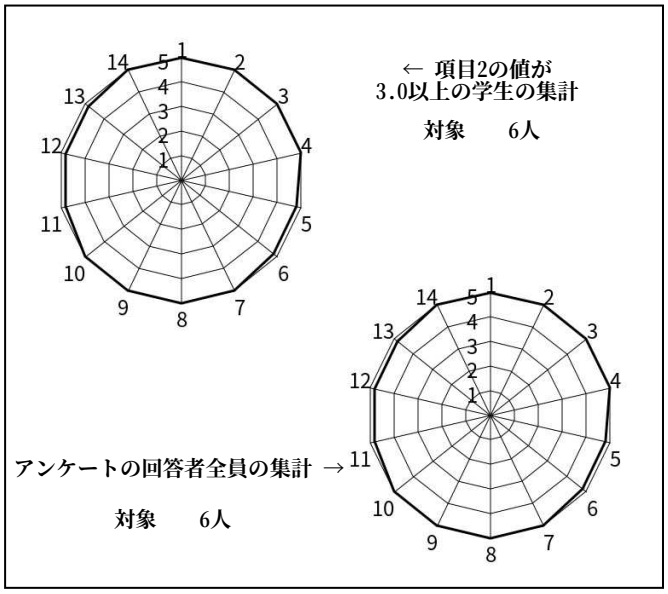
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. En relación a los objetivos fijados y el grado de alcance: de acuerdo a lo programado en el syllabus es importante mencionar que se ha cumplido con todo lo establecido para el trimestre que se está evaluando. La programación está diseñada clase a clase y los alumnos tienen acceso a la programación en la plataforma WEBCLASS donde se indican las temas a tratar en clase y las tareas que tienen que realizar en casa, es importante mencionar que también los trabajos que tienen que realizar en grupo y que deben presentar oralmente en clase se encuentran descritos en WEBCLASS.
2. En relación al punto 2 sobre la autoevaluación y de acuerdo a los resultados en la encuesta vemos que es muy importante continuar con las explicaciones del plan de clases y los objetivos de las mismas, que están descritos en la plataforma de Webclass, y seguiremos con la guía de clases para que los alumnos comprendan a cabalidad los objetivos de las mismas.
3. En relación al punto 3 sobre los objetivos para los siguientes trimestres es muy importante que los alumnos aprenden que los objetivos de las unidades del libro y los objetivos de las clases se encuentran descritos en el syllabus y la plataforma de Webclass , continuaremos acompañando para que puedan vincularse con la plataforma en mención y que ellos mismos puedan notar que van aprendiendo de acuerdo a los objetivos plantados al comienzo del trimestre.

外国語学部 フランス学科
VURPILLOT, Xavier 先生

2024年度Q３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIB1
授業コード 33A15-001
教員名 VURPILLOT, Xavier
教員コード 104503
登録人数 22
回答数 6
回答率 27.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aimed to continue improved the students understanding of the french language based on what they learned during the quarter 1. The course focused on improving all four skills : listening, reading, speaking and writing.
The survey results were overall positive and the students seem to be used to the pace of the lessons and their textbook. Still, I wished the students would try to speak more often during class without the need of a question directly asked by the teacher. Moreover, Some students seem to have trouble catching the goal of this class, so I would have to do a better job explaining this part next year.

外国語学部 フランス学科
PIETERS, Corentin 先生

2024年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション特論C
授業コード 33C03-001
教員名 PIETERS, Corentin
教員コード 105069
登録人数 5
回答数 0
回答率 0.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、フランス語の実践的な運用能力を向上させることを目的とし、特にリスニング力と会話の流暢さの強化に重点を置きました。視聴覚教材を活用し、学生が自然な会話のリズムや発音を身につけられるよう工夫しました。また、異文化理解を深めるために、フランスの社会や日常生活に関するトピックも積極的に取り入れました。授業の進行は概ね計画通りに進めることができ、学生の学習意欲も高かったと感じています。

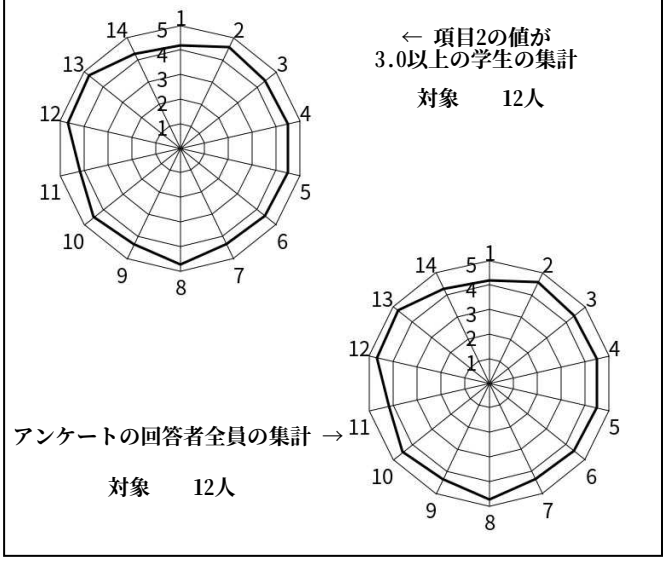
多くの学生はペアワークやグループ活動に積極的に参加し、フランス語でのやり取りを試みていました。一方で、発話に消極的な学生も見受けられ、よりサポートが必要だと感じました。また、授業中の質問が少なかったことから、理解度の確認方法や、学生が質問しやすい雰囲気作りを改善する余地があると考えています。

次のクォーターでは、よりインタラクティブな授業を目指し、学生同士の会話練習の時間を増やす予定です。特に、実際の会話シナリオに基づいたロールプレイや、自由に発話できる活動を強化したいと考えています。また、学生の理解度をより正確に把握するために、短い確認テストやアンケートを活用することも検討しています。引き続き、学生が安心してフランス語を学び、積極的に発話できる環境を整えていきたいと思います。

外国語学部 フランス学科
HERGOTT, Florian 先生

2024年度Q３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS中級フランス語II
授業コード	48A34-001
教員名	HERGOTT, Florian
教員コード	101725
登録人数	30
回答数	12
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



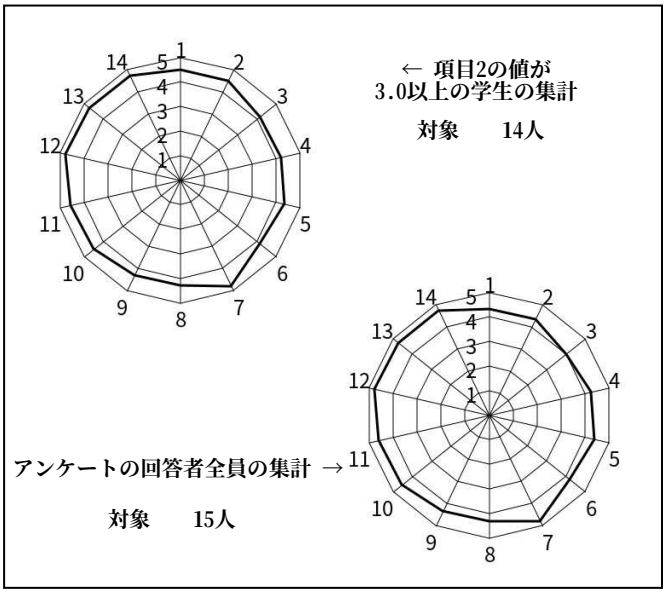
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives were not achieved. The main reason for this was that it was difficult to reach an intermediate level, as the basics of the beginner's level of French had not yet been fully acquired. The course objectives have been revised for the 2025-2026 academic year. However, despite this discrepancy in the level studied, the learners enjoyed the group work. In addition, the high difficulty of the textbook used made cooperation between the students even more necessary.
One possible improvement would be to focus on online content, to enable learners to keep in touch with the target language (in the case of this course, French) between 2 lessons at the university.

外国語学部 アジア学科
張　静萱　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語II会話2
授業コード　35A12-002
教員名　張　静萱
教員コード　048047
登録人数　19
回答数　15
回答率　78.9%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は中級中国語会話という科目で、受講生たちの口語表現の上達を念頭に授業を進めてきました。発音のチェックを含め、日常会話、朗読、暗唱…これら会話とつながる練習を毎回してきました。その結果、皆さんの発音がきれいになり、少しずつ会話も上達し、「授業評価集計」を見ても、開講当初に設定していた目標におおむね到達できたと思われます。

「自由記述回答」の中で、学生からは、「会話の機会が多かった」、「授業では扱わなった日常生活にかかわる単語なども教えてくれた」、「教科書内容だけでなく、常識的な知識や、口語的な表現についても学ぶことができた」、「四字熟語や豆知識なども学べてよかった」などのコメントをいただいております。今後これらの評価されたところを引き続き努力し、もっと学生の理解度に配慮し、また学生の勉強意欲も引き出すように工夫し続けていきます。同時に授業の内容をさらに充実にし、みなさんが満足度の高い授業運営も続けて努力していきたいと思います。

外国語学部 アジア学科
加藤　久美子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	タイ文化研究
授業コード	35D15-001
教員名	加藤　久美子
教員コード	100483
登録人数	32
回答数	4
回答率	12.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業目標は、「タイ国の自然環境、タイ国に住む諸民族の文化、タイ国の歴史について基本的なことを理解している」ことと、「タイ(Tai)族地域の自然環境、各国に住むタイ(Tai)族の状況とその歴史について基本的なことを理解している」ことであった。試験の結果から見る限り、修了時の目標到達の程度には幅があり、非常に高い到達度を示す人からかなり到達度が低い人まで様々であった。

授業評価の回答者は４人であった。設問５「この授業の到達目標を理解することができましたか」と設問６「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」に対して、４人とも両設問で同じ評価をつけていたため、到達目標を理解できたと感じた人は到達程度が高く、到達目標を理解したと感じられなかった人は到達程度が低かったという傾向が読み取れる。内訳としては、５が２人、３が1人、２が1人であったが、回答者数が少ないため、受講生全体としての傾向をどこまで示しているかは分からない。

今後やってみたいこととしては、映像資料の活用がある。この授業では歴史についての話をすることが多いため、その時その時の授業内容に密接に関連する映像資料を選定するのは難しいかもしれないが、受講生により関心をもってこの授業を受けてもらうために試みてみたい。

外国語学部 アジア学科
北野　浩章　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア文献講読B
授業コード	35D17-001
教員名	北野　浩章
教員コード	104302
登録人数	6
回答数	1
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

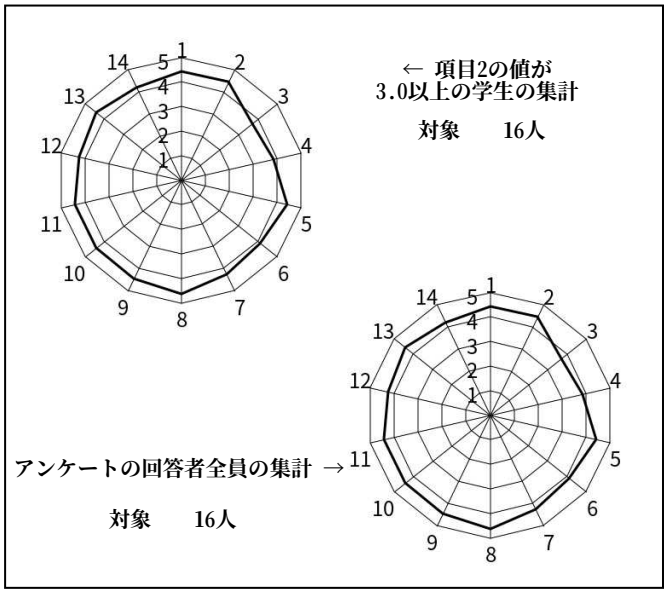
この授業では、東南アジアを中心とする英語文献を読み、卒業論文などで英語文献を用いることができるようにすることを目標にしている。
(1) 東南アジアの歴史や文化などの基本事項を、英語を通じて理解する。
(2) 今日の東南アジアの最新事情を知り、時事を語るための英語表現を習得するとともに、地域の現状を理解する。
(3) このような練習を通じて、東南アジアに関する英語の基本文献を読解できるようになる。
　今年度は、シンガポールを構成する主要民族について書かれた読み物（シンガポールで発行された子供向けのもの）を最初の数回で読み、その後で、これまでも使っているテキスト（東南アジア入門）を読むことにした。
　しかしながら、今年度はこれまでやってきた授業方法（担当範囲を決めて、担当者を指定する）ができなくなった。欠席や遅刻が頻発したためである。担当者が不在、ということがしょっちゅう起きた。そこで、受講者に私から質問を投げかけるかたちで進めていくことにした。どの受講者も毎回の予習が必須となった。

①については、途中でやり方を大きく変更した。目標自体は変わらなかったが、（それでも受講を続けた）受講者にとっては厳しい授業となったため、到達レベルは上がった。
②「担当科目に関する総合的な自己点検・評価」については、受講の状況から、授業方法を変更せざるを得なかったのだが、結果的には学習効果の高い授業になったと考えている。
③について、今年度のやり方を次年度もほぼ踏襲し、さらにいい方法を模索したい。

外国語学部 アジア学科
趙　晴　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS中級中国語II
授業コード　48A43-001
教員名　趙　晴
教員コード　100960
登録人数　44
回答数　16
回答率　36.4%
休講回数　3 回
補講回数　3 回



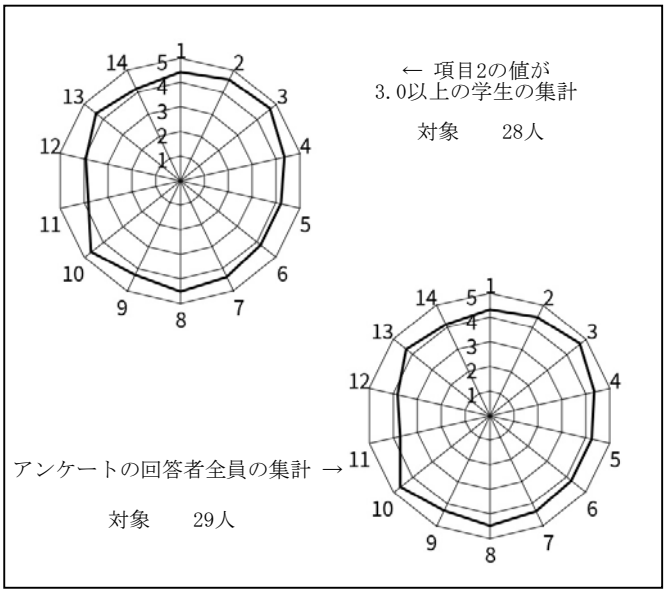
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標はほぼ達成したと思います。
真面目で熱心に学ぶ学生がほとんどであり、学習する雰囲気も比較的によかったです。毎回勉強することが多いにも関わらず、学生たちは頑張ってくれました。また学生たちの「授業中に何回か生徒が当たって発言する機会があるために、集中を途切らすことなく受けることができた」、「リスニング練習を行ったことで中国語のピンインの聞き取りや単語力が伸びたと感じたため良い練習だと思う」、「本格的な中国語が学べた」、「分かりやすい説明だった」、「先生が重要な点をわかりやすく説明してくれ、また毎回の授業で単語テストを行っていた為復習が定着しながら学ぶことができた」などのコメントを見ると、たいへん嬉しく思いました。工夫したところは学生たちは全て分かってくれましたね。学生たちにありがとうと言いたいです。
これからはもっといろいろな方法を考えて、単調にならないようにより工夫していきたいと思います。
学生の皆さん、共に頑張りましょう。

外国語学部 英米学科
RYAN, Anthony　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Academic English A IV1
授業コード　31A04-001
教員名　RYAN, Anthony
教員コード　104650
登録人数　31
回答数　29
回答率　93.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



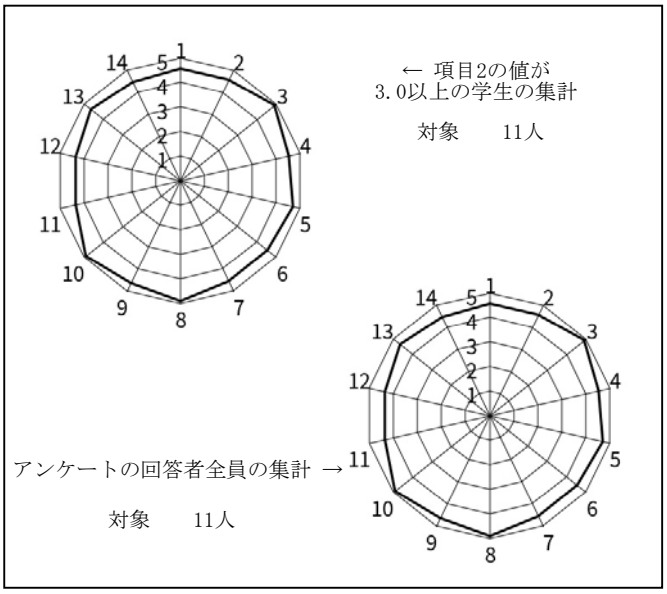
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The students worked very well towards the goals of the class with excellent poster presentations and debates. I was very impressed with the diligence of the majority and their studious approach to their work. The essay schedule was tight but the students weren't very hard to stick to the deadlines.
(2) Getting the essay edits and notes back to the students in time for the next session was a struggle with the large class numbers but I believe that each student's work was seen at least two times.
(3) The AEAIV coursework was intense and there was a lot to requirements to achieve at times. As a result, some lessons were perhaps not as enjoyable for the students as they could have been and my demeanour might have appeared brusque at times. That said, a teacher's job is not to be the students' friend but to help the students improve their skills and challenge them to achieve their potential as English speakers and writers. I am confident that the majority understood this and did so.

外国語学部 英米学科
COCHRANE, Robert　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Academic English A IV5
授業コード　31A04-005
教員名　COCHRANE, Robert
教員コード　104483
登録人数　23
回答数　11
回答率　47.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



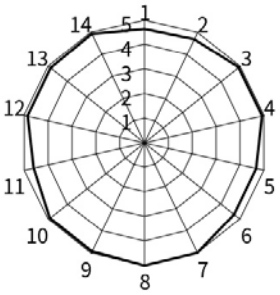
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class evaluations are good and the comments are also positive. Students largely attained the goals I had set out in the beginning of the year. Since my approach is largely student-centered, it requires students to rise up to their own individual levels and it is their responsibility to learn. The comments suggest that students did learn new skills even though this was their hardest class. My relationship with this class has been more challenging than the other AEA classes but the evaluation results suggest that students did find value in the course and were able to expand their skills and knowledge. One comment suggests that they had numerous opportunities to speak in front of classmates and as a result they were able to overcome their anxiety. In future classes I will continue with the same approach but will try to provide additional support materials in the form of videos and guides. Students did demonstrate the ability to complete assignments according to academic standards, critically analyze and present their research verbally.

外国語学部 英米学科
森山　貴仁　先生

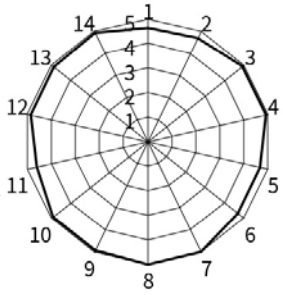
2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society E3
授業コード	31C05-003
教員名	森山　貴仁
教員コード	104589
登録人数	16
回答数	13
回答率	81.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　　13人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　　13人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

このSpecial Topics in English: Society E3では、アメリカ社会を知る上で重要なテーマを設定して、それらを扱う映像作品を鑑賞したのち、学生と教員の間で議論をするという方法をとった。これによってオーラルコミュニケーションの向上を目指したが、約20人の受講生のうち、ほぼ全員が毎週必ず自主的に発言しており、クォーター全体にわたって活発な参加が見られた。英語を母語としない場合、言語能力が十分にあっても人前での発言には躊躇してしまう日本人学生は少なくないが、この授業をとおして英語のオーラルコミュニケーションに積極的な姿勢を持てるようになった点については、かなり満足のいく結果だったといえる。全体としての学生の満足度も高いようで何よりである。

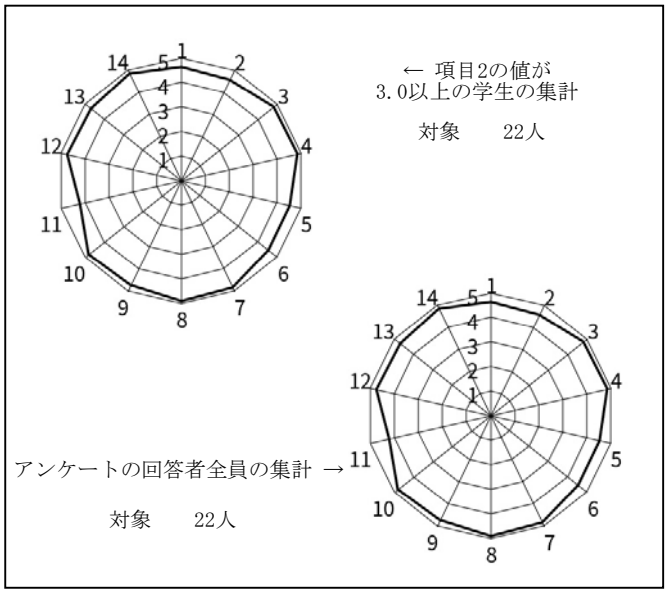
特に、教員に対して学生が答えるのではなく、学生同士のやりとりが活発だった。議論のなかで学生が問題提起をし、それに対して他の学生が自発的に答えることがあり、教員の介在が少ないディスカッションが自然な形で展開された。

今後も積極的な発言ができる環境を維持しながら、メモを読み上げるのではなく自然にコミュニケーションをとること、話すだけでなく他の意見によく耳を傾けることなどディスカッションを通した相互理解で大切なことを伝えたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
松井　さなえ　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級スペイン語IIC2
授業コード 32A15-002
教員名　松井　さなえ
教員コード 104963
登録人数　28
回答数　22
回答率　78.6%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



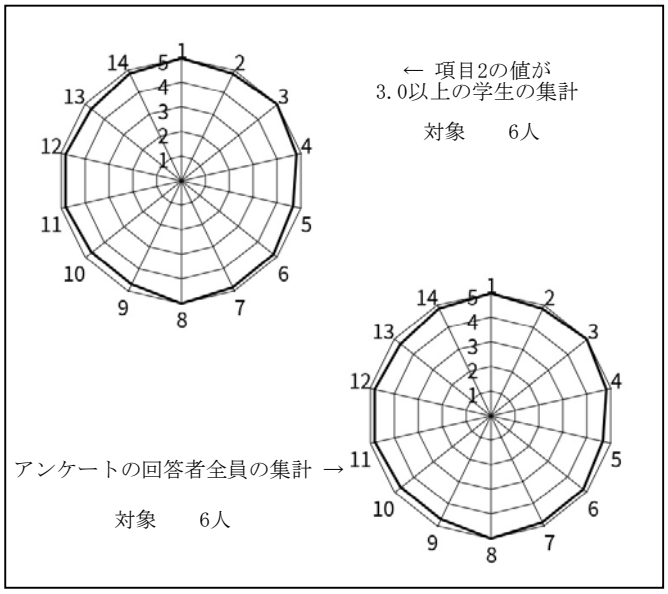
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた主な目標は、受講生がスペイン語の文法事項である「接続法」を中心とした重要構文を理解し使えるようになることであった。小テストや試験の結果を参考にすると、接続法の基本的な用法は身についているようであり、その点は達成できていたと考えている。一方で、個々の動詞の使い方に関する知識が問われると正答率が低くなることから、個々の動詞の用法を明示的に扱う必要性を感じた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
・数値データを踏まえると、概ね授業運営そのものについての満足度に問題は無かったと考えられる。
・扱う問題の量が多いことや、解説において分かりやすさに重点を置いたことにより、説明が不十分な点があり正しく伝わっていない点が見受けられた。
・授業環境(設備等)についてのコメントは特になく、問題は無かったと考えられる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
・扱う問題の量を適宜調節し、解説では分かりやすさよりも正確さにより重心を置く。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ESCANDON, Arturo　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　上級スペイン語IIA2
授業コード 32A19-002
教員名　ESCANDON, Arturo
教員コード 102090
登録人数　17
回答数　6
回答率　35.3%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) At the start of the course, the goals were to develop students' reading comprehension, understand intermediate-level texts from Spanish-language newspapers, recognize social debates and key concepts, and increase their ability to research current topics and form critical opinions. By course end, students showed significant improvement in reading comprehension, grasped social debates, and key concepts, and enhanced research skills and critical thinking, as evidenced by their class presentations.

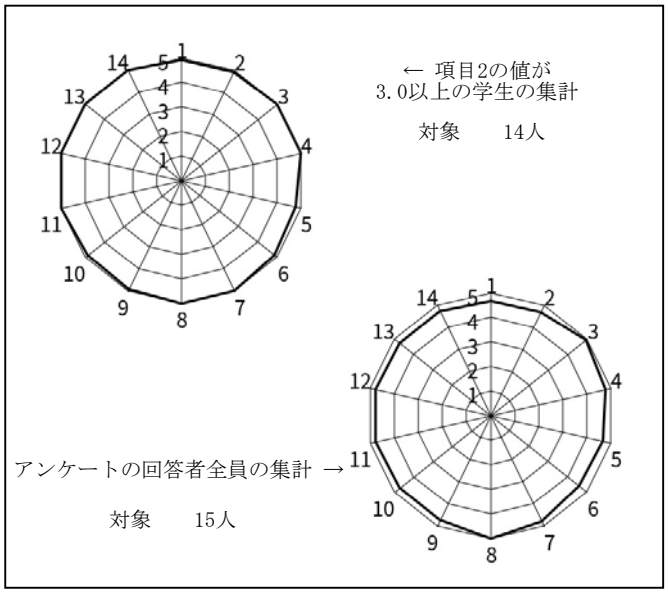
2) The course met its objectives based on performance and feedback. The practical workshop format fostered active participation, while relevant press topics kept students engaged. Positive feedback highlighted the structured approach and balance between theory and practice. However, balanced coverage of topics was a challenge, requiring schedule adjustments, and there was a need for more diverse assessment methods.

3) Looking ahead, we aim to enhance time management by adjusting the syllabus to ensure balanced topic coverage, allowing sufficient time for each unit.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ROJAS　ESPINOZA, Lorena　Sue　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　上級スペイン語IIC1
授業コード　32A23-001
教員名　ROJAS　ESPINOZA, Lorena　Sue
教員コード　103464
登録人数　37
回答数　15
回答率　40.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
当講義の目標を到達することができました。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データにおいては、高評価を得られているため、とても満足しています。しかし、自由記述に「難しい内容を取り扱うため、予習をさせるまえに先に概要に触れて欲しい。」との記載があったため、学生の声を考慮し、
今後の授業改善に取り組んでいきたいと考えております。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次クオーターでは、授業を活発化させるために、研究進行状況の口頭発表を行いと考えています。また、自由記述に記載されていたように、学生目線で、予習のための説明をより良いものにしていきたです。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
LOPEZ　RODRIGUEZ, Francisco　Javier　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語口語表現特殊研究II
授業コード 32B06-001
教員名　LOPEZ　RODRIGUEZ, Francisco　Javie
教員コード 103453
登録人数　4
回答数
回答率
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goals of this class were to practice the communication skills in Spanish of the students, particularly the abilities of telling stories, conveying personal opinions and supporting them with reasons, and participating in debates. Writing and listening comprehension skills were also practiced through different tasks.
These goals were achieved, since all the students were participative and completed the compulsory tasks trying to use the grammar structures and the vocabulary presented in class. There was a considerable difference in the level of the students, so those with a better command of Spanish participated more and assimilated more easily the contents. On the contrary, a student found the class hard because his level of Spanish was lower.
The comments from the students about the class were positive. They liked the contents, they learnt doing the tasks, and they enjoyed having a lot of time for oral practice. However, the number of registered students was very low.
In the future I would like to attract more students to this class, even though the level is high and it is mainly aimed to fourth-year students. Considering the suggestions of the students, I will change some activities in the future so the students have more freedom to talk about topics they find interesting. I also noticed that it is particularly difficult for Japanese students to engage in debates and defend their opinions, so I will try to improve this part of my class.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
永田　智成　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン史B
授業コード　32C04-001
教員名　永田　智成
教員コード　103900
登録人数　9
回答数　4
回答率　44.4%
休講回数　1 回
補講回数　1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

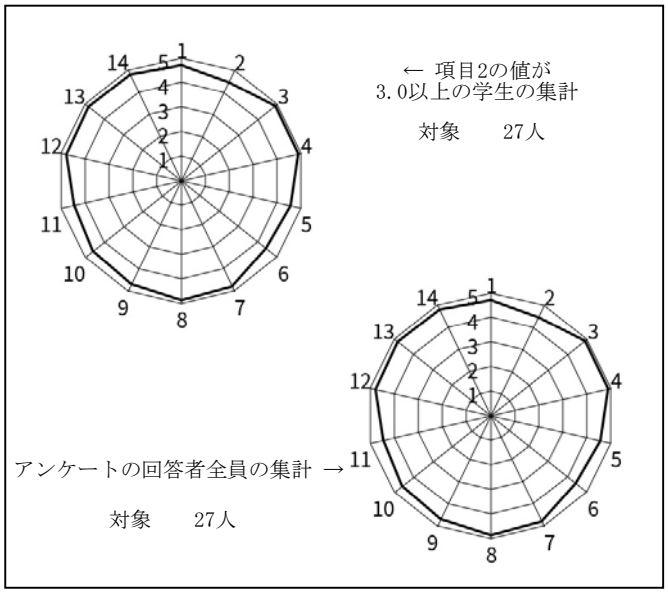
授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修者が少なかったため、アンケートの回答者も少なかった。その範囲で読み取れたことを記述する。
担当者としては、開講当初に設定していた目標には到達したと考えている。この講義は主に学科生に向けて実施することを想定しているものであるが、今年度に関しては他学科生が多かったこともあって、アレンジした。具体的にはスペイン語が理解できない学生に対しても、なるべく日本語で理解できるように心がけた。それが功を奏したのかまではわからないが、開講当初、全く授業に関心を持っていなかったと回答した学生が最後まで履修し、授業評価アンケートに回答するまでに至ったということは、個人的には収穫である。
今後においても、特段大きな変更をする予定はなく、講義科目でありながらも、双方向性を大切にして実施していきたい。引き続き、研究に関しても研鑽を積み、授業等でフィードバックできるように取り組んでいきたい。最後に、個人の努力では限界があるが、もう少し受講者が増えるようになるとよいと考えている。

外国語学部 フランス学科
茂木　良治　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語VII[FF]1
授業コード 11B07-003
教員名　茂木　良治
教員コード 102698
登録人数　33
回答数　27
回答率　81.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



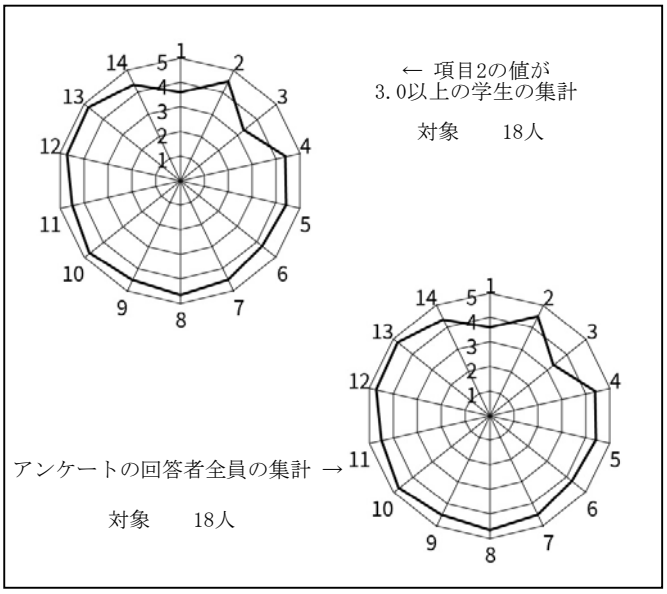
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Pilote1という教科書を使用して、予定していた34課～41課を終わらせ、当初設定していた授業目標は達成できたと考える。学生たちはフランス語初級文法を学習し、この授業を通して基礎的な力の定着を特に図った。授業進度については、設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」で4.89点と高い数値を得られていた。また、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」で4.78点だったことからも適切な授業運営だったことがうかがえる。設問3~14の平均点が4.71点と高得点であることからも、授業全体でも満足度が高いといえる。自由記述欄の良かった点として、「先生が終始楽しそうに話されていたので、和やかな雰囲気で授業を受けることが出来た。内容もわかりやすく、あまり分からないことや理解できないことが少なかった」、「実際の現地で使われているフランス語を例にとって授業と絡めて解説してくれるところ」、「小テストによって自分がどのくらい前回の内容を理解できているかを把握することができた」とあるように、解説の内容および手法について肯定的な記述が多数見られた。否定的な意見は見られなかったが、グループワークの実施などより学生間の活動を積極的に取り入れて、引き続き授業改善に努めたい。

外国語学部 フランス学科
COURRON, David　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランスの国際関係＜国際科目群＞
授業コード 33A10-901
教員名　COURRON, David
教員コード 019026
登録人数　29
回答数　18
回答率　62.1%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



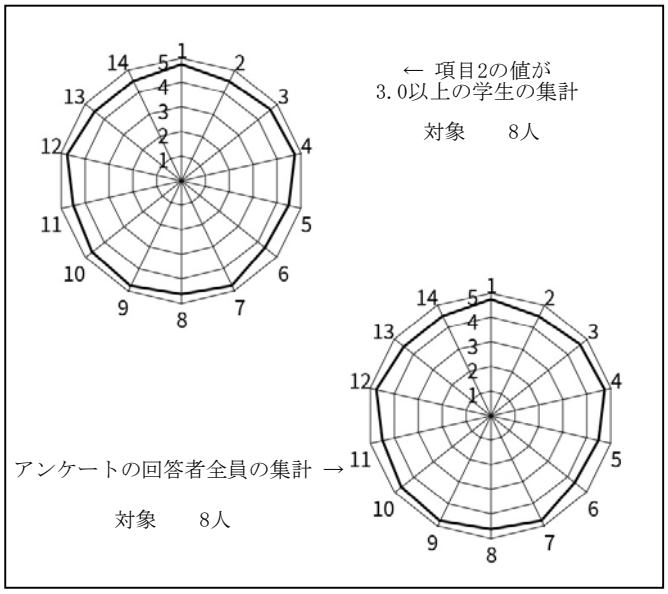
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives
The aim of this course was to provide a survey of EU member-states constitutional issues, with an emphasis on matters such as drafting process of constitutions, emergency regimes, human rights protection, freedom of religion and judicial review. It also aimed at examining some key themes and challenges for constitutionalism while forging student's English presentation skills.
2. Degree of achievement of initial course objectives
This quarter, even if assignment may have seemed somehow heavy, students committed to meet these challenges through oral group presentations. They were trained to apply key concepts in comparative constitutional law to specific countries, became acquainted with historical aspects and recent political evolutions in the EU and were given the opportunity to think critically about international event involving EU countries.
3. Areas requiring improvement and general remarks
According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will therefore do my best to preserve it in the future bringing in strategies to create better debate conditions and extra materials on my homepage.

外国語学部 フランス学科
REBOLLAR, Patrick　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級フランス語IIIB3
授業コード 33A16-003
教員名　REBOLLAR, Patrick
教員コード 100084
登録人数　19
回答数　8
回答率　42.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



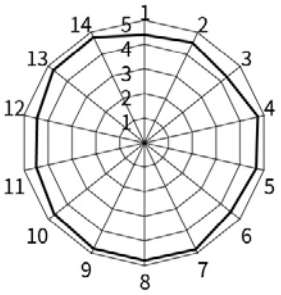
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Our goal in the 4th Quarter is to motivate students to work on the last lessons of the book while referring as often as possible to the content in speech acts, vocabulary and grammar of the previous lessons, studied in the other Quarters of the year.
Our choice of exercises in class and as homework consisted of doing activities planned in the book but also reformulating them in another way (same structure but different theme, for example), or to deepen the questions (explaining words or concepts).
The participation of the students was random while questioning each of them in each class. They studied sometimes individually, sometimes in small groups to share their knowledge, ask each other questions, write answers or longer texts together.
For the last classes, the groups prepared a tourist file on the theme of their choice in the geographical area of Nagoya and Chubu. They chose the structure of their text to be written in French and looked for photos and maps to illustrate it. Finally, they presented their work to the class in on-screen presentations.
Our future goal is to give students more autonomy while remaining very demanding on the basics of the language.

外国語学部 フランス学科
真野　倫平　先生

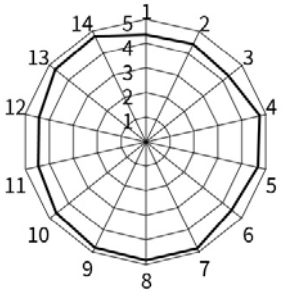
2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランスの芸術
授業コード 33A21-001
教員名　真野　倫平
教員コード 100083
登録人数　197
回答数　69
回答率　35.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　66人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　69人

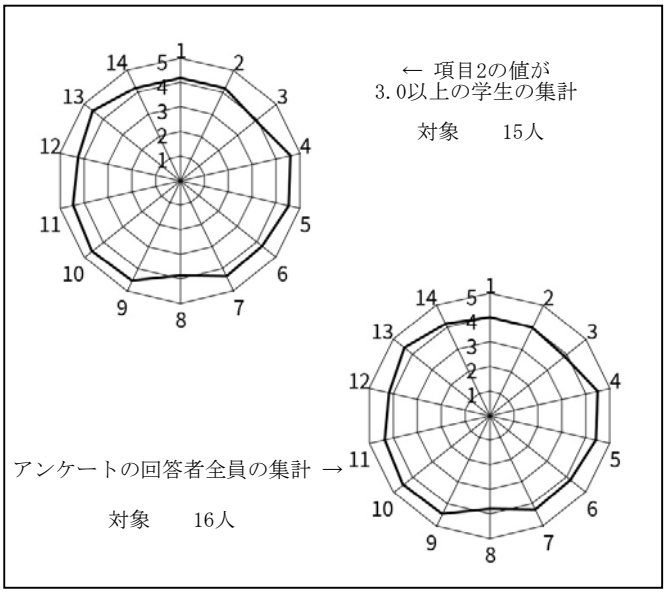
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は2年次生以上を対象とするフランス学科の学科科目であり、同時に外国語学部の学部共通科目でもある。到達目標は、①フランス絵画に関する基礎知識を身につけること、②絵画を鑑賞する上でのリテラシーを習得することである。授業においては、まず西洋絵画のジャンルや技法に関する基礎知識を学んだ後、フランス近代絵画史を概観し、並行して絵画に関する批評文を講読した。毎回、授業プラン・参考資料を示したpdf資料、ならびに絵画作品を提示するパワーポイント資料を使用し、さらに課題としてwebclass上でいくつかの設問に回答させた。①目標と到達の程度については、計画した教育内容をほぼ予定どおりに実施することができた。毎回の受講態度ならびに課題の結果から判断して、フランス絵画に関する基礎知識を習得するという目標はある程度達成できたように思う。②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均は4.64であり学生からの評価はまずますであったことがうかがわれる。個々の設問については、設問12（質問や相談の機会）が平均より低かったが、これは履修者数の多さ（200名）が一因であるように思われる。③今後の改善点については、参考資料の更新とさらなる充実を図りたいと考えている。

外国語学部 フランス学科
平田　周　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス現代史
授業コード 33A25-001
教員名　平田　周
教員コード 103583
登録人数　56
回答数　16
回答率　28.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



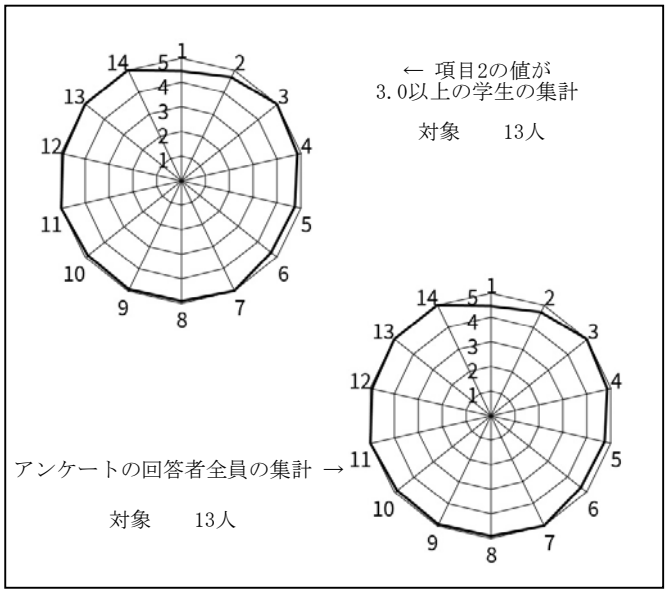
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①講義内容としては、現代のポピュリズムから出発して、第五共和政から始まる狭義の現代史を扱った。とりわけ、ジャック・タチの映画『ぼくの伯父さん』を導入として、「栄光の30年」に関する社会経済史や「第二のオスマン化」と呼ばれるパリの都市史について講義を実施し、加えて1980年代以降に生じたフランスの移民問題とその背景などに触れた。最後に学生には講義で扱ったテーマを選び、その理解を深めるレポートを課した。
②③講義の声が聞き取れないなどの回答が多かったので、講義の際には前に座らせたり、教員がマイクを使用したりするように意識を心がける。また欠席が多かったため、各回の講義のつながりが理解できず、ついていけない学生が見られたので、３分の１ルールを厳格化するとともに、文献を適宜紹介し、授業時間外の学習サポートを強化するよう努める。講義内容の理解に学生たちのあいだで開きがあるので、少し内容の水準を下げて、わかりやすくすることも検討する。

外国語学部 フランス学科
吉澤　英樹　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス文学講読
授業コード 33C09-001
教員名　吉澤　英樹
教員コード 103584
登録人数　16
回答数　13
回答率　81.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
今回はシラバスに記載されていた到達目標を授業内で確認した上で、アンケートを通して学生とともに授業デザインを試みることにより、授業の到達目標を明確化した。その一方で試験的な試みとして期末考査をなくし、毎回の授業でワークシートを作成し、それを学生に提出させることを通して到達目標を把握ことを目指した。文法事項の確認、文学テクストの味わい方の共有など、一定の効果はあった。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
おおむね学生からの反応がよく、今年度の試みには一定の効果が見られたことがアンケート結果から伺われる。一方で、内容が難しかったと述べる回答もあり、学生間の語学力に大きな開きがあったのも事実である。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
最終的に上級フランス語科目としてどのレベルの学生をどこまで伸ばすのかというコンセンサスをどこでとるのか、シラバスで明示した到達目標とは別に、語学力に開きのがある学生を取りこぼさないような力の伸ばし方は今後も検討しなければならない。

外国語学部 フランス学科
小林　純子　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　時事フランス語
授業コード 33C15-001
教員名　小林　純子
教員コード 102488
登録人数　8
回答数　4
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

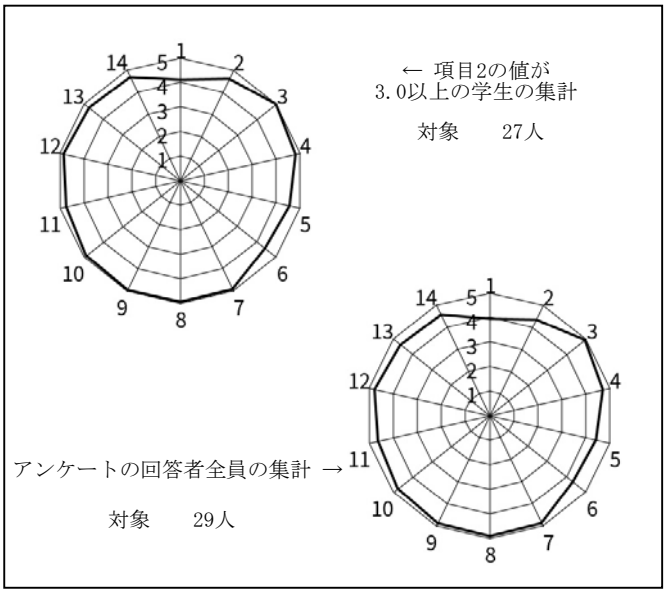
本講義はフランス語の報道の聞き取りやフランス語の情報誌ならびに各種データの読解を通じて、時事フランス語の表現を身につけるとともに、時事問題や社会課題についてディスカッションを行い、自らの見解を簡潔に述べることを目標としている。

学生毎回答結果のエクセルファイルを参考にすると、項目4（授業時間の厳守）と項目14（全体的な満足度）の平均が4.75、それ以外の項目では5という結果になった。ただし登録者数8名のうち4名の回答のみであったため回収に課題を残している。今後はさらなる時間の確保と複数回の周知につとめたい。自由回答欄からは、フランス語の聞き取りのみならず社会問題のディスカッションを扱ったことで受講生が語彙力の向上を実感できていることがわかった。また毎回の課題へのフィードバックを行ったことが評価されていることから、今後も学生主体の演習スタイルの授業実践を継続したい。改善点として終了時刻を過ぎることがあった点への指摘があることから、今後は時間配分を見直したい。

外国語学部 ドイツ学科
畑野　小百合　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　基礎演習II2
授業コード　34A06-002
教員名　畑野　小百合
教員コード　104422
登録人数　34
回答数　29
回答率　85.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス記載の通り、この授業では以下の4点を目標としていました。
1. 研究の基礎となるリテラシーを身につけている。
2. 構成に気を配り、聞き手に配慮したプレゼンテーションを行うことができる。
3. 他者の発言や発表を批判的に検討することができる。
4. 特定の問題について複数の見解を集め、批判的に検討した上で自身の見解を述べることができる。
授業内の活動や期末レポートの成果を見る限り、これらの目標は概ね達成されたように思います。また、履修者の皆さんの記述からは、学習内容や発表に対する教員のコメントに概ね満足であったことが感じられ、安堵しています。授業の前後にも積極的に質問をしてくださる方が多く、全体的に学習に対する意欲が強く感じられました。
数名の方が書いていらっしゃる通り、冬の時期の1限の授業であり、教室が寒いことが多かったことは確かです。また、ディベートの準備時間はもっと長く取れたら理想的だったかと思います。学習のためのより良い環境と、履修者の方がより充実感を感じられる授業のために、履修者の皆さんの意見交換を重視していきたいと思います。

外国語学部 ドイツ学科
RIESSLAND, Andreas 先生

2024年度Ｑ４ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級ドイツ語III2
授業コード 34A12-002
教員名 RIESSLAND, Andreas
教員コード 101252
登録人数 22
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is the report about the German Department's **中級ドイツ語** course, a four-lesson-per-week intensive course conducted in three parallel-running classes. These courses are taught by a roster of seven teachers, both native and non-native speakers of German. The teaching is based on weekly teacher rotation.

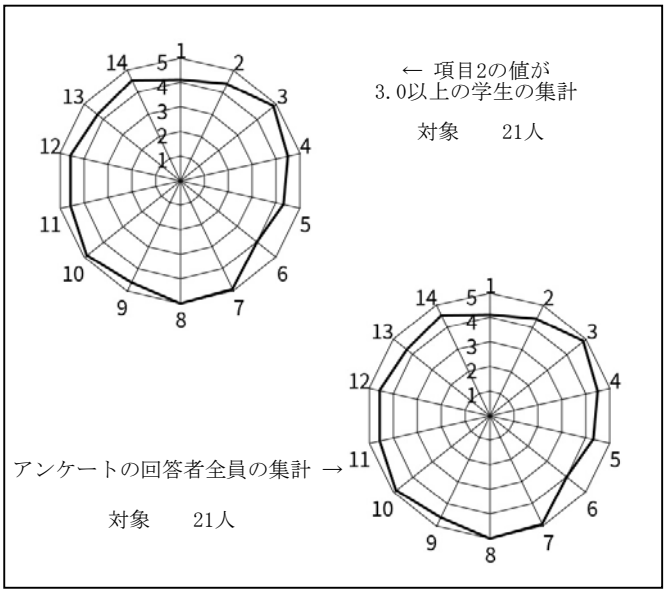
As there are no numerical data or comments available, this evaluation is based solely on my personal impressions:

- The basic course outline with teacher rotation has proved its merits over the years. It ensures that each class gets an even share of lessons taught by native and non-native speakers of the target language.
- The cooperation between the involved teachers works very well, mainly due to the exchange between teaching staff on the dedicated online platforms.
- Based on the department's long experience with this teaching approach, the course format works in a highly satisfactory manner. The current developments in the area of AI and translation software have required us to limit the evaluation of student contributions exclusively to those produced in the classroom, but with this tenet in place, the conduct of the course runs in its well-established smooth manner.
- For the foreseeable future, this tried and tested format is not to be altered.

外国語学部 ドイツ学科
齋藤　敬之　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語翻訳法
授業コード 34A21-001
教員名　齋藤　敬之
教員コード 104487
登録人数　24
回答数　21
回答率　87.5%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

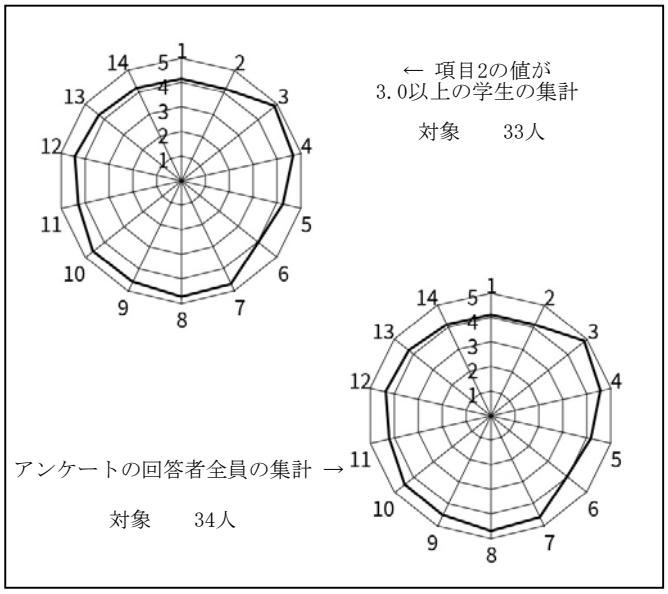
本科目では、「複雑な構造の文章や難解な表現に触れ、それを理解し解釈することができるようになる」、「文章の内容を把握したうえで、意味の通る訳文を作成することができるようになる」および「機械翻訳の扱い方や必要性について自分なりの考えを持てるようになる」といった点を目標に掲げていた。このうち3点目については、配布資料や課題は用意したものの、授業内で扱った時間的比率は低かったと思われる。また、授業では教材を着実にこなすことに傾注しており、学生の理解度・到達度を測る機会を中間に設けてはいなかった。こうした事情から、到達目標に関する設問で他の設問項目に比して評価が伸びなかったと考えられる（設問1・設問5・設問6）。

本科目では、3年次以上の学生が履修することに鑑みて難易度の高い教材を用いたが、ポイントや注意点の説明に時間を割いたり補足となる課題を出したりしたことで、授業全体についてはおおむね好意的な評価が得られた（設問9・設問11・設問12・設問15）。とくに、毎回の授業で学生を指名したり教員自身が教材や授業内容をどのように準備してきたかを伝えたりしたことで、教員の姿勢や授業運営について好意的な評価を得られたと思われる（設問7・設問8）。こうした工夫は学生の理解度やモチベーションの向上を意図したものであり、今回の評価に鑑みてこちらの意図が実現できたと判断しているため、今後も継続したい。

外国語学部　ドイツ学科
麻生　陽子　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文献講読（ドイツ語圏の文化）
授業コード　34A23-001
教員名　麻生　陽子
教員コード　104628
登録人数　45
回答数　34
回答率　75.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



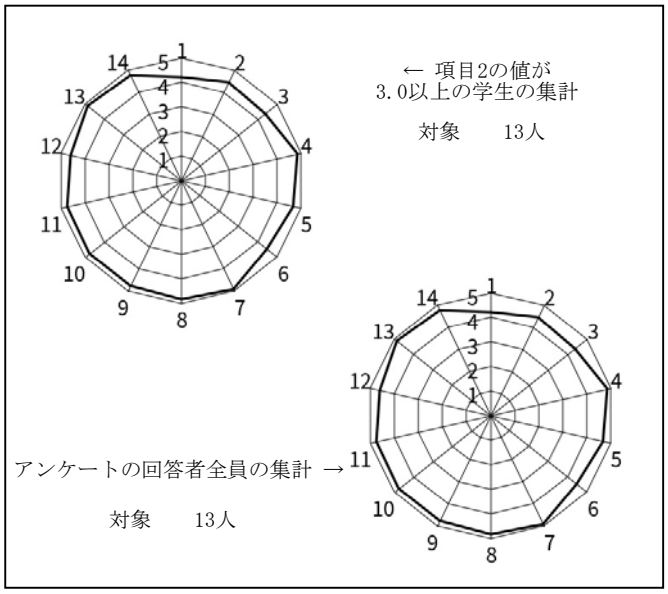
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①毎回の授業では、ある程度授業の進度を意識しながら、予定していた範囲のテクストを扱って授業をすることができた。履修者は実際にドイツ語でテクストを読み、多くのドイツ文学に親しむことができた点で、授業目標は到達できたと思われる。
②設問６（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）にたいする数値が唯一「４」を下回っている。履修者自身、すぐに力がついているという実感を持つことができていないように思われるが、講読という履修者の予習に依存した授業形態をとっている性質上、想定内の点である。言い換えれば、履修者自身、授業前の予習に十分にはとりくめていなかったのではないだろうか。事実これは、設問２・１４における数値が「４」を少々上回っている程度である点とも関連している。履修者自身が主体的に取り組まないかぎり、授業内容について理解を深めることが難しいと思われる。
③自由コメントを見る限り、映画などの映像を取り入れた点は履修者にも好評だったようだ。こうした点は来年度も継続する。教員側のさらなる改善も必要である一方、履修者の予習を前提とした講読という授業である以上、履修者の積極的な学習が生まれないかぎり、双方にとって満足のいく授業にはならない。ひきつづき学習者の学習意欲を引き出す工夫を考えていきたい。

外国語学部　ドイツ学科
中屋　宏隆　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文献講読（ドイツ語圏の社会）
授業コード 34A24-001
教員名　中屋　宏隆
教員コード 102885
登録人数　22
回答数　13
回答率　59.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



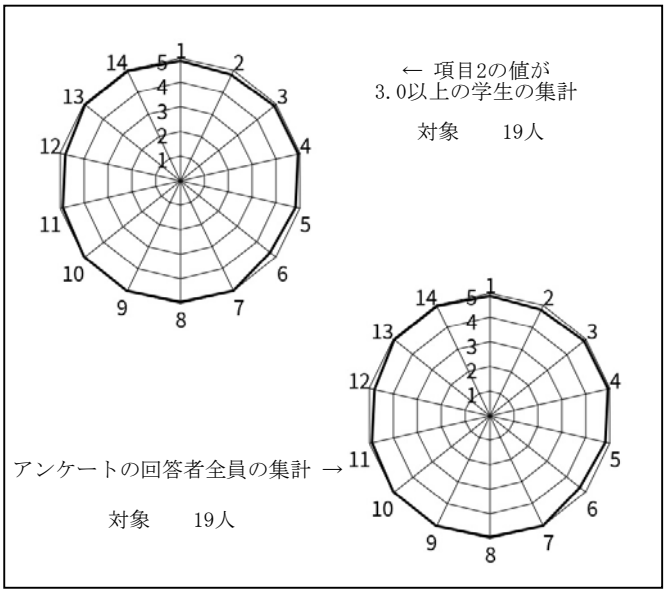
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
当初の目標は例年通り、専門的なドイツ語読解能力の向上を設定していた。
到達の程度に関しては、学生のアンケートからもある程度達成できたのではないか。
それは項目番号13の4.85という数字にも表れている。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
本講義の目標は読解力の向上ではあるが、単にテキストを読み込むだけに留まらず、
正確なAussprachの徹底や、ニュース音源を用いたHoerverstehenの向上も行った。
またドイツ人が作成してる現地の動画なども用いて、最新のドイツについてお考察する機会を提供した。
様々な学修素材を用いることで、項目番号14の4.77という数字が出たのではないか。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
アンケート回答者数が若干少なかった。これは別のアンケートと一緒に実施したことが影響している。
来年度以降はアンケート実施日は複数回設け、履修者全員の回答を目指したい。

外国語学部 アジア学科
中　裕史　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語II読解1
授業コード　35A10-001
教員名　中　裕史
教員コード　017830
登録人数　24
回答数　19
回答率　79.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

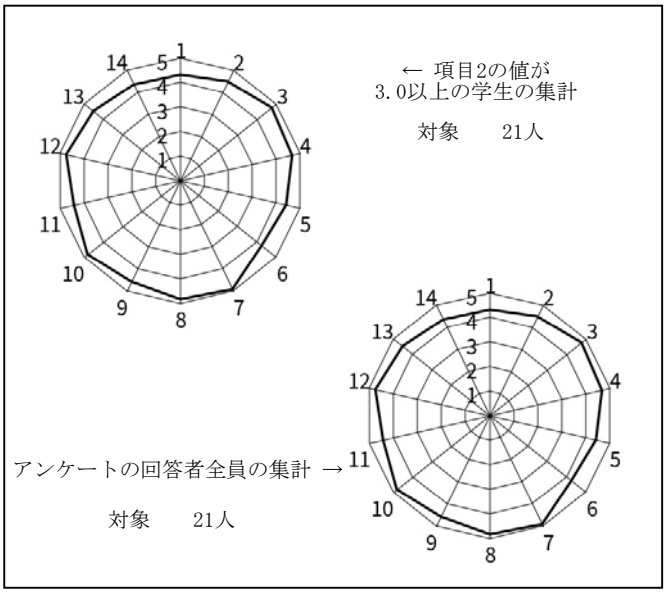
本授業が開講当初に設定していた目標と到達の程度は以下の3点である。①中国語検定２級程度に対応できる読解力を備えることができるようになる。②2000語程度の単語を使いこなすことができるようになる。③アジア学科のディプロマポリシーにある、中国語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度な運用能力を読解および語彙に関して身につけることができるようになる。これら3点の到達目標は、受講生のアンケート回答ならびに期末試験を含めて3回行った到達度を確認するための試験の結果から判断して、概ね達成することができたと考えている。

具体的には、設問項目5と6、および13の評価が高かったこと、ならびに授業で課した長文の音読と解釈、および語彙の力を受講生が確実に伸ばしていることが上記試験の結果から見て取れたことが判断の根拠である。音読と解釈についてはすべての回で予習を求めていたが、自由記述にもあるように、毎回当たる箇所が把握できて予習がしやすかった、発音を直してもらえるので音読の力がついた、など予習の効果が実感できたようである。自由記述では、この他に、授業の半ばでその回の授業内容に関連する中国や台湾の動画などを見る機会を設けたことも評価された。ただ、自分の解釈が間違っている点を聞き逃して正しい解釈がわからなかったという声もあったので、今後は重要な表現だけでなく、すべての文について正しい解釈を繰り返して説明するなど工夫をしていきたい。

外国語学部 英米学科
MISAKA, Gabriel　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Academic English A IV6
授業コード　31A04-006
教員名　MISAKA, Gabriel
教員コード　105066
登録人数　25
回答数　21
回答率　84.0%
休講回数　0 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The two main overall goals at the start of the course were to create a student-centered learning environment that would foster students' critical thinking skills. Overall, by the end of the course, many students could work as a team, although not every group had deep discussions. The two main projects were a debate and a process-analysis essay. The final results demonstrated that most students could explain their ideas clearly and provide good reasons for their answers.
(2) I am glad many students indicated positive experiences working in teams and seemed to enjoy the activities. I agree with the feedback about being stricter on students who had personal conversations. I plan to find more interesting topics for discussion to increase students' interest in the activities.
(3) I plan to find ways to scaffold students' critical thinking skills. Last term, students worked together, but many struggled to think critically, so I hope to add more steps between activities to make it easier for students to connect ideas and build upon their thinking. I also would like to streamline grading while keeping grades as fair as possible by creating a simpler yet more useful rubric system that will provide students with clearer feedback while also reducing the time required. This will help students gain accurate feedback more quickly and often, helping students improve their work.

外国語学部 英米学科
TANNER, Paul　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society C2
授業コード	31C03-002
教員名	TANNER, Paul
教員コード	045484
登録人数	24
回答数	4
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of the course were for students to develop an understanding of factors that make for a quality film. This issue was discussed and explained throughout the course. A second goal was for students to write a number of essays analyzing movies.

Students wrote three essays analyzing and examining contents of movies viewed in class. A third goal was for students to develop presentation skills, including an oral interpretation of scenes from a movie. All students that passed the course did a movie review presentation and an oral interpretation.

2. Student results were positive, but only four students completed the surveys. This is disappointing; more feedback would provide a better evaluation of my teaching. I would like to hear more from students who might not have enjoyed the class.

There were positive comments that I appreciate: “Teacher made time for students to talk, listened to opinions and gave advice and encouragement.” I enjoyed teaching the class and working with English Department students.

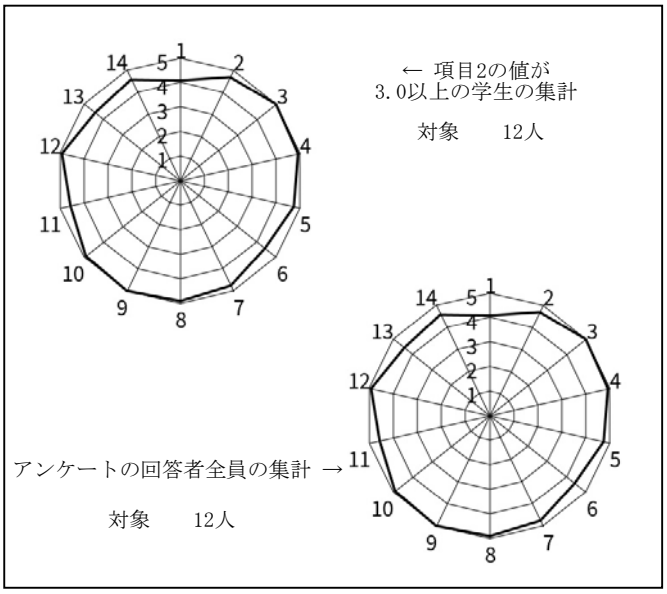
3. In future classes, I would like to have more focused student discussions and a better way to evaluate these discussions.

I would also allow for more time to prepare the final presentation. I felt the movie reviews were a good assignment, the essay topics required critical thinking, and the final presentation (oral interpretation) was a challenging and fun assignment. I would make those same assignments if I taught the class again.

外国語学部 英米学科
PURCELL, William　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture D1
授業コード	31C09-001
教員名	PURCELL, William
教員コード	016501
登録人数	35
回答数	12
回答率	34.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



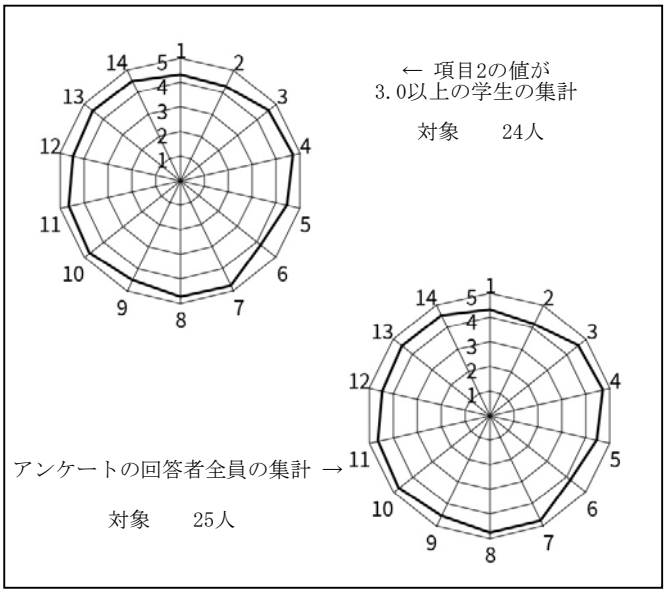
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Only 12 students took time to do the evaluation, which is disappointing. Those who did take the time seem to have been satisfied with the course. Only one, likewise, took time to offer comment. That comment was very positive, which is encouraging. As this marks the end of my teaching career at Nanzan, I do not have any comments to make regarding improvements to the course.

外国語学部 英米学科
平田　亜紀　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人間関係とコミュニケーション
授業コード 31E10-001
教員名　平田　亜紀
教員コード 105087
登録人数　88
回答数　25
回答率　28.4%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



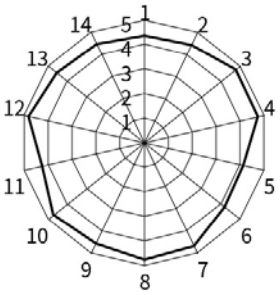
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①各回のフィードバックやテスト（選択・記述内容）を総合して概ね学生が本講義の目標を理解できたと考えられる。
②数年かけてスライドや資料などに一貫性を持たせる工夫をして今に至るのだが、その点について肯定的なコメントを学生からもらえたのは大きい。また、数値的データからも標準的な大学の授業として機能していたと考えられる。
③学生の受講態度や学習への姿勢などが能動的であったことから、多くの場面で助けられたと感じている。初学者であることを意識しつつも高学年であるという点から社会へ向ける視座もあり、その点も大きかったのではないかと感じる。今後、自身の大学でも学生が積極的に自分の意見を述べることができるよう、初学者には多くの対比事例を紹介することを心がけたいと思った。
ありがとうございました

外国語学部 英米学科
吉田　江依子　先生

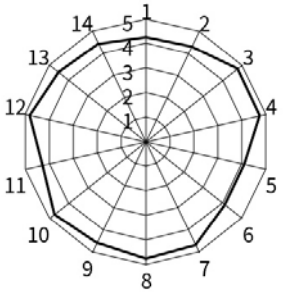
2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語の構造
授業コード 31E15-001
教員名　吉田　江依子
教員コード 103084
登録人数　33
回答数　23
回答率　69.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　22人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　23人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①シラバス通りにすすめることができ、開講当初に設定していた目標について到達できた。自由記述からも学生の理解度もよいと考える
②本講義は比較的難しい内容ではあるが、総合的に理解ができたとの自由記述が多かった。この評価は、これまでの授業評価に対して、授業内容をアップデートしたきた結果と考える。すべての項目の平均値が４以上であり、一定の授業の質の担保はできたのではないかと考える。特に今年度は、質問の機会を設けた、が4.8と高評価を得ており、双方向の授業形態を今後も積極的にとりいれていきたいと考える
③残念ながら、本講義の担当は今年度限りとなるが、また機会ができればぜひ、内容をアップデートしながら取り組んでいきたいと考える

外国語学部 英米学科
上村　直樹　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際関係論
授業コード　31E20-001
教員名　上村　直樹
教員コード　102463
登録人数　37
回答数　4
回答率　10.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

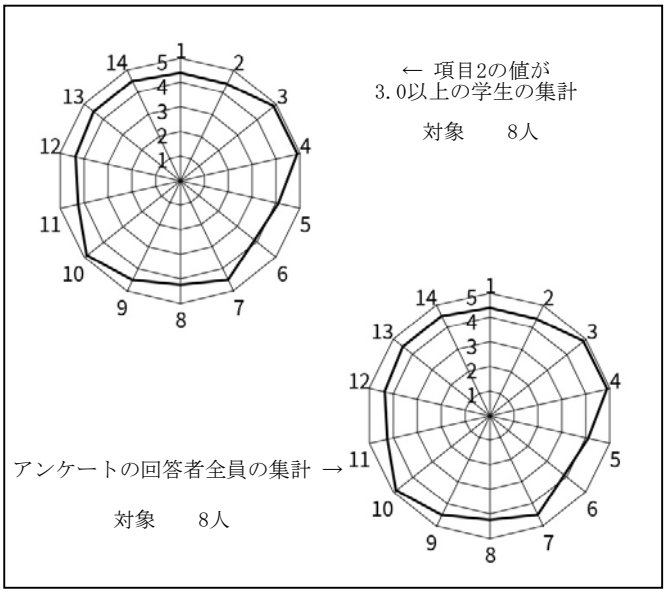
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は受講者が37名あったが、評価を行ったのは3名のみで数値データはない。そこで以下、到達目標との関連で授業の狙い等についての簡単な説明を行うとともに、学生の受講状況や受講態度、そして期末試験の結果を中心に本授業に係る自己点検・評価を示す。
本講義の到達目標は、① 国際関係の歴史と基本的な理論について理解している、② 現代の国際関係の仕組みや重要なイシューについて理解している、③ 実際に起こっている国際関係の現象について学修の成果を適用してその意味を自ら考えることができる、という3点であった。この3点の到達目標達成のため、3部構成からなる講義では、最初に近代以降の国際関係の歴史について学び、次の第2部では国際関係に関する思想や理論を概観し、第3部では国際関係の主要な要素や重要イシューについて説明し、最後に21世紀の国際関係の課題についても考察した。今年の講義では、特に近年顕著なグローバル化の進展とその反動としての世界的ナショナリズムの高まり、その帰結としての自由主義的国際秩序の揺らぎに一つ焦点を当てるとともに、直近のコロナ禍に象徴されるパンデミックの国際関係への影響についても検討した。
　最終試験の答案の内容や成績から判断すれば、①と②の目標に関しては、受講生が授業終了までに国際関係の歴史的展開や国際関係論における理論的枠組み等に関して基本的知識について一定の理解を身につけ、興味を深めたと判断できる。国際関係論に関する応用力の涵養をめざす③の目標に関しては、答案の内容からは多くの学生が、①・②で得た知識を国際関係の過去や現在の諸問題の理解や解決等に向けての活用が必ずしも十分できていないことも伺えた。今後の本科目の教授上の課題といえよう。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
中川　智彦　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテンアメリカの政治
授業コード 32C22-001
教員名　中川　智彦
教員コード 102940
登録人数　22
回答数　8
回答率　36.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

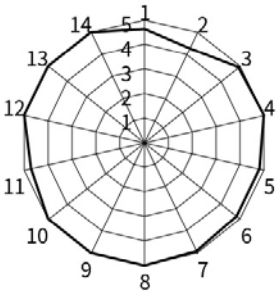
目標と到達の程度については、期末試験結果（素点）から判断する限り、履修者22名のうち、18名が及第点以上を取得し、うち8名は非常にいい成績を残していたので、概ね、達成できたと評価できる。素点で及第点に達していなかった履修者を含めて、小テスト等平常点を加味した総合評価で、全員、単位修得できた点は、よかった。

一方で、履修者の自己判断においては、到達目標の理解と達成を問う5項目と6項目のポイントが特に低くなってしまっていたので、履修者に自信をつけてもらう点においては、成功できていなかったようであり、今後、工夫をしていきたい。また、アンケートについては、十分、告知したつもりであったが、22名中8名しか回答がなかった点も、反省材料となる。ただ、その中でも、自由記述をしてくれた受講生には、感謝したい。「説明がわかりやすかった」ことと毎回の小テストがいい復習となることが、「評価できる点」として挙げられたが、他方で、「時々(声が)聞こえないことがあった」ことと「小テストを後からでも見れるようにして欲しかった」という声が「改善点」として挙げられていた。いい点は、継続するとともに、発声に注意していくことは心がけていきたい。小テストについては、ネット上で行っており、プラットフォームとの関係で、技術上の問題から、現在は、後から受講生が確認できないが、別の手段で、復習ができるように工夫していきたいと考えている。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
伊藤　秋仁　先生

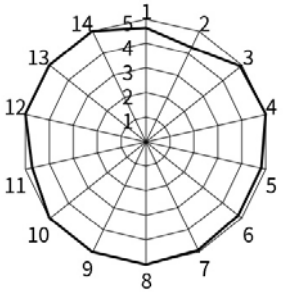
2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ポルトガル語圏文化・社会特殊研究A
授業コード　32C33-001
教員名　伊藤　秋仁
教員コード　100662
登録人数　11
回答数　11
回答率　100.0%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　11人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　11人

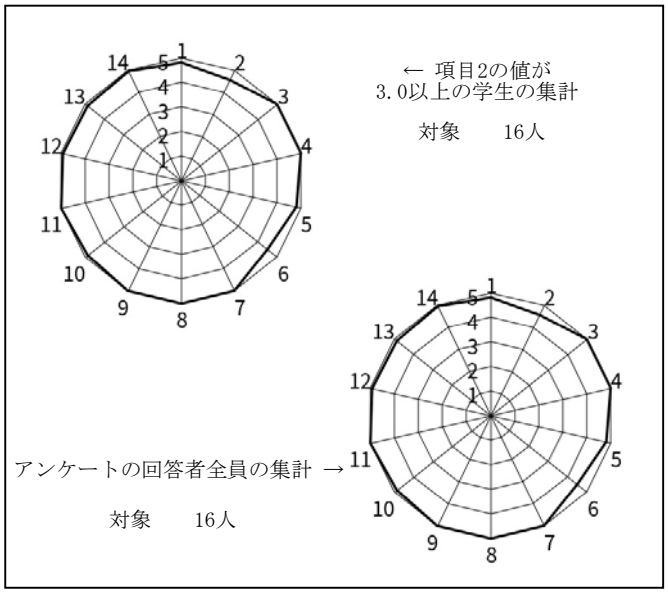
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初予定した内容について、講義することができた。少人数であったので、学生とコミュニケーションが可能であった。理解度を探ったり、意見を聞いたりしながら、授業を進めた。当初設定した目標をほぼ達成することができた。数値的にはとくに問題がないように思われる。自由記述については、視覚教材についての評価が高かったようだ。100分の授業を連続で行うので、あまり疲れないようにという配慮から（自分自身も一服できる）、それぞれ20分ほど、講義に関係のある視覚教材を使って講義の理解を深める配慮をした。来年度も同様の講義を行う予定になっているが、情報をアップデートしたり、新たな視点を加えたりして、講義の内容をより充実したものにしたい。反省点は、どうも学生の緊張感がないように思えたことだ。簡単でもよいので、授業中に、授業内容について振り返ったり、確認できるような時間を設け、それを成績に反映できるようにしたい。私のほうは楽しく授業ができた。学生たちも同様であればうれしく思う。

外国語学部 フランス学科
NISHINO, Aurelie　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級フランス語IIIA2
授業コード 33A13-002
教員名　NISHINO, Aurelie
教員コード 103640
登録人数　20
回答数　16
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals at the beginning of the quarter were to bring the students at an intermediate level in French through the method and our active lessons. The method was not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons. As we arrive at the end of the method, the students were really active, so I tried to insert more cultural facts in the lesson and it was lovely to teach them. They really enjoyed it and we managed to reach a very good level of French.

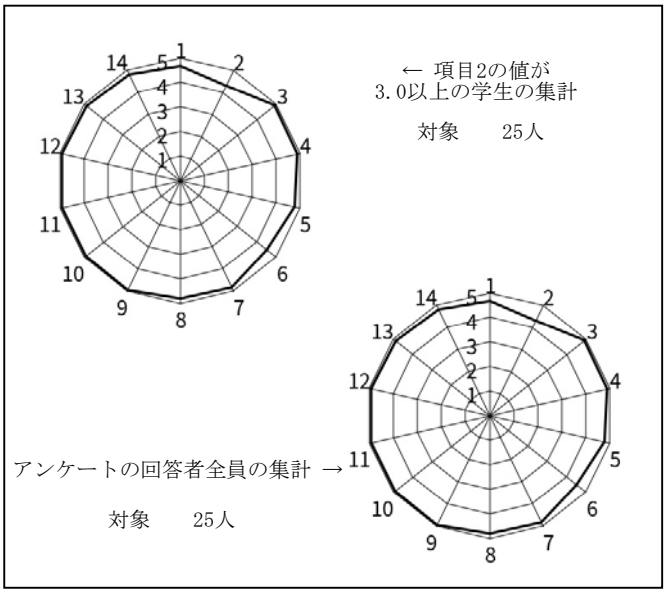
2. Following the results of the enquê te, I will try next year to involve more efficiently the students in the comprehension of the purpose of the lesson and i will ask what their goal is, in order to achieve it. I think , overall, that the class did very well.

3. For the next year, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past year experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

外国語学部 ドイツ学科
加藤　博子　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ文学研究
授業コード 34A22-001
教員名　加藤　博子
教員コード 100480
登録人数　93
回答数　25
回答率　26.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度は、回答いただいた方々においては、授業の目指していた目標に到達されていたと思われます。ドイツ学科はもちろん、他の専攻の方々も、非母国語の表現世界に触れることの面白さと違和感をうまく捉えてもらえたように思います。

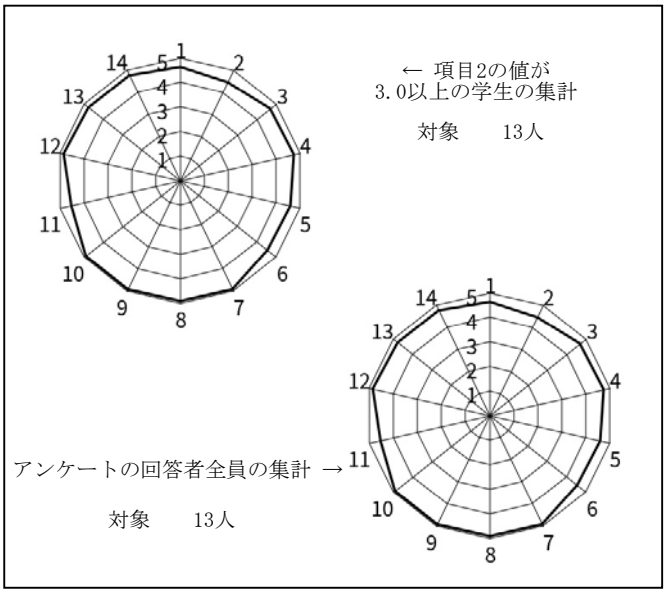
②数値データおよび自由記述等を踏まえての総合的な自己点検と評価としては、ドイツ文学の領域をはみ出しての表現享受のコツを感じていただけたと存じます。ただし出席率が低いのは、それが伝わる以前に皆様の成長にとって不必要な授業と判断されてしまったのだと反省しております。何の役に立つのかという視点自体を捨てる世界観は、実利を得るに忙しい皆様には無駄だったのだろうと思います。

③今後に向けての改善点、今後の抱負、方針は、残念ながら本年度で私の担当は終了しますので、ここへの記入は無駄ですが、ご紹介した諸作品をどこかで思い出して触れていただければ幸いに存じます。22年間、ありがとうございました。

外国語学部 アジア学科
劉　セイ　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語通訳法
授業コード 35C31-001
教員名　劉　セイ
教員コード 104995
登録人数　15
回答数　13
回答率　86.7%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は以下の通りでした。
１，通訳の基礎力を習得し、授業の中に演習した場面の内容の通訳ができるようになる。
２，授業で取り扱った各通訳場面で使われる決まった言い方については通訳できるようになる。
３，上手く通訳するため、中国の社会事情、風俗習慣、中国人の考え方についてある程度理解するようになる。

到達の程度
目標１については定期試験が受講した14名の内13名は80点以上を取れて、目標達成できたと思います。
目標２については毎回実施した小テストはほぼ全員80%以上を取れて、目標達成できたと思います。
目標３については教科書の内容は多く、かつ各領域の話題を取り込んでいて、授業の時間内に教科書以上のことを詳しく話すのはなかなか難しかったのです。改善の余地があると思います。

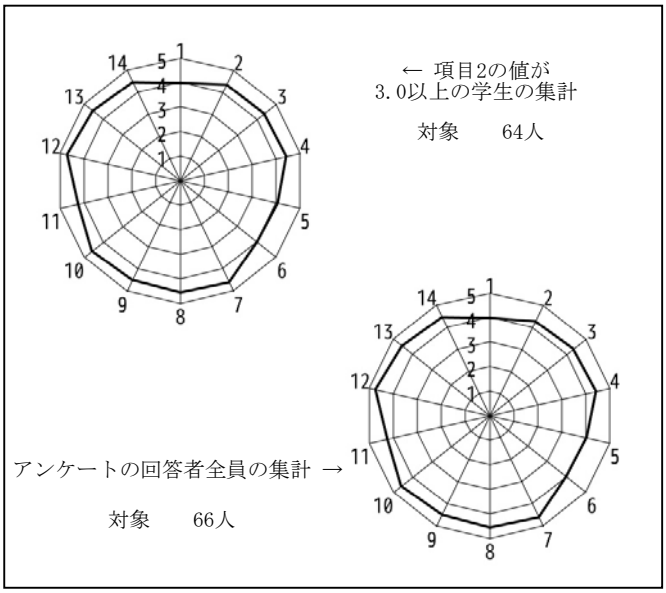
授業の出席率は高く、学生は授業への関心が高かったことが伺えます。小テストも定期試験の成績も良かったので、予習や復習をきちんとやったことが分かります。アンケートで最高得点4.92の三項目は自分が真剣に、熱心に授業をしたことを認めてくれて、とても嬉しかったのです。

次クォーターはもっと学生の勉強意欲を引き出し、積極的に授業参加できるように授業のやり方を工夫して、改善していきたいと思います。

経済学部 経済学科
阪本　俊生　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会学B1
授業コード　12C07-001
教員名　阪本　俊生
教員コード　017020
登録人数　79
回答数　66
回答率　83.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

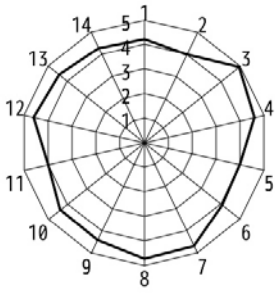
今回、初めての反転授業ということで、結果が気になったが、比較的、好評のようで安堵している。反転授業の準備は想像以上に大変であったが、講義科目でのアクティブラーニングが可能であることが実感できたのは収穫であった。反転授業の講義の授業時間外での聴講のほか、社会学の文献から一冊を課題として課し、定期試験で短評を書かせることで授業外学習も行わせた。しかし、その割には質問の項目番号2や11があまり高くないことが、多少気になった。

自由記述回答では、授業内でのグループ学習や発表が学習の役に立ち、また楽しかったといった感想も多く、実際の講義内での私の解説がわかりやすく、面白かったという評価も複数あり、うれしかったが、その反面、テキストを音声化した反転講義資料における改良の余地の指摘もあった。また、到達目標の理解に関する値がやや低いことも課題である。到達目標に関しては、シラバスに明記し、最初の講義で説明し、資料にも書いていたので、十分だと考えていたが、さらに丁寧に説明すべきであったのだろう。次回はこのあたりの改善を目指したい。ただ、そもそも授業外学習を課されること自体に不満のある学生もあり、これも最初の講義で説明したはずであるが、もう少し丁寧に説明すべきであったと考えている。

経済学部 経済学科
寳多　康弘　先生

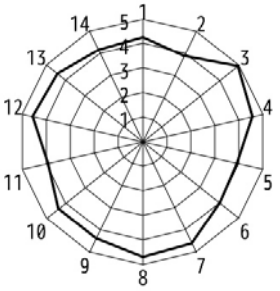
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学A2
授業コード　12C08-002
教員名　寳多　康弘
教員コード　100751
登録人数　75
回答数　55
回答率　73.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　52人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　55人

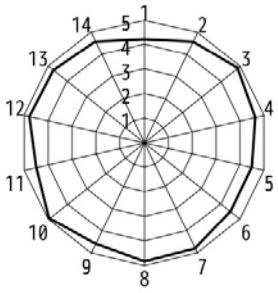
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度に引き続き担当した講義で、今回で8回目の担当となる。評判のよい『ミクロ経済学をつかむ』（有斐閣）を参照してもらい、講義を行った。対面での講義が定着した昨年度に授業内容を一新しており、さらに改善した。特に、世界の経済活動が平常化し、講義で扱える経済に関する時事問題を多く取り上げることができた。新聞記事など講義内容と関連する話題を提供して、学生自身に考える題材を提供した。その結果、自由記述の欄に、興味がわいた、分かりやすいといった高い評価のコメントが多数あった。また、初学者や経済学部以外の学部の受講生も多いことから、ミクロ経済学で扱う内容をさらに絞り込み、内容は狭くなってしまうが、丁寧に説明することを心がけた。開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。理解度の確認のためのレポートを課して提出を求めた。提出後、授業中に解説を行った。全体的に非常に高い評価を得たので、今回の授業を引き続き次に生かしていきたい。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

経済学部 経済学科
荒井　智行　先生

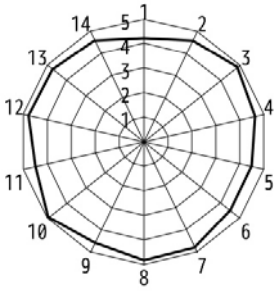
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　外書講読(歴史と思想)A
授業コード　40C08-001
教員名　荒井　智行
教員コード　104493
登録人数　19
回答数　14
回答率　73.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　14人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　14人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①については、概ね達成できた。受講生の反応に応じて、授業速度や内容を若干変えることにより、本来はもう少し内容を進めたかったところもあった。初めて担当する講義でもあり、学生の理解度に応じて講義設計を立て直すことにより、シラバス記載の小テストの実施ができなかった。だがその点については、講義内で詳細に説明した。

②については、受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習を行うべき点について細かく提示した。授業では、学生に発言を多く求め、学生の前向きな参加を促した。自己点検としては、最初に担当した講義としては、概ね良かったのではないかと考える。

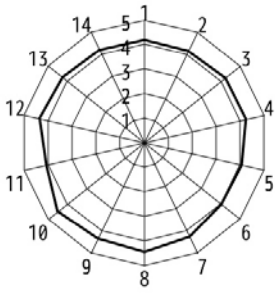
③については、テキスト全てを扱うのではなく、テキストの中で扱わない内容をはじめから取捨選択するように心がけ、授業内容の理解も充実させたい。同じ科目について担当している先生にも、どのように講義を進めているか等、教示を得たいと思う。受講生は、私語もひとつもなく、熱心に受講していた。

授業時間の残10分程度で、質問や相談の機会をつくる時間を増やすなど，工夫も心掛けたい。今回の結果を見て、概ね好評だったと思う。今後も授業の改善に努めながら、本学のディプロマポリシーに応じた授業ができるよう、授業準備にも精進する所存です。

経済学部 経済学科
上田　薫　先生

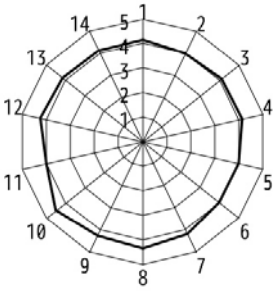
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ゲーム理論A
授業コード 40D07-001
教員名　上田　薫
教員コード 016832
登録人数　181
回答数　34
回答率　18.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　32人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　34人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はゲーム理論の基本的な考え方の理解を学修目標とし、特にゲーム理論の基本にあるゼロ和ゲームに関する理論を中心にしている。扱う事例を増やしたこと、不偏組み合わせゲームの一般的性質や石取りゲームの必勝法に関する数学的証明を授業内で取り上げ講義の形式的完結性を向上させたこと、ミニマックス定理の初等的説明を講義ノートの付録として追加したことなどが、前回授業と比べての変更点である。

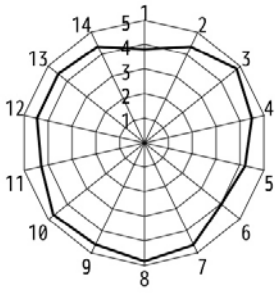
設問11から設問14までの平均値がいずれも4.0を上回っており、学生にとって概ね満足のいく授業となっていたと考えられる。特に設問13の平均値4.15は、前回に続き新しい知識を得られたと感じる学生が多かったことを示している。この授業は他の授業と差別化した内容を提供することを目標の一つとしていることから、その試みが順調に実現しているように思う。設問11は、前回4.12だったものが4.00まで低下したことが若干の懸念点である。講義ノートで扱う数学的内容を高度化させたことが一因かもしれない。

設問3、7、8、9の平均値のいずれも4.1を超えていることから、プレゼンテーションに関しても問題はないようである。平均値が最低だったのは設問6であり、3.97という数字だった。これについても数学的内容の高度化が原因となった可能性があり、次回は証明のステップ等についてさらに丁寧なものにしたい。

経済学部 経済学科
大鐘　雄太　先生

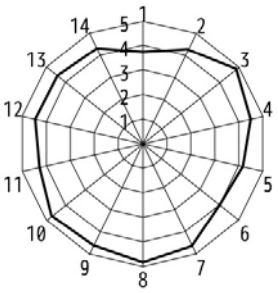
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　計量経済学A
授業コード 40D11-001
教員名　大鐘　雄太
教員コード 103641
登録人数　88
回答数　33
回答率　37.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　32人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　33人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「正しいデータ分析の初歩的・基礎的な考え方について理解できる」ことを目標とした。授業の到達目標を理解することができたかどうかに関する設問（設問5）は4.18にとどまっているが、定期試験の成績はおおむね良好であったため、上記の目標は到達できたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

前回開講時と比べて、(1)設問3から設問14までの12項目のうち7項目が低下したこと、(2)全体の満足度に関する設問（設問14）が4.55から4.30に低下したこと、(3)設問3から設問14の平均が4.56から4.49に低下したことから、今回は前回よりもややわかりにくい授業であったと考えている。

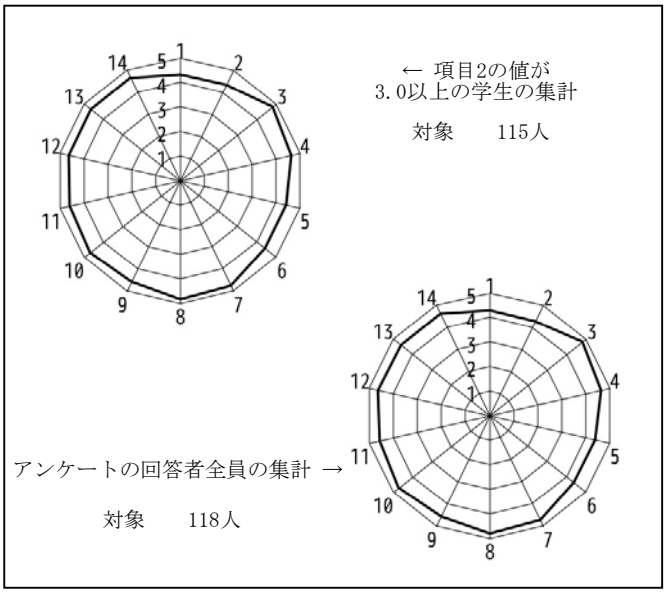
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうかに関する設問（設問6）が、他の設問と比べて平均値が低く改善の余地が大きいため、次回開講時にはこの点を中心に改善することにより、全体の満足度のさらなる向上を図る予定である。

経済学部 経済学科
小林　佳世子　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報経済学A
授業コード　40D17-001
教員名　小林　佳世子
教員コード　100487
登録人数　233
回答数　118
回答率　50.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



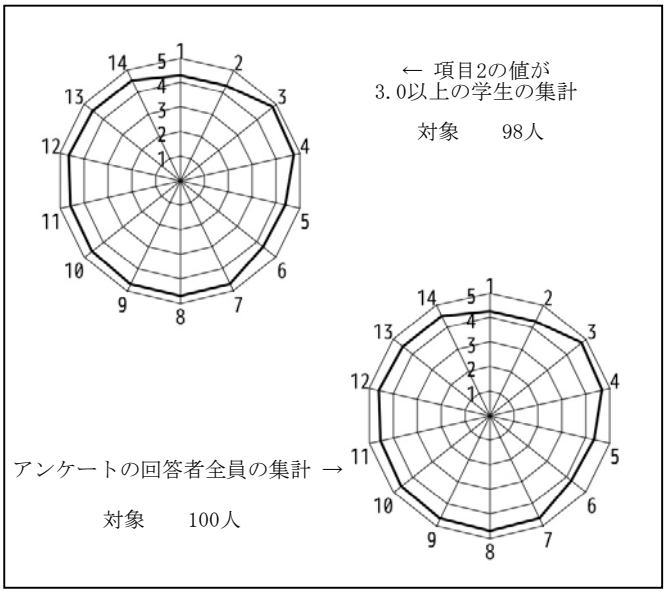
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、経済学部の２年生以上を対象とした専門科目です。高い評価となったことに素直にほっとしてます。
自由記述を見てみると、「沢山の具体例を通じて難しい内容も理解することができたこと」「説明がとても分かりやすく、また、内容もとても面白かったです」といった、具体例を用いて経済理論の現実的な側面をつないだことを評価してもらったように思います。私自身が強く心掛けている点でもあり、これも、とてもうれしく思っています。
今年初めての試みとして、スマホやPCの使用を原則として禁止としました。これには反発の声も出るのではないかと危惧していましたが、驚いたことに、この点についてコメントした声は、すべて賛成の声でした。それどころか「スマホを禁止にすることで、授業にこんなに集中することができることを初めて学べた」といったような声も多数あり、今後も学生さんの声を聴きながら続けていこうと思っています。
また、大人数講義ではありますが、学生さん参加型で行った点も、評価する声が多々ありました。
改善点としては、例が多すぎてもっと進んでほしいという声も一人いました。どんな事例を使うのか、アップデートをしながら考えていきたいと思います。

経済学部 経済学科
都築　栄司　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　金融論A
授業コード　40D28-001
教員名　都築　栄司
教員コード　103265
登録人数　281
回答数　100
回答率　35.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　開講当初に予定していた講義内容は過不足なく扱うことができた。また、定期試験の結果から、大半の受講生が当初予定していた到達目標に到達できていることがうかがえた。

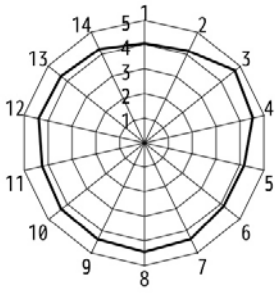
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　この科目の受講には若干の数学的知識が要求されるため、数学を用いた議論が苦にならない人とそれを苦手とする人とで、理解の速さに差が出る。
　しかしこれは仕方がない。
　この点については、シラバスや初回のガイダンスで十分にアナウンスしている。
　毎時限、理解度の確認のための練習問題を提示している。
　授業内で問題の解き方について解説をするだけでなく、各自で自習ができるよう講義資料に幾分詳細な説明を含めるなどの工夫もしている。
　これは好評のようなので続けていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　この講義では実践的な話をする機会は少ない。
　そうした内容については、金融論Bの方で詳しく論じる予定である。
　しかし吸収した知識を応用し、自身の身の回りの問題解決に役立てる力を磨くことも、学問の修得における大きな意義の1つである。
　今後は本科目でも幾分そのような内容を含める方向で、充実を図っていきたい。

経済学部 経済学科
岸　智子　先生

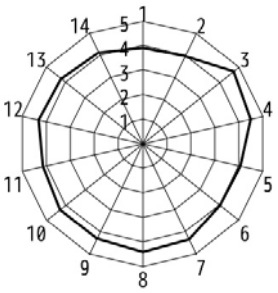
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　労働経済学A
授業コード　40D30-001
教員名　岸　智子
教員コード　100346
登録人数　418
回答数　127
回答率　30.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　118人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　127人

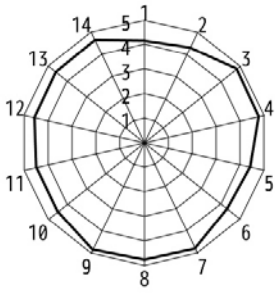
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初の目標と比べ、到達の程度はかなり低い。それは、複数の受講生から「授業内容が難しすぎる」「もっと現実的具体的な説明がほしい」と要求されたからである。学生の要求をかなり取り入れた内容および説明方法になり、レベルは低くなった。学生の自由記述の中に「難しい」といいうものはなかったので、まあこれで良いのかもしれない。
②練習問題を作成したが、答え合わせなどをきちんと行っていなかったので、学生の予習や自習に関する点数は低かった。
③実は、採用したテキストに練習問題がついているが、答えがついていないので、正解を教えてほしいという要求が殺到していた。しかし、正解を教えてしまっては教育効果があがならいので、類似の問題を自作していた。練習問題とその答あわせの方法が今後の課題である。

経済学部 経済学科
前林　紀孝　先生

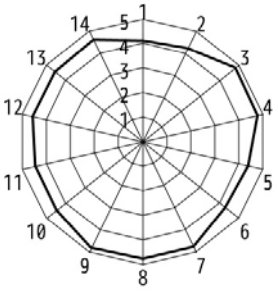
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　公共経済学A
授業コード　40D32-001
教員名　前林　紀孝
教員コード　104801
登録人数　185
回答数　91
回答率　49.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　88人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　91人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的な学生さんの習熟度は高く、到達目標の達成はある程度できたのではないかと考えている。授業内容を詳細にまとめた資料作りの甲斐がありとても良かったという意見が多かった。引き続き、この授業の到達目標と課題について授業内で適宜アナウンスをするなどして目標に向かって努力できるような仕組みを考えるようにしたい。具体的には、シラバスをはじめの授業で提示するなどの取り組みを考えている。また、授業の途中でも適宜、到達目標のどのあたりまで進んでいて、どこまでの説明が終わったのかもアナウンスするようにしたい。

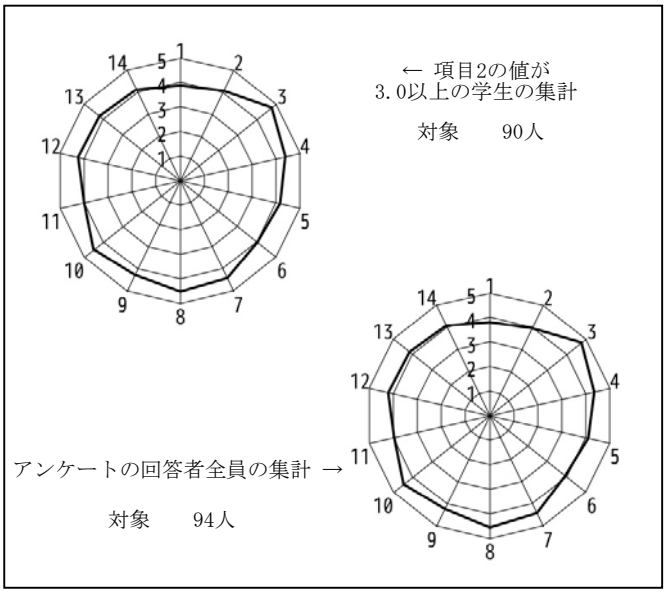
授業の内容については、ほどほどに難易度が高く、ボリュームもあるので、それを終わらせる気持ちが競ってしまい、前半の説明の速度が若干早く、後半に少し時間の余裕ができたので、次回からはペースの平準化に心がけたい。

講義資料にタイプミスがいくつかあり、授業中に修正のアナウンスと授業後に講義資料の差し替えを行ったが、学生さんには迷惑をかけてしまった。気づいたものはすべて修正したので今後はこのような不便はなくなると思う。

経済学部 経済学科
林　尚志　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アジア経済論A
授業コード 40D54-001
教員名　林　尚志
教員コード 017897
登録人数　211
回答数　94
回答率　44.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、「近年、東アジアにおいて（日本を先頭とする）“雁行型”の発展パターンが、なぜ＆どのように変容しつつあるのか」という疑問に注目しながら、「今後のアジアとの分業関係のあり方」について理解や関心を深めることを目標とした。また、「さぐるべき一連の疑問」を列挙した“教材プリント”および“関連資料”を事前に配布した上で、授業では“板書レジメ”を作成しながら、これら疑問に対する解答を探った。

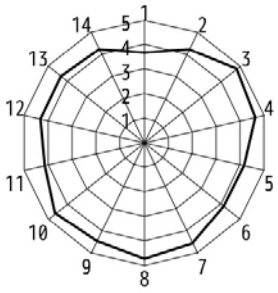
この目標の到達度については、「教材プリントによって、講義のポイントがわかりやすかった」、「グラフや表など、議論を裏付ける資料が紹介され、理解・納得しやすかった」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問（９）と関連し、「説明がていねいでわかりやすかった」、「板書が穴埋め形式で、わかりやすかった」等のコメントがある一方、「板書する時間をもう少しほしかった」、「板書の字がみえづらかった」等のコメントもみられたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、レジメ内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問（１１）に関しては、「関連文献や資料等の紹介」等でさらに工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけたい。

経済学部 経済学科
梅垣　宏嗣　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

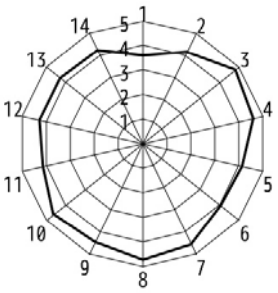
科目名　西洋経済史A
授業コード 40D60-001
教員名　梅垣　宏嗣
教員コード 102397
登録人数　170
回答数　103
回答率　60.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　99人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　103人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では、現代社会における様々な経済問題を、歴史的な文脈に位置づけて理解し、説明できるようになることを目標とした。そして、今年度より、授業中に毎回、確認テストを行い、それを成績評価の対象としたが（確認テスト40%、定期試験60%）、その効果もあり、昨年度と比べて理解度の向上が見られた。

また、授業評価に関しては、数値データ等、特に問題はなかったものと考えられる。毎回の授業内で確認テストを行い、成績評価に反映させることに関しても、授業評価以外で触れた受講生からの声を含め、おおむね好意的であった。

ただし、確認テストに関して、提出さえすればそれなりの点数を獲得できると解釈（勘違い）したのか、毎回、おおよそ真剣に取り組んだとは言い難い内容のものを提出する受講生も、若干名ではあるが存在した（例えば、確認テストの問いに答えず、1行程度の授業の感想のようなものだけを提出する等）。また、毎回、確認テストを実施し、授業評価の対象とすることにより、学習効果は上がったものの、採点する確認テストの量が膨大なものとなり、このまま、このやり方を続けているのか否かについては、検討の余地がある。

経済学部 経済学科
赤星　立　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　市場の経済学B
授業コード 40D73-001
教員名　赤星　立
教員コード 103866
登録人数　6
回答数　2
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義で学生に課していた具体的な目標は次の4点である．(1) 記号論理や集合論の記号の使い方，基本的な論理の使い方を理解する．(2) 講義で紹介するマッチングメカニズムについて理解する．(3) メカニズムが満たすことが望ましいと考えられる種々の性質について，その式が示す意味を理解し，正確に定義することができる．(4) いくつかの基本的な定理の証明ができる。

授業は，上記の目標達成のために忠実に遂行された．試験結果を見る限り，学生は十分な理解に達することができたと言える．ゆえに設定した目標は達成された．

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

履修登録者数6名のうち実際の講義出席者および期末試験受験者は2名であったので，全受講者が回答してくれたことになる．評価については満足している．どの項目についても高い評価がなされている．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

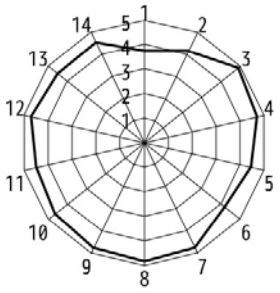
今年度は最初の方で実例を多く紹介し，学生の興味を惹くように心がけた．今後も学生が経済学に興味を持ってくれるように改善していきたい．

また，今年度は特に受講者数が少なかったことで，演習にも時間を割くことができた．各学生が作成した演習の答案にも目を通しコメントすることができた．

経済学部 経済学科
宮崎　浩伸　先生

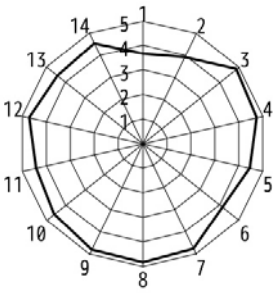
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学A / Economics A
授業コード 48C28-001
教員名　宮崎　浩伸
教員コード 101892
登録人数　109
回答数　60
回答率　55.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　53人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　60人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

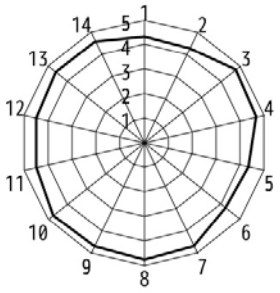
今回の授業評価結果は、設問1～14の平均値が4.49、設問3～14の平均値は4.61であった。この結果は、この授業での過去の結果と比べても同じぐらいである。また、開講当初に設定していた目標に対する到達度も達成できたように思う。評価の低い質問項目は6であり、この授業の到達目標に向けて力がついてきていると実感してもらうことが必要である。具体的には、授業で取り上げた内容を踏まえた練習問題を、考え方のプロセスを確認しながら、一緒に解く作業を今後授業の中で行いたいと考えている。

自由記述欄では、「分かりやすい。」、「もともと経済学に詳しくなかったのですが、一から詳しく教えていただき、日常生活における経済活動と結びつけながら授業を進めていただいたため、とてもわかりやすく、経済学の理解が深まりました。」等の肯定的な意見をたくさんもらうことができた。また、この授業の改善点や困った点については特になし以外は何もなかったので、引き続き、今後もこのようなスタンスで、授業を行いたいと考えている。

経済学部 経済学科
相浦　洋志　先生

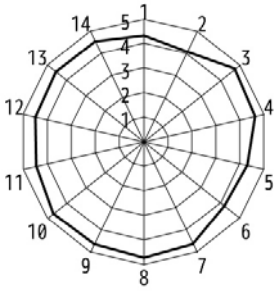
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学A1
授業コード　12C08-001
教員名　相浦　洋志
教員コード　103642
登録人数　230
回答数　101
回答率　43.9%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　92人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　101人

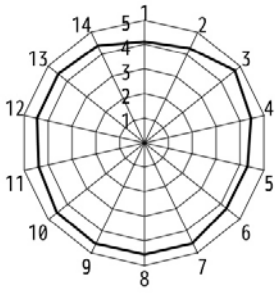
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、ミクロ経済学について関心が持てるよう、実際の社会や経済の問題について学生の関心な高そうなテーマを選んで授業を進めた。また、期末試験向けに練習問題を作成したことで、学生に復習できる機会を増やした。その結果、受講に際して、〝予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。〟以外のアンケート項目において、基盤科目および経済学科の平均点を上回る結果となった。また、自由記述欄においても「難しそうなミクロ経済学に関心を持てるように身近な事を題材にしていることで理解しやすかった。」「授業で学習したことを実生活に生かせる点。」「授業の合間にその日にやった講義の理解度を計るために練習問題を解く時間が設けられていた点。」「抽象的な考え方を具体的な例に落とし込まれていて、理解しやすかった。練習問題と期末試験模擬問題が常設されていたので、復習が容易だった。」など、肯定的な意見が多く見られた。
今後の改善点としては、各回の授業構成が挙げられる。学生に興味を持ってもらうために各テーマの導入において自身の体験等を踏まえた雑談を多くしたが、アンケートの自由記述において「本題に入るまでが遅い時がある」との指摘を受けた。確かに、その指摘の通りの授業回もあったので、今後の授業において改善していきたい。

経済学部 経済学科
林　順子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

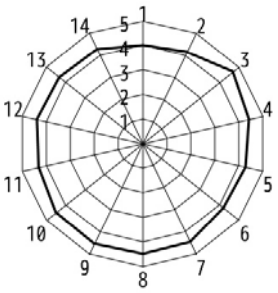
科目名　日本経済史
授業コード 24C19-001
教員名　林　順子
教員コード 101007
登録人数　343
回答数　108
回答率　31.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　103人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　108人

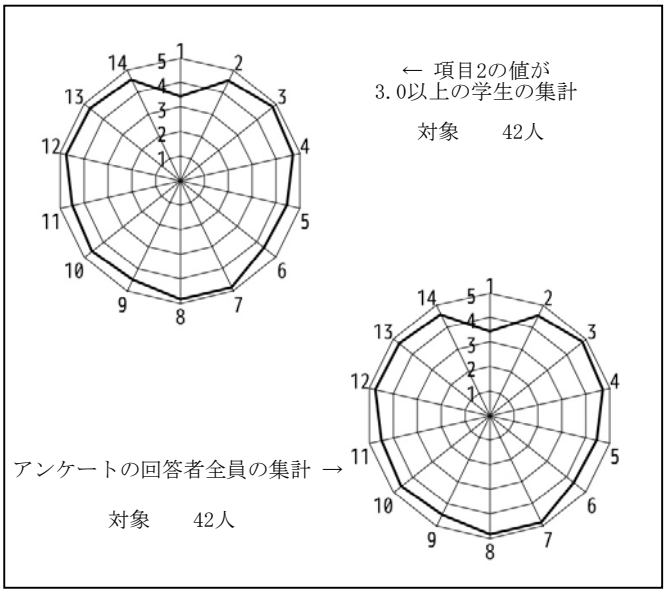
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は、名古屋を中心とする愛知県西部の地域経済の近代化の過程を理解できるようになることであった。試験結果では、かなり良く理解できていると言える学生と、ほとんど理解できていないと見受けられる学生がそれぞれ40%で、明らかな二極分化がみられた。出欠は毎回の講義後にwebclassに講義内容のチェックテストの回答を提出することでとっていたが、今回の授業評価のコメントにもあったとおり、実際に出席する必要がないことから、履修登録者350人程度にも関わらず、毎回の講義の実質的な出席は目視では100名程度であった。二極分化の背景にはこうしたこともあるかと思われる。
なお、チェックテストの自由記述で、討論の時間を設けて欲しいという要望があった。ゼミでなく、概説をおこなう大人数講義においてどう対応すれば良いのか、正直解決策を見つけられないままである。
今回の授業評価の数値データでは、教員の声の聞き取りやすさの評価が低かった。講義期間中にも指摘をもらい気をつけたのだが、マイクの音量調整が難しかった。音量の他「授業最後の習得度チェックを解く時間が短かった」「スライドを変える際に一言あるとありがたい」など、具体的な改善策もいただいた。今後に活かしたい。
個人的には、講義中に色々説明ミス、設定ミスをしたのが一番の反省点である。ただ、そのたびに学生の指摘やフォローがあり、大変ありがたかったことを付け加えておきたい。

経済学部 経済学科
川本　真哉　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ処理入門7
授業コード 40B03-007
教員名　川本　真哉
教員コード 103865
登録人数　55
回答数　42
回答率　76.4%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



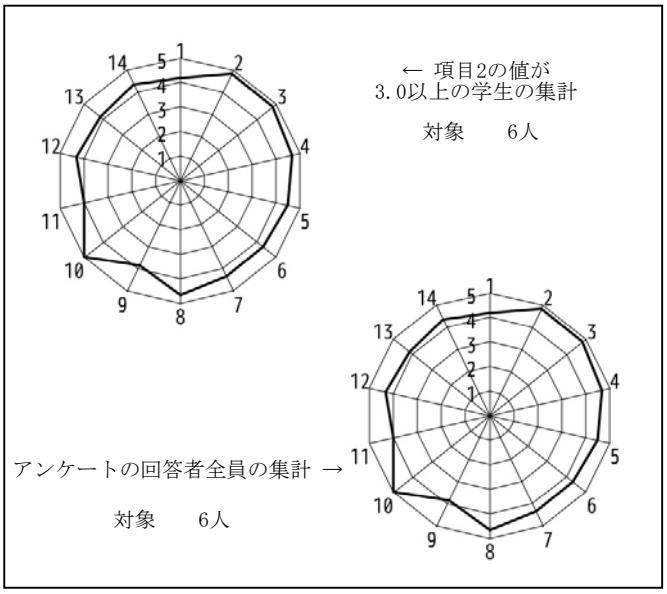
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について
　この授業の目標として、①論文やレポート作成に役立つ日本語ワープロの基礎の学習、②現実の経済データを利用して統計的データ分析の初歩的手法の学習、③データの加工手法について表計算ソフトを用いて学習、④プレゼンテーションの有用な手法としてのグラフの使用方法の学習、などがあった。当初予定していたトピックについて解説をすることができたため、対象テーマの範囲としては初期の目標を達成できたと理解している。
②総合的な自己点検・評価
　質問項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は4.57ポイントとなっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。特に、授業のペースが適度で、質問がしやすかったという声があった。また、項目2、項目3、項目7、項目8、項目10、項目12、項目13が4.5以上であり、、時間管理、声の通りやすさ、授業に臨む姿勢が重要であることがわかった。なお、4ポイントを切った項目はなかった。
③今後の抱負、方針
　受講生の声からは、作業状況を注意深く確認し、必要があればこちらから声をかけ、修正方法について助言することが重要であることが確認できた。また、授業の進行スピードが適度であったとの評価もあったので（その反面、早いという声もあった）、これも注意・意識して継続していきたいと考えている。

経済学部 経済学科
太田代　幸雄　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　外書講読(国際)A1
授業コード 40C06-001
教員名　太田代　幸雄
教員コード 100347
登録人数　23
回答数　6
回答率　26.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



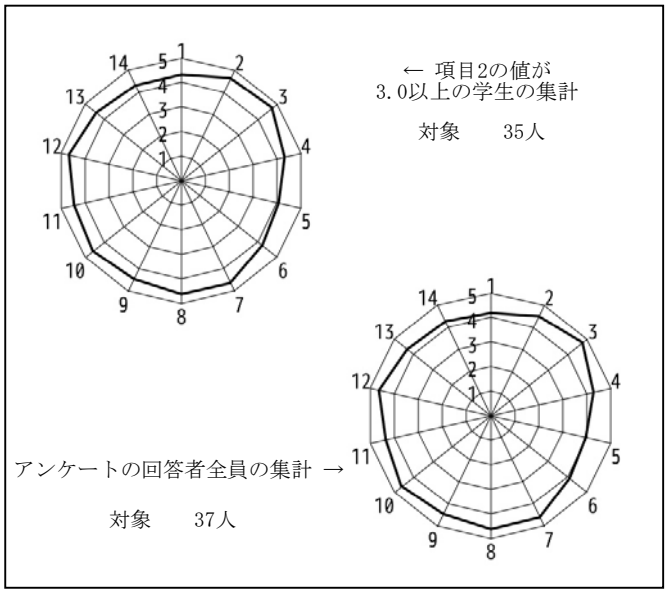
授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】
この科目は，経済学科2年次生以上向けの選択科目であり，国際経済学に関する英語文献を輪読し，卒業論文等で外国語文献を利用する際に必要な知識等を養うことを目的として開講されている。今回の講義においては，単なる英文読解ではなく輪読を通して国際経済学を理解してもらうという点に力点を置いて講義を行ったともりである。数値データで見ると，全設問の平均値4.43（設問3－設問14の平均値4.42）ということで，ほぼ学科科目の平均値となっており，課題も残るが，充実した感想を持ってもらえたのかと多少安堵している。
【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】
データとしては，回収率が全受講生中約26%と，ここ数年の傾向通りかなり低い値であったことが挙げられる。出席率の低下により受講生の理解度が確実に落ちていると感じているため，この点は改善して行かなくてはならないと考えている。また，各アンケート項目としては，設問9以降で，いずれも僅かながらであるが，学科平均値を下回る結果となった。それに対して設問8まではなかなか良い値であった訳であるが，これらの結果は受講生がこの科目にあまり興味関心を示していないことを示唆しているかもしれない。実際に，近年，学生が体系立った学問について理解したいのではなく，日常で用いる知識を求めていると感じることが多い。これらのような結果は，これまで無かったことであるので，もう1度講義の進行等について考え直したいと考えている。
【次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など】
今回の講義は，自由記述欄の回答が殆ど無いに等しい状況であった。また，上でも述べた通り，英文の解釈のみならず経済学の解説も行うため判り辛い点もあったかと思う。今後，さらに受講生の理解が進むよう，更なる修正を試みたいと考えている。

経済学部 経済学科
井上　知子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　理論経済学A
授業コード　40D15-001
教員名　井上　知子
教員コード　019166
登録人数　73
回答数　37
回答率　50.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



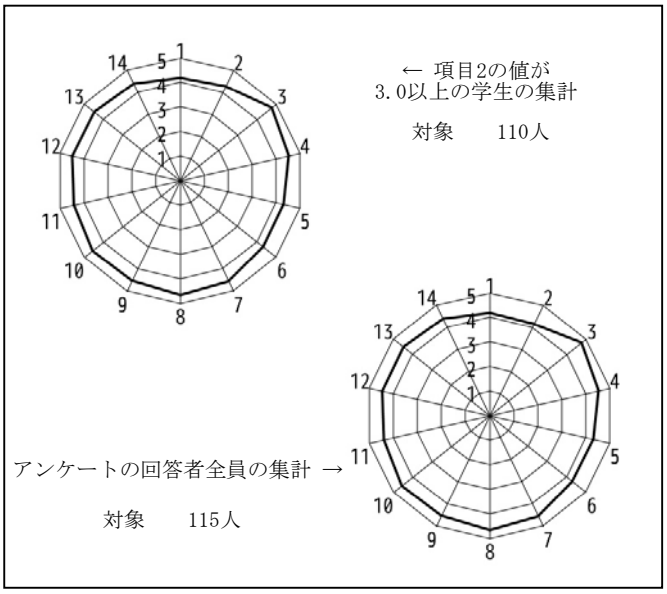
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①計画していた授業内容については、シラバス通りの進度で講義することができた。毎回の授業後にウェブクラスで実施する確認テストの結果で受講生の理解度・到達度を確認している。確認テストのうち証明問題については、よく書けている解答を本人の了承を得て次の回の問題解説の際に利用させてもらった。担当者が模範解答を板書するよりも、他の受講生の作成した解答を例示しながら解説をした方が受講生の理解が深まると考えたからである。確認テストでは証明問題を合計4問出題したのだが、受講生の証明の書き方がかなり改善されたように思う。
②自由記述欄に、スライドへの書き込みのスピードが速いという意見が複数あった。受講生に対して授業の動画撮影や常時カメラで撮影するのは止めてほしいとお願いをしており、ただし、難しい内容のスライドや重要箇所については、その都度写真撮影を許可する形にしていた。スライドを送る際には受講生に次に進んでよいかを尋ねていたが、あまり受講生の反応がなく、次に進んでよいと判断してしまったのだと思う。
③次クォーター以降、スライドの送りの際は今以上に次に進んでよいかを受講生に対して確認をしたいと思う。

経済学部 経済学科
吉根　勝美　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ解析B
授業コード 40D20-001
教員名　吉根　勝美
教員コード 018358
登録人数　322
回答数　115
回答率　35.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、経済学部１年次必修科目「データ処理入門」の内容のうち、データの可視化に特化し、統計調査データを適切に可視化できるようになることを目標として、量、時系列、内訳、分布（１変数、２変数以上）、２変数間の関連性の可視化手法を講義で説明したうえで、ＰＣによる演習を十分に行うことで、表計算ソフトによる各種グラフの作成手法を指導することができた。

設問１～１４について、２または１と回答した人数に着目すると、設問１の６名、設問２の５名を除けば、最大でも４名であった。設問１５については、ＰＣ演習に関することや教材がアーカイブされていることについての記述が多くみられた。一方、設問１６でスライドがわかりにくい、説明が速いという指摘を受けている。今後は、このような指摘を改善するような授業としたい。

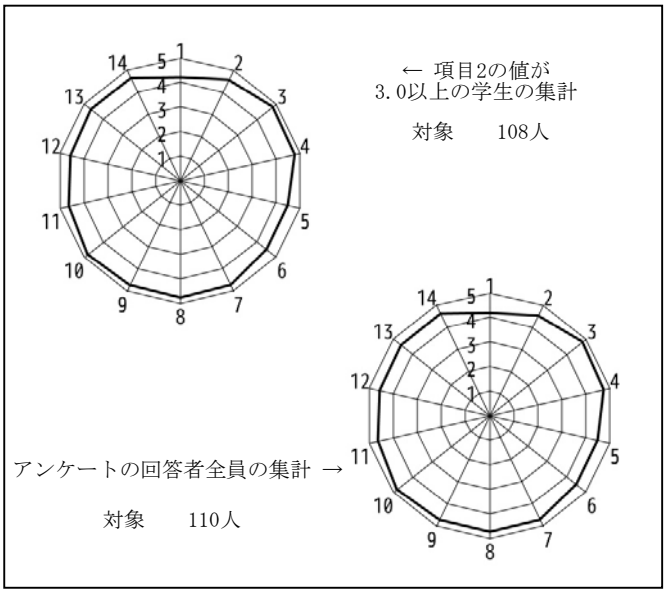
本授業では、当日のＰＣ演習で作成したファイルをＷｅｂＣｌａｓｓに提出することで出席確認に代えることにしたが、設問１６で、この確認方法に関する指摘もあった。出席回数を気にしている学生は一定数いるが、配信授業にはない授業の一回性を重視して、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを工夫したい。

なお、登録者３２２名のうち、定期試験レポート提出者２７０名を実質的な参加者数とみなしても、授業評価アンケートの回答者数は１１５名（４２．６%）にとどまった。今後とも、回収率向上のための何らかの方策は必要だろう。

経済学部 経済学科
西森　晃　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　財政学A
授業コード　40D26-001
教員名　西森　晃
教員コード　100624
登録人数　269
回答数　110
回答率　40.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

コロナ以降，欠席者のために講義スライドを資料DLサーバーにアップロードしているのだが，こうすると授業に出なくても良いと勘違いする学生が増えて出席率が低下する。今期も269名の受講者の半分程度しか出席していなかったように思う。このアンケートの回答数も110名ということで，概ね実感と一致している。授業に出て初めて理解できること，スライドだけではわからないことがあるので，出席率が下がると全体の平均値としての理解度も当然下がる。そういう意味では，今期の目標は当初想定したレベルに達したとは言えないかもしれない。欠席者対応の充実と出席率にはトレードオフの関係があり，このバランスの取り方を今後は考えていく必要がある。

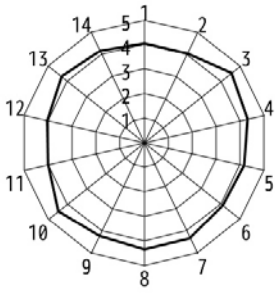
一方で，逆に言えば半分の学生は毎回きちんと授業に出ているということでもあり，アンケートを見る限り授業に対する彼らの満足度は高いようである。期末試験のできも二極化しており，おそらくは出席した学生とそうでない学生の間で差がついてしまっているのだろう。100名以上の学生が私の授業に満足し，また財政学という学問をある程度理解してくれたのであれば，それはそれで満足すべき結果なのかもしれない。

アンケートに関しては点数・自由記述欄のいずれも高い評価をしてもらっているように思う。特にコメントが多かったのが私語厳禁の方針と途中で挟む「今日の豆知識」で，これは例年の傾向でもあるし，今後も続けて行く予定である。

経済学部 経済学科
岸野　悦朗　先生

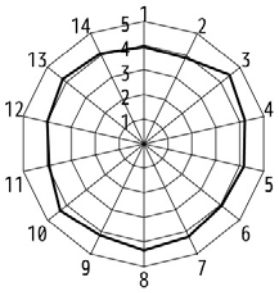
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　租税論A
授業コード　40D34-001
教員名　岸野　悦朗
教員コード　103035
登録人数　137
回答数　40
回答率　29.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　37人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　40人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業は、日本の租税制度全般、所得税、相続税といった個人を対象とした税の基本的な知識を身につけ、税に対する考え方を深め、思考能力を育成することを目標としている。

授業に際しては、初学者にも理解しやすいようにパワーポイントお資料を見直し、評価方法については定期試験のみとした。なお、授業の期間中復習のためWeb Classでの小テストを４回実施した。

小テストの結果は全体的に良好であったが、定期試験の結果は思ったほどでもなく、授業に参加している学生とそうでない学生に階差が見られた。全体的には、まずまずである程度到達していると評価している。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

全体的な評価は開講主体平均よりはやや低い状況であったが、個別評価において資料の作成や授業の冒頭に行っている新聞記事の紹介について評価する声もあり、誠実に授業に参画している学生にとってはまずまずの評価ではなかったかと考える。

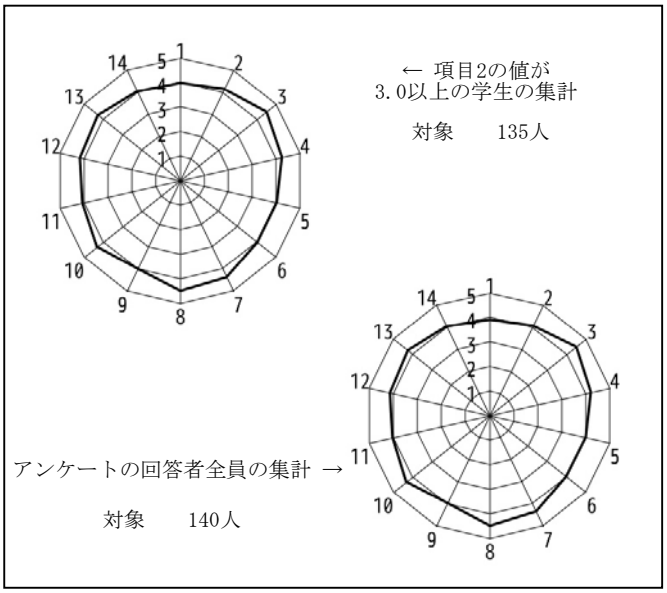
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

小テストについては、これまで自主学習として授業時間外に行っていたが、今後は授業時間内において何か課題を出して学生が授業に積極的に参画するよう工夫して参りたい。

経済学部 経済学科
神野　真敏　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会保障論A
授業コード　40D38-001
教員名　神野　真敏
教員コード　103880
登録人数　374
回答数　140
回答率　37.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、なぜ社会保険制度が必要なのか、そもそも社会保障とはどのような制度なのかなど、実際のデータを用いつつ理論的に社会保障の重要性・問題点などについて講義してきました。また、講義目的としては、「社会保障を経済学的視点から分析できるようになる」、「 社会保障の存在意義と問題点を理解し、自らの言葉で説明できるようになる」などを掲げています。

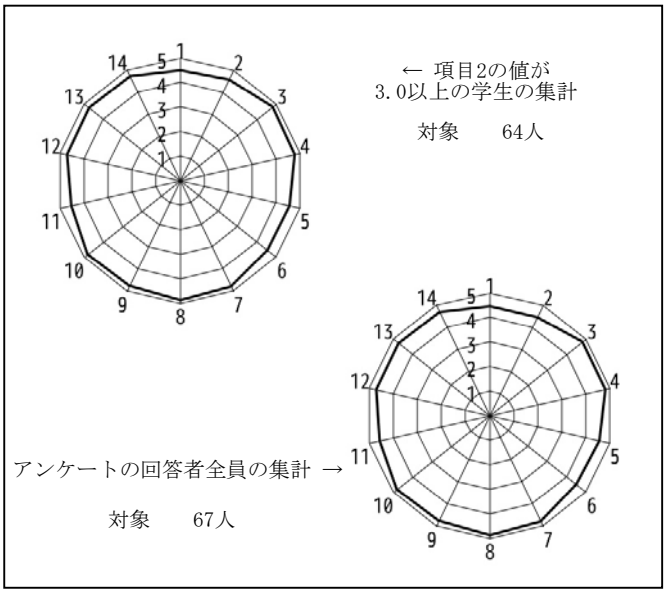
昨年度とほぼ同じ内容を講義したが、すべての項目で平均5%ほど、評価が下がりました。特に、設問14. 「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」に対しては、8%以上の低下となってしまいました。履修者数が増え、講義室が大きくなったこともあり、スライドの字が見にくいとの声を聴きました。このため、すぐに対応し、字を大きくするなどの対応をとりました。この点は、学生達も評価してくれているようでした。ただ、それでも、すべての項目で、学部平均を下回ったのは、とても残念でした。

社会保障は、学生にとっての人生設計を考える上で、とても重要と思い、細かな点（数式展開）まで講義で盛り込んでいます。この点が、履修者の増加した層には、あまり評価してもらえなかったのかもしれません。来年度は、数式展開もする旨、シラバスにも記入したいと思います。

経済学部 経済学科
稲垣　一之　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際金融論A
授業コード　40D48-001
教員名　稲垣　一之
教員コード　104110
登録人数　136
回答数　67
回答率　49.3%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
為替レートの変動要因や、それに関連した経済政策の効果を理解することを目標としており、これらのメカニズムを丁寧に説明することを心掛けました。また、学習した理論に基づいて現実のデータの動きを分析する機会を講義中に多数設けて、経済のプロとしての能力を向上させることができるように工夫しました。アンケート回答には「講義内容が分かりやすい」という趣旨の感想が大半を占めており、国際金融論の理論を上手く解説することが出来たと判断されます。加えて、「データを使った分析が良い」という感想も多数寄せられたため、講義中に解説した理論の使い方についても学生は好意的に学習することができたと考えられます。

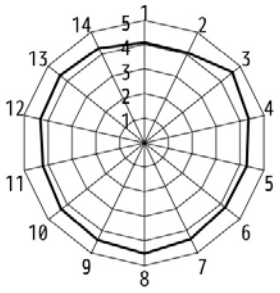
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
全体評価である設問13と14が開講主体別平均値を大きく上回るなど、数値データから判断する限り、講義に対して高い評価を得ることが出来ました。また、上述した通りアンケート回答も好意的であり、全体として特に問題なく講義を進めることが出来たと判断されます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今回の調子を次回以降も維持できるようにしたいと考えています。

経済学部 経済学科
丸山　雅章　先生

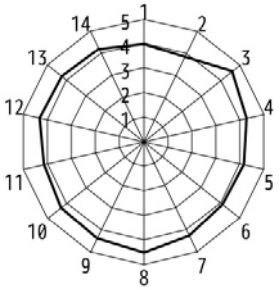
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本経済論A
授業コード 40D74-001
教員名　丸山　雅章
教員コード 104492
登録人数　245
回答数　93
回答率　38.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　85人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　93人

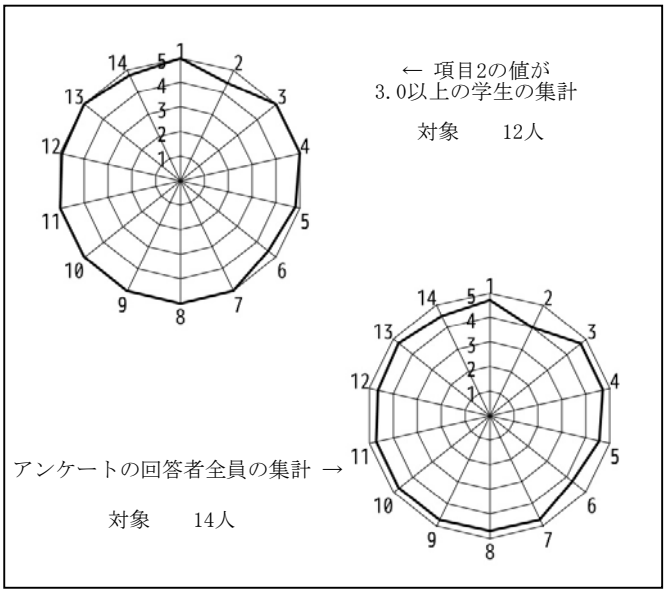
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
開講当初の目標（日本経済に関する主要なデータ、日本経済の現状、日本経済の課題について理解できるようになる。）の正確な到達度はわからないが、項目６、13の回答の平均値、期末試験の解答成績から見ると、7割程度の受講生において達成されているのではないかと推測される。
② 数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
過去の授業評価で「内容が少し難しく量も多め、スライドの文字量が多い、スライドを説明するだけで単調」等の回答があったので、説明する分量を減らす、スライドの文字量を減らす、スライドの重要な語句を事前に穴あきにしておき、授業の際にそれを穴埋めして提示する、関連するニュースや新聞記事を時々紹介する等の工夫を行った。
今回の自由記述を見ると、「スライドが見やすくわかりやすい」、「説明が丁寧」等が評価されている一方で、「スライドを読み上げるだけでつまらない」、「情報量が多すぎる、もう少し重点を絞ると理解しやすい」等の指摘があったので、さらに改善を行う余地はあると考えている。
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後の授業では、授業で説明する分量等をさらに見直すとともに、メリハリのある説明・スライドづくりをこころがけたい。また、関連するニュースや新聞記事の紹介を増やしたり、具体的事例・エピソード等スライドの記述内容以外の説明を充実させ、授業への関心・学習意欲を高める工夫を行っていきたい。

経済学部 経済学科
WOOD, Joseph　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション1
授業コード	42G03-001
教員名	WOOD, Joseph
教員コード	103072
登録人数	17
回答数	14
回答率	82.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



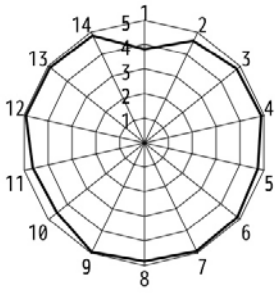
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am happy to learn that students liked the course. They wrote many positive things in the feedback sections and multiple students reported that they had many chances to use English in the class. That is one of the main goals for the course, so I feel like that goal was achieved. I am also happy to know students found my instruction easy to understand and given in a friendly matter. I will continue to provide students with as much time as possible in class to actively use English and to work with their partners. In quarters three and four we will spend more time working on improving listening skills in English, so I hope students will enjoy that and continue to enjoy the class overall. The students worked hard and took the class seriously each week. They learned not only ways to improve their speaking skills, but also developed their research and presentation skills in the language. I will continue to do the things that have worked well in the class and find ways to improve or change things that are not working as well. I look forward to continuing the course next quarter and finding even more ways to get the students to actively use English in the class.

経済学部 経済学科
西　一夫　先生

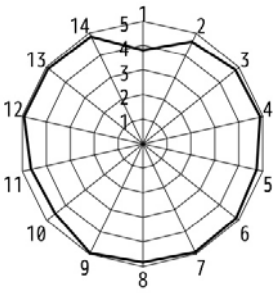
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ処理入門5
授業コード 40B03-005
教員名　西　一夫
教員コード 103655
登録人数　55
回答数　20
回答率　36.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　20人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　20人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。
『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』
この目標に対しては、授業評価項目番号５（この授業の到達目標を理解することができましたか。）と６（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）においてそれぞれ４．７５、４．８５の評価となっているため、概ね達成できたと思われる。
　これに対して、設問１０「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して適切な対処がされていましたか」の評価は４．５５、設問１１の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」の評価が４．６５と思わしくなかったため、自由記述の項目１６（授業の改善点）において「学生があまりにも騒がしかったので、もう少しだけ静かな雰囲気で授業を受けたかった」との指摘とも踏まえて、今後は操作方法が分からない学生に対する説明中も騒がしくならないよう指導しつつ、講義資料以外の類題の解法やEXCELを用いて可能な様々な統計分析方法や利用方法なども多く提供してゆきたい。

経済学部 経済学科
園田　正　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　農業経済論B
授業コード　40D53-001
教員名　園田　正
教員コード　102233
登録人数　25
回答数　4
回答率　16.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

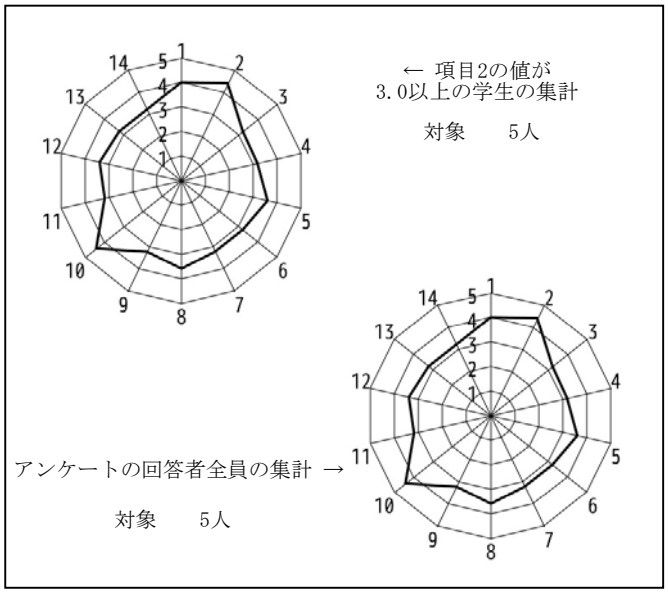
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は，①中国の農業を取り巻く問題の変遷を，経済発展と関連づけて理解できるようになる，②これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようになる，③中国と日本の農業問題の類似点，相違点について理解できるようになる，というものであった。①と②については，中国が経済発展を進める中で，農業生産体制を地主制，私有制，合作社・人民公社制，農家生産責任制と変遷させてきたこと，その中で農民がどのような生活水準にあったかを学び，試験の成績は例年よりやや低めであったが，相応の理解が得られたものと考える。③については，講義での質問などから，各学生が中国の農業に関心をもつようになり，日本の農業との比較もある程度できるようになったことがうかがえた。授業評価の回答（回答数が少ないため自分で平均を計算した結果）から，全体としてこの講義に満足したかどうかが4.50であることから，良好な評価が得られていると考えられる。学生の学習意欲を引き出し，質問や相談の機会が十分設けられていたかが3.25とやや低い評価となっているため，これらの点に今後注意する必要があるが，基本的には現在の講義方法を継続していけばよいと考える。

経済学部 経済学科
MOORE, Jonathan　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ビジネス英語A2
授業コード 40E04-002
教員名　MOORE, Jonathan
教員コード 101410
登録人数　28
回答数　5
回答率　17.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



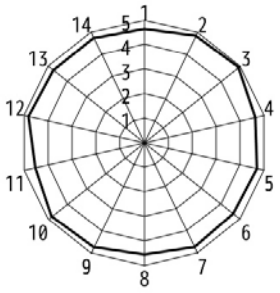
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I have examined the overall scoring of the set of questions and it was very positive. Students were engaged in the lessons. Most students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were uploaded for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques, and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

経済学部 経済学科
森川　信子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

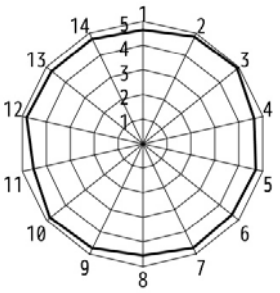
科目名　時事英語A2
授業コード　40E06-002
教員名　森川　信子
教員コード　100136
登録人数　23
回答数　11
回答率　47.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　11人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　11人

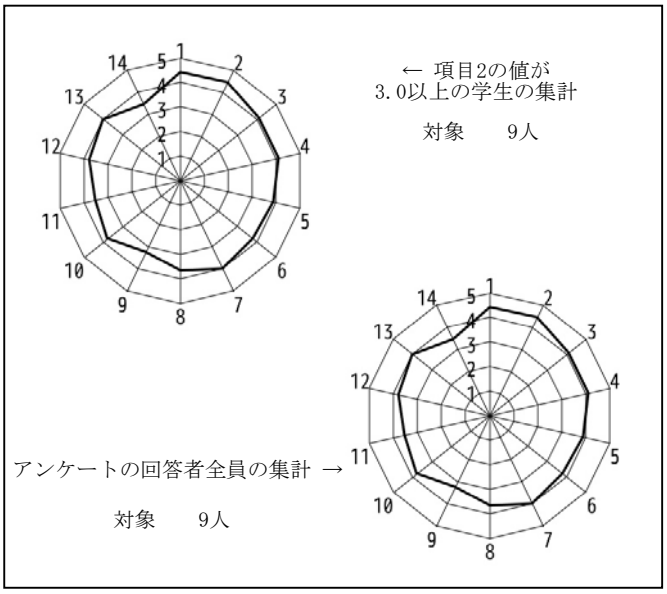
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目では、The New York Times、The Guardian、The Japan Timesなど国内外の新聞社が発行する英字新聞の記事および通信社等の記事を収録したテキストを使用し、社会、文化、環境、科学、歴史、政治、経済など多様なジャンルの、興味深い内容で比較的読みやすい記事のリーディングを通して、英文記事に慣れながら読解力と語彙力を養うことを目的とした授業を行いました。登録者は23名で毎回１回以上あたる規模であったため、良い学習環境であったと思います。学期末に書いてもらった感想では「予習形式のため授業中の内容が入ってきやすかった」「文をどこで区切るかが間違っていたのでそのあたりの勉強をしてテストに備える」「政治に関する英単語が多く読むのが難しかった。しかし、覚えてからもう一度読むとスムーズに内容を理解することができた」など、予習をしっかりして授業に臨んだことが伺えました。生成AIや機械翻訳、インターネット検索などの使用については、どのように使うべきかを考えて使用するよう初めに伝えるにとどめましたが、試験結果を見たところでは、機械に頼りすぎたせいで受講した意味がなかったなどという事態は起こっていなかったようで、良かったと思います。

経済学部 経済学科
NORTH Cameron　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　時事英語A4
授業コード　40E06-004
教員名　NORTH Cameron
教員コード　100400
登録人数　43
回答数　9
回答率　20.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the class are to inprove English communication skills by preparing before the class and participating in the class. In particular, students will increase their vocabulary and sentence speaking abilities.

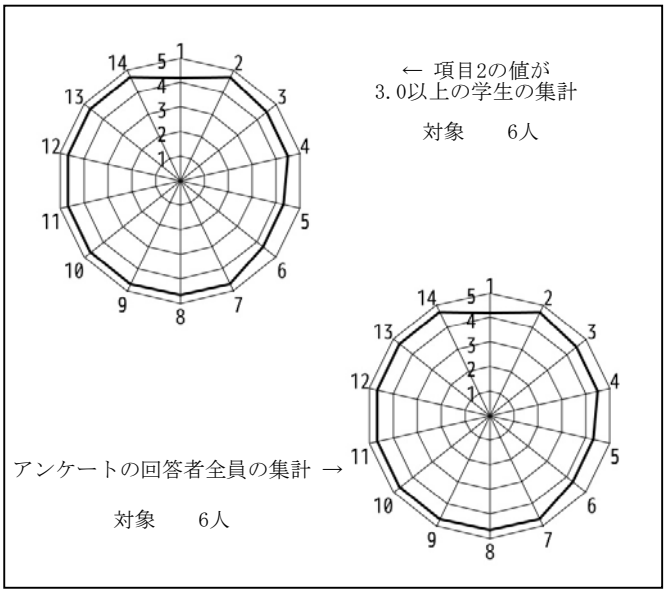
Overall, the class went quite well. Students had the opportunity to practice speaking English in pairs in class. They were able to study independently. And, they were able to improve their English. As usual, the more interest the students had in English, the harder they tried in this class. Unfortunately, there were few enquetes from the students. Also,, it is very good if students can make actual written comments about the class. This type of feedback is the best for the teacher.

In the future, I hope to encourage students to respond more to the enquete and to write actual comments in the enquete. In the class, I will always strive to create participation in the class and encourage students to study independently.

経済学部 経済学科
太田　幸治　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営学総論B
授業コード　40F02-001
教員名　太田　幸治
教員コード　103267
登録人数　14
回答数　6
回答率　42.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開校当初に予定していた内容よりも分量は少なかったが充実した講義内容になったと思う。
というのは、受講生の数が大変少なかったので、受講生の興味及び理解の程度に合わせながら講義を進めることができたのが良かった。

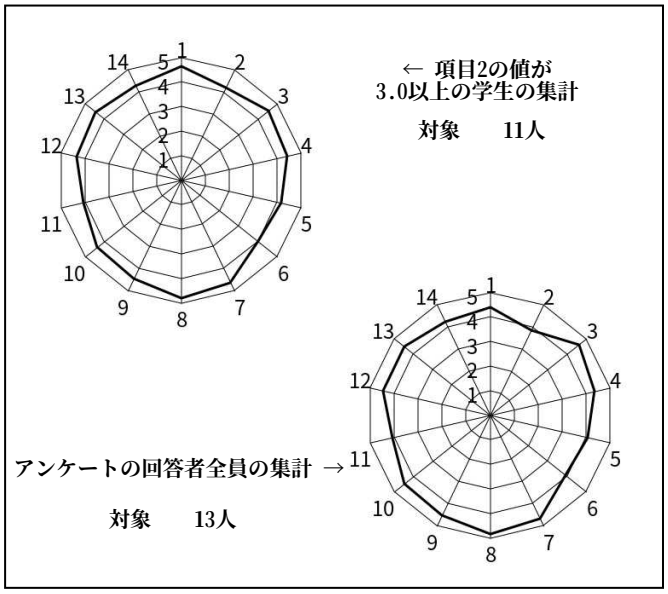
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
大変高いスコアをいただいた。講義は教員だけでつくるものではなく、学生も一緒に作るものである。ゆえにこのスコアは受講生諸君の講義への協力あっての達成であると解釈している。
自由記述欄に、雑談と講義内容の線引きをという意見があったが、これは実に難しい注文である。経営学やマーケティングは普段の暮らしに直結したものである。雑談を話しているうちに学問に関連することを思いつき、理論や概念の説明に連なることもあるのが、経営学やマーケティングの面白さである。また、教員の話は雑談と学問を別けて聞くものではない。授業にただの雑談はないと学生には心得てほしい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後も学生と楽しく講義を展開していきたいと考える。
学生諸君の授業の協力を求める。

経済学部 経済学科
神野　真敏　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学B3
授業コード	12C09-003
教員名	神野　真敏
教員コード	103880
登録人数	32
回答数	13
回答率	40.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

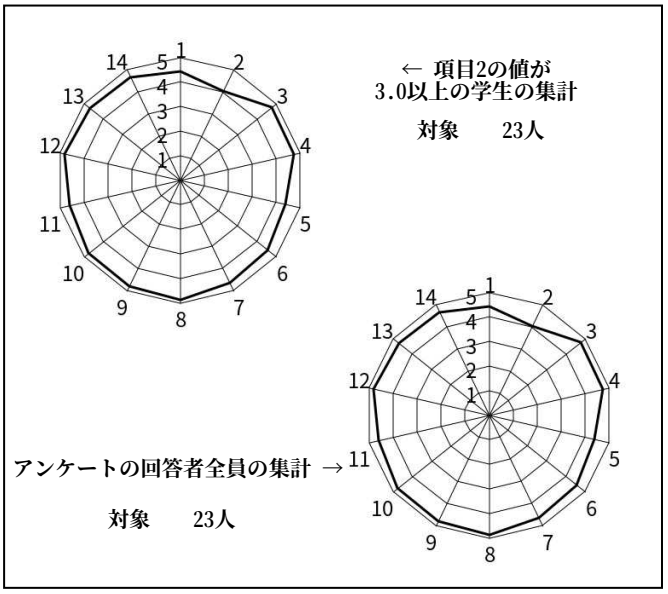
本講義は、経済学における多様な話題または特定の話題について基礎から深く学ぶことを目的とし、専門分野以外の人も対象とした内容で構成しました。そのため、計算問題の時間では、実際に計算問題を解く過程を丁寧に解説したつもりです。これらを心がけることで、マクロ経済学で用いられている基本的な経済用語の意味や統計指標の状態を理解できるようになり、そしてかつ、簡単なマクロモデルの計算が解けるようになってほしいと考えていました。

評価を見ますと、おおむね好評な評価を頂けているように思います。特に、自由記述では、「丁寧に」、「雰囲気が良い」、「途中式が詳しい」など、好意的な言葉が多く、講義における私の意図が伝わっていると感じられ、また同時に、設問7.「担当教員の授業に取り組む姿勢」においては、4.69と特に高い評価をもらえたので、とてもうれしく思いました。とはいえ、すべてにおいて平均を上回っているかというと、そうでもなく、更なる改善が必要であることは間違いなく、今後も改善に努めたいと思います。

経済学部 経済学科
宮崎　浩伸　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データサイエンス入門1
授業コード 13E12-001
教員名　宮崎　浩伸
教員コード 101892
登録人数 47
回答数 23
回答率 48.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

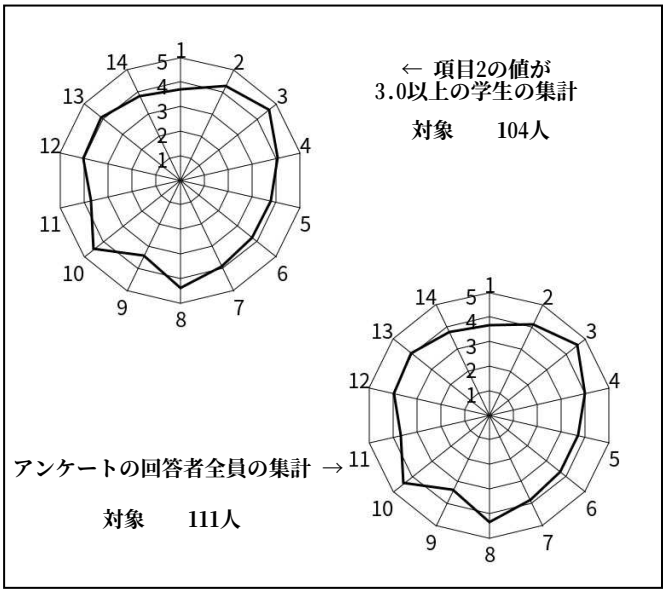
今回の授業評価結果は、設問1～14の平均値が4.63、設問3～14の平均値は4.70であった。この授業は新規開講の授業であり、不安も大きかったが、数値的にはまずまずの結果であったと思う。しかしながら、取り上げたい講義内容に対して授業時間が限られており、開講当初に設定していた目標に対する到達度は不十分にしか達成できず、たいへん残念に思う。特に、講義内容の説明が長くなってしまい、学生の実習時間が少なくなり、時間配分も適切に行えなかったように思う。授業準備の段階でも、説明を簡潔にわかりやすく行うことや、実習内容を十分に把握できなかった点もあり、これらは今後の課題である。

自由記述欄では、「質問がしやすかった。説明がわかりやすかった」、「どの回の講義も説明が丁寧だった」、「生徒の学習進度に合わせてゆっくり進めてくれたこと。」等の肯定的な意見があった一方で、厳しい意見もあり、この点は大いに反省し、今後改善していきたいと考えている。

経済学部 経済学科
赤星　立　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ミクロ経済学1
授業コード 40B01-001
教員名　赤星　立
教員コード 103866
登録人数 194
回答数　111
回答率　57.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　本講義で学生に理解を求めた具体的な目標は次の3点である．(1) 需要関数，供給関数を導出し，その特徴を理解する．（2）余剰の概念を用いて市場の効率性を理解する．（3）2財モデルにおいて，所得や価格の変化が財の消費量にどのような影響を与えるかを理解する．

　授業は，上記の目標達成のために忠実に遂行された．試験結果を見る限り，学生は十分な理解に達することができたと言える．ゆえに設定した目標は達成された．

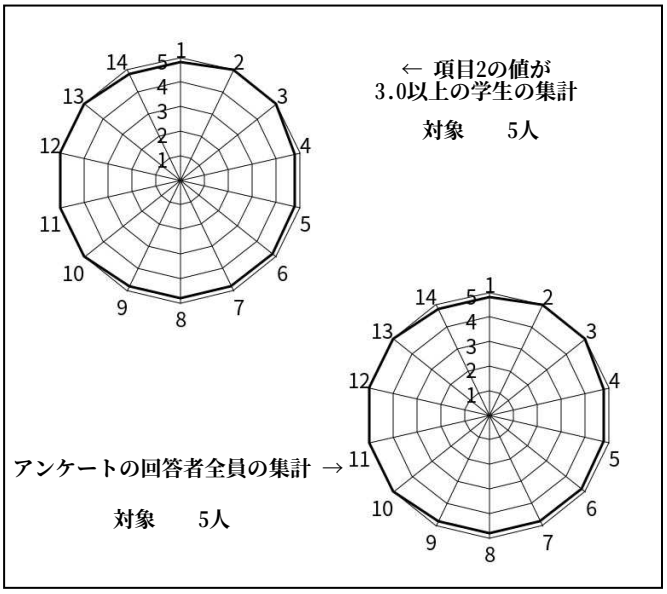
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　履修登録者数約190名のうち110名がアンケート回答に協力してくれている．講義時間中にアンケート解答時間を設けたこともあり，実際の講義出席者の多くが回答してくれたと思われる．評価についてはそれなりに満足している．2年前の同科目でのアンケート結果と大きな差はない．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　試験結果を見ると，過去には概ね双峰の得点分布であったものが，ピークが3つになった．高得点者数が急増したこともあるので，これを単に出来る人が増えたと解釈すべきか，成績格差が拡大していると解釈すべきか判断できない．次回以降注視する必要がある．

経済学部 経済学科
前林　紀孝　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　外書講読(政策)B
授業コード　40C05-001
教員名　前林　紀孝
教員コード　104801
登録人数　8
回答数　5
回答率　62.5%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

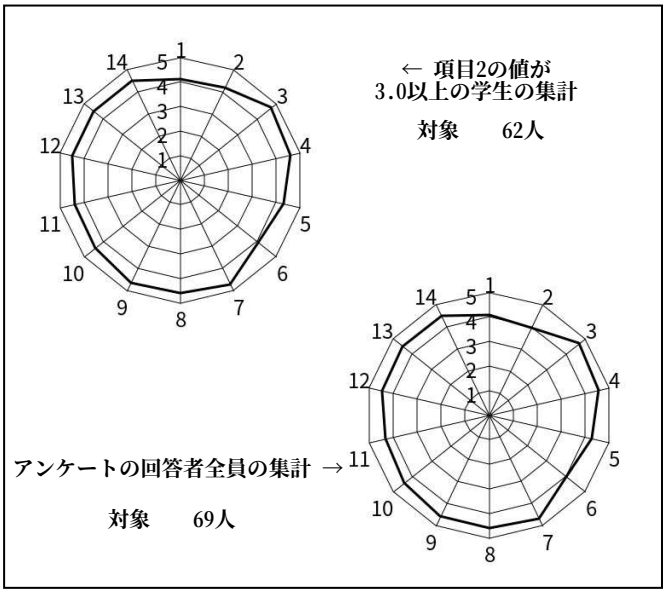
標準的なマクロ経済学の英語のテキストを輪読した。すべての理論のベースとなる古典派理論の実物経済と貨幣経済の理論とそれにかかわる実際の経済のコラムを丁寧に精読した。1年生の必修のマクロ経済学ではケインズ経済学を中心に教えるため、古典派からケインズ経済学がどう発展してきたかの理解が深まったように思う。

10人未満の少人数であり、学年も異なるまじめな学生さんが集まったおかげもあり、出席率も高く、意欲的に取り組めている様子であった。今やAIによる翻訳の精度が各段に上がり、洋書でも簡単に読めるようになったが、自分の英語力でコツコツと訳している２年生の学生さんに感化されたのか、上級生も頑張って訳すようになり結束力がクラスの中で生まれたことが非常に良かったと思う。繰り返し出てくるボキャブラリーや言い回し、表現の仕方も覚えてくる点も洋書を読む醍醐味として味わえたのではないかと考える。これらに加え、理論も丁寧に読むことができたので良かったという印象であった。関心が深まったのか受講者の学生さんはこの授業以外の経済成長論の授業にも出ているように見受けられた。

経済学部 経済学科
林　順子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本経済史入門
授業コード	40D03-001
教員名	林　順子
教員コード	101007
登録人数	267
回答数	69
回答率	25.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として「江戸時代以降の日本の経済的な現象とその背景や影響の理解」と「現在の日本経済の問題について、歴史的な観点から分析・検討・議論できる能力の獲得」をあげたが、授業評価では学部平均値を下回ることとなった。講義内容を現代の諸問題や制度に引きつけるよう心がけたがあまり伝わらなかったようである。DPが変更される来期は、初回ガイダンスでよりDPを意識する説明をしたい。

このほか学部平均値を大きく下回った質問項目に「予習、復習など含めて主体的な授業参加」がある。実際、講義に出席していない学生も多かったため、25年度は出席確認方法の変更を試行したい。

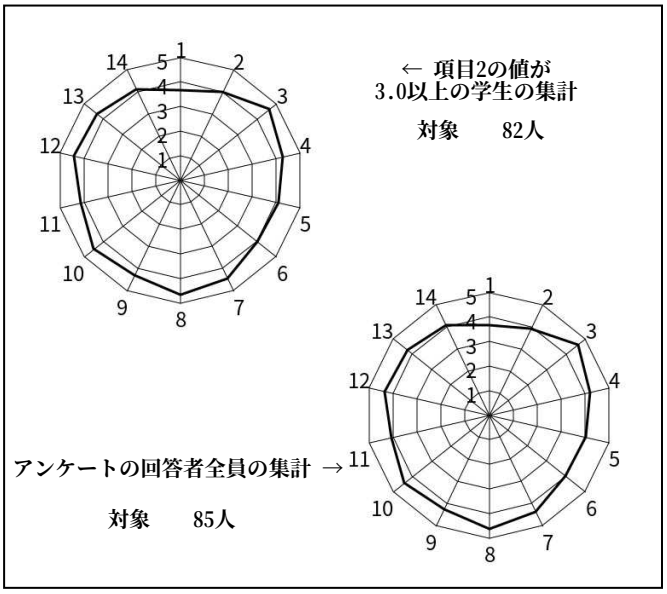
逆に学部平均値より評価が大きく高かったのは「教員の真剣さ」「学生の理解への配慮」であった。後者については、毎回の小さい復習問題や感想コメントで講義の理解度をはかり、対応を試みた。その感想コメントでは、進め方が「早い」「遅い」の意見が混在しており、講義では様子を観察しながら進めるように心がけた。今回の評価コメントに「無駄に空白の時間がある」とあったのはその観察時間を指しているのかもしれない。

毎回の復習問題は成績評価対象にしていないが、評価コメントでは成績への反映を望む声が聞かれた。確かに真面目な回答がある一方で、そうでない回答も多かったため、これを成績評価対象とすることも検討したい。

経済学部 経済学科
荒井　智行　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済思想入門
授業コード 40D04-001
教員名　荒井　智行
教員コード 104493
登録人数 134
回答数　85
回答率　63.4%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①については、概ね達成できた。受講生の反応に応じて、授業速度や内容を若干変えることにより、本来はもう少し内容を深めたかったところもあったが、シラバス記載通りの内容で講義を進めることができた。②については、受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習用の配布資料を可能な限り多く用いた。授業では、学生の前向きな参加を促した。アンケート結果から、学生同士が議論するようなアクティブ・ラーニング方式の授業の回があっても良いかもしれないと考えた。その点については、再検討したい。③については、受講生は、私語もひとつもなく、熱心に受講していた。

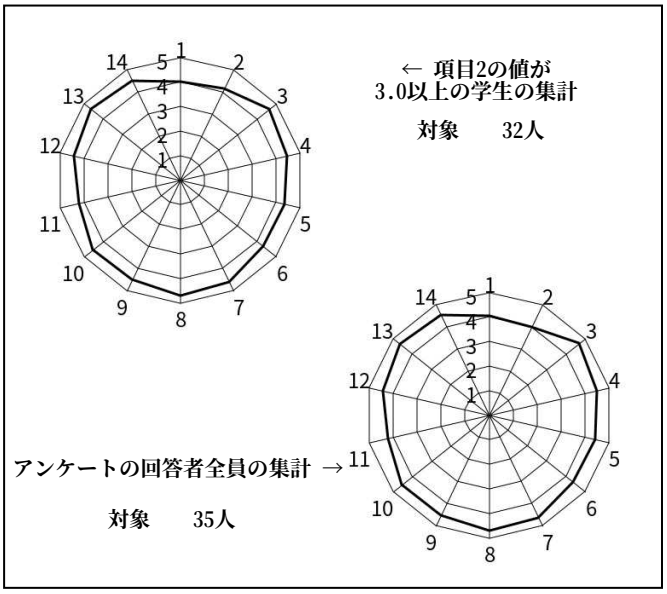
昨年度よりも、受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習用の配布資料を多用し、授業内容についても、昨年度よりも理解が深められるものにした。授業時間の残り10分程度、質問や相談の機会をつくる時間を増やすなど，工夫したい。

授業の改善については、毎年度、努めているが、この科目については、総合点としてあと0.3点程度ほしかった。リアクション・ペーパーを書く時間が短いという意見が複数あったので、その点は課題としたい。だが、今回の結果を見て、概ね好評だったと思う。今後もさらなる授業の改善に努めながら、本学のディプロマポリシーに応じた授業ができるよう、授業準備にも精進する所存である。

経済学部 経済学科
大鐘　雄太　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済統計入門3
授業コード	40D05-003
教員名	大鐘　雄太
教員コード	103641
登録人数	45
回答数	35
回答率	77.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、統計学の基礎知識の習得を目標とした。授業の到達目標を理解できているかどうかに関する設問（設問5）と、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうかに関する設問（設問6）は、それぞれ4.43と4.37とまずまずであり、定期試験の結果も良好であったため、目標は概ね到達できたと考えている。

②　数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

(1)設問3から設問14までの12項目のうち、最も低かったのが4.23であったこと、(2)全体の満足度に関する設問（設問14）が4.54であったこと、(3)設問3から設問14までの平均値が4.52であったこと、の3点から判断して、総合的にはよくできたと考えている。

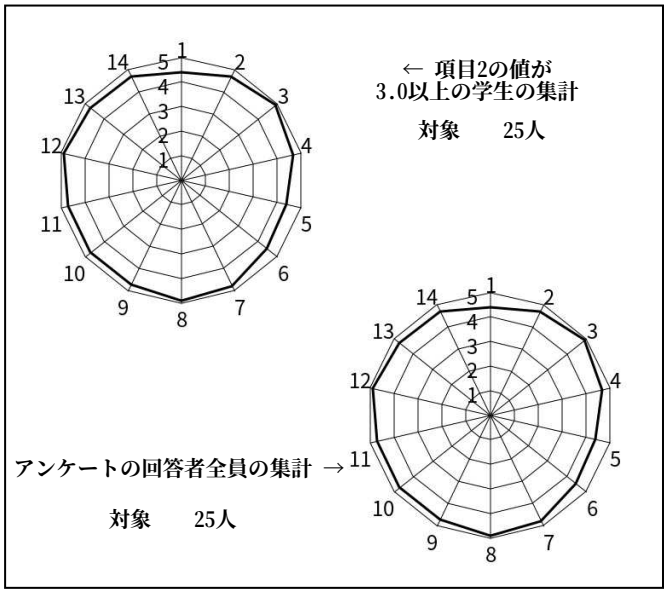
③　次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

上述のとおり、全体的には悪くなかったが、設問5、6、11、12は平均値が4.50未満であったため、次回開講時にはこれらを改善することにより、全体的な満足度のさらなる向上を図る予定である。

経済学部 経済学科
井上　知子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	理論経済学B
授業コード	40D16-001
教員名	井上　知子
教員コード	019166
登録人数	39
回答数	25
回答率	64.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

初回授業および内容の区切りごとに、受講生に対して、授業の到達目標と現在どこまで到達しているかについてレジュメを用いて示した。受講生がこの授業の到達目標を理解することができたか（質問4）が4.4、到達目標に向けて力がついてきているか（質問６）が4.48であり、受講生は到達目標を理解し、力がついてきていると実感できたようなので、目標はほぼ達成されたと思う。

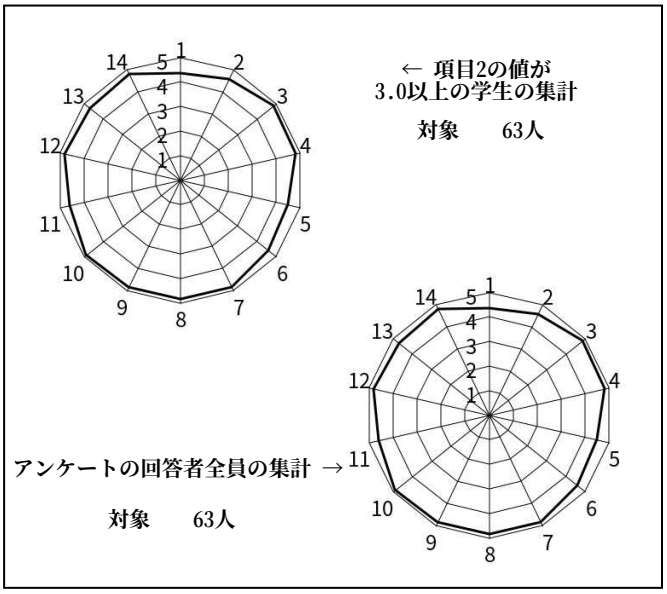
自由記述欄に書かれていた内容は、評価できる点に「わかりやすい」、「話し合いの時間、自分で考える時間が合った」、「進度が適切」、「授業中と授業後の確認問題で理解を深めることができた」などの記述があった。他方、改善すべき点には「１．板書の字を見やすくしてほしい」、「２．レジュメの空欄部を埋める際の進め方が早い」と書かれていた。この授業はプロジェクタとホワイトボードを切り替えながら授業を進めた。

１について、板書の文字は拡大できないために変数の添え字が見にくかったのではないかと思われる。カメラ撮影を許可することで、各自で板書を拡大して内容を確認するよう促す他に良い方法が見つからず、これを続けるしかないのかなと思っている。２について、空欄部を埋める際はプロジェクタに映しながらPC上にペンで書き込む形でおこなったが、確かにこの方法だと板書よりも早く書けてしまうために、受講者がそのように感じたのだと思う。今後気を付けたい。

経済学部 経済学科
西森　晃　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	財政学B
授業コード	40D27-001
教員名	西森　晃
教員コード	100624
登録人数	140
回答数	63
回答率	45.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均点が4.72，問14の平均点が4.79ということでかなり高い評価をしてもらったと感じている。多くの学生は熱心に話を聞いてくれたし，ディスカッションタイムには積極的に友達と意見交換している姿が見られ，おかげでとても気持ちよく講義ができた。受講してくれた学生の皆さんに感謝したい。

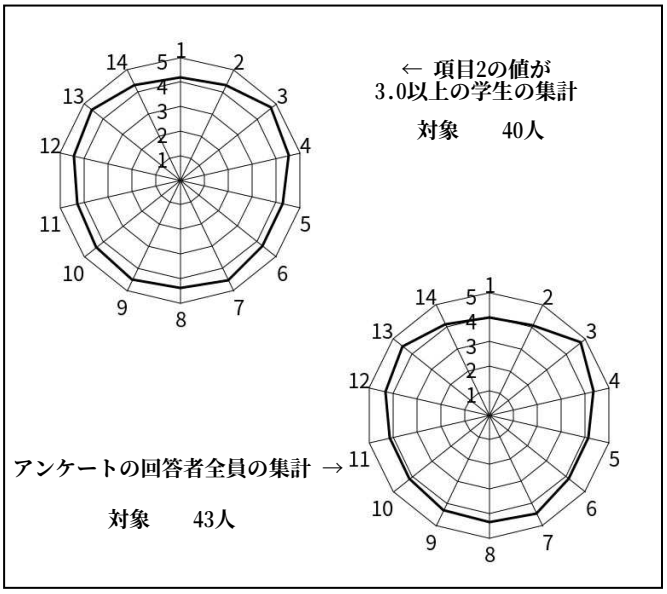
自由回答欄でも好意的な意見が多かった。いつもだと授業中に挟む豆知識のコーナーや雑談への言及が少なからずあったのだが，今回は純粋に講義内容を評価する声が多くてありがたい。

授業は予定通り進み，当初の目標を達成することはできたつもりでいる。ただ，それが学生の理解につながったかはやや心許ない。というのは，春学期にも書いたことだが，講義のハンドアウトを資料DLサーバーを通して配布すると，どうしても学生の出席率が低下するという問題が生じる。授業を補完し，学生の理解を深めるためにハンドアウトを配布しているのだが，一方でそれが出席率低下の原因となり，中途半端な理解の学生を増やしてしまっているという側面もある。このトレードオフを解決するための方法がすぐには思いつかないが，今後の課題として検討する必要はあるだろう。

経済学部 経済学科
岸野　悦朗　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　租税論B
授業コード　40D35-001
教員名　岸野　悦朗
教員コード　103035
登録人数　208
回答数　43
回答率　20.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



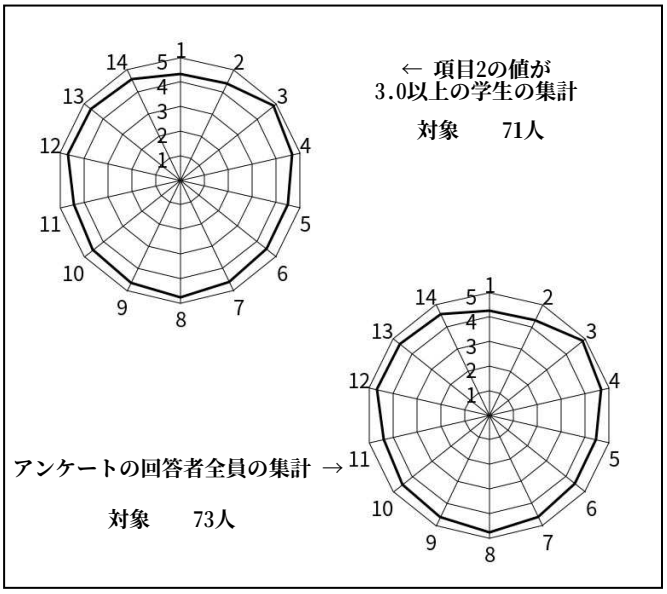
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　開講当初に設定していた目標と到達の程度について
この授業は、法人税法及び消費税法といった法人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について、今後社会人として各種職業活動を行う上において、有益な知識を身につけるとともに、税に関する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。
授業に当たっては、日頃から法人税法等になじみのない受講生に対して分かりやすく説明する観点から、パワーポイント資料を見直す等改善に努めた。また、これまでと同様に税に関する時事的な新聞記事を毎回授業時に照会することにより、より関心を引き起こすよう配慮した。さらに、授業期間中において授業内容について毎回授業内容を復習し、正しい知識を習得してもらうことを目的にweb classによる小テストを実施した。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
全体的な評価は、４以上であり、まずまずの評価であった。中でも、パワーポイントを使っての説明や冒頭での税に関する新聞記事の紹介について評価する声があった。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次年度以降、これまでの取組に加え、授業の進め方をより工夫する等充実した内容となるように取り組んでまいりたい。

経済学部 経済学科
寶多　康弘　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際経済学A
授業コード	40D44-001
教員名	寶多　康弘
教員コード	100751
登録人数	195
回答数	73
回答率	37.4%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



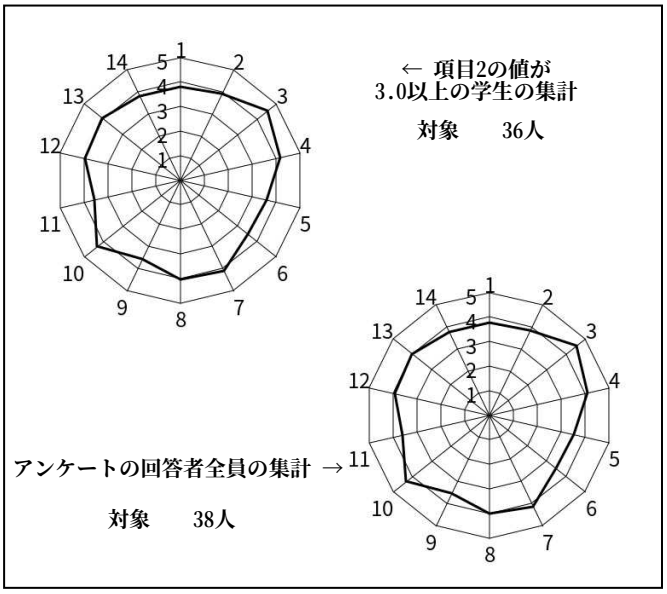
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回で2回目の授業評価を受けた講義で、国際経済学の学部専門科目である。国際経済学Aでは、実物経済の国際貿易に焦点を当てており、ミクロ経済学や国際経済入門の知識をある程度前提としているが、特に重要な点については復習をしっかりと行った。今年1月に出版したテキスト『グラフィック 国際経済学』新世社を使って、テキストに沿って講義を行った。左ページには文章、右ページには図表などがあり、とても見やすい配置となっており、世間で評価のとても高いテキスト・シリーズである。講義は、テキストに沿って作成されたパワーポイントを使っており、図や表を多用したとても分かりやすいスライドである。開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。テキスト自体、そしてスライドが大変分かりやすいと、自由記述でも高い評価を得るとともに、授業の内容と進行速度についても高い評価を得た。また、理解度の確認のためのレポートを課して提出を求め、提出締切後に授業中に解説を行った。全体的に高い評価を得たので、今回の授業方法を引き続き生かしていきたい。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

経済学部 経済学科
林　尚志　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	開発経済学A
授業コード	40D46-001
教員名	林　尚志
教員コード	017897
登録人数	80
回答数	38
回答率	47.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、発展途上地域の貧困、ならびに貧富の格差に関わる諸問題を概観したのち、“マイクロ・ファイナンス”や“条件付き所得移転”を中心に、近年の制度的イノベーションの動向を紹介しながら、途上国における“貧困削減に向けた取り組み”に関する理解や関心を深めることを目標とした。また、授業中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布した上で、授業では“板書レジメ”を作成しながら、これらの疑問に対する解答を探るという形で授業を進めた。

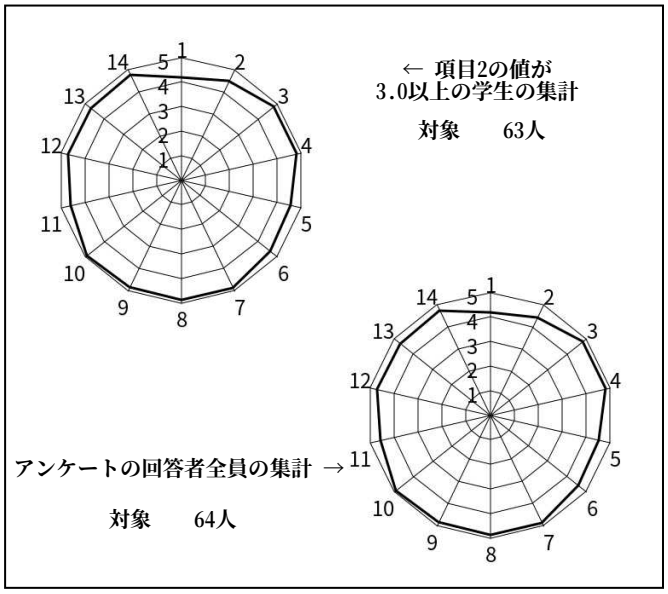
この目標の到達度については、１）テーマごとにレジメが設けられ、復習の説明もあって知識が身につきやすかった，２）グラフや資料、実験や検証の事例があり、詳しく学ぶことができた等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

一方、今後の課題としては、設問（９）［学生の理解度に配慮し、資料等を使って適切に授業を進めたか］に関し、約３割が評価５であった一方、約２割が評価１と評価２であった。また、「板書する時、もう少し時間がほしかった」「板書の字が見えづらかった」等のコメントも見られたため、「内容を深めつつ、後者の学生の割合を低める」ことができるよう、板書内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問（１１）に関連し、今後は「授業中の問いかけ」や「関連文献や資料の紹介」等で工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心掛けたい。

経済学部 経済学科
稲垣　一之　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際金融論B
授業コード	40D49-001
教員名	稲垣　一之
教員コード	104110
登録人数	121
回答数	64
回答率	52.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
自由記述回答より、「講義中の説明が分かりやすい」、「理論を裏付けるデータを紹介する」といった点が高く評価されました。これより、「経済学の理論と実証を駆使して、国内外の経済状況を論理的に理解できるようになる」という当初の目的を十分に達成できたと考えられます。また、授業の妨害行為に対する対応も受講生から高く評価されました。

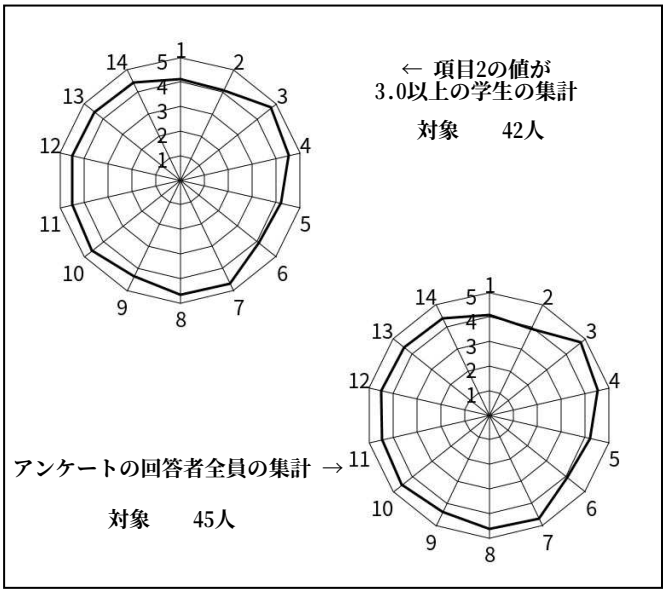
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
アンケート項目の数値は、全体的に学部平均値を大きく上回っていました。設問13と設問14も高い数値となっており、問題なく講義を実施することができたと判断されます。また、今回の講義内容に対して改善を要望する声は、全くありませんでした。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上述した理由で、今回の講義は問題なく実施できたと判断されます。この調子を次回以降も維持できるように努めてまいります。

経済学部 経済学科
蔡　大鵬　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際経済政策論A
授業コード　40D50-001
教員名　蔡　大鵬
教員コード　103260
登録人数　121
回答数　45
回答率　37.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

［１］授業目標および達成度

本講義は、（１）モノやサービスの国境を越えた取引に関する様々な問題を経済学の観点から理解できるようになること、そして（２）海外直接投資、関税、貿易摩擦、FTA、貿易と環境など国際経済に関わる多様な問題への関心を深めることを目標としている。講義を通じて、これらの目標はほぼ達成できたと考えられる。

［２］点検・評価

授業評価の結果、設問3から14の平均値は「4.46」であり、学部平均を上回っており、ある程度の満足を得られていると理解している。

［３］次学期以後に向けての改善点等

今後、特に以下の2点について対策を講じていきたい。

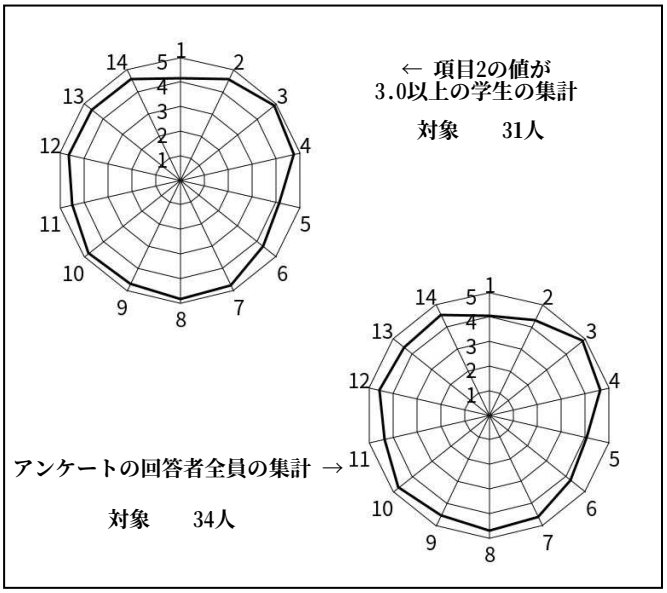
まず1点目は、「レジュメが少し分かりづらい」や「分からない点を復習しにくい」とのコメントへの対応である。取り上げるトピックが多いため、十分な説明が行き届いていない箇所があるようである。今後はシラバスの設計やレジュメの作成にこの点を考慮しつつ、学生の理解を確認しながら講義を進めることで、より深い理解を促せるよう工夫していきたいと考える。

次に、板書が分かりづらいという指摘への対応である。今後は字を大きくすると共に、色分けなどで板書の内容を見やすく工夫し、さらに写す時間を十分に確保することで、学生が内容を写し終える前に消してしまったり、上下のボードが重なって見えにくくなったりすることがないよう改善したいと考える。

経済学部 経済学科
川本　真哉　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数量経済史A
授業コード	40D76-001
教員名	川本　真哉
教員コード	103865
登録人数	82
回答数	34
回答率	41.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について
　この授業では、近代日本における企業システムの発展について、企業とそれを取り巻くステークホルダーの観点から、体系的に理解することを目的とした。具体的には、資本主義の発展に対し、株主、銀行、従業員、経営者、財閥、M&A（企業の合併と買収）などが果たした役割や限界について検討した。当初予定していたトピックについて解説をすることができたため、対象テーマの範囲としては初期の目標を達成できたと理解している。
②総合的な自己点検・評価
　質問項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は4.53ポイントとなっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。特に、授業のペース、配布資料について適度との声があった。また、項目3、項目4、項目7、項目8等が4.5を超えており、時間管理、声の通りやすさ、授業に臨む姿勢が重要であることがわかった。その反面、項目1と2は4ポイント程度であり、この点については改善の必要があることがアンケートから読み取れた。
③今後の抱負、方針
　上記のことから、今後の課題として、授業参加を促すような事前情報（シラバス）の提供、授業の理解をより一層深めるような仕組み作りが必要に感じられた。前者については、授業で扱うテーマの有用性の強調、後者については、定期的な理解度テストの実施などを実施することにより、改善を心がけたいと考えている。

経済学部 経済学科
WOOD, Joseph 先生

2024年度Q３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語IIIオーラル・コミュニケーション1
授業コード	42G05-001
教員名	WOOD, Joseph
教員コード	103072
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

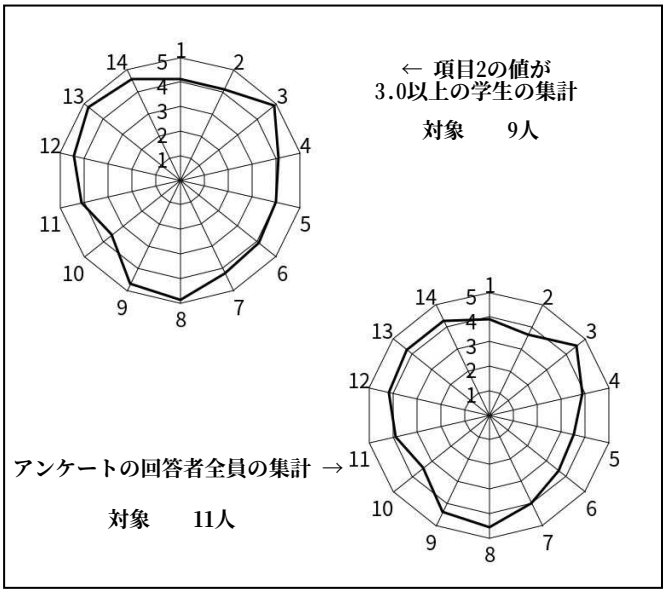
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am happy to learn that students in my oral communication for business course are happy with the class and the content. I am also happy that they enjoy the course and the way I teach it. Students commented that they believe they have a lot of chances to practice speaking business English which is great because getting students to speak as much as possible is one of the main goals for the course. I will continue to find more ways to make time for students to focus on speaking English with their partners in class and help them to learn business related vocabulary they can use. From quarter three there are only five students in the class which has made it difficult at times. In normal classes students often change partners and talk to several of their classmates each class. With only five students in quarter 3, it was not possible to talk to many other classmates. Even though the class was small, I feel it was a good class and students worked hard in it. I will continue to do the things that worked well in quarter three during quarter four. I hope students will continue to enjoy my course.

経済学部 経済学科
塚本　高浩　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済統計入門1
授業コード　40D05-001
教員名　塚本　高浩
教員コード　104478
登録人数　41
回答数　11
回答率　26.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



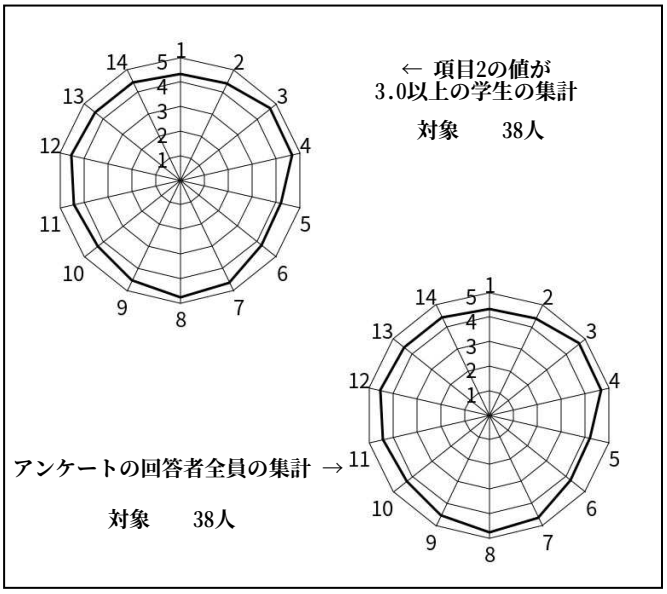
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生自身の自己評価は高くないものの，開講当初設定していた授業到達目標はおおよその履修者が達成できている．また，他のアンケート項目を見ても大きな問題は生じてないと考えられる．自由記述欄を見ると，他学生の私語が気になる方が複数名要ることが分かった．今後は学修に望ましい受講環境の構築に力を入れていきたい．

経済学部 経済学科
西尾　圭一郎　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アメリカ経済論B
授業コード　40D57-001
教員名　西尾　圭一郎
教員コード　104651
登録人数　115
回答数　38
回答率　33.0%
休講回数　4 回
補講回数　2 回



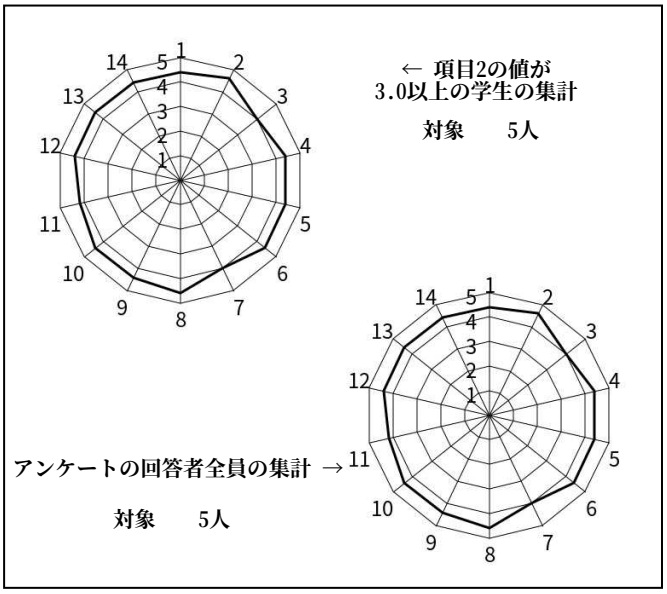
授業評価結果を踏まえた点検・評価

基本的な到達目標は達成したと思う。ただ、やむを得ない休講が2回あり、補講とオンデマンド形式で対応したため、若干イレギュラーになってしまった。休講自体はやむを得ないが、改善できれば良いと思う。学生から授業を聞くだけが大変、参加型の何かが欲しいというコメントがあった。授業を聞くだけではない形として、映像教材の利用を行っていて、その評判は良さそうなので、短めの映像をもう少し増やし、メリハリをつけてみようと思う。
「学生目線で考えてくれていてよかった」というようなコメントがあったので、このまま学生の視点を意識し続けたいと思う。

経済学部 経済学科
MOORE, Jonathan 先生

2024年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B1
授業コード 40E05-001
教員名 MOORE, Jonathan
教員コード 101410
登録人数 32
回答数 5
回答率 15.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



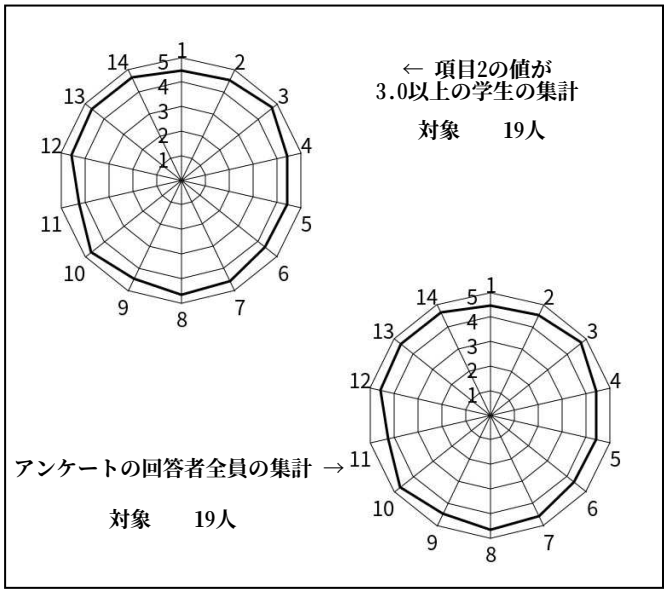
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall scoring of the set of questions has been examined and it was very positive. Students were engaged in the lessons. Most students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were uploaded for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques, and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

経済学部 経済学科
森川　信子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語B1
授業コード	40E07-001
教員名	森川　信子
教員コード	100136
登録人数	28
回答数	19
回答率	67.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

時事英語Ｂ１では、国内および海外のニュースから身近で親しみやすいトピックを扱った記事の購読を中心に、関連する語彙や文法のエクササイズをしたり、英字新聞の構成と表現法を学んだりしました。アンケートの結果数値は平均4.5超あり、全体としては大きな問題はなかったと言ってもよいのではないかと受け止めています。ただ、項目１６の自由記述回答で「授業のやり方を変えるべき　効率が悪いと思います」という指摘があり、集計値の表をよく見てみると、項目４に「１」という回答が１名ありました。もしかしたら板書の仕方や音声の再生に時間がかかっていた点についての指摘かもしれないと推察します。たしかに教室の視聴覚機器でなくCDプレーヤーを使用する方が待機時間が少なくてすむので、来学期は以前のようにCDプレーヤーに戻してやってみようかと思います。あるいは授業のやり方そのものについての指摘である可能性もあります。授業の構成や進行速度については、難易度に合わせた緩急をもっとつけるべきなのかと考えましたが、そのほかは現時点では特に思い当たることはありませんが、来学期は授業を行いながら意識して再点検していこうと思います。

経済学部 経済学科
NORTH Cameron 先生

2024年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語B3
授業コード	40E07-003
教員名	NORTH Cameron
教員コード	100400
登録人数	7
回答数	1
回答率	14.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The basic goals of the class are for the students to improve their English communication skills. Additionally. the students should improve their undeerstanding of subject studied. Overall, the goals of the class were achieved.

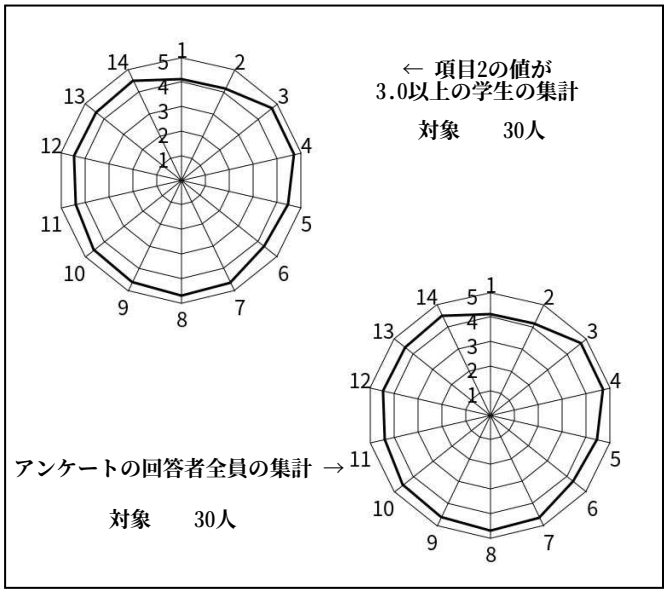
It seems to me that the class was a success. Students participated eagerly. In addition, almost all students did their homework. It can also be said that the students seemed to enjoy their time inside the classroom.

In the future, it is always important to try to achieve a successful classroom. To help in achieving such aspirations, it is important to always be prepared, listen carefully to the students and try to help the students reach their own personal goals,

経済学部 経済学科
照井　遥瑛　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民法A
授業コード	40F04-001
教員名	照井　遥瑛
教員コード	104799
登録人数	154
回答数	30
回答率	19.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



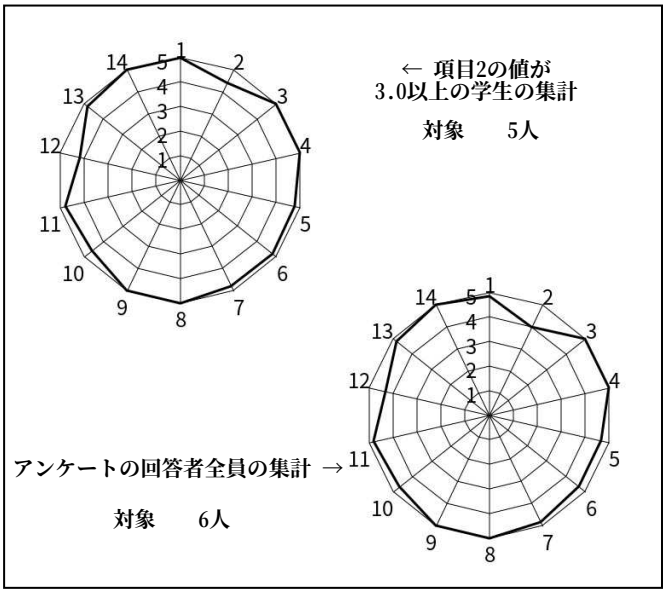
授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義では土地や建物といった不動産の取引を念頭に置く場面が多く、履修者にとってはなかなか取っつきにくい内容であったと思う。そのため、「この条文・制度はなぜ存在するのか」、「どのような場面で用いられるのか」、「この条文・制度が用いられることでどのような結果が生まれるのか」を中心に具体例をできるだけ多く使用して履修者の理解を促すよう努めた。各設問項目の数値が概ね高いことから、授業内容全般に関しては相当の評価が得られたと考えている。民法は市民のための学問であり、知らないと損をする制度も多いため、興味関心をより強く抱いていただけるような授業を展開していけるよう、授業運営に努めていきたい。授業の時間配分を誤り、早口で説明してしまったり、板書が見えにくくなってしまった場面が何度かあったことは反省している。この点も次年度以降十分に注意して授業構成を再検討したい。なお、1－2限と連続のコマで、2限に来てから1限の分の小テストも提出している学生が一定数いたため、次年度以降はこのような学生に対する対応策を講じたい。

経済学部 経済学科
村上　康司　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商法A
授業コード	40F06-001
教員名	村上　康司
教員コード	103658
登録人数	16
回答数	6
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス記載通りの内容で、すべての授業を終了し、一定のスコアを得たことからも、ある程度目的は果たされたとみている。また、本年度の授業アンケート結果について、前提として回答者数が6名と少ないため、スコアがの変動が大きいことを踏まえたうえで、得られた各項目についてのスコアは軒並み好意的であったと思われる。予習・復習に関する設問2のスコアが低いが、これは、各授業後の復習と次回への予習を兼ねた【フィードバック】を設定しているものの、WebClassでの提出を任意としていることとも関係があるかもしれない。フィードバックの取り組み内容・提出状況が良い学生ほど、期末試験でも得点が高い傾向にあるため、今後は、より工夫の余地があろう。自由記述については、法学部以外の学生でも法律を理解できるような内容となっていたと評価するものがある。これと対比的に、同一回答者より消極的言及として、レジュメが多いというものがある。ただし、基本的に1コマの授業につきA3の両面印刷1枚以内のレジュメであり、多すぎるとは考えていない。なるべく余分なことは記載しないようにして、全体的な文字数もそこまで多くはないが、テキスト指定をしていない以上、最低限の法律学についての情報も触れておきたいところがあるので、内容について適宜手を加えていくことは当然として、これ以上のスリム化は難しい部分があるとも思っている。

経済学部 経済学科
岸　智子　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学B1
授業コード　12C09-001
教員名　岸　智子
教員コード　100346
登録人数　12
回答数　4
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

さまざまな学部・学年の学生から成っているこの授業、運営は非常に難しく、どのようにしたらよいのかわからないのが実情です。
教科書を変えましたが、難しかったようで、ふだんの出席率は30%程度でした。ほかの先生はどうしているのか知りたいです。
数値データの集計がないので、答えにくいのですが、設問10の評価を2にしている学生がいて、「私語はいっさい無く、スマホを見る学生は一人ももいない授業なのに何故か？」考え続けていたのですが、やっとわかりました。遅刻を注意しなかったのがいけなかったのでしょう。次回は遅刻を減点対象にするとアナウンスするつもりでおります。

経済学部 経済学科
阪本　俊生　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　プライバシーと倫理
授業コード 13C03-001
教員名　阪本　俊生
教員コード 017020
登録人数　5
回答数　4
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

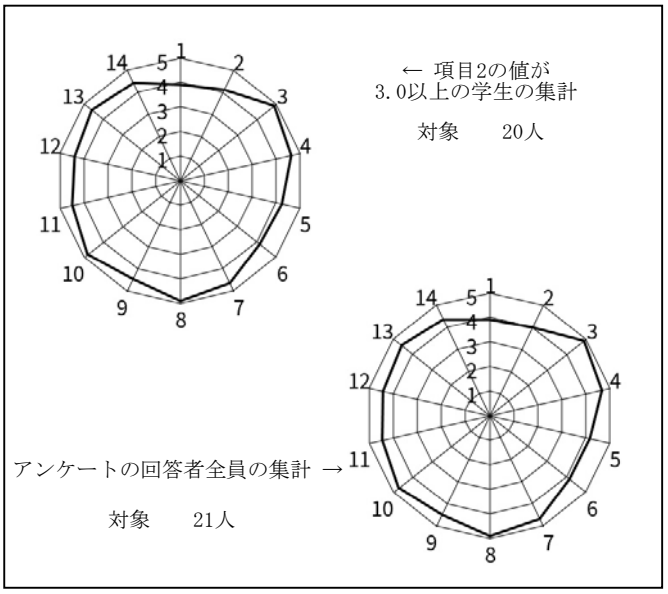
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、受講者数がきわめて少なかったため、集計されなかった。
前年度に比べて受講生は激減した。ただし、前回の授業評価アンケートの結果は基本的には4以上であり、特段、授業内容に問題がなかったように思われる。ただし、今年度から文部科学省および教務の指示に従い、学生の授業外の学習時間を大幅に増加させるかたちでシラバスを改定した。すなわち、反転授業および毎回レポートを課し、必ず授業内で用いた文献を読み、その短評を書かせるかたちの授業形態に改めたことの影響であると考えられる。同じ形態と同じ傾向は、私が担当する他の講義科目でも見られるため、これの影響によると思われるが、文科省の課すような授業外学習時間を考えると、これは妥当な改定であったと考えている。受講者数の少なさから、当初予定した通り授業形態を実現はできなかったが、学生たちには事前に資料を読ませ、また学生たちとの会話形態や授業に適した映像を用いるなどしたアクティブラーニングをおこなった。個別の授業評価を見ても4もしくは5とまずまずであった。

経済学部 経済学科
梅垣　宏嗣　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済の諸相4
授業コード 13C06-004
教員名　梅垣　宏嗣
教員コード 102397
登録人数　39
回答数　21
回答率　53.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

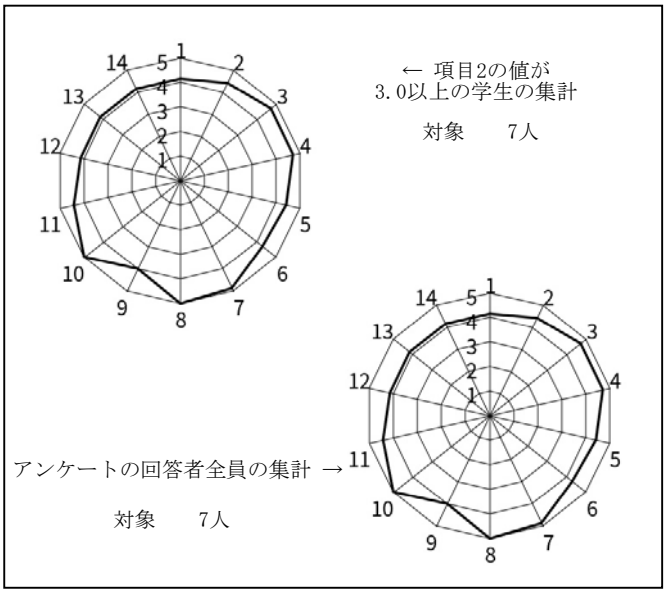
本科目において、当初に設定していた目標は、社会福祉の発展の歴史を、国家・営利組織・非営利組織といった各社会福祉形成主体による具体的な取り組みという観点から理解し、説明できるようになるというものである。そして、この目標について、定期試験の結果から、ある程度は達成したものと考えられる。ただし、定期試験の難易度は例年通りであるにもかかわらず、A以上の成績評価を得た学生が例年と比べて極めて少ないことから、全体的に、あくまで最低限の内容理解に留まっているという点が課題である。また、学生からの評価については、おおむね肯定的であったが、そもそも回答率が低く、授業に毎回出席する学生からの評価にほぼ限られている点に留意しなければならない。

授業内では、その回の授業内容についての確認テストを出題し、次の回に、提出された答案から1～2枚をピックアップし、それをもとに解説した。この確認テストの意義については、初回の授業で説明したが、成績評価の対象外としたこともあり、提出率は極めて低かった。他方で、今年度の他の担当科目（西洋経済史入門、西洋経済史A、西洋経済史B）においては、確認テストを成績評価の対象としたため、提出率は高く、そのことによる学習効果も感じられた。ただし、確認テストを成績評価の対象としたことで、定期試験の答案を含め、採点に時間を要する論述形式の答案の量が膨大なものとなり（（履修者339名＋170名＋68名）×（確認テスト14回＋定期試験1回）＝答案8,655枚）、他の業務に支障をきたしたため、来年度は、すべての担当科目で確認テストを成績評価の対象外とする予定である。毎回の授業の中で、確認テストの意義を、定期試験との関係も踏まえて丁寧に説明し、成績評価の対象とせずとも、確認テストに真剣に取り組んでもらえるよう促したい。

経済学部 経済学科
太田代　幸雄　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　外書講読(国際)B
授業コード 40C07-001
教員名　太田代　幸雄
教員コード 100347
登録人数　19
回答数　7
回答率　36.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



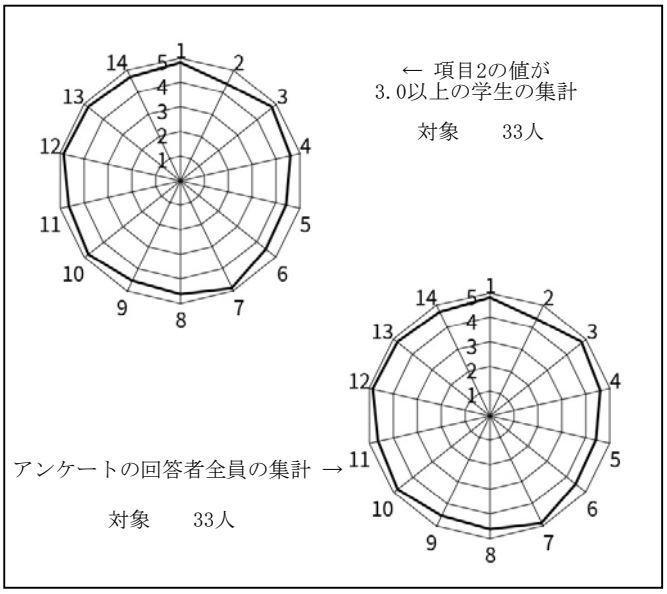
授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】
　この科目は，経済学科2年次生以上向けの選択科目であり，国際経済学に関する英語文献を輪読し，卒業論文等で外国語文献を利用する際に必要な知識等を養うことを目的として開講されている。今回の講義においては，輪読を通して国際経済学を理解してもらうという点に力点を置いて講義を行った。数値データで見ると，全設問の平均値4.46（設問3－設問14の平均値4.49）ということで，学科科目の平均値を上回っており，充実した感想を持ってもらえたのかと多少安堵している。
【数値および自由記述等を踏まえての総合的な自己点検・評価】
　データとしては，回収率が全受講生中約37%とここ数年の傾向通り低い値であった。受講生が出席しなくても単位を取得可能であると考えているようであると感じているため，改善して行かなくてはならないと考えている。また，特に設問9以降で，いずれも僅かではあるが学科平均値を下回る結果となった。それに対して設問8まではなかなか良い値であった訳であるが，これらの結果は受講生がこの科目に興味を持っている訳ではなく，あくまでも単位取得を目標にしていることを示唆しているかもしれない。実際に，近年，学生が体系立った学問について理解したいのではなく，日常で用いる知識を求めていると感じることが多い。再度度講義のあり方について考え直したいと考えている。
【次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など】
　今回の自由記述欄で気になった回答として「他の授業よりも圧倒的に時間を費やすのに楽単と同じような成績がつくのは少々やるせない。」があげられる。このコメントは，そもそも大学生が大学で何を学びたいのか，またどのような望みを持っているのかを考える上で非常にこたえるものであった。今後，学生には，大学で学ぶことの意味を考えながら学生生活を送ってもらうよう，更なる修正を試みたいと考えている。

経済学部 経済学科
小林　佳世子　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報経済学B
授業コード　40D18-001
教員名　小林　佳世子
教員コード　100487
登録人数　73
回答数　33
回答率　45.2%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



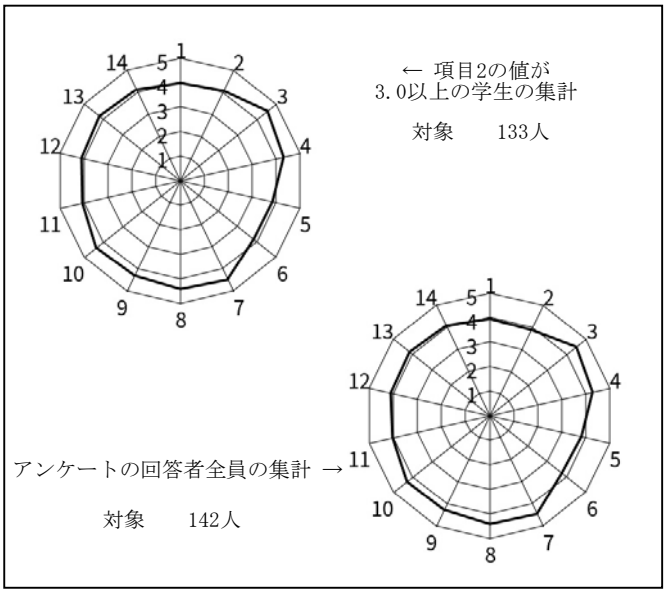
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、経済学部２年次生以上を対象とした、専門科目です。ゲーム理論に関連した講義は南山は比較的多数あるために、ゲーム理論の基礎的な内容を学習したうえで、トピックスを絞り、さらに行動経済学や周辺分野など、関連する最新のトピックスを扱いました。どの項目も、学部の平均点を上回り、高い評価となったことを、素直に嬉しく思います。
本科目の最大の目標は、経済学の基礎理論と現実とのつながりを理解したうえで、現実の問題に応用する力を身に着けることです。そのために、数学の仕様は最小限として、理論自体は厳密に学んだうえで、その現実とのつながりを理解することを強く意識しました。
評価の点数や自由記述を見ている限り、これらの目標はおおむね達成できたように思います。
高く評価されたことは、内容のわかりやすさと明確さ、そして毎回復習を行い全体の中野泰一を確認していたこと、質問の時間を十分にとっていたことなどです。反省点は、声が聞き取りにくいという声がありました。また、教室が寒かったという声も複数ありました。冬に行われる授業なので、教室の温度管理にはもう少し気を配るべきでした。また、スマホをカバンにしまうように指示しておりましたが、これについては、そのおかげで授業に集中できたと、コメントのあったすべての人が高く評価してくれました。ですので、これは続けていきたいと思っています。

経済学部 経済学科
上田　薫　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ミクロ経済学特論
授業コード 40D21-001
教員名　上田　薫
教員コード 016832
登録人数　352
回答数　142
回答率　40.3%
休講回数　2 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

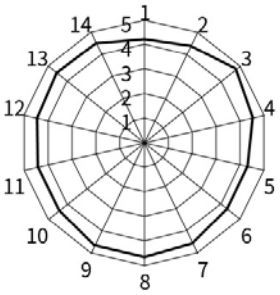
この授業はミクロ経済学の入門から一歩進んだ授業として、経済活動によって市場経済の外側で発生する外部効果の存在について学び、その分析のための経済理論の基本を理解し現実の諸問題に適用できることを学修目標としている。余剰分析の入門的知識の概説を行なったうえで、外部経済と外部不経済の各々について説明し、最後に公共財について論じるという構成である。今年度はコースの定理の意義ならびに公共財の供給決定に関する授業内容の改訂を行った。また、講義ノート全体において説明や使用事例等の見直しを行った。

設問4、7、10の平均値のいずれも4.3以上となったことから、授業の行い方について概ね問題はなかったと考える。前回22年度からの改善点として、設問9、11、13、14の平均値が全て4.0を上回ったことが挙げられる。授業ノートの改訂等を通じて、外部性の理論的重要性や現実問題との関わりを適切に伝える努力を行ったことの成果もあったのではないかと考えて、素直に喜びたい。設問5、設問6の数字が依然として4.0未満との値になっている点については、ミクロ経済学の進んだ内容を平易に講義するという点において、やはり工夫の余地が残っているということなのだろう。第1回目の授業において講義の中で使用する数学の概要について説明しノートも配布しているのだが、まだ改善の余地があるようである。次回の授業に向けて、一層の検討を行いたい。

経済学部 経済学科
相浦　洋志　先生

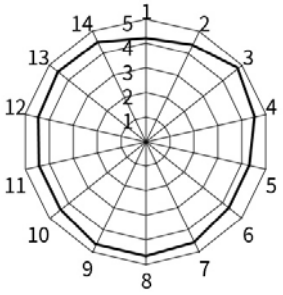
2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域経済学B
授業コード　40D41-001
教員名　相浦　洋志
教員コード　103642
登録人数　116
回答数　57
回答率　49.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　57人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　57人

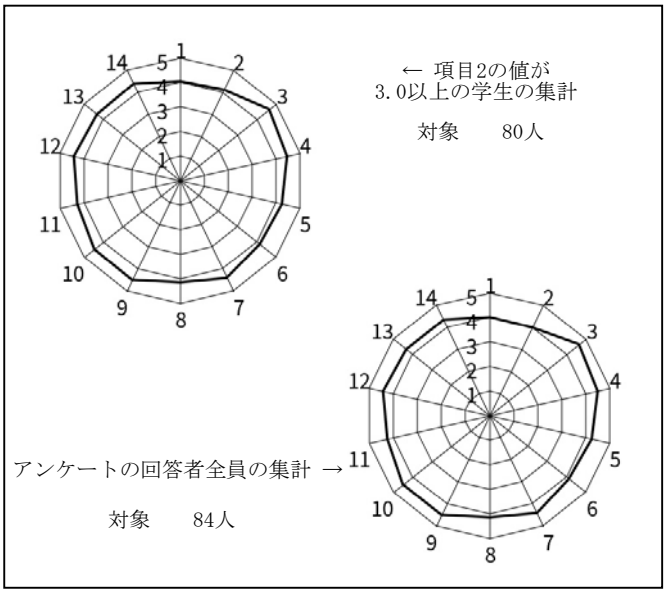
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は地域経済分析システム(RESAS)のデータに基づいて、自治体の経済政策を分析・考察するのが目的である。授業評価アンケートでは私語にかかわる項目のみ学部平均値を若干下回ったがそれ以外は、学部平均値を上回っている。特に、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」の平均値がともに学部平均よりも0.1ポイント以上高くなっており、自治体の経済政策を分析する能力を身に付けた実感を与えたと感じている。これは、授業中にグループワークを取り入れたからだと思われる。自由記載欄においても７名の学生がグループワークについて評価している。ただ、その実感に反し、期末試験に関しては、例年よりも平均点が低く、知識として身に付いたとは言い難い結果となった。今後は能力が身に付いたという実感だけでなく、実際に能力を身に着けてもらえるよう、授業内容を見直していきたい。

経済学部 経済学科
丸山　雅章　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　特別テーマ講義(政策)B
授業コード 40D43-001
教員名　丸山　雅章
教員コード 104492
登録人数　218
回答数　84
回答率　38.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



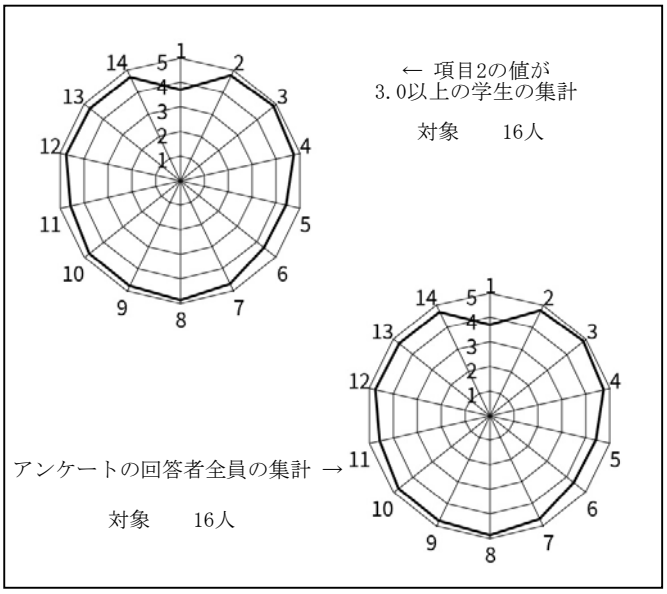
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　開講当初の目標の正確な到達度はわからないが、項目６、13の回答の平均値、期末試験の解答成績から見ると、7割以上の受講生において達成されているのではないかと推測される。
② 数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　過去の授業評価で「説明が単調で眠くなる」、「内容が少し難しい」等の回答があったので、キーワードを穴あきにしたスライドを事前に「講義資料」に掲載しておき、授業の際にそれを穴埋めして提示する、グラフや表の説明を増やす、学生に身近な政策（年収の壁の引上げ等）をわかりやすく説明する等の工夫を行った。
　今回は項目9の評価が高く、自由記述において、「スライドが穴抜きと解答に2種類あって勉強しやすい」、「グラフや表が多く見やすかった」などの回答があるので、上述の工夫は一定の成果をあげることができたと考えている。一方で、「声が聞き取りづらい」との回答もあるので、発声やマイクの使い方には改善の余地があると考えている。
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　今後の授業では、発声のしかたやマイクの操作を改善し、聞き取りやすい説明を心がけたい。また、今後とも穴あき・穴埋めスライドの作成、グラフや表を効果的に用いたわかりやすい説明を続けるとともに、学生に身近なトピックスに関連付けた説明を増やすなど、授業への関心を高めるようにしていきたい。、

経済学部 経済学科
滝谷　英幸　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法学概論
授業コード 40F08-001
教員名　滝谷　英幸
教員コード 104298
登録人数　43
回答数　16
回答率　37.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



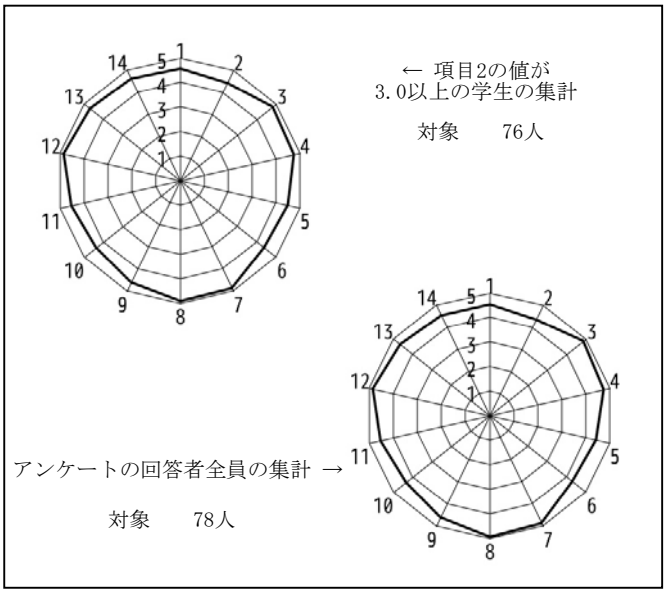
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：社会人としての基礎体力を身につけるべく、法学を素材に、「正解」のない問題について考え、「考える」という作業自体を考えることがこの授業の目的でした。最終的には多くの受講者がそれを理解してくれたと感じています。
②：回答者は多くない（１６名）ですが、概ね良い評価を得られたものと受け止めています。
③：項目５・６の評価が相対的に低いのは、そもそも到達目標自体が具体的ではない、あるいは、明確な成長実感を得にくいことによるものと推測します。授業のコンセプトからしてやむを得ないことであり、わずか１４回の授業の間に安直な「形」を与えることはむしろ避けるべきだと考えていますが、その点の説明には今少し意を用いるようにします。
　また、（匿名であっても）授業内で「間違い」を「晒される」のは嫌だ、それを思うと「本音」を書けない、という感想がありました。シラバスで予め注意喚起はしていますし、批判（「否定」ではなく「批判」）を避けて意見を控えるというのは、心情としては理解できるものの、克服すべき状態だと思います（「間違い」を「晒される」と感じたのであれば、もう１度授業の内容を振り返って、その感覚自体を省みてほしいところです）。したがって、こうした方法自体は今後も変えません。ただ、過度に攻撃的と受け取られるような表現を用いてしまった可能性はありますので、その点については真摯に検討します。

経営学部 経営学科
中尾　陽子　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理学B2
授業コード　12E04-002
教員名　中尾　陽子
教員コード　064188
登録人数　132
回答数　78
回答率　59.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回もこの授業では、心理学を知識として理解するだけではなく、日々の中で活用できるようになることを目標にしました。また、階段教室で行われる比較的大人数の授業ですが、一方的に教員の話を聴くだけではなく、グループワークやわかちあいにより、受講生同士の関わりを通して学び合うことも引き続き大切にしながら取り組みました。自由記述には、これらの取り組みが非常に有効であったとの感想が多く記されていました。他者の多様な考えに触れることで自分の考えの幅が広がること、また、他者へ自分の意見を伝えることがとても苦手だと感じていた方が、わかちあいを繰り返すことで少しずつ自分の発言に自信を持てるようになってきた喜びを伝えていただき、私もとても嬉しく思いました。更に今回は、受講生数に比して座席数が多い教室を割り当てていただきました。このことは、グループ内でのコミュニケーションに大変プラスに働いていたた様子が伝わってきました。教務課スタッフ様のご協力に感謝いたします。このような関わりを通した学びは、今後も続けていきたいと考えています。

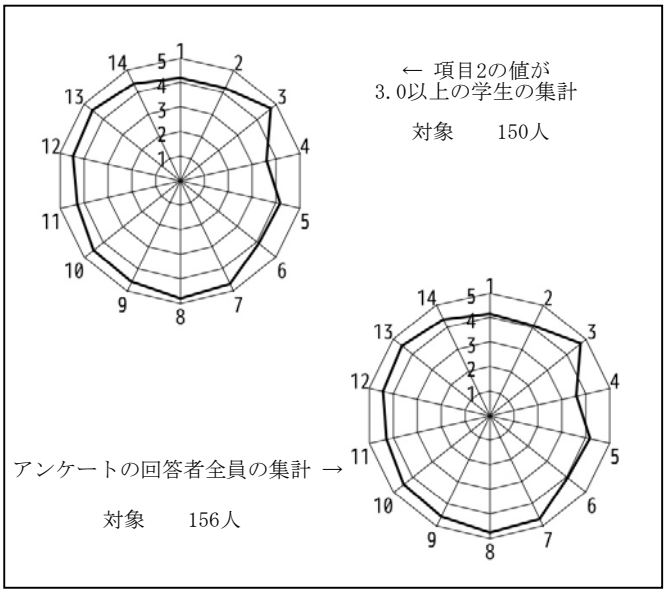
一方で、評価の数値においてはまた今回も、到達目標の到達状況に関する項目の値が低くなっていました。シラバスだけでなく、授業ガイダンスで明示し、毎回の授業でも細かな到達目標を提示し、授業終了時には到達目標をふりかえりながら学習ジャーナルを記述していただいているのですが、それでも理解が難しい様子に、毎回非常に悩みます。学習ジャーナルの記述を読むだけでは捉えきれていないということになりますので、まずは、随時個人的に声がけをしながら状況の把握に努めてみたいと思います。

今後も、少しでも皆さんにとって意味ある授業を実現していくために、受講生のみなさまの主体的な参加とご協力をお願いいたします。

経営学部 経営学科
山下　忠康　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済の諸相7
授業コード 13C06-007
教員名　山下　忠康
教員コード 101152
登録人数　269
回答数　156
回答率　58.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
下記の５つの目標を設定していたが、定期試験の出来映え（平均72点）を見る限り、おおむね目標は達成できていると評価している。
１．金融・経済の基本的な仕組みを理解できる。
２．ライフプランニングと資金計画が作成できる。
３．リスクマネジメントの基本を理解できる。
４．金融資産運用の基本を理解できる。
５．FP３級試験に合格できる。

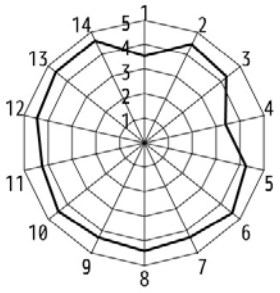
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値データについては、全体として、平均的水準だった。
しかし、項目番号４の「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」が3.6と極めて低い結果となっている。
これは進行が遅れた分を補足的にビデオの形で提供したのだが、それが長時間となったことに履修者の不満が高まったものと理解している。この点は、履修者からの自由記述コメントにもあるように、少しペースがゆっくりしすぎたことがあり、授業ペースの改善が必要と認識している。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
授業進行のペースアップを除いて、今回と同様の方針で授業を実施することを現時点で考えている。　以上

経営学部 経営学科
長谷川　高則　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

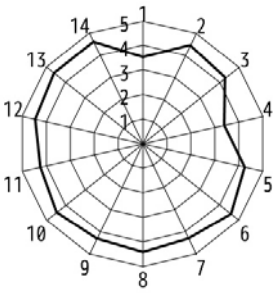
科目名　情報機器の操作1
授業コード 14D02-001
教員名　長谷川　高則
教員コード 000162
登録人数　29
回答数　17
回答率　58.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　17人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　17人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．授業目標

この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標にしている。今回は受講者数が少ないクラスであったが、パソコン操作のスキル差は大きく、授業の進行状況は遅れ気味であった。

２．目標達成度

出席状況は欠席が多く、欠席者への対応が十分にできなかった。開講当初に設定した授業計画は80%ぐらいしか達成することができなかった。レポートの内容は高評価のものが多く、演習課題も頑張った内容のものが多かった。

３．授業評価

前回のアンケートと比較すると、全設問の平均値は3.68から4.28に向上した。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問6（授業の到達目標に向けて）4.59、設問13（新しい技術や能力を得た）4.59、設問14（全体として授業に満足）4.59であり、評価が低いのは設問4(授業の構成や進行速度）3.41、設問1(授業の内容について興味）3.53であった。設問4の評価を改善するのは受講生のスキル差も有り難題ではあるが、設問1に関してはパソコンに苦手意識を持っている学生への対応について検討中である。

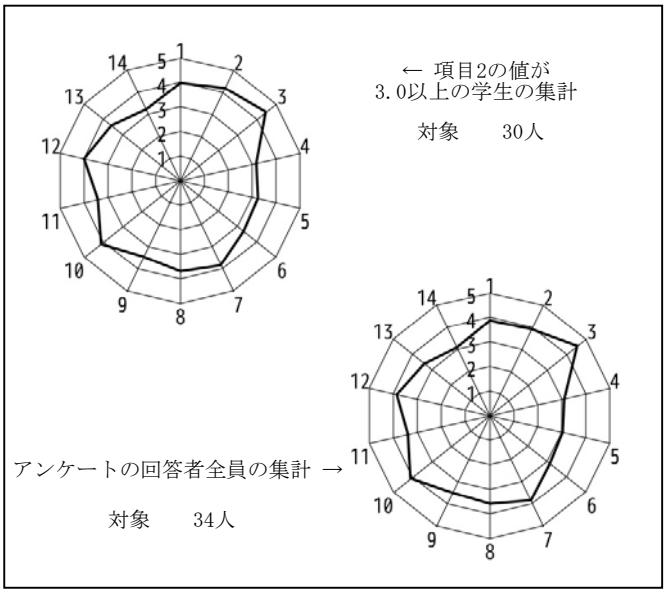
４．今後の抱負

デジタル教材を利用して授業の予習・復習のボリュームを最適化したい。次世代の学びのあり方・地域の創生に対応する内容も取り入れ、エドテックを使ってもっと興味がわき理解しやすい効率的な授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

経営学部 経営学科
赤壁　弘康　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ファイナンスA
授業コード 42C07-001
教員名　赤壁　弘康
教員コード 100788
登録人数　88
回答数　34
回答率　38.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



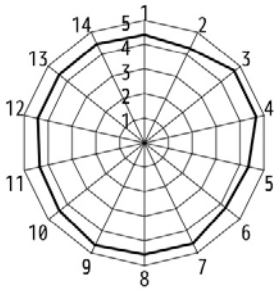
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 当初予定していた目標（予定講義内容、問題演習）はすべて達成できた。授業時アンケートに応じる形で映像資料視聴の機会も1回設けることができた。練習問題の多くは、実社会で求められるファイナンスの知識・処理能力を知ってもらう目的で、公認会計士試験や証券アナリスト試験の過去問を改題したものを採用した。授業中に練習問題を解いてもらい結果を提出してもらうというリアクション・レポートを計12回実施し、積極的授業参加度を計る基礎資料とした。解答時間がかかる練習問題は宿題として2回課した。今年度は例年より受講者数が大幅に増加したため、定期試験を実施した。
② 積極的授業参加を促すために、WebClassでの講義資料、リアクション・レポート提出等には予め異なるパスワードを設定し、実施時に板書して公開することにした。本年度新たに採用したこの方式は、受講生の混乱を招くのではと危惧していたが、大きな混乱はなかった。単元説明の後に授業時間内に練習問題に解答させ、リアクション・レポートとして提出させたのち、問題解説と解答を行った。こうした問題演習方式が受講生に好評であることは、当初は想定外であった。
③ 本年度の受講者は経済学部学生が大勢を占めた。それが一因なのか、最終的に受講者数が確定するまでの期間内に受講者数が大きく増減した。今後もこの傾向が続くのであれば、経済学部のカリキュラム（経営学部カリキュラムとの相違点）を事前によく調べておく必要があると感じた。

経営学部 経営学科
湯本　祐司　先生

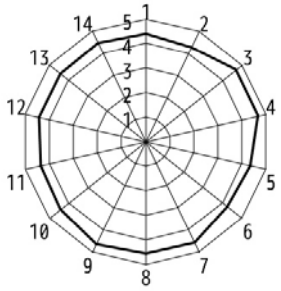
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　マーケティング論A2
授業コード　42C09-002
教員名　湯本　祐司
教員コード　017533
登録人数　147
回答数　47
回答率　32.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　47人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　47人

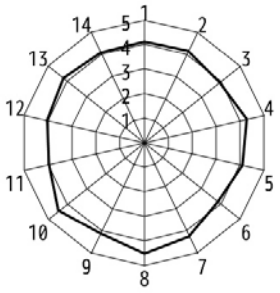
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はマーケティングの基礎的な理論や考え方および事例とマーケティング理論の関連が理解できることを到達目標としている。経営学部の選択必修科目（基本科目）であり，登録者147名の内訳は，経営学部64名，経済学部80名，法学部，人文学部，外国語学部各1名である。学年別では2年生112名，3年生24名，4年生11名である。この科目は2クラス開講されており，もうひとつのクラスのほうに経営学部の学生が多い。定期試験の解答からおよそ8割の学生は目標を達成しているといえる。学生の授業評価では履修登録者147名のうち約30%の47名が回答し，項目１から14の平均と項目３から14の平均はそれぞれ4.47と4.49である。前年度とほぼ同じ数字である。学生の評価の高かった設問は，3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」(4.70)，4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」(4.70)である。一方，2「受講に際して，予習や復習を含め，主体的に授業に参加し，内容を理解しようとする努力をしましたか」(4.26)，6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」(4.26)であるが，前者の設問2については，昨年度より0.26ポイント改善されている。今年度から資料を事前にDLサーバにアップしておいたことが良かったのだと思う。自由記述欄には「実例を示しながら授業が進められたので理解しやすかった」など好意的なコメントのみであった。今年度カリキュラム改正があったので，2年次生用の内容をカリキュラムに合わせて修正することを次年度の課題としたい。

経営学部 経営学科
中島　裕喜　先生

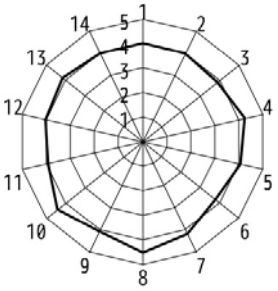
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営史A
授業コード　42C15-001
教員名　中島　裕喜
教員コード　103065
登録人数　282
回答数　134
回答率　47.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　126人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　134人

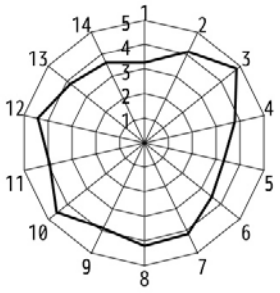
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問３「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」が3.88とやや低いが、例年よりも教室が研究室から遠く、時間の管理がうまくできなかったので、今後は時間に余裕をもって講義を始めることにしたい。ただし設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」は4.26なので、講義の進行自体に大きな支障はなかったものと認識している。内容としては設問２「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」が4.00で、もう少し高いことを望んでいた。今年度の講義は昨年までのパワーポイントの配布ではなく、経営の歴史に関する生の史料として社史に触れてもうらうように、コピーを準備し、ダウンロードサイトから自由に閲覧できるようにしたうえで、その内容を解説するというスタイルにした。初回にその趣旨を説明したつもりだが、十分に浸透していないと思われるので、今後はもう少しその点を学生に伝えていきたい。設問８「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」が4.54で高評価だったので、今後も話し方などに気をつけて講義を行いたいと考えている。

経営学部 経営学科
竹澤　直哉　先生

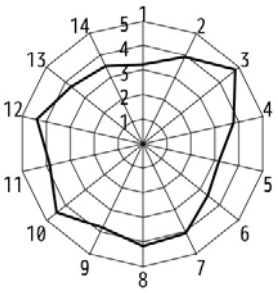
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営学のための統計学I2
授業コード　42C52-002
教員名　竹澤　直哉
教員コード　101191
登録人数　150
回答数　94
回答率　62.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　88人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　94人

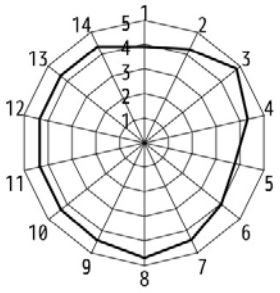
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、例題をその場で解くだけでなく、エクセル使った解法など、教科書で学んだ内容を実践することで、授業で得た知識に興味が湧くような配慮をした自主的な発展・応用ができる教育方法を行うことであった。これに加えて、できるだけ多くの時間を質疑応答に割くように努力した。設問12の評価が高かったことから、質疑応答に関する対応への満足度は高ったことがわかる。評価を大きく下げた項目は5,6であり、授業の到達目標が理解できない学生が半数いたことを読み取ることができる。一方、項目4,13で、７割近い学生が４以上の評価をしており、大多数の学生が授業のスピードと理解が深まったと感じていることがわかる。また、記述欄からわかるように、良かったことに対するコメントが57あったのに対して、正反対の悪いコメントが23しかなかったことから、多くの学生はおおむね理解が進んでおり、授業スピードが適切であると感じていることがわかった。
以上の分析を踏まえると、今年の授業目標は概ね達成できたと評価する。今後は、引き続き、授業で得た知識に興味が湧くような配慮をしながら、理解度を高めるような教育方法について検討しつつ、到達目標を明確に伝えることを行う。

経営学部 経営学科
石垣　智徳　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　マーケティング・リサーチ
授業コード 42D08-001
教員名　石垣　智徳
教員コード 101889
登録人数　39
回答数　27
回答率　69.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

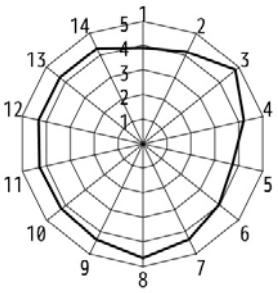


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　26人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　27人



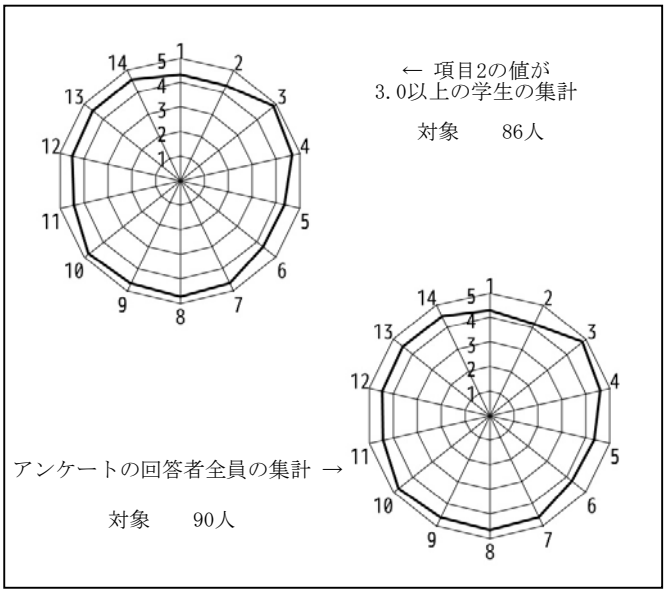
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の設定した目標は、マーケティング・リサーチのプロセスを実行するできる能力を養成と習得した技術を応用するかたちで、消費者や競争市場に関する情報を収集、分析、解釈することを通じて、マーケティング意思決定を支援できるようになることである。最終レポートから判断すると全員が到達目標に達しているとは言えないが、6割程度の学生が、目標を達成できて言えると判断している。しかし、アンケート調査の結果、「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか(3.89)」「この授業の到達目標を理解することができましたか(3.74)」「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか(３.96)」という設問が、3点台であり、もう少し丁寧に到達目標を説明すべきであったと反省している。その他の項目については、4点以上であり、全体評価（設問14）は4.30であるのである程度は評価されていると認識できた。次期以降に向けての改善点については、授業中にExcelやRを使用したのだが、演習する際の例題の理解が乏しい学生が散見されたため、さらに演習を増やしていきたい。

経営学部 経営学科
余合　淳　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営管理論A
授業コード　42E03-001
教員名　余合　淳
教員コード　103585
登録人数　205
回答数　90
回答率　43.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



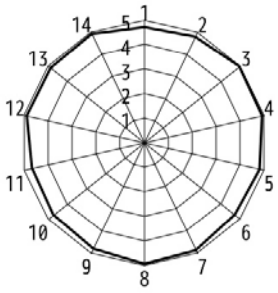
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．本講義の目標は，経営管理論の様々な理論を体系的に理解すること，企業における実際の経営管理手法の背後にある理論枠組みを知ること，企業や組織の存立要件や理論と実際の差について理解することの３点であった。講義では，通常労働者として接する機会の多い企業におけるマネジメントについて，企業の経営者及び人事部門からの視点を重視した。レポート及び期末試験の結果からは，概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。
２．数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データ全体の平均値は経営学科平均値より高く，すべての項目で平均を超えている。特に主体的な授業参加，到達目標の理解，教員の取り組み姿勢，理解度への配慮，質問の機会といった側面で評価されている。自由記述を含め，授業での評価は良好なものと考えられる。
３．数値が若干低いものとして予習復習と進行速度の適切さが挙げられる。予習復習や進行速度については，受講者の態度，理解度に合わせて毎回復習や補足説明を追加していたために本来よりも若干遅れる傾向があった（最終的には予定通りの進行であった）ため，主体的に受講する学生のために難易度の調整が必要になるように，今後の工夫を検討する。一部出席状況の悪い受講者が理解度不足であることが多い点も課題である。とりわけ復習に関しては講義内で複数回のミニレポートを実施したことで，理解度向上に寄与したものと考えられる。

経営学部 経営学科
上野　正樹　先生

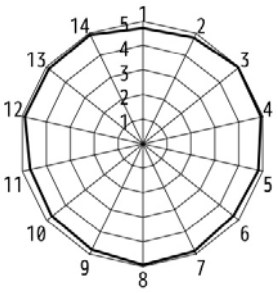
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営戦略論A
授業コード　42E13-001
教員名　上野　正樹
教員コード　101365
登録人数　37
回答数　25
回答率　67.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　25人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　25人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

経営戦略論Aは火金3限におこなった。授業評価の回答者は25名、回答率は67.6%だった。項目1～14の平均は4.83、項目3～14の平均は4.85だった。設問13「新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」の平均は4.88、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」の平均は4.92だった。これらのことから、回答者の8～9割は開講当初に設定していた目標に到達したと考えられる。

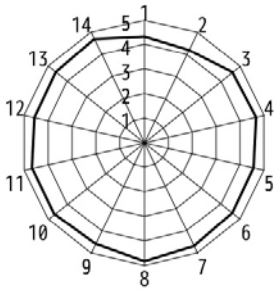
自由記述は12件あり、「参加型の講義になっていてディスカッションの機会が多くてよかった」「自分の経営的思考力の現状、他の人と比べて足りない力が知れたり、発表の練習ができた」「ディスカッションが積極的に行われ楽しかった」「発言しないといけない環境によって授業を真剣に聞くことにつながった」などが寄せられた。これらのことからディスカッション形式の授業は成功したと考えられる。

最後に、改善点として、回答率が低いことを指摘できる。毎回の出席者は7割前後だったことから、シラバスには欠席に厳密に対処することを記し、授業参加に意欲的な学生の履修を促すようにする。

経営学部 経営学科
高田　一樹　先生

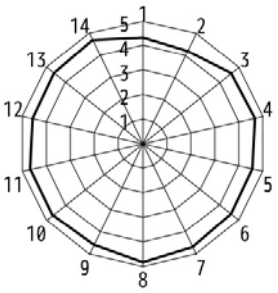
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　職業指導
授業コード 42F09-001
教員名　高田　一樹
教員コード 102887
登録人数　18
回答数　12
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　12人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　12人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　教職課程の必修科目であり、教員志望者を受講対象に想定し講義計画を立てている。他方、教職課程の履修者は例年限られるため、他の受講者にも多様なキャリア観を理解し、今日的な話題を踏まえつつ到達目標の達成を目指していた。本年度は受講者の出席率が高く、アンケートへの回答率も過年度に比べ良好だった。

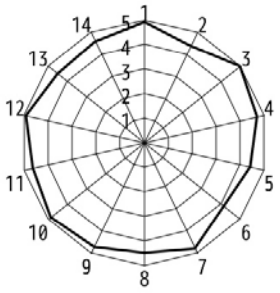
②　すべての項目で4以上の評価を受け、おおむね肯定的な評価を受けたと考えている。毎回、webclassのチャット機能を使い、講義内容を踏まえ各自の考えを匿名表示で記入させている。設問2の学生の主体性に関する評価がやや低かったのは、その記入態度を示唆するものと推測できる。自由記述欄では解雇（employment at will/rock out）の場面を再現した映画の一部やキャリアカウンセリングの映像資料を利用したことに関する肯定的な意見が散見された。講義内容はキャリアの基礎理論の開設を中心とした半面、受講者自身のキャリア観におきかえて考えられるよういくつかのエピソードを交えて補足したことも好感が持たれたようである。

③　授業改善に関する提案として板書の乱筆が挙げられる。また、講義内容を詳細に記したレジュメを配布している。このレジュメの情報量が多く復習がしづらいとの声があった。次年度に向け文字情報を減らすことを検討する。講義計画の基本を堅持しつつ、視聴覚教材や配布資料の拡充に励みたい。

経営学部 経営学科
BIERI, Thomas　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

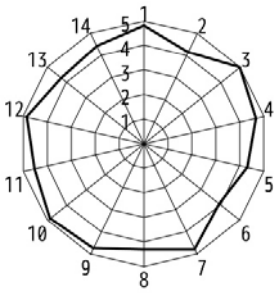
科目名　ビジネス英語Iリーディング1
授業コード 42G02-001
教員名　BIERI, Thomas
教員コード 102517
登録人数　17
回答数　15
回答率　88.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　14人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　15人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Based on the feedback, observations, checking assessments, and reading course reflections, I believe 5 goals (a) to e) in the syllabus) are being achieved by most or all of the students, though some are struggling with some elements. As to the other goal (e)), we haven't had enough class time to fully reach the level aimed for though students are making some improvements. On the other hand, the responses indicate a handful of students don't fully grasp the course goals and (perhaps because of that), don't rate their progress and overall satisfaction as high as I would hope.

Most items were ranked 4 or 5 and there were several positive comments. 2 students had negative comments but they ranked all items 4 or 5. Only one student answered any items with lower than a 3: items about their own interest, understanding and satisfaction got low ratings, while the course conduct items were all very high. One student gave a 3 to both the understanding of the goals and overall satisfaction, but commented that they really appreciated me and gave 4 or 5 for other items.

In the next term I will try again to explain the goals clearly, balance activities towards them, and note the connections.

経営学部 経営学科
伊藤　彰敏　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Corporate Finance A＜国際科目群＞
授業コード　42G15-901
教員名　伊藤　彰敏
教員コード　104839
登録人数　6
回答数　4
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

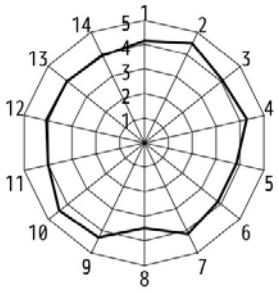
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①受講者は、コーポレートファイナンスの基礎的で実践的な知識を習得することができ、おおむね当初の目標を達成できた。またいくつかの実践的な課題を与えたが、どれも丁寧に取り組み、高い理解度に達していた。
②出発点でこの分野に関する知識があまりない受講者が多く、そのためQ1やQ2についてはやや低め（4.75、4.5）であったと解釈している。今年度の受講者が、必ずしも基礎知識がなくとも高い学習成果を得ることができること示したので、来年度のシラバス等でその点を明記したい。授業運営や全体的な評価についてはすべて平均5点であり、受講者は全般的にこの授業に満足しているものと思う。特にテクニカルな内容については、授業の速度を落として丁寧に説明し、また実践的な課題に取り組ませることでより正確な理解に至るよう心掛けた。
③来年度にむけては、必ずしも基礎知識がなくとも学習成果が十分得られることをシラバスで記述しておきたい。またよりインタラクティブな授業が可能となるようにケース・スタディを相当数導入したい。

経営学部 経営学科
KHONDAKER, Rahman M.　先生

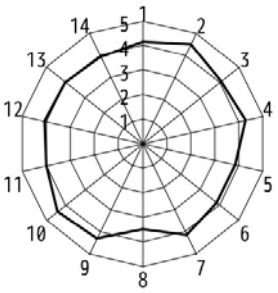
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	International Management A＜国際科目群＞
授業コード	42G17-901
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	15
回答数	14
回答率	93.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　14人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　14人

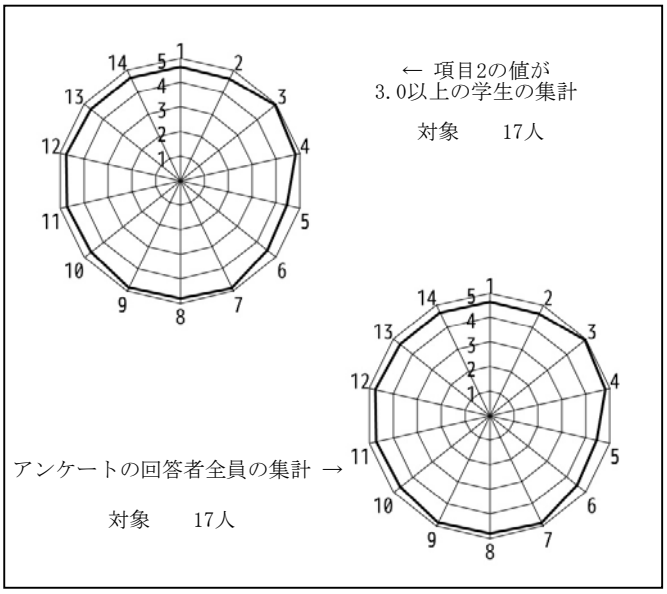
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course, among others, is to help students understand a range of complex factors that underlie operation and management in multinational corporations. As planned, I took fourteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. The number of students' registration was fifteen, one withdrew, and the remaining fourteen attended the classes. On the day of the course evaluation, fourteen students were present. I would like to address the following aspects in the course evaluation materials.
Regarding "participation in the class" (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.02 and 4.11 for all courses in the band of 42006-001～42H04-999 (経営学科), the scores of this course were 4.14 and 4.50.
Regarding "evaluation of the course in general" (Q3 to Q7), compared with scores of 4.55, 4.31, 4.01, 3.93, and 4.38 for all courses, the scores for this course were 4.07, 4.29, 3.86, 3.86, and 4.14.
Regarding "evaluation of the class management" (Q8 to Q12), compared with scores of 4.48, 4.28, 4.52, 4.15, and 4.34 for all courses, the scores of this course were 3.50, 4.29, 4.43, 4.00, and 4.07. Regarding "overall evaluation" (Q13 to Q14), compared with scores 4.21 and 4.12 for all courses, the scores of this course were 4.00 and 3.93. All these scores are mostly like the averages. As to "overall impression of the course" (Q15 to Q17), the students gave some very good comments, which I find profoundly encouraging. Finally, I am looking forward to delivering more effective lessons in the coming year.

経営学部 経営学科
野口　晃弘　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　商業簿記中級Ⅰ
授業コード　42H01-001
教員名　野口　晃弘
教員コード　104773
登録人数　25
回答数　17
回答率　68.0%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



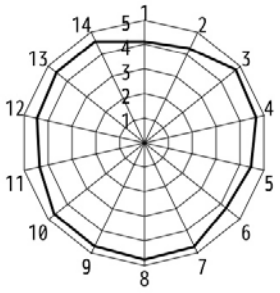
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　最終的な履修登録者の多くが、簿記に対する学習意欲の面で優れており、当初設定していた目標を十分に到達することができたと考えている。ほとんどの学生がすべての小テストをこなし、中間テスト、期末テストでも一定水準の答えを記述することができている。
②　商業簿記中級Ⅰの講義内容としては、ごく標準的なものであり、高校時代の勉強方法をそのまま適用可能なものとなっていたことから、取り組みやすかったことが、学生から高い評価が得られた要因ではないかと思われる。このため、高校までの勉強方法が通じない、大学ならでは講義科目であるQ2の国際会計論Aの学生による評価と対比する必要がある。
　現時点では、受講学生が学業の面で優秀な学生が多かったことと、科目の性格が、今回の評価に結びついたと考えている。
③　Q3で担当する商業簿記中級Ⅱでも、同様の講義内容・水準を目標し、教材（教科書・ワークブック）や課題（小テスト・中間テスト・期末テスト）についても、継続して使用することにする。②でも述べたとおり、Q2で担当する科目の性格がかなり異なるため、講義内容・方法については、それに合わせなければならない。

経営学部 経営学科
金丸　義弘　先生

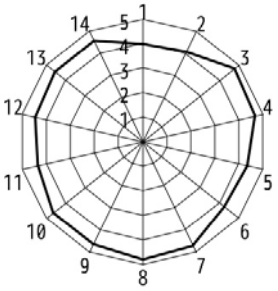
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(電子・電機産業論)1
授業コード　42F03-001
教員名　金丸　義弘
教員コード　104609
登録人数　100
回答数　50
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　46人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　50人

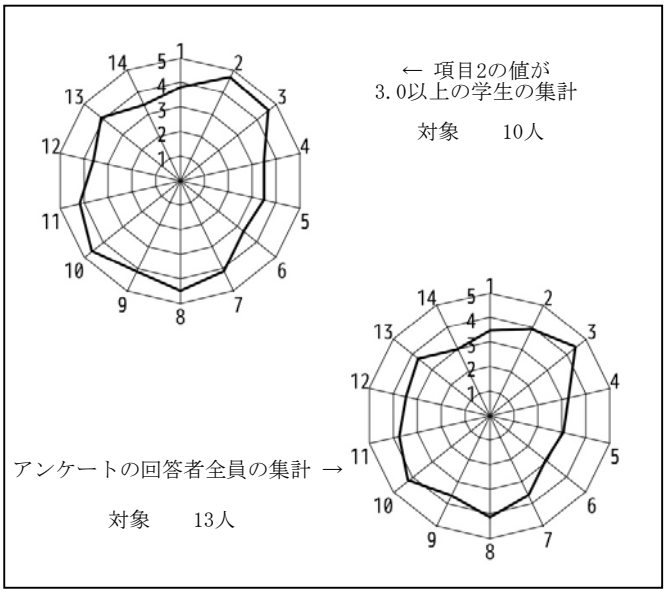
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年より多くの受講生（１００名定員一杯）となりました。例年１Qは就職活動での欠席が多くなりますが、今回は就職活動での欠席についてあまり情状酌量しない方針を明示したため欠席者は少なく非常にうまく行ったと思います。定期試験の結果はA＋とAで試験受験者全体の５１%、Bも加えると８４%と多くの学生が講義内容を理解してくれたと思います。また受講学生から話が面白い、実体験に基づいた話が参考になるとのコメントを多く頂きうれしく思います。昨年から少し講義内容を変更したのも良かったのかと思います。昨今の経営を取り巻く変化は非常に激しく企業も生き残りのために過去に例のない対応を迫られています。講義内容も同じく日々変化する状況に対応したものでなければなりません。３Qに向けてはさらに体験談をまぜつつ最新の政治経済動向と電子電機産業の関わりを紹介し、2コマ連続でも飽きない、社会に出ても役に立つ面白い講義を進めて行きたいと思います。

経営学部 経営学科
宮元　忠敏　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報を読む3
授業コード 13E07-003
教員名　宮元　忠敏
教員コード 017293
登録人数　70
回答数　13
回答率　18.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



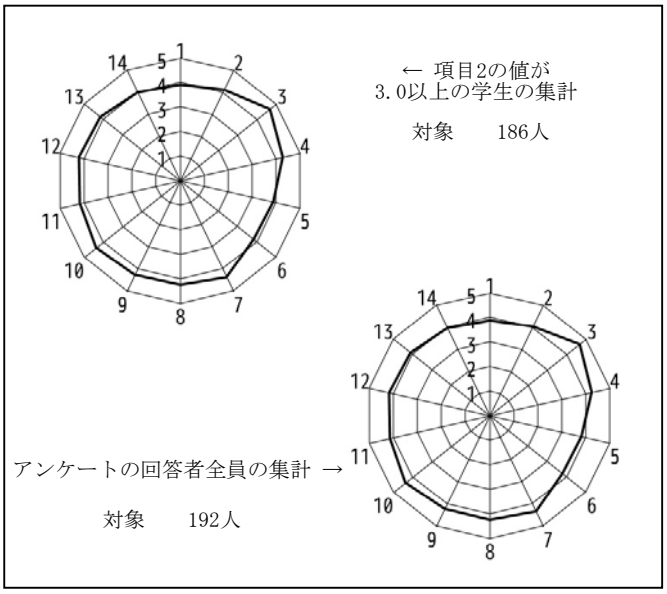
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と達成：暗号（対称、非対称）、暗号の応用（改ざん防止、認証、電子署名）、誤り訂正符号（ブロック、畳み込み）、
誤り訂正符号応用（QRコード）など。すべてカバーした。
総合的な自己点検・評価：4つの評価の数値を挙げる。授業の開始と終了の時間が守られていた（4.46）。私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して適切な対処がなされていた（4.23）。授業の達成目標に向けて力がついてきていると思う（2.92）。全体としてこの授業に満足している（3.00）。次に、コメントを挙げる。具体例が面白かった。問題の解き方を多めにレクチャーしてくれた。レポートの難しいところの質問に答えてほしかった。スライドの画面が小さい、略語が多く、改善を求める。生徒に対して、感じの悪いところを直した方がよい。成績評価は2回のレポートと、1回目のレポート以降の授業参加度で計算する。各回は、復習と問題、そして、その回の講義で構成される。この分野は、計算機によるデモが可能であり、かつ、有効である。また、ネット上の資源（計算サイトや AI）を多用した。
改善点：授業回数が15から14に減るので、一部、講義の構成を変更しなければならない。また、成績評価において、点数の足し算を、極端な方向で解釈する（例えば、授業参加度が0点）履修生が存在するので、改善が必要である。

経営学部 経営学科
南川　和充　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　流通論A
授業コード　42C21-001
教員名　南川　和充
教員コード　100478
登録人数　257
回答数　192
回答率　74.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



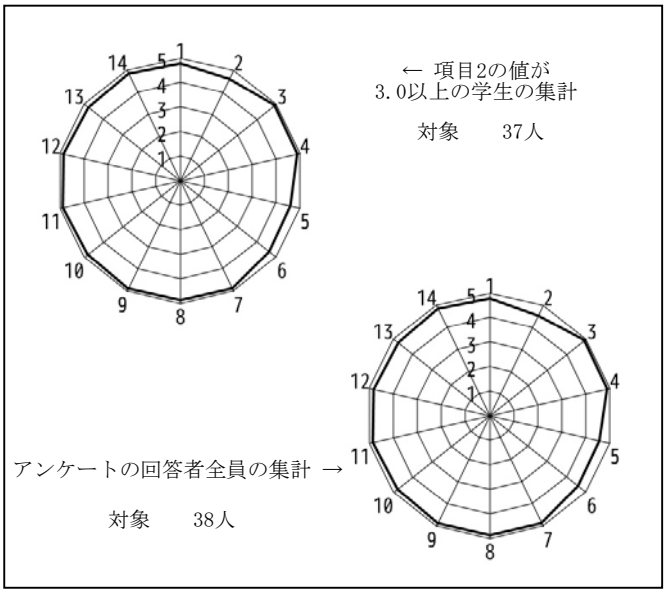
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全項目が経営学科科目での平均値を下回っており、毎回のごとく反省している。今回は数回分の授業を使って回答時間を確保して実施したため回答率は74%に改善した。到達目標は(1)(2)（シラバスを参照のこと）を設定した。これを達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)について肯定的評価の自由記述（様々な課題を通して理解を深めることができた。中間テストがあることでしっかりと深く学ぶことができた。流通の仕組みを詳しく学べた。）があった。目標(2)についてはデータ分析の課題および中間試験（筆答）の出来が良好であったことから、達成されたと判断できる。今回も受講生へ中間試験結果の返却や提出課題のフィードバックを実施できなかったが、数人だけだが実際の解答を取り上げてそれらに対して授業中に口頭での解説をすることにした。全員にはWebClassで模範解答を開示しているので、それを確認している受講生については力が身についていることを実感させることができたと思う。次学期は中間試験結果や提出課題の返却を実施したい。自由記述欄「改善すべき点」には、前回はなかったが今回は「説明が理解しづらい」という指摘が多くあった。これには、資料が分かりにくかったという指摘もあったため、次回は資料を分かりやすく改善したい。説明が理解しづらいのは資料ではなく受講生本人に原因がある場合は、自主的に質問してもらえるとよいのだが、こちらからも質問が促進されるような取り組みをすることに次学期は努めたい。

経営学部 経営学科
川北　眞紀子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング・コミュニケーションA
授業コード	42C36-001
教員名	川北　眞紀子
教員コード	102879
登録人数	163
回答数	38
回答率	23.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



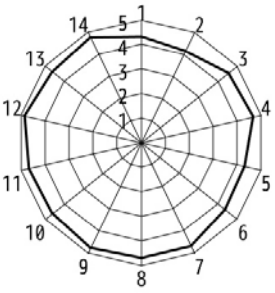
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初の目標は，広告や広報など企業のマーケティング・コミュニケーションについて体系的な知識を持つ。さらに簡単なコミュニケーション計画が立てられるであった。講義では体系的に知識を提供していき，中間課題では広告を作る課題で簡単ではあるが企画する課題に取り組んでもらった。そのため概ね目標は到達できていると思われる。②全体の満足度が4.82，他の項目もすべてが4.52～4.92と高かった。自由記述欄では「チャット機能を用いて授業に積極的に参加させて理解を深めようとするのがとても良いと感じた。また外部講師を読んで実際に広告業界で働いている人の働き方や思い入れについて聴けてとても有意義な時間を過ごせた」「講義資料が非常に見やすく、参考資料も効果的に使われており、内容を理解しやすかった」「楽しい授業を提供してくれた点」と，チャットや発言を積極的に取り入れた双方向授業である点，外部講師招聘についての評価が高かった。③改善点としては，学生からの「小テストでどれぐらい点数が取れているのかが気になる」「欠席しても点数を取れてしまうところ」という指摘があった。160名の大講義で出席を正確にとるのは難しいため，小テストの内容を工夫しフィードバックも提供できるとよいが，かなりの時間コストがかかってしまうため，検討中である。

経営学部 経営学科
安田　忍　先生

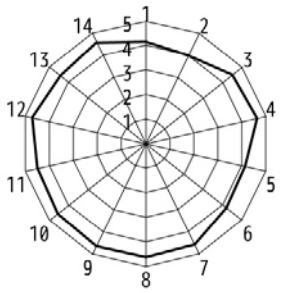
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　外部監査論
授業コード 42C39-001
教員名　安田　忍
教員コード 101561
登録人数　44
回答数　14
回答率　31.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　13人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　14人

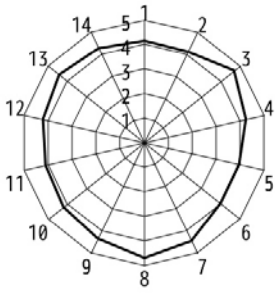
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、外部監査としての財務諸表監査の全体像について、監査基準をベースに講義し、監査の目的、実施プロセス、監査報告の内容と監査を巡る問題について理解することを目的にして、到達目標を①財務諸表監査の基本的な枠組みを理解することができる、②監査基準の内容を理解することができる、③監査が直面する課題を考えることができる、の3つを到達目標として設定している。目標の到達程度について、定期試験の結果からみると、授業内容の深い理解をしている学生は例年に比べて少ないが、受講学生のほとんどが到達すべき水準に達していると判断している。
項目3～14の平均値は4.51で、大学全体の平均4.54よりも少し低いが、ほぼ同じ程度であった。今回、回答時間を取り、また回答依頼も行っていたが、回答数はあまり増えなかった。高く評価してくれる学生がいる一方、低く評価する学生も当然いるため、回収率が低いと各回答の数値が結果に大きく影響する。アンケート回答への参加を依頼するしか手段は無いが、回収率を上げるよう努めたい。また、低く評価されている項目について、大半が高く評価しているなかで低く評価された要因をいろいろ考え、反省、改善の材料としたい。
自由記述では、2名からレジュメや資料が分かりやすかったとの感想をもらった。レジュメは毎回修正しながら手を加えているが、分かりやすくするために概観性と詳細性のバランスをどうするか常に悩むところであり、改良を継続したい。

経営学部 経営学科
窪田　祐一　先生

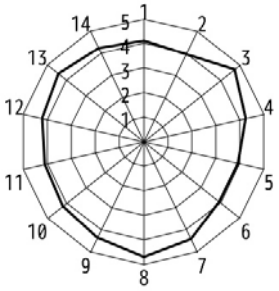
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　会計学入門II1
授業コード　42C51-001
教員名　窪田　祐一
教員コード　102901
登録人数　145
回答数　100
回答率　69.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　94人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　100人

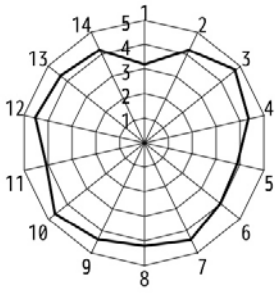
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①学生に求める目標は，「決算整理手続きについて説明できる」「貸借対照表，損益計算書の構造について説明できる」「ビジネスにおける会計の重要性と必要性について理解できる」の三点であった。今回、より易しいテキスト、問題集、回答集を利用していたが、結果としては、目標に到達できた学生が7割程度であった。
②予想よりも「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」に対する平均点が高かった(4.13)。このことは、会計学入門Ｉで学習を動機づけることができたためと考える。しかし、「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」については、3.95と学科平均より低い。特に5点をつける人数が少なく、復習するようにもっと指導すべきであった。また、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」は学科平均より若干高く、4.41であった。
③学生の自由回答をみても、授業進度が早いという意見と遅いという意見がある。授業について来られていない学生がいるのも確かである。この点は改善したい。会計学は積み上げであるため、一度躓くと授業についてこられなくなる。頻繁にわからないところがあれば質問に来るようにと伝えたが、あまり効果的ではなかった。次年度は、学生たちが自律的に復習するような仕組みづくりをしたい。

経営学部 経営学科
池田　亮一　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

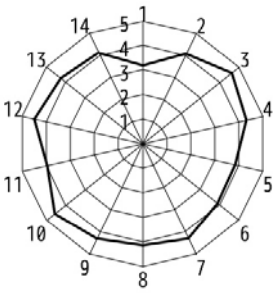
科目名　経営学のための数学I2
授業コード　42C54-002
教員名　池田　亮一
教員コード　101880
登録人数　153
回答数　42
回答率　27.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　40人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　42人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標として(1)初等的な関数の導関数を計算したことがある。(2)初等的な関数の積分計算をしたことがある。(3)行列の計算をしたことがある。の3つであったが，目標はどれも達成された。ただし，(3)については他の2つに比べじっくり時間を取ることができなかったため消化不良な点があったと感じる。経営学に直接的に重要なのは(1)および(2)と私は考えており，目標の設定に関しては議論の余地があると思われる。
アンケート結果について分析すると，設問１が3.17であり，開始当初から大して興味もなく期待されていないと言ってよいであろう科目だったにも関わらず，設問14の満足度に関する数値が4を超えたことは，まあまあ授業を評価していただいたということになるのではと考えている。カリキュラムが変わり受講者数は1.5倍になったが，授業後の質問数が体感で2倍以上になったと感じている。これはカリキュラムが変わりこの授業を落とせないと考えている学生が増えたからと考えられるが，コメントに「質問に丁寧に答えてくれる」というものが多く，満足度を上げた一因と考えている。今後も質問時間はできる限り長くとりたい。
今年残念なことは，カリキュラムが変わったことで，より「落とせない授業」になったはずなのに，授業の出席率自体は以前より低くなってしまったことである。出席率が高まることでより学生の理解が深まるのであれば，今後どのような授業を行えば学生がより出席しようとするのか，内容自体も含めて検討していきたい。

経営学部 経営学科
安藤　史江　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　意識調査法
授業コード　42D06-001
教員名　安藤　史江
教員コード　019554
登録人数　47
回答数　4
回答率　8.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

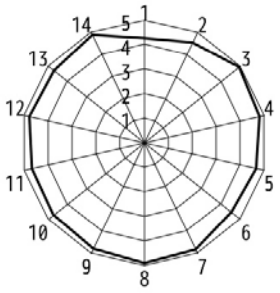
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、統計ソフトRを用いて質問票調査のデータを仮説をたてて分析できるようにすることを目的としている。高度な統計学を必ずしも要せず、ツールとして使いこなしつつ、必要に応じて、簡単な統計的な基礎知識を説明するという形で進めた。毎回一項目ずつマスターしていく形で進めたが、今年度は特に理解できない学生が例年と比較して多かったように感じる。実際、レポートの完成度をみても、それを痛感する。また、途中からドロップアウトして、授業に出ないまま、アップしてある資料だけみて作ったことがうかがえるレポートもあり、教員側の説明が学生に届いていないことが確認できた。もちろん、しっかりと理解できて使いこなせるようになった学生もいるのだが、その割合をもう少し高める努力が来年度は改めて必要になると感じた。そのため、次年度はRにこだわらず、EZRなど、より平易なツールを使うことや、Rを引き続き使いつつも、その解説の仕方を工夫するなど、なんらかの対策をとりたいと考えている。

経営学部 経営学科
奥田　隆明　先生

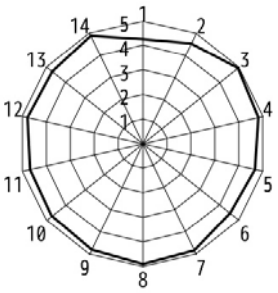
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ解析A
授業コード 42D09-001
教員名　奥田　隆明
教員コード 102600
登録人数　50
回答数　32
回答率　64.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　32人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　32人

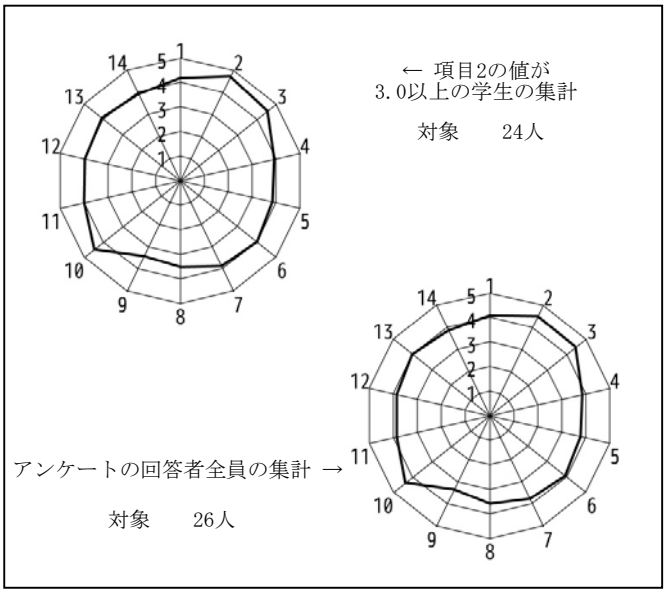
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、都市成長のメカニズムとそのマネージメントについて講義と演習を行った。数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にも理解できるように、できる限り復習を行いながら授業を進めた。当初の目標は概ね達成することができたと考えている。実際、受講生の目標理解（設問６）については平均値4.67（学部平均4.08）、目標到達（設問７）については平均値4.52（学部平均4.07）と高い値を示している。また、受講生の知識・理解（設問13）については平均値4.63（学部平均4.34）、総合的な満足度（設問14）についても平均値4.85（学部平均4.30）と高い値を示している。自由回答欄を見ると「実践的な演習問題があった」、「わかりやすい説明とEXCELのサポートが良かった」という指摘がある反面、「スクリーンのEXCEL画面が見にくかった」との指摘も見られる。来年度は、今年度の経験も活かしながら、数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にさらに理解できる内容にすることを心掛けたいと考えている。

経営学部 経営学科
姜　秉国　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　オペレーションズ・リサーチB
授業コード 42E16-001
教員名　姜　秉国
教員コード 019547
登録人数　45
回答数　26
回答率　57.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



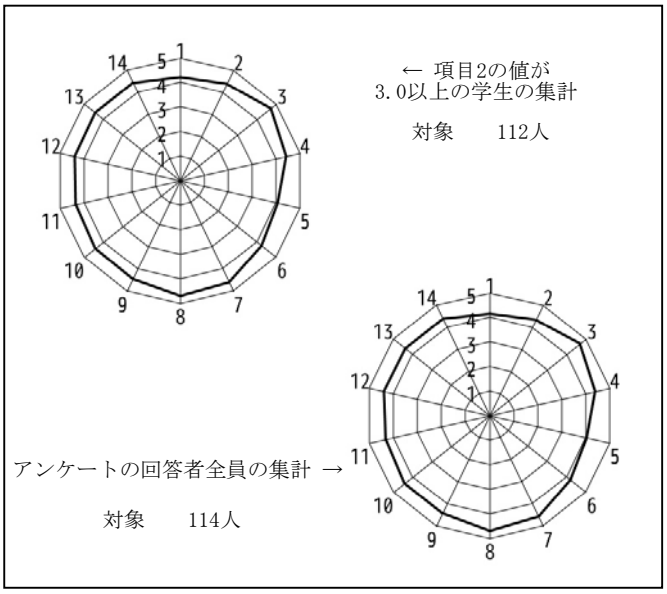
授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価項目全般にわたり良い評価を得ている。出来るだけ数式を使わずに平易な言葉で説明したこと、定型的な問題の解答方法よりＯＲのモノの考え方を理解してもらうよう努力したこと，また身近な応用問題を多く取り入れたことへの評価と受けとめている。今年は特にExcelに不慣れな生徒が多かったため、その基本的な使い方から説明する必要があって、できる限り学生の理解度に合わせて進めていった。その結果、授業目標は十分達成されたものと判断している。自由記述式回答（評価できる点）には、以下のような回答があった。
・非常に分かりやすく説明されていて、学生同士でよく考えて授業を受けられる点が良かった。
・先生に聞けばわからないところや質問に答えてくれる
・エクセルの知識がついた
・先生が何度もわかるまで説明してくれた
・エクセルの使い方を丁寧に教えてくださり、しっかり理解できた点。また生徒に合わせた進行であったため安心して授業が受けられた点。

経営学部 経営学科
後藤　剛史　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ビジネス経済学A
授業コード 42E18-001
教員名　後藤　剛史
教員コード 100374
登録人数　236
回答数　114
回答率　48.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は昨年度まで「企業論A」として開講されていたもので，今年度より，講義内容に沿った科目名に変更された．

① シラバスに掲げている「学生の到達目標」は，企業論Aと同様に「様々な経営戦略について、そのメリットとデメリット、あるいはそれら戦略の狙いを、経済学的に考えることができるようになること」である．この目標の達成度を期末試験(60点満点)の正答率で測るなら，58%であり，昨年度の57%と同様に，物足りない数字となった．

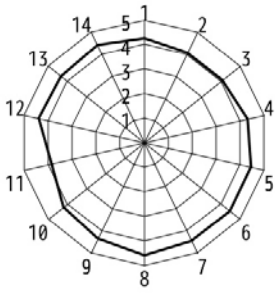
② 設問14（総合的な満足度）の平均値は4.39で，経営科目の平均値を上回ったものの，受講者数241名以上科目の平均値を下回った．また，この科目の過年度の数値と比べると緩やかな低下傾向にあることがわかる．以上のことから，その原因を考察したうえでの，何らかの改善が必要であるものと自己評価する．

③ 出席率を高めるべく，今年度より書き込み済みのレジュメの配布を取り止め，出席しない限り，授業内容を把握できないようにした．真面目な学生からは正の反応があったものの，一部の学生には「話を聞きながらメモを取る」という作業のハードルが高く，そのことが理解度や総合的な満足度の低下を引き起こしたのだと思われる．また，このようなかたちにしたにも関わらず，出席率は上がらなかった．これについては，「小レポートを出してさえおけば期末試験の点数が5割程度でも単位は取れる」という仕組みが原因であると考える．次年度には，期末試験100%の評価にしたうえで，学生のノートテイクに対して今以上に考慮した板書を行なうとともに，書き込み済みのレジュメは配布しないという形式は維持する，という運営を試してみたい．

経営学部 経営学科
小沢　浩　先生

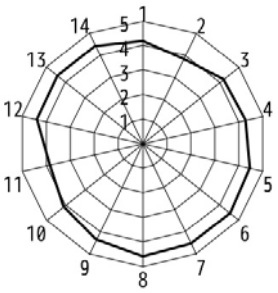
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　会計原理B
授業コード　40F17-001
教員名　小沢　浩
教員コード　104770
登録人数　64
回答数　17
回答率　26.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　15人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　17人

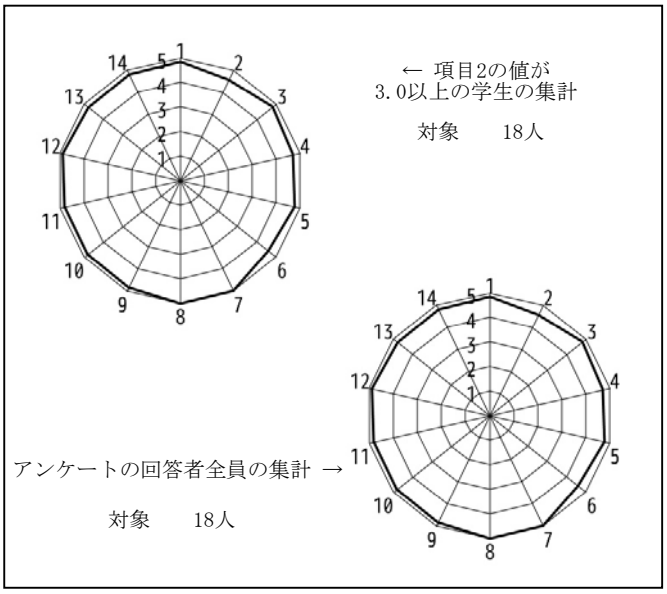
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①日商簿記検定３級レベルの内容を理解することを目標として設定していた。出席していた学生については，目標を達成できたと思うが，授業に一度も出席しない学生もいたため，全体として達成は不十分であったと思う。出席しない学生を動機づけることはできないが，何らかの対策を考えたい。
②アンケートの数値は悪くないようなので，出席していた学生にはそれなりに評価されたのだと思う。自分では，細かいところで説明の仕方を工夫するなど，改善の余地があったと感じている。
③授業が２コマ連続であったためか，学生の集中力が続かなかった印象がある。また，開講時間帯が遅かったために，途中で退出する学生もいた。時間割を工夫する必要があると感じた。

経営学部 経営学科
加藤　裕志　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アドバンスト会計B
授業コード 42C18-001
教員名　加藤　裕志
教員コード 104935
登録人数　22
回答数　18
回答率　81.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達程度につきましては、「管理会計の主なテーマについて理解を深め、会計的処理方法を修得すること」でありました。一部、難しい内容（例えば、原価の部門別計算など）も含まれてはいましたが、可能な限り、実際の社会でどのような形で（学習内容が）利用されているかを想像できるよう努めたことが、結果、参加された学生みなさんの理解が深まったことに繋がったのでは、と思っています。
また、テキストだけに頼ることなく、ホワイトボードに図表等を書きながら説明を行ったり、プリントを用意して実際に手を動かしてもらったり、授業中に問題集の例題を解いてもらったりと、出来る限り理解の確認が図れるよう授業を展開したことも良かったのでは、と感じています。
すでに学習したことのある学生にとっては、真新しいことが少なく、また、日商簿記1級程度の内容を前提としていたとはいえ、その全範囲を取り扱ったわけではないため、その辺で物足りなさを感じた部分もあったようです。次回に向けては、頂いた意見を尊重しながら授業内容を精査し、より良い授業となるよう取り組んでいきたいと考えます。

経営学部 経営学科
岡田　昌也　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　内部監査論
授業コード 42C38-001
教員名　岡田　昌也
教員コード 101623
登録人数　13
回答数　3
回答率　23.1%
休講回数　1 回
補講回数　1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

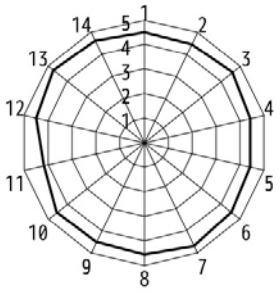
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、現在の内部統制の標準モデルであるCOSOモデルの理解とそれを利用した内部監査制度の理解である。もともと内部監査というのは一般的には馴染みがなく、ましてや学生にとっては全く縁のないものであるため、まずは「監査」の意味を理解し、監査の基本的な手法について説明した。
授業は、もっぱら講義形式であるが、今年度からLINEのオープンチャットを利用した。今までは発言を求めても積極的に発言する学生は皆無であり、無記名及び無音声のLINEであれば意見を述べるのではないかと思ったためである。
授業評価としては、回答者が3名のみであったため、統計値は取れなかった。
期末試験は筆記試験であったが、回答を見る限りでは、内部監査を理解することができた学生は幾人かいたため、授業目標は概ね達成できたものを考える。
LINEのオープンチャットを利用した感想としては、本来は自ら発言すべき年齢だとは思うが、時代が時代でもあり、致し方ないとも思う。それ以外に発言をしてくれる方法は思いつかないため、今後も利用する予定である。

経営学部 経営学科
小澤　和弘　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報基礎2
授業コード　42D01-002
教員名　小澤　和弘
教員コード　103586
登録人数　50
回答数　18
回答率　36.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

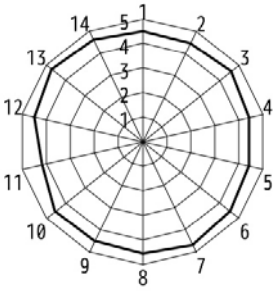


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　18人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　18人



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、情報処理機器の基本的な操作方法、文書作成、表計算処理の基本技術の修得、ビジネス文書におけるマナーやルールの理解、各種データの基礎的な統計処理方法の修得、生成AIの使い方と注意点の理解を主な目標とし、コンピュータによるMicrosoft WordやExcelの演習を中心に授業を実施した。

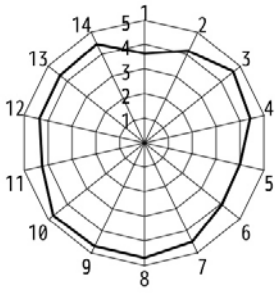
学生による授業評価は概ね高評価であり、授業目標もほぼ達成できたようである。自由記述には、「毎授業後に感想を書いた紙を回収し、それによって学生の理解度を測り、進度を合わせてくれていた」「どんな小さな疑問点でも、質問をすると丁寧に教えてくださって、より興味が湧き、理解が深まった」「自分が今まで知らなかったワードやエクセルの機能を学び、実際に自分で使えるようになって楽しかった」等のコメントがみられ、授業内容や進行も概ね良好だったようである。

次年度においても、本年度の授業内容を踏襲しつつ、主体的にコンピュータ操作の特徴や利点をより深く理解し、社会生活を見据えた実用的かつ効率的な技術が身につけられる授業を展開できるよう努力していきたい。

経営学部 経営学科
薫　祥哲　先生

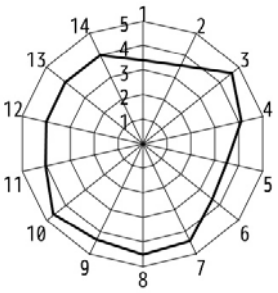
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営環境論A
授業コード　42E05-001
教員名　薫　祥哲
教員コード　018168
登録人数　37
回答数　21
回答率　56.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　16人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　21人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

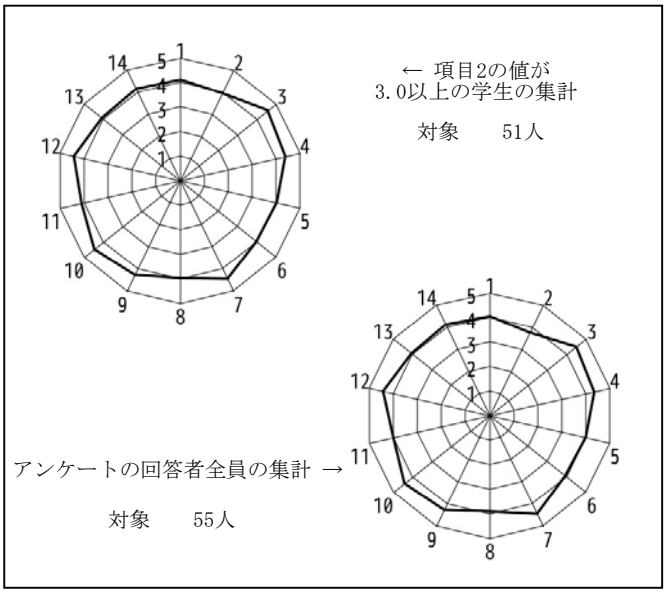
枯渇資源の最適利用、汚染問題、環境資源を公共財や共有資源として捉えた場合の最適な資源利用などについて、ミクロ経済学的なアプローチから講義を行った。また、環境税や排出権取引制度についても、その特徴やメカニズムを説明した。何ごとにも費用とメリットが発生し、これらを比較検討した費用便益分析から最適な環境政策が決定できることの重要性を理解することを目的とした。全体的な授業満足度を尋ねた設問14の平均値は4.00であり、これらの目的は概ね達成できたと思われる。

サーバにアップした31ページの講義レジュメに沿って授業を進め、学期中には３回の練習問題課題レポートを提出してもらった。これらレポート提出後には、授業で解答を説明した。自由記述欄には「グラフを書きながら丁寧に説明して下さったことが良かったです。」「最初は計算が多そうで不安だったけれど説明がわかりやすくてよかった。」といった好意的なコメントがあった。しかしながら「内容が難しすぎました」というコメントが一件あり、37名の履修登録学生中、9名が定期試験を欠席していた。今後、「試験放棄」する学生が減るように、授業や講義がより分かりやすくなるような工夫を継続して行きたい。

経営学部 経営学科
筒井　肇　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(現代銀行論)
授業コード 42F02-001
教員名　筒井　肇
教員コード 104939
登録人数　218
回答数　55
回答率　25.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



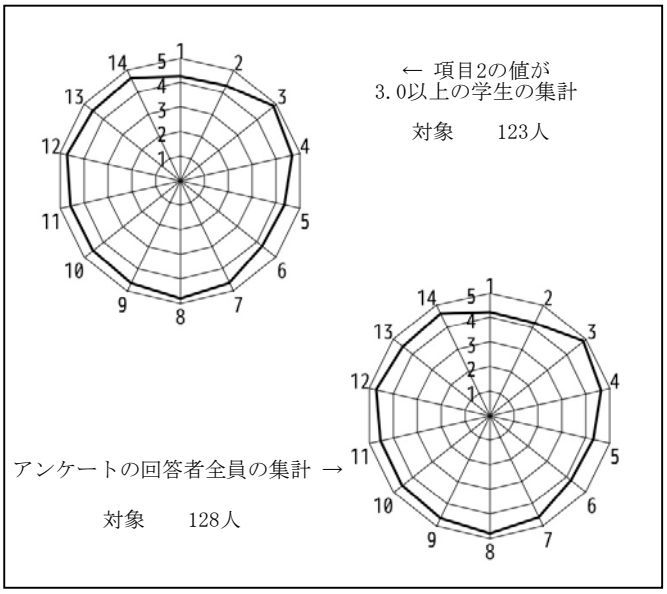
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、今年度、初めて開講する科目であり、履修対象は2年生以上で他学部他学科の履修が認められており、受講学生数は200名を超える規模で開講した。
開講前に想定していたことであるが、学生間の学習履歴に相応の差異があると思われたことから、講義の進行に際しては、学生の理解度や反応ぶりを確認しつつ、進めることに留意した。
①学生の問題意識の内容やその深度を把握する目的から、初回のレポートにその旨の課題を組み込み、学生の現状を把握することに努めた。想定していたように、経済経営系の学生とそれ以外を専攻する学生との間で相応のバラつきが認められたことから、講義に際しては、できるだけ基礎部分の解説を厚めにするように内容を調整した。講義の終盤にてシラバスに記載のある目標について学生の理解度を聴取したところ、理解が進んでいるとの声が多く、所期の目標は、おおむね、達成できたのではないかと考えている。
②授業評価に関して、講義内にて、一定の時間を確保し、学生にアンケートの回答を促した。ただし、回答結果数をみると、55名に止まっており、その要因が気になるところである。
回答の平均値は、各項目とも4前後の結果となっており、最低限はクリアーしたと考えている。
なお、本学での講義は、初めてであり、2コマ連続の講義において出欠の管理の在り方を考える必要があると考えている。
③初回の講義ということもあり、学生の問題意識や深度の把握に努めた。ある程度の感覚を身につけたことから、そうした経験値も踏まえて、講義の範囲について多少の見直しを行い、次年度の講義に臨みたい。

経営学部 経営学科
近藤　智也　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(先輩実務家と語る)3
授業コード 42F08-003
教員名　近藤　智也
教員コード 104806
登録人数　338
回答数　128
回答率　37.9%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



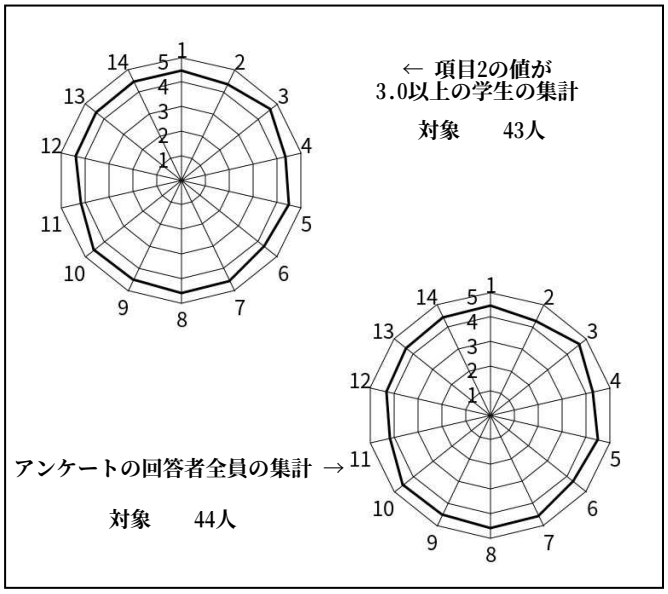
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義の目標は次の点を鑑みて設定した。（１）昨年度の実施内容と履修生の理解度、（２）履修生が経営学の基礎レベルに達していない者を多く含んでいる、（３）講義のサブタイトルにある「先輩実務家と語る」の『語る』を意識したものにする。以上より、中小企業論、とりわけ企業財務（事業再生）を取り上げ、質問が上がるよう促し、それに双方向な構成になるように心掛け、中小企業の問題点、中小企業、大企業いずれに関わる身になっても活かせる知識と、アカデミックな議論の楽しさを伝え、およそ6割の履修生の一定の理解ができている状況を目標とした。結果としてレポートを提出させたが、おおよその理解は到達できたと考えている。
②上記自己評価に対し、履修生側はそれほど理解に達していなかったという結果であり、当方の目標が低く履修生はより理解を深めたいことがうかがえた。
③上記のも書いた通り、本講義では『語る』の要素を入れ、これにより前回の講義内容の質問への回答や派生質問への往復を行うことで、一部の履修生から評価報告書において一方的な講義形式を求める声もあった。これについては講義中何度もアンケートを取り、講義内容の進度と質疑応答の時間の配分についてアンケートを取り確認している。ただ今後は第1回目の講義でその特徴をより正確に伝えるように努めるべきと改善を予定している。

経営学部 経営学科
山下　忠康　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学B6
授業コード	12C09-006
教員名	山下　忠康
教員コード	101152
登録人数	98
回答数	44
回答率	44.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



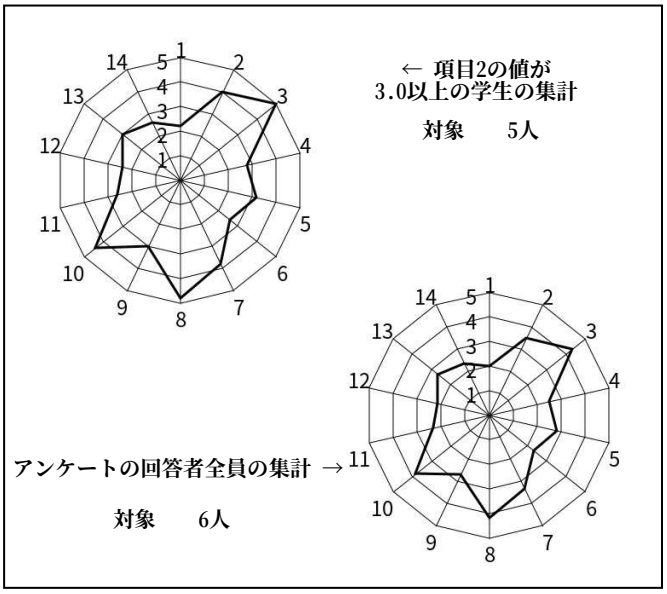
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
下記の５項目を目標として設定していたが、定期試験の得点結果からみて概ね達成できたものと判断している。
１．税金および税額計算の基本的な仕組みを理解できる。
２．不動産に関する基本事項を理解できる。
３．相続の基本を理解できる。
４．財産評価の基本を理解できる。
５．FP３級試験に合格できる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
同じカテゴリーの科目の平均値とほぼ同水準であったことを一定の自己評価を行っている。
自由記述に関しては、分かりやすさ等の前向きなコメントが多かった。改善点に関しては、もっと早く進行してほしい等のコメントがあった。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負等。
この科目は、大学生の金融経済教育の一環として行っており、受講者の金融リテラシーの向上に寄与したいと考えている。　以上

経営学部 経営学科
宮元　忠敏　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　数学B
授業コード 12E02-001
教員名　宮元　忠敏
教員コード 017293
登録人数 21
回答数 6
回答率 28.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



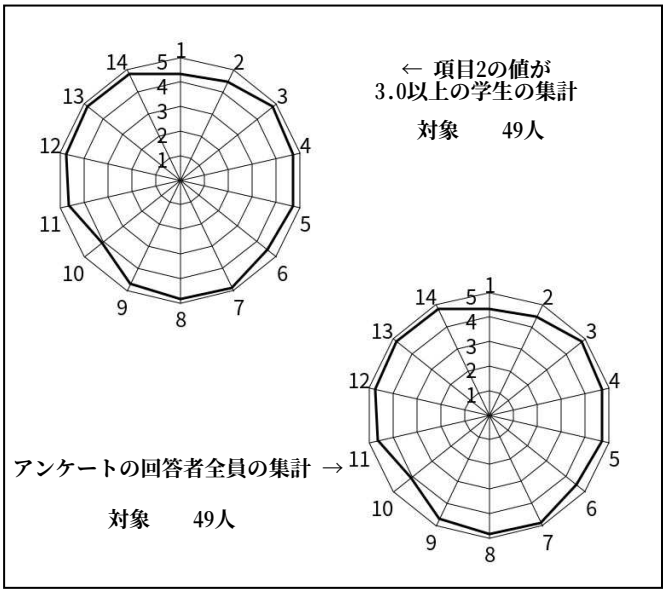
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達の程度：整数の合同式、フェルマーの小定理と関連事項、特定の型の素数、合成数判定、その後、実数の表現と有理数による近似をテーマとして、全てカバーできた。
数値データで自己点検・評価：低い方で、2.00（この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか）、2.17 (質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか),
比較的高い方で、4.33 (授業の開始と終了の時間は守られていましたか)、4.17 (授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか)であった。次に履修生のコメントで、難しすぎる・全学共通科目基盤として、レベルが高く不適切である等（3件）、細かい解説が理解しやすかった（1件)、授業の開始時間, 終了時間が厳守されていた(1件)、レポートの出来が悪くても挽回できるように出席点を設けているところ（1件）
レポートに調べ学習を取り入れたところ（1件）であった。
改善点・抱負：講義ノートは事前にUPされてあり、予習・復習が可能である。講義開始15-20分前には、教室に入り、PCの接続等のSETUPを行った。復習のための時間を授業のはじめにとり、簡単なクイズを行った。次回から14回の授業となるので、１講分圧縮する必要がある。

経営学部 経営学科
川北　眞紀子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済の諸相1
授業コード 13C06-001
教員名　川北　眞紀子
教員コード 102879
登録人数 105
回答数 49
回答率 46.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初の目標は，アートについて興味をもち，語れるようになることであったが，自由回答記述を見ていると，それは達成できたと思われる。
②全体満足は4.78，「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」については，4.82と非常に高い得点である。自由回答を見ると「ずっと面白い講義で時間があっというまでした。内容も興味深かったです」「自分でアート関連の施設に赴いて学習をするという点が今までにない形で良いと思った。他の学生の発言からも様々な考え方があることを知ったので今後の参考にしたい」「授業のレベルが高かった」「生徒に寄り添った、親切で面白い授業でした」「実際にゲストをお招きして美術館におけるマネジメントの裏を教えていただきすごい貴重な講義を受けれたと思いました」と高い評価である。これまで，回を重ねるごとに，かなり工夫をしてきたことがよかったと思われる。
③改善すべき点は，学生の私語をもっと厳しく注意すべきということである。自由回答にも私語についての言及があり，項目10の点数が4.08と最も低くなっている。また，課題の提出日の設定も改善の余地があるのかもしれない。

経営学部 経営学科
長谷川　高則　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報機器の操作3
授業コード 14D02-003
教員名　長谷川　高則
教員コード 000162
登録人数 5
回答数 0
回答率 0.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

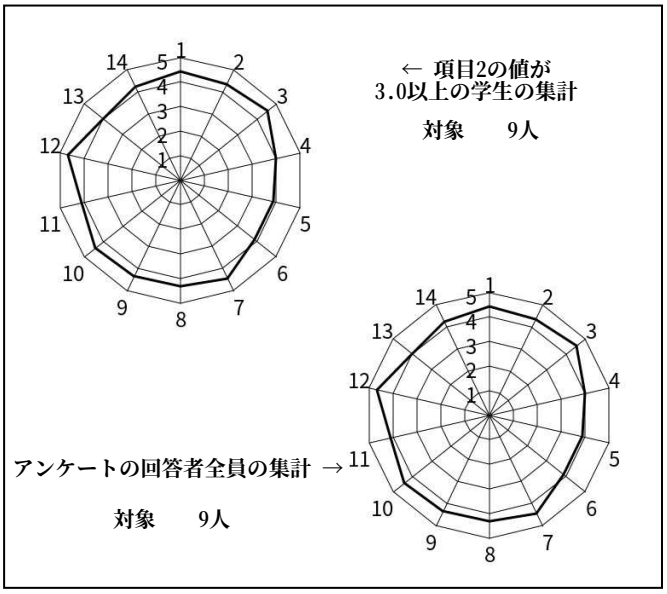
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．授業目標
　この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標にしている。今回は受講者数が少ないクラスであったが、パソコン操作のスキル差は大きく、授業の進行状況は遅れ気味であった。
２．目標達成度
　出席状況は欠席が多く、欠席者への対応が十分にできなかった。開講当初に設定した授業計画は70%ぐらいしか達成することができなかった。レポートの内容は低評価のものが多く、演習課題も完成度の低いものが多かった。
３．授業評価
　回答数が4件以下のため集計されなかった。
４．今後について
　時代に対応した授業内容にすべきだと思う。

経営学部 経営学科
竹澤　直哉　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ファイナンスB
授業コード 42C08-002
教員名　竹澤　直哉
教員コード 101191
登録人数　31
回答数　9
回答率　29.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

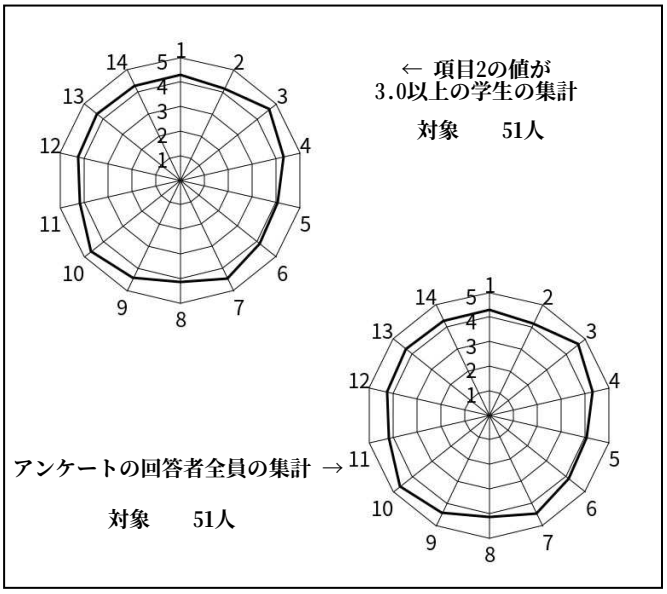
今年も授業目標を以下のように設定した。
　企業価値、資本コスト、キャッシュフローリスクの概念を理解し、企業財務に関する諸問題に応用する知識を修得すること。

今年は項目1からもわかるように、授業に対する興味が高かったものの、項目4から6の評価が低いことからもわかるように理解が深まったという印象を与えることに課題が残った。前回と異なり、授業で得た知識が確実に身についたかどうかを自覚できるよう実例や数値例を提供することを行ったが、目標が十分に伝わっていないことから、到達目標を明確にすることを検討する余地が残った。一方、多くの時間を質疑応答に割くように努力したため、項目は7,8,9,12の評価は高かった。
以上の分析を踏まえ、今年の授業目標は概ね達成できたと評価する。今後は、到達目標の明確化や演習や課題を通して、この授業で得た知識が確実に身についたことを自覚できるように工夫することを検討する。

経営学部 経営学科
南川　和充　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　マーケティング論B1
授業コード　42C10-001
教員名　南川　和充
教員コード　100478
登録人数　115
回答数　51
回答率　44.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



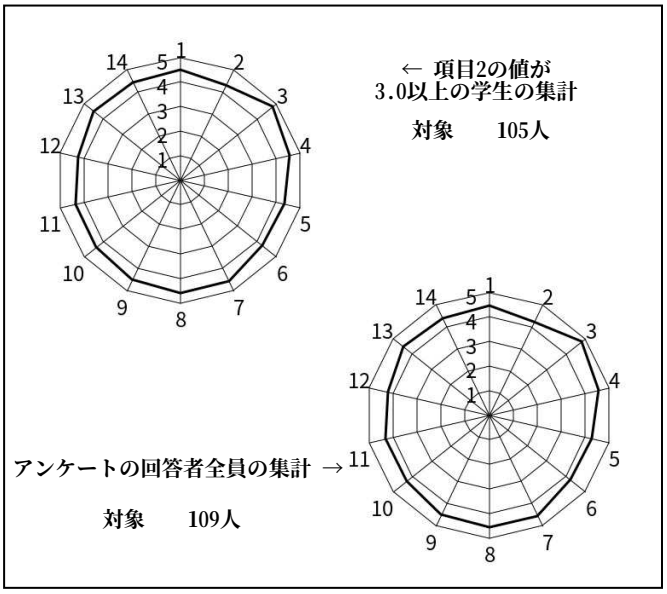
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①．到達目標は(1)～(4)（シラバスを参照のこと）を設定した。これを達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)(2)について肯定的評価の自由記述には「毎時間課題があり、内容の復習が容易になっていたこと。」「期末試験だけでなく中間試験もあることで、授業内容の確認を行う機会が増えたので、理解が深まった。」があった。また、目標(3)(4)については「授業で学んだことを課題を用いて実践することによってより理解が深まる。」といった自由記述があったし、応用力や実践力の養成を狙った課題および中間試験の出来が良好であったことから、達成されたと判断できる。今回も中間試験結果の返却や提出課題のフィードバックを実施できなかったが模範解答を開示しているので、それを確認している受講生については力が身についていることを実感させることができたと思う。
②．項目1を除く全ての項目が経営学科科目での平均値を下回っており、毎回のごとく反省しているが、前回2023年度Q3と比較して、本科目の授業評価結果は項目11と項目12を除く全項目で上がった。
③．今年度も実施できなかったフィードバック（中間試験や提出課題の結果返却）を次年度は実施したい。課題を多くさせていること自体は評価を得ているが、所詮は受講生はそれら与えられたものに対して解答をしているだけであり、今のところはあくまでも受動的な受講態度にとどまっているように思える。次回以降は、学修に能動的な姿勢を持っていない受講生には何とかそれを持たせるように、授業内での参加を伴った課題の実施や自主的な学習を促す工夫をしたい。

経営学部 経営学科
石垣　智徳　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　マーケティング論B2
授業コード　42C10-002
教員名　石垣　智徳
教員コード　101889
登録人数　248
回答数　109
回答率　44.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定した目標については、「マーケティングの基礎的な理論や考え方を習得する」「事例とマーケティング理論の関連が理解できる」であり、理論や考え方については充分時間をかけて説明した。また、到達の程度については事例をできるだけ多く提示することも心掛けたので目標は達成できたと考えている。

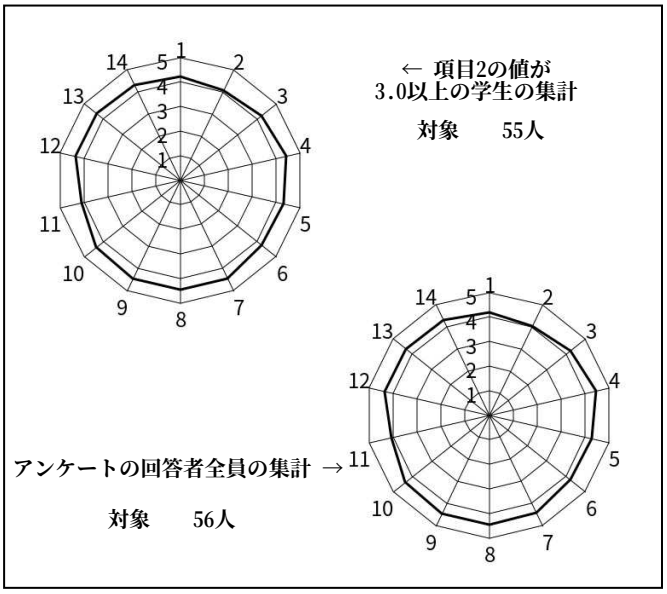
担当科目に関する総合的な自己点検・評価は、コロナ禍後、すべて対面授業になったが授業中の私語は以前に比べて少なく皆授業に集中しているようであった。14項目から構成される学生アンケートの結果はすべて4.2点以上（項目最低平均4.22）であった。学生からも一定の評価があったと考えている。記述回答のところで、「レジュメの内容を別途の補足資料を使用して丁寧に説明されていたこと」「具体的な事例と理論を交えながらの講義が良かったです」というコメントがあったが、「レポートの提出期間が短すぎる」「（署名用名簿を授業中に回しているので）出席だけ書きに来る、書いて帰る、あるいは代理で名前を記入している学生がそこそこにいて、真面目に出席している生徒と区別する工夫がされていると嬉しいなと思った。」というコメントもあり、レポートの〆切に関する検討と署名のみに来る学生の識別できる何かが必要であることを認識した。また、対応を考えるべき点として「出席システムに関する不満」と「過去の資料を消されていて困った」などがあり、今後適切な対応をしていきたい。

今後に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、学生たちが集中して授業を受けられ、不平等感がない出欠確認ができるような準備を行いたい。

経営学部 経営学科
安田　忍　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	財務会計論B
授業コード	42C12-001
教員名	安田　忍
教員コード	101561
登録人数	133
回答数	56
回答率	42.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

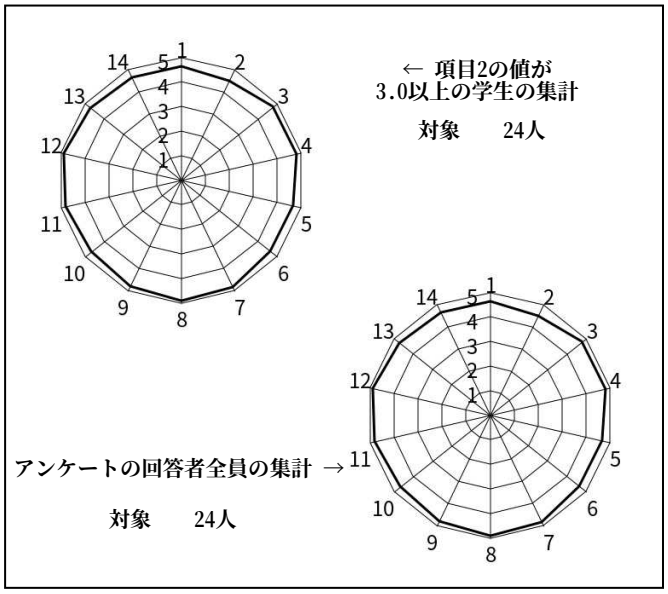
この授業は、企業の財務情報を認識・測定し、報告するための企業会計システムについて、制度会計の観点から講義し、会計理論と会計処理および財務諸表の関係を明らかにすることを目的にしており、到達目標は①財務報告制度に関する知識を習得することができる、②会計基準の内容と考え方、会計処理との関係を理解することができる、③財務諸表の表示内容と財務情報の意味を理解することができる、の３つであった。財務会計論Bは、特に貸借対照表項目の会計処理と貸借対照表への表示に焦点を当て、表示原則、事業用資産と金融資産の評価の考え方、株主資本の内容と処理について学習した。設問6の4.23の数値や定期試験の結果から、到達目標はおおむね達成できていると判断できる。

設問の各平均値はすべて４以上であるが、2と11が4.02、4.09と低めで、1から14の平均4.30、3から14の平均4.33となっており、大学全体の平均値より低い結果であった。自由記述（良かった点）は13件あり、わかりやすかった、知識がついた、理解が深まった、速度が良かったなど、授業上、工夫を心掛けている点に効果あったことが見て取れる。自由記述（改善点）では、板書の文字の大きさについての指摘が２件あった。今後はさらに板書する内容の配置と記載事項を工夫して、文字を大きく記載できるように改善していきたい。

経営学部 経営学科
安藤　史江　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営組織論B
授業コード	42C14-001
教員名	安藤　史江
教員コード	019554
登録人数	68
回答数	24
回答率	35.3%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



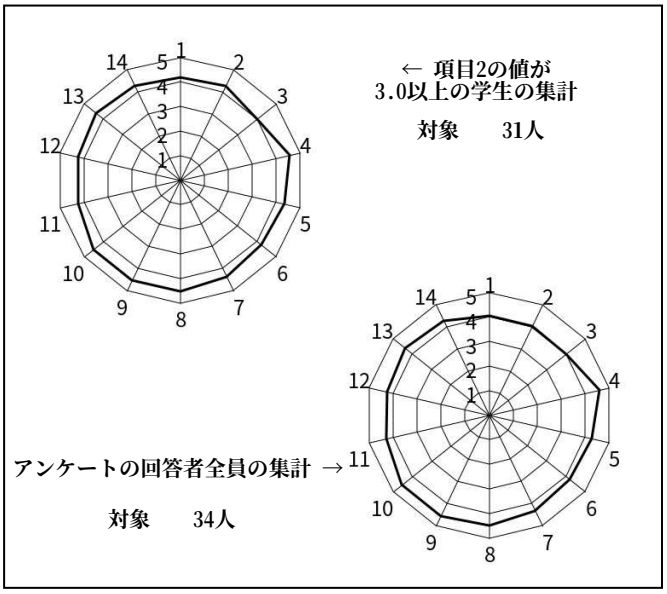
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、経営組織論の中の組織学習論に関する基礎知識を習得し、それを日常生活や実務と結び付けて理解できるようにすることを目標としました。その到達の程度は、授業評価の結果をみる限り、目標に関する力がついたかという項目６に対して、学部平均を上回る4.63の評価が得ることができたこと、レポートの内容もしっかりとまとめられていたことから、十分に達成できたと考えます。また、総合的な満足度を含め、すべての項目で4.5を上回ると同時に、多くの項目で学部の平均点を0.4ポイントほど上回ることができていることからも、一定の効果・達成状況を得られたものと捉えております。また、今回の受講人数が例年と比較して少なかったこともこの結果に影響していると考えられます。次年度では、ゲームなどもあるとよかったという声もあったため、そうした内容を取り入れることも考えてみたいと思います。また、受講人数が増えた場合にも、今回と同様の効果が得られるように、何らかの工夫をしていく必要があると考えております。

経営学部 経営学科
中島　裕喜　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営史B
授業コード	42C16-001
教員名	中島　裕喜
教員コード	103065
登録人数	106
回答数	34
回答率	32.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、経営学部に設置された歴史系科目ということで学生に興味を持ってもらえるような内容とするということだった。これについては質問項目１番「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」が4.06となっており、昨年よりも改善されていると考えている。②質問項目４「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」が4.62、質問項目８「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」が4.50となっており授業の進め方はかなり高い満足度を提供できたと考えている。その他の項目についても4.0を下回るものがないため、概ね高い満足度を提供できたと考えている。③次クオーターは、今期と同様に、経営学部内にある歴史系科目ということで学生の関心から離れたところからスタートすることになるため、理解が深まるような教育素材を集め、講義中はなるべくゆっくりしたテンポで内容が正しく伝わるように心がけたいと考えている。

経営学部 経営学科
池田　亮一　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　資本市場論(債券・株式)
授業コード　42C19-001
教員名　池田　亮一
教員コード　101880
登録人数　10
回答数　2
回答率　20.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は，債券・株式の基本的性質を理解し，それらやその価格決定理論について説明することができるようになることが目標であったが，概ねその目標は達成できたように思われる。しかし，全体の回数の7，8割ぐらいは出席したものの，Fだった学生が20%程いたことは驚きであった。一方で満点近くを取っている学生もいるので特に問題が難しかったということもないと思われるので原因は正直よくわからない。授業評価のアンケートではこの授業の良いところとして「各生徒に理解を確認してくださる機会が多く設けられていた点」とあったように，学生が理解できなそうなところはゆっくり何度か話す工夫はしてきたので，今後は中間テストなどを導入してその年ごとの理解度を学期中に把握した上で期末テストを行うことも考える必要がある。出席率があまり高くなく授業評価の回答率も低かったが，授業評価自体は高かったので悪くない授業だったのだろうと理解している。

経営学部 経営学科
赤壁　弘康　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	投資論(証券投資)
授業コード	42C30-001
教員名	赤壁　弘康
教員コード	100788
登録人数	5
回答数	2
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

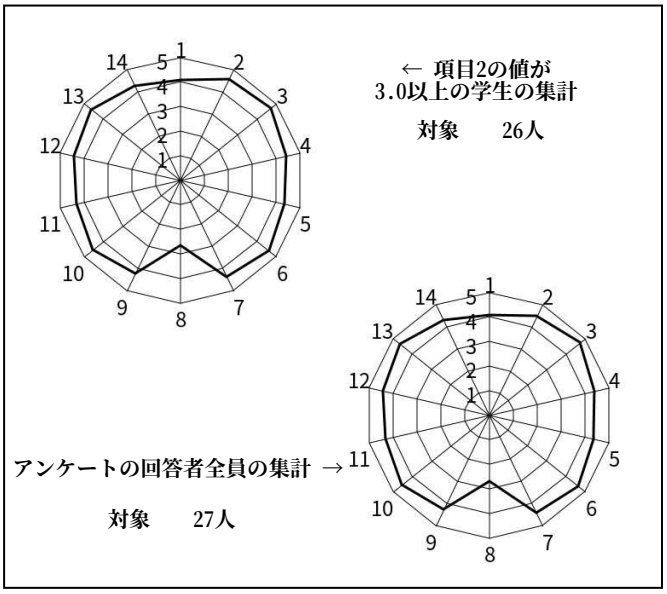
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① ファイナンス関連科目を学んでいない受講生のために、必要な概念の復習からスタートし、金融教育の眼目「賢明な投資家でいるために取るべきリスクと回避すべきリスクをどのように見分けるか」について講義した。当初目的はほぼ達成できた。講義資料はWebClassによって提供した。ほぼ毎回授業時に受講者にはリアクションペーパーを提出させた。リスクについての理解を深めるため、授業時に映像資料を視聴する機会を設けた。
② 登録委受講生は5名であったが、常時授業に出席したのは２名であり、授業時のリアクションペーパーをによって理解度をチェックしながら授業を実施した。出席者２名のうち１名は法学部生でファイナンス関連科目の履修は初めてということであったが、授業に最後までついてきて最終レポートを提出し、２名とも合格した。
③ 元来受講生が多くない科目であったが、これだけ受講生が少ない年度は初めてであった。今年度のように受講生が極端に少ない場合、当初の授業予定を厳格に守るのではなく、受講生の理解度を常にチェックしながら重要なポイントを押さえながら授業を進めようと思う。

経営学部 経営学科
姜　秉国　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報処理A
授業コード　42D02-001
教員名　姜　秉国
教員コード　019547
登録人数　30
回答数　27
回答率　90.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



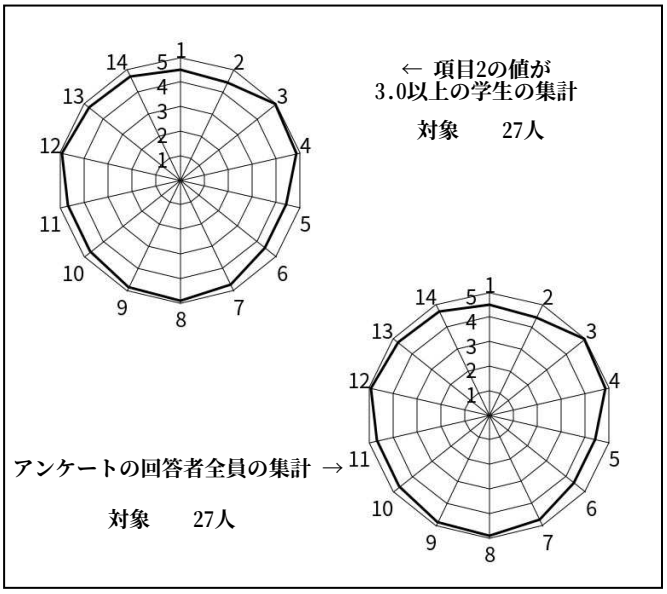
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生の出席、またレポートと発表内容から、授業の目標は十分達成されたものと判断している。しかし、表計算ソフトの使い方に関する生徒の習熟度にはバラツキが大きい問題は以前と変わらない。中にはほぼ初めて表計算ソフトに触れるような生徒もいる。そのため、今回は生徒の習熟度のバラツキを測る小テストを実施し、学生のレベルに合わせた内容と進め方を取った。教員一人で習熟度の違う生徒の理解度の合わせた個別指導には限界があるが、後半に入るとついて来れるよう心掛けていた。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメントがあった。
・先生が分からないところを丁寧に説明してくれた
・最初に生徒がどのくらいの知識を持っているのか小テストを行ってそれに合わせて授業を進めていってくださっていたのがとても助かりました。
・Excelを使った実践的な演習を徐々に難易度をあげながら取り組むことができたので理解しやすかった。
・進行スピードがちょうどよく理解を深めやすかった。
・実践形式の問題が多く取り扱われてた点
・実務を学べた。

経営学部 経営学科
奥田　隆明　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	オペレーションズ・リサーチA
授業コード	42E15-001
教員名	奥田　隆明
教員コード	102600
登録人数	48
回答数	27
回答率	56.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

地域産業連関分析やシナリオ・プランニングを活用しながら、将来のビジネス展開の可能性を考えることができることを到達目標とした。この目標に対して受講生の59%が「力がついた」、22%が「どちらかと言えば力がついた」と回答している。毎回、授業の後半には演習問題を行った。こうした演習を通して授業内容を具体的に理解することができたのではないかと考えている。

実際、「設問4：授業構成や進行速度」は平均4.85（学部平均4.58）、「設問8：教員の声」は平均4.93（学部平均4.47）、「設問9：理解度の配慮」は平均4.85（学部平均4.58）、「設問12：質問や相談」は平均4.93（学部平均4.46）となり、学部平均と比較しても高い値を示している。また、「設問14：総合的な満足度」についても、平均4.67（学部平均4.43）と比較的高い値を示している。

自由回答欄を見ると、「少人数に設定されており、質問・相談しやすかった」、「演習問題を通してエクセルのスキル向上に繋がった」などの意見が見られた。毎回、演習の時間には、分からない点について個別に質問を受け付けた。特に、EXCELの操作については個人差が大きいため、分からない学生には基本に立ち戻って教えることが重要である。一人も取り残さない授業を情報系科目で実現するためには、次年度も受講者数に上限を設けることが望ましいと思われる。

経営学部 経営学科
BIERI, Thomas 先生

2024年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(ビジネスとジェンダー)＜国際科目群＞
授業コード	42G26-901
教員名	BIERI, Thomas
教員コード	102517
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

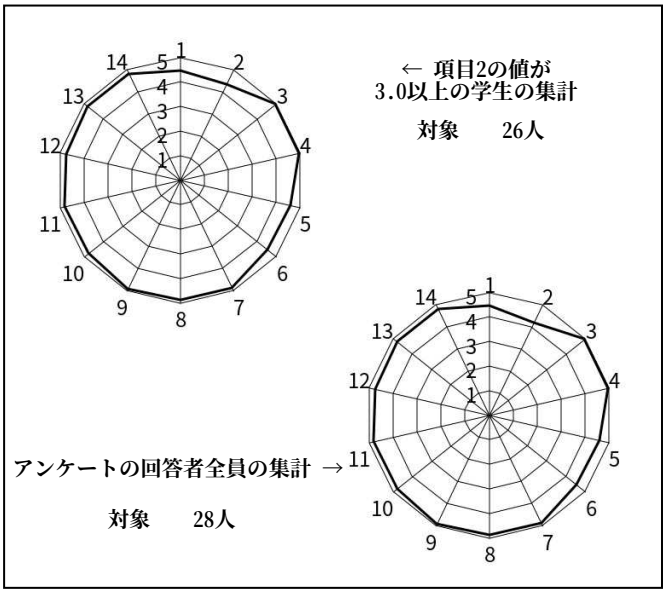
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the content learning goals were partially, but not completely, achieved. The assessments showed some struggles with understanding the materials, which I think was to a great extent the result of some of the students not having adequate English skills for this course taught 100% in English. I did give opportunities to have multi-modal input and gave students in-class opportunities to work together on comprehension activities as well as to ask me questions and also gave follow ups to areas they seemed to struggle with. But the students who I felt most needed to access supplementary and review materials outside class didn't seem to take advantage of those opportunities very much.
While 5 students were registered for this course at the end of the drop period, only four actually attended, and only one student replied to the questionnaire even though I asked them to do it in class. That student scored all items "5" and made no additional comments.
Therefore, I have no specific data from the questionnaire to provide action points for future improvements. However, I will continue to try to improve materials and delivery of lessons to encourage greater comprehension.

経営学部 経営学科
篠田　朝也　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営分析論B
授業コード　42C41-001
教員名　篠田　朝也
教員コード　104787
登録人数　59
回答数　28
回答率　47.5%
休講回数　2 回
補講回数　0 回



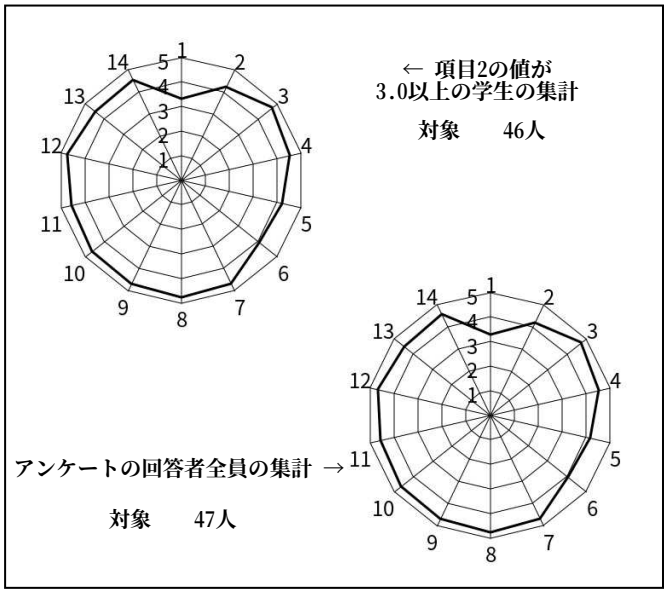
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　開講当初に設定していた目標と到達の程度については、課題の出来具合と「項目番号5」「項目番号13」のアンケート結果のいずれから見ても、十分に達成できていると評価している。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　数値データは，いずれの項目も経営学部の平均値より高く，概ね問題のない授業実施であったと考えている。
　また，自由記述欄についても，基本的には好意的な内容が多く，特に問題はなかったものと認識している。
　1件だけ「授業内でアンケートを取る際に、提出が間に合わないことがあった」というコメントがあったが、ほぼすべての学生から提出を得られており、また、時間制約もあるなかで円滑に授業を進行させる必要もあるため、追加的に時間をとることは難しい。遅れた提出なども認めているので、その旨を含めて、個別対応を検討したい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　来年度も継続して授業を担当する予定であるため、アンケート結果を踏まえて、改善できる点は改善し、好意的な意見をもらった点は継続していきたい。

経営学部 経営学科
武内　幸生　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営学のための統計学II2
授業コード	42C53-002
教員名	武内　幸生
教員コード	104717
登録人数	145
回答数	47
回答率	32.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について
　開講当初授業目標として設定していた「回帰分析結果の解釈」まで到達することができた。
　また、教科書の例題以外に類題を用意し、授業範囲全範囲の簡易復習問題を準備して解説まで行うことができた。

②について
　自己評価は80点である。理由は、評価点として平均4.5/5.0点であること、分かりやすいという自由記述コメントが多かったためである。
　また、自由記述に注意点をあげて頂いた分も考慮した。注意点に関わる対応は③に記述した。

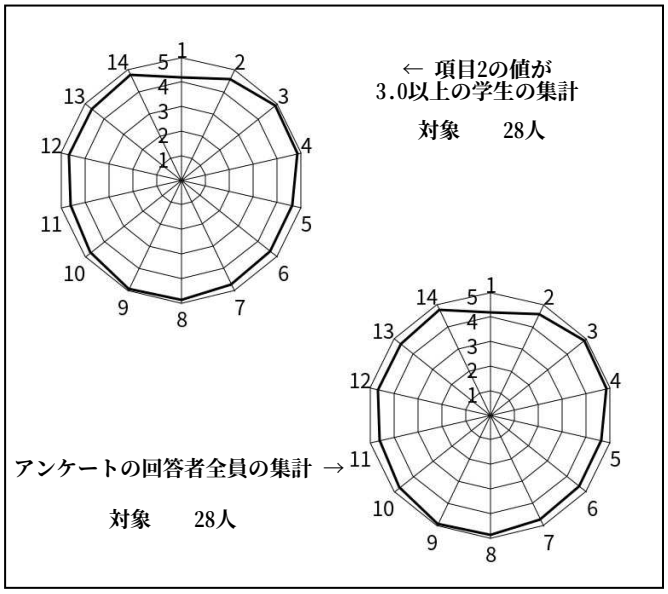
③について
　次回以降の改善点は以下の通り。
　　・話し合いが盛り上がった後の解説は、話が収まるまで少し間を持つようにする。
　　・講義資料は授業後に修正が発生したとしても事前にアップする。
　　・個別質問は、教科書の内容に間接的に関連があることを解説する。
　　・出席点が無い代わりに質問や発言で加点していることを強調する。

以上

経営学部 経営学科
金丸　義弘　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(電子・電機産業論)2
授業コード　42F03-002
教員名　金丸　義弘
教員コード　104609
登録人数　98
回答数　28
回答率　28.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



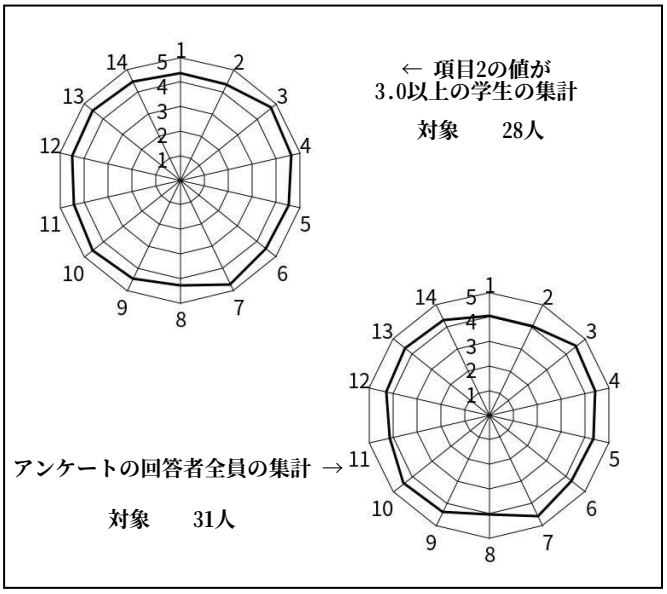
授業評価結果を踏まえた点検・評価

2024年度３Qの講義について。当初の達成目標には到達できたが、まだまだ講義に集中できず私語をしたりスマホをいじる等の学生が１０人程度いた。私も集中できないし、真面目な学生を妨げる場合は都度注意をしているが今学期は特にそれが目立った。単位だけ取れれば良いと考えている学生と講義に真面目に取り組む学生のレベルの差が激しい。何とかならないだろうか？　また、登録変更期間の間に履修科目を変更する等で1回目、2回目の講義は欠席し、3回目以降から出席してきた学生が数人いたがおかしいのではないだろうか？制度上の問題で欠席できるのであればＳ評価はつけられないし、履修変更期間などは講義が始まる前に終了していなければならないと感じた。来年度は講義への出席度、集中度を高めてもらう工夫をさらに入れたいと思う。また１００人規模での講義の場合、もう少し広い教室の手配をお願いしたい。エアコンを作動させていても暑いとのコメントがあったし、窮屈そうである。

経営学部 経営学科
飯島　修　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(自動車産業論)1
授業コード 42F04-001
教員名　飯島　修
教員コード 104485
登録人数　99
回答数　31
回答率　31.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「到達目標を理解することができたか(項目5)」の値が前年の4.43から4.35となっていたが、
注視している「到達目標に向けて力がついてきていると思うか(項目6)」の値は
4.27から4.29となっていたので、まずまずだった。

到達目標と授業計画の関係、講義資料や参考資料の活用方法など、
授業の進め方について初回授業で説明しているが、初回授業に出ていない
学生が3割程度いたことも踏まえ、履修者が確定するまで、適宜きちんと
説明していきたい。

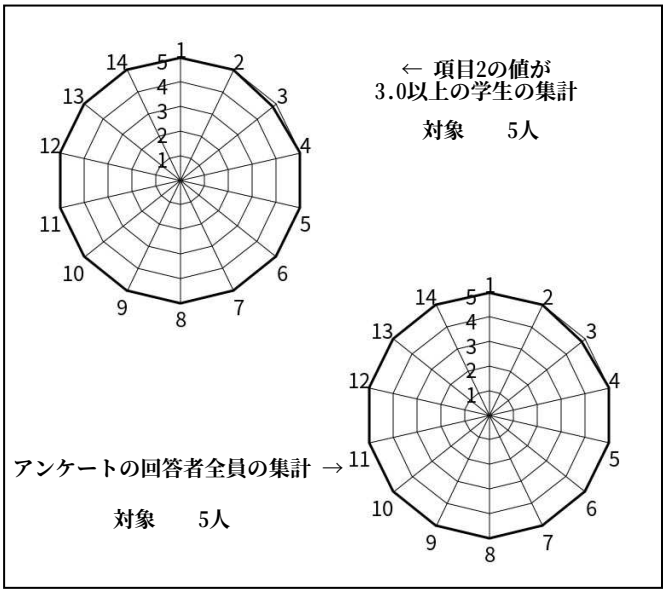
「履修前に授業の内容に興味を持っていたか(項目1)」の値4.06に対し、
「この授業に満足したか(項目14))」の値が4.29となっていた点は
良かったと思う。

自由記述で、「動画などもあったため、理解が深まった」、
「文字だけでなく、図や表もありわかりやすかった」
とのコメントがある一方、
「文字が多かったので読むのが大変だった」、
「細かく説明されている分、分量が少し多いと感じた」
とのコメントもあるので、文章の読み込みに重点を置き、
復習による理解・定着を図って作成している講義資料については
さらに改善していきたい。

経営学部 経営学科
小沢　浩　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　工業簿記I
授業コード　42H03-001
教員名　小沢　浩
教員コード　104770
登録人数　10
回答数　5
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



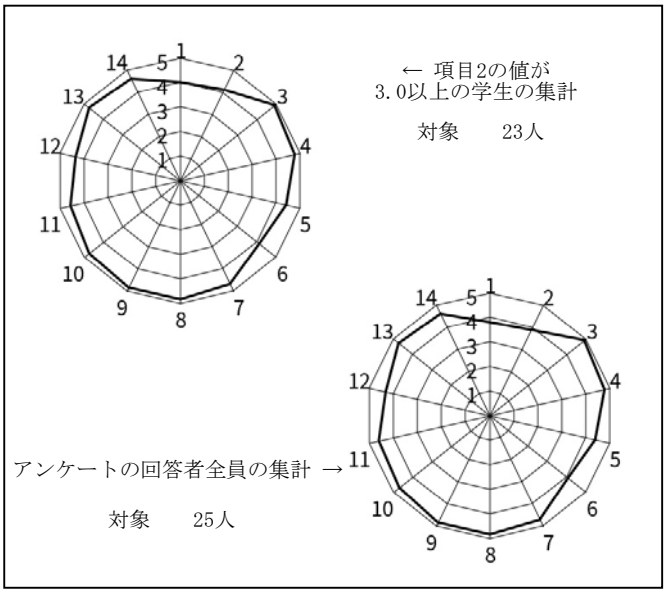
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①１や２の不満の回答が出ないことを最低限の目標としていました。ほとんどの項目で「５」という高い評価をしてもらって，安心しました。
②設問３の開始時間と終了時間を守ることについて低い評価がありました。理由は，５・６限と２コマ連続であるため，５限を内容の区切りの良いところで終了して早めに休憩にはいったこと，また，終了時間が１９時を過ぎてしまうために，休憩時間を短縮して早めに終了したことが理由だと思います。自由記述では，丁寧な説明を心がけたことが評価されていて嬉しく思います。
③形式的に授業時間を守ることの重要性は承知していますが，杓子定規にならないよう，学生の集中力やモチベーションなどにも配慮しながら，実質的な教育効果を高めるようにしたいと思います。

経営学部 経営学科
高田　一樹　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済と人間の尊厳5
授業コード 10D04-005
教員名　高田　一樹
教員コード 102887
登録人数　64
回答数　25
回答率　39.1%
休講回数　0 回
補講回数　1 回



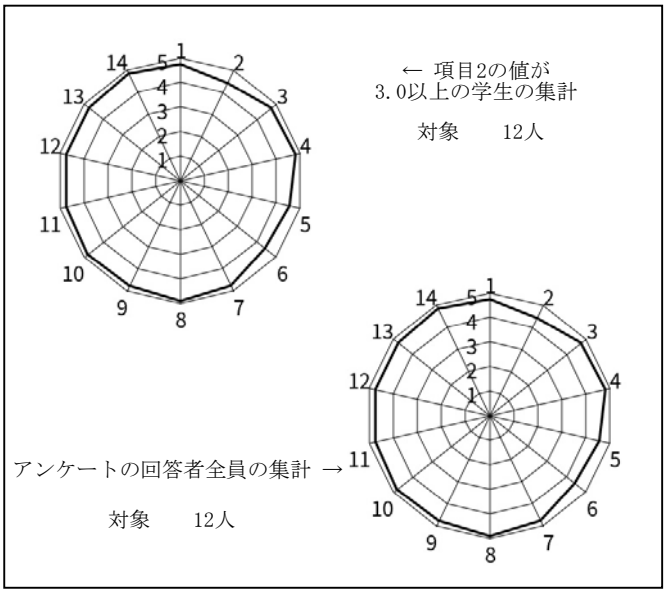
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)　被験者保護政策の歴史と研究倫理の制度化をテーマに掲げ、その政治・経済下で人間の尊厳が冒涜されること、また尊厳を守ることへの理解を深めることを講義の目標とした。講義内容の理解に加え、受講者意見の表明ことも目標に加えた。期末レポートに加え授業内でも記述課題を出し、Webclassのチャットを使い匿名で意見交換する機会を設けた。期末レポートの内容などから当初の授業計画をほぼ達成できたと考える。
(2)　講義テーマが受講者の経験や関心から縁遠いためか、設問1（当初の関心）の評価が例年低調である（今年度3.8）。しかしながら設問3-14は平均4.63だった。設問14（授業満足度）も4.6であり、講義内容におおむね肯定評価を受けたと考える。自由記述も前向きな評価が散見される。だが視聴覚資料や参考文献の写真には心理的負荷が高いものが含まれ、そのことを指摘もあった。教材の閲覧方法にさらなる注意を払うことを検討したい。
(3)　受講者数に比してアンケートへの回答数が例年低迷している。最終講義の冒頭で十分時間をとっている。今後も継続したい。また、履修の可否を判断するために、初回授業で講義概要や評価方針を詳しく説明することで、設問1の向上に努めたい。テレビや映画の一部など視聴覚教材を積極的に利用したことが肯定的な評価を受けた。次年度に向けて教材研究や講義内容を深化させたいと考えている。

経営学部 経営学科
上野　正樹　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済の諸相13
授業コード　13C06-013
教員名　上野　正樹
教員コード　101365
登録人数　17
回答数　12
回答率　70.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達度について、平均値で項目6は4.58、項目13は4.75であったことから8割程度の学生について達成している。項目14の4.83と以下の自由記述回答から、総合的な自己点検としてアクティブ・ラーニングをもとにした授業方法は上手く行ったと考えている。

良かった点の自由記述回答には次があった。受け身ではなく学生主体である、意見を述べなければならない、グループワークがある、ディスカッションと発表の機会がある、さまざまなの学部の学生から意見を聞ける。

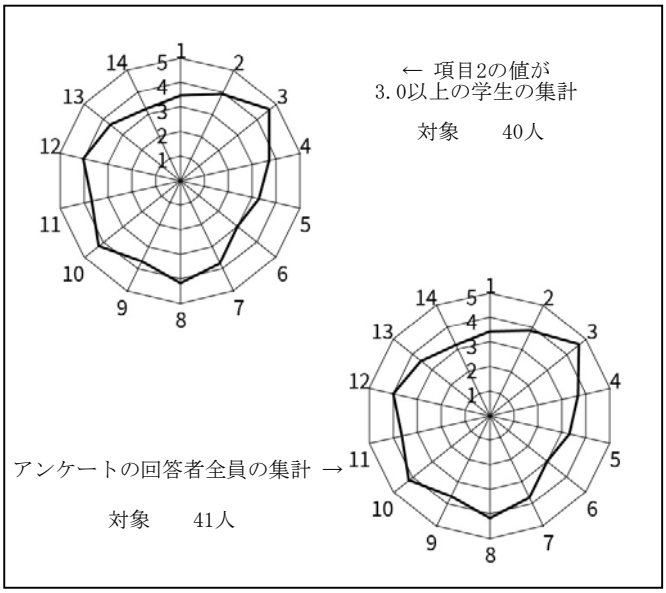
なお改善案の自由記述回答は次があった。ネットやAIを活用した授業にしてほしい、学術的な知識をもう少し勉強したい、講義を休むと次の課題がわからない、ディスカッションの時間管理をしてほしい。

上記の改善案をもとに、次クオーターは授業中にAIの利活用の場面を導入し、WebClassをもとにした課題情報の提供を強化する。また受講生が少ないことから、シラバスでアクティブ・ラーニングの意義を平易に説明する。

経営学部 経営学科
野口　晃弘　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際会計論B
授業コード　42C24-001
教員名　野口　晃弘
教員コード　104773
登録人数　86
回答数　41
回答率　47.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　「6 2.98 あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」
　という結果から、小テスト・中間テスト・期末テストの得点分布と、学生自身が感じている実感との間に差が小さくないことがわかります。

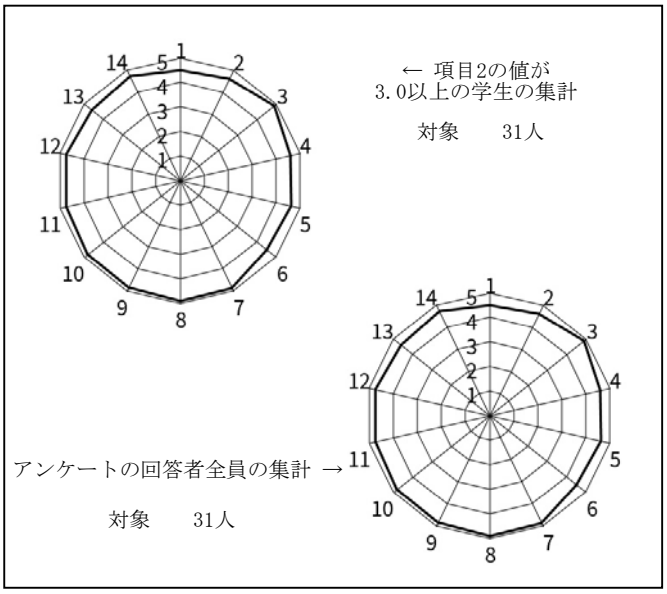
②　自由記述欄に、スライド等の使用教材やテストの実施方法に対する複数の意見がありました。
　経営学部の講義で、日本語で講義を行っていても、英語の教科書を用いることに対して、強い拒絶反応があることがわかります。

③　①については、到達目標について、講義中にさらに細かく説明するようにし、必要以上に高く想定することがないように改善します。
　②-1　使用教材については、著作権法上の制約から電子的に配付することはできませんので、教科書を購入してもらうようにします。
　②-2　出席の取り方、小テストの実施方法など、最初の講義の際に、より詳しく説明するように改善します。
　②-3　国際会計論という講義の性格上、英語を避けて通ることはできません。辛抱強く英語の教材での教育に取り組みたいと考えています。
国際財務報告基準の原文、設定プロセスにおける議論など、日本語での情報提供がある程度行われているものの、情報の量も提供されるスピードも異なっています。証券取引所でも日本企業の英文開示を促進するための施策がとられています。そのような時代の動きから、卒業生が取り残されることがないように、講義を組み立てるつもりです。

経営学部 経営学科
中尾　陽子　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　組織心理学B
授業コード　42C26-001
教員名　中尾　陽子
教員コード　064188
登録人数　97
回答数　31
回答率　32.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



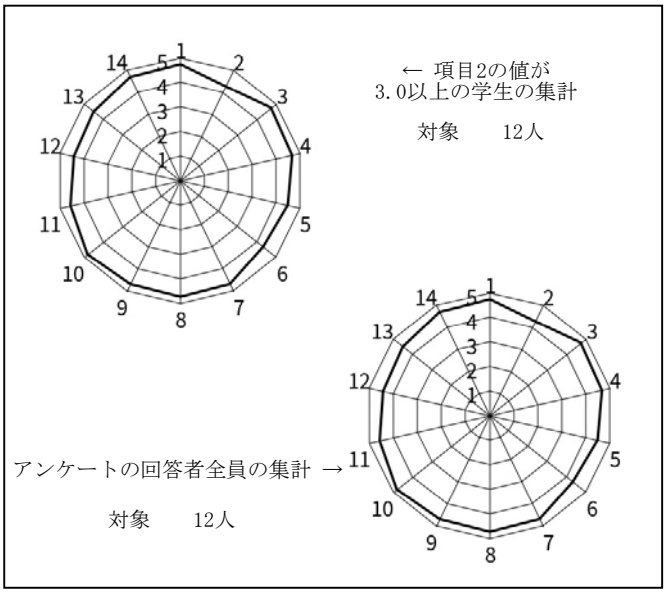
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、到達目標を「組織における『個人』を対象とした組織心理学の研究領域に関して、各分野の概要を理解している/基礎的な事項について説明できる/生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」と設定し、進めてきました。14回の授業と時間外課題を通して、受講生のみなさんが徐々に理解を深め、大半の方がこの目標を達成してくださったものと考えています。
今回の受講生は、経営学部生が約3分の2、心理人間学科生が約3分の1、更に他学部の学生さんも参加してくださいました。心理学の前提知識が全く異なる上に、グループワークのスキルにも差がありましたが、そのような違いあるメンバー構成だったからこそ、気づきや学びが広がったという意見を多くいただきました。また、例年この授業に対する理解が不十分なまま受講される方が多く、グループワークで様々な問題が生じるため、今年のガイダンスではしつこい位丁寧な説明を心がけたところ、意欲と覚悟をもって授業に参加してくださる方がほとんどだったと感じています。年々インターンによる欠席が増え、今年はインフルエンザの影響も大きく受けましたが、『休まざるを得ない時』にどのようなコミュニケーションと行動をするか、しっかりと考え実践してくださったみなさんに、心より感謝しています。充実の時を共に創ってくださり、本当にありがとうございました。
これからも今回のように、受講生の方々と協力しながら授業を創っていきたいと考えています。引き続きみなさまのご協力をお願いいたします。

経営学部 経営学科
窪田　祐一　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　管理会計論
授業コード 42C44-001
教員名　窪田　祐一
教員コード 102901
登録人数　33
回答数　12
回答率　36.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
到達目標としては，「１．管理会計の意義と管理会計で用いられる基礎概念について説明できる。２．予算管理、原価管理、経営計画の各内容とそれぞれの結びつきが説明できる。３．活動基準原価計算、バランススコアカード、原価企画など代表的な管理会計実践について説明できる。」の3点を設定していた。多くの学生が達成できたものと考える。

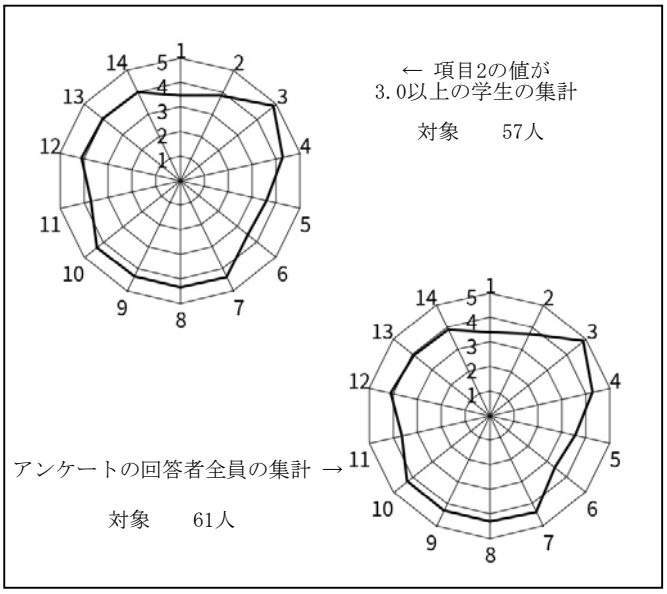
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
今回，受講者が30数名と少なかったが，興味を持っている学生が集まってきていた（平均4.75，学科3.88）。興味から予習・復習をしっかりした学生が多くいたようである（平均4.25，学科4.06）。
そのため，理解度（平均4.50，学科4.23）も，総合的な満足度（平均4.67，学科4.14）もいつもより高い結果が得られた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
管理会計は，財務会計と並び，会計科目としては重要な位置づけにありながら，履修者数が少ない。テキスト購入を求めている点やカリキュラム上の問題等のさまざまな理由が考えられるため，改善は容易でないが，引き続き，履修者が増える方策を検討したい。

経営学部 経営学科
湯本　祐司　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ミクロ経済学1
授業コード 42C55-001
教員名　湯本　祐司
教員コード 017533
登録人数　150
回答数　61
回答率　40.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



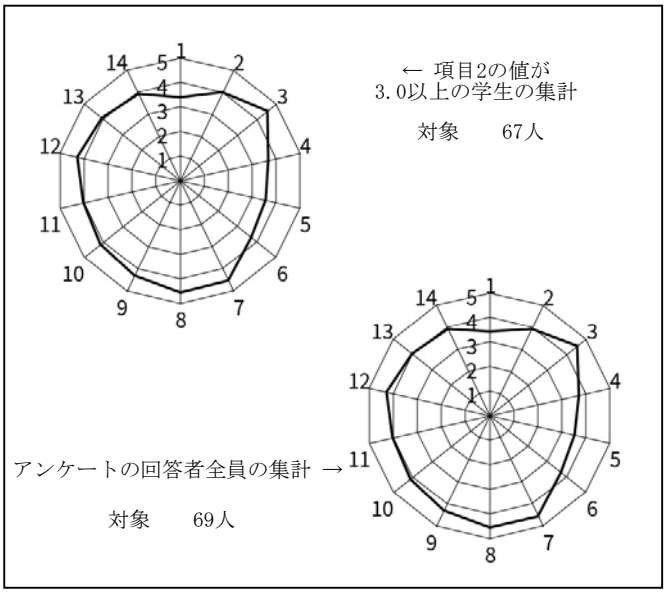
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は経済学の基本的な考え方と概念，およびモデル分析の基本的枠組みと論理展開を理解できることを到達目標としている。経営学科の1年次の基本科目であり，2クラスに分けて，1年次生が全員登録する。4回の課題演習と定期試験の解答から評価すると約8割の学生は事前に想定した到達目標の最低水準はクリアしているといえる。学生の授業評価では履修登録者150名のうち約40%の61名が回答し，項目１から14の平均と項目３から14の平均はそれぞれ4.00と4.08である。学生の評価の高かった設問は，3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」(4.87)，7「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ，真剣さを感じることができましたか」(4.39)である。一方，事前の授業内容に関する興味（項目1），到達目標の理解およびその力量の向上（項目5,6）については平均値がかなり低調である。自由記述欄には「説明が丁寧」「資料がわかりやすい」「練習問題と課題演習が理解の助けになった」など評価のコメントがある一方，「もう少し大きな字で書いて欲しい」「難しくて理解できなかった」というコメントもあった。ミクロ経済学は経営学の主要な分析ツールのひとつであるのにもかかわらず，これまで敬遠する学生が非常に多かったが，今年度のカリキュラム改正で1年次生が全員登録して履修ことになった。経営学を学んでいくうえでのミクロ経済学の重要性を学生達にもっと理解してもらうことを次年度の課題としたい。

経営学部 経営学科
後藤　剛史　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ミクロ経済学2
授業コード 42C55-002
教員名　後藤　剛史
教員コード 100374
登録人数　151
回答数　69
回答率　45.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度
教員側の設定した目標は「なるべく多くの学生がシラバス上の【到達目標】に到達する」ことである．成績評価の結果等から，この教員側の目標に，ある程度到達したと判断する．

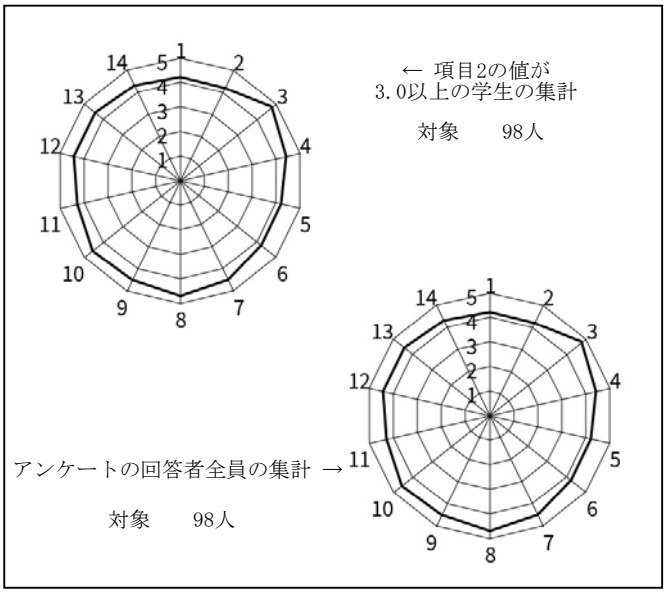
②数値データ・自由記述等に基づく総合的な自己点検・評価
これまで様々な科目を担当してきたが，今回，初めて4点を切る質問項目をいくつか得た．それらは，設問1，2，4-6，14である．まず，この科目は自動登録科目であり，学生は否応なく履修していることから，設問1,2の点数が低く出たものと思われる．また，自由記述（設問16・改善してほしいこと）に「進行速度が速かった」としたものが7件あり，このことにより，設問4-6，14の点数が低く出たものと思われる．なお，他の項目の点数や自由記述等を見るに，進行速度を除く教員の授業運営方法については，問題がないものと思われる．自由記述（項目15・良かったこと）では，教材や板書，説明のわかりやすさに対して，17件の回答があった．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針
今年度は，「ミクロ経済学」を経営学部１年次の自動登録科目とした新カリキュラムの開始年であった．こういった場合の授業評価は，担当教員にとってとくに有用であると感じた．上記②を踏まえて，次年度には以下のとおり改善したい．
1）経営学部生がミクロ経済学を学ぶ意義について，より丁寧に説明する．
2）授業で取り扱う項目を減らし，説明の分量を多くするとともに進行速度を緩める．

経営学部 経営学科
余合　淳　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人的資源管理論B
授業コード 42C57-001
教員名　余合　淳
教員コード 103585
登録人数　204
回答数　98
回答率　48.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．本講義の目標は，人的資源管理論の応用理論を体系的に理解する，企業が直面している実際の人材マネジメント上問題を理解する，人事管理の理論と実際の差について理解した上で，自分なりの意見を持つ，の３点であった。講義では，通常労働者として接する機会の多い企業におけるマネジメントについて，企業の経営者及び人事部門からの視点を重視した。レポート及び期末試験の結果からは，概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。

２．数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

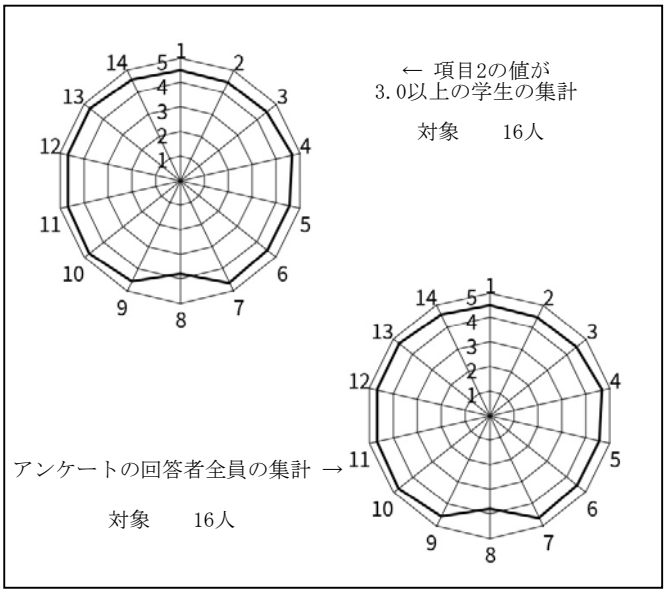
数値データ全体の平均値は経営学科平均値より高く，特に主体的な授業参加，到達目標の理解，教員の取り組み姿勢，理解度への配慮，質問の機会といった側面で評価されている。自由記述を含め，授業での評価は良好なものと考えられる。

３．数値が若干低いものとして予習復習と進行速度の適切さが挙げられる。予習復習や進行速度については，受講者の態度，理解度に合わせて毎回復習や補足説明を追加していたために本来よりも若干遅れる傾向があった（最終的には予定通りの進行であった）ため，主体的に受講する学生のために難易度の調整が必要になるように，今後の工夫を検討する。自由記述からはとりわけ出席状況が芳しくない，または理解不足の受講者に対する指導（レポートのフィードバックや講義態度に対するコメント）が「愚痴」と取られ，一部学生には不評であったことから，講義全体ではそうした理解度不足の学生への指導を控えることが今後の方針である。

経営学部 経営学科
KHONDAKER, Rahman M.　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　グローバル・ビジネス論B
授業コード 42E12-001
教員名　KHONDAKER, Rahman M.
教員コード 100361
登録人数　40
回答数　16
回答率　40.0%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

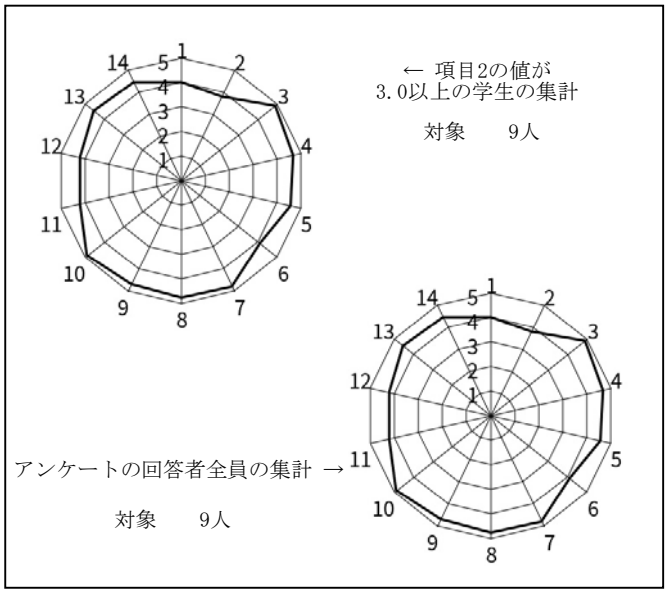
本授業の目的は、ビジネスのグローバル化が進む中、アジア諸国における人的資源管理の国際比較学習である。履修者は、アジアにおける人的資源管理の基礎と実用的方法を学び、人的資源を活用するための必要な手法、戦略や視野を身に付け、日本の人的資源管理と比較学習・研究を出来るようになる。授業は、講義レジュメ・関連資料などを配布し、1回休講・１回補講で、シラバスを終了した。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。

設問1から設問2「授業への参加について」に関しては、2024年度第4クォーター全科目と経営学部の42A01－001～42H04-999番台科目群とを比較すると、高い評価を受けている。設問3から設問7「授業全体について」の平均値4.74、4.29、4.00、3.93、4.48 に対して、本科目の評価は、4.50、4.69、4.56、4.56、4.63となっている。設問8から設問12「授業の運営について」では平均値4.55、4.41、4.47、4.19、4.38 に対して、本科目は3.81、4.56、4.75、4.69、4.69 となっている。設問13から設問14「全体的な評価」では平均値4.23、4.14 に対して、本科目は4.69, 4.56となっている。昨年と比較すると全ての設問の平均値が高いである。また、設問15から17「自由記述」では、「解説が丁寧でわかりやすい点、教科書の要点をまとめたプリントを用いた授業が分かりやすかった点、教授の説明が分かりやすかった点、テキストが配られるため、手元を見て学べたわかりやすい点」、などがあった。設問17「授業環境（インターネット接続、資料の見やすさなど）」では、コメントは無かった。本学期の経験を生かして、今後もより高い水準をめざして様々な改善を試みたい。

経営学部 経営学科
薫　祥哲　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営環境論B
授業コード　42E06-001
教員名　薫　祥哲
教員コード　018168
登録人数　24
回答数　9
回答率　37.5%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

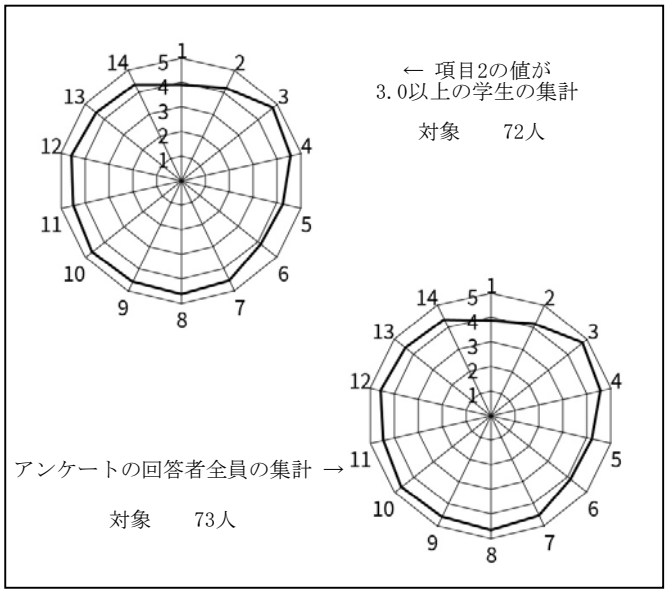
再生可能資源である漁業資源の最適利用や、資源リサイクルに関する課税・補助金政策がどのような影響を及ぼすのかについて、ミクロ経済学的分析アプローチに基づく講義を行った。また、米国における２大環境法規制である「大気浄化法」と「水質浄化法」を取り上げ、環境改善のための法規制がどのようなプロセスで進められ、どのような問題点があるのかについても解説した。講義レジュメや関連資料を事前にサーバにアップし、毎回、これら資料をスクリーンに映しながら講義を行った。さらに、学期中に練習問題課題を２回出し、そのレポートが提出された直後に授業で解答を解説した。

全体としての授業満足度を尋ねた設問14への回答平均値が4.44と非常に高く、この授業評価は十分満足できる結果であったと考える。３名が自由記述欄に感想を記入しており、「グラフや表を用いてわかりやすく教えてもらった」、「分からない点があったら、授業内ですぐに説明してくれた」といったコメントであった。改善すべき項目については誰もコメントを記入していなかった。登録学生数が24と小人数であったため、全員に配慮した丁寧な講義を行えたと言える。これからも、資料を豊富に使い、分かりやすい授業を行う所存である。

経営学部 経営学科
石田　晃三　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(電子・電機産業論)3
授業コード　42F03-003
教員名　石田　晃三
教員コード　104906
登録人数　144
回答数　73
回答率　50.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



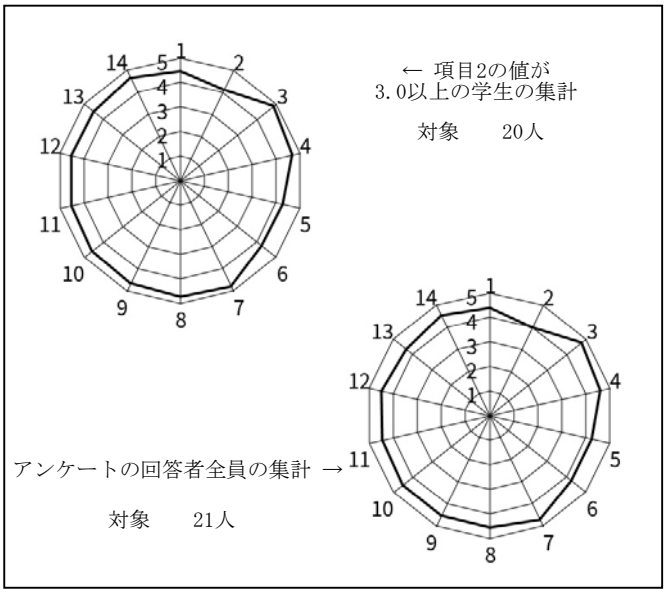
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①電子・電機産業を経営学学生にもわかりやすくするために、技術的な話ばかりではなく、組織論、企業論の観点、コンプライアンスに関わる取り組み事例、サスティナブル経営など経営的側面から学習することを目標としていた。社会経験の少ない学生にとって、難解な点もあったと推察するが、工場見学を取り入れることで理解が深まったとの声を多数聞くことができたなど、開講当時に想定していた以上の到達度であった。
②比較的高い数値をいただき、学生の学習機会に良い機会を及ぼせたかと感じている。
③７週14回の講義を進める中で、テキストの改善すべき点があることに気づいている。テキストの内容を見直すことで、学生の理解が進ようにしていく。後半に、生徒とのコミュニケーションが密になる状況であったが、次年度は、学生とのコミュニケーションを初回の講義からとりながら、生徒自身の理解力向上に努めていきたい。

経営学部 経営学科
藤榮　幸人　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(起業論)
授業コード　42F05-001
教員名　藤榮　幸人
教員コード　103879
登録人数　76
回答数　21
回答率　27.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



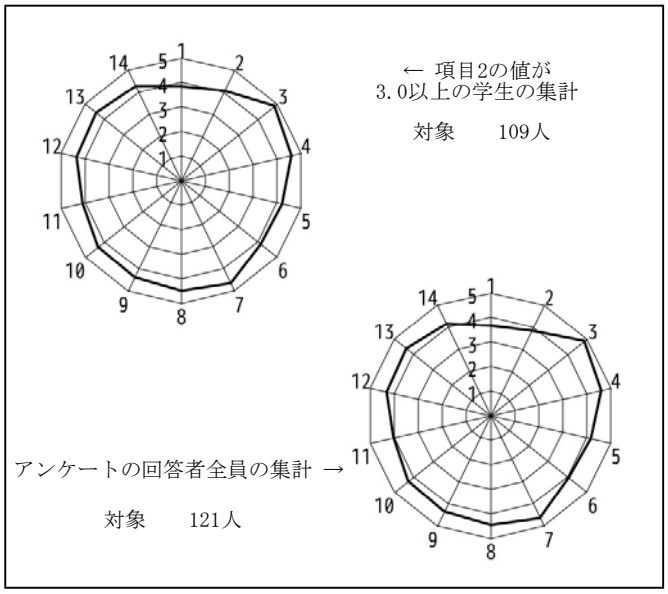
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
起業というと、仕事経験がない学生にとっては全くの未知数のものであり、周囲の環境次第であるが就職活動という言葉どおり、会社に勤める前提の者が大半を占めると思われる。そのような学生が抱く、起業を単純にリスクが高く自分と縁遠いものであるとか、成功者を見て容易そうと考えるといった表面的なイメージを、本質的な理解に転換していくことで、将来的な人生の中で起業という選択肢もあるということを認識してもらうことを目標として講義を実施した。多くの学生の意見から、リアルな起業のケースなどを通じて起業における重要なポイントを理解し、解像度が上がったとのコメントが聞かれた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自由回答より、出席者が報われる評価とのコメントがあったが、レポート内容より授業時のポイントが反映されたものを高評価とすることで対応しているものの、授業参加度の評価方法については次年度工夫が必要と認識している。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
引き続き学生に好評のケースメソッド授業は行うことと、出席して受講する意義をしっかり伝えながら、学生の成長に結び付けられるように授業内容と評価方法の構造を改善していきたい。

法学部 法律学科
MERE, Winibaldus Stefanus 先生

2024年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[FB・FF・FG]1
授業コード 10A01-004
教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
教員コード 101180
登録人数 165
回答数 121
回答率 73.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



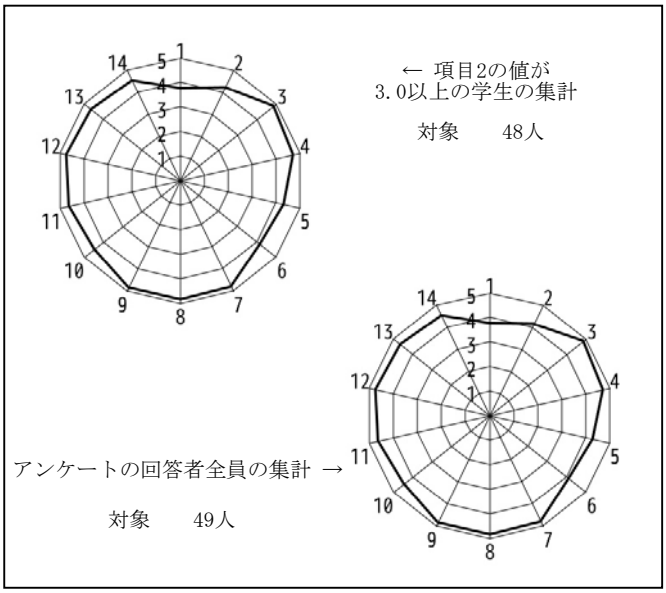
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) The course was carried out as planned and based on the prepaid syllabus provided for the students in the university websites. Over all the objectives of the course had been successfully achieved.
2) From the numerical data and comments from the students, it can be said that the students have provided a fair and balanced assessment about the topics and the method for the course, which had to most extend been able to answer students' expectation about the course. The course had provided necessary knowledge about religion in terms of deepening not only the substance of information about religion, but also increasing students interest on matters related to religion as a matter of a given reality in a multicultural society.
3) A more dialogical interaction during the class may be necessary to allow students express their opinions, instead of only the lectures talking all the time during the whole class. So far, students raised questions and expressed their opinions in written words through reactions paper of each class. It might be more interesting and lead to a more deep discussion if the students also can express directly their thoughts and opinions during the class. Of course this is the responsibility of the lecturer to create an environment for this to happen.

法学部 法律学科
豊島　明子　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法と人間の尊厳6
授業コード 10D05-006
教員名　豊島　明子
教員コード 101192
登録人数　73
回答数　49
回答率　67.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



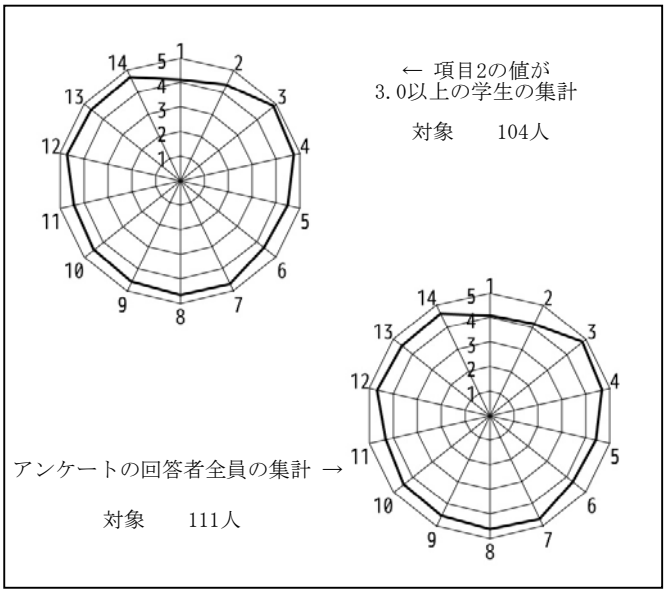
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初の目標は「日本の生存権保障の現状を多面的に理解でき、生存権保障の法制度を理解でき、その現状を主体的に考え、今後の日本社会の課題についても考えることができるようになること」であった。この目標は、相当程度実現できたと思う。
②なぜなら、自由記述における「授業の良かった点」として、「ディスカッションが良かった」「ディスカッションが設けられていたので考えを深めることができた」「グループワークによって理解が深まった」「ディスカッションの時間があり、他の学生と意見を交換・共有できた」「多くの事例を取り上げての授業であったため、とても理解しやすかった」「生活保護法や受給者についての現状を法律を通して学習することができた」といった、各自の理解の深まりや、主体的に考える場が設けられていたことへの肯定的評価が多数あったからである。また、設問9が4.82、設問11が4.63、設問12が4.76であったことも、これらの肯定的評価を裏付けるものと言えよう。また、単に「面白かった」と述べた者に加え、「自分の心に偏見が潜んでいたことを自覚させられる点」を指摘した者もいたことは、講義の目標であった「多面的に理解する」ことが、少なからず達成できたことを示しているように思う。
③実際、今年度の授業では、私自身が、かなり思い切って、学生との対話を交えつつ進めていく授業を、敢えて自覚的に試みてみた。その結果、このことへの肯定的評価が多かったことは、来年度に向けて、大きな励ましをいただけたものと喜んでいる。しかしながら、その一方で、全体の満足度（設問14）が4.53にとどまった点に鑑みると、さらなる工夫の余地が残されているとも受けとめている。

法学部 法律学科
沢登　文治　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法4
授業コード	12C03-004
教員名	沢登　文治
教員コード	017863
登録人数	272
回答数	111
回答率	40.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



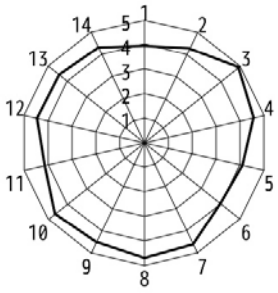
授業評価結果を踏まえた点検・評価

270人以上のある程度の大講義であったこともあり、諸点につき注意深く実施するよう努めた。
以下、数値的に特徴的なものを中心に考える。
（4）授業の構成や進行速度について、1年生も相当数受講していたので注意したこともあり4.69であった。（6）「到達目標に向けて力がついてきている」が4.31（先回2022年度は4.27)は若干向上したが、今後も注意していく必要があろう。（7）「担当教員の姿勢」は先回4.76から4.67に降下した点は真摯に受け止めたい。（11）「学習意欲・積極的な授業参加・自主的学習」がやはり4.32と先回とほぼ変わらず低調なので、注意して工夫したい。（14)「全体の満足」は4.62(先回4.60)で私としては悪くないが、さらに工夫を考えたい。
　自由記述(15)で36件、(16)で21件の記述があった。(15)は「各授業毎に前回の振り返りが行われていたことで、復習ができて丁寧だと感じた。授業内容が終わらなくても終了時間を厳守してくれたので、とても誠実だと感じた。」など、私なりの工夫につき肯定的に評価してくれた。（16）では、「ほとんど聞くだけの授業だったので生徒〔＝学生〕ともう少し関わる授業のほうが面白く理解も深まると思った。」など気を付けるべきことの指摘があったので工夫したい。

法学部 法律学科
西村　邦行　先生

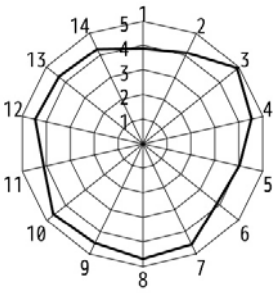
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済の諸相6
授業コード 13C06-006
教員名　西村　邦行
教員コード 104090
登録人数　250
回答数　202
回答率　80.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　190人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　202人

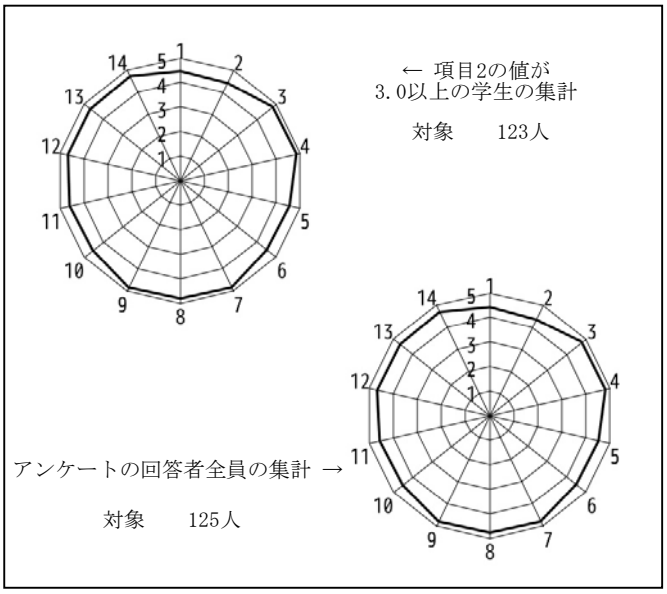
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①新形式で授業を行ったため、学生に迷惑がかかる失敗を避けることに努めた。結果、大きな問題はなく、学生からの評価も好意的なものが目立った。
②担当科目に共通の傾向ではあるが、内容に期待せずに履修している受講生が多い（3.87）。他方、最終的な満足度は低くなく（4.27）、新しい関心を呼び起こすことができたという点で共通教育科目としての役割を果たしたと考えられる。実際、「大学生としての授業の受け方が分かった」「Q1で一番楽しかった」などを筆頭に、感想の大半が好意的であった。他方、要点が分かりにくいという意見が散見された他、力がついたかどうかについては数値が低め（3.89）であり、教員の側では優秀な学生が多いと感じたにも拘わらず、学生の側では学修の成果を実感できていない様子が見られる。知識を活用できていると感じられるような工夫を講じたい。また、数値上は私語への注意が十分であり（4.62）、「私語を注意してくれるのがよい」という記述も見られた一方、私語が気になったという記述もあり、大規模教室での対応は引き続き考えたい。進行速度についても、適切との数値がでている一方（4.54）、早い・遅い両方の記述があった。限界はあるが、バランスの模索に努めたい。
③本授業の形式を他の科目でも採用していくため、今回の経験を活かしたい。特に評価方法については誤解していた学生がいたため、丁寧な説明を心掛けたい。

法学部 法律学科
橋本　広大　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　刑法総論B
授業コード　44A11-001
教員名　橋本　広大
教員コード　104649
登録人数　421
回答数　125
回答率　29.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



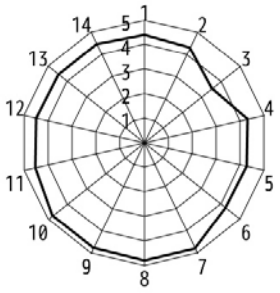
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目について、定期試験の結果等にかんがみると、開講当初に設定していた目標については多くの学生がおおむね達成できていたように思われる。数値データや自由記述等を踏まえても、上記のことは学生の主観的認識ともおおむね合致していたように思われる。
もっとも、自由記述欄にはいくつか授業に関する不備とも思われる指摘があった。一つは私語に関するものであり、大教室であったこともあって教員側からは私語は聞こえなかったが、あらためて注意喚起する必要があると考えている。また、本科目で扱う内容の前提たる内容を扱った刑法総論Ａ（2023年度Ｑ４）との重複に関する指摘もあった。これはむしろ本科目と刑法総論Ａとの関係上いわば当然のことであり、また、重複に気付けている当該学生がしっかり学習をできていることを示すものともいえたが、今後は本科目と刑法総論Ａとの関係についてより丁寧に説明する必要があると感じている。
今後とも丁寧な授業実施を心がけていきたい。

法学部 法律学科
水留　正流　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

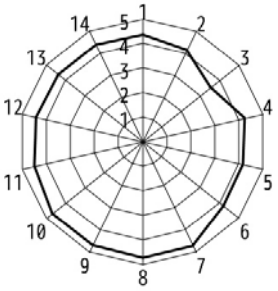
科目名　刑事政策
授業コード　44B12-001
教員名　水留　正流
教員コード　101566
登録人数　119
回答数　49
回答率　41.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　47人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　49人

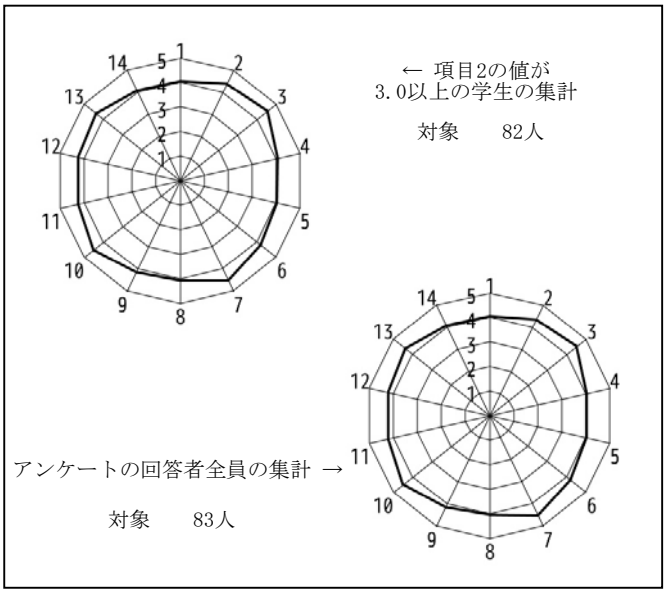
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．広義の刑事政策のうち、犯罪者処遇のシステムとその実態について、犯罪白書等のデータをもとにその課題を探ることがこの授業の目的であった。
２．授業評価では、全項目の平均が４．３７と、一定の評価を得たと考えている。もっとも、回答率が４１%程度に留まった点からすると、この評価を額面どおりに受け取ってよいかには若干の躊躇がある。
　また、今年度の授業では準備に手間取ることが多く、授業の開始・終了時刻の点に関する設問３が３．５１に留まった。自由記述でもこの点について注意を促す旨の記載があったが、次年度以降はもう少しスムーズに授業開始に持って行けるよう、準備を整えるよう心がけたい。
３．この授業では、学生のキャリア活動への参考になることも意図しつつ、刑事政策に関わる人々についても紹介するようにしていた。自由記述には、この授業が自身の将来を考える一つのきっかけになったとの意見もあった。刑事政策は、司法や矯正や保護の職員等の専門職だけの問題ではなく、一般の公務員、一般の市民にもかかわりうる問題であって、これを自分事として感じてもらえるようになることには社会的意義も大きいものと思われる。今後とも学生がもっと興味を持つような授業内容となるよう、努力していきたい。

法学部 法律学科
王　冷然　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　不法行為法
授業コード 44B19-001
教員名　王　冷然
教員コード 103577
登録人数　336
回答数　83
回答率　24.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

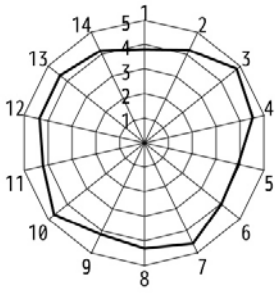
当該講義は当初①不法行為法に関する制度趣旨、要件、効果を理解すること、②不当利得、事務管理に関する基本的な知識を理解すること③具体的な法律問題について、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うことを到達目標として設定しました。中間テストや定期試験の成績および学生たちの自由記述の内容からみますと、当初の目標はおよそ到達しました。

設問項目「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」の平均値は4.51、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」の平均値は4.36であることや自由記述においてレジュメと判例資料の配布、説明の仕方に関する高評価が得られていることからみますと、受講生の多くは当該講義に満足しているようです。他方、自由記述において、講義中に休憩時間を設けていないことや不法行為の部分は詳細に説明し、不当利得の部分は簡単に説明するという授業進度の偏りに関する意見が見られましたので、今後当該科目を担当するときに、これらの点を改善し、よりよい授業を学生たちに提供するように心掛けます。

法学部 法律学科
田中　実　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

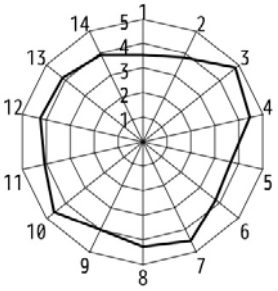
科目名　西洋法史A
授業コード 44B35-001
教員名　田中　実
教員コード 017038
登録人数　139
回答数　44
回答率　31.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　38人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　44人

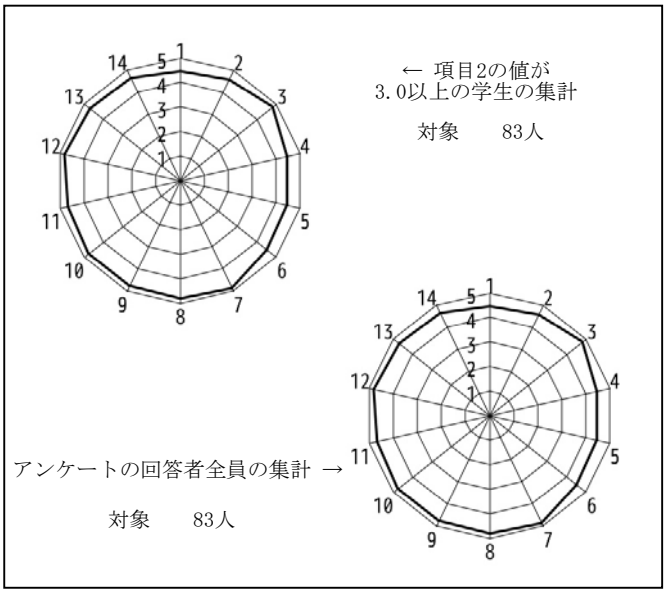
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標やその到達については、アンケートのみでの評価はできず、定期試験の答案も参照する必要がある。担当者としては、それなりの成果をあげたと考える。数値データに関しては、ここ数年の中で、私としては相対的にかなり高い評価を得ることができた。とりわけ過去には高く評価されてきたが、直近ではそれほど高い評価を受けてこなかった７について元に戻っているのは、教員としても研究者としても嬉しいところである。日本の法学教育の中で、やや特殊な領域であり、１について低い評価の学生受講は致し方ないが、これとの関連で、例年あまり高くない評価を受ける13がかなり高くなったのも肯定的に受け止めたい。１については、この科目がどのような意義を持つか、これまでのintroductionのさらに前提になる分かりやすい説明を加えたいと考える。自由記述の諮問15について過去に例がないほどの数のしかも肯定的な評価を受けた。熱心に受講してくれた学生にこの場を借りて感謝したい。確かに受講態度や雰囲気が例年以上に良かったので、以上のことは、これに対応しているやもしれない。マイクを適切に使う、あまり多くの項目を網羅せず、負担になりそうな事項を割愛しつつも、優秀な学生をがっかりさせないよう、一層、努力したい。

法学部 法律学科
大原　寛史　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　債権法総論
授業コード　44C12-001
教員名　大原　寛史
教員コード　104297
登録人数　230
回答数　83
回答率　36.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



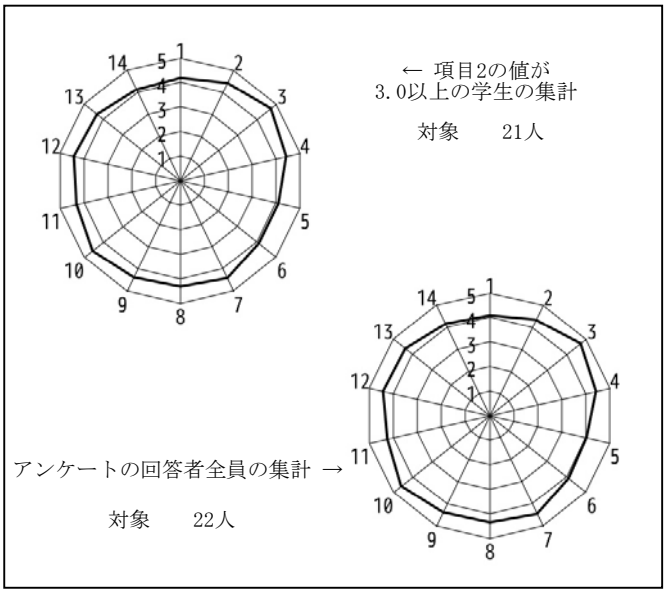
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートに協力してくれた受講生に御礼申し上げたい。
①おおむね達成することができたと考えている。また、各質問項目の数値データおよび自由記述の内容をみると、②一定程度受講生に評価されたと考えている。もっとも、質問項目4～6の数値が他の項目に比べてやや低めであることが課題である。
③質問項目5および6は、例年数値が低い。そのため、重要な内容については講義中に複数回説明をする、webclassに到達度調査や質問フォーム、理解度チェックテストなどを設定し毎回確認するなどの対策をしていた。今年度の数値は少し改善をみせたため、これらの対策方法をさらにブラッシュアップするかたちで継続する。講義進度の適切性については、講義中の説明に時間をかけたために遅くなっており、予定していた内容の一部を取り上げることができなかった。質問項目4の数値の低さにもあらわれており、自由記述欄においても若干の指摘がみられた。一方で、説明の丁寧さを評価する記述もみられたため、講義資料および講義中の説明をより工夫することで時間配分に留意しつつ対処する。

法学部 法律学科
佐藤　勤　先生

2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　会社法（設立・株式）
授業コード 44F07-001
教員名　佐藤　勤
教員コード 101599
登録人数　90
回答数　22
回答率　24.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、①会社の設立方法、②会社の構成員である株主の責任・権利、③株式会社の出資の表章である株券の発行・流通、④株主への情報開示・剰余金分配の基礎となる事業結果の報告に関する計算規則、の４点を理解させることを目標としている。授業では、講義を行った後、事後課題およびその解説を提示し、学生の自発的な学習を促すことを行っている。定期試験は、この課題のテーマに沿った内容の問題を出している。したがって、自宅にて復習を行っている学生であれば、到達目標の達成は容易であると考える。

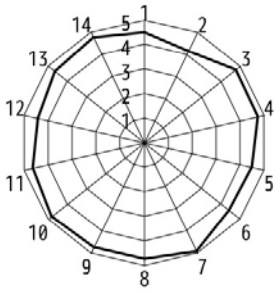
今年度の定期試験では、上記目標のうち、①の関する問題を出題した。定期試験の結果では、単位付与率としては、約50%（定期試験未受験者を含む）であった。単位が取得できなかった学生の多くは、事後課題の学習を行っていない者、定期試験間際に事後課題を閲覧したにすぎないと思われる学生であり（webclassで確認した印象）、事後課題をしっかり学習した学生は、良い成績を取得していた者と思われる（A＋、A取得者：約38%）。なお、設問５、６の評点は、それぞれ4.05、4.06であった。設問３-14の評点の平均点（4.36）から0.2-0.3低いが、法学部の評点でも設問５、６の要点は、設問3-14の評点の平均点から0.2程度低いことを鑑みれば、法学部の授業の到達目標と同等であったと評価できる。

今後の授業についても、現行方式をブラッシュアップし、よりよい授業を行えるよう、授業改善に心がけたい。

法学部 法律学科
尋木　真也　先生

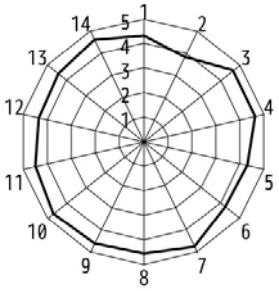
2024年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際法各論A
授業コード　44C09-001
教員名　尋木　真也
教員コード　104091
登録人数　99
回答数　25
回答率　25.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　22人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　25人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業アンケートへのご協力ありがとうございました。高い評価をいただくことができ、安心しております。

試験の解答を見る限り、授業の到達目標は、概ね達成されたように思います。現在、ウクライナ戦争やイスラエル・パレスチナ紛争が生じているなか、こうした武力紛争を法的観点から評価する能力が、一定程度涵養されたように感じました。

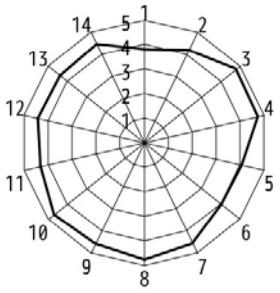
教員の誠実さ・真剣さに一番高い評価をいただいた一方で、予復習・主体的参加が一番低い評価でした。毎週新しい新聞記事についてパワーポイントを作成し、国際法の観点から解説をした点などに、真摯な姿勢を見いだしていただけたのではないかと思っています。他方で、膨大な情報量を多少減らし、主体的取組みをもう少し取り入れるべきと反省しています。スライドがおもしろい、飽きないといった肯定的な評価もいただき、励みになります。

改善点などの指摘はありませんでしたが、自ら研鑽に励み、日々アップデートされる時事を授業に取り込んでいきます。それにより、就職活動や社会人生活にも資する授業を展開したいと思います。

法学部 法律学科
菅原　真　先生

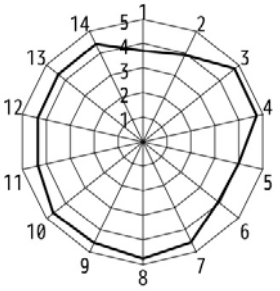
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本国憲法1
授業コード　12C03-001
教員名　菅原　真
教員コード　102064
登録人数　58
回答数　42
回答率　72.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　38人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　42人

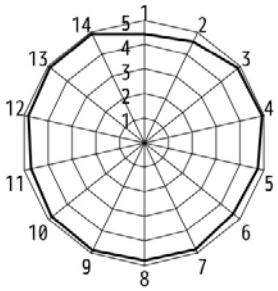
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、授業に対する受講者の態度及び定期試験の結果から、概ね達成したと考える。
②担当科目の数値は、項目1から14の平均 4.37、項目3から14の平均 4.46であり、まずまずの結果であった。自由記述欄を見ても、「全員が参加できるような授業の仕方で、雰囲気も良い状態で良かった」「高校までの憲法の知識についてより詳しい解説があり、単に暗記していただけの知識についてその結果に至るまでの過程や根拠を理解することができた。また、憲法の解釈について通説だけでなく他の学者の見解や、政府の見解の変移についても知ることができ、一歩踏み込んだ法学部ならではの視点が盛り込まれていた。」「丁寧に説明されていた」「知らない知識を身につけ（ら）れた」「映像を使って事件や憲法について学ぶ機会があったこと（が良かった）」「学生に意見を聞いて授業により参加できるようにしていた」「発言しなければならないので、ある程度緊張感を持って授業に取り組めた」など、ポジティブな意見が多かった。
③次年度も引き続き、教科書やレジュメを使用しつつ、学生たちに条文を読んでもらったり、論点について意見を発表してもらうことを実践していく。ある社会問題・憲法問題に対して、それが発生した歴史的背景を踏まえながら、憲法や法律には多様な解釈があること、とりわけ、憲法を学ぶ上では「個人の尊重」（憲法13条）・「人間の尊厳」の観点から検討していくことが求められることを引き続き学生に伝えていきたい。なお、反省点としては、教科書が売り切れてしまい、再入荷まで時間を要してしまったことがある。来年度は受講者数を予想しつつも、やや多めに書店に依頼したい。

法学部 法律学科
森山　花鈴　先生

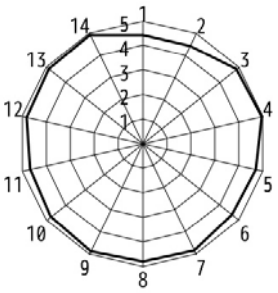
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生命と倫理問題2
授業コード　13A03-002
教員名　森山　花鈴
教員コード　103223
登録人数　100
回答数　46
回答率　46.0%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　44人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　46人

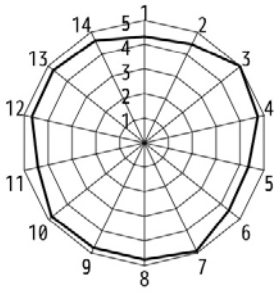
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標については到達していると考える。生命と倫理に関する問題について、学生自身が深く学び、考えていることが、授業態度、毎回のリアクションペーパー、最終課題から確認することができた。
②授業評価の数値については、大学全体の平均値、学際科目での平均値、科目登録者数別集計において平均値をすべての設問で超えることができた。自由記述欄では、良かった点として、授業の内容に関する評価や、話し方についても「説明が非常に分かりやすいだけでなく、倫理的な問題を直接感じ取れるニュース等を扱っていた」等の意見があがっていた。また、授業の録画も毎回用意していたことから、その点への評価も自由記述欄で多くあがっていた。
③授業内容の録画保存については学生からの評価が高いので、次クォーターからも引き続き行っていきたいと考える。なお、私自身が今後、子どもの病気などで授業を休むことがあるかもしれず、その点は対応方法について不安が残るが、突然の休講の可能性については周知していきたい。

法学部 法律学科
洪　恵子　先生

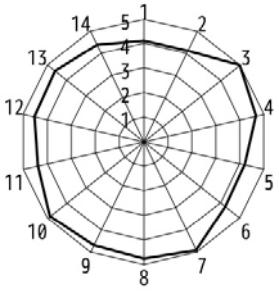
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際法総論A
授業コード　44B13-001
教員名　洪　恵子
教員コード　103537
登録人数　70
回答数　33
回答率　47.1%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　29人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　33人

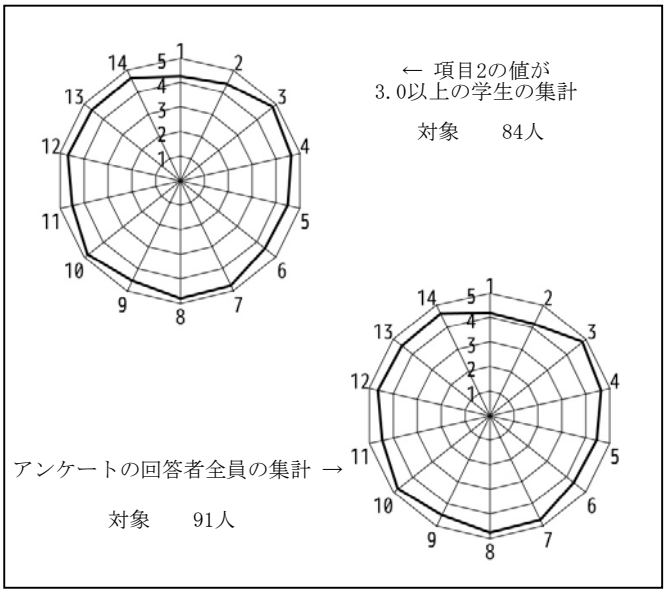
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今回の授業評価においても、受講生に国際法への関心を高めてほしいという授業の目的の一つは達成されたといえよう。
②教員の授業方法や授業に対する熱意についてもおおむね高く評価されていた。
③次のクオータにおいても引き続き、誠実に授業に取り組みたい。
なお、現在の授業評価アンケートの方法には大きな問題があり、常々それを指摘してきたが、現在、新しい制度作りに向けて学内で努力が開始されたことを心強く感じている。大学の授業は大学の教育におけるもっとも重要な制度であり、よりよくなることを常に目指すのは当然としても、その目的のために現在の方法が適切かどうかは大いに疑問である。とりわけ匿名で、且つ、授業に実際に参加しているかどうかがわからない学生に授業の「改善」について意見を求めるのは、教育上も問題である。今後、こうした問題点を克服した制度に生まれ変わることを強く願っている。

法学部 法律学科
渡邉　泰子　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民事訴訟法B
授業コード 44B26-001
教員名　渡邉　泰子
教員コード 101553
登録人数　211
回答数　91
回答率　43.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



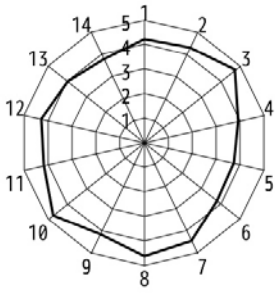
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた到達目標は「民事訴訟手続の基本構造を理解することができる。」・「民事訴訟法に関する体系的な知識を修得することができる。」の二点である。授業は、指定した教科書を通読する予習、レジュメと適宜必要な板書を追加した講義、レジュメの末尾の○×問題による講義内容の復習、次の時間の最初に○×問題の解説という形式で進めた。授業評価アンケートの数値データによると、項目1~14の平均値は4.54、項目3~14の平均値は4.60となっており、概ね良好であったと思われる。とりわけ自由記述において、レジュメのわかりやすさと問題形式での復習が役に立ったとの意見が多かったこと、授業後の昼休みの時間に教室に残って質問したい学生に対応したことも好評であったようである。やはり、授業で聞いたことをわからないままにせずに当日の間に解決することは、学ぶ意欲の維持において意味があると思われる。また、学生からの指摘にあるように、レジュメをスクリーンに映す際に機械の不具合で映らないこともあり、この点については関係課室に適宜連絡して対応していただいた。全員の要望に応えることは難しいが、わかりやすく丁寧な授業をおこなうために、来年度以降も工夫を重ねたいと考えている。

法学部 法律学科
岩本　学　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

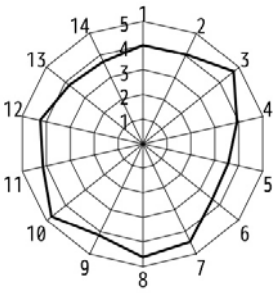
科目名　国際私法A
授業コード　44B29-001
教員名　岩本　学
教員コード　104895
登録人数　125
回答数　48
回答率　38.4%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　43人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　48人

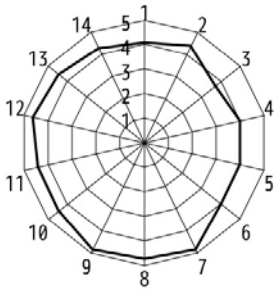
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では，国際事案が生じた場合に日本ではどのような法的処理をするのか，について，日本における外国法適用の意義とプロセスを教示し，試験時には，具体的な国際事案が生じた場合に，適切な準拠法選択ができるようになることを目標としつつ，日本法を相対化して見られるようになる，ことを副次的な目的とした。Webclassにおいて最終回に行った，この授業で成長できた点，というアンケートにおいては，概ね上記のいずれかまたは複数について言及があり，濃淡はあるにせよ達成できたものと評価できよう。
数値からは，予習が十分でない者が一定程度いたことがうかがえる。とりわけ国際私法は他の法律系科目とは異質であるため，慣れが必要であり，そのためには予習した上で講義に臨むことが望ましい科目であるため，シラバスないし初回の講義においてしっかりとこの点示すことが必要と感じた。自由記述欄ではレジュメの構成に建設的な意見が頂戴できた。活かしていきたい。
次クォーターでは上記のレジュメ構成の意見を意識しつつ，わかりやすい講義を心がけたい。

法学部 法律学科
服部　寛　先生

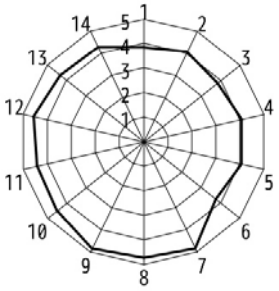
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法哲学A
授業コード 44B31-001
教員名　服部　寛
教員コード 103600
登録人数　47
回答数　12
回答率　25.5%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　11人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　12人

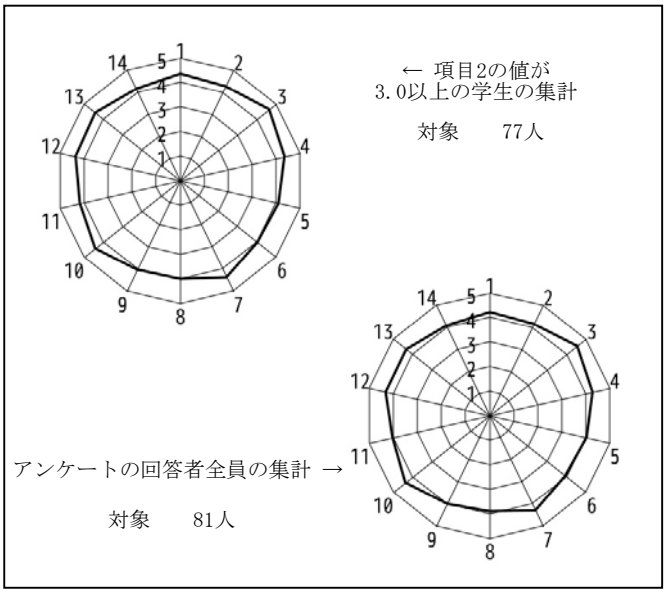
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①担当者の健康上の理由から、休講を２回せざるを得なくなったが、補講に合わせて内容を入れ替えるなど工夫を施し、授業の円滑な進行に努めた。そのこともあり、今年度は、昨年度から数回分の内容に数カ所変更や入れ替えを行なったが、若干の遅れが生じたものの、概ね予定通り、計画に沿って授業を行なうことができた。到達目標についても、授業に真面目に参加していたであろうと思われる学生については、キーワードを覚えるほか、法思想史の流れ、特に前近代～近代への推移について、ポイントをつかんでいる解答が定期試験からも確認でき、真面目な学生については、到達目標を達成することが出来ているように見受けられる（数値データについて、項目６は低めになってはいるものの）。②項目の１と３と６が低めであり（項目６については前述）、項目１は分野上の特性からやむを得ないところがあるが、項目３については、担当者の主観としては、時間通りに開始・終了しているのであるが（延長などもないはずである）、そのように判断されてしまっていることについて、顧みることにしたい。その他の項目は概ね良好であり、今年度は授業のわかりやすさのために資料も改めて整備して臨んだことが比較的高い評価につながったものと推測される。③回答率が低めであり、以後は、授業内でのアナウンスと実施依頼をしっかり行なうようにしたい。

法学部 法律学科
大山　徹　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　刑法各論A
授業コード 44B90-001
教員名　大山　徹
教員コード 104613
登録人数　228
回答数　81
回答率　35.5%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



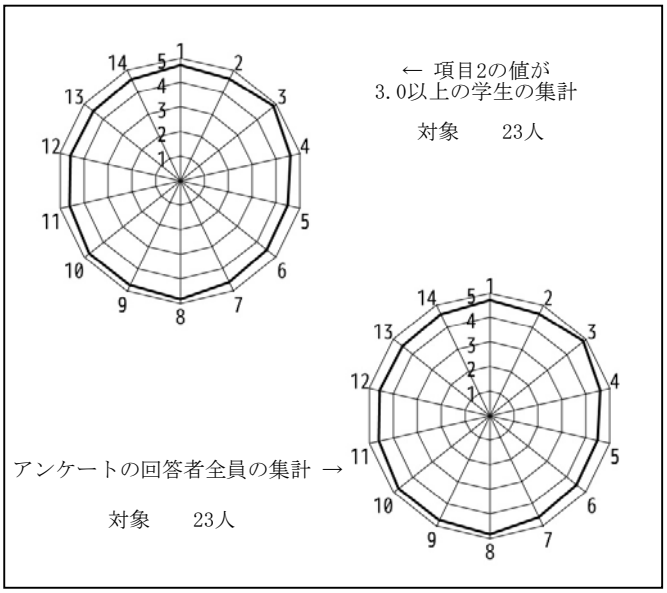
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
刑法各論はAの部とBの部とがあり、刑法各論Aの授業は2024年度Q2は大山が担当したが、
授業をわかりやすく展開し、初学者の能力を引き上げ刑法各論（個人的法益に対する罪）の各々の論点に精通させる
目標は達成できたように思う。しかしながら、受講者の大半はQ1で刑法総論Ｂの講義を履修していたことを
意識していなかったため、刑法学を立体的に理解し得る景気はなかったように思う。2025年度は改善したい。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
「教室が暗過ぎて、レジュメが見づらく目が疲れる」「電気をつけて欲しい」「パワーポイントが授業の進み方通りではなくて、また、何も言わずに飛ばすこともある」といったぽ手厳しい意見も頂いた。視覚教材の作成については鋭意努力したい。反面、「授業に出ている意味を感じさせてくれた授業進度がちょうど良かった」「わかりやすいレジュメ」「先生がとにかく様々な理論に詳しい」とのご指摘を頂いた。授業評価アンケートの各項目は概ね4を超過しており、安堵している。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
パワポレジュメがカラフルであるとお褒め頂いたが、大半がコロナ渦の際に作成した教材であり、教室での授業に不向きな部分
が多々存在していたように思う。鋭意改善していきたい。

法学部 法律学科
宮尾　亮甫　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　行政法各論
授業コード 44C04-001
教員名　宮尾　亮甫
教員コード 104945
登録人数　83
回答数　23
回答率　27.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

上記３点について報告する。
①授業当初の到達目標は、⑴個別行政法分野の特質について理解する、⑵地方自治法、都市法、公物法、警察法の法制度や原則について理解できる、⑶これらに関わる現実の諸問題について、各法分野の観点から社会を見る視点を身につけるということであった。いずれも計画通り進み、かなりの広範囲の法律及びそれらに係る問題について講義を行うができた。学生においても、概ね理解できたように思われる。

②数値データ及び自由記述では、概ね高得点と高評価であったように思われる。他方で、学生においては、授業中には理解していたものの、授業後に自分の頭で考え・咀嚼できたかどうかについては、保留する必要があるように思われる。この点については、予習や復習の徹底をもう少し促すべきであったと反省している。また、学生が授業で飽きないように若干の雑談を入れてみたが、一部の学生にとっては、「メリハリがない」との評価がされた。この点は、今後の授業で改善していくべきものと思われる。

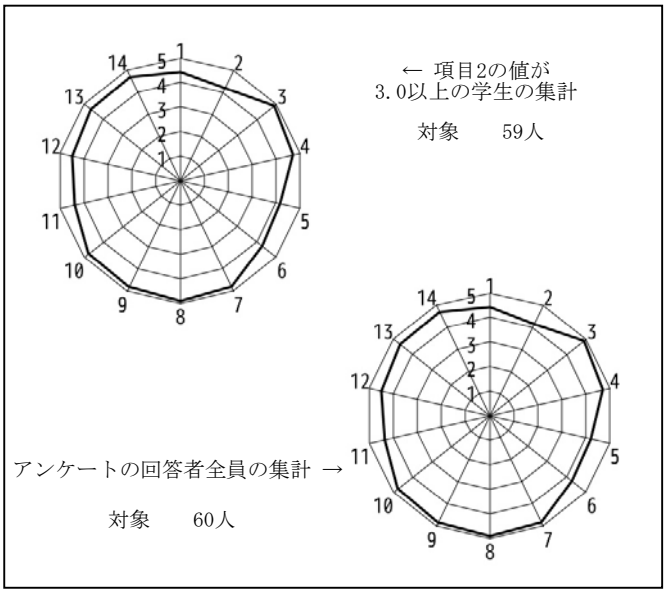
③本来もう少し扱うべき論点を十分に取り上げることができなかったこと、レジュメの準備に追われ予習を促す契機を与えることができなかったこと、これらの反省点を踏まえて、今後の授業（具体的には、Q4で予定されている環境法）に活かしたいと考える。

以上

法学部 法律学科
本部　勝大　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	租税法B
授業コード	44C06-001
教員名	本部　勝大
教員コード	104612
登録人数	137
回答数	60
回答率	43.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



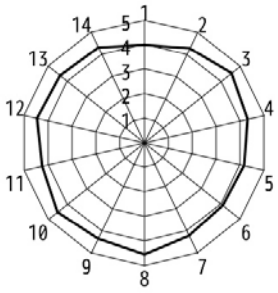
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートにご協力頂いた受講生に心よりお礼申し上げる。
（1）開講当初に設定していた目標と到達の程度について
昨年度から引き続き、「社会に出てから困らないよう、大学生のうちに法人税・消費税・相続税・贈与税について一定の知識を得ること」を授業の目標として設定した。法人税等は受講生にとって身近とは言い難い税目であり、難易度は低くない科目だったが、多くの受講生が定期試験問題にも対応できており、概ね目標は達成できたと思われる。
（2）数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　開講主体別平均値と比較した数値データ及び自由記述欄の「良かった点、評価できること」の記述内容からは、講義の分かりやすさに関しては受講生の一定の評価を得られたと考えている。今後も受講生にとって意義のある授業内容を意識していきたい。
　その一方で、①自由記述において、「WebClassで質問の窓口を設ける」など、質問をしやすい環境の整備を望む声があった。授業前後や、WebClassのメッセージ機能を用いた質問は受け付けていたが、常設の質問欄を設けるという発想はなかったので、良いアイデアとして次年度の授業から取り入れたい。また、②配布レジュメにあえて空欄を設け、講義を聞いた受講生に穴埋めを求めることで要点の理解を促しているが、空欄を埋める時間が短いとの指摘があった。授業時間の制約との兼ね合いもあるが、次年度から、時間配分を考えていきたい。
（3）次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
（2）の①、②の課題を踏まえ、質問環境の整備などを進め、より一層の授業の改善を進めたい。

法学部 法律学科
家田　崇　先生

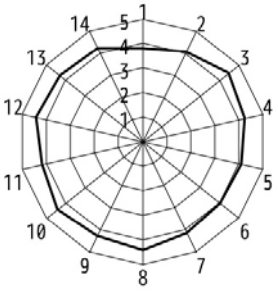
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　応用会社法
授業コード 44C30-001
教員名　家田　崇
教員コード 102459
登録人数　315
回答数　77
回答率　24.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　71人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　77人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

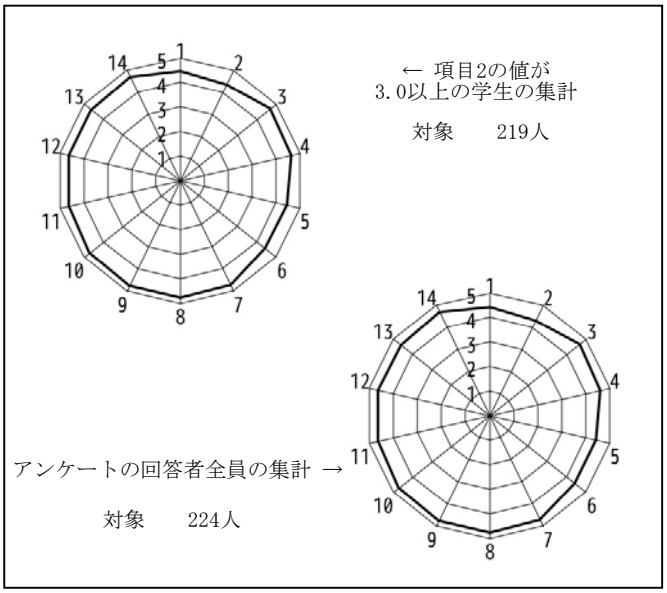
総評することは難しいが、各回答の記述から鑑みれば、個々の授業・研究指導は、各学生の研究に資する内容となっているとの評価であった。
以下、参考までに要望を含め、いくつかの回答事例を掲げる。なお、回答した学生が特定されないよう、要約して記述する。

Ⅰ．個々の授業や研究指導に対して、感想・意見（良かった点、改善すべき点など）を自由に書いてください。
　次のような、意見があった。
毎回チェックできるシステムは意義があるという評価があった。。
Ⅱ．カリキュラムや時間割編成について、感想・意見を自由に書いてください。
時間割の組み方において、早い時間帯に開講される授業を増やしてほしいとの要望があったほか、時間割を柔軟に編成することへの要望や実際の実施を積極的に評価する意見があった。
Ⅲ．大学の施設（教室、研究室、図書館等）やサービス（教務課、学生課、教員の対応等）など、研究環境について、感想・意見を自由に書いてください。
・研究環境は充実して、問題はないとの意見があった。
・冷房があまり効かず、少し暑いように感じた。
ほか、教室の清掃の実施を充実してほしい要望や、就職関連の情報提供を充実してほしいという要望があった。
Ⅳ．その他、上記項目以外の事項について（どんなことでもよい）、感想や意見、要望を自由に書いてください。
特になし

法学部 法律学科
石畝　剛士　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　家族法（親族）
授業コード　44F03-001
教員名　石畝　剛士
教員コード　104908
登録人数　565
回答数　224
回答率　39.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



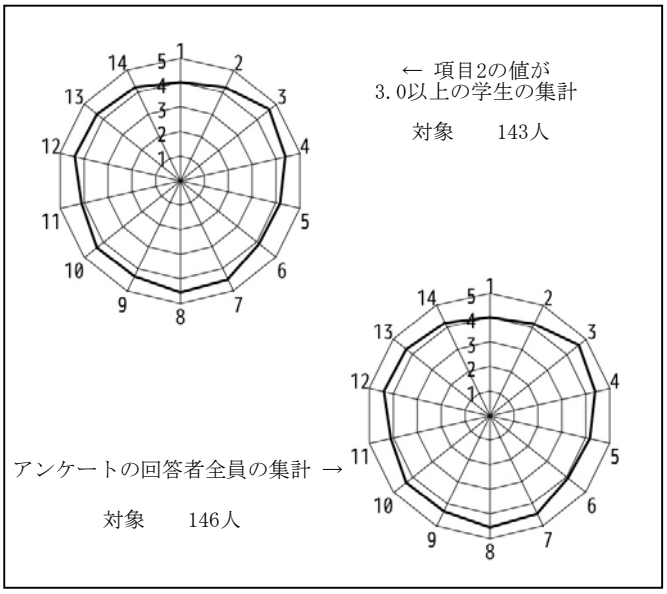
授業評価結果を踏まえた点検・評価

南山大学に来て初めての講義科目ということもあり、なかなか勝手も分からず、受講者の皆さんにはご迷惑をおかけした部分があったかと存じます。この点、まずはお詫び申し上げます。また、履修者が法学部専門科目としては異常ともいえる人数で、最大収容教室であるG30教室であっても窮屈な感じを受けられたかもしれません。（当方の責ではないものの）相対的に快適ではない環境となりましたことをお許しください。
講義の質は法学部専門科目として相応しいレベルを維持することを心掛け、実際にも達成できたと考えております。もっとも、その結果、皆さんにとって難しい部分があったかもしれません。それでも根気よく聴講していただいたことに感謝申し上げます。他方、講義の範囲については、詳細なレジュメに基づいた、板書による丁寧な説明を重視したため、予定の範囲を消化することができませんでした。ここは次年度に向けた反省材料です。なお、授業評価アンケートの結果からも、同様の内容が伺わるところ（説明は丁寧だがレベルは高い）、この方式について皆さんの満足度は比較的高い数値を示しているため、基本的には今後も同じように進めつつ、ご指摘いただいた点について改善を図る方向で考えております。
なお、法学部の専門科目一般について言えますが、一回の講義を聴いただけで理解できることは、ほぼありません。分からないことを早めに見つけ出し、できる限り質問するようにしていただければ、当方としても皆さんがどこで躓きがちかを把握できます。そのようなコミュニケーションを通じて、授業の質と皆さんの理解度を高めていければと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

法学部 法律学科
山田　希　先生

2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　契約法B
授業コード 44B18-001
教員名　山田　希
教員コード 104954
登録人数　287
回答数　146
回答率　50.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



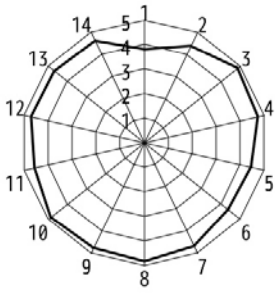
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　定期試験では、開講当初に設定した目標を受講生が到達できているかどうかを確認する問題を出した。問題１は、契約各論の基本知識（民法における位置づけ、典型契約の法的性質・特徴）が身についたかどうかを試す穴埋め問題、問題２は、賃貸人および賃借人が有する請求権行使の期間制限に関する説明問題、問題３は、適法な転貸が行われた後、賃貸借契約が債務不履行解除された場合の各当事者間の法律関係を問う事例問題を出題した。定期試験では、Ｓが12名（4.4%）、Ａが51名（18.8%）、Ｂが87名（32.2%）、Ｃが78名（28.8%）、Ｆが42名（15.5%）であり、目標の到達度はまずますであると考える。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　授業評価（平均値）は、設問１（4.00）、設問２（4.14）、設問３（4.62）、設問４（4.40）、設問５（4.19）、設問６（4.08）、設問７（4.47）、設問８（4.56）、設問９（4.32）、設問１０（4.35）、設問１１（4.12）、設問１２（4.40）、設問１３（4.32）、設問１４（4.19）であった（回答数149）。法律学科の集計結果と比較すると、多くの項目で少しずつ平均値を下回っているが、今回が南山大学でのはじめての授業であったことを踏まえると、それほど悪い結果でもなかったのではないかと感じている。また、自由記述欄の記載（30個）は、丁寧な説明であったなど、すべてがポジティブな内容であった（これについては、本当に嬉しく感じました）。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　１クォーター授業を担当したことで、受講生の学力を把握することができた。再び非常勤を引き受けることがあれば、受講生の学力に応じた授業内容（難易度や説明方法など）にしたい。

法学部 法律学科
久米　一世　先生

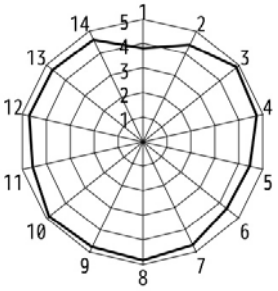
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法社会学
授業コード 44B33-001
教員名　久米　一世
教員コード 104942
登録人数　48
回答数　21
回答率　43.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　21人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　21人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義において当初設定していた到達目標は以下の３点であった。(1)近代法の成立過程を概観することにより社会と法の連動関係を理解できるようになる。(2)法社会学の幅広い研究手法を学ぶことで、現代社会における法現象をより深く考察できるようになる。(3)諸外国における法理論に触れることで、比較法的な視点を身につけることができる。毎回の復習課題とフィードバックを通じて、学生の理解を確認しながら進めたが、その反応から推察して、おおよそ、これらの目標は達成できたように思う。また、学生アンケートにおける内容理解に関する結果も総じて4ポイント台であった。

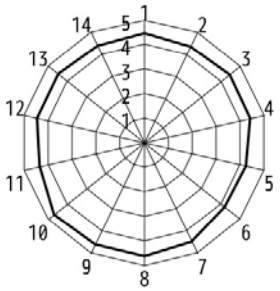
数値データおよび自由記述等については、講義について好意的な評価が多かった。特に、法社会学という学問の楽しさを知れたというコメントが散見されたことは、教員として大変喜ばしいことだった。なお、なんらかの改善を求めるコメントはなかった。

復習課題とフィードバックの時間を多めにとって進めたことが、思いのほか好評だったため、来年度も継続できればと考えている。

法学部 法律学科
高野　慧太　先生

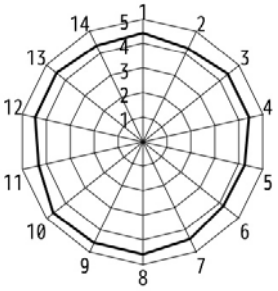
2024年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　知的財産法A
授業コード　44J01-001
教員名　高野　慧太
教員コード　104960
登録人数　239
回答数　74
回答率　31.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　71人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　74人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目では、知財法の基本的な規定を具体的な事案に適用できるようになることを目標としていた。

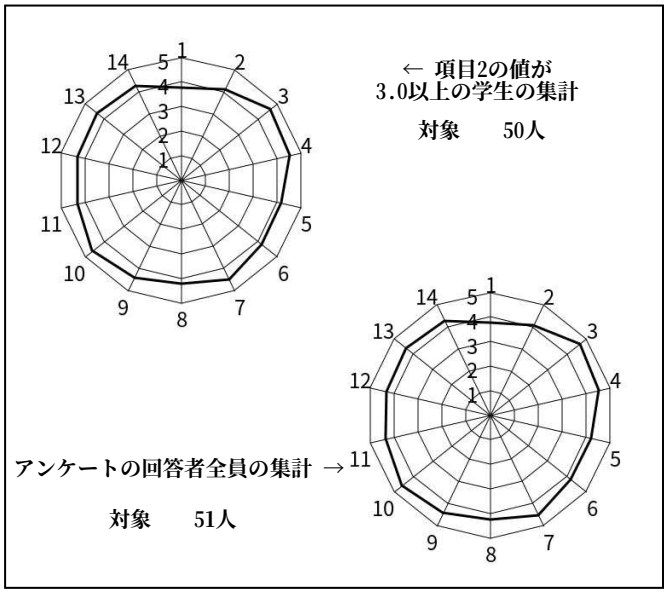
②事例問題を出題した期末試験の結果がおおむね良好であったことに鑑みると、概ねこの目標を達成できていたといえる。
なお、法学部開講科目でのアンケート平均値と本科目のアンケート平均値で比較したところ、大きな差異は認められず、（本科目の方が高い項目も低い項目もあるが）いずれも誤差の範囲内にであると思われる。したがって、特段問題があったとは捉えていない。なお、設問３はその中でも多少ポイントが低い印象であるが、１限・２限連続開講科目であるため、多少休憩時間を流動的に活用した結果であると推測される。

③これらを踏まえ、次クオーターにおいては、より学生の理解度に注意しながら授業を進めていきたい。

法学部 法律学科
MERE, Winibaldus Stefanus 先生

2024年度Q３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳7
授業コード 10D04-007
教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
教員コード 101180
登録人数 142
回答数 51
回答率 35.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) The main goals of the course is to help students understand the relationship between politics, economics and human dignity, and to understand their own, as well as other economic and political rights. The course was carried based on the syllabus and most of the topics were presented as planned.
2) From the numerical data and comments (reactions) from the students, in general the course have had good impacts on students, not only on their knowledge about the subject, but also awareness about their own actions related to economic and political activities in the overall context of human dignity and rights.
3) Despite most students viewed the whole course positively, there are concerns from some students related to the timing for the distribution of materials, the content that are difficult in some part and the creation of a teaching-learning environment that can increase students attention to the course. Some concrete improvement will be the provision of materials in advance online and increase dialogue with the students through discussion.

法学部 法律学科
ALVA, Reginald Joaquim 先生

2024年度Ｑ３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化人類学B2＜国際科目群＞
授業コード 12B14-901
教員名 ALVA, Reginald Joaquim
教員コード 102369
登録人数 2
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

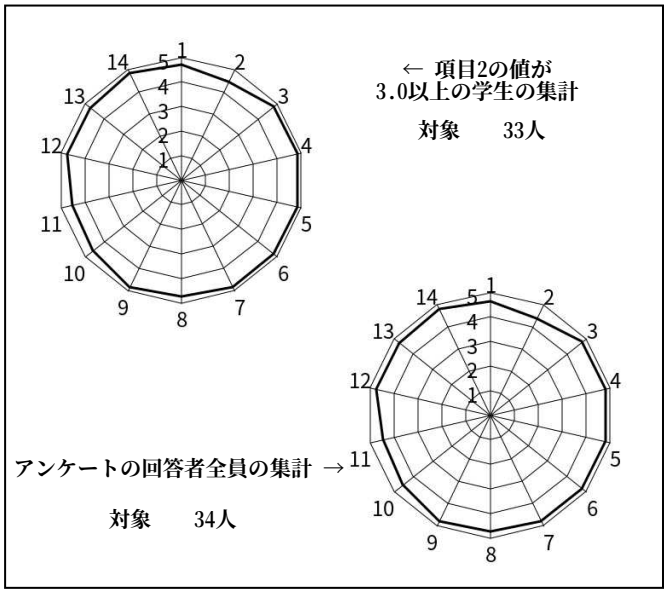
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、文化人類学国際科目群の授業を対面形式でやらせていただきました。この授業の到達目標は以下の通りにしました。
1. To learn "What is Anthropology?"
2. To learn about the importance of cultural diversity.
これらの到達目標は学生たちのコメント等を読んで十分に果たしたと思います。この授業は全学部の学生たちが履修登録することが出来るので学生たちの意欲を引き出せるために授業の内容を分かりやすく説明し、また様々な工夫をいたしました。また、授業中取り扱う資料を事前にwebclassにて掲載いたしました。その結果、学生たちは内容をよりよく理解できたと思います。

法学部 法律学科
森山　花鈴　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生命と倫理問題3
授業コード　13A03-003
教員名　森山　花鈴
教員コード　103223
登録人数　100
回答数　34
回答率　34.0%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



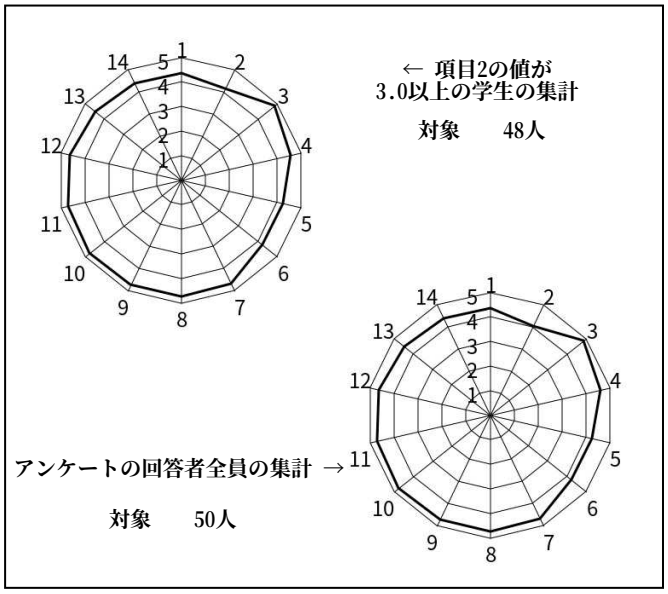
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標については到達していると考える。生命と倫理に関する問題について、学生自身が深く学び、考えていることが、授業態度、毎回のリアクションペーパー、最終課題から確認することができた。
②授業評価の数値については、大学全体の平均値、学際科目での平均値、科目登録者数別集計において平均値をすべての設問で超えることができた。自由記述欄では、良かった点として、授業の内容に関する評価や、話し方についても「先生がとても丁寧で分かりやすい授業を行ったり、とてもためになるお話をたくさん聞けた」等の意見があがっていた。また、授業の録画も毎回用意していたことから、その点への評価も「動画で見返すことが出来るので、無理なく取り組むことが出来ました」などと自由記述欄で多くあがっていた。
③授業内容の録画保存については学生からの評価が高いので、次クォーターからも引き続き行っていきたいと考える。なお、私自身が前クォーターに引き続き、子どもの病気などで授業を休むことがあるかもしれず、その点は対応方法について不安が残るが、突然の休講の可能性については周知していきたい。

法学部 法律学科
岡田　悦典　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑事訴訟法B
授業コード	44B10-001
教員名	岡田　悦典
教員コード	100621
登録人数	118
回答数	50
回答率	42.4%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



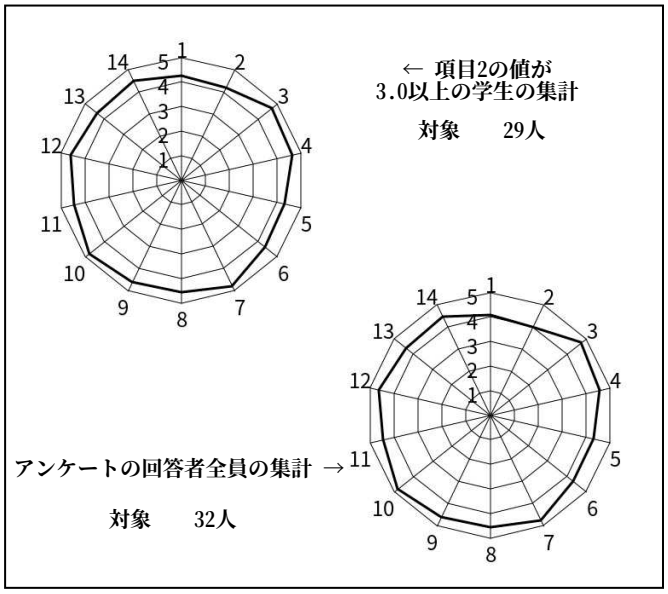
授業評価結果を踏まえた点検・評価

概ね、目標に沿って授業を行い、学生も到達したように思う。ただし、例年と同様であるが、項目の5と6の評価が、4.2点代で低かった。また、授業は相対的に登録人数が少なく、回答者も50であったので、もう少し人数を増やす必要がある。また、自由記述を見ると、レジュメの誤記があるようで、その点の指摘は重要であった。あまりないと思っていただけに、意外であったので、もう一度確認をしたいと思う。また、判例の深い解説が欲しいというところも、重要であった。確かにその点は課題としてあるように思う。その他、前半ゆったりと話して、後半は急ぎ足であったという指摘も、まさにその通りというところである。これは話し手としてはそうなりがちなので、ペースを守って考えた授業をしたいと思う。次回に向けた課題として、満足度が4.36と少し低めであったことが気になった。内訳をみると、低評価をしている人が、3人いたようである。テーマに訴因、伝聞法則、一事不再理効という理論的なところが多い科目であって、学生にはその意義が理解しにくいところがある。しかし、重要なところなので、そのテーマの深み、おもしろさをできるだけ伝えることができるような内容を研究して、授業に反映したい。自主的学習も4.06であったので、これを上げる工夫として、復習問題の質を少し改善したいと思う。

法学部 法律学科
洪　恵子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際法総論B
授業コード	44B14-001
教員名	洪　恵子
教員コード	103537
登録人数	135
回答数	32
回答率	23.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



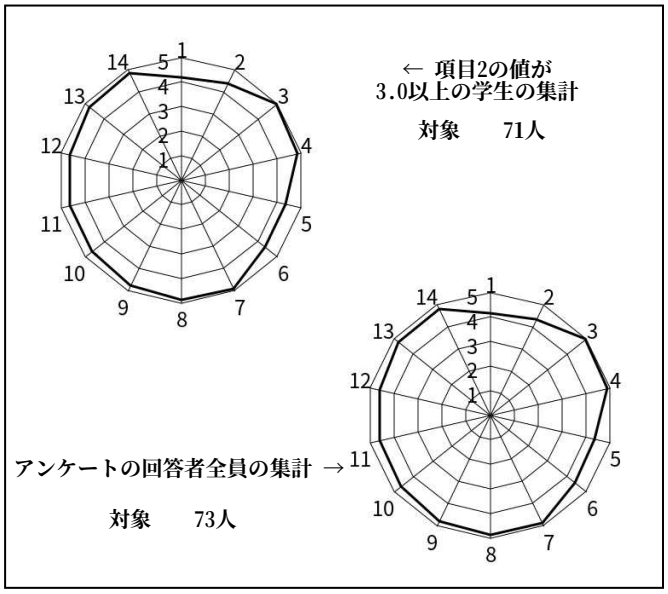
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業の目標と到達の程度について関連項目の評価は4以上であり、概ね達成できたと思われる。②教員の熱意も伝わったようであり、特に大きな問題はなかったと思われる。③授業評価アンケートについては、これまでも何度も書いているが、現在の方式を繰り返すことに疑問がある。特に授業に出席していない学生も回答できることは大きな問題である。また自由記述は「匿名」を利用しての無責任な発言を促す効果さえあり、その意義は疑問である。

法学部 法律学科
大原　寛史　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	契約法A
授業コード	44B17-001
教員名	大原　寛史
教員コード	104297
登録人数	292
回答数	73
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



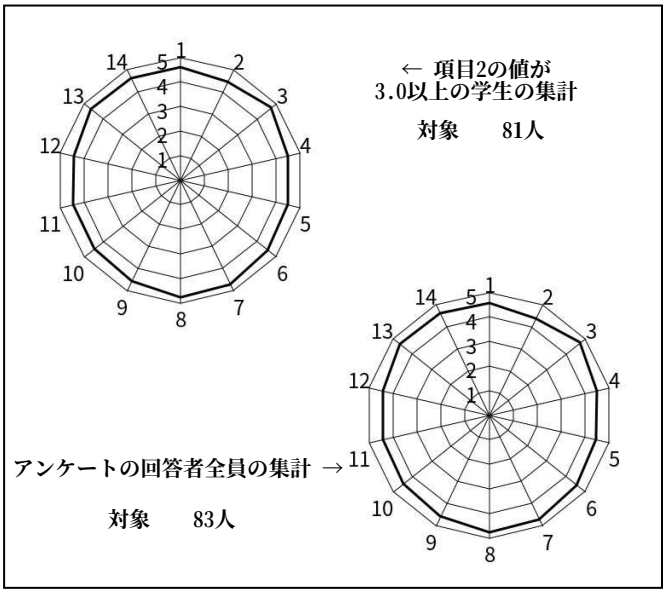
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートに協力してくれた受講生に心より御礼申し上げたい。
①昨年度同様、今年度もおおむね達成することができた。1年生配当科目として、過去の配当科目の基礎知識・理論との関連性を意識させながら本科目の学習内容を修得するという目標のもと、講義において多少のスケジュール調整はしたものの、予定の学習内容をクリアーすることができた。講義後に理解度確認のための小テストを実施し、受講生の復習を促したこともあり、定期試験における不可の割合は昨年度よりも少なかった。
②一定程度受講生に評価されたと考えている。もっとも、昨年度と同様、ⓐアンケート回収率、ⓑ質問項目5および6の数値が他の項目に比べてやや低めであることは依然として課題である。
③課題ⓑについては、講義内容のレベルを下げるのではなく、引き続き講義資料および講義中の説明をより工夫することで対処する。

法学部 法律学科
緒方　桂子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　労働法A
授業コード　44B27-001
教員名　緒方　桂子
教員コード　103261
登録人数　349
回答数　83
回答率　23.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



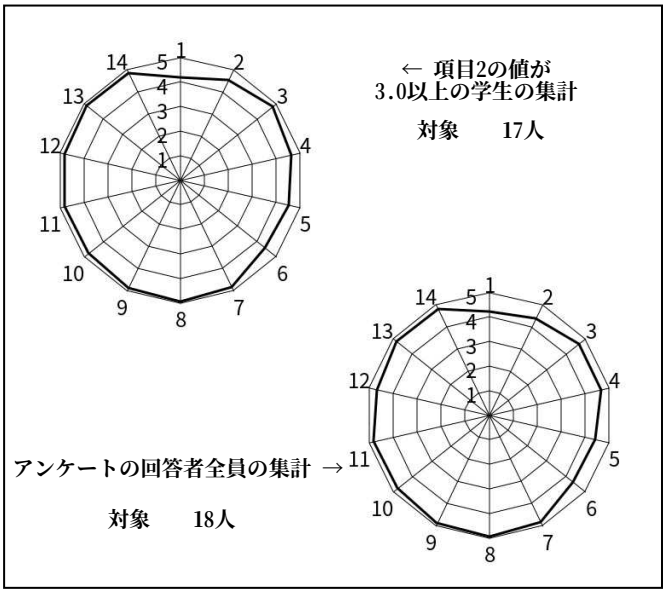
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　期末試験の結果をみると、授業内容をよく理解している答案もある一方で、まったく理解していないものもあった。まったく理解していない答案を書いた者はおそらく日頃の授業に出席していないのではないかとも思われるが、理解が不正確な者については、おそらく授業内容がよくわかっていないのだろうと思われる。
②総合的な自己点検・評価について
　学生からの個別コメントをみると、私が「板書」がわりに使っているパワーポイントに関して不満を感じている学生もいるようである。学生の理解の速度に合わせるつもりでゆっくり展開しているところ、定期試験の結果から見る限り、これ以上の速度で進めるのが適当かは疑問である。
③今後の抱負・方針などについて
　労働法Bで実施したのであるが、こまめに小テスト（自習用）を行ったのが好評だったようなので、取り入れていきたい。

法学部 法律学科
中田　裕子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英米法
授業コード 44B37-001
教員名　中田　裕子
教員コード 103638
登録人数　27
回答数　18
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



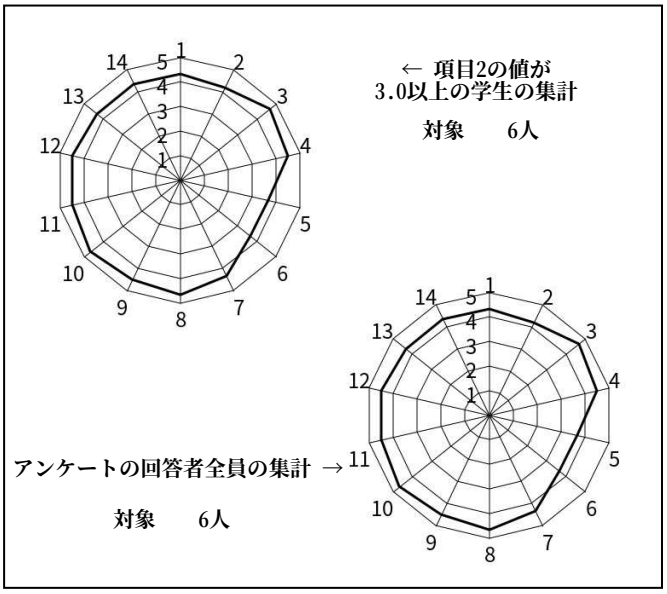
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について：開講当初に予定していた目標は十分に達成できたといえる。①法律の基本用語は、復習ワードという形で授業後に提示することで、学生に本授業の復習のポイントと何が英米法においての基本的用語に当たるかを示すことができた。②については、用語の背景事情について講義内で解説し、それにまつわる比較法的視点（課題③）は、リアクション課題という形で自分の意見を書かせることで目標達成を目指し、おおむね達成できた。
②総合的な自己点検と評価：毎回ではない２分の延長について問題視されるとは思っていなかったが、学生にとっては（とりわけ昼休み休憩）重要な２分だったのかもしれない。また、何について解説しているか一言ほしいとあったが、それは当然に述べていて、さらに言うと、スライドの冒頭に何について話しているかわかるようなタイトルを付けているので、きちんと授業を聞いたうえで、批判してほしい。
③改善点と今後の抱負：仮に解説が中途半端になってもチャイムが鳴ったら終了しようと思う。

法学部 法律学科
西村　邦行　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治思想史B
授業コード	44B45-001
教員名	西村　邦行
教員コード	104090
登録人数	32
回答数	6
回答率	18.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



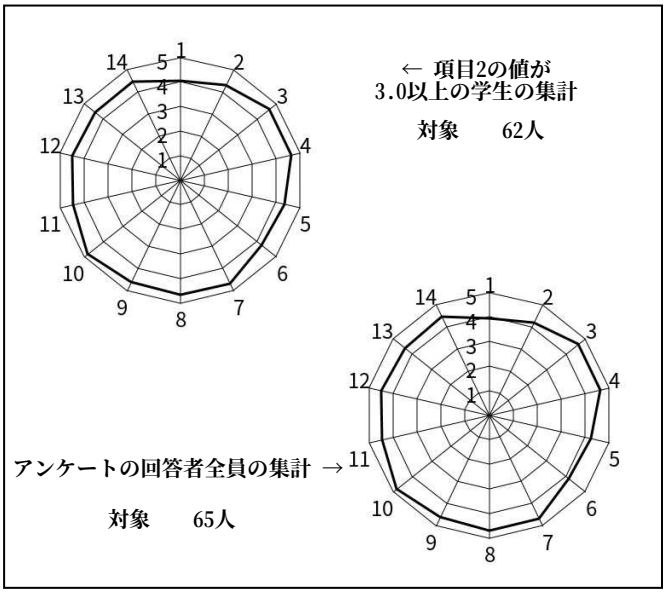
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回，授業の進捗状況の関係でアンケートの時間を十分にとることができず，回答数がかなり少なくなってしまった点をまずは反省したい。とは言え，回答してくれた学生からの評価は全般に高く，ひとまず安心している。
①実際のテクストを重視しながら思想史の考え方を伝えることをシラバスに明記しており，その点が目標でもあったが，基本的には達成できたと考えている。自由記述欄15におけるコメントはすべてこの点を好意的に評価するものだった。
②数値データはこれまでの他の担当科目に比べてもきれいなチャートになっており，全体としてよい出来であったと考える。ただ，他の科目と同様に質問項目の5・6が低い数値となりがちであることが，引き続き課題である。シラバス解説の際には必ず触れているものの，さらなる工夫が必要であると考えている。他方，項目11も他の授業では低くなりがちだが，今回は高い数値であったため，この授業での手法を基に改良をしていくこととしたい。
③授業後にスライドをアップしてほしいという声があり，これは他の授業でも聞かれるところだが，以前あまりよい結果にならなかったことから，何か別の対応策を検討したい。

法学部 法律学科
菅原　真　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統治機構
授業コード	44B99-001
教員名	菅原　真
教員コード	102064
登録人数	135
回答数	65
回答率	48.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



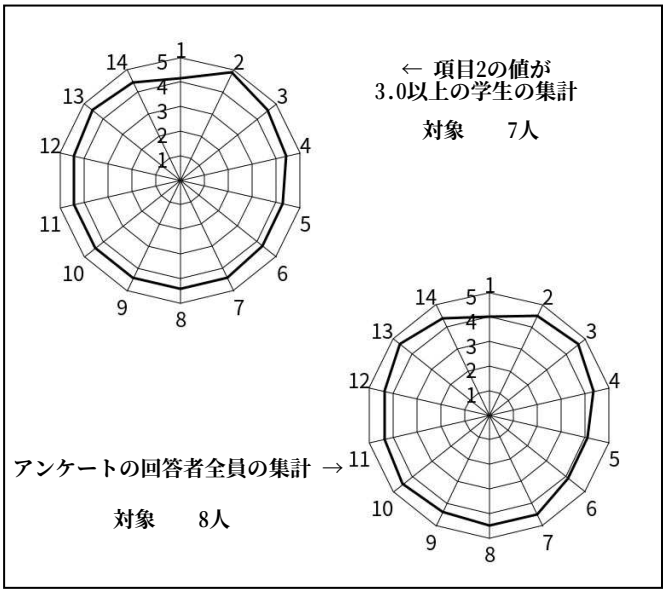
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学科科目「統治機構」について、①今回のアンケート及び定期試験の結果から、所期の目標は十分に到達したと考える。②数値データは、「項目1から14の平均」が4.45、「項目3から14の平均」が4.52であり、まずまずの結果であったと思われる。自由回答欄を見ると、「毎回のレジュメや説明がわかりやすかった」、「授業の最後に次回の授業までに考えおくべき論点を提示して、学生に事前に考えて来るようにしていた」、「進度が適切であった」との高い評価をいただいた。他方で、WebClassにレジュメをアップしたのであるが、「毎回印刷代がかかるので、レジュメを印刷して欲しい」「レジュメのアップロードをもっと早く行って欲しい」という要望も出された。学生の理解できる内容を選定し、かつ事前の予習を行って欲しいという願いをもって「次回の論点」を毎回設定し、授業の際に何人かの学生にマイクを向けて意見を発表してもらったのであるが、きちんと取り組んでくれる学生が一定数おり、その点は良かったと思う。授業時にはパワーポイントを使用しているが、紙媒体での配布を希望する学生も少数ながらおり、今後検討したい。③次年度は1年生の別の科目（憲法入門）を担当するが、学生が理解できる内容を選定し、かつ興味関心をもって受講してもらえるよう、さらに創意工夫をおこなっていく。学生に論点に関する意見を発表してもらうことについては、継続していきたい。

法学部 法律学科
齊藤　高広　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済法A
授業コード	44C19-001
教員名	齊藤　高広
教員コード	103599
登録人数	13
回答数	8
回答率	61.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



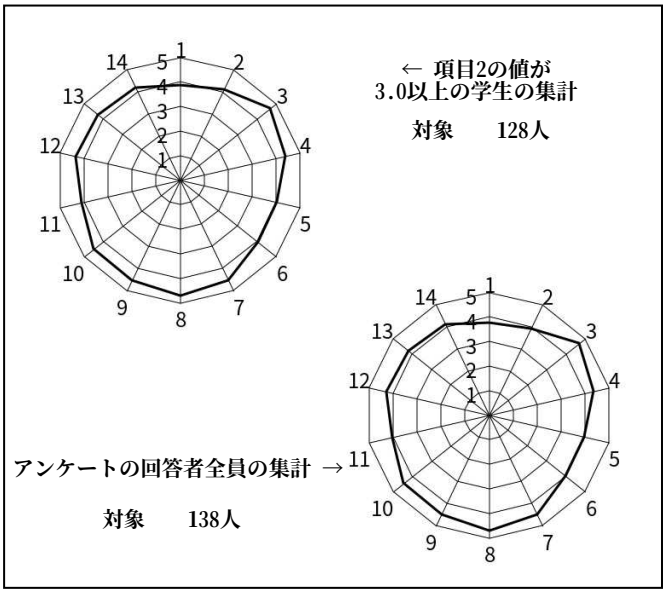
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、市場経済における基本ルールである独占禁止法のうち、主として共同行為の規制と独占・集中規制を扱い、①経済活動に対する法的規律を理解する、②市場における競争秩序の意義と規整方法を法的に説明することができる、③競争政策の歴史と競争制限行為の規制手法を理解する、という目標を掲げていた。今年度の履修者は、演習授業並みで極めて少なく、私自身も初めての経験だった。例年とは異なり、最新のニュースや項目を踏まえた講義内容やレジュメ修正を怠るのではないかとも懸念したが、幸い、毎回熱心に受講してくれる参加学生に恵まれて、円滑に修正等遂行することができた。受講者からのアンケート結果は、比較的、好意的なものだった。法律学に疎い、法学部生以外の学生から好意的な回答とともに、今年度は経済学の視点からの説明も加えたことで、法学部生からも同様の回答を得ることができた。試験問題や採点方法を大幅変更するなどの創意工夫を試みた方が履修者獲得に繋がるのではないかとも考えたが、本学における本講義および私自身に対する需要がまだ残されている限り、従来の手法を踏襲していきたい。

法学部 法律学科
豊島　明子　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政法総論（基礎）
授業コード	44F01-001
教員名	豊島　明子
教員コード	101192
登録人数	327
回答数	138
回答率	42.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

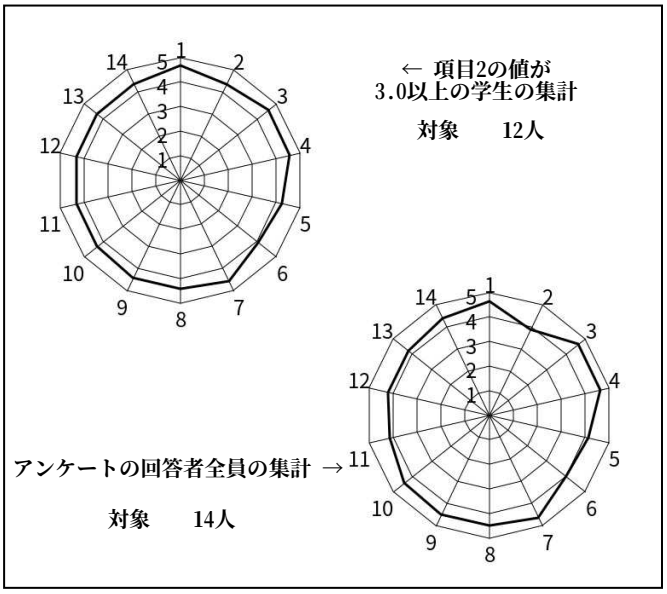
私がこのの授業を担当するのは久々で（直近で担当したのは2018年度）、毎回のレジュメを書き下ろしながら授業に臨んだため、自分自身やや余裕のない形で授業を進めることになった。当初設定した目標に忠実に進められたと思うが、授業の進行速度の点で大きな課題を残してしまったと反省している。というのも、授業計画の最後の3回を終えられないまま、授業を終える結果となったからである。分かりやすい授業にすべく、レジュメを用いて丁寧な説明を心がけたが、かえって進行を遅らせる結果になってしまったのだと思う。授業の進行速度の適切さについて4.37の評価しか得られず（学科全体では4.57）、満足度は4.12（学科全体では4.43）であったので、次年度は様々な点で改善を図りたい。

ただし、自由記述欄には、「レジュメに授業の内容が過不足なくまとめられていた」「教授の声が聞き取りやすい」「抽象的な議論が中心になる行政法総論基礎で、事案ごとの詳細から抽象的な理解に導いたりするなど、非常に分かりやすい説明だった」「丁寧に解説されていたおかげでわかりやすかった」「レジュメがわかりやすい」といった好意的意見が20件あったことは大変良かったと思う。他方で、「休憩が欲しい」「テスト範囲が明確でなかった」「少しゆっくりめな気がする」「内容がむずかしい」「説明や進度などから、学生に対する関心が全く直いことが伝わってくる授業であった」といったネガティブな意見も11件あり、これらも踏まえ、次年度に生かしたい。

法学部 法律学科
代田　清嗣　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本法史
授業コード	44B34-001
教員名	代田　清嗣
教員コード	104266
登録人数	39
回答数	14
回答率	35.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



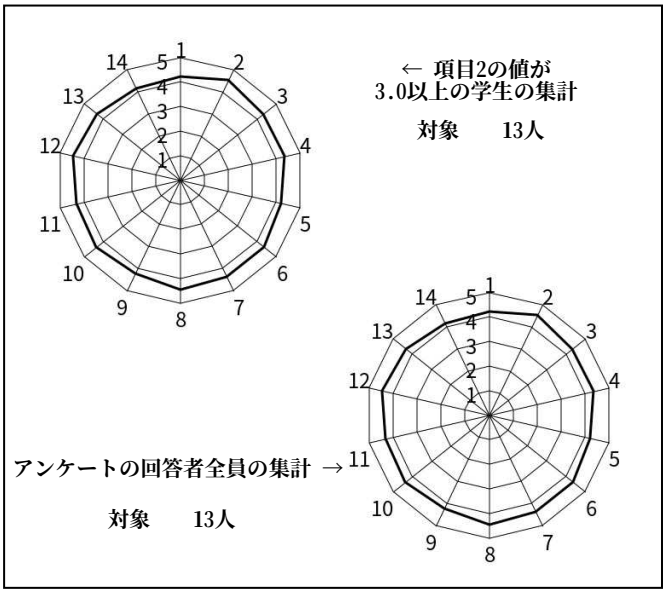
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標である日本法の歴史に関する基本的事項の理解、および各時代の法の特徴の文章による説明は、定期試験によって多くの学生が到達していることを確認できた。他方で、前近代と近代の接続については、定期試験の設問に反映することができず、その到達の程度を十分に把握することができなかった。定期試験の提出期限と講義計画とのタイムラグも関係するため、この点は到達目標の再設定も含めて、次年度以降の課題としたい。アンケートの各項目も、ほとんどが4以上に達していることから、講義の方法、難易度等が適切であると考えられる。また、自由記述に「難しい事項を分かりやすく説明した」ことを評価するものがみられた。この点はこれまでも意識してきた事項であるため、その成果が表れているものと考えられる。今後も同様の方針を維持したい。一方で、予習復習など主体的な学びが3.86と若干低かったことから、次年度以降はより具体的に予習・復習内容を指定したい。とくに次年度は、新規にテキストを指定し、講義の構成等も大きく変える予定であるため、従来の講義において高く評価されてきた点は維持しつつ、さらに学生の主体的な学びを促すような構成とすることを目標とする。

法学部 法律学科
小林　真紀　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス法
授業コード 44B39-001
教員名　小林　真紀
教員コード 103451
登録人数 50
回答数 13
回答率 26.0%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



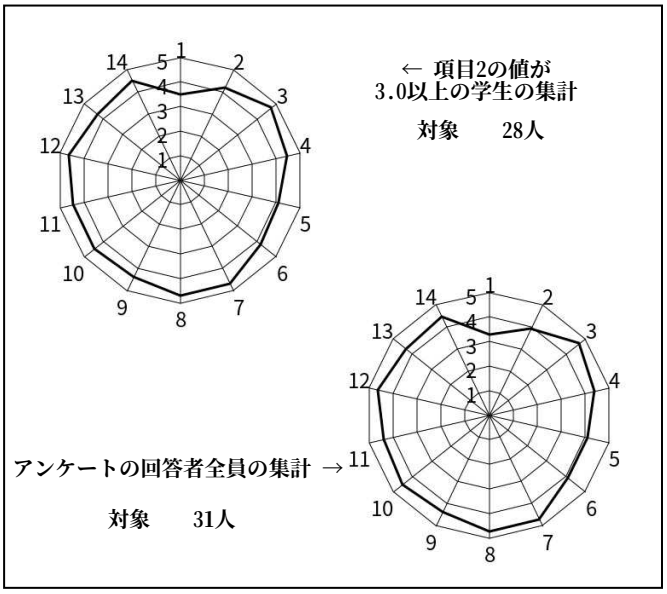
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス記載の目標については、予定の範囲内をすべて講義し終えることができたこと、および期末テストでも大方の学生が重要な点は理解できたことを確認したことから、到達できたと考えている。また、学生の評価（とくに自由記述内容）を見る限り、テストに出題予定の箇所、つまり講義の重要な箇所については、講義の中で繰り返し説明をしたり、板書でさらに詳しく解説を加えたりしたために、全体的な理解は深まっていたようである。２コマ連続の授業であったが、適宜休憩をとり、学生の集中力の維持に努めたことも良かったと思われる。次年度は体調上の問題で担当できないが、今年度の授業ではとくに熱心な学生が多く、質問も適宜出されていたので、そうした質問内容をあらためて授業の内容に還元し、再度担当できる機会があったときにはより充実した内容の授業をおこなえるよう、準備に努めたい。

法学部 法律学科
加藤　哲理　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治学原論A
授業コード　44B40-001
教員名　加藤　哲理
教員コード　104771
登録人数　137
回答数　31
回答率　22.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



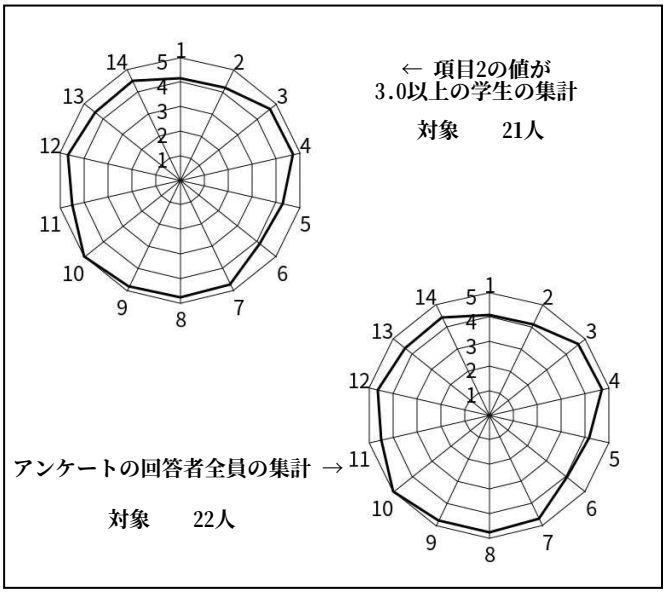
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に取り扱う予定であった政治学の根本的な概念のうち、いくつかのものについては時間の関係上取り扱うことができなかったが、前年度の反省を踏まえて、他の概念について説明をする際に補足的なかたちで触れることを心がけた。その点を除いては、基幹となる概念については説明をすることができたので、その点については満足をしている。講義においては、毎回感想用紙を任意で提出させるかたちを前年度から踏襲したが、おおむねそこでのfeedbackをみている限り、学生は講義の内容に触発されて、それぞれに講義で用いた概念を使って思考することを試みていたことをうかがうことができた。ただ感想用紙については任意の提出にしたため、感想用紙を毎回提出してくれた学生とそうでない学生の間に、学習状況にギャップが生じていたかもしれない。その点を今年度の反省点として、次年度には講義の参加者全体がより能動的に講義の内容と向き合うことのできるような工夫をしていきたいと考えている。

法学部 法律学科
高　東柱　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　行政学A
授業コード　44B42-001
教員名　高　東柱
教員コード　104267
登録人数　112
回答数　22
回答率　19.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、本講義で設定していた目標と到達の程度について、設問5，6の平均値が4を超えていることから、一定の成果は得られたと考える。但し、大学全体の平均値を若干下回っているため、今後さらに改善できるよう、取り組んでいきたい。

次に、設問3～４、設問7～12の平均値がそれぞれ4.5以上であることから、講義運営については全体的に問題なく、学生が講義に集中できる環境づくりができたと考える。今後も継続していきたい。

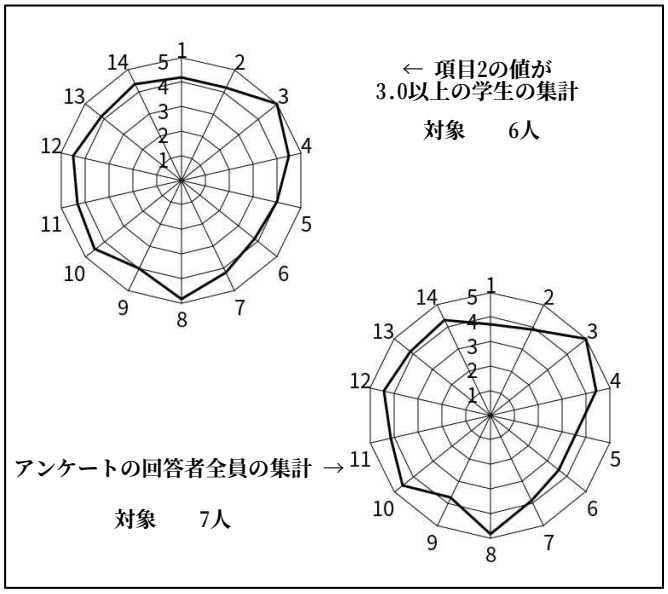
次に、設問13、14の平均値が4を超えていることから、学生からも本講義について一定の評価を得たと考える。講義で学ぶ内容を学生がより理解できるよう、今後も工夫していきたい。

最後に、設問15には「レジュメを印刷して配布し、先生が設けたルールに則ってちゃんと講義が行われていた」「レジュメや資料を多く活用して授業が行われた」「講義内容が理解しやすかった」という回答があった。良かった点として学生が取り上げた部分については、今後も継続していきたい。それに対し、設問16には中間課題の提出期間が短かったという回答があった。特にタイトなスケジュールであったとは思わないが、学生の意見も考慮ながら今後対応を検討したい。

法学部 法律学科
川地　啓介　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済原論A
授業コード	44B52-001
教員名	川地　啓介
教員コード	103289
登録人数	27
回答数	7
回答率	25.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



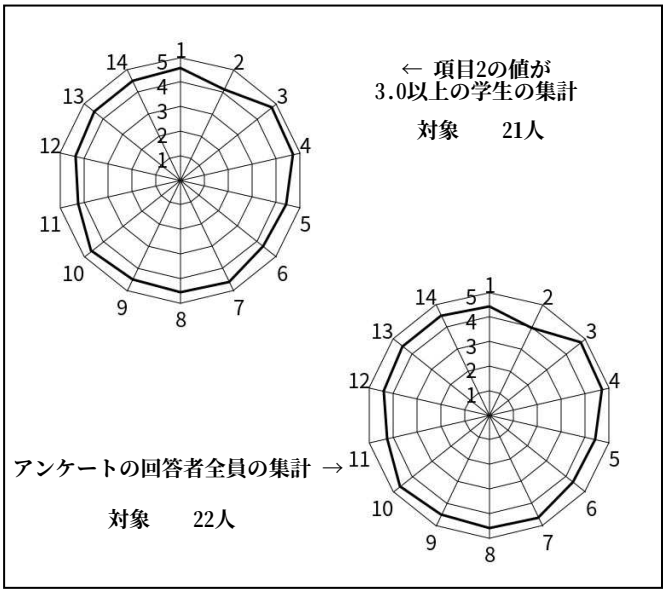
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の到達目標として、消費者と生産者の行動原理に加え、資源配分における市場の役割について理解できるようになることを設定し、授業期間内に到達目標に関する内容を講義することができた。例年と同じように講義をしたものの、全体的に例年よりも授業評価が低くなった。特に、到達目標に関する項目が最も低い評価となった。今年度は、初回授業で到達目標を丁寧に説明することに加えて、各到達目標に関連する授業内容が終わる度に各回の授業内容が各到達目標とどのように関連しているのかを説明する時間を確保したが、授業評価の結果につながらなかった。来年度の授業では、受講者が到達目標を認識し、各回の授業内容が各到達目標にどのようにつながるかを理解できるような説明を模索したい。一方、授業の開始及び終了時間については満点の評価であった。授業開始15分前に教室に入り、授業開始のブザーとともに授業を始めるよう心掛けていたことが評価されたため、来年度も継続したい。

法学部 法律学科
尋木　真也　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際法各論B
授業コード	44C10-001
教員名	尋木　真也
教員コード	104091
登録人数	154
回答数	22
回答率	14.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標の達成度

実践的観点から国際法を理解できること、および日本の政策を国際法的観点から評価できることが本講義の目標であるところ、いずれもある程度は達成できたものと思われます。この2つの能力を要する試験では、多くの学生が好成績を収め、国際法をよく理解していたように思います。

②アンケート結果

おおむね4以上の評価をいただきました。授業がわかりやすい旨のコメントもいただき、うれしく思います。他方で、予復習を含む主体的参加については、3.95とやや低い評価でした。改善要求のコメント等は、特にありませんでした。

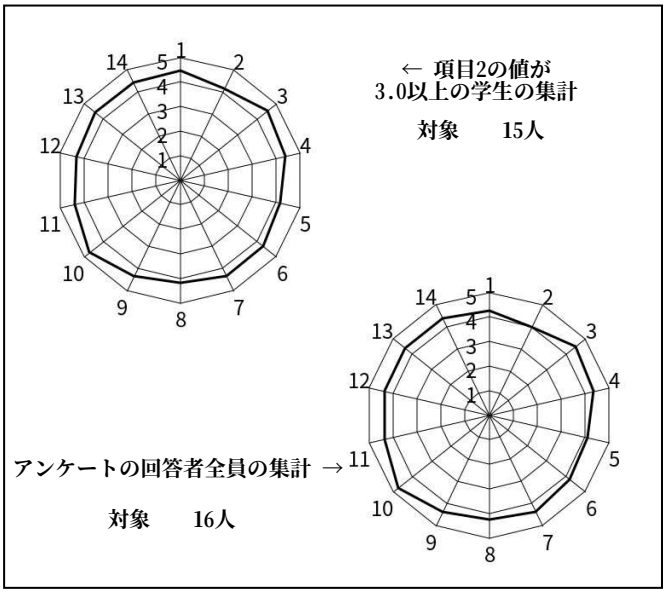
③今後の課題

授業構成や真摯な姿勢等の高評価をいただいた点については、今後も改善を重ね、伸ばしていきたいと思います。予復習については、他の授業との兼合いも考慮しつつ、必要に応じて追加的な導入を検討します。アクティブラーニング等の主体的参加については、SDGsの学習の際に一部取り入れましたが、効率性等の観点から再考を要するように感じました。予習とあわせて行うなど、工夫を図っていきたいと思います。

法学部 法律学科
高野　慧太　先生

2024年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知的財産法B
授業コード	44J02-001
教員名	高野　慧太
教員コード	104960
登録人数	117
回答数	16
回答率	13.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



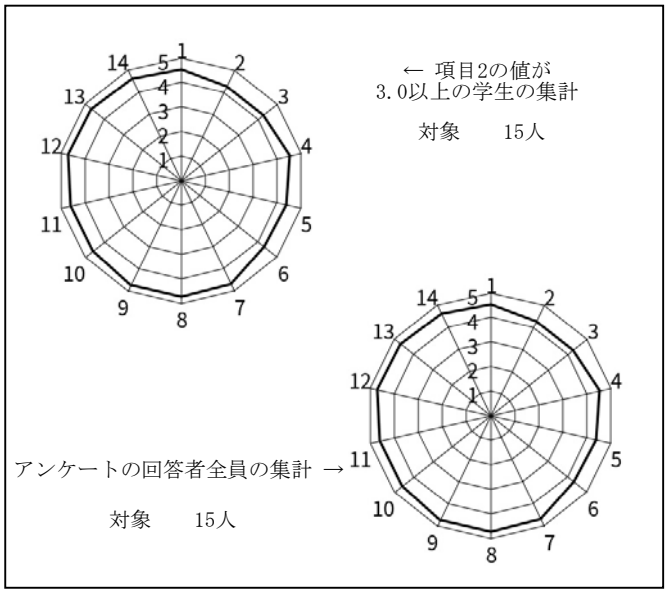
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初は、知的財産法の主要な論点について学習し、具体的な事例問題を解決することができることを想定していた。
②③履修登録者に対して、毎回の授業の出席数が極端に少ないと感じた。これは、出席自体を成績評価の対象としていないことに起因するように思われたが、仮にそうであれば、法学に対する知的意欲の低さに愕然とした。また、履修者のほとんど全員が期末試験を受験していたが、（私からは、普段出席している個人か否かほとんど特定できていないが）知的財産法の内容や事例問題の取り組み方の基本的な内容を理解していない答案が大量に提出された。そのような答案はいずれも不可としたが、知的財産法の内容についても事例問題の取り組み方についても授業中に繰り返し説明している内容であったことからそのような評価は相当であったと感じると同時に（適切に回答している答案もあった。これは授業を聞いているからであると判断される。）、他の科目ではそのような取り組み方でも単位が認定され、かつ、卒業できるのだとすれば、教育の質の観点から甚だ疑問があるように感じた。

法学部 法律学科
服部　寛　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法と人間の尊厳2
授業コード 10D05-002
教員名　服部　寛
教員コード 103600
登録人数　56
回答数　15
回答率　26.8%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



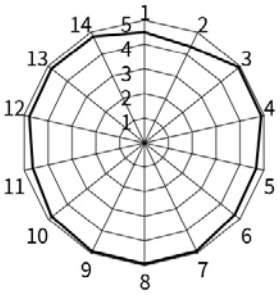
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①これまでの経験や反省をふまえ、特に前半の歴史的な部分についてタイトに進行したこともあり、授業の進行は概ねシラバスどおりに行なうことができた（項目４）。レポート課題や定期試験の結果からすると、各受講者の到達具合も概ね問題なく、授業にきちんと出席したであろう学生と、成績との間で、概ね相関があるように見受けられる。②各項目とも概ね高い評価を得た。個人的には、項目９や項目１１が相応に高いことが、受講生からの評価で嬉しいところであった。自由記述欄の回答は少ないが、資料を各自の学習に役立ててもらえているようで安心した。③他方、到達目標に向けての力がついたかどうかの項目６は他と比べて低めであり、この点の工夫を次年度に講じていくことにしたい。また、受講者が各自で学修を深めることができるような仕組み作りを考える必要を感じている。次年度は、成績評価の方法として、これまでのレポート課題の代わりに、受講参加度を取り入れる予定であり、学生に定期試験一回ではなく、授業への継続的な出席とつながる学修（学習）のかたちを提供できるよう試みたい。

法学部 法律学科
橋本　広大　先生

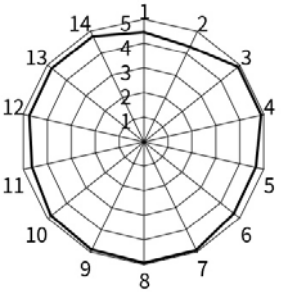
2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法と人間の尊厳3
授業コード　10D05-003
教員名　橋本　広大
教員コード　104649
登録人数　108
回答数　55
回答率　50.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　54人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　55人

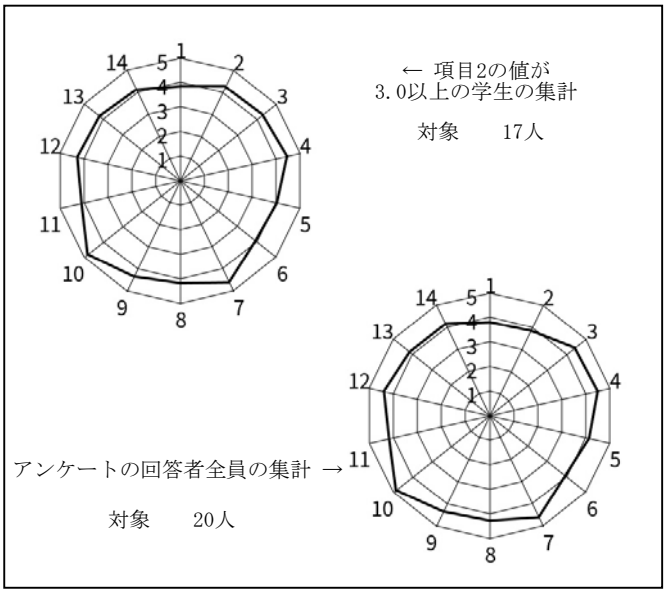
授業評価結果を踏まえた点検・評価

これまでに担当してきた科目よりも多くの他学部の学生の受講も見込まれることから、より一層分かりやすい講義を心がけた。アンケート結果を見る限りでは、それは一定程度実現できているように思われる。
講義資料のアップロードが講義前日の深夜になってしまった点は、本年度が本講義を担当する初年度であったこともあり講義資料作成に手間取ってしまったことによる。ひとえに教員の準備不足であり、来年度以降はより早めの共有を心がけたい。
また、教室の室温が、座席の場所により大きく異なることもアンケート結果より認識できた。教室の構造上仕方ない面もあるかと思うので、講義冒頭で室温と座席位置について案内するなどして対応したい。

法学部 法律学科
河合　正雄　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本国憲法2
授業コード 12C03-002
教員名　河合　正雄
教員コード 104426
登録人数　65
回答数　20
回答率　30.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

（1）実質面
受講者が法学部以外であるため、できるだけかみ砕き要点を強調したつもりだったものの、「授業が全体的にわかりにくかった…どこが要点なのか汲み取りにくい授業でした…レジュメの抑揚がなく、何を知って帰ってほしいのかわかりませんでした」との指摘（項目16）を1通いただいた。2コマ連続の講義型の共通教育科目を担当する場合（2025年度は担当しない）は、受講人数にもよるものの、授業中に要点を問うミニレポートを課し、翌週に返却と解説をすることを検討したい。

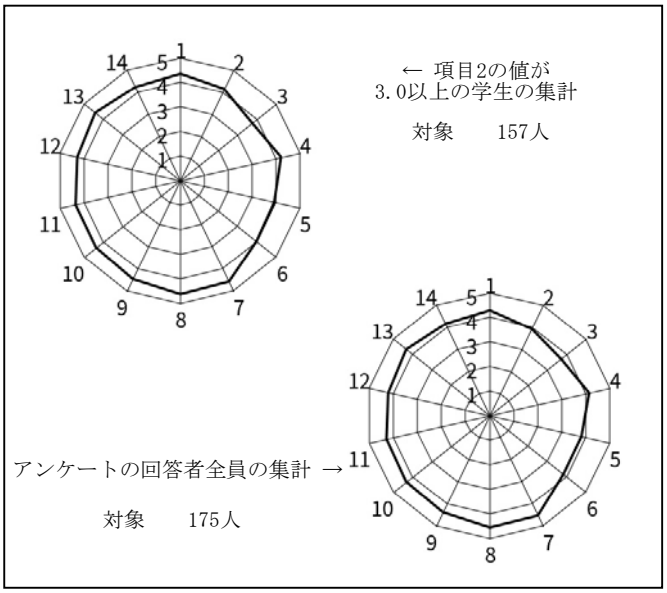
（2）形式面
毎回2～3回の休憩時間をとったところ、好評だった。また、質問者は殆どいなかったものの、「授業内容についての質問がしやすい環境をつくっているのが良い」とのコメント（項目15）をいただくことができた。
1～3回目の授業で、風邪とその後遺症で咳と喘息が断続的に続いたため、聞き取りにくい箇所があった旨の指摘（項目17）が1通あった。ただし、別の受講者からは、「辛そうだが問題なく聞こえている」と言われている。

（3）付言－授業評価実施科目について
2025年度に法律学科2年生を対象とした「人権各論A」と「人権各論B」を担当するため、本科目ではなく、法律学科1年生が全員登録するQ3「憲法入門」で授業評価を行うべきだった。

法学部 法律学科
水留　正流　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　刑法総論A
授業コード　44A10-001
教員名　水留　正流
教員コード　101566
登録人数　287
回答数　175
回答率　61.0%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．刑事法系科目群の入門的科目として法学部1年次生全員が履修することに鑑み、刑法総論の基本的概念の修得だけでなく、実定法の問題を考える際の基本的な考え方をも学生が理解できるよう努めた。たとえば、多くの回で事例問題を素材とした予習課題を課し、それをグループで検討して解答するという任意課題を課した。

２．項目全体の平均が4点を超えた中で、設問3（授業時間の遵守：3.70）の点数については自覚するところがあり、大きく反省したい。

設問5（到達目標の理解度：3.82）及び設問6（到達目標の実現感：3.83）も法学部及び大講義科目の平均値を大きく下回っている。これは例年の傾向だが、授業の主催者としては「到達目標に向けて力を付ける」機会を設定するために上記の取り組みをしているはずなのに、教員側の努力は平均的な学生の受け止めに反映されていない。

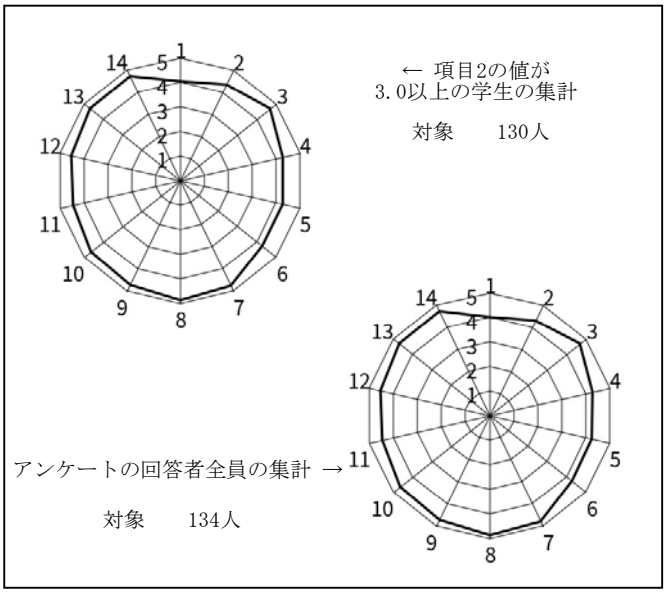
なお、回答率は61.0%で、法学部及び大教室講義の平均を大きくクリアした。

３．事前課題の取り組みはここ数年継続しているものであるが、自由記述を見る限りではこれを評価する学生も一部には存在するようである。これを学生の「手応え」に結びつけるために必要なものは何であろうか。学生の実効感が客観的な理解度に直結するものでないのもたしかであろうが、しかしやはり学生の意欲を高める要素であることは否めない。引き続き、この点についてもう少し授業の研究を進めたい。

法学部 法律学科
石畝　剛士　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　物権法
授業コード 44A18-001
教員名　石畝　剛士
教員コード 104908
登録人数　335
回答数　134
回答率　40.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



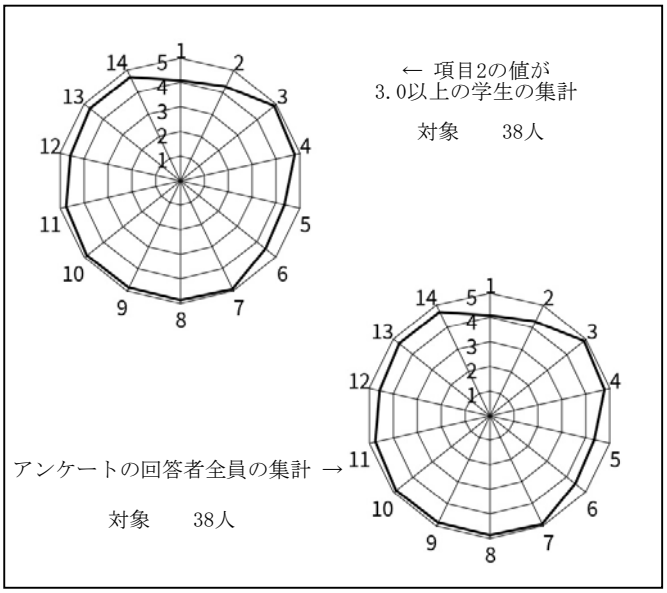
授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度】
講義後に質問に来た多くの学生は、非常に高い理解度を示しており、十分な学修の跡が伺われた。定期試験の結果は、少なくとも○×問題の成績が全体的に高く、基礎的知識の習得については目標到達ができているように思われる。しかし、論述問題では、法的三段論法の基礎を押さえず、唐突に事例への当てはめから記載する答案が数多く見られるなど、なお課題が残る内容であった。
【担当科目に関する総合的な自己点検・評価】
数値データからは評価の低い項目は見受けられず、その意味で一定の信任を得られ安堵している。もっとも、個別にはⓐ授業進度、ⓑ到達目標への理解、達成度につき相対的に低い評価を受けた。授業進度では、自由記述から「早い」「遅い」の評価がほぼ同数見られ、各人の理解度・興味に幅がある大人数教室での授業進行の困難性を示している。これらの対応は次で述べる。他方、詳細なレジュメ、具体的な設例提示、ホワイトボードによる図解での説明という方法については大方の賛同を得られており、引き続きこのやり方を踏襲したい。
【次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など】
ⓐ授業進度について、万人が納得する解決策はないものの、重要部分は理解度を高めるべく比較的丁寧に説明し、そうでない部分は簡潔な説明を施す（場合により「読んでおいてください」で済ませる）など、抑揚のある授業運営を心掛けたい。ⓑ到達度関係では、抽象度が高く馴染みの薄い「物権法」の科目特性に起因する面も大きいため、具体的イメージが持てるよう、授業方法の工夫に更に力を注ぎたい。なお、定期試験での論述時間が足りないとのご指摘は、一方で試験時間を50分と設定しつつ、他方で論述試験を事実上課すという、大学（学部）の制度的制約に由来しており、個人対応には限界がある。しかし、所与の制約内で、答案構成・論述に比較的時間を割けるような問題作成や試験方式の在り方を今後は模索したい。

法学部 法律学科
岩本　学　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際私法B
授業コード　44B30-001
教員名　岩本　学
教員コード　104895
登録人数　114
回答数　38
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では，国際的な紛争が生じた場合の手続法的処理の方法について理解を得られることを主たる目的に据えた。この目的の意義は，講義でも繰り返し述べ，Webclassでのアンケート，小テストなどを通じて，その達成に向け，授業を進めた。加えて，国際私法Aも受講した者（多くがそうであったが）に対して，双方を受講した場合に得られる視点として，一つのものごとを二つの法的アプローチで実現する様を実感してもらえるよう担当者の執筆したこの点に関する論文・評釈などを紹介しつつ，AとBを受講すると国際私法の基礎が完結することを示した。これらの点に関する理解度を測るため，上記Webclassでの小テストのほか期末試験の問題として出題したが，多くの解答が及第点を得ており，概ね達成できたと評価してよいかと思われる。

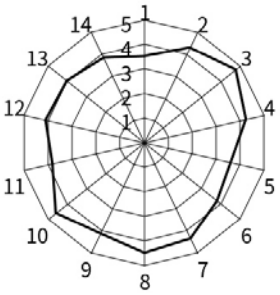
今回のアンケートの数値からは，全体としては満足度が高い講義であったことへの証左がみられる。もっとも，予習において国際私法に触れるよう促すことは必要な課題という点も見られる。今回は，Aと共同の教科書を用いることを重視したことから，教科書での予習と実際の講義の内容に濃淡があったことは否めない。この点，すでに来年度のシラバスにおいて，Bにふさわしい教科書への変更を決定しており，改善に努めたい。

さいごに，自由記述では講義方法への提言も若干見受けられため，この点は次回に活かす。

法学部 法律学科
田中　実　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

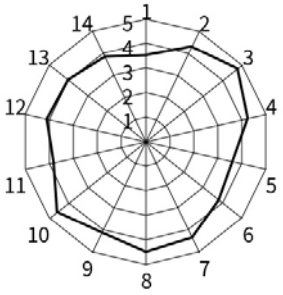
科目名　西洋法史B
授業コード 44B36-001
教員名　田中　実
教員コード 017038
登録人数　90
回答数　29
回答率　32.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　29人

アンケートの回答者全員の集計 →



対象　29人

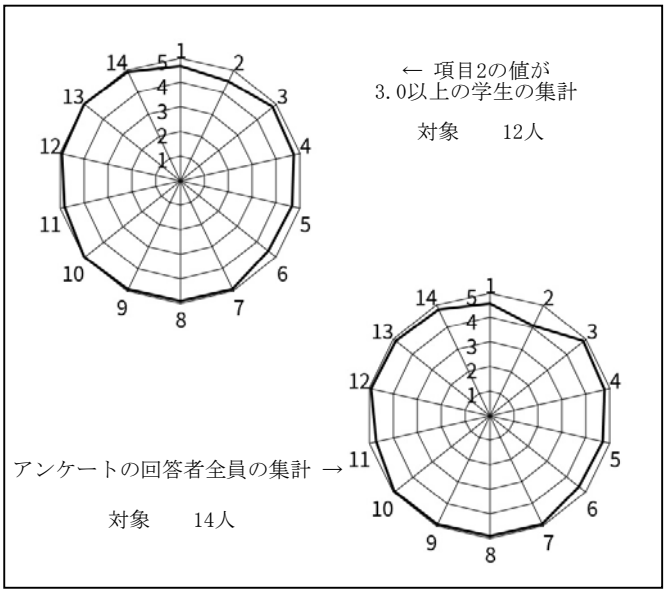
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について、到達の程度の測定は難しいが、そのことを意識した出題の定期試験の結果からは、例年に比べA＋やAが多く、評価できると思われる。②について、例年と同じく比較的高かったのは7であるが、例年に比べて比較的高かったのは、2及び4である。例年に比べ、顕著に変更したわけではないが、煩瑣な部分をかなりはぶいたことと、難解な箇所は復習を促したことが、主体的参加に功を奏したかと思われる。従来同様に、比較的低いのは1及び11である。なお、項目15について、回答11件、すべて肯定的評価で、とりわけ興味を刺激するような、興味を引くような身近な表現、解説がうまい、具体的でよかった、など、担当者として特に心掛けていることに対応しており、嬉しい限りである。他方、項目16では、もう少し具体的に、など相反する評価を得ている。このことは、すでに授業中のアンケートでも見られ、受け手の多様性に戸惑っているところである。③上記の低い項目につき反省し、担当者としては、特殊な分野であることに鑑み、学問領域の意義について、導入部をより工夫したいと考える。

法学部 法律学科
宮尾　亮甫　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境法
授業コード 44C07-001
教員名　宮尾　亮甫
教員コード 104945
登録人数　40
回答数　14
回答率　35.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

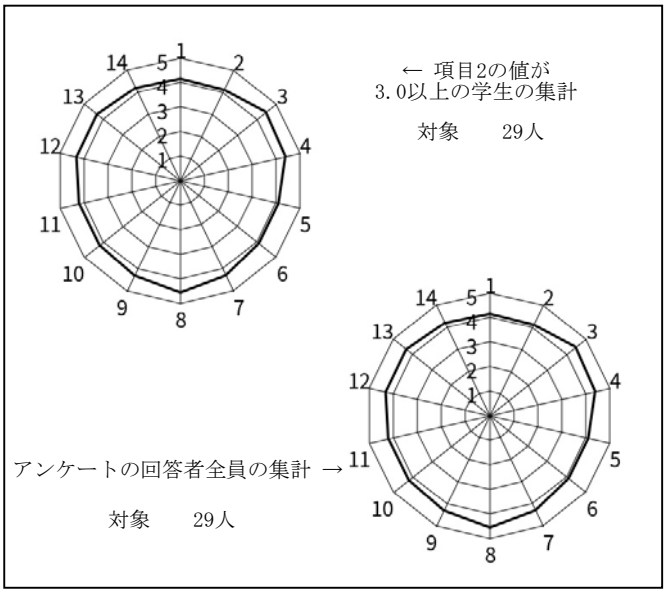
①について、概ね（９割）達成できた。ただし、授業を進行していく過程で、当初盛り込む予定であったが削らざるを得ない部分が出た点は反省である。
②について。設問項目１～１４の平均が４.７程度であり、かなり高いと見受けられた。開校主体別で見ても、法学部内部でかなり高い評価を受けている授業であると考えることができる。授業時間、内容、講義前後でのサポートなど概ね達成できたと考える。ただし、これから社会人として活躍していく学生に対して、時に厳しい意見やアドバイスをした点は、時代を考慮するともう少しマイルドにできたのではないかと自省。また、本年度から担当する科目でもあり、やや授業資料のupがギリギリになることがあり、このことが、学生の予習を妨げてしまった可能性がある。アンケート項目２からもそのことが伺える。したがって、この点は次年度では改善したいと考える。

③について。次クォーターでは、より幅広い事例を扱い、かつ、レジュメ等の精度を上げていくと同時に、学生に対するアドバイス等も成功体験のみならず失敗体験などを多く取り入れ実施してきたい。

法学部 法律学科
佐藤　勤　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　会社法（ガバナンス）
授業コード 44F05-001
教員名　佐藤　勤
教員コード 101599
登録人数　114
回答数　29
回答率　25.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、昨年度と同様、レジュメを配布（PDFファイルをアップロード）し、復習教材として、自習課題を掲示して行った。この方式は、コロナ感染症の時期から継続し、部分的に改善を行ってきた。今年度については、昨年度に比して、別途配布した判例の研究の時間を短縮し、授業の説明時間を多くとった。その結果もあり、今年度は、「自由記述回答」でも、授業の進捗がちょうどよく、学習時間を十分とれた等、好意的な意見が見られた。

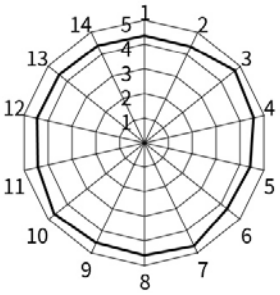
開講当初に設定した目標・到達の程度については、定性的には上記のような「自由記述回答」を踏まえれば、当初目標は達成できたものと考える。また、定量的にはA評定以上が20%以上であったことから、当初目標は達成できたのではないかと考える。

なお、項目番号１および２の評点が他の項目番号の評点より低く、本授業への取組みスタンスが低いことが、残された課題であると認識している。この点については、事例を取り上げる等、知識だけではなく、会社法で取り上げる事項が身近な問題であることを伝える時間とできるだけとっていきたい。

法学部 法律学科
大山　徹　先生

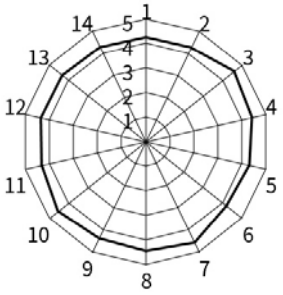
2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済刑法
授業コード 44P01-001
教員名　大山　徹
教員コード 104613
登録人数　233
回答数　51
回答率　21.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　49人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　51人

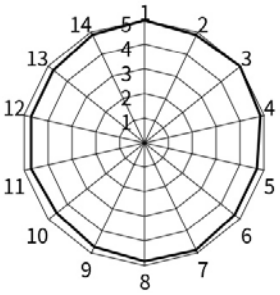
授業評価結果を踏まえた点検・評価

視聴覚教材の使用法に難があった以外は相対的に高い評価を頂き有り難く感じている（自由記述の欄に教室を過剰に暗くしたために手元の資料が見えにくかったとの指摘があった））。開講当初に設定していた目標に授業のわかりやすさを掲げていたが、その目標は達成できたように思う。S棟2階で水曜日1限から2限にかけて授業をしているが、静かに話を聞いて下さったことはラッキーであった(200名以上の履修者がいた)。授業評価の各項目は4の数値を超えていたので、安堵した。次回以降のクオーターの課題であるが、講義の順番を工夫する必要を強く感じた。たとえば、インサイダー取引の際に取り上げるタテホ事件は先物取引のことがわからないと理解できないため、商品先物取引規制の後にインサイダー取引規制のことを論じるべきであるだと感じた。鋭意努力していきたいと思う。

法学部 法律学科
波多江　悟史　先生

2024年度Ｑ４　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法律学概論
授業コード　44A13-001
教員名　波多江　悟史
教員コード　104941
登録人数　53
回答数　7
回答率　13.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

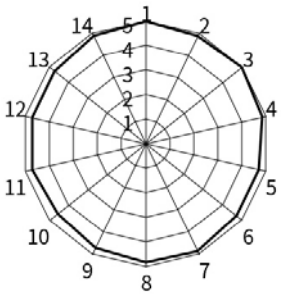


← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　7人

アンケートの回答者全員の集計 →

対象　7人



授業評価結果を踏まえた点検・評価

大きな問題はなかった